431

授業科目名	**教育学概論**				
担当教員名	**山本智也・惟任泰裕**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（第2回）				

授業概要

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に当面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不充分である。そこで、この授業では、教育をめぐる現実の問題状況をどのようにとらえ、どのようにして解決に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視して教育の意義・目的を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育思想・歴史的展開の理解	教育に関する様々な思想を理解した上で、その今日的意義を理解できる。 教育の歴史的展開をとらえ、近代教育制度の成立と展開を理解できる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	子どもの現状を踏まえた上で、教育をめぐる課題を発見し、解決の方向性を考えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 教育の歴史、思想について的確に理解することができているかを評価の基準とします。
レポート	15 %	： 教育思想家を一人取り上げ、その思想の今日的意義についての理解度を評価の基準とします。
授業への参加度	45 %	： 各授業回のテーマに関する予習シート（30%）、各授業の最後に提出する小レポート（15%）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川信廣・山本智也編　「現代社会と教育の構造変容」　ナカニシヤ出版　2018年 ISBN:9784779512650

教育思想史学会編　「教育思想事典 増補改訂版」　勁草書房　2017年　ISBN:978-4-326-25122-3
広田照幸　「日本人のしつけは衰退したか　「教育する家族」のゆくえ」　講談社　1999年 ISBN:978-4061494480
ポルトマン　「人間はどこまで動物か－新しい人間像のために」　岩波書店　1961年　ISBN:978-4004161219
デューイ　「学校と社会」岩波書店　1957年 ISBN:978-4003365229
デューイ　「民主主義と教育」(上下)　岩波書店　1975年　上のISBN:978-4003365236 下のISBN:978-4003365243
デューイ　「経験と教育」　講談社　2004年　ISBN:978-4061596801
ルソー　「エミール」（上中下）　岩波書店　1962年 上のISBN:978-4003362211 中のISBN:978-4003362228 下のISBN:978-4003362235

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業初回にお知らせします。

場所：　授業初回にお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育をめぐる今日的状況と課題** 教育をめぐる今日的な状況について確認した上で、教育をめぐる課題を理解していきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回	**子どもをめぐる問題と教育** 少年非行、ひきこもり、児童虐待など子どもをめぐる問題について、その動向を確認した上で、こうした問題に対して教育の役割を考えていきます。	予習シートの作成（子どもの問題行動について）	4時間
第3回	**人間形成における教育の意義** 人間の発達について理解していくことを通して、人間にとって教育の意義を考えていきます。	予習シートの作成（生理的早産について）	4時間
第4回	**学校の成立と展開** 学校の歴史的経過について踏まえ、その社会的な意味について考えていきます。	予習シートの作成（学校の存在意義について）	4時間
第5回	**近世以前の日本の教育** 古代から近代までの日本において、どのような変遷をたどってきたかについて考えていきます。	予習シートの作成（日本の教育の歴史について）	4時間
第6回	**近代以降の日本の教育** 近代以降、特に戦後日本の教育について、学習指導要領の変遷を踏まえつつ、考えていきます。	予習シートの作成（日本の学校教育制度の歴史について）	4時間
第7回	**西洋教育思想の歴史と展開（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイを中心に）** 西洋教育思想を概観した上で、今日の学校教育、教育改革にどのような意味を持つものなのかを考えていきます。	予習シートの作成（教育における開発主義と注入主義について）	4時間
第8回	**教育制度と教育法規** 戦後日本の教育法政の体系を踏まえた上で、今日の教育制度をめぐる課題を考えていきます。	予習シートの作成（教育基本法の改正について）	4時間
第9回	**学校・学級経営の機能と構造** 学校経営・学級経営それぞれの機能と構造について考えていきます。	予習シートの作成（学校経営計画について）	4時間
第10回	**子どもの「育ち」を支援するために** 児童・生徒一人一人の人格を尊重していくとはどういうことなのかを対人援助の実践理論を通して考えていきます。	予習シートの作成（生徒指導の２つの側面について）	4時間
第11回	**教育課程・教育方法の変遷と子どもの学力** 教育課程・教育方法の変遷について、戦後の学習指導要領の変遷を中心に理解を深めていきます。	予習シートの作成（学習指導要領の変遷について）	4時間
第12回	**地域とともにある学校づくり** 学校評議員制度、学校運営協議会の制度化、コミュニティ・スクールといった学校をめぐる状況を理解した上で、コミュニティの課題を考えていきます。	予習シートの作成（コミュニティ・スクールについて）	4時間
第13回	**家庭教育支援の方向性** 今日の子育て家庭の課題を踏まえた上で、家庭教育支援の歴史及びその方向性を考えていきます。	予習シートの作成（家庭教育支援条例について）	4時間
第14回	**教育の機能　－人間関係と教育－** 学びにおける他者・対話の存在を考えた上で、教育とは何かを問い直していきます。	予習シートの作成（学びの共同体について）	4時間

431

授業科目名	**教職論**				
担当教員名	**加藤博之・石田貴子・宮﨑大樹**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全11回）				

授業概要

「教育は人なり」と言われるように、学校教育における教育効果は、教師の力量、いわゆる資質能力に負うところが大きい。本講義では、教職の意義や役割、現在の学校が抱える様々な課題を考察することを通して、教師の職責や職務内容、求められる資質能力について考え、自らの教師像を確立することで、進路選択に向けての情熱と使命感をもって臨めるようにする。また、本科目が保育士資格取得のための必修科目であることも考慮し、子どもに関わる「保育者」の職務やあり方等についても、小学校教師と比較しつつ、考察を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教師・保育者としての基礎的資質に関する知識を習得する。	園児・児童の育成を目指す教員保育者として、指導内容や服務などに関する知識を身につけることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教職･保育専門職とは何かについて学び、教師･保育者の使命や職責について考えていく。	自己の理想とする教師･保育者像を確立する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		教育現場の現状を見据え、教師・保育者を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。
2. DP７.忠恕の心		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。 他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート、授業の確認シート	40 %	： 講義内容の理解やまとめの確認であるとともに、「現代における教職･保育専門職に対する具体的なイメージを持てているか」「講義内容を理解して、自分の意見をしっかり持てているか」という観点から評価します。
振り返りテスト（授業内試験）	30 %	： 講義内容を踏まえて、教職･保育専門職に関する基礎的理解があり、キャリアデザインができているかという視点でテスト（論述、短答など）を行います。
レポート	30 %	： 講義全般を通した研究課題に対して、研究レポートを作成、提出します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業の中で、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。

場所：　初回授業時に周知します。

備考・注意事項：　授業外での質問方法：初回授業時に周知します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション－本授業の目標、内容、授業の進め方、評価、及び教職の意義　（担当：加藤博之／石田貴子）** 教職、いわゆる職業としての教師について考察します。 キーワード：教師像	自分の考えている教職に対する考え方をまとめておく。	4時間
第2回	**教師に求められる資質能力①―教師像の変遷からの考察（担当：加藤博之）** 求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（いつの時代にも求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて整理する。	4時間
第3回	**教師に求められる資質能力②―中教審答申等からの考察（担当：加藤博之）** 前回の講義から引き続き、求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（今後特に求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて考える。	4時間
第4回	**教師の専門性と仕事の内容　（担当：加藤博之）** 専門職としての教師の職務について、具体的な仕事の内容から考察します。 キーワード：教師の専門性、校務(園務)分掌、教師の１日	教科指導は勿論のこと、校務分掌なども含めた教師の具体的な仕事内容についてまとめる。	4時間
第5回	**学校組織と教員の社会　（担当：加藤博之）** 学校経営の実際について、どのような仕組で行われているか。そして教師の社会について考察します。 キーワード：学校組織、学校文化	前回の講義で取り上げた具体的な仕事内容と関連付けて、組織としての取り組みと教員の関わり方を学校文化の視点でまとめる。	4時間
第6回	**学校や教師に関する法律―懲戒と体罰を中心にして　（担当：加藤博之）** 懲戒と体罰の違いについて法律の面から理解し、具体例を挙げて考察します。 キーワード：体罰・暴言	具体的な体罰の事例を収集し、まとめる。	4時間
第7回	**教科指導と教師①―教科指導の基本について　（担当：加藤博之）** 「教師は授業で勝負」と言われるように、教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることを踏まえて、教科指導のポイントについて考察します。 キーワード：教科指導	教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることの意味を講義を基にまとめる。	4時間
第8回	**教科指導と教師②―「特別な教科 道徳」を中心に　（担当：加藤博之）** 前回の講義内容を基に、特に「特別な教科 道徳」について教科指導のポイントを考察します。 キーワード：特別な教科 道徳	新たに教科化された「特別な教科 道徳」の指導がどうあるべきか考える。	4時間
第9回	**学級経営と生活指導―いじめ問題への取り組み　（担当：加藤博之）** 大きな問題となっている学校教育におけるいじめの現状について考え、いじめを許さない教師を目指します。 キーワード：いじめ	いじめの現状を把握するとともに、教師の取り組みとしていじめを生まないための方策を考える。	4時間
第10回	**現代の教育問題について　（担当：加藤博之）** 学校教育における様々な教育課題について理解し、教師としてどう向き合うべきかについて考察します。 キーワード：児童虐待、不登校、「教職員による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律(令和３年法律第５７号)」	現代社会において、どのような教育問題が存在し、どう対処すべきかを考える。。	4時間
第11回	**変わりゆく社会の中で、今後求められる教師の役割について　（担当：加藤博之／石田貴子）** 過去から現在までの教師の役割の移り変わりを振り返るとともに、教育改革が進む中、１０年後や２０年後の社会を見据えた時、教師の役割がどのように移り変わるのかについて考察します。 キーワード：教育改革	大きな改革の波にさらされている教育界の現状を考えておく。	4時間
第12回	**保育者の役割と倫理（担当：石田貴子）**	全国保育士会倫理綱領を通読し、気付いたことをまとめる。	4時間

	DVD視聴を通して保育のイメージをつかみ、保育者の役割と身につけたい資質能力について考えます。また、全国保育士会倫理綱領等を通して、保育者の倫理について理解します。 キーワード：保育者の資質能力、保育者の倫理		
第13回	**保育者の専門性（担当：石田貴子）** 具体的な事例を通して、保育者の仕事とは、保育とは何かを学び、保育者の専門性について考えます。 キーワード：保育者の専門性	保育者の仕事内容を振り返り、保育者の専門性についてまとめる。	4時間
第14回	**保育者の資質向上とキャリア形成（担当：石田貴子）** 保育に関わる免許・資格制度の概略を学び、保育の質の向上及び保育者の資質向上、専門職としての保育者に求められるキャリア形成について考えます。 キーワード：免許･資格、保育者の資質向上、キャリア形成	保育に関する授業内容の学びを確認し、保育者にとって大切なものについて、意見や自らの課題をまとめる。	4時間

432

授業科目名	**教育心理学**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

大量生産による豊かな社会の形成から高度知識社会へという変動に対応して、学校において目標とされる学力の中軸が変化している。それに伴い、教師・保育士にも、知識・技能を伝達するという性格から、子ども（障がいのある子どもを含む。）の実態と授業内容に即して個別的な判断をするプロフェッショナルな能力への転回が強調されている。本科目では、子ども（障がいのある子どもを含む。）の学習に責任をもつ教師・保育士の判断力の基礎となる、発達と学習に関する心理学の理論的知識を紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	発達と学習の心理学の専門知識の修得	子ども（障がいのある子どもを含む。）の発達と学習の心理メカニズムについての知識を身につけている。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		発達と学習の心理学の知識を教育場面とを架橋しながら、子ども（障がいのある子どもを含む。）に「何を」「何のために」教え育てるのかということと、「どのように」教え育てるのかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
中間レポート	15 %	： 発達に関する講義の範囲内での知識の理解にもとづく考察 →テーマについて、講義内容をふまえて、適切なキーワード（専門用語）を用いて、具体的な事例に即して論じることができる。
各回の授業内小レポート	70 %	： １回５点。要点を理解していれば3点、加えて専門知識を用いていれば４点、加えて独自の見解や具体例とともに論述できていれば５点、誤りや不足があれば2点、重大な誤りや白紙に近い状態は０点。
最終レポート（まとめ）	15 %	： 教育心理学の学習についてふりかえる →講義内容をふまえて、発達と学習それぞれの心理学研究に基づき、広い意味での教育実践と結びつけて考察できる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明	・あなたと創る教育心理学ー新しい教育課題にどう応えるか	・ナカニシヤ出版	・2017　年

参考文献等

特に指定しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

初等教育コースのクラスで、特別授業を開催する可能性があります。詳細は、授業開始時に報告します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業開始時に伝える

場所： 研究室（中央館２階　研究室８０）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ――発達心理学と学習心理学** 授業概要及び成績評価方法を知ります。教育心理学の主なテーマである、発達心理学と学習心理学について概要を知り、現代の教育課題について子どもの発達と学習と関連づけて考え、課題意識をもちます。	講義内容をふりかえり、受講の課題を明確にする。	4時間
第2回	**発達（1）　――社会的認知の発達** 社会的認知の発達の視点から心の発達について考える。	講義内容を復習し、「社会的認知の発達と教育」について考察をする。	4時間
第3回	**発達（2）　――共感性の発達** 社会的認知の発達と進化の視点から心の発達について考える。	講義内容を復習し、ヒトらしい心の発達について考察する。	4時間
第4回	**発達と学習（1）　――利他行動とケアリング** 発達と学習に関する理論を知る。	講義内容を復習し、理論にもとづき発達と学習の過程を考察する。	4時間
第5回	**発達と学習（2）：認知発達と協働学習** ピアジェの認知発達理論とヴィゴツキーの協働学習論を知る。	講義内容を復習し、事例を考察する。	4時間
第6回	**発達と学習（3）：多重知能理論** 人間の心のしくみとしての多重知能理論から、そのはたらきを考える。特に、自閉症スペクトラムを事例に、言語発達、対人コミュニケーションの発達などを理解する。	講義内容を復習し、事例を考察する。	4時間
第7回	**前半のふりかえり** 事例について、前半で取り上げた発達学習理論とつなげて考察する。	講義内容を復習と、中間レポートの準備	4時間
第8回	**集団での学習（1）：集団における自己** 自己の発達理論を知るとともに、集団における自己にまつわる教育課題について考える。	講義内容を復習と、中間レポートの準備	4時間
第9回	**集団での学習（2）：自己をとらえ直す** 集団で学習を進めるための自己の捉え方を再考する。	講義内容を復習と、中間レポートの準備	4時間
第10回	**学びの環境づくり（1）：心理的安全性** 心理的に安心・安全な集団づくりについて考える。	講義内容を復習し、事例を考察する。	4時間
第11回	**学びの環境づくり（2）　――動機づけと知** 遊びを事例に、学習の動機づけと知のあり方（学校知と生きた知）を考える。	授業内容を事例とつなげて考察する。	4時間
第12回	**さまざまな学習（1）　――参加による学習** 正統的周辺参加論など、状況論的学習観について学ぶ。	授業内容を、事例等とつなげて考察する。	4時間
第13回	**さまざまな学習（2）　――探究学習** コンピテンシーを育む学習について考える。	授業内容を、事例等とつなげて考察する。	4時間
第14回	**まとめ　――発達と学習のゆくえ** 発達と学習研究をみつめ、未来の教育を展望する。	講義内容を復習し、子どもの発達と学習に関わる教育課題を考察する。	4時間

433

授業科目名	**教育行政学**				
担当教員名	髙橋みづき				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、行政＝制度と実践の関係に注目する視座から教育という人々の営み・現象を分析・考察していく。特に学校教育の領域を中心として、教えと学びを支える諸制度やその思想的基盤について理解を深める。

まず、教育行政学の基礎として、教育行政＝制度と捉える意義について確認し、教育行政の法律主義から、日本国憲法・教育基本法をはじめとする教育法規の枠組・内容について学ぶ。次に、国と地方の教育行政の組織・役割、教員を支える諸制度について理解を深める。また、学校制度改革として、学校を組織として動かし、開かれた学校づくりや安全・安心な学校づくりが目指される動向に注目し、それら取組の意義等について考える。最後に、教育制度の諸課題を整理し、教育制度のあり方について検討する。これらを通して、より良い教育行政＝制度を探究する契機とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育制度と教育行政に関する基礎的な知識	学校制度と教育行政の仕組みについて理解することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育行政＝制度と実践の関係について考える力	教育行政＝制度と実践の関係について検討し、より良い教育行政＝制度を探究しようとする。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	講義やグループ活動を通じて、自らが探究したい課題を見つけ、設定することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	課題解決に必要となる情報を収集し、得た知識や見解をまとめ、発表することができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解	講義や発表を聴いたり、文献・インターネットを通じて情報を収集したりすることにおいて適切に解釈し、自己の見解を再構成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート（14回分）	60 %	： 秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
期末レポート	40 %	： 秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
古田薫・山下晃一編著	・よくわかる！教職エクササイズ⑦ 法規で学ぶ教育制度	・ミネルヴァ書房	・2020　年

参考文献等

授業で適宜、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回「２単位時間」の対面講義に対して４時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加えて、調べ学習等を通じて、授業内容の理解を深化・発展させることを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　質問等はメール等で受け付けます。takahashi-mid@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション（教育行政学の基礎①）** 本講義の到達目標や授業計画、成績評価の方法、使用テキストなどについて確認する。 教育行政＝制度と捉える意義について確認し、教育行政の法律主義から教育法規の枠組を理解する。	復習として、テキスト第１講の２・３を読む。第２回目の授業に向けて、テキスト第１講の４、第２講を読む。	4時間
第2回	**憲法・教育基本法制（教育行政学の基礎②）** 日本国憲法との関連を整理しつつ、教育基本法の内容について理解する。これまでの学校体験がどのような教育法規によって支えられていたかについて考える。	テキスト第２講の「復習問題にチャレンジ」に取り組む。テキスト第１講の５を参考に、教育関連の法規を調べて読んでみる。第３回目の授業に向けて、テキスト第３講の１・２を読む。	4時間
第3回	**保育・教育制度の体系（教育行政学の基礎④）** 日本における保育・教育制度の体系について学び、それら制度が与える影響について考える。	自身が気になった保育・教育制度の課題について調べる。第４回目の授業に向けて、文部科学省とこども家庭庁について調べる。	4時間
第4回	**国の教育行政（教育行政の組織と役割①）** 国の教育行政の主体である文部科学省の組織や役割について理解する。文部科学省と他の省庁との関係についても学ぶ。	文部科学省や関連する省庁の役割などについて整理する。第５回目の授業に向けて、テキスト第４講の２を読む。	4時間
第5回	**地方教育行政（教育行政の組織と役割②）** 地方の教育行政の主体である教育委員会の組織や役割について理解する。首長や他の子ども関連部局との連携についても学び、地方教育行政の課題について考える。	住む地域の教育委員会について調べてみる。テキスト第４講の「復習問題にチャレンジ」に取り組む。	4時間
第6回	**教育委員会制度の理想（教育行政の組織と役割③）** 学校において教育行政が必要となる背景を確認しつつ、教育委員会制度によって本来果たすことが期待されていた機能が今日、どのように再現しうるのか事例から検討する。	第７回目の授業に向けて、テキスト第５講の１を読み、教員の働き方改革の動向について調べる。	4時間
第7回	**公立学校教員の立場（教員を支える制度①）** 公立学校教員の服務について学び、教員の働き方改革について理解を深める。	テキスト第５講の「復習問題にチャレンジ」に取り組む。第８回目の授業に向けて、テキスト第６講の２を読む。	4時間
第8回	**教員の研修・評価（教員を支える制度②）** 教員の研修制度について理解し、教員の働きを支える評価制度のあり方について事例から検討する。	テキスト第６講の「復習問題にチャレンジ」に取り組む。第９回目の授業に向けて、テキスト第12講の１を読む。	4時間
第9回	**教科書制度（教員を支える制度③）** 教科書制度について理解し、教科書が果たす役割について考える。	第10回目の授業に向けて、テキスト第８講の１・２を読む。	4時間
第10回	**学校における個業と協業（学校制度改革①）** 学校を組織的に動かすための制度改革や具体的な取組について学び、学校における協業の意義について考える。	第11回目の授業に向けて、テキスト第10講を読む。	4時間
第11回	**開かれた学校づくり（学校制度改革②）**	授業で取り上げた、「開かれた学校づくり」の施策・取組について具体的事例を調べる。第12回目の授業に向けて、テキスト第15講の１を読む。	4時間

	「開かれた学校づくり」の歴史的変遷や具体的な取組を学び、地域住民・保護者・学校（・子ども）が連携することの意義や効果について考える。		
第12回	**学校安全と危機管理（学校制度改革③）** 学校におけるリスクについて整理し、関連する制度改革を踏まえて、安全・安心な学校をどのように目指すことができるのか考える。	紹介された動画を視聴するなどして、12回目の授業内容の理解を深める。	4時間
第13回	**格差社会と教育（教育行政の課題①）** 格差社会における子どもの貧困について理解し、教育や福祉等の連携について学ぶ。	授業で取り上げた、子どもの貧困対策について具体的事例を調べる。第14回目の授業に向けて、テキスト第15講の２を読む。	4時間
第14回	**子どもの育ちを支える教育制度のあり方（教育行政の課題②）** 不登校の問題やそれに対する施策・取組に注目し、子どもの育ちを支える教育制度のあり方について考える。	授業で取り上げた、不登校に関わる施策・取組について具体的事例を調べる。	4時間

431

授業科目名	特別支援教育概論				
担当教員名	瀧本一夫・藤澤憲				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府立の支援学校で35年間、大阪府教育委員会(支援教育課)で１年勤務する。特別支援教育コーディネーターとして地域の幼小中高を支援した具体的事例をもとに講義する（全14回）。門真市就学支援委員会副委員長　守口市特別支援教育アドバイザーなどの経験を有する。				

授業概要

文部科学省によると通常学級に在籍して支援を要する子どもの割合は8.8%といわれています。例えば30人の学級であれば支援を要する子どもが２人はいるということになります。このことは、障害のある子どもを支援する立場にある者にはそのような特別な支援にかかわる基礎的・専門的な知識と技能が求められるということを意味します。このことを踏まえて、本講義では、障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子どもの発育・発達や個性を理解し、子どもの健やかな成長への援助や協力に積極的に取り組むことができる支援者の養成を目指します。具体の講義内容としては、実践に役立つ支援者として必要な理論・技能を中心に説明します。授業の形態としては、講義を聞く、事例を基に支援を考える、復習テスト(対面)、まとめを提出する(遠隔)という流れになります。また実習、体験的活動やグループワークも取り入れています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と支援への方策を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（３点×１４回）	42 %	： 毎回、講義の復習テスト(対面授業)、事前事後課題、まとめや感想(遠隔授業)を求める。
講義への参加度（28点）事前事後課題を含む	28 %	： グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
期末レポート（30点）	30 %	： 講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　（文部科学省　2015　4303124249）
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　（文部科学省 2015　4304042319）
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
（ジアース教育新社　2020年　978-4863715486）
【改訂版】特別支援教育基本用語100　（明治図書出版　2014年　978-4-18-108510-0）
障害のある子供の教育支援の手引き　（文部科学省　2022　4863716133）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所： 研究室

備考・注意事項： メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
takimoto-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 個別の教育支援(指導)計画の内容や役割及びそれらの書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：進路/校内支援体制/センター的機能/地域連携** 校(園)内委員会にかかわる支援体制整備及びその役割と実際について解説する。 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。 特別支援学校のセンター的機能について大阪府の実例を示しながら解説する。カリキュラムマネジメントについても解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会　自立活動** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。 インクルーシブ教育システムの構築に向けて必要な「個が生きる授業づくり・学級づくり」について、小学校等の実例をあげながら解説する。 共生社会の実現に向けた取り組みである「交流及び共同学習」について、小学校等の事例をあげながら解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害　聴覚障害** 視覚障害教育及び聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 デイジーや手話、点字などの体験を通して、視覚障害及び聴覚障害のある子供への支援について理解を深める。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは弱視　点字　手話など	4時間

第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：発達障害** 発達障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 当事者の体験談や錯視図形の体験等を通して、発達障害のある子供の不便さを体験し、発達障害のある子供に寄り添った支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは自閉症スペクトラム症　ADHD　LDなど	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：肢体不自由　重複障害　病弱** 肢体不自由教育・重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 身体的な制限だけでなく、そのために生じる日常生活の不便について知り、その支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは院内学級　筋ジストロフィー　てんかん発作など	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：応用行動分析等** 応用行動分析について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードはS-R理論　先行条件　機能的アセスメント	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)　ペクス(PECS)等** ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)及びペクス(PECS)について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードはアンガーマネージメント　アサーショントレーニング	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：感覚統合等** 感覚統合について学び、実例をもとにしたワークや体験を通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは前庭感覚　ボディイメージ　目と手の協応	4時間
第13回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツのある家庭** 障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難とその対応について理解する。 障害のある子どもの進路について概観する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは貧困、外国籍	4時間
第14回	**特別支援教育の理論と方法（７）：①福祉避難所　②災害時における障害のある人の避難所について考えよう** ①福祉避難所の現状について理解する。 ②これまでの学んだ各障害の特性や支援方法をいかして、どのような避難所であれば障害のある方が安心して避難できるかについて考える。学んだことを実践に応用するワークを行うことで学修事項の「実践知」への移行を促す。	キーワードについてまとめておく。キーワードはWISC　K-ABC　DN-CAS	4時間

432

授業科目名	**教育課程論**				
担当教員名	須谷弥生				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や学習者の学習経験を、組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、教育課程の編成原理、変遷、現行の学習指導要領の特徴、社会における教育課程の役割と機能について学ぶ。また、グループワークを通して、長期的な視野や教科等横断的な視点から教育課程や指導計画を検討することの実際、各学校の実態に合わせた教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの実際について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や理論、および求められるこれからの教育課程の枠組み	戦後日本の教育課程の変遷についての基礎的知識を持つとともに、求められるこれからの教育課程について現在の議論を踏まえて説明できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		これまでの教育課程の変遷を踏まえて、教育課程をめぐる議論の要点や課題を発見し、自らの意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返り課題、活動への参加	40 %	： 授業のキーワードに関して自らの意見を述べ、論理的に自らの考えや疑問が示されていれば3点、講義内容を適切にまとめていれば2点、許容範囲の誤りが見られるものは1点、内容が授業にそぐわないか根本的な誤りを含んでいるものは0点とします。
中間レポート	30 %	： 授業で示すテーマに関して授業内容とそれを踏まえた自分自身の意見を述べてもらい、論理的整合性があり自ら考えた見解が示されているかという点で評価します。授業内容に加えて調べ学習した内容等が入っていれば30点満点として、授業内容のみについての言及であれば20点満点として評価します。
期末レポート	30 %	： 授業で示すテーマに関して授業内容とそれを踏まえた自分自身の意見を述べてもらい、論理的整合性があり自ら考えた見解が示されているかという点で評価します。授業内容に加えて調べ学習した内容等が入っていれば30点満点として、授業内容のみについての言及であれば20点満点として評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　小学校学習指導要領（総則）2017

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 研究室（5階・教育学部共同研究室）

備考・注意事項： 時間については、授業の初回に連絡します。
メール：sutani-y@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―教育課程とは何か** 教育課程とカリキュラムの概要を学び、今後の学修の見通しを持ちます。	教育課程とカリキュラムについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第2回	**単元計画と授業づくり** 単元といった内容のまとまりを意識した授業づくりの重要性について、教材単元を中心に具体的な事例を検討しながら学びます。	単元計画と授業づくりについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第3回	**教科・領域を横断した授業づくり** 単元といった内容のまとまりを意識した授業づくりの重要性について学びます。	教科・領域を横断した授業づくりについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第4回	**年間指導計画** 年間指導計画の作成手順、単元と年間指導計画の関係などについて、具体的な事例とともに学びます。	地域の小学校等の年間指導計画を調べ、整理する。	4時間
第5回	**プロジェクト・ベースのカリキュラム** 国内外のプロジェクト・ベースのカリキュラムについて学び、教材単元をもとに作成した年間指導計画と比較検討します。	プロジェクト・ベースのカリキュラムについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第6回	**資質・能力の育成と教育課程、学習指導要領の変遷** PISAや学力調査の問題を解くことにより、現在求められている資質・能力やコンピテンシーの概念について学びます。また、学習指導要領の変遷を追うことにより、社会での出来事と教育課程編成の関わりについて学んだ上で、これから求められる教育課程について考察します。	資質・能力の育成と教育課程、学習指導要領の変遷について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第7回	**学習指導要領** 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の基本的構造について学び、幼小連携等がどのように求められているのかについて理解を深めます。また、小学校での学びが中学校、高等学校へどのように繋がっていくのかについて、学習指導要領を中心に学びます。加えて、特別支援教育の場合、特別の教育課程をどのように編成することが求められるのかについて学びます。	学習指導要領について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第8回	**社会に開かれた教育課程** 社会に開かれた教育課程について学び、事例を検討することにより理解を深めます。	社会に開かれた教育課程について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第9回	**カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価** カリキュラム・マネジメントとは何か、どのような構造と構成要素を有するのかについて学び、カリキュラム・マネジメントの3つの側面に着目して事例を検討することにより、実践化のポイントについて理解を深めます。	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第10回	**学力論と学習評価** 学力論の変遷、目標に準拠した評価、新しい評価法について、海外の動向も合わせながら深めていきます。	学力論と学習評価について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第11回	**新たなカリキュラム設計の方法―逆向き設計** カリキュラム設計の方法の1つである、逆向き設計について学びます。	逆向き設計について理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第12回	**パフォーマンス評価、ルーブリック** ルーブリックを用いたパフォーマンス評価について学びます。	パフォーマンス評価とルーブリックについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間

第13回	**新しいカリキュラムの可能性** いのちの教育、子どものための哲学を中心に、新しい時代のカリキュラムの可能性について考察します。	新しいカリキュラムについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
第14回	**社会における学校の役割とカリキュラム** 潜在的カリキュラムと顕在的カリキュラム、社会において学校が果たしている役割について学びます。	社会における学校の役割とカリキュラムについて理解したことをまとめる。また、疑問点などについて調べる。	4時間
			時間

433

授業科目名	**教育方法論・ＩＣＴ活用**				
担当教員名	星川佳加				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について身に付けることを目標とします。とくに、多様な児童生徒を理解する視点をもち、ICTを活用しながら、教育実践を構想/計画・展開・評価する方法や技術等について学びます。
講義を中心に行いますが、Google Classroom等を活用したコメント交流や、協同学習等のアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育方法（ICT活用を含む）に関する基礎的な知識・考え方	教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育方法や教育実践を省察・研究する力	教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえ、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な他者・子どもを理解する視点をもって、教育実践や教育方法を構想・評価することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	50 %	： 教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得できているか評価します。
マイクロティーチング及び振り返り	30 %	： 教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえながら、主体的かつ協同的に、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができているか評価します。
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験（レポート）について、ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育の方法〔改訂版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22125-3）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワー・研究室は初回授業時にお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ：教育方法とは** この科目のテーマである教育方法について、その学問的な精神について学びます。また、現代日本の学校教育において求められる教育方法の概要と、学校教育におけるICTの位置づけ等について解説を受けます。	予習シートの作成：令和の日本型学校教育	4時間
第2回	**現代の学校教育において求められる教育方法** これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要とされる教育の方法として、ICT活用を含め現代の学校教育で求められる事項について解説を受けます。	予習シートの作成：学習指導要領、情報活用能力の育成	4時間
第3回	**教育の目標と評価** 教育の目標と評価に関して、特に「情報活用能力の育成」、学習評価の基礎的な考え方、実践/実践者に対する評価という考え方について学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：GIGAスクール構想、1人1台端末	4時間
第4回	**授業の内容と教材・教具** 授業の内容と教材・教具に関して、特にICTの活用を含め授業の内容に適した教材や教具を選択する視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：学校施設、Schools for the Future	4時間
第5回	**指導の技術と環境の構成** 指導の技術と環境の構成に関して、特に話法や板書等の技術、ICT活用、教室やICT機器を含む環境の構成等について考える視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	指導案の作成	4時間
第6回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀頃まで** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に17世紀～19世紀に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践を理解します。 第6～10回の授業で順次マイクロティーチングを実践します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀頃まで）	4時間
第7回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀末頃以降** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に19世紀末頃以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀末頃以降）	4時間
第8回	**日本における教育方法の理論と実践：明治期** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に明治期に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（明治期）	4時間
第9回	**日本における教育方法の理論と実践：大正期以降** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に大正期以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（大正期以降）	4時間
第10回	**戦後日本における教育方法の論点と課題** 戦後日本における教育方法の論点と課題について、特に論争史に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解し、教育実践を捉える視野を広げます。 第6～10回の授業で順次実践したマイクロティーチングについて振り返ります。	マイクロティーチング振り返りシートの作成	4時間
第11回	**子どもの学習と学力** 子どもの学習と学力について、特に子どもたちの興味・関心を高め、子どもたちとともに課題や学習内容を捉えるという視点から学びます。効果的なICT活用について考えます。	指導案の改善	4時間
第12回	**教師と子どもと学習形態** 教師・保育者と子ども、子どもと子どもの関係に注目して授業を構想し展開する視点、子どもが集団で学ぶ意味と必要性について学びます。効果的なICT活用について考えます。	指導案の改善	4時間
第13回	**教科外教育活動の構想**	指導案の完成	4時間

	教科教育と教科外教育の相違点と連関について学ぶとともに、教科外教育活動を構想するために必要な視点や方法について学びます。		
第14回	**まとめ：教育実践を担う教師・保育者** 現代日本の学校教育（幼児教育を含む）においてどのような教育実践が求められているかについて学びます。最後に、これまでの学びを振り返り、教育実践を創造することについて考えます。	これまでの学びの振り返り	4時間

433

授業科目名	**教育方法論・ＩＣＴ活用**				
担当教員名	須谷弥生				
学年・コース等	教育学部	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、教育実践を構想・計画・展開し、評価するための方法や技術等について学びます。そのために、現代の学校教育（幼児教育を含む）で求められる教育方法のあり方、教育方法に関する歴史、基礎的な理論等について理解を深めます。また、学校教育におけるICTの位置づけや活用方法について学びます。

グループワーク、意見交流等の前に動画視聴や講義形式の授業を行うことで、知識の定着と思考の深化を図ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育方法に関する基礎的な知識・考え方	教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育方法や教育実践を省察・研究する力	教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえ、教育実践を構想・計画したり、評価したりすることができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		自らの教育現場での体験と講義の内容を関連づけて、さらなる教育技術の向上に努めることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な他者・子どもを理解する視点をもって、教育実践や教育方法を構想・計画・評価することができる。
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		教育方法の歴史と時代の変化を踏まえて、新しい教育方法を開発しようと試みることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の振り返り課題、活動への参加	50 %	： 振り返りの記述内容、ワークシート等への取り組み、グループワークへの意欲的な取り組み、などをもとに評価する。
教材・指導案の作成とプレゼンテーション	30 %	： 子どもの発達段階に応じた、情報機器を活用した教材の開発と指導案を作成できているかどうか、作成した教材と指導案について相手にわかりやすく伝えられているかどうか、などをもとに評価する。
期末レポート	20 %	： 授業で示すテーマに関して授業内容とそれを踏まえた自分自身の意見を述べてもらい、論理的整合性があり自ら考えた見解が示されているかという点で評価する。授業内容に加えて調べ学習した内容等が入っていれば20点満点として、授業内容のみについての言及であれば10点満点として評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育の方法〔改訂版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22125-3）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 研究室（5階・教育学部共同研究室）

備考・注意事項： オフィスアワーは初回授業時にお伝えします。
mail:sutani-y@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ：教育方法とは** この科目のテーマである教育方法について、その学問的な精神について学びます。また、現代日本の学校教育（幼児教育を含む、以下同）において求められる教育方法の概要と、学校教育におけるICTの位置づけ等について学びます。	教育方法の概要について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第2回	**教育方法の変遷と歴史** 日本、欧米諸国の教育方法とその根底にある教育思想の歴史について学びます。	教育方法の変遷と歴史について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第3回	**指導の技術（話法・板書）と環境の構成、育みたい資質・能力と評価の基本的な考え方** 子どもの発達段階を踏まえた指導の技術、環境構成の方法について学びます。また、子どもに育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方について学びます。	指導の技術（話法・板書）と環境の構成、育みたい資質・能力と評価の基本的な考え方について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第4回	**教師と子どもと学習形態** 教師・保育者と子ども、子どもと子どもの関係に注目して授業を構想し展開する視点、子どもが集団で学ぶ意味と必要性について学びます。異年齢集団の意義と可能性についても考えます。	教師と子どもと学習形態について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第5回	**情報機器を活用した指導法と情報活用能力の育成** 子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするための情報機器を活用した指導法について学びます。また、子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を学びます。	情報機器を活用した指導法と情報活用能力の育成について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第6回	**子ども理解のための情報機器活用** 子ども理解のための情報機器活用方法と今後の課題について学びます。	子ども理解のための情報機器活用について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第7回	**教材利用のための情報機器活用** 教材利用のための情報機器活用方法と留意点について学びます。	教材利用のための情報機器活用について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第8回	**教材作成のための情報機器活用** 教材作成のための情報機器活用方法について学び、実際に教材を作成します。グループワークを通して、作成した教材を検討します。	情報機器を活用して教材を作成する。	4時間
第9回	**情報機器を用いた授業のユニバーサルデザイン** 情報機器を用いた授業のユニバーサルデザインについて学びます。	情報機器を用いた授業のユニバーサルデザインについて理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第10回	**情報機器を用いた教育実践と指導案の作成** 情報機器を用いた授業・保育実践とそのための指導案を作成します。グループワークを通して、作成した指導案を検討します。	情報機器を用いた授業・保育を構想し、指導案を作成する。	4時間
第11回	**現代の学校教育において求められる教育方法**	現代の学校教育において求められる教育方法について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間

	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要とされる教育の方法として、ICT活用を含め現代の学校教育で求められる事項について解説を受けます。		
第12回	**多様な教育方法** STEAM教育、オルタナティブ教育、などについて学び、理解を深めます。	多様な教育方法について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第13回	**授業研究の方法―アクションリサーチ・反省的実践家としての教師** 授業研究、保育実践研究の方法について学びます。特にアクションリサーチの方法について学ぶとともに、反省的実践家としての教師のあり方について理解を深めます。	授業研究の方法について理解したこと、疑問点を整理する。疑問点をもとに、調べ学習を行う。	4時間
第14回	**教育実践を担う教師・保育者** 現代日本の学校教育（幼児教育を含む）においてどのような教育実践が求められているかについて学びます。最後に、これまでの学びを振り返り、教育実践を創造することについて考えます。	授業で学んだことのうち最も学びを深めたい項目を選び、調べ学習を行う。その結果をレポートにまとめる。	4時間

433

授業科目名	道徳の理論及び指導法【2023年入学生～】／道徳の理論及び指導法（初等）【～2022年入学生】				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校長（７年）（全１４回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，児童に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに，「特別の教科　道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら，道徳科の授業づくり(教材研究，発問，児童の意見の取り上げ方，板書等）についても取り上げる。その中で，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について，実際の児童の姿を具体的に示しながら，教師として求められる姿勢や態度，指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳とは何か，道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　授業体験，模擬授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30 ％	： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10 ％	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10 ％	： 授業に積極的に参加し，進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験「筆記」		： 授業内容の理解度を評価する。

50　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領	・東洋館出版社	・2017　年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	・廣済堂あかつき	・2017　年
島恒生ほか	・小学道徳　生きる力　4	・日本文教出版	・2024　年

参考文献等

・必要に応じて授業の中で配布する。
・必要な文献，資料等は授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限・昼休み

場所：　中央館５階服部研究室

備考・注意事項：　具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**特別の教科道徳（道徳科）とは** 特別の教科道徳(道徳科）では，どのような授業をするべきか？『小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編』には，「道徳科の授業では，特定の価値観を児童に押し付けたり，主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。」と書かれている。また，学校における道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行うものであることを前提に，それとは別に「特別の教科道徳（以下「道徳科」）」が設置されていることから，「道徳科」の特質が何であるかを十分に理解した上で授業を行う必要があることを理解する。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業の特質について理解を深める。	4時間
第2回	**「道徳科」の授業のねらい** 小学校の児童であっても，何が善く何が悪いかについて全く知らないわけではない。「道徳科」の学習内容は，他の教科の内容のように学校等で習わなければ児童が知らないようなものではなく，生活の中での経験を通して日々学んでいる。したがって，小学１年生の児童であって基本的な道徳について何が善く何が悪いかぐらいはよく知っているし，その意味もある程度理解している。また，善悪については大人たちからも日々聞かされている。にもかかわらず，児童が既に知っていることをねらいにするような「道徳科」の授業を行うならば，それは児童にとってつまらないばかりか，学びのない授業と言わなければならない。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業のねらいについての考えを深める。	4時間
第3回	**「道徳科」の授業はこれでよいのか** 前時において，「道徳科」の授業について検討し，その問題点を明らかにした。それでは，実際の学校現場ではどのような授業が行われているのだろうか。児童にとって学びのある時間になっているのだろうか。もちろん，授業のあり方は教師によって異なるもが，検定教科書に付属されている教師用指導書に載っている指導案は，「導入・展開前段・展開後段終末の型にはまったもの」「読み物の登場人物の心情理解に偏った形式的なもの」や「同じような経験はなかったか」「これからどうするか」のように児童に懺悔や決意表明を強いるものが非常に多い。これらの授業について批判的な視点に立って検討する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業の課題について考えを深める。	4時間
第4回	**考え，議論する道徳の学習** 『小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編』では，これまでの「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」ではなく，また「答えが一つではなない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え，向き合う『考える道徳』『議論する道徳へと転換を図るものである。」としている。 それで，考える道徳，議論する道徳にするにはどうすればよいのか。児童が考えるために必要なことは何かという視点から授業づくりについての理解を深める。	『小学校学習指導要領』やノートを用いて復習し，考え，議論する「道徳科」の学習について理解を深める。	4時間
第5回	**「道徳の問題の答えは人によって異なっている」は本当か？**	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，価値観が多様化しても道徳の問題には共有できる答えがあることついて理解を深める。	4時間

	現在は価値観の多様化の時代である。人々はそれぞれに価値観をもち，その価値観に従って判断したり，行動したりしている。このような社会では人それぞれの価値観をもつことが認められなければならない。そうすると道徳の問題の答え(善いこと，悪いこと）は人によって異なっているように思われる。果たして，それは正しいのだろうか？もしも，道徳の問題に誰もが共有できる答えがないのであれば，人々は法に触れなければ何をしても構わないのだろうか？また，道徳教育では何をめざすせばよいだろうか？ この時間は,価値観が多様化する社会において，道徳教育はどのように行われるべきかについての理解を深める。		
第6回	**「道徳科」の教材は本当に物足りないか** 「道徳の授業は難しい」と考える先生は少なくない。また，「『道徳科の教科書』に載っている教材は言いたいことが見え透いていてつまらない」と考える人たちもいる。確かに，教材を一読するだけでは，何を指導すればよいのか，児童に何に気づかせればよいのかが分かりにくい。しかし，それは教師自身が教材の意味を理解できていないからであり，教材で何を指導するのかを見つけられないからである。 この時間は，実際の道徳教材を用いて，それで何を指導するか，道徳の授業でできることが何かについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の教材理解とねらいについて考えを深める。	4時間
第7回	**「道徳科」の教材を用いて授業づくりについて考えよう** この時間は，実際の教科書教材を一つ取り上げ，それを分析する中で，教材を用いてどのような授業をすればよいかについての議論を通して理解を深める。そのために，まず本時で取り上げる内容項目について「児童が授業前から分かっていること」や「教材を読むだけで分かってしまうこと」を除外し，「児童がまだ知らないこと」や「気づかせる意味があること」を見つける必要がある。そして，そのことに気づかせるためには授業の中で，児童にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業づくりについて考えを深めるとともに，授業構想を立てる。	4時間
第8回	**「道徳科」の教材研究を深めて授業づくりを考えよう** この時間は，前時の学修成果を生かし，前時とは別の教材を用いて教材研究を行う中で，教材の特質を生かしながら，どのような授業をつくればよいかについての考えを深める。そのためには，教師は,引き続き,児童が授業前から分かっていること，教材を読むだけで分かってしまうことを除外し,児童がまだ知らないこと，気づかせる意味があることを見つける必要がある。さらに，そのことに気づかせるためには授業の中でどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習しながら，「道徳科」の授業づくりを考える。	4時間
第9回	**「道徳科」の模擬授業を受けてみよう** この時間は，前時で検討した教材を用いて，教師が行う「道徳科」の模擬授業を学生が受ける。学生は自分が児童の立場になって授業を受けることを通して，前時までの学修した「道徳科」の授業の意味や何をすべきかについて気づいていくことになる。そして，自身が考えた授業をもう一度見なおし課題を見つけることになる。 また，児童の立場で模擬授業を受けることで，児童の立場から「道徳科」の授業を見，授業についての考えを深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業についての考えを深めるとともに，学習指導案や授業について理解を深める。	4時間
第10回	**「道徳科」の教材を用いた授業づくりをしよう** この時間は，児童の立場で「道徳科」の授業を受けた経験をもとに，新たな教材を用いて教材研究をする。その中で，教材の特質を生かしてどのように授業をつくればよいかを考える。そのためには，教材をより深く読み，児童にとって発見や気づきのある視点を見出すことで，児童にとって意味のある授業のねらいを設定することが大切である。そして，そのねらいに向けての授業づくりを行う必要がある。これらの活動を通して，授業の中で児童にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，道徳科の授業づくりについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間
第11回	**「道徳科」の教材を用いた授業づくりを通して道徳科の授業についての考えを深めよう** この時間は，さらに異なった視点の教材を用いて教材研究をする中で，教材の特質を生かして「道徳科」の授業をどのようにつくればよいかを考える。そのための視点としては，「善いとはどういうことか」や「友情や誠実などの道徳的価値にどのような意味があるのか」について考えるとともに，人間そのものに対する理解を深め,児童にとってまた新たな気づきや納得のあるねらいを設定する。そして，それに向けての授業づくりを行う必要があることを理解する。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業力について考えを広げ，深める。	4時間
第12回	**「道徳科」の新たな教材を用いた授業づくりを通して授業についての考えを深めよう**	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間

	この時間は，さらに異なった視点の教材を用いて教材研究をする中で，教材の特質を生かしてどのような授業をつくればよいかを考える。そのために，哲学的な視点に立って道徳について考えたり，教材を読み深めたりすることで，児童にとって新たな発見や気づきになる視点を見出し，そこからねらいを設定する必要がある。その上で，児童にとって学びのある授業づくりを行いたい。そのためには，内容項目について児童に何を学ばせるのか，教材の特質は何なのかを明確にして授業づくりを行うことが大切であることを一層理解したい。		
第13回	**「道徳科」の授業を深める** これまでの学修のまとめとして，文献『道徳科Ｑ＆Ａハンドブック』に沿って次のことを整理する。 ①「道徳科」の特質を生かした「ねらい」の設定はどうあればよいか？ ②「道徳科」の教材をどのように研究し，どのように扱えばよいか？ ③「道徳科」の教材をどのように読めばよいか？ ④「道徳科」の内容項目の意味とその扱いはどうすればよいか？ について，整理し，理解を深める。	講義の内容を『小学校学習指導要』や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業ついて考えを深める。	4時間
第14回	**「道徳科」の評価** 「特別の教科道徳」の実施に伴い，児童・生徒指導要録や通知票に，その評価欄が設けられた。しかし，道徳の時間についての評価は十分に理解されておらず，何をどのように評価するのかが曖昧なままである。 この時間は，「教育評価とは何か」「道徳科の評価はどのようにすればよいのか」「授業評価と子供の評価の違いは」などの観点から，「特別の教科道徳」の評価はどのようにすれば可能なのかについて考えを深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の評価について考えを深める。	4時間

433

授業科目名	**総合的な学習の時間の指導法【2023年入学生～】／総合的な学習の時間の指導法（初等）【～2022年入学生】**				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・生活・総合的学習をテーマにした校内研究の計画・運営・カリキュラム作成に関わり研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

総合的な学習の時間が制定された歴史的な背景や教育課程上の位置づけなどについて理解するとともに、学習指導要領における総合的な学習の時間の教育目標・内容について確認する。また、各教科等との関係性や違いを理解し、実社会・実生活の中から課題を見つけ一解決のための情報の収集一整理・分析一まとめ・表現するという探究の学びを実現するための指導法を身に付ける。総合的な学習の時間で学んだ基礎的な事項や優れた教育実践をもとにしながら、自ら指導計画や単元計画も作成したりする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	総合的な学習の時間の指導法について理解を深める。	総合的な学習の時間の特質を理解し、探究的な学習の方法について理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		総合的な学習の時間の特質である探究学習のスタートである課題の設定ができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		総合的な学習の時間の課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学修の見通しを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内評価	20 %	:	授業内での役割遂行や課題提出などにより評価します。
振り返りシート	30 %	:	授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
定期レポート	50 %	:	授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省（平成29）小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　東洋館出版　978-4491034683
・文部科学省（平成22）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　教育出版　978-4908007354
・文部科学省（令和2）「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間　東洋館出版　978-4491041315

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業内で配布されるプリントで復習に取り組み理解を確かなものにすること。授業時間外の学修については、４時間程度求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡

備考・注意事項：　詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「総合的な学習の時間」のねらい意義、教育課程の位置づけ** 「総合的な学習の時間」が制定された背景、ねらいや教育的意義、及び教育課程の位置づけについて理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」が実施された背景や意義などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「総合的な学習の時間」のできた背景や意義などについて理解を深める。	4時間
第2回	**「総合的な学習の時間」の目標・内容と全体計画作成の考え方** 「総合的な学習の時間」の目標・内容、育てたい資質・能力について理解するとともに、全体計画との関連について学ぶ。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力、探究課題などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに「総合的な学習の時間」の目標・内容、探究課題についての理解を深める。	4時間
第3回	**「総合的な学習の時間」における「探究的な学習」の在り方** 「総合的な学習の時間」の特質とも言える「探究的な学び」のプロセスや「探究課題」について理解を深める。	テキストをもとに「探究的な学習のプロセス」「探究課題」について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「探究的な学習のプロセス」や「探究課題」について理解を深める。	4時間
第4回	**「総合的な学習の時間」と各教科等との関連** 「総合的な学習の時間」と各教科等で育成を目指す資質・能力との関連について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」と他の教科等との関連について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、他の教科等で育成する資質・能力との関連について理解を深める。	4時間
第5回	**総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の留意点** 「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の基本的な考え方と留意事項についての理解を深める。	「総合的な学習の時間」の年間指導計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに年間指導計画作成の基本的な考え方や留意点について理解を深める。	4時間
第6回	**「総合的な学習の時間」の単元計画についての考え方** 「総合的な学習の時間」の単元計画作成の基本的な考え方と授業づくりの留意事項について理解を深める。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の単元計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに単元計画作成の基本的な考え方や留意事項について理解を深める。	4時間
第7回	**「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方とその方法** 「総合的な学習の時間」についての評価の基本的な考え方と方法について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の評価について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、評価の基本的な考え方や方法について理解を深める。	4時間

433

授業科目名	**特別活動の指導法【2023年入学生～】／特別活動の指導法（初等）【～2022年入学生】**				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・教育研究会特別活動部、部長校に勤務し研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容である「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別活動の指導法についての理解を深める。	特別活動の特質を理解し、児童・生徒の自発的・自治的活動を促す指導の在り方を追究する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもたちを取り巻く急激な社会の変化の中で、今日的な教育課題について理解を深めることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： 授業内での役割遂行や課題提出、自主的発表など授業参加状況などを評価します。
授業振り返りシート	30 %	： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
期末レポート	50 %	： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・小学校学習指導要領（平成29年3月告示）　文部科学省　978-4491034607
・小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成29年3月告示）　文部科学省　978-4491034690
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 特別活動（令和２年）東洋館出版　978-4491041292

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、理解を確かなものにしておくこと。授業時間外の学修については４時間程度求められている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡

備考・注意事項：　詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**特別活動の目標・内容と特質・教育的意義** 特別活動の目標・内容について理解を深めることを通して、特別活動の特質や教育的意義についての理解を深める。また、他の教科等との関連について学び、特別活動が各教科等の学びを実践につなげたり、全教育活動の基盤となる役割を担ったりしていることを学ぶ。	これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。また、配布プリントをもとに丁寧に本時の復習を行う。	4時間
第2回	**学級活動の目標と内容** 学級活動の目標・内容から学級や学校生活やをよりよくするために、また、自己の課題を解決するために、課題を見つけ、改善するために話し合い、合意形成や意思決定をしたりして、自主的実践的に取り組む活動であることを具体的な事例を取り上げ理解を深める。	学級活動の目標・内容からどのようなことがわかるのか考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行うこと。	4時間
第3回	**学級活動(1)(2)(3)における指導方法** 学級活動(1)(2)(3)において、各々の学習過程をもとに指導法の違いや特質があることを理解するとともに、合意形成や意思決定に至るまでの事前の活動や本時の活動、評価などの具体的なプロセスについて理解を深める。	テキストをもとに学級活動(1)(2)(3)の違いについて調べ、整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行う。	4時間
第4回	**学級活動(1)の学習指導案を作成する** 特別活動の中心ともいえる学級活動(1)を取り上げ、学級活動(1)の学習指導案についての基本的な考え方や作成の仕方について理解を深め、テキストを基に学習指導案を作成する。	テキストをもとに学級活動(1)の学習指導案について概観しておく。また、復習により配付された学習指導案と作成した学習指導案との対比により理解を一層深める。	4時間
第5回	**学級活動(1)の計画委員会について考えよう** 作成した学習指導案の授業をスムーズに進めていくためには、話合い活動（本時）を行うまでの、事前の活動の計画委員会が重要である。この計画委員会の具体的な進め方や議題の選定、司会者の進め方など、実習形式を取り入れながら理解を深めていく。	テキストを参考に、学級活動(1)の事前の活動には、どのような内容があるのかを確認しておく。	4時間
第6回	**児童会活動・クラブ活動の目標と内容** 児童会活動・クラブ活動の目標・内容、評価などについての理解を深めることを通して、各々の教育的意義や特質、指導方法について学修する。	テキストをもとに、児童会活動・クラブ活動の目標・内容を概観しておくとともに、小学校での委員会の活動について想起しておく。また、配布プリントをもとに復習し、児童会活動並びにクラブ活動についての理解を深める。	4時間
第7回	**学校行事の目標と内容** 学校行事の目標・内容、評価などについて理解を深めるとともに、地域との連携をふまえた取り組みなど学校と地域との関係について学修を深める。	テキストをもとに、学校行事の目標・内容と指導法について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、学校行事についての理解を深める。	4時間

432

授業科目名	国語科指導法				
担当教員名	辻村敬三・栗田稔生				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

小学校国語科の目標と内容について、学習指導要領解説国語編及び実際に使用されている小学校国語教科書に即して体系的に理解する。また、「読むこと」の文章教材や「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材研究の方法を学び、教科国語科の特性や指導理論の基礎を学ぶ。次に、国語科各領域ごとの指導事項と指導法及び評価の方法について、学習指導案の作成と模擬授業を通して実践的に学ぶ。指導案検討・模擬授業・授業研究をグループで行うことで、授業改善のための指導内容や方法について省察的に検討する力を身に付ける。また、国語科に必要な指導技術について、具体的な指導場面に即して実技指導・演習により身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教科に関する教養	国語科の指導方法について、個別の学習内容に即した指導理論と留意点を理解している
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		模擬授業及びその省察を通して、自らの課題を把握することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		学習の流れを見通して、学習指導計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業の指導案	50 %	： 学習指導要領の目標及び指導内容を踏まえ、必要な条件を備えた指導案が書けていることを基準として評価する。
期末レポート	30 %	： 国語科の指導法に関する理論について、授業研究を通した実践的な理解、考察がされていることを基準として評価する。
模擬授業への参加	20 %	： 模擬授業の事前準備、他者の模擬授業への協力、授業研究会での発言等を総合的にとらえて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辻村敬三	・ 国語科内容論×国語科指導法	・ 東洋館出版	・ 2019　年
教育出版／東京書籍	・ ひろがる言葉小学国語四下／新編新しい国語四上	・ 教育出版／東京書籍	・ 2024　年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編	・ 東洋館出版	・ 2017　年

参考文献等

児童用教科書は、初等教育コースは、「ひろがる言葉小学国語四下」を、幼児教育コース・中等専攻は、「新編新しい国語四上」を必ず購入すること。使用教科書の「国語科内容論×国語科指導法」及び小学校学習指導要領については、「国語科内容論」受講時に使用したもので可。
その他の参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。国語科内容論を履修済みであることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時に周知する

場所： 辻村研究室(中央館2階)

備考・注意事項： 授業後にも相談に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学習指導要領国語科の目標や内容に則した主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計** 国語科学習指導理論の基礎的な内容として、学習指導要領国語科の目標及び内容を体系的に学び、授業改善の指針として示された「主体的・対話的で深い学び」との関連を考察する。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識及び技能〕に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第2回	**学習指導案の構成と〔知識及び技能〕「言葉の使い方」の指導上の留意点・学習指導案の作成** 「言葉の使い方」の学習として「慣用句」を取り上げた授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、学習体験（ワークショップ）を通して発声・発音、発言・発話、聞き方についての指導技術を学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第3回	**模擬授業（「言葉の使い方」）と学習評価の実践及び授業改善の方策** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」（文学的な文章）に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**「読むこと」（文学的な文章）の学習指導理論と指導上の留意点・学習指導案の作成** 「読むこと」（文学的な文章）の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、板書の方法を学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	模擬授業を省察し､指導技術上の今後の課題をまとめる。	4時間
第5回	**模擬授業（「読むこと」（文学的な文章））と学習評価の実践及び授業改善の方策** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「学習指導案の作成」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第6回	**授業の省察・研究の方法と学習指導案の改善** 国語科における授業分析、授業評価の手法を学び、これまでに行ってきた学習指導案を自己分析、自己評価します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「指導技術」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**国語科授業に必要な指導技術及び情報機器の活用方法** 国語科授業に必要な指導技術や情報機器の活用方法を学び、グループでのワークショップを通して、指導方法の意味や留意点を学びます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」（説明的文章）に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**「読むこと」（説明的な文章）の学習指導理論と指導上の留意点・学習指導案の作成** 「読むこと」（説明的文章）の授業を設計し、単元の学習指導計画と1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、教師の指導言について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第9回	**模擬授業（「読むこと」（説明的な文章））と学習評価の実践及び授業改善の方策**	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「話すこと・聞くこと」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間

	作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。		
第10回	**「話すこと・聞くこと」の学習指導理論と指導上の留意点・学習指導案の作成** 「話すこと・聞くこと」の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、話し合い活動の指導法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第11回	**模擬授業（「話すこと・聞くこと」）と学習評価の実践及び授業改善の方策** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「書くこと」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第12回	**「書くこと」の学習指導理論と指導上の留意点・学習指導案の作成** 「書くこと」の授業を設計し、単元の指導計画と1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、ノート指導の方法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第13回	**模擬授業（「書くこと」）と学習評価の実践及び授業改善の方策** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「知識・技能」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第14回	**〔知識・技能〕（書写・毛筆を使った）指導上の留意点・学習指導案の作成** 毛筆を使った書写の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、毛筆書写の指導方法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。 最後に、これまでに行ってきた模擬授業の指導案を中心に、資料やノートを整理してポートフォリオを作成し、国語科の指導法や指導技術について課題を探り、今後の学修計画を考えます。	これまでの資料やノート、作成した指導案を整理し、ポートフォリオを作成する。	4時間

433

授業科目名	**社会科指導法**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	丸野亨：1997年4月～2018年3月まで、大阪市立小学校教員2年、大阪教育大学附属小学校教員19年（うち教諭14年、主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

小学校の社会科の基本は、身のまわりで起っている様々な問題を自ら発見し解決していく学習であることを理解する。そのために、現場で指導するときに役立つ、地域教材の発掘・開発、教材の提示方法、指導方法（フィールドワークや地名調べ等）、指導計画、指導案の作成、模擬授業などを構成することにより、より身近に小学校の社会科の楽しさやおもしろさを感じるようにする。また、模擬授業後には、より良い授業をめざし授業検討会を行い、実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	社会科の授業を構成するための必要な知識	模擬授業を行うに当たって、子供が学習主体となり協働的に学ぶ指導案を作成し模擬授業を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教材研究を行い指導案を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業の振り返り	30 %	： 各授業について、自身の学びを整理しまとめることができている。
授業への参加度	30 %	： 教員のレクチャー、グループや全体でのディスカッション、模擬授業等の場面において、主体的かつ協調的に参加している。
期末課題	40 %	： 子供が考える社会科授業づくりに向け、指導上の要点を理解し工夫することができている。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説「社会編」	・ 東洋館出版社	・ 2018　年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版、2018年、978-4491034607
その他授業中に適宜指示する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　詳細は、初回授業時に提示

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと目標設定** 本科目において身に付けるべき社会科学習指導に向けた資質・能力を理解する。 その手段としての模擬授業の立案・実施・省察・改善の方法を知り、学習計画を立てる。 模擬授業実施単元とグループを決める。	実施予定の模擬授業単元に関する教材研究（※模擬授業実施まで継続）	4時間
第2回	**子供による学習問題・問いの設定** 生活科の町たんけんとの違いを意識し、フィールドワークに実施する。	生活と社会科のフィールドワークの違いについて整理する	4時間
第3回	**子供が考える社会科学習を支える資料読解の指導と板書** 調べたことを的確に表す方法として、３年生では校区地図に表すことが適切であり、表現方法を研究する。	校区地図を作成するための必要な共通要素を事前に調べておく。	4時間
第4回	**子供の対話による社会科学習の指導** 地名を調べることにより、地名の成り立ちや地域の歴史を知る。	居住地にある地名について、その成立経過などを調べる。	4時間
第5回	**模擬授業実施とその省察（3年生前半単元）** まちの紹介をするためのリーフレットの内容を検討する。	どのようにしてリーフレットを構成すれば、居住地を地域を紹介できるか考える。	4時間
第6回	**模擬授業実施とその省察（3年生後半単元）** 開発を中心に進めるが、文化の発展に尽くした人物についても研究する。	地域の発展に尽くした人物を調べる。	4時間
第7回	**模擬授業実施とその省察（4年生前半単元）** 世界の中の日本について知り、国土に対する愛情を育てる授業を研究する。	４７都道府県名と位置を白地図に書き込むことができるようにする。	4時間
第8回	**模擬授業実施とその省察（4年生後半単元）** ４２人の人物について、歴史の中でどのようなことを行ったかを時代背景などを踏まえて検討する。	歴史学習で取り上げる４２人の人物についての主なプロフィールを調べる。	4時間
第9回	**模擬授業実施とその省察（5年生前半単元）** 日本の政治や経済の仕組みについて知る。さらに、民主主義において議論の大切さをディベートにより確信する。	事前に日本の政治や経済についてまとめる。	4時間
第10回	**模擬授業実施とその省察（5年生後半単元）** 導入時の工夫について研究する。	子どもの興味を引く導入について研究する。	4時間
第11回	**模擬授業実施とその省察（6年生前半単元）** 子どもが動き出す導入に必要な教材を検討する。	子どもが興味を引く教材を考える。	4時間
第12回	**模擬授業実施とその省察（6年生後半単元）** 導入・展開・まとめと授業が流れるための発問について研究を進める。	主発問の言葉を考える。	4時間
第13回	**模擬授業全体の振り返り** 授業のよさを中心に板書をもとに検討会を実施する。	板書計画をしっかりたてる。	4時間
第14回	**見出した学習指導上の課題に関する考察と授業総括** 授業のよさを中心に体験的な活動を取り上げ検討会を実施する。	社会科での体験的な学習について調べる。	4時間

433

授業科目名	**社会科指導法**				
担当教員名	橋本祥夫				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市立小学校教員11年，京都教育大学附属小学校教員10年の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

小学校社会科で育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された各学年の社会科の学習内容を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。また小学校社会科の指導を行うために必要な教材研究や授業づくりの方法について解説する。マイクロティーティングを活用した模擬授業を通して，発問，板書，授業展開力などの実践的指導力を身に付けられるようにする。模擬授業後は，よりよい授業を目指して授業検討を行い，実践力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	社会科の授業を構成するための必要な知識	模擬授業を行うに当たって，子どもが学習主体となり協働的に学ぶ指導案を作成し模擬授業を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教材研究を行い指導案を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
各授業の振り返り	50 %	:	各授業について，自身の学びを整理しまとめることができている。
模擬授業	20 %	:	授業構成，発問，教材研究，板書，指導法などを工夫して模擬授業を行うことができる。
期末課題［学習指導案］	30 %	:	模擬授業の反省を生かし，学習指導案を作成することができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省	・小学校学習指導要領解説「社会編」	・東洋館出版社	・2018　年
中西仁・小林隆編	・初等社会科教育	・ミネルヴァ書房	・2018　年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版，2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**イントロダクション：社会科の学習過程と指導方法** 社会科教育で求められる資質・能力や社会的な見方・考え方について概観します。また，問題解決的な学習の学習過程により，どのような指導法が必要なのかを具体例をもとに考えます。	予習：学習指導要領解説社会編の第1章及び第3章を読んで，社会科教育で求められる資質・能力についてまとめてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第２回	**社会科の指導内容と評価** 評価に関する基本的事項について理解し，評価の観点ごとにどのような評価方法があるのかを学びます。またそのためにはどのような指導場面で，どのように評価するのかを考えます。	予習：国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料』（令和2年3月）を読んで，評価方法についてまとめてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第３回	**社会科授業と教材研究** 授業づくりのための教材研究の方法と実際の指導について，各学年の授業例をもとに検討する。	授業づくりのための教材研究の方法と実際の指導について自分なりの考えをまとめてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第４回	**社会科授業の基本技術・ICTの指導法** 発問，板書，机間指導などの授業を行う際の具体的な指導方法について理解し，授業内容によってどのような指導法が必要なのかを考えます。また情報機器（ICT）の活用などの基本的な指導法について具体的な事例を通して学びます。	予習：ICTを活用した指導法について調べてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第５回	**第3学年の学習内容と指導事例** 第3学年の目標と内容構成を概観します。また第3学年の単元別の学習内容について，指導上の留意点及び学習評価の考え方を学びます。	予習：学習指導要領解説社会編の第3学年の目標及び内容のところを読んでおいてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第６回	**第4学年の学習内容と指導事例** 第4学年の目標と内容構成を概観します。また第4学年の単元別の学習内容について，指導上の留意点及び学習評価の考え方を学びます。	予習：学習指導要領解説社会編の第4学年の目標及び内容のところを読んでおいてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第７回	**第5学年の学習内容と指導事例** 第5学年の目標と内容構成を概観します。また第5学年の単元別の学習内容について，指導上の留意点及び学習評価の考え方を学びます。	予習：学習指導要領解説社会編の第5学年の目標及び内容のところを読んでおいてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第８回	**第6学年の学習内容と指導事例** 第6学年の目標と内容構成を概観します。また第6学年の単元別の学習内容について，指導上の留意点及び学習評価の考え方を学びます。	予習：学習指導要領解説社会編の第6学年の目標及び内容のところを読んでおいてください。復習：授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第９回	**社会科教材研究・学習指導案作成のポイント** 学習指導案の作成に必要な単元目標の立て方及び評価規準，指導方法及び作成時の留意点を学びます。	予習：学習指導案の書き方について事前に確認をしておいてください。復習：自分が担当する学年，単元の教材研究をしておいてください。	4時間
第10回	**教材研究・指導案作成（グループ活動）** 各学年のグループで単元の教材研究をし，授業づくりを行います。グループで協働して学習指導案を作成します。	予習：自分が担当する学年，単元の教材研究をしておいてください。復習：模擬授業で行う指導案を作成してください。	4時間

第11回	**第3学年の模擬授業による授業研究** マイクロティーティングによる第3学年の模擬授業を行います。模擬授業後，学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い，議論します。	予習：模擬授業に向けた教材や指導案の準備をしてください。復習：模擬授業についての良い点や改善点を考えて提出してください。	4時間
第12回	**第4学年の模擬授業による授業研究** マイクロティーティングによる第4学年の模擬授業を行います。模擬授業後，学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い，議論します。	予習：模擬授業に向けた教材や指導案の準備をしてください。復習：模擬授業についての良い点や改善点を考えて提出してください。	4時間
第13回	**第5学年の模擬授業による授業研究** マイクロティーティングによる第5学年の模擬授業を行います。模擬授業後，学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い，議論します。	予習：模擬授業に向けた教材や指導案の準備をしてください。復習：模擬授業についての良い点や改善点を考えて提出してください。	4時間
第14回	**第6学年の模擬授業による授業研究** マイクロティーティングによる第6学年の模擬授業を行います。模擬授業後，学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い，議論します。	予習：模擬授業に向けた教材や指導案の準備をしてください。復習：模擬授業についての良い点や改善点を考えて提出してください。	4時間

432

授業科目名	**算数科指導法**				
担当教員名	橋本隆公・木村憲太郎				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の指導に関する体験知（全14回） 橋本　大阪市立小学校　国立大学法人　大阪教育大学附属小学校　教諭として勤務 木村　岸和田市立小学校　教諭として勤務				

授業概要

指導者は、算数科の意義とその重要性を理解した上で指導を実施する必要がある。そこで本講義では、各学年の発達や各領域の系統性を理解した上で、基礎的・基本的な知識及び技能と、思考・表現・判断を駆使する問題解決能力を高められる「算数科における問題解決学習」の実践を遂行するための指導法の教材研究・理解、指導案作成、模擬授業による実践を中心に授業実践力を身につけることを目的とする。具体的には、教員による模擬授業と指導案作成の指導後、協同的に指導案・板書計画作成、および、模擬授業に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	算数科の学習指導案の作成	算数科の学習指導案を作成することができる
2. DP２.教育実践の省察・研究	算数科の模擬授業の実践・省察	算数科の模擬授業の実践を通して授業改善を図ることができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		指導案を作成することができる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		模擬授業で実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	20 %	： 総合的な算数科指導法の省察
授業中に行う模擬授業	30 %	： 指導案に基づく模擬授業の技能面（児童役時を含む）
授業記録	30 %	： 各回における算数科指導法の省察
授業内試験	20 %	： 学習指導案作成による技能面

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
橋本隆公	・ 算数科内容論×算数科指導法	・ 東洋館	・ 2017　年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説算数編	・ 日本文教出版	・ 2018　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火・金の昼休み

場所： 橋本研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー算数の授業づくりを考えるー** 授業の目的・概要・スケジュール、および、教員による模範授業と学生のグループ編成	各自分担の単元について調べる	4時間
第2回	**算数科における問題解決学習における授業モデルの模範授業と指導案作成の説明** 教員の模擬授業を通した指導案の書き方の説明、および、グループ毎の授業づくりのポイントの解説	本時の指導案を作成する	4時間
第3回	**第１学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第１学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第1回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第4回	**第１学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法** 第１学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第2回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第5回	**第２学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第２学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第3回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第6回	**第２学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法** 第２学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第4回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第7回	**第３学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第３学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第1回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第8回	**第３学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法** 第３学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第2回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第9回	**第４学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第４学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第3回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第10回	**第４学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法** 第４学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第4回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第11回	**第５学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第５学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第5回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第12回	**第５学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法** 第５学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第6回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第13回	**第６学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第６学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第7回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第14回	**第６学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法**	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間

第６学年「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　　教員による模擬授業　授業内レポート作成		

433

授業科目名	**理科指導法**				
担当教員名	福岡亮治				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習科目				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市内の小学校教諭 京都市教育委員会事務局主任主事 京都市教育委員会研究員　　（全14回担当）				

授業概要

本授業は、小学校の理科における理科教育的および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能を身に付け教育実践力の育成を目指すことを目的とする。特に今日的に必要とされる探究的内容に重点を置き、多くの実験を体験することで，教材や実験の開発と授業の組み立ての技能を獲得する。さらに、小学校教科書と学習指導要領に記載されている内容から逸脱しないように注意しながら安全で理解が深まる理科実験の展開を考えるとともに教材開発を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	理科実験に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の内容について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の内容について理解を深めることができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		理科実験の学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	40 %	： 授業中の小テスト等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価
課題研究発表	40 %	： ①授業での学びの視点を生かした教材開発を行い、その成果物と研究プロセスを評価 ②授業での学びを反映した指導案を作成し、その評価を行う
グループ課題達成度	20 %	： 毎時与えられる理科実験の課題を解決するために教材研究を行い、その結果の分析・考察したレポートの内容と研究プロセスを評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　理科編	・東洋舘出版	・2018　年
福岡亮治	・元芸人が教える「笑って学ぶ」小学校理科	・東洋館出版社	・2021　年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・理科内容論で学んだ知識（理科の目標・教科書の内容・学習指導要領解説の内容など）を基盤としてとして授業を進めるので、基本的には理科内容論の受講をした者が受講対象となる。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します

場所：　福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科指導法Ｉ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価法と講義目的についてオリエンテーション** 理科内容論を振り返った上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１４回の授業を通して獲得すべき力（実践力）の見通しを持つ	グループ課題に向けての研究計画の立案	4時間
第2回	**教材研究に挑戦　身近な科学での入門編・小学校第3学年「磁石の性質」予習** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	次週取り扱い単元　小学校第3学年「磁石の性質」について学習指導要領を読み込む	4時間
第3回	**教材研究1　小学校第3学年「磁石の性質」教材から問いを考える・小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」予習** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	次週取り扱い単元　小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」について学習指導要領を読み込む	4時間
第4回	**指導計画の書き方のポイント　理論編・小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」** ①該当範囲の視点での教科書分析 ②該当範囲の視点での学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握	指導計画の書き方を意識しながら他の指導案を分析する	4時間
第5回	**指導計画の書き方のポイント　実践編・小学校第５学年「もののとけ方」** ①該当範囲の視点での教科書分析 ②該当範囲の視点での学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③　①②をもとに「小学校理科の観察，実験の手引き（文部科学書）」の分析を行う	指導計画の書き方を意識しながら他の指導案を分析する	4時間
第6回	**理科の見方・考え方・小学校第５学年「もののとけ方」** ①該当範囲の視点での教科書分析 ②該当範囲の視点での学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③理科の見方・考え方に関わる授業体験と分析・考察	学習指導要領解説「第１章　総説」の分析・考察	4時間
第7回	**教材研究2　小学校第4学年「わたしたちの理科室」安全に実験を行うために　基本操作編・小学校第６学年「水よう液の性質」などの他学年との比較** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	小学校第4学年「わたしたちの理科室」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第8回	**教材研究3　小学校第4学年「もののあたたまり方」安全に実験を行うために　実践編** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	小学校第4学年「もののあたたまり方」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第9回	**教材研究4　小学校第4学年「もののあたたまり方」少しの工夫で実験の成功率を向上させる**	小学校第4学年「もののあたたまり方」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間

	①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う		
第10回	**教材研究5　小学校第5学年「もののとけ方」準備か簡素で実験の成功率を向上させる** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	小学校第5学年「もののとけ方」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第11回	**授業研究　小学校第5学年「もののとけ方」複数の実験を組み合わせ授業を組み立てる** ①該当範囲の導入実験を複数体験する ②複数の中から授業で使えそうな実験を2つ選ぶ ③選んだ実験を軸に授業づくりを行う ④作成した授業について交流する ⑤④で得た情報・知識をもとに該当範囲の授業を編集する	小学校第5学年「もののとけ方」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第12回	**教材研究6　小学校第6学年「ものの燃え方」発展教材の取り扱い** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	小学校第6学年「ものの燃え方」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第13回	**小学校第６学年「水よう液の性質」の模擬授業の受講と研究協議会** ①該当範囲の模擬授業を児童の立場で受ける ②該当範囲の模擬授業を教員の立場で分析する ③①②で得た情報・知識をもとに研究協議会を行う ④①～③で得た情報・知識をもとに該当範囲の模擬授業の指導案を編集する	小学校第６学年「水よう液の性質」の模擬授業の受講について模擬授業の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第14回	**課題発表会と総括** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのマイクロティーチングの実施 ③それぞれの教材についての交流 ④まとめ	グループ課題達成のための情報収集と材料研究・調達	4時間

432

授業科目名	生活科指導法				
担当教員名	丸野亨				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	丸野亨：1997年4月～2018年3月まで、大阪市立小学校教員2年、大阪教育大学附属小学校教員19年（うち教諭14年、主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

本科目は、生活科の目標・内容を理解し、楽しく授業が展開できるようにすることを目的とする。そのために、体験的な活動、指導方法の研究、学習指導案作成、模擬授業をとおして、授業実践力をつける。フィールドワーク、ものづくりなどの具体的な活動をとおして、作品の見方、支援のあり方、教師の役割等について理解する。また、生活科の理論とその特質を踏まえた学習指導及び評価をとりあげる。授業の組み立て方や学習指導案の作り方は、学習指導案づくりを通して身につくようにする。また、模擬授業も実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	楽しい生活科の授業を行うための教養やスキル	授業を楽しくする教養やスキルを身に付けることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 教員のレクチャー、グループや全体でのディスカッション、模擬授業等の場面において、主体的かつ協調的に参加している。
各授業の振り返り	30 %	： 各授業について、自身の学びを整理しまとめることができている。
期末課題	40 %	： 子供が主体的に活動し気付きを得られる生活科授業づくりに向け、指導上の要点を理解し工夫することができている。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」	・東洋館出版社	・2018　年

参考文献等

文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版、2018年、978-4491034607
その他、授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　詳細は初回授業時に提示

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価法と講義目的について）** 授業全体の流れを知り、フィールドワークなど体験的な活動などを実際に経験することにより、生活科の授業が充実するための指導法を検討する。	自分が小学校のときの生活科の授業を振り返る。	4時間
第2回	**フィールドワークの基礎（大学周辺地域を探索、地域を知る）－学外授業－** 大学周辺地域を探索して、地域の特徴を知る。さらに、フィールドワークのノウハウや留意点などを実地体験をする。	大学への行き帰りで少し足を伸ばして大学周辺地域の探検する。	4時間
第3回	**「生活科マップ」の作成（ミニ発表会）** 生活科マップは、直接子どもとは関係のないものであるが、勤務校で地域を知らなくては生活科の授業ができないので、教員（指導者）が作成すべきものであることを知らせ、マップを作成する。	自分の家の周りの生活科マップを作成する。	4時間
第4回	**公共物や公共施設を利用した教材開発** 公共施設として公立図書館を想定して、その授業について検討し、具体的な発問の必要性を研究する。	実際に公共物や公共施設を自分で利用する。	4時間
第5回	**フィールドワークの応用（大学周辺で「秋さがし」をしながら探索する）－学外授業－** 実際に「秋さがし」に出かけたとき、季節を知り、身近な自然に目を向けさせるための諸感覚を使う大切さを検討する。	「秋さがし」のポイントを見つける。	4時間
第6回	**「秋さがし」発表会（交流会）** 「秋さがし」で見つけたことを交流することにより、今まで気付かなかった秋がたくさんあることに気付き、「秋さがし」だけでなく、安全への配慮も怠らないようにすることが大切であることを知る。効果的な交流会にするために、伝え合う活動の充実や言語活動を取り入れるようにする。	子どもが遊びに使うものを考えて、自分で体験する。	4時間
第7回	**自然や物を使った「遊び」（ものづくり）** 「秋さがし」で見つけたものや自分の家の周りで見つけたものを利用して、遊びに使うものをつくることを体験し、研究する。	子どもが遊びに使ういろいろなものを作り、作品の良さのほめ方について考える。	4時間
第8回	**作品の見方を交流（作品紹介、プレゼンテーション）** 出来上がった作品をみんなに紹介するに当たって、友達のよさなどを発表したり、さらによくするためのアドバイスの仕方などについて研究する。	飼育・栽培に必要なことをまとめる。	4時間
第9回	**動植物の飼育・栽培の実際（事例研究）** 飼育・栽培などにおいて、生きものに親しみがわき、伝えたい意欲をわかせるための観察記録の方法を研究する。	授業づくりのための教師の役割についてまとめる。	4時間
第10回	**授業づくりと教師の役割** 教材観や指導観の書き方を知り、指導計画・単元目標・本時の学習など学習指導案の立て方、形式、教師の支援などを研究する。	興味・関心を呼び起こす教材の開発を考える。	4時間
第11回	**教材研究と学習指導案作成** 教科書より模擬授業を行う単元を決め、グループで模擬授業を行うために学習指導案の作成を検討する。	実際に、自分で学習指導案を作成する。	4時間
第12回	**模擬授業と授業検討会（１）－グループ学習指導案の完成－** 各自の学習指導案を見直し、模擬授業と授業後の検討会での重要ポイントをまとめる。	グループ模擬授業を実施するための準備をする。	4時間
第13回	**模擬授業と授業検討会（２）－グループ模擬授業の実施－**	新学習指導要領「生活」の改訂の趣旨をまとめる。	4時間

	模擬授業を行い、よかった点、もう少し改良した方がいい点などを話し合い、今後の学習指導案の作成を充実させる。		
第14回	**生活科教育の課題と展望ースタートカリキュラムー** 低学年教育としての生活科、生活科を中心としたスタートカリキュラムなど、生活科の実際の指導の際に起こりうる課題などを検討する。	授業のまとめとこれからの生活科のあり方を考える。	4時間

432

授業科目名	音楽科指導法				
担当教員名	岡林典子・佐野仁美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、小学校音楽科の目標、指導内容を理解し、体験的な活動、指導方法の研究、学習指導案の作成、模擬授業を通して、授業実践力を身に付ける。表現（歌唱・器楽・音楽づくり）と鑑賞の各分野について受講生同士が意見を交わしながら教材研究を行い、学習指導案を作成する。授業のまとめとして、模擬授業を行い、授業実践についての討議を進め、考察を深める。また、当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できるよう授業内で情報通信機器を適宜活用する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	小学校の音楽の授業を構成することのできる能力を育てる。	授業をすすめるための実践的な方法を理解する。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	よりよい授業を希求しようとする態度を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内活動への参加状況	20 %	:	授業内活動への積極的参加、他者への配慮、表現方法の工夫等の評価
各授業の振り返り	20 %	:	各授業について、自身の学びを整理してまとめることができているかを評価
課題研究発表	20 %	:	授業での学びを反映した指導案を作成し、それに基づく模擬授業への評価
課題研究レポート	40 %	:	音楽科指導法に関する省察

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
初等科音楽教育研究会編	・改訂版　最新　初等科音楽教育法	・音楽之友社	・2023　年

2017年告示「小学校学習指導要
領」準拠　9784276821026

参考文献等

国立教育政策所教育課程研究センター　「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　小学校 音楽 」東洋館 2020年 9784491041254

履修上の注意・備考・メッセージ

※ソプラノリコーダーを各自用意してください。

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回の授業でお伝えいたします。

場所：　初回の授業でお伝えいたします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―小学校音楽科の目標と指導内容** ①授業の進め方と評価、欠席の扱い等を知る。 ②音楽科の目標及び指導内容について理解する。	自身が今までに経験した音楽科授業を振り返り、まとめる。	4時間
第2回	**歌唱の教材研究および指導法①** ①１～４年生の歌唱共通教材を知る。 ②モデル授業体験及び授業映像聴取を通して授業像をつかむ。 ③低学年、中学年の歌唱の指導法の理解を深める。	1年～４年の歌唱共通教材を譜読みして、歌う。	4時間
第3回	**歌唱の教材研究および指導法②** ①5～6年生の歌唱共通教材を知る。 ②モデル授業体験及び授業映像の視聴を通して授業像をつかむ。 ③高学年の歌唱の指導法の理解を深める。	５～６年の歌唱共通教材を譜読みして、歌う。	4時間
第4回	**器楽の教材研究および指導法** ①リコーダーやその他の様々な楽器の奏法を学ぶ。 ②リズム合奏の指導法の理解を深める。 ③重奏・合奏の指導法の理解を深める。	合奏のリズム譜を読み、演奏する。	4時間
第5回	**わらべうたやお囃子の教材研究および指導法** ①様々なわらべうたの遊び方を知る。 ②和楽器の奏法を知り、お囃子を演奏する。 ③わらべうたやお囃子の指導法の理解を深める。	全国のわらべうたの歌詞の違いや遊び方の違いを調べる。	4時間
第6回	**日本音楽の教材研究及び指導法** ①日本音楽の音階について学ぶ。 ②和楽器で演奏されている曲を視聴し、知識を広げる。 ③日本音楽の指導法の理解を深める。	口唱歌を唱えたり、和楽器を演奏する。	4時間
第7回	**音楽づくりの教材研究および指導法** ①日本語の音楽的特徴を理解し、リズムを活かして音楽づくりを行う。 ②日本語の音楽的特徴を理解し、旋律を活かして音楽づくりを行う。 ③西洋音楽のリズムや旋律を活かして音楽づくりを行う。	歌詞、リズム、旋律を工夫して音楽づくりをする。	4時間
第8回	**鑑賞の教材研究および指導法（デジタル教材の活用）** ①低学年の鑑賞教材の研究と指導法を理解する。 ②中学年の鑑賞教材の研究と指導法を理解する。 ③高学年の鑑賞教材の研究と指導法を理解する。	多様な音楽を視聴し、世界の音楽を知る。	4時間
第9回	**学習指導案の作成と評価方法** ①学習指導案の書き方について学ぶ。 ②教材研究と指導案の作成について理解を深める。 ③評価方法について、理解する。	様々な学習指導案のモデルを検討する。	4時間
第10回	**模擬授業（歌唱）および討論** グループで計画した歌唱の模擬授業及び討議会を行う。	様々な歌唱の指導例を検討する。	4時間
第11回	**模擬授業（器楽）および討論** グループで計画した器楽の模擬授業及び討議会を行う。	様々な器楽の指導例を検討する。	4時間
第12回	**模擬授業（音楽づくり）および討論** グループで計画した音楽づくりの模擬授業及び討議会を行う。	様々な音楽づくりの指導例を検討する。	4時間
第13回	**模擬授業（鑑賞）および討論** グループで計画した鑑賞の模擬授業及び討議会を行う。	様々な鑑賞の指導例を検討する。	4時間
第14回	**模擬授業についてのまとめ** ・歌唱の模擬授業及び討議会を行う。	修正指導案及びレポート作成を行う。	4時間

432

授業科目名	図画工作科指導法				
担当教員名	金崎晴美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校（助教諭）、国立大学附属小学校(図画工作専科 非常勤講師）、公立高等学校（美術科・工芸科 非常勤講師）での勤務経験。（全14回）				

授業概要

図画工作科は、自発的・自主的な表現及び鑑賞の活動を通してつくり出す喜びや価値を手にし、共有することのできる教科です。しかし、技法習得や作品制作に終始し、本来の目標を見落とした指導が行われている場合も少なくありません。本科目では、学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力の育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修します。併せて、児童の実態に応じた指導と支援を行うための学習指導案の作成・検討を通して、授業実践力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	図画工作指導に関する知識・技能	演習を通して、造形表現の魅力を理解し、材料や用具を適切に扱うことができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	図画工作の指導内容の理解と題材研究	学年や領域に応じて、資質・能力の育成を意識した授業を計画し、指導を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		様々な課題に積極的に関わり最後までやり遂げ、さらなる工夫や改善点を考えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		子ども理解を中心に多角的な視点から他者や異質なものへの理解ができる。
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		他者と協同して、多角的な視点から現代社会の教育課題に対応できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学習指導案と模擬授業	25 %	： 指導案の内容の妥当性と構成、授業の設定、準備、対応について評価します。
模擬授業参加と討議	25 %	： 模擬授業はすべて参加することが前提です。模擬授業と討議への参加、意見の内容について評価します。
作品・振り返りシート		： 内容の妥当性、意見の論理性、振り返りの綿密さについて評価します。

25　%

小テスト、期末試験(演習レポート)　：　基礎的な考え方や知識を修得できているかどうか、現状と課題について考察し解決するための自己の考えを述べられているかどうかを評価します。

25　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説 図画工作編	・日本文教出版	・2018　年

参考文献等

新しい教職教育講座教科教育編　図画工作科教育（ミネルヴァ書房、2019、ISBN-9784623082032）

小学校教科書「図画工作」 日本文教出版、開隆堂出版
ずがこうさく 1・2上（日本文教出版 、2019、ISBN-978-4536100281）
ずがこうさく 1・2下（日本文教出版 、2019、ISBN-978-4536100298）
図画工作 3・4上（日本文教出版 、2019、ISBN-978-4536100304）
図画工作 3・4下（日本文教出版 、2019、ISBN- 978-4536100311）
図画工作 ５・６上（日本文教出版 、2019、ISBN-978-4536100328）
図画工作 ５・６下（日本文教出版 、2019、ISBN-978-4536100335 ）
ずがこうさく 1・2上（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080876）
ずがこうさく 1・2下（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080883）
図画工作 3・4上（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080890）
図画工作 3・4下（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080906）
図画工作 5・6上（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080913）
図画工作 5・6下（開隆堂、2019、ISBN-978-4304080920）
その他の参考文献については授業中に紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本科目では、「図画工作科内容論」・「造形遊び」は既習と前提しているので、未習の場合は学習指導要領図画工作の内容を把握しておくこと。理解度の確認のため小テストを行う。
受講者のコースや受講人数により授業計画の内容を変更する場合がある。
模擬授業に向けた検討や準備は、授業の内外を問わずグループワークとして行うが、グループで時間調整の上、分担・協力して準備を進めるように心がけること。
材料や用具で各自の準備物がある場合は忘れず持参すること。
絵具など様々な材料・用具を扱い、体を動かす演習も行うので、活動に適した服装で、ぞうきん、タオルなど必要に応じて用意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業前後以外の方法は、授業でお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**図画工作科の目標と指導(講義目的・学習プランを含めて)** 自らの経験を振り返りながら、図画工作科の現状と教科目標との比較から課題を明らかにし、今後必要とされる指導と評価の方向について考えます。 学習指導案作成と模擬授業の実施に向けたグループワークの進め方について説明します。子どもの造形表現の発達段階に合わせた指導の必要性を学びます。	自らの経験を振り返り、領域・項目や材料・用具についてまとめる。学習指導要領解説等を参考に各学年の子どもの特徴を整理しておく。「造形的な視点」「創造」について考える。	4時間
第2回	**「絵に表す活動」の指導と評価** 「絵に表す」活動について、教科書の題材や実践例をもとに、導入の工夫について考え、育てたい資質・能力につなげる必要性を学びます。各題材の導入の工夫を考えて発表し合い、導入部分のミニ模擬授業を行います。指導と評価のポイントを整理します。学習指導案の基本的な約束について確認し、作成の準備をします。	絵に表す活動の目標と評価規準作成の例を元に題材の目標と評価規準を考える。その上で、指導計画を作成する。「本時の展開」について、導入～まとめの流れを具体的に考え、導入案を作成する。	4時間
第3回	**「立体に表す活動」の指導と評価** 「立体に表す」活動について、教科書の題材や実践例をもとに、導入の工夫について考え、育てたい資質・能力につなげる必要性を学びます。各題材の導入の工夫を考えて発表し合い、導入部分のミニ模擬授業を行います。指導と評価のポイントを整理します。学習指導案の基本的な約束について確認し、作成の準備をします。	立体に表す活動の目標と評価規準作成の例を元に題材の目標と評価規準を考える。その上で、指導計画を作成する。「本時の展開」について、導入～まとめの流れを具体的に考え、導入案を作成する。	4時間
第4回	**「工作に表す活動」の指導と評価**	工作に表す活動の目標と評価規準作成の例を元に題材の目標と評価規準を考える。その上で、指導計画を作成する。「本時の展開」について、導入～まとめの流れを具体的に考え、導入案を作成する。	4時間

	「工作に表す」活動について、教科書の題材や実践例をもとに、導入の工夫について考え、育てたい資質・能力につなげる必要性を学びます。各題材の導入の工夫を考えて発表し合い、導入部分のミニ模擬授業を行います。指導と評価のポイントを整理します。学習指導案の基本的な約束について確認し、作成の準備をします。		
第5回	**ICT機器の活用について、模擬授業について** ICT活用について情報手段の特性を理解し，指導の効果を高める方法について考えます。 グループ毎に模擬授業で取り扱う題材を選び、設定について検討を行います。全体交流を通して領域・内容を確認します。	授業におけるICT活用の具体例をあげてイメージを把握する。題材に応じた活用方法を考える。	4時間
第6回	**模擬授業準備　題材作品制作** 題材で扱う材料・用具を用いて試作します。児童・指導者の双方の立場からつくってみることで表現活動における児童のつまずきや指導上の留意点に気付き、必要な準備、学習の支援ができるようにします。学習指導案の「展開」に合わせた板書計画について考えます。	題材で扱う材料・用具を用いて試しながら作品例をつくる。模擬授業に向けて学習指導案の原案を作成する。	4時間
第7回	**学習指導案の作成と検討** 題材の目標や設定の理由について交流検討を行い、指導計画のたて方と「展開」を作成する上での基本事項や留意点を学び、グループワークで作成します。試作したことをもとに、予想される児童のつまずきと指導者の支援について考えます。作成した案について、無理なく目標に向かっているか、文言や形式は適切か等を検討し、グループ毎に模擬授業の準備や練習を行います。	グループ毎に模擬授業の準備や練習を行う。題材観・指導観に沿った指導計画を作成する。発問・板書、支援・評価について具体的に計画する。	4時間
第8回	**模擬授業と討議(1)　「絵に表す」低～中学年** 絵に表す活動についてグループごとに模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	グループ毎に模擬授業の準備や練習を行う。討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。	4時間
第9回	**模擬授業と討議(2)　「絵に表す」中～高学年** 前回の指摘を修正したうえで、絵に表す活動についてグループごとに模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書を中心に、意見交流を通して指導について学びます。	グループ毎に模擬授業の準備や練習を行う。討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。	4時間
第10回	**模擬授業と討議(3)　「立体に表す」低～中学年** 立体に表す活動についてグループごとに模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	グループ毎に模擬授業の準備や練習を行う。討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。	4時間
第11回	**模擬授業と討議(4)　「立体に表す」中～高学年** 前回の指摘を修正したうえで、立体に表す活動についてグループごとに模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	グループ毎に模擬授業の準備や練習を行う。討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。	4時間
第12回	**模擬授業と討議(5)　「工作に表す」低～中学年** 工作に表す活動についてグループごとの模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。討議内容を活用して、留意点や解決法をまとめる。	4時間
第13回	**模擬授業と討議(6)　「工作に表す」中～高学年** 前回の指摘を修正したうえで、工作に表す活動についてグループごとの模擬授業を行い、自己（自班）評価や相互評価をします。導入の工夫、発問や板書、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。討議内容を活用して、留意点や解決法をまとめる。講義と模擬授業を振り返り、不安な点や疑問点と自分なりの答えを準備する。	4時間
第14回	**「鑑賞する活動」の指導と評価** 完成した課題作品や模擬授業で作成した参考作品を相互鑑賞し、表現活動に付随した鑑賞活動を体験します。「鑑賞」を題材とした活動について実践例をもとに学び、指導と評価のポイントを整理します。「共通事項」について確認し、表現と鑑賞の関係について理解を深めます。模擬授業をふまえて、達成できた部分と課題について総括します。	鑑賞活動の目標と評価規準について考える。図画工作科の意義や価値について３つの柱と関連づけてまとめる。	4時間

432

授業科目名	**家庭科指導法**				
担当教員名	西江なお子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校及び教育大学附属小学校で教員として勤める。大阪市では教育研究会の家庭部で共同研究や研修会等の普及に当たり、附属小学校では家庭科部員として公開発表や共同執筆で家庭科研究に努めた。教頭経験が5年ある。（全14回担当）				

授業概要

①日常生活に関心をもち、科学的に課題解決する教科である。他教科との関連を生かし、家庭生活に視点を当てる授業を構築する力をつける。②小学校の家庭科では、子どもたちが日常生活を見つめ、工夫して生活をよりよくしようとする態度や実践力を育てることをねらいとしている。理論と実践を結び、両面から具体的指導法を構想することができる力を養う。③小学校学習指導要領　家庭に明記されている、小学校家庭科の意義や目標について理解し、指導力を身につける。④家庭科指導における、ICT等を活用した学習を工夫する力をつける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	家庭科の内容は、現実の生活と結びついているので、実社会の現象を把握して授業に生かす力をつける。	社会の変化や人々のニーズについての感性を磨く。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	授業の企画立案をする力を育成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	20 %	： 授業終了後のまとめのテストにおいて習熟度・理解度を確認し、評価する。
模擬授業	20 %	： 模擬授業の準備や実施への参加、振り返りを評価する。
ワークシート・指導案等の提出物	40 %	： ワークシート・指導案等の提出物の内容を評価する

授業への積極的参加度　：　建設的、意欲的な発表や討議への積極的な発言参加度を評価する。

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鳴海　多恵子　他	・わたしたちの家庭科　5.6年	・開隆堂	・2024　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　授業の方針及び学習の方法を知る。** オリエンテーション　授業の方針及び学習の方法を知る。	生活の中から課題を見つける。	4時間
第2回	**学習指導要領 家庭の目標と意義・育てたい力について学ぶ。** 家庭科で育てるべき能力を理解した上で、それを具体的に授業につなげる方法等について考えます。	生活の中から見つけた課題を整理する。	4時間
第3回	**学習指導要領　家庭　内容Ａ「家族・家庭生活」について理解する。** 家庭生活と家族に関する内容を整理し、学習活動へ展開していく方法を考えます。	家族・家庭生活について、現代の課題を見つける。	4時間
第4回	**内容Ｂ「衣食住の生活」について学ぶ** 衣食住に関する内容を整理し、学習活動へ展開していく方法を考えます。	衣生活・住生活について、現代の課題を見つける。	4時間
第5回	**小学校における「食育」の重要性について学ぶ** 食育に関する実践例をもとに、その重要性と、学習活動への展開方法を考えます。	現代の子どもの食について、討議する内容を整理しておく。	4時間
第6回	**内容Ｃ「消費生活・環境」の指導について学ぶ** 持続可能な社会について学び、家庭科で指導する内容を整理して学習活動へ展開していく方法を考えます。	持続可能な社会における、家庭科学習の意義について考える。	4時間
第7回	**製作学習における指導事項** 実習指導に係る方法や留意点を整理し、指導計画を作成、検討します	裁縫に関する、簡単な実習計画を考える。	4時間
第8回	**家庭科における言語活動の充実について学ぶ** 家庭科の特性に即した言語活動について、具体例を通して学び、効果的な指導方法を考えます。	家庭科における言語活動について整理しておく。	4時間
第9回	**家庭科の教材研究** 家庭科の学習指導案の構成や記述方法を理解し、試行的に指導案を作成してみます。	指導案を書く題材を考えておく	4時間
第10回	**学習指導案の作成（１）教材研究** 模擬授業に向けての学習指導案を作成する	模擬授業をする題材を選択しておく。	4時間
第11回	**学習指導案の作成（２）板書計画** 学習指導案に即して板書計画を作成して検討します。	題材にそって授業内容を考える。	4時間
第12回	**模擬授業と評価、意見交換をする①主に内容Aについて** 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、グループで検討会を行い、相互批評、省察を通して学びを深めます。	模擬授業の準備をする。	4時間
第13回	**模擬授業と評価、意見交換をする②主に内容Bについて** 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、グループで検討会を行い、相互批評、省察を通して学びを深めます。	模擬授業の準備をする。授業検討会を振り返る	4時間
第14回	**模擬授業と評価、意見交換をする③主に内容Cについて** 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、グループで検討会を行い、相互批評、省察を通して学びを深めます。	模擬授業の準備をする。授業検討会を振り返る	4時間

433

授業科目名	小中保健体育科指導法【2023年入学生～】／体育科指導法【～2022年入学生】				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

小学校体育実技種目は、陸上運動、器械運動、球技、表現ダンス、体つくり運動、水泳などがあげられる。中でも、器械運動は児童自身の運動体験の有無が技の習得に影響を与える傾向にある。本授業では、学習指導要領を読み解くとともに科学的根拠を基に各種目の指導案を作成し、技能習得のための「こつ」の理解と実践を行う。また、グランドで実践される種目では、効率のよい導線および安全効果的な指導内容が求められる。そこで、体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ、体育科内容論で修得した知識と技術を基に教材研究および指導案作成と指導実践を行い検証する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	小学校体育実技指導に関する幅広い知識の修得	学年や種目の特性を踏まえ教材研究や指導案の立案ができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		各種目・学年の特性に応じた模擬授業の課題を抽出しその改善案を作成できる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各種目・学年の特性に応じた実践可能な模擬授業ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

各人が作成した指導案をもとに模擬授業を行う。また、授業者以外の学生からの意見をコメントシートを基に収集し各人の模擬授業に関する課題を抽出し改善案を提出する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
担当種目の学習指導案の作成と提出	40 %	：①指示された型式にそって時系列に展開されているか②各種目の「こつ」と「めあて」が明確であるか③実践可能な指導内容であり導線も考慮されているか④動作分析などわかりやすく丁寧に図示されているか
指導案立案と模擬授業の技能面	40 %	：①作成された指導案を具現化できたか②声かけ、立ち位置、効果的に移動させているか③スキル修得のための「しかけ」が基本動作にかなって実践されているか
時間外学修レポート	20 %	：①指定された形式で提出期限を守れているか②文献図書を利用し丁寧になされているか②文献図書を利用し丁寧に記述されているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・『小学校学秀指導要領解説　体育編』	・東洋舘出版	・2018　年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版 2017年。
その他の参考文献に関しては、授業中に随時指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週月曜日の2限目

場所： 安部研究室（中央館２階）

備考・注意事項： 上記以外の時間帯を希望する場合は、時間調整をしますので声をかけて下さい。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価基準および学習プランについてオリエンテーション** ①座学と体育実技の違いと注意点 ②体育の領域改訂の意義と理解 ③児童の体力を把握する方法とその活用法	「運動の意義」について本時の内容を基にまとめる	4時間
第2回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（１）陸上運動・球技** 陸上競技（ハードル走・短距離走・リレー競争・幅跳び）およびバスケットボール・バレーボール種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育種目の内、球技種目に関する特性についてまとめる	4時間
第3回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（２）器械運動・マット・跳び箱運動** 器械運動・マット・跳び箱運動種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育の器械運動・マット運動・跳び箱運動の種目特性について予習する。特に、体を支える・引き付ける動作に着目しまとめる。	4時間
第4回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（３）水泳運動** 水泳運動種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育実技の水泳運動の種目特性について予習する。特に陸上運動と水中運動における生理学的応答の違いに着目する。	4時間
第5回	**導線と指導案作成について学び模擬授業の対象学年と指導種目、指導日程の決定する** グランド・体育館での体育科指導における導線の重要性とその課題を明確にした上で各担当の学年および種目の指導案の作成を行う。また、体育科指導法の指導案作成の際のポイントと注意点を解説する。	小学校指導要領（体育）を読み解き、指導案作成の意義についてまとめる	4時間
第6回	**学年別に見た「跳び箱」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第7回	**学年別に見た「マット運動」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第8回	**学年別に見た「鉄棒運動」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第9回	**学年別に見た「バレーボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第10回	**学年別に見た「バスケットボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第11回	**学年別に見た「ハードル走」の模擬授業**	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間

	立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。		
第12回	**学年別に見た「幅跳び」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第13回	**学年別に見た「短距離・リレー」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第14回	**各種目模擬授業の検証と質疑応答** 各自の体験学習を総括し指導案の最終作成を行うとともに、小学校体育科指導の10のポイントについて解説する。キーワード：怪我予防	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間

433

授業科目名	**外国語（英語）科指導法**				
担当教員名	石田雅子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪・奈良・京都・三重の小・中・高等学校の英語科教員として通算22年間勤務し、英語教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験あり。（全14回）				

授業概要

小学校外国語の目標および内容についての理解を踏まえて、特に小学校高学年の発達段階を考慮した外国語の指導法を学ぶ。次に外国語（英語）科内容論での指導内容の学修および授業づくりの基本を踏まえ、指導案作成、授業実施ができる力量を高める。その際には、各指導過程のねらいを理解し、ねらいに応じた活動例をワークショップ形式で学んでいく。また、教科を横断した指導について学び、外国語と他教科とどのように連携できるのかを考える。最後にグループでの模擬授業を通して外国語の指導を行うための技能を高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	小学校外国語教育（外国語活動含）について、学習指導要領で示されている目標や方針を理解するとともに、発達段階や言語習得理論などの理論的基盤について理解する。	小学校外国語教育（外国語活動含）において指導する際に、指導の技術を身に付け、自身で振り返り、改善することができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		小学校外国語教育（「外国語」「外国語活動」）をめぐる理論的知見をふまえ、授業を構想する力および実践的な指導力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	20 %	： 毎回の授業に真摯に取り組み、積極的に発言し、仲間と協力して活動できているか、自身でまとめノートを整理できているかを総合的に評価する。（20点）
授業後のレポート、授業内課題、ミニテスト	30 %	： 授業内課題（10点）およびミニテスト（10点）で新しく得た知識を踏まえて課題に取り組めたかを評価する。各授業での振り返り（10点）や、外国語に関する理論を理解し、指導に活かせているかを評価する。

最終発表	:	模擬授業において、小学校英語と他教科と連携した授業を行う視点と、ティーチングスキルをどれだけ身につけられたかを評価する。（30点）
30 ％		
最終レポート	:	模擬授業の指導案作成、振り返り、課題をまとめたレポートを課す。指導案がわかりやすく丁寧に書かれているか、自身の模擬授業の反省から改善点を客観的に省察できているかを評価する。（20点）
20 ％		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
柏木賀津子・伊藤由紀子	・小・中学校で取り組む　はじめてのCLIL授業づくり	・大修館書店　978-4469246384	・2020　年
文部科学省（内容論より継続して使用）	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編	・開隆堂　978-4304051685	・2018　年
アレン玉井光江ほか（内容論より継続して使用）	・NEW HORIZON Elementary 6	・東京書籍	・2020　年

参考文献等

※「NEW HORIZON Elementary 6」は内容論で購入したものを引き続き使用します。

・「小学校外国語科・外国語活動の授業づくり」赤沢真世　教育出版　2021年。ISBN978-4-316-80496-5

・「とっておき！魅せる！英語授業プラン　思考プロセスを重視するCLILの実践」柏木賀津子・伊藤由紀子　明治図書　2020年。SBN978-4-183-87713-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業ではノートを準備し、学んだことを整理しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜4限

場所：　伊藤研究室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
（石田）授業の前後に対応します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、外国語活動・外国語における課題と教材の意義、学習指導要領での目標および内容** 本授業について。 小学校外国語教育（「外国語活動」「外国語」）において現場で課題となっていることについて考える。 学習指導要領での目標や内容、中学校・高等学校に繋げていくための指導の流れを整理する。 コミュニケーション活動を行う。	小学校外国語教育の課題について整理する。	4時間
第2回	**活動・指導方法（1）チャンツ、歌、絵本指導、フォニックス** 内容論で学んだ音韻意識活動、フォニックスについて再確認し、英語絵本を使用した指導の意義、効果、活用方法について考える。 音声から文字への段階的指導のありかたについて学ぶ。 小学校外国語教育における「読むこと」「書くこと」の指導の目的について再確認する。 さらに、文字指導が中学校へどのように繋がっていくのかを学ぶ。	音声指導、音と文字の指導についての振り返りをする。	4時間
第3回	**活動・指導方法（2）ゲーム・アクティビティの指導** 目的に応じたアクティビティとはどのようなものかを考え、実際に教室でよく行われているゲーム・アクティビティを体験する。 オリジナルで効果的なアクティビティを考える。 バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーションについて考える。	目的に応じたアクティビティを考える。	4時間
第4回	**デジタル教材・ICT教材を活用した授業　検定教科書指導体験発表の準備** グループで、それぞれが考えてきたアクティビティを実際に体験する。 外国語教育に欠かせないICT教材、デジタル教科書のさまざまな使用例を学ぶ。 グループで、実際に検定教科書を使った指導を考え、教材を作成する。	検定教科書を使った指導の内容を考える。	4時間
第5回	**検定教科書指導体験発表会検討会、指導の振り返り** グループで、検定教科書を使った指導を体験する。 発表後は検討会を実施し、実際に教室で行った時に気を付けるべき点や 動き、工夫について話し合う。自己評価、相互評価。	指導体験の振り返りをする。	4時間
第6回	**新しい指導：タスク・パフォーマンス課題、異文化理解**	CLIL指導についてまとめる	4時間

	外国語と他教科を連携させた授業および具体的な活動例を知る。 CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）の指導を体験し、その学びについて考える。 教室での指導と異文化をどのように繋いだらよいか、視点を広げる意義を知る。		
第7回	**小中連携からみた小学校での指導内容の再検討、クラスルームイングリッシュ、ミニテスト** パフォーマンス評価について。 小中連携を念頭に置いた小学校での指導とはどのようなものかを考える。 ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）やSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の視点を持って外国語教育を行う意義や方法について考える。 テキストのレッスンについて、その目的や指導の方法を知る。 クラスルームイングリッシュ、ミニテスト	テキストのレッスンを復習する。	4時間
第8回	**指導案作成・模擬授業検討会（1）課題設定・教材** 英語と他教科を連携させた模擬授業を行うため、グループで課題設定をする。 目的に応じた活動展開にするための指導の流れや具体的な教材を考える。	模擬授業の課題設定、教材案を作成する。	4時間
第9回	**指導案作成・模擬授業検討会（2）授業の展開、TTによる展開** 英語と他教科を連携させた模擬授業を行うため、グループで設定した課題を達成するための 効果的な指導案作り、教材作りに取り組む。	指導案、教材作りに取り組む。	4時間
第10回	**指導案作成・模擬授業（1）中間まとめ・これまでの振り返り** これまでの講義内容を整理する。 英語と他教科を連携させたグループでの模擬授業を行う。 模擬授業後には、各グループおよび全体で良かった点や改善点について討議する。	模擬授業の振り返りを行い、指導案を改善する。	4時間
第11回	**指導案作成・模擬授業（2）多様な学力差に対応する指導** 英語と他教科を連携させたグループでの模擬授業を行う。 模擬授業後には、各グループおよび全体で良かった点や改善点について討議する。 多様な学力差に対応する指導について考える。	模擬授業の振り返りを行い、指導案を改善する。	4時間
第12回	**指導案作成・模擬授業（3）小中連携を考える** 英語と他教科を連携させたグループでの模擬授業を行う。 模擬授業後には、各グループおよび全体で良かった点や改善点について討議する。 小中連携について考える。	模擬授業の振り返りを行い、指導案を改善する	4時間
第13回	**指導案作成・模擬授業（4）指導と評価の一体化** 英語と他教科を連携させたグループでの模擬授業を行う。 模擬授業後には、各グループおよび全体で良かった点や改善点について討議する。 指導と評価の一体化について考える。	模擬授業の振り返りを行い、指導案を改善する。	4時間
第14回	**子どもを活かすクラスマネジメント、まとめ** 授業全体のまとめ、振り返りをする。 子どもを活かすクラスマネジメントについて考える。 最終レポート（指導案作成および授業の振り返り、今後の展望等）についての説明。	授業を振り返り、最終レポートを作成する。	4時間

432

授業科目名	生徒・進路指導論【2023年入学生～】／生徒・進路指導論（初等）【～2022年入学生】				
担当教員名	中野澄				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。（全14回）				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	望ましい生徒指導・進路指導のあり方へ の理解を深め，教育現場での実践に活か すことができるようにする。	生徒指導・進路指導に関する知識・技 能を身につけている。教育現場におけ る生徒指導・教育相談の役割と重要 性を理解している。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教職に携わることを目指す者として必要な常識や生徒・保護者への姿勢等を生徒指導面から確認し、より充実させるよう努める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度	35 %	： 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。
授業内課題	40 %	： ノート及びワークシートの内容を点検し、授業内課題の達成率について評価する。
期末レポート	25 %	： 生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　『生徒指導提要』　令和４年１2月改訂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室または教室（授業時間の前後）

備考・注意事項：　特に前回授業を欠席した場合は、翌週の授業までに必ず研究室に資料等を取りに来て、指示を受けること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 生徒指導及び進路指導について、基礎的な知識及び考え方について知る。また、シラバスを活用して、授業の進め方や準備物、評価の観点等について理解する。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理して おく。	4時間
第2回	**教育課程における生徒指導の位置づけ及び生徒指導体制・教育相談体制の違いについて** 学校教育において、生徒指導が何を目的としてどのように位置づけられるべきかを理解する。その上で、生徒指導体制と教育相談体制の具体例を示し、目的や構成員の違いについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何が生徒指導とし て行われていたか考えてみる。	4時間
第3回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（1）各教科・道徳教育における生徒指導のあり方と進め方** 各教科・道徳教育における生徒指導のあり方について探求することで、日常的な教育活動の中で生徒指導の機能がどのようにいかされるべきかを理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第4回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（2）総合的な学習の時間における生徒指導のあり方と進め方** 総合的な学習の時間において、「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、児童生徒の自主性をいかす生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第5回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（3）特別活動における生徒指導のあり方と進め方** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第6回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（1）家庭・地域・関係機関と連携した対応の重要性と進め方** いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発生件数の全国的な状況を理解するとともに、具体的な事案も取り上げながら、児童生徒の最善の利益のための家庭・地域・関係機関との連携の必要性を理解し、具体的な進め方を考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、教育実習校に関連する関係機関の場所を調べる。	4時間
第7回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（2）教員と専門職との日常的な連携の目的や進め方** 今後、さらに進むであろうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充を意識し、教員と専門職との連携の重要性について、具体的な事案も取り上げながら理解する。アwせて、専門職の特性をいかした教育相談体制のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、専門職の資格や役割についてさらに調べる。	4時間
第8回	**実践事例研究（1）いじめへの対応、「学校いじめ防止基本方針」の目的・内容の理解** 実際の「学校いじめ防止基本方針」を収集しその内容を比較しながら、いじめの対応に関する基本的な考え方、専門職の活用、関係機関との連携のあり方について理解し、その内容をまとめる。グループワークを行う。	「学校いじめ防止基本方針」の事例を収集し、学修内容を踏まえて、内容の読み込む。	4時間
第9回	**実践事例研究（2）不登校への対応、集団指導と個別支援の方法原理** 国の動向も踏まえつつ、不登校対策を3つの視点に分けて、個別指導と集団指導の重なりの具体策や個別指導に必要な視点について理解する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、様々な自治体や学校におけるチーム学校の構成員を調べる。	4時間
第10回	**実践事例研究（3）暴力行為及び今日的な課題への対応、生徒指導に関する法令内容の理解** 生徒指導に関する法令を知り、それが学校現場ではどのように反映されるのかについて、暴力行為や児童虐待、ネット上のトラブル等の対応事例をもとに考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、体罰に関する報道等を調べまとめる。	4時間
第11回	**キャリア教育・進路指導の理論と進め方** 学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位 置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を目指して実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導として行われていたか考えてみる。	4時間

第12回	**職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義** 学校が地域と連携して取り組む体験活動の事例をもとに、事前事後学習の方法について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のHP等から職業体験に関する事例を収集する。	4時間
第13回	**ガイダンス機能を生かしたキャリア教育、キャリアカウンセリングの考え方** 進路指導・キャリア教育の方法として、全生徒を対象としたガイダンスとしての指導のあり方を理解する。進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。	4時間
第14回	**キャリアカウンセリングの方法、まとめ　―理論と実践の統合を図るために** 進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導を具体的に考える。これまでの学修内容を振り返り，望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレ ポートする。定期試験にむけて１４回の授 業全体から学んだことを復習する。	4時間

433

授業科目名	学校教育相談【2023年入学生～】／学校教育相談（初等）【～2022年入学生】				
担当教員名	房村利香				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床心理士・公認心理師として公立小学校・中学校・高等学校のスクールカウンセラーを経験。【全14回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は、前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校教育相談に関して、今日的な課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内テスト	10 %	：	授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題ワークシート	60 %	：	授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	20 %	：	授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価する。
定期試験（レポート）		：	授業で示された課題についてレポートし、指定された期間内に提出する。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編・中級編」　図書文化　2013年

他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育相談の基礎とオリエンテーション** 教育相談の定義、領域と内容　歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	シラバスを読む。教育相談の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**発達と学習についての理解と対応(1)** 幼児期までの発達と学習について理解を深め、ワークを通して子どもへの対応を身に着けます。	前時の復習と本時の予習。発達に関するレポート作成	4時間
第3回	**発達と学習についての理解と対応(2)** 児童期、思春期までの発達と学習について理解を深め、ワークを通して子どもへの対応を身に着けます。	前時の復習と本時の予習。発達に関するレポートの作成	4時間
第4回	**集団対象の教育相談（1）ー自他理解をテーマとするグループワークー** 自他理解をテーマとするエクササイズを体験します。グループワークを通して、対話を深めます。	前時の復習と本時の予習。授業体験レポートの作成	4時間
第5回	**集団対象の教育相談（2）ー自己受容を深めるグループワークー** 自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。グループワークを通して、対話を深めます。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第6回	**集団対象の教育相談（3）ーソーシャルスキル教育** 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学び、その発展形であるSELについても触れます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第7回	**個別面接の基本（１）ー非言語的側面ー** 個別面接を始める際のポイントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	**個別面接の基本（２）ー面接を始める際のポイントー** 個別面接を始める際のポイントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	**個別面接の基本（３）ー面接を進め、終結に至るー** 個人面接を進め、終結に至るプロセスを学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第10回	**個別面接の基本（4）ー模擬面接** 個別面接の基本として学んだ事項を模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第11回	**いじめや不登校、反社会的行動についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	**障害のある子どもの理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	**キャリア教育とキャリアカウンセリング** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第14回	**教育相談の現状と展望** チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

432

授業科目名	**保育教育課程論（幼稚園）**				
担当教員名	園田育代				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立、公立幼稚園にて教諭、主幹教諭として20年間勤務				

授業概要

本授業は、国内外の保育における計画と評価の理論と実際について学び、質の向上という観点から保育の課程を動態的に理解することをねらいとする。教育課程の編成および計画と評価の意義、種類、留意事項などに関し、保育の特性を踏まえて基本的な考え方を学びながら、幼稚園や保育所等での実際例の分析や指導計画案の作成を行い、具体的な理解を深める。これらをふまえ、計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造を動態的に理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保育の計画と評価の基礎知識	保育の計画と評価の意義、保育・教育課程の編成と指導計画の作成、計画－実践－省察・評価－改善の過程について理解し、説明することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		保育者を目指す自覚を持ち、主体的、継続的に課題に取り組むことができる
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育の動向を知り、課題への対応を工夫することができる
3. DP７.忠恕の心		他者の考えを尊重しながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30 %	： 各回１～２点で評価し、合計28点満点とする。必要事項が全て書き込まれていれば2点、記入に部分的不足があれば1点とする
保育指導計画案の作成	15 %	： 留意点を全て網羅していれば15点満点とする
授業への積極的参加・貢献	15 %	： 事前ワークの提出と内容、交流への積極的参加と発表、質問に対する積極的・適切な答えを総合して評価する
期末レポート課題	40 %	： 授業内容を踏まえながら、自分なりの考えを理論的かつ具体的に述べられているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年
文部科学省（著）	・ 幼稚園教育要領解説	・ フレーベル館	・ 2018　年
厚生労働省（編）	・ 保育所保育指針解説	・ フレーベル館	・ 2018　年

参考文献等

佐藤哲也(編)『(子どもの心によりそう)保育・教育課程論』〔改訂版〕(福村出版,2018,ISBN978-4571116094)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で伝達します

場所： 初回授業で伝達します

備考・注意事項： e-mail:
【園田】sonoda-i@osaka-seikei.ac.jp
質問には、所属コース、学年、学籍番号、氏名を必ず記載すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：本授業の目標・内容・評価、保育実践と計画** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。また、DVD「幼稚園教諭の仕事と役割」を視聴し、保育実践の背後にある計画について考える。	授業前ワーク：シラバスを読み、授業概略を理解する。キーワード：保育の計画	4時間
第２回	**カリキュラムの基礎理論** 「カリキュラム」の意味と類型、保育における計画の種類など、カリキュラムに関する基礎理論について学ぶ。	授業前ワークに取り組む。キーワード：カリキュラム　保育の計画	4時間
第３回	**カリキュラムの意義と役割** 保育カリキュラムや教育課程の意義、および社会において果たしている役割や機能について、諸外国との比較を通して学ぶ。	授業前ワークに取り組む。キーワード：カリキュラムの社会的役割	4時間
第４回	**幼稚園教育要領・保育所保育指針等の位置付けと変遷** 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置付け、変遷（改訂・改定）の過程と内容及び社会的背景について学ぶ。	授業前ワークに取り組む：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	4時間
第５回	**幼稚園教育要領・保育所保育指針等における保育の計画** 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「保育の計画」に関する記述を比較し、教育課程編成の原理や保育の計画作成の基本を学ぶ。	授業前ワークに取り組む。キーワード：教育課程の編成、保育の計画作成	4時間
第６回	**カリキュラムの評価と、カリキュラム・マネジメントの意義** カリキュラム評価の基礎的な考え方を学び、保育の質の向上という視点から、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。	授業前ワークに取り組む。キーワード：評価、カリキュラム・マネジメント	4時間
第７回	**アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラム** 保幼小連携・接続の観点から、アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラムについて学ぶ。合わせて、幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録についても学ぶ。	授業前ワークに取り組む。キーワード：保幼小連携・接続	4時間
第８回	**指導計画の作成（1）子どもの発達過程と、領域間のつながり** 指導計画の作成に必要となる、子どもの発達過程と、領域間のつながりについて理解を深める。	授業前ワークに取り組む。キーワード：発達過程、領域、ねらい・内容	4時間
第９回	**指導計画の作成（2）長期の指導計画と短期の指導計画** 長期の指導計画と短期の指導計画の作成方法について、具体的に学ぶ。	授業前ワークに取り組む。キーワード：年間指導計画、期間指導計画、月間指導計画、週間指導計画、日の指導計画	4時間
第10回	**指導計画の作成（3）指導計画案の作成** 子どもや地域の実態を踏まえた指導計画について、事例を通して理解を深める。それを踏まえ、自分で指導計画案を作成する。	授業前ワーク：指導計画の作成方法について予習する	4時間

第11回	**指導計画の作成（4）指導計画案の見直し** 作成した指導計画案についてグループで交流し、出された意見をもとに修正する。	授業前ワーク：前回の学びを踏まえ、指導計画を作成する	4時間
第12回	**指導計画の作成（5）指導計画案の発表** 修正した指導計画案についてグループで交流し、代表者を選ぶ。代表者は全体の前で発表する。	授業前ワーク：修正指導案を完成させる	4時間
第13回	**さまざまな保育の計画** 個別の指導計画や預かり保育の計画、食育計画など、さまざまな保育の計画について具体的に学ぶ。合わせて、指導計画案のさまざまな様式についても、理解を深める。	授業前ワークに取り組む。キーワード：保育の計画、指導計画案の様式	4時間
第14回	**学修のまとめ** 指導計画案作成の体験を踏まえ、計画、実践、評価、改善の過程と保育の質の向上について、改めて考える。	授業前ワーク：指導計画案の作成から学んだことをまとめる	4時間

432

授業科目名	**保育内容総論**				
担当教員名	高木玉江				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立保育園保育士として勤務、私立保育園での保育士と相談員としての経験を有する。自治体での幼稚園、保育園、幼保連携型認定こども園の巡回相談と障害児の認定調査員・障害児の受給者証認定調査員の経験も有する。自治体の乳児検診での発達相談員の経験も有する。（14回）				

授業概要

本授業は、幼稚園及び保育所における保育を構造的・総合的にとらえ、具体的な保育実践とのつながりにおいて保育内容を理解することをねらいとする。
「子どもの発達」を踏まえた上で「保育の目標」「保育の内容」を関連づけて理解し、保育の全体的な構造を理解する。
幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領それぞれの各章の関連性を読み取り、また保育内容の歴史的変遷の学習からも理解を深め保育内容を理解する。
その上で、保育に必要な観察・記録の視点を習得し、発達に即した子ども理解と保育内容の展開について、実践と結びつけて学習する。事例研究や模擬保育などを適宜実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育内容の総合的理解	保育を構造的・総合的にとらえ、具体的な保育実践とのつながりにおいて保育内容を理解することができる。
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	「子どもの発達」を理解し、「保育の目標」「保育の内容」を関連づける	子どもの発達段階の理解し、年齢ごとの保育内容の違いを理解する
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		グループワーク等の中で互いの学びを深め合い、自らの課題を発見することができる。
2. DP７.忠恕の心		グループワークに積極的に参加し、意見を交換することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループワークや、発表を聞くことで、他者への理解を深める

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

毎回の講義前までに予習をしてください。授業終了後には、レポートの提出や課題の作成を行って下さい。また、グループ討議や演習には積極的に参加して、人とのやり取りを通じて「主体的で対話的な深い学び」をしていきましょう。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題 28 %	:	各回2点×14回。授業外学修をもとに、必要事項がすべて書き込まれている：2点、記入に部分的不足がある：1点。特に優れている場合、+1～2点とする。
模擬保育・実践発表	:	遊びの指導案を作成し、自己紹介の模擬保育を行う。遊びの構成：5点満点（工夫、丁寧さ）、指導案：5点満点（ねらいと内容の適切さ、発達への配慮、展開）、模擬保育：10点満点（表情、話し

方、内容）で評価する。

20　%

定期試験(学期末)　:　幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容と相互の関連性を理解し、保育の営みを構造的・総合的にとらえることができているかどうかを問う。

52　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編者	・ 保育実践につなぐ「保育内容総論」	・ みらい出版	・ 2021　年
田中真介,乳幼児保育研究会	・「発達がわかれば子どもが見える」	・ ぎょうせい	・ 2009　年

参考文献等

・『幼稚園教育要領解説』文部科学省（2018年）フレーベル館 ISBN-9784577814475
・『保育所保育指針解説』厚生労働省編（2018年）フレーベル館 ISBN-457781448X
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学　ISBN-4577814498
・子どもの発達の連続性を支える保育の心理学（2019）　浅井拓久也　編著,教育情報出版,ISBN-9784909378736

・『子どもの発達と診断』（全５巻）（1981-1984）田中昌人・田中杉恵　大月出版,
ISBN-第1巻4272400118, 第2巻4272400126　第3巻4272400134,　第4巻4272400142, 第5巻4272400150,

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回の授業で通知します

場所：　研究室

備考・注意事項：　質問先：takagi-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学部(教育学部以外)・学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れること

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション －本授業の目標・内容・評価等について／保育内容と保育の基本** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。保育内容と保育の基本について既習内容を確認し、保育の全体を俯瞰的にとらえる。「保育内容総論」を学ぶ基本的な考え　-幼少期の思いでをイメージマップ作成から考えよう-	第1章「ワークで学ぶ保育内容はじめの一歩」を読む	4時間
第2回	**保育内容の歴史的変遷と社会的背景** 近代以降の日本における保育内容及び保育方法の歴史的変遷について学ぶ。	第14章「保育内容の歴史的変遷」を読む	4時間
第3回	**発達と保育内容（１）　子どもの発達の特性と保育内容** 子どもの発達の特性を学び、保育内容とのつながりを理解する。 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等における等における保育内容のとらえ方、子ども理解と評価の考え方	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等における保育内容のとらえ方を読む。	4時間
第4回	**発達と保育内容（２）　個と集団の育ちを支える保育** 子どもの発達を「個」と「集団」の視点からとらえ、クラス経営の基本を理解する。	「各年齢の保育内容」を読み、ワークに取り組む。	4時間
第5回	**保育における観察と記録：指導計画の作成の理解** 保育における観察の視点と記録の方法を学び、子ども理解に基づく指導計画案の作成について理解する。	「保育内容を実践するための保育計画と評価」を読み、ワークに取り組む。	4時間
第6回	**保育の基本（１）　養護と教育が一体的に展開する保育** 「保育」という言葉の意味を再考し、養護と教育が一体的に展開する保育について、具体的に学ぶ。 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から保育内容を学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	「3・4・5歳児の保育内容」を読み、模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第7回	**保育の基本（２）　環境を通して行う保育** 子どもの主体的な活動が展開されるための環境構成と情報機器の活用法について、具体的に学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	第8章「環境を通して行う保育」を読み、模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第8回	**保育の基本（３）　遊びによる総合的な保育：遊びや生活を通して学ぶということ**	「生活や遊びを通して学ぶということ」を読み、ワークに取り組む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間

	子どもの遊びの重要性と5領域とのつながり、遊びの指導方法について、具体的に学ぶ。遊びと生活との関係について考える。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。		
第9回	**保育の基本（4）　子どもの主体性を尊重する保育** 子どもの発達を広い視野かつ長い目でとらえることの重要性を理解し、主体的な活動としての遊びや子どもの主体性がはぐくまれる環境について学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	「小学校との連携と保育内容」を読み、ワークに取り組む。模擬保育と指導案を作成する。	4時間
第10回	**保育の基本（5）　家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育** 園と家庭、地域、小学校との連携の必要性と方法について、具体的に理解する。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	「子育て支援と保育内容、地域との連携をふまえた保育」第11章「小学校への接続をふまえた保育」を読む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第11回	**保育の多様な展開（1）　乳児保育、安心安全に関する保育内容** 乳児保育（3歳未満児保育）の需要が増大している現状を踏まえ、3歳未満児の特性と必要な配慮について具体的に学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	資料を読み、ワークに取り組む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第12回	**保育の多様な展開（2）　長時間保育** ライフスタイルの変化を踏まえ、長時間保育をはじめとする保育の現代的な課題について学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	第12章「保育の多様な展開」の①「長時間保育」を読み、ワークに取り組む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第13回	**保育の多様な展開（3）　特別な支援を必要とする子どもの保育** 特別な支援や配慮を必要とする子どもの保育について、「インクルーシブ保育」の視点から学ぶ。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	「特別な配慮を要する子どもの保育」について調べる。ワークに取り組む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間
第14回	**保育の多様な展開（4）　多文化共生の保育** グローバル化が進む社会状況を踏まえ、多文化共生の視点から保育のあり方を考える。多文化共生保育への具体的手だてについて学び、考察する。 授業の後半では、模擬保育に取り組む。	「多文化共生の保育」とはどのような保育か調べ、ワークに取り組む。模擬保育のための教材と指導案を作成する。	4時間

432

授業科目名	**領域（健康）**				
担当教員名	可児勇樹				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育士として保育園に勤務。（全14回）				

授業概要

乳幼児期の体・心・社会性の発育発達について理解し、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身に付けることが大切であることを学習する。特に、運動遊びが心身の健全な発育・発達に大きな影響を及ぼすことを生理学的に理解し、年齢に応じた運動遊びを「幼児期の運動指針」に基づき理解する。また、幼児期の運動能力・身体活動量に応じた運動遊びの分類、幼児期運動指針を用いたグループ討論（アクティブラーニング）を実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	乳幼児期の健康について理解する。	乳幼児期の運動遊びを深く理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		現代の子どもを取り巻く生活環境と健康課題について深く理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 子どもの健康について理解しているか。
授業中の課題提出	40 %	： 指導者の提示したテーマに対して丁寧に作成されているか。
授業への取り組みに対する意欲と態度	20 %	：

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三村寛一・安部惠子編	・ 新・保育と健康	・ 嵯峨野書院	・ 2014 年

参考文献等

『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』　チャイルド本社、ISBN9874805402580、2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 後日伝達

備考・注意事項： kani@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・健康の定義** シラバスを基に授業の概要と１４回の授業の計画を理解し、健康の定義について学習する。	健康について予習する。	4時間
第2回	**保育における「健康」とは？** 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」を基に保育の基本や内容について学習する。	領域「健康」について予習する。	4時間
第3回	**乳幼児期の体格と生理機能の発達** 幼児期の体格、骨、歯、脳の発達について学習する。	乳幼児期の身体発育発達について予習する。	4時間
第4回	**乳幼児期の心の発達** 精神的発達、知的能力の発達、社会性の発達について学習する。	心の発達について予習する。	4時間
第5回	**乳幼児期の生活習慣の現状** 現代の生活のスタイルの乱れや問題点について学習する。	乳幼児期の生活習慣について予習する。	4時間
第6回	**乳幼児期の運動機能の発達** 乳幼児期の運動機能、運動能力の発達について学習する。	乳幼児期の運動機能の発達について予習する。	4時間
第7回	**幼児期の遊びの発達** 遊びの発達過程を学習する。	幼児期の遊びについて予習する。	4時間
第8回	**幼児期の体格・運動能力の現状と課題** 体格、運動能力の年代変化から現状と課題について学習する。	体格、運動能力の課題について予習する。	4時間
第9回	**事例を用いたグループ討論（１）運動能力、身体活動量** 運動能力、身体活動量について４～５人のグループで討論し、その結果を代表が発表する。	運動能力、身体活動量について予習する。	4時間
第10回	**幼児期の運動指針について** 文部科学省から示された幼児期運動指針について学習する。	幼児期運動指針について予習する。	4時間
第11回	**事例を用いたグループ討論（２）幼児期運動指針** 幼児期運動指針について、４～５人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	幼児の身体活動における課題を予習する。	4時間
第12回	**事例を用いたグループ討論（３）運動遊び** 運動遊びについて、４～５人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	年齢別の運動あそびについて予習する。	4時間
第13回	**安全教育と事故予防** 園内における事故と傷害、応急処置、安全教育について予習する。	乳幼児のケガについて予習する。	4時間
第14回	**運動体験を広げる行事と小学校の生活や学習で活かされる力について** 運動会、水遊びなど園内での健康教育について学習する。幼児期に育まれた健康なこころとからだはその後の成長にも影響を与えることについて学習する。	園内の行事とその後の影響について予習する。	4時間

432

授業科目名	**領域（人間関係）**				
担当教員名	山内淳子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回）				

授業概要

本授業は、保育内容における領域「人間関係」の位置づけ、領域相互の関連性・全体構造、領域「人間関係」のねらいと内容を理解することを目指す。また、人と関わる力が幼児期の遊びと生活の中でいかに育まれていくか、そのありようや、幼児期の人と関わる力の発達の過程、それを援助する保育者の役割について、具体的イメージをもって理解できるようになることを目指すものであり、そのため、できる限り実践事例を取り上げていく。また、幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題についても検討し、理解を深めることが望まれる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	領域「人間関係」に関わる専門的事項の理解	領域「人間関係」のねらいと内容、幼児期の人と関わる力の発達、その発達を援助する保育者の役割について具体的に理解する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		事例に登場する幼児の立場に立って、それぞれの幼児の思いを想像し、保育者に望まれる対応を考える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内活動への参加状況	10 %	： ペアワーク、グループワーク等、授業内活動への参加状況を評価します。積極的参加、他者への配慮、表現方法の工夫等を高く評価します。
小レポート・復習問題	30 %	： 小レポートは、学習ポイントを複数網羅して記述、1つの学習ポイントを掘り下げ具体的に記述、発展的意見の記述、自分の言葉での語り直し、他のレポートには見られない独自な優れた記述等を高く評価します。復習問題は、取り組み状況を評価します。
期末レポート	60 %	： 授業内容の理解度を評価します。評価基準について詳しくは、期末レポートに関する事前説明の際にお伝えします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省 厚生労働省 内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	・チャイルド本社	・2017　年

参考文献等

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 2018年　ISBN 978-4577814475
厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館 2018年　ISBN 978-4577814482
内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814499

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業の際にお伝えします

場所：　初回授業の際にお伝えします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／領域「人間関係」のねらいと内容** 保育内容における領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。領域「人間関係」のねらいと内容について学ぶ。	「保育所保育指針解説」と「幼稚園教育要領解説」の領域「人間関係」に関わる部分を熟読する。	4時間
第2回	**現代社会と幼児の人間関係** 幼児の日々の生活や幼児同士の遊びのなかで人と関わる力が育まれていくことについて学ぶ。	現代社会において、幼児に人と関わる力が育まれる場面としてどのような遊びや生活の場面が考えられるか、これまでの体験を振り返り記述する。	4時間
第3回	**身近な人との関わりと発達　－家庭～園生活～地域への広がり－** 家庭、園、地域等における人との関わりのなかで育つ乳幼児の姿を思い浮かべながら、望ましい人間関係のあり方を考える。また、人間関係の広がりと深まりを期待した園行事とそこにおける子どもの育ちについて考える。	自らの幼児期を振り返り、心に残っている人との関わり（エピソード）について記述する。	4時間
第4回	**保育者に求められる人間関係** 保育者の見方や関わり方が幼児の人との関わりに影響を与えていくことを、発達のドーナッツ理論等から学ぶ。	自分が幼稚園や保育所に通っていた頃を思い出し、保育者との関わりのなかで嬉しかったことを記述する。	4時間
第5回	**仲間との関わりと発達　－個と集団の育ちを視点として－** 実際の遊びの映像教材等を視聴し、遊びの事例から個と集団の育ちについて学ぶ。幼児期の各年齢における集団の意味について学ぶ。	これまでの保育体験を振り返り、幼児期の各年齢における集団の意味について考え記述する。	4時間
第6回	**遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割　Ⅰ　－イメージの共有－** 実際の遊びの映像教材等を視聴し、幼児がどのようにイメージを共有して遊ぶのか、また、そのための保育者の工夫や配慮について学ぶ。	幼児がイメージを共有して遊ぶために保育者はどのような工夫ができるか、映像教材やこれまでの保育所、幼稚園等での体験をもとに考え記述する。	4時間
第7回	**遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割　Ⅱ　－試行錯誤の過程－** 実際の遊びの映像教材等を視聴し、幼児が遊びの中でどのように試行錯誤を繰り返すのか、また、試行錯誤を繰り返すことで育まれるもの、さらに、その育ちをより豊かにするための保育者の関わりについて学ぶ。	幼児がのびのびと試行錯誤を繰り返すことを可能にする条件を、映像教材やこれまでの保育所、幼稚園等での体験をもとに考え記述する。	4時間
第8回	**遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割　Ⅲ　－自己主張・葛藤・育ち合い－** 実際の遊びの映像教材等を視聴し、幼児の自己主張、葛藤、他者受容、育ち合いについて学ぶ。	幼児が葛藤を乗り越えようとする場面で、保育者はどのように関わるべきか、映像教材やこれまでの保育所、幼稚園等での体験をもとに考え記述する。	4時間
第9回	**遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割　Ⅳ　－協同的な遊び－** 実際の遊びの映像教材等を視聴し、幼児の協同的な遊びとそれにより育まれるもの、その育ちをより豊かにするための保育者の関わりについて学ぶ。	授業内で紹介する協同的な遊びの事例を熟読し、保育者の関わりとして重要だと思うものをリストアップする。	4時間
第10回	**園生活におけるきまりと道徳性・規範意識の芽生え** 園生活のなかで育まれる、道徳性・規範意識の芽生えを遊びのルールや生活のきまりから考える。	幼児の生活のなかにあるきまりや遊びのルールを書き上げ、それぞれの意味（なぜそれが大切なのか）を幼児が納得できるように伝えるには、どのような言葉がけが望まれるか考え記述する。	4時間
第11回	**領域相互の関連性と保育展開　Ⅰ　0～2歳児** 0～2歳児の生活・遊びのなかで各領域の育ちはどのように関連し合っているのか、領域「人間関係」の育ちと他の領域の育ちがどのように融合して実現しているのかを理解し、保育の展開を具体的にイメージする。	0～2歳児の生活・遊びの場面をいくつか挙げ、それぞれにおいてどのような育ちが期待できるか多角的に考察し記述する。	4時間

第12回	**領域相互の関連性と保育展開　Ⅱ　3～5歳児** 3～5歳児の生活・遊びのなかで各領域の育ちはどのように関連し合っているのか、領域「人間関係」の育ちと他の領域の育ちがどのように融合して実現しているのかを理解し、保育の展開を具体的にイメージする。	3～5歳児の生活・遊びの場面をいくつか挙げ、それぞれにおいてどのような育ちが期待できるか多角的に考察し記述する。	4時間
第13回	**幼児期の人と関わる力の可視化　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から考える幼小接続** 幼児期の人と関わる力を可視化する評価言語を学び、映像教材を活用しながら、可視化を試みる。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、とくに領域「人間関係」と関連が深いものについて、小学校以降の生活・学びとのつながりを含め、具体的に理解する。	保育所保育指針解説と幼稚園教育要領解説の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関わる部分を熟読する。	4時間
第14回	**人間関係に関わる現代的課題　総括** 人間関係に関わる現代的課題について、学生自身が幼児であった頃と比較しながら考える。 全14回の授業の振り返りを行い、重要ポイントを明確にする。	自身の幼児時代と現代との社会情勢・生活形態の違いを調べてまとめる。全14回の授業の振り返りを行い、理解が曖昧なままになっているところや疑問に思ったまま解決されていないことがないか確認する。	8時間

432

授業科目名	**領域（環境）**				
担当教員名	片岡章彦				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園にて教諭として21年間勤務（14回）				

授業概要

領域（環境）では、領域「環境」の指導に関連する、幼児の生活や遊びを通して健やかな成長を促すための環境及び幼児と環境の関係について発達等を踏まえた専門的理解を身につけます。また、子どもの健やかな成長において、子どもと関わる保育者自身の好奇心や感性が影響することを鑑み、この授業では実際の体験を通して一人ひとりの学生が様々に「感じる」「気づく」「考える」「挑む」経験によって、保育において何が大切なのかを探求しながら領域「環境」に関わる知識・技能を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育の領域「環境」の理解	領域「環境」の観点からの援助・指導に関連する専門的知識・技能の修得

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	子どもの環境との関わりを援助する際に必要となる様々な視点を身に付け、課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内や授業後の課題	70 %	： 授業内容を踏まえた上で作成できているか。さらに、独自の視点・気付き・アイデアを加えることができているか。
期末のレポート課題	30 %	： 授業内容を踏まえた上で、自分の考えを論理的にまとめることができているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

・文部科学省『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814475)
・厚生労働省『保育所保育指針解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814482)
・内閣府,文部科学省,厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814499)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 昼休み（水以外）及び授業前後

場所： 片岡研究室及び授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業の進め方、課題、評価についての説明）、保育における「環境」とは何か** 保育における環境にはどのようなものがあるのかを理解する。	領域「環境」の内容に関して、自分の経験を振り返る。	4時間
第2回	**子どもを取り巻く環境の変化と子どもの育** 子どもを取り巻く環境の変化が、子どもの育ちにどのように影響をしてるのかを理解する。また、理解に基づきながら、現代の保育において意識すべきことについて検討する。	1960～70年代の子どもを取り巻く環境や遊びと自らの子ども時代の環境と遊びとでは何が違うのかを整理する。	4時間
第3回	**子どもの主体性を育む環境（1）「適当な環境」「環境を通して行う」とは** 学校教育法で示されている「適当な環境」や幼稚園教育要領に示されている「環境を通して行う」とはどのようなことなのかを理解する。	「学校教育法　第3章幼稚園」「幼稚園教育要領」を読み、保育における環境とはどのようなものなのかを整理する。	4時間
第4回	**子どもの主体性を育む環境（2）保育現場の環境に対する子どもの関わり** 実際の保育現場で様々な環境と関わりながら遊んでいる子どもの様子を捉えた動画を視聴して、子どもが環境にどのように関わり、その関わりを通して何が育まれているのかを理解する。その上で、「保育環境マップ」を作成する。	これまでの実践経験の場（体験活動・実習）での遊びの場には、どのような環境が備えられていたか。またその環境との関わりを通して子どもに何が育っていたのかを考察して整理する。	4時間
第5回	**知的好奇心「数・量・図形」の関心・感覚を育む保育環境** 「数・量・図形」に対する関心・感覚は、遊びを通してどのように育まれるのか。また、「数・量・図形」が育まれる遊びにはどのような種類があるのかを理解する。	保育において「数・量・図形」の関心・感覚を育むことと小学校教育における授業での学びへのつながりについて整理する。	4時間
第6回	**知的好奇心「標識・文字」の関心・感覚を育む保育環境** 「標識・文字」に対する関心・感覚は、遊びを通してどのように育まれるのか。また、「標識・文字」が育まれる遊びにはどのようなが種類があるのかを理解する。	保育において「標識・文字」の関心・感覚を育むことと小学校教育における授業での学びへのつながりについて整理する。	4時間
第7回	**知的発達を促す保育活動の実際** 子どもは遊びの中で、どのような経験を通して知的発達が促されているのかを実際の遊びを経験することによって理解する。	なぜカプラブロックが多くの保育現場で活用されているのかについて、その特性と遊びによって子どもに育まれるものについて整理する。	4時間
第8回	**身近な自然との関わり** 子どもが身近な自然との関わりを通して育まれるものについて理解する。自然事象や季節を生かした保育にはどのようなものがあるのかを理解する	自然の中で遊んだ経験や、何で季節を感じているのか、またその季節ならではの遊びにはどのようなものがあるのかを整理する。	4時間
第9回	**保育現場におけるICTの活用** 保育現場においてICTがどのように活用されているのか、幼児期の子どもにとってICTを活用することにどのような利点・可能性があるのかを理解する。	ICTとは何か、また保育現場において自分ならICTをどのように活用してみたいのかを考え整理する。	4時間
第10回	**科学的思考の芽生えを培う遊びと環境** 科学的思考とは何か、そして科学的思考の芽生えとはどのようなものなのかを理解する。その上で、科学的思考の芽生えを培う遊びにはどのような遊びがあるのか。また、なぜその遊びは科学的思考を培わせるのかを理解する。	科学遊びに使う道具や科学遊びにはどのような遊びがあるのか整理する。	4時間
第11回	**ESDと幼児教育** 持続可能な開発のための教育（ESD）となぜESDが大切かなのかを理解する。また、ESDに関わる取り組みとして保育においてできることを考える。	ESDとSDGsについて整理すると共に、自らが取り組んでいるもしくは取り組むことが出来るSDGsについて整理する。	4時間
第12回	**地域に親しむ・日本の文化と異文化**	自身にとって身近な地域の行事や伝承遊びについてその種類と意義について整理する。	4時間

	地域とのつながりの中で行われる保育・行事及び日本の文化や伝承遊びと異文化に対して興味関心を深める保育と環境のあり方について理解する。		
第13回	**保育における安全能力形成と安全教育・防災教育** 子どもの安全能力が低下している原因と安全能力を高める保育・遊びについて理解する。また、子どもの命を守る視点での安全教育と防災教育のあり方について理解する。	保育現場での環境と平常時、非常時それぞれにおいて子どもにとってどの様な危険が考えられるのかを整理する。	4時間
第14回	**授業内容の振り返りと幼児教育において期待されている保育者の役割** 幼児教育において期待されている保育者の役割について、領域「環境」の視点から理解する。	これまでの授業を振り返り、幼児教育において期待されている保育者の役割について整理する。	4時間

431

授業科目名	**領域（言葉）**				
担当教員名	高尾淳子・益田かな子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高尾：保育所保育士および中学校英語科教員として勤務（全14回）				

授業概要

言語獲得期にある乳幼児が、主体的・対話的で深い学びを通じて言語獲得をするためには、保育者は乳幼児にどのような言葉で語りかけ、どの教材を選択し、どんな遊びの提案をするのが適切であるのか。本授業では、答えが複数あるこの問いについて検討する。学生は保育理論を学んで子どもの言葉を育むための保育内容を検討することと併せて、計画・模擬保育・省察を通じて自己の保育技術を磨く。本授業では、このようにして理論と実践との融合を図り、学生が保育現場の諸問題に適切に対応し得る実践的指導力を身につけていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	子どもの言葉の発達と「対人コミュニケーション」「状況理解」「内言語機能・象徴機能」を関係づけて理解する。 子どもの言葉の発達を捉える目を養い、言葉遊びを工夫する。	子どもの言葉の発達過程や領域「言葉」の意義を理解し、言語獲得期の子どもに関わる保育者の役割及びその具体的な指導法を検討する。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	子どもの言語発達を「言語表出」「言語理解」「対人コミュニケーション」「知覚」といった多面的視点から捉えて理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業への主体的参加	15 %	:	授業前学修、演習への積極的参加と発表、質問に対する建設的な回答、及び聞く態度を総合して評価する。
定期試験	20 %	:	発達の順序性および発達段階を踏まえて、子どもの言語獲得を支援するための保育内容を検討する力について、修得状況を確認する。
教材作成等授業内課題・模擬保育	65 %	:	制作教材および模擬保育は、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
谷田貝公昭・大沢　裕編	・ コンパクト版 保育内容シリーズ言葉 ISBN 978-4863591530	・ 一藝社	・ 2020　年

参考文献等

フレーベル館（2018）「幼稚園教育要領解説」ISBN978-4-577-81447-5
フレーベル館（2018）「保育所保育指針解説」ISBN 978-4-577-81448-2
フレーベル館（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」ISBN978-4-577-81449-9
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
教科書は、第１回授業より持参すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

場所：　研究室

備考・注意事項：　質問がある場合は、メール（takao-a@osaka-seikei.ac.jp)でアポイントメントをとり、研究室を訪ねてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・保育内容「言葉」の意義** ①オリエンテーション（授業の進め方、授業外学修課題、評価方法等） ②領域「言葉」のねらい、内容、指導上の留意点を整理し、理解する。 ③幼児たちが眼前にいることを想定した自己紹介	授業前：授業で自己紹介をするための準備をする。（小道具の使用も可）第1回授業でテキスト第1章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。　授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第2回	**領域「言葉」の概要** ①領域「言葉」のねらい、内容、指導上の留意点を整理し、理解する。 ②言葉遊び：インプロビゼーション体験	授業前：授業でテキスト第2章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第3回	**言葉をよりよく理解する視点** ①子どもが使用する言葉・子どもに向けられる言葉について考える。 ②教材制作：ペープサート	授業前：授業でテキスト第3章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。 授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第4回	**言葉の発達の概要** ①子どもの言葉の発達の概要を理解する。 ②模擬保育：ペープサート	授業前：授業でテキスト第4章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第5回	**自己表現・コミュニケーションツールとしての言葉** ①言葉による伝え合いについて考える。 ②教材制作：紙芝居１（絵コンテ）	授業前：授業でテキスト第5章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第6回	**言葉と基本的生活習慣** ①基本的生活習慣と言葉との関係について考える。 ②教材制作：紙芝居２（第１場面）	授業前：授業でテキスト第6章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第7回	**言葉と児童文化** ①さまざまな児童文化財を知る。 ②教材制作：紙芝居３（第２場面）	授業前：授業でテキスト第7章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第8回	**言葉の味わい**	授業前：授業でテキスト第8章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間

	①基本的生活習慣と言葉との関係について考える。 ②教材制作：紙芝居４（第３場面）		
第9回	**文字としての言葉** ①文字としての言葉について考える。 ②教材制作：紙芝居５（第４場面）	授業前：授業でテキスト第9章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第10回	**０歳児・１歳児・２歳児の発達に即した保育** ①０歳児・１歳児・２歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点について理解する。 ②模擬保育：紙芝居（グループ１）	授業前：授業でテキスト第11章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第11回	**３歳児・４歳児・５歳児の発達に即した保育** ①３歳児・４歳児・５歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点について理解する。 ②模擬保育：紙芝居（グループ２）	授業前：授業でテキスト第12章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第12回	**小学校との連携** ①幼児教育と小学校教育との接続について考える。 ②教材制作：福笑い	授業前：授業でテキスト第13章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第13回	**特別な支援を必要とする子どもと領域「言葉」** ①特別な支援を必要とする子どもの特徴、および保育における留意点を整理する。 ②多文化理解教育としての英語遊び	授業前：授業でテキスト第14章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第14回	**総括　現代社会における「言葉」の問題 -望ましい言語環境の整備のあり方-** ①本科目の学修内容を総括する。各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 ②授業内容を踏まえたプレゼン型のグループワーク	授業前：授業でテキスト第15章の内容を議論するので、該当ページを読んでおくこと。授業後：授業で議論したトピックについて、学生の発表や教員による解説を基に復習し知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間

431

授業科目名	**領域（音楽表現）**				
担当教員名	岡林典子・丹羽ひとみ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

乳幼児期における音楽的発達をふまえ、感性や創造性を育む表現について保育活動での保育者と子どものやりとりの実践動画や子どもの表現の様子を捉えた具体例を踏まえながら理解を深め、その意義を考察する。さらに、乳幼児の音楽表現活動の内容を実際に体験し、指導・援助に必要な専門的知識及び技術を習得する。また、音楽の構成要素および仕組みについての学びを広げ、音や音楽とそれ以外の表現媒体との関わりについて、理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	領域「表現」に関わる専門的事項の理解	乳幼児の音楽的発達を理解し、創造性や感性を育むための知識、技能、表現力を身につける。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		子どもの創造性を育むことを目指し、「音・音楽の聴取」「声と表現」「楽器と表現」「動きと表現」など多角的な視点から音楽的発達を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内活動への参加状況と振り返り	20 %	： ペアワーク、グループワークなど、授業活動への積極的な参加状況、他者への配慮、自身の学びの振り返りが出来ているかを評価します。
課題と発表	30 %	： 授業課題や発表に工夫がみられるか、意欲的に取り組んでいるかを評価します。
小テスト	20 %	： 授業で学んだことを問うテストに的確に答えることができているかを評価します。
期末レポート	30 %	： 授業全体の理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐野仁美・岡林典子編著	・ 創造性を育む乳幼児からの音楽表現　ISBN：9784623098224	・ ミネルヴァ書房	・ 2025　年

参考文献等

文部科学省　幼稚園教育要領解説　フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814475
厚生労働省　保育所保育指針解説　フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814482
内閣府/文部科学省/厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814499

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業の際にお伝えします。

場所： 初回授業の際にお伝えします

備考・注意事項： 質問等があればまずはメールで連絡してください。

・okabayashi@g.osaka-seikei.ac.jp

・niwa-h@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及び領域「表現」について** ・授業の進め方、成績評価等について知る。 ・領域「表現」とは何か理解する。	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」の領域「表現」に関わる部分を熟読する。	4時間
第2回	**感性と表現のかかわり** 幼稚園教育要領等の領域「表現」の内容をもとに、「感性とは何か」「子どもの音楽表現とどのようにかかわるのか」などについて理解する。	「感性と表現」についての資料を読み、内容について課題プリントにまとめる。	4時間
第3回	**乳幼児の音楽表現について** 既成の歌を歌ったり楽器を奏でたりすることだけではなく、子どもの音楽表現が多様であることを理解する。	乳幼児の音楽表現に関する資料を読み、授業内容の理解を深める。	4時間
第4回	**様々な子どもの歌を知る①ー季節の歌** 保育の現場で歌われている子どもの歌の中から、季節を感じる歌を取り上げ、拍子・リズム・旋律・歌詞などから音楽の構成要素や子どもとの表現法について学ぶ。	子どもの歌（季節の歌）に関する資料を調べ、理解を深める。	4時間
第5回	**様々な子どもの歌を知る②ー行事・生活の歌** 保育の現場で歌われている子どもの歌の中から、行事や生活に関する歌を取り上げ、拍子・リズム・旋律・歌詞などから音楽の構成要素や子どもとの表現法を学ぶ。	子どもの歌（行事・生活に関する歌）に関する資料を調べ、理解を深める	4時間
第6回	**わらべうたを知る①ーとなえうた・絵かき歌** 多様な表現を有するわらべうたの中から、「となえうた」「絵かき歌」について表現活動を通して遊びの面白さを知り、拍子や旋律の成り立ちなど音楽的要素を理解する。	わらべうたの「となえうた・絵かき歌」に関する資料を調べ、理解を深める。	4時間
第7回	**わらべうたを知る②ーお手合わせ・じゃんけんうた** 多様な表現を有するわらべうたの中から、「お手合わせ」「じゃんけんうた」について表現活動を通して遊びの面白さを知り、拍子や旋律の成り立ちなど音楽的要素を理解する。	わらべうたの「お手合わせ」「じゃんけん遊び」に関する資料を調べて、理解を深める。	4時間
第8回	**「西洋の音階」と「日本の音階」を知る** 西洋音楽に用いられる「長音階」「短音階」と、日本音楽に用いられる「民謡音階」「都節音階」「律音階」「沖縄音階」などの音階について、構成音の違いなどの違いを知り、わらべうたの旋律が西洋音階とは異なるものであることを理解する。	日本音階について資料をもとに成り立ちを調べ、理解を深める。	4時間
第9回	**絵本と音楽表現** 子どもにとって身近な文化財である絵本と音楽表現の関連を考える。絵本を題材としてどのように音楽表現を引き出すことができるのかについて、保育の実践例を紹介しながら理解を深める。また、言葉やオノマトペによってリズムや音が感じられるような、音楽的な要素を含む絵本について、声の表現や動きの表現など、多様な表現の工夫を学ぶ。	音楽表現とかかわる絵本を調べ、表現の工夫を考える。	4時間
第10回	**楽器を知る①ー保育現場で用いられている楽器** 子どもが楽器と出会う保育の場では、「かんたんなリズム楽器」といわれるカスタネット、タンブリン、トライアングル、すずなどが用いられている。それらの楽器の種類と奏法について、実際の楽器に触れて学びを深める。また、様々な楽器を用いて合奏を行い、アンサンブルの楽しさを味わう。	保育の場で用いられている多様な楽器の種類と奏法を調べる。	4時間
第11回	**楽器を知る②ー和楽器**	自分の育った地域のお祭りやお囃子について調べる。	4時間

	国際化が進む現代において、自国の文化を知り、それを尊重する態度を養うために、日本の音楽文化に触れる。具体的には、和楽器を演奏したり、お祭りの音楽を聴くなどを通して、地域の文化に目を向けることを考える。		
第12回	**楽器を知る③ー手づくり楽器** 身近な素材を利用して、手作り楽器の制作を行う。「振る」「打つ」「こする」「はじく」など、音の出る仕組みを学び、子どもたちと楽器作りを楽しむ方法と内容について学びを深める。	インターネットや文献資料を調べ、乳幼児が楽しめる多様な手づくり楽器を理解する。	4時間
第13回	**世界の音楽教育のメソッドを知る** スイスのダルクローズや、ドイツのオルフ、ハンガリーのコダーイなど、世界の音楽教育メソッドについて、それぞれの理念や具体的な教育方法を知り、乳幼児の音楽表現活動を活かせるよう学びを深める。	リトミックや、コダーイメソッドなどの音楽教育方法について調べる。	4時間
第14回	**音楽表現の保幼小接続** 幼児期の表現教育と小学校教育の音楽科の接続に関して、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領をもとに、双方の違いや共通点についての理解を深め、保幼小の円滑な接続のための教材や指導法について考える。	「接続」をふまえた音楽表現活動について、保育者としてどのようなねらいを設定し展開するかについて、考える。	4時間

431

授業科目名	**領域（造形表現）**				
担当教員名	**白波瀬達也・辻大地**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を大切にすることを学ぶ。造形表現活動に用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能の習得した上で、子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動を扶ける専門的知識、技能、表現力を身につけることを目指す。また、乳幼児の造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、造形表現について学び、色や形、感触やイメージ等に親しむ自らの体験が感性や創造性を豊かにすることを理解し表現力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	子どもの造形に関する知識や技能の理解	子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動を扶ける専門的知識、技能、表現力を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		乳幼児の造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、造形表現について学び、色や形、感触やイメージ等に親しむ自らの課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、自らの課題を発見し積極的に取り組むことを評価する。各回1～2点で評価し、合計30点とする。
ワークシート	30 %	： 授業内容を踏まえて子どもの感性や創造性を豊かにするため必要な知識や技術について書かれている：30点。授業内容を形式に沿って書かれている：18点。
レポート	20 %	： 造形表現に必要な知識や技術を習得し、造形素材の特性について理解したことついてのふりかえりが書かれている：20点。授業内容のふりかえりが書かれている：12点。
提出物(ファイル)	20 %	： 造形表現活動に用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能の習得した上で、造形素材の特性を生かした表現ができたものがまとめられている：20点。指定の形式に沿って書かれている：12点。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省 厚生労働省　内閣府	・幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン	・チャイルド本社	・2024　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業内容をまとめることで復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

場所：　中央館4階　研究室

備考・注意事項：　授業・会議等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／子どもの表現について** 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を大切にすることについて理解を深める。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を領域（造形表現）を受講するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第2回	**造形素材研究（1）パス** 子どもの造形表現活動に用いる描画材（パス）に関する基礎知識や技能を習得する。	造形素材研究（パス）をおこなうために子どもが使う描画材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第3回	**造形素材研究（2）道具（はさみ）** 子どもの造形表現活動に用いる道具（はさみ）に関する基礎知識や技能を習得する。	造形素材研究（はさみ）をおこなうために子どもが使う道具について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第4回	**造形素材研究（3）マーカー** 子どもの造形表現活動に用いる描画材（マーカー）に関する基礎知識や技能を習得する。	造形素材研究（マーカー）をおこなうために子どもが使う描画材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第5回	**造形素材研究（紙の造形）（基本）** 子どもの造形表現活動に用いる紙材に関する基礎知識や技能を習得する。	造形素材研究（紙の造形）をおこなうために子どもが使うマーカーについて興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第6回	**造形素材研究（5）絵の具** 子どもの造形表現活動に用いる描画材（絵の具）に関する基礎知識や技能を習得する。	造形素材研究（絵の具）をおこなうために子どもが使う紙材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第7回	**子どもの感性と表現活動（1）マーカーと絵の具** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、マーカーと絵の具を用いて色や形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（マーカーと絵の具）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第8回	**子どもの感性と表現活動（2）油粘土の協働活動** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、油ねんどを用いて色や形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（油ねんどの協働活動）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第9回	**子どもの感性と表現活動（3）色水あそび** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、色水あそびをとおして形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（色水あそび）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第10回	**子どもの感性と表現活動（4）感触あそび** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、感触あそびをとおして形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（感触あそび）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第11回	**子どもの感性と表現活動（5）素材あそび**	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（素材あそび）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間

	子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「素材あそび」をおこなう。		
第12回	**身近な素材を用いた表現活動（１）乳児の素材遊び** 子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「乳児の素材遊び」をおこなう。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（乳児の素材遊び）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第13回	**身近な素材を用いた表現活動（２）身近な素材によるあそび** 子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「身近な素材によるあそび」をおこなう。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる表現活動（身近な素材によるあそび）をおこなうために関連する個所を読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第14回	**子どもの造形表現のふりかえり** 子ども主体の造形活動にするために年齢や活動にあわせた題材(テーマ)、素材、道具を選ぶ力を身につける。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所をふりかえりをするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間

432

授業科目名	**健康領域指導法**				
担当教員名	可児勇樹・中村泰介				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育士として保育園に勤務。（全14回）				

授業概要

健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。乳幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身に付けることの大切さを理解し、養護と関連付けながら必要な援助法を学ぶ。特に、運動遊びが心身の健全な発達に大きな影響を及ぼすことを生理学的に理解する。また、年齢に応じた運動遊びの保育案を作成し、適切な保育方法を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	乳幼児期の健康について理解する。	乳幼児の運動遊びを深く理解する。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		発育発達や年齢に応じた保育指導案の立案することができ、模擬保育と振り返りから改善する視点を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	30 %	： 子どもの健康について生理学的に理解できているか
課題提出	30 %	： 指導者の提示したテーマに対して参考文献を活用し丁寧に作成されているか
授業の取り組み状況	40 %	： 授業中に行われる授業者の質問に対して深く考察し積極的に回答しているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三村寛一・安部惠子編	・ 新・保育と健康	・ 嵯峨野書院	・ 2018 年

参考文献等

『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領　＜原本＞』チャイルド社、ISBN9784805402580、2017年
『身体情報の健康発達科学』藤井勝紀（編）杏林書院、ISBN9784764412217、2021年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 後日伝達

備考・注意事項： kani@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保育内容（健康）の目的と内容の理解** シラバスを基に授業の概要と14回の授業の計画を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針を 基に保育の基本や内容について学習する。	保育の内容について予習する	4時間
第2回	**食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣を支える環境形成** 食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣を支える環境形成について学習する。	乳幼児の生活習慣について予習する。	4時間
第3回	**幼児の発達や学びの過程と幼稚園教育における指導案の構造・評価の考え方** 指導案の構造・評価の考え方について学習する。	指導案の構造・評価の考え方について予習する。	4時間
第4回	**健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助** 安全教育について学習する。	現場での安全教育について予習する。	4時間
第5回	**健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導案の作成とICTの活用** 具体的な保育場面を想定し指導案を作成する方法について学習する。	健康指導、安全指導について予習する。	4時間
第6回	**健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した保育の模擬保育と評価** 健康指導、安全指導の模擬保育を通して実践力を学習する。	健康指導、安全指導の模擬保育について予習する。	4時間
第7回	**健康なこころとからだを育む保育実践の指導案とICTの活用** 具体的な保育場面を想定し、健康なこころとからだを育む指導案を作成する方法について学習する。	健康なこころとからだを育む保育の場面について予習する。	4時間
第8回	**健康なこころとからだを育む保育の模擬保育と評価** 健康なこころとからだを育む保育について模擬保育を通して実践力を学習する。	ICT等を使用した教材の作成（教材研究）	4時間
第9回	**幼児期の運動指針について** ICT等を使用し、健康指導に関する教材を作成する。	健康指導として、どのように発信するかについて予習する。	4時間
第10回	**多様な動きの経験を促すあそび①走・跳運動遊びの指導案作成** 走・跳運動遊びを立案し、指導案を作成することを学習する。	走・跳運動遊びにはどんな遊びが適しているか予習する。	4時間
第11回	**多様な動きの経験を促すあそび①走・跳運動遊びの模擬保育と評価** 走・跳運動遊びについて模擬保育を通して実践力を学習する。	走・跳運動遊びの模擬保育について予習する。	4時間
第12回	**多様な動きの経験を促すあそび②投運動遊びの指導案作成** 投運動遊びを立案し、指導案を作成することを学習する。	走・跳運動遊びにはどんな遊びが適しているか予習する。	4時間
第13回	**多様な動きの経験を促すあそび②投運動遊びの模擬保育と評価** 投運動遊びについて模擬保育を通して実践力を学習する。	投運動遊びの模擬保育について予習する。	4時間
第14回	**模擬保育の評価と課題・総括と質疑応答** 模擬保育の評価・修正し、指導案のブラッシュアップ方法を学習する。	指導案を見直し、自己評価をしておく。	4時間

433

授業科目名	人間関係領域指導法				
担当教員名	山内淳子・益田かな子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回）				

授業概要

本授業は、領域「人間関係」の意義や内容を理解し、生活と遊びの中で幼児に人と関わる力を育んでいくために保育者にはどのような関わりが望まれるか、援助・指導法について具体的に学んでいくことを目指すものである。できる限り実践事例を取り上げ、様々な場面を想定しつつ、保育者に望まれる関わりについて考察し、各自の実践につなげていけるようにする。また、領域「人間関係」に重点をおいた保育活動を構想し、指導計画の作成（環境構成案含む）、教材の研究・準備、模擬保育等にも取り組む機会を設け、実践力を培うことを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	領域「人間関係」に関わる指導・援助に関する専門的事項の理解	領域「人間関係」の意義や内容を把握したうえで、生活と遊びの中で幼児に人と関わる力を育んでいくための保育者の指導・援助のあり方について具体的に理解する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		幼児に人と関わる力を育むのに意味ある活動について、対象となる幼児理解をはじめ、多角的な視点からの検討を行い、具体的な計画を作成するとともに、模擬保育に取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内活動への参加状況	10 %	： ペアワーク、グループワーク等、授業内活動への参加状況を評価します。積極的参加、他者への配慮、表現方法の工夫等を高く評価します。
小レポート	20 %	： 学習ポイントを複数網羅して記述、1つの学習ポイントを掘り下げ具体的に記述、発展的意見の記述、自分の言葉での語り直し、他のレポートには見られない独自な優れた記述等を高く評価します。
模擬保育	15 %	： 対象となる幼児を理解し、配慮・工夫がなされているもの、ねらいが意識されそれに基づいてなされているもの等を高く評価します。
期末レポート	55 %	： 授業内容の理解度を評価します。評価基準について詳しくは、期末レポートに関する事前説明の際にお伝えします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省 内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814475
厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814482
内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 2018年 ISBN 978-4577814499
山内紀幸編著『探究プロジェクトの最前線』一藝社 2022年 ISBN 978-4863592520

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業の際にお伝えします

場所： 初回授業の際にお伝えします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／保育内容「人間関係」に求められること　領域「人間関係」のねらい・内容と全体構造** 保育内容における領域「人間関係」の位置づけとそれに求められること、領域「人間関係」のねらいと内容について、授業科目「領域（人間関係）」での学びを振り返りつつ、理解を深める。	「保育所保育指針解説」と「幼稚園教育要領解説」の領域「人間関係」に関わる部分を、自らの保育体験に結びつけながら熟読する。	4時間
第2回	**乳幼児期の人間関係の発達　(1)　0～2歳　指導上の留意点** 0～2歳の発達について理解し、人と関わる力を育むうえで大切な保育者の関わりについて具体的に学ぶ。	0～2歳児が喜ぶ遊びをリストアップし、それらを通して人とかかわる力と育んでいくには保育者はどのようなことを心がけたらよいか、考え記述する。	4時間
第3回	**乳幼児期の人間関係の発達　(2)　3～5歳　指導上の留意点** 3～5歳の発達について理解し、人と関わる力を育むうえで大切な保育者の関わりについて具体的に学ぶ。	3～5歳児が喜ぶ遊びをリストアップし、それらを通して人とかかわる力と育んでいくには保育者はどのようなことを心がけたらよいか、考え記述する。	4時間
第4回	**領域「人間関係」からみた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」** 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかでも特に「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」について理解を深め、それらの育ちにつながる幼児期の遊びや生活について具体的にイメージしながら考える。	「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」の育ちとして捉えられる幼児の姿を、自らの保育体験をもとに思い出し記述する。	4時間
第5回	**人間関係を育む遊びの実際** 幼児の遊びの様子を映像教材等で視聴し、それぞれの遊びのなかで、人と関わる力がどのように育まれていくのか、その育ちをより豊かにするために保育者にできる関わりは何か考える。	実習等で幼児と楽しみたいと思う遊びを複数リストアップし、それぞれの遊びのなかで、人と関わる力としてどのようなものが育っていくと思うか、その育ちをより豊かにするために保育者にできる関わりは何か考え記述する。	4時間
第6回	**人と関わる力を育む教材作成とICTの活用について** 幼児に人と関わる力を育む保育活動における教材作成やICT活用の事例を多数知り、具体的方法を学ぶ。	幼児に人と関わる力を育む保育活動における教材作成やICT活用の事例としてどのようなものがあるか、できるだけ多種多様な事例を調べまとめる。	4時間
第7回	**領域「人間関係」指導計画作成演習　(1)　長期指導案** 領域「人間関係」や他の領域を意識しつつ、長期指導案を作成し、領域「人間関係」の視点から見直しと改善を図る。	それぞれの園でどのような長期指導案が作成されているか調べる。	4時間
第8回	**領域「人間関係」指導計画作成演習　(2)　短期指導案** 領域「人間関係」や他の領域を意識しつつ、短期指導案を作成し、領域「人間関係」の視点から見直しと改善を図る。	それぞれの園でどのような短期指導案が作成されているか調べる。	4時間
第9回	**指導計画に基づく模擬保育　(1)　人と関わる育ちの視点から** 幼児に人とかかわる力を育むことをねらって作成した指導計画をもとに模擬保育を行う。	授業内での模擬保育に向けて準備する。模擬保育後の振り返りをノートにまとめる。	4時間
第10回	**指導計画に基づく模擬保育　(2)　評価と指導案の改善**	「幼稚園教育要領解説」の第4節「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」を熟読する。	4時間

	模擬保育を振り返り、指導計画に改善を加える。また、その後につながる保育活動を構想する。		
第11回	**人と関わる力を育む保育　(1)　異年齢交流・地域との交流から** 異年齢交流、地域交流の保育実践事例について知り、「幼児に人と関わる力を育む」という視点からその意義を考察するとともに、保育者としての工夫・配慮点を学ぶ。	それぞれの園でなされている異年齢交流、地域交流の保育実践事例について調べまとめる。	4時間
第12回	**人と関わる力を育む保育　(2)　幼小交流・幼小接続を考える** 幼小交流・幼小接続の実践事例について知り、「幼児に人と関わる力を育む」という視点からその意義を考察するとともに、保育者としての工夫・配慮点を学ぶ。	それぞれの園でなされている幼小交流、幼小接続の実践事例について調べまとめる。	4時間
第13回	**人と関わる力を育む保育　(3)　多様な人、多様な子どもとの関わりの中で** 多様な人、多様な子どもとの関わりのなかで、幼児がどのように人と関わる力を育んでいくのか、具体的事例をもとに考察し、保育者としての配慮点を学ぶ。	インクルージョンについて調べまとめる。	4時間
第14回	**領域「人間関係」の現代的課題　総括　質疑応答** 領域「人間関係」に関わる現代的課題について考える。 全14回の授業の振り返りを行い、重要ポイントを明確にする。	全14回の授業の振り返りを行い、理解が曖昧なままになっているところや疑問に思ったまま解決されていないことがないか確認する。	8時間

433

授業科目名	**環境領域指導法**				
担当教員名	片岡章彦・永井毅				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園にて教諭・主任として21年間勤務（全14回）				

授業概要

領域（環境）で学んだ内容を、どのように計画し保育を行うのかという、より実践的な視点で深めていく。領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」領域である。この授業では、子どもの発達や興味関心に即しながら、子どもの好奇心や探求心を触発し育むためのねらいと内容の理解を深めるとともに、実際の保育場面における子どもの姿を想定しながら子どもの育ちを導く環境の備えと保育者の役割について学ぶ。そのことによって、子どもの姿や育ちをイメージしながら保育を計画し実践することの面白みや喜びを感じながら実践する力を養う事を目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	領域「環境」の視点からの保育指導法	領域「環境」の観点を含む様々な保育実践について学び、具体的な指導計画を立案できる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	学んだことを基に具体的な計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内や授業後の課題	70 %	： 授業内容を踏まえた上で作成できているか。さらに、独自の視点・気付き・アイデアを加えることができているか。
期末のレポート課題	30 %	： 授業内容を踏まえた上で、自分の考えを論理的かつ具体的に述べることができているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育･保育要領＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

・文部科学省『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814475)

・厚生労働省『保育所保育指針解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814482)
・内閣府,文部科学省,厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814499)

・新 保育と環境(嵯峨野書院、ISBN978-4782305829)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 昼休み（水以外）及び授業前後

場所： 片岡研究室及び授業教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業の進め方、課題、評価についての説明）、領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いと資質・能力の育成** 領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについての理解をすることで、幼児教育のおける「環境」の重要性を認識し、資質・能力を育むための環境の在り方についても理解する。	「環境を通して行う教育」、「資質・能力」について意味と位置付けを整理する。	4時間
第2回	**領域「環境」と他領域との関連性及び10の姿とのつながり** 領域「環境」と他領域との関連性について理解する。また、10の姿について理解すると共に領域「環境」と10の姿とのつながりについても理解する。	領域「環境」と他領域との関連性について及び10の姿について整理する。	4時間
第3回	**自由遊び（コーナー遊び）における子どもの育ちと環境構成及び保育者の援助と関わり** 自由遊び（コーナー遊び）で子どもに何が育つのかを理解する。また、自由遊び（コーナー遊び）で子どもの育ちを促すための環境構成の在り方と保育者の援助について理解する。	保育現場における室内遊びの種類とそれぞれの遊び毎にどのような環境の備えが必要なのかを整理する。	4時間
第4回	**季節を取り入れた保育（1）春の保育を考える** 入園、進級したての春の保育で大切なポイントを理解すると共に、春の季節を取り入れた保育の種類と内容、そして、保育展開の方法と保育者の援助についても理解する。	春の季節ならでは保育の活動内容と、活動をする上での注意点について整理する。	4時間
第5回	**身近な素材を使った遊びについて** 身近な素材を使った遊びにおける、５領域それぞれの育みについて理解する。	５領域それぞれの育みが見られる遊びには、どのような遊びがあるのかを整理する。	4時間
第6回	**身近な素材を使った活動と保育計画** 身近な素材を使った遊びの展開方法を考えて、指導計画を立案する。	保育で活用できる身近な素材にはどのような種類のものがあるのか。また、身近な素材を使った保育にはどのようなものがあるのかについても整理する。	4時間
第7回	**身近な素材を使った模擬保育** 身近な素材を使った保育を、自らが立案した指導計画を基に、学生同士がお互いに実践する。	自らが立案した保育計画を見直し、保育の流れや台詞を整理する。	4時間
第8回	**身近な素材を使った模擬保育の振り返り** 自らが行った保育や指導計画の内容についてのよかったことと改善点を振り返り、他学生と共有することで保育を考える視野を広げる。	自らが行った模擬保育について振り返り、保育のねらいの達成、保育の流れ、援助方法、準備物など様々な視点で振り返る。	4時間
第9回	**保育におけるICTの活用について** 保育現場でのICTの活用方法を実践事例から学び、これからの保育において、子どもの育ちをより促すことを踏まえた場合、どのようなICTの活用方法があるのかを理解する。	これまでの実習を振り返り、保育現場でどのようなICTの活用が行われていたを整理すると共に、子どもの育ちにおけるICTの功罪についても考える。	4時間
第10回	**身近な自然（生き物）との関わりについて** 保育において、子どもが生きものと関わったり、生き物を飼育したりすることは、子どもにとってどのような意味があるのかを理解する。また、生き物と関わったり、飼育したりする上で気をつけることも理解する。	これまでの実習で子どもがどのように生き物と関わっていたのかを整理して、その関わりから子どもに何が育っていたのかを考える。	4時間
第11回	**身近な自然（植物）との関わり・自然現象（事象）を取り入れた保育について** 保育において、植物を使った活動にはどのようなものがあるのか、また、子どもが栽培活動をすることは、子どもにとってどのような意味があるのかを理解する。そして、植物を使ったり、栽培活動をしたりする上で気をつけることも理解する。 事象も環境であることを理解すると共に、保育への展開についても理解する。	自然物を使った保育にはどのような内容のものがあるのかを整理する。身近な事象にはどのようなものがあるのかを整理する。	4時間
第12回	**季節を取り入れた保育（２）夏の保育を考える**	夏の季節ならでは保育の活動内容と、活動をする上での注意点について整理する。	4時間

	夏ならでは遊びの種類と展開の仕方、注意点について理解する。		
第13回	**科学的思考の芽生えと保育の展開** 子どもが様々な環境との出会いの中で、科学的思考をどのように芽生えさせているのかについて考えると共に、科学的思考の芽生えを意識した保育をどのように展開するのかを、実際に保育現場で行われている科学遊びを通して理解する。	子どもが科学と出会う遊びについて調査した上で、科学との出会いが意識された保育の計画を立案する。	4時間
第14回	**主体性を促す環境と小学校教育への接続と連続性について** 保育環境における表示・標識の種類と意味について理解する共に、計画的な環境通して行われる保育と小学校教育との接続と連続性についても理解する。また、保育におけるドキュメンテーションの意味と作成方法について理解する。	これまでの実習を振り返り、保育現場にはどのような表示があり、どのような意図があって表示がされているのかについて整理する。また、保育における子どもの主体性の育みが小学校教育との接続と連続性にどのように関連しているのかを整理する。	4時間

433

授業科目名	言葉領域指導法				
担当教員名	高尾淳子・益田かな子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高尾：保育所保育士および中学校英語科教員として勤務（全14回）				

授業概要

言語獲得期にある乳幼児が、主体的・対話的で深い学びを通じて言語獲得をするためには、保育者は乳幼児にどのような言葉で語りかけ、どの教材を選択し、どんな遊びの提案をするのが適切であるのか。本授業では、答えが複数あるこの問いについて検討する。保育理論をより深く学び、発達の連続性を踏まえて子どもの言葉を育むための保育内容を検討し、指導計画を立て、模擬保育および省察を行なうことにより、自己の保育技術を磨く。本授業では、このようにして理論と実践との融合を図り、学生が保育現場の諸問題に適切に対応し得る実践的指導力を身につけていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別な支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの参加を保障する遊びを検討し、立案・実践・省察・改善を行なう。	子どもの尊厳を尊重して共感的に接しながら実践する。

汎用的な力

1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	保育指導計画案の構成を理解し、具体的な保育を想定した保育指導計画案を作成する。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	質の高い保育の構想について理解しながら、保育指導計画案にそった模擬保育と省察を実施する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への主体的参加	15 %	： 授業前学修、演習への積極的参加と発表、質問に対する建設的な回答、及び聞く態度を総合して評価する。
定期試験	20 %	： 発達の連続性を踏まえて子どもの言葉を育むための保育内容を検討する力について、修得状況を確認する。
教材作成等授業内課題・模擬保育	65 %	： 制作教材および模擬保育は、独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
谷田貝公昭・大沢　裕編	・ コンパクト版 保育内容シリーズ言葉ISBN978-4863591530	・ 一藝社	・ 2020　年

参考文献等

フレーベル館（2018）「幼稚園教育要領解説」ISBN978-4-577-81447-5
フレーベル館（2018）「保育所保育指針解説」ISBN 978-4-577-81448-2
フレーベル館（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」ISBN978-4-577-81449-9
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

場所：　研究室

備考・注意事項：　質問がある場合は、メール（takao-a@osaka-seikei.ac.jp）でアポイントメントをとり、研究室を訪ねてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**領域「言葉」の「ねらい」および「内容」** オリエンテーション（授業の進め方、授業外学修課題、評価方法等） 0～2歳児および3歳以上児の言葉の発達を踏まえ、各発達段階における領域「言葉」の「ねらい」および「内容」を深く理解する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第2回	**０歳児の言葉の発達を踏まえた保育内容** ０歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点を理解したうえで、保育実践事例から学ぶ。 ０歳児の保育事例から保育者の配慮および援助の意図を読み解き、０歳児にとって適切な環境構成を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第3回	**1～2歳児の言葉の発達を踏まえた保育内容** 1～2歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点を理解したうえで、保育実践事例から学ぶ。 1～2歳児の保育事例から保育者の配慮および援助の意図を読み解き、1～2歳児にとって適切な環境構成を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第4回	**３歳児の言葉の発達を踏まえた保育内容** ３歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点を理解したうえで、保育実践事例から学ぶ。 ３歳児の保育事例から保育者の配慮および援助の意図を読み解き、３歳児にとって適切な環境構成を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第5回	**４歳児の言葉の発達を踏まえた保育内容** ４歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点を理解したうえで、保育実践事例から学ぶ。 ４歳児の保育事例から保育者の配慮および援助の意図を読み解き、４歳児にとって適切な環境構成を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第6回	**５歳児の言葉の発達を踏まえた保育内容** ５歳児の言葉の発達と保育の指導上の留意点を理解したうえで、保育実践事例から学ぶ。 ５歳児の保育事例から保育者の配慮および援助の意図を読み解き、５歳児にとって適切な環境構成を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第7回	**言葉を育む児童文化財　素話のシナリオづくり** 乳幼児の言葉の発達を支援するために「素話」を保育に導入することを踏まえ、言葉の響きやリズム、新しい言語表現に触れる保育教材として素話を作る。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第8回	**言葉を育てる保育実践　素話の語り（前半チーム）** 受講生の半数が素話の模擬保育を行なう。 クラスメイトの模擬保育にフィードバックを行なう。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間

第9回	**言葉を育てる保育実践　素話の語り（後半チーム）** 受講生の半数が素話の模擬保育を行なう。 クラスメイトの模擬保育にフィードバックを行なう。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第10回	**領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮したICTの活用** 領域「言葉」の特性を踏まえ、幼児の体験との関連を考慮したICTの活用方法を検討する。 幼児が自分の体験したことや考えたことを話す中で、相互に伝え合う喜びを味わう機会を設定するために、タブレット端末等を活用した遊びを構想する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第11回	**児童文化財「絵本」の歴史および言葉を育むための活用法** 絵本の歴史を理解したうえで、さまざまなジャンルや形態の絵本が存在することを知る。 数多くの絵本から、保育のねらいに即した絵本を選択したり、保育での多様な活用方法を検討したりする。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第12回	**幼児の言葉・保育者の言葉から学ぶ** 複数の幼児が遊んでいる映像を視聴し、保育者としての適切な援助のタイミング、および具体的な支援方法を検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第13回	**ダイバーシティ・インクルージョン社会における子どもの発達と言葉** 特別な支援を必要とする子どもや、多様な文化的背景をもつ子どもの困り感を理解し、当該児への合理的配慮、およびユニバーサルデザインを検討する。	授業前：授業で必要な用具を準備する。 授業後：授業でのクラスメイトの発表や教員による解説を基に復習して知識の定着を図るとともに、自己の考えを整理する。	4時間
第14回	**小学校へのつながりを意識して構想する領域「言葉」の保育内容** 子どもを取り巻く現代的課題や小学校での学習内容、および保育実践の動向を踏まえて、幼児に向けた多文化理解教育の機会を設け、保育構想の向上に取り組む。 異文化への理解を深めるために、外国語の挨拶や動物の鳴き声表現などに触れる機会を設定する保育内容を体験する。	授業前：幼児に向けた多文化理解教育の事例を調べる。授業後：授業で体験した英語遊びを、保育現場で展開できるよう整理する。	4時間

432

授業科目名	表現領域指導法Ⅰ				
担当教員名	丹羽ひとみ				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

音楽表現に関する事例を通して乳幼児の発達に即した音楽教育に関する理論を理解する。そして、幼稚園、保育園で行われている音楽活動を実際に体験し、乳幼児の音楽表現（リズム）に関わる活動を体得する。音楽表現を楽しむ乳幼児の姿や生活の理解をふまえて年齢に応じた教材、保育の流れを想定し、グループで模擬保育を計画・実践し、現場における保育者の関わり方や援助の改善方法を知る。最後に模擬保育をふまえた指導計画案を作成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	音楽に関わる領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。 模擬授業によって保育者の役割を理解できる。	領域「表現」のねらいに基づいて、音楽に関わる保育実践の指導計画を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		幼稚園教育要領、保育内容表現に関する基礎理論にもとづいた保育の指導計画案を作成できる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		広い視野に基づいた保育の指導計画案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
アセスメントシート	15 %	： 各回1点×14回（合計14点） 14点を15点に換算。 問いに対して的確に答えることができている。：1点
授業内容を問う小テスト	20 %	： ・授業内容を全て理解している：20点 ・授業内容をほぼ理解している：10～19点
保育指導案	25 %	： ・討議会の内容を踏まえ、独自の視点で指導案を作成している。：20点（独自性により～25点） ・討議会の内容を踏まえ指導案を作成している。：5～19点
定期試験	40 %	： ・35点：全講義内容をふまえ、独自の視点で書かれた解答（～40点） ・25点：講義内容に準拠した解答

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
内閣府文部科学省厚生労働省編	・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針	・ チャイルド本社	・ 2018　年

参考文献等

授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、授業内でグループ単位での実習及び発表を行う実践的内容であるので、グループワークの積極的な参加を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　メールアドレス　niwa-h@g.osaka-seikei.ac.jp
質問等あればメールで連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと表現** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・「表現」とは何か理解する。	「表現」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第2回	**表現領域の「ねらい」** ・幼稚園教育要領に示されている表現領域の「ねらい」について、表現活動を通して理解する。	表現領域の「ねらい」ついて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第3回	**表現領域の「内容」** ・幼稚園教育要領に示されている表現領域の「内容」について、表現活動を通して理解する。 ・・幼稚園教育要領に示されている表現領域の「ねらい」と「内容」の関係について、表現活動を通して理解する。	表現領域の「ねらい」と「内容」の関係について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第4回	**乳幼児の発達と表現の関わり** ・乳幼児の発達に伴う、表現の仕方の変容について理解する。	乳幼児の発達と表現の関わりついて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第5回	**表現活動のための環境構成の視点と枠組み** ・乳幼児が表現を行うために必要な環境構成の視点とその枠組みを理解する。	環境構成について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第6回	**乳幼児の音楽表現と保育①（わらべうた）** ・わらべうたのモデル保育の体験を通して、わらべうたにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループでわらべうたの保育指導案を作成する。	わらべうたについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第7回	**乳幼児の音楽表現と保育②（手遊び）** ・手遊びのモデル保育の体験を通して、手遊びにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで手遊びの保育指導案を作成する。	手遊びについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第8回	**乳幼児の音楽表現と保育③（子どもの歌）** ・子どもの歌のモデル保育の体験を通して、子どもの歌における乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで子どもの歌の保育指導案を作成する。	子どもの歌について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第9回	**乳幼児の音楽表現と保育④（音遊び）** ・音遊びのモデル保育の体験を通して、音遊びにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで音遊びの保育指導案を作成する。	音遊びについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第10回	**小テスト及び模擬保育最終準備** ・小テストを行う。 ・模擬授業に向けて保育指導案を作成及び準備を行う。	模擬保育の準備を行う。	4時間
第11回	**グループによる模擬保育①（わらべうた）** ・わらべうたの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第12回	**グループによる模擬保育②（手遊び）** ・手遊びの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第13回	**グループによる模擬保育③（子どもの歌）** ・子どもの歌の模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第14回	**グループによる模擬保育④（音遊び）**	修正保育指導案を作成する。	4時間

・音遊びの模擬保育と討議会を行う。		

432

授業科目名	**表現領域指導法Ⅱ**				
担当教員名	白波瀬達也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

保育者が子どもの造形活動に関わる意義について考え、造形活動が子どもの発達におよぼす影響について学ぶ。５領域の「表現」に関するねらいや内容を学び、豊かな感性や表現する力、創造力を豊かにする観点から、成長の連続性、保育の連続性を考えた実践力を身につけることを目指す。また、乳幼児の造形活動で用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能を習得し、視野の広い幼児理解と表現の過程を大切にする保育への理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	造形に関する活動を保育現場でおこなえる実践力	造形に関する活動を保育現場でおこなえる実践力を修得することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		自ら学んできたことを振り返り、自分なりの問題意識を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	30 %	： 授業内容を踏まえて子どもの造形表現活動の内容とその指導法、援助法が書かれている：30点。授業内容を踏まえて書かれている：18点。
最終提出物(ファイル)	20 %	： 指定の形式に沿って独自の視点で書かれている：20点。指定の形式に沿って書かれている：12点。
授業への参加度	30 %	： 教員とのやりとり対して的確に回答することを評価する。模擬保育などの取り組みは子どもの発達を５領域の「表現」観点から捉え、造形表現に関する知識や技術、活動の内容を理解しようとしているかを評価する。
レポート	20 %	： 授業内容を踏まえて造形表現に関する知識や子どもの造形表現活動の内容が書かれている：5点。授業内容を踏まえて書かれている：3点。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
槇 英子	・ 保育をひらく造形表現〈第２版〉	・ 萌文書林	・ 2018 年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針	・ チャイルド本社	・ 2017 年

幼保連携型認定こども園教育･保育
要領〈原本〉

参考文献等

『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館、2018年、ISBN9784577814475
『保育所保育指針　解説書』厚生労働省　フレーベル館、2018年、ISBN9784577814482

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

場所：　中央館4階　研究室

備考・注意事項：　授業・会議等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　造形表現について** 乳幼児の造形表現を学ぶために、表現領域におけるねらいと内容のつながりについて学ぶ	予習　：テキスト pp. 9-14 を読んで「造形表現」について考えてくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第2回	**造形活動の発達　かく活動の発達過程、つくる活動の発達過程** かく、つくる活動の発達過程を理解するために、テキストを用いて、0歳児からの活動内容を説明する	予習：テキスト pp. 63-82　造形活動の発達のかく活動を読んでくる。内容のまとめ・整理・復習	4時間
第3回	**造形表現活動と小学校の教科とのつながり** 領域「表現」における造形表現活動と小学校の教科とのつながりついて学ぶ	予習：小学校の教科とのつながりの内容を整理	4時間
第4回	**子どもの感性と表現活動（1）かく（パス）** 乳幼児が使う描画材について理解するために、パスの特性を知り使用方法について学ぶ	予習　：テキスト pp. 127　乳幼児が使う描画材について理解するためにを読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第5回	**子どもの感性と表現活動（2）かく（絵の具）** 乳幼児が使う描画材について理解するために、絵の具の特性を知り使用方法について学ぶ	予習　：テキスト pp. 132-135　乳幼児が使う描画材について理解するためにを読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第6回	**子どもの感性と表現活動（3）つくる** 乳幼児が使う道具について理解するために、造形活動で用いる道具の使い方について学ぶ	予習　：テキスト pp. 141-154　乳幼児が使う道具について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第7回	**子どもの感性と表現活動（4）感触** 素材についての理解を深めるために、紙を用いて素材の変化について体験する	予習　：テキスト pp. 22-23　乳幼児が使う素材について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第8回	**表現活動と環境（1）　子どもの表現** 素材についての理解を深めるために、粘土を用いて素材の特性を活かした活動を体験する。	予習：テキスト pp. 28-30 表現活動と環境について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第9回	**表現活動と環境（2）　感性と表現を育む環境** 表現したくなる意欲や素材との出会いを踏まえた乳幼児の活動について考える	予習：テキスト pp. 28-30 表現活動と環境について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第10回	**表現活動と援助（1）保育案の作成（内容と援助）** 造形に関する模擬保育をするために、活動内容や援助について学ぶ	予習：テキスト pp. 88-106 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第11回	**表現活動における評価と保育者の関わり　保育案の作成（準備）** 造形に関する模擬保育を実践するために、評価と保育者の関わりを学ぶ	予習：テキスト pp. 101-107 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第12回	**素材研究と実践（1）模擬保育** 各グループにわかれて造形に関する模擬保育を実践する	予習：テキスト pp. 107-124 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第13回	**素材研究と実践（2）模擬保育** 各グループにわかれて造形に関する模擬保育を実践する	予習：テキスト pp. 107-124 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第14回	**実践のふりかえりとICTの活用について**	予習：テキスト pp. 125-190 造形に関する実践事例を理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間

造形に関する模擬保育実践のふりかえりをおこない、ICTの活用ついてをファイルにまとめる		

授業科目名	幼児理解				
担当教員名	齋藤久美子・矢本洋子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

人間の発達に関わる心理学的知識の修得を前提として、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解することを目的とする。また、乳児および幼児の個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力の基礎を培う。このため、幼児理解に関わる理論および方法について、様々な方法を通して学ぶ。また、保幼小接続、保育者間の協働、保護者との連携など、現代の保育課題と発達援助および保育実践の関係についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	発達心理学的知識の修得と保育実践	保育の専門家として、心理学の知識をもとに子どもの心身の発達を理解することができる。さらに個々の子どもの個性を理解し保育することの大切さを知る。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を省察することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		一人ひとりの子どもに寄り添い、理解しつつ関わる保育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（1点×14回）	14 %	： 演習への積極的参加と発表、質問に対する積極的・適切な答えを総合して評価する。
プリント等授業内課題（5点×14回）	70 %	： プロントやGC課題を通して、授業での学びを的確に示しているかを評価する。
学期末レポート	16 %	： 課題の条件を満たし、十分に情報を収集し心理学的観点からまとめた上で、独自の見解を述べているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。
・文部科学省 厚生労働省 内閣府　2017『平成29年告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞』チャイルド本社　ISBN978-4-8054-0258-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後の時間に対応する。他は初回授業時に連絡する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：子どもの理解と援助とは** 子どもの発達の把握と保育者の専門性 生きる力の基礎と多様な経験 子ども理解における発達の把握	シラバスに目を通して臨むこと	1時間
第2回	**保育者と子どもとのかかわり** 人的環境としての保育者 保育者とのかかわりのなかで育つもの 育ちと学をうながす保育者	愛着についての知識を復習しまとめる	1時間
第3回	**子どもの仲間関係と遊び** 仲間と過ごす意味 遊びの姿から仲間関係の発達を読み取る いざこざの発達	仲間関係についての知識を復習しまとめる	1時間
第4回	**自己主張と自己統制** 自我の芽生えと自己主張 幼児期の自己主張、自己抑制の発達 折り合いをつける体験から学ぶこと 自己調整力を育むための保育者の関わり	自己についての知識を復習しまとめる	1時間
第5回	**集団での活動と環境** 個と集団 集団の中での活動の意義	集団生活や環境構成についての知識を復習しまとめる	1時間
第6回	**協同的な活動** 協働的な活動と環境構成 協働的な活動の実際	協同的な活動についての知識を復習しまとめる	1時間
第7回	**保育観察と記録、振り返り** ウェブ、ドキュメンテーションの実際	保育記録の案を準備する	1時間
第8回	**基本的生活習慣の獲得と主体性** 基本的生活習慣獲得の援助 基本的生活習慣と主体性の育ち	基本的生活習慣についての知識を復習しまとめる	1時間
第9回	**発達課題に応じた援助や協働** 乳幼児期おける発達課題 保育者における援助、保育者同士の協働 「気になる子」への対応と協働 専門家との協働、保護者との協働	発達障害についての知識を復習しまとめる	1時間
第10回	**発達と学びの連続性と就学支援** 接続期における戸惑い 接続期カリキュラム 就学支援と保護者支援	接続期についての知識を復習しまとめる	1時間
第11回	**乳幼児をもつ家族の現状** なぜ子育てがつらいのか 父親の育児参加との関連 母親の就業との関連 ライフワークバランスを目指す社会へ	子育て支援についての知識を復習しまとめる	1時間
第12回	**子どもの発達に影響する要因** 子どもの気質 子どもの養育環境	子どもの養育環境についての知識を復習しまとめる	1時間
第13回	**保育園・幼稚園における子育て支援** 子育て支援施策の流れ 園における子育て支援 園に対する要望と園側の意識 様々なニーズへの対応	子育て支援制度についての知識を復習しまとめる	1時間
第14回	**親子を支えるカウンセリング** 環境移行への配慮 保護者との関係構築 応答の可能性	カウンセリングマインドについての知識を復習しまとめる	2時間

431

授業科目名	**保育原理**				
担当教員名	石田貴子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、保育の意義や制度、思想、歴史、現状と課題等、保育に関する基本的な事柄を学び、保育の本質と目的を理解することをねらいとする。まず、「保育」の意味と意義･目的について学び、保育に関する法令及び制度を理解する。その上で、代表的な保育施設である保育所の保育について学び、保育所保育指針の基本を理解する。さらに、保育の思想と歴史的変遷を理解した上で、現状を俯瞰し、現代社会における保育の様々な課題について理解を深め、保育者の立場に立って今後の保育のあり方を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育についての基礎的知識及び保育の現状と課題についての理解	保育の意義と基本原則、制度、思想、歴史的変遷を理解し、保育の現状と課題について考察することができる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	毎回の事前ワークに自分なりの視点で取り組むことができる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	他者の見方・考え方等を知り、それぞれの良さに気付くことができる
3. DP７.忠恕の心	グループワークに積極的に参加し、意見を交換することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内での課題達成	40 %	： 各回3点満点×13回+14回目1点で評価する。必要事項が全て書き込まれていれば2点、さらに自分なりの視点での学びが記されていれば3点、部分的不足があれば1点とする。
授業への積極的参加･貢献	10 %	： 事前ワークの提出と内容、交流への積極的参加と発表、質問に対する適切な答えを総合して評価する。
定期試験	50 %	： 保育の意義と制度、基本原則、思想、歴史的変遷を適切に理解しているか(40点)、保育の現状と課題を適切に理解し、論理的に対応策を述べることができているか(10点)で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン	・ チャイルド本社	・ 2024　年
厚生労働省	・ 保育所保育指針解説	・ フレーベル館	・ 2018　年
伊藤潔志　編著	・ 哲学的な考えをいかす新・保育原理	・ 教育情報出版	・ 2024　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で通知します

場所：　中央館2Ｆ研究室

備考・注意事項：　質問先：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学部(教育学部以外)・学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れること

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。また、DVD「保育士の仕事と役割」を視聴し、保育所保育についてイメージを持つ。	予習：シラバスを読み、授業概略を理解する。また、保育所保育指針を通読しておく。	4時間
第2回	**保育の意義と目的(1)（保育の理念と概念）** 「保育」という言葉の意味を手がかりに、保育とは何かについて考察し、保育の理念と概念を理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育、教育、養護、福祉	4時間
第3回	**保育の意義と目的(2)（保育の社会的役割と責任）** 現代社会の状況と保育が行われる場について学び、保育の社会的役割と責任を理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：家庭、保育施設、子どもの最善の利益	4時間
第4回	**保育に関する法令･制度** 保育に関する法令と保育所保育指針の位置づけ、保育の実施体系について学び、保育の制度への理解を深める。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：児童福祉法、保育所保育指針、子ども・子育て支援新制度	4時間
第5回	**保育所保育指針における保育の基本(1)（基本原則）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育所保育の特性と基本原則を理解する。	予習：保育所保育指針第1章1を精読し、事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第6回	**保育所保育指針における保育の基本(2)（養護）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、「養護」及び「養護と教育の一体性」について理解する。	予習：保育所保育指針第1章2を精読し、事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第7回	**保育所保育指針における保育の基本(3)（保育の目標）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の目標について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の目標、育みたい資質･能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、ねらい	4時間
第8回	**保育所保育指針における保育の基本(4)（保育の内容）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の内容について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の内容、領域	4時間
第9回	**保育所保育指針における保育の基本(5)（保育の環境と方法）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の環境と方法について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：環境、遊び、発達	4時間
第10回	**保育士の専門性** 幼稚園教諭との比較などを通し、保育士に求められる専門性と資質･能力の向上について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育士、専門性、研修	4時間
第11回	**保育の計画と展開** 保育所保育指針にもとづき、保育の計画･実践･記録･省察･評価･改善の過程について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の計画、評価、改善	4時間
第12回	**保育の思想と歴史的変遷(1)（諸外国の保育の思想と歴史）** 諸外国の保育の思想と歴史について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：ルソー、ペスタロッチ、オーベルラン、オーエン、フレーベル、デューイ	4時間

第13回	**保育の思想と歴史的変遷(2)（日本の保育の思想と歴史）** 日本の保育の思想と歴史について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：東基吉、和田実、倉橋惣三、城戸幡太郎、赤沢鍾美、野口幽香	4時間
第14回	**保育の現状と課題（子ども･子育て支援新制度）** 少子化対策の変遷を踏まえ、子ども･子育て支援新制度の現状と課題について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：少子化、子ども・子育て支援新制度、保育の質の向上	4時間

431

授業科目名	保育の心理学				
担当教員名	齋藤久美子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

乳幼児期に子どもは何を経験し、何がはぐくまれることが大切なのか、そのためには保育に何が求められているのか、といった問いに対して人の発達という視点から考えることを目的とする。このため、人の発達に関する理論や人の発達を明らかにするための研究方法について学ぶ。また発達心理学の研究成果と実際の保育現場、学校現場での子どもの生活・教育、保護者との連携や子育て支援とをできるだけ具体的に結び付けて理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	発達心理学の専門知識の修得	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加・小テスト	14 %	： 授業への積極的参加と質問に対する積極的な答えを総合して評価する。小テストは予告の上、中間時期に一度実施する。
授業内プリント（1点×14回）	14 %	： 授業内に記入したプリントを毎回提出する。全て記入で1点。書き漏らし・間違い、提出遅れは、不備に応じて減点する。
GC課題（2点×14回）	28 %	： 各回0～2点で評価する。授業のポイントを十分に理解していれば2点、誤りや不足、遅延があれば減点する。重大な誤り等があれば0点とする。
学期末試験	44 %	： 授業内容を十分に理解できているかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

片桐正敏・藤本愉・川口めぐみ	・保育の心理学：育ってほしい10の姿	・中山書店	・2022　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むこと。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後に対応する。他は初回授業時に連絡する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの発達を理解する意義** それぞれの時期の子どもの発達や個人差を理解し、保育のはたらきかけをどう行えばよいかを考える。	第1章1節を読んでおく。シラバスを読み、授業の概略を理解する。	4時間
第2回	**発達理論と子ども観・保育観** 発達は何によって展開すると考えているのか、それぞれの子ども観をピアジェ等の発達理論と関連させて考える。	第1章2節を読んでおく。自らの子ども観・保育観について考える。	4時間
第3回	**乳幼児期の身体的機能と運動機能** 乳幼児期の身体発達や運動発達を理解し、発達変化に合わせた保育内容について考える。	第1章3節を読んでおく。乳幼児期の身体的機能と運動機能について考察する。	4時間
第4回	**社会情動的スキルの発達** 自立心と認知的スキル、社会情動的スキルとの関係について理解する。	第2章4節を読んでおく。社会情動的スキルの重要性について考察する。	4時間
第5回	**社会性の発達** 乳児期における社会性や、協同性の発達について理解する。	第2章5節を読んでおく。社会性・協同性について考察する。	4時間
第6回	**道徳性・規範意識の発達** 道徳・正義感の発達について理解する。	第2章6節を読んでおく。道徳性・規範意識の発達について考察する。	4時間
第7回	**社会適応能力の発達** 社会適応能力をはぐくむ社会生活とのかかわりについて理解する。	第2章7節を読んでおく。社会適応能力と社会生活とのかかわりについて考察する。	4時間
第8回	**乳幼児の学びと理論・小テスト** 乳幼児の思考力の芽生えと発達について理解する。 小テストを実施する	第3章8節を読んでおく。思考力の発達について考察する。	4時間
第9回	**子どもの発達と環境・小テスト** 身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用について理解する。 授業内に小テストを実施する。	第3章9節を読んでおく。子どもの発達にとっての環境の重要性について考察する。	4時間
第10回	**認知・学習の発達** 数量や図形、標識や文字などへの関心感覚や認知・学習の発達について理解する。	第3章10節を読んでおく。認知・学習の発達について考察する。	4時間
第11回	**言葉の発達** 言語発達について理解する。	第3書11節を読んでおく。言語発達について考察する。	4時間
第12回	**感性と創造性の発達** 豊かな感性と表現の発達について理解する。	第3章12節を読んでおく。感性と創造性の発達について考察する。	4時間
第13回	**乳幼児期の学び・発達を支える保育** 乳幼児期の学びや乳幼児の発達を支える保育方法について理解する。	第4章13，14節を読んでおく。学びや発達を支える保育について考察する	4時間
第14回	**乳児期の子どもを持つ保護者を支える** 保育における子育て支援について理解する。	第4章15節を読んでおく。保護者を支える具体的な支援方法について考察する。	4時間

432

授業科目名	子ども家庭福祉				
担当教員名	今井涼				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童相談所で児童福祉司として児童虐待対応に従事した実務経験あり（全14回）				

授業概要

本授業では、子ども家庭福祉について、その意義、歴史的変遷、法制度実施体系、子どもの人権擁護等に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで現代社会における少子化、保育ニーズの多様化といった現状や児童虐待、ドメスティックバイオレンス、子どもの障害、少年非行、子どもの貧困などの問題の実態を学び、子ども家庭福祉の動向と展望について考察を深める。これらをとおして、少子化から派生する課題や保育ニーズの多様化に応える必要性をふまえつつ、子どもと家庭をめぐる福祉問題において保育士が果たすべき役割を自覚し、子どもの権利擁護を追求する専門性を身につけることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	子どもと家庭をめぐる現状と歴史の理解、法制度、施策、社会資源などの体系的理解。	子どもと家庭をめぐる諸課題について歴史的経緯、理念、法制度や社会資源等を理解する。また、保育の実践における福祉の視点の意義をふまえ、課題にどう向き合うのか、子どもの権利擁護の観点から記述できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもと家庭の福祉をめぐる歴史的経緯、現状、法制度、施策上の課題について、自身の考えを述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業毎のリアクションペーパー	28 %	授業毎に感想等を求める。講義内容を吟味、整理し、制度、施策、支援上の課題や疑問等を発見し、明確に述べることができているかを評価する。
授業参加の姿勢	14 %	学修に対する意欲やワークなどに対する取り組み方を評価する。
小テスト	24 %	保育専門職として身につけなければならない知識を問う。3回実施予定。
期末レポート	34 %	与えられたテーマについて、子どもの権利擁護の視点から制度、施策、支援上の課題を論理的に述べることができているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

公益財団法人児童育成協会（監修）、新保幸男・小林理（編集）、『新基本保育シリーズ③　子ども家庭福祉　第２版』（中央法規、2023、ISBN978-

4805887868）

その他の参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する。

場所： 初回授業時に提示する。

備考・注意事項： 初回授業時に提示する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、子ども家庭福祉の基本** ①本授業の目標、内容、授業計画、評価方法に関する説明を行う。 ②子ども家庭福祉の基本、現代家族の特徴、少子化などの社会の動向を理解する。また、児童の権利条約に規定される子どもの権利について学ぶ。	予習としてテキスト第1講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。また、子どもの最善の利益についての自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第2回	**子ども家庭福祉の歴史と外国の動向** 日本、イギリス、アメリカの子ども家庭福祉をめぐる歴史について学ぶ。	予習としてテキスト第2講を熟読しておくこと。復習として、日本、イギリス、アメリカの三項目に分けて授業内容の要点を整理し、ノート等に整理すること。	4時間
第3回	**子どもの権利擁護** 子どもの権利擁護の歴史的な変遷と児童の権利条約、子どもの権利を擁護するためのしくみについて理解する。	予習としてテキスト第3講を熟読しておくこと。復習として、児童の権利条約の全文を調べて読み込み、児童の最善の利益の追求の観点から日本が課題としている項目を選び、自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第4回	**子ども家庭福祉に関する制度と実施体制** 子どもの家庭福祉の制度と法体系及び子ども家庭福祉の実施体系について理解する。また、子どもの権利擁護と現代社会における課題について学ぶ。	予習としてテキスト第4講を熟読しておくこと。復習として、それぞれの法制度及び実施体系について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第5回	**子ども家庭福祉に関する施設と専門職** 子ども家庭福祉に関わる施設の種類やその設置と運営を学ぶ。また、子ども家庭福祉に携わる専門職について学ぶ。	予習としてテキスト第5講を熟読しておくこと。復習として、各施設及び各専門職について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第6回	**少子化の問題と地域子育て支援** 少子化の問題と地域の子育て支援制度、施策、事業などについて理解する。	予習としてテキスト第6講を熟読しておくこと。復習として少子化がもたらす子育ての環境の変化と、地域における子育てサポートの意義について自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第7回	**母子保健施策と子どもの健全育成施策** 母子保健に関わる施策と子どもの健全育成に関わる施策について学ぶ。	予習としてテキスト第7講を熟読しておくこと。復習として、母子保健の施策についてまとめ、子ども虐待の発生予防における母子保健のサービスの意義についてノート等に自分の考えをまとめること。	4時間
第8回	**多様化する保育ニーズへの対応** 現代日本において多様化する保育ニーズに応えるための保育の施策について学ぶ。	予習としてテキスト第8講を熟読しておくこと。復習として保育の施策ついて整理し、多様な保育サービスの展開における課題についてノート等に自分の意見をまとめること。	4時間
第9回	**児童虐待問題とドメスティックバイオレンス問題** 家庭内の子どもの権利侵害としての児童虐待とドメスティックバイオレンスについて学び、保育士としての対応方法を学ぶ。	予習としてテキスト第9講を熟読しておくこと。復習として、児童虐待を発見した場合のチームアプローチにおいて保育士が直面する困難や課題について、自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第10回	**子どもの貧困問題と外国籍の子どもや外国にルーツをもつ子どもへの対応** 子どもの貧困問題とその対策について学ぶ。また、外国籍の子どもや外国にルーツをもつ子どもの困難や対応について学ぶ。	予習としてテキスト第10講を熟読しておくこと。復習として、子どもの貧困問題あるいは外国籍の子どもや外国にルーツをもつ子どもをめぐる困難の問題について、サポートをそれぞれ一つずつ考案すること。	4時間
第11回	**社会的養護** 社会的養護の制度や施策の概要について学ぶ。	予習としてテキスト第11講を熟読しておくこと。復習として授業の要点をノートにまとめること。	4時間

第12回	**障害のある子どもへの支援** 障害のある子どもに対する支援について学ぶ。	予習としてテキスト第12講を熟読しておくこと。復習として、障害のある子どもの育ちを支援する保育士の役割について自分の考えをまとめること。	4時間
第13回	**少年非行等への対応** 非行のある少年への対応について学ぶ。	予習としてテキスト第13講を熟読しておく。復習として、非行少年への対応における福祉の意義について自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第14回	**子ども家庭福祉の動向と今後の展望** 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶ。また、地域における連携・協働とネットワークについて学ぶ。	予習としてテキスト第14講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。また、これまでの授業で学んだテーマから一つ選んで、子ども家庭福祉をめぐる法制度や施策あるいは支援における課題について、保育士として子どもの権利擁護を追求する視点から自分の考えをノート等にまとめること。	4時間

433

授業科目名	**社会福祉**				
担当教員名	塩田祥子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2003年秋から2004年夏にかけて、大阪府社会福祉協議会第三者評価事業の立ち上げに嘱託研究員として従事。また、2001年から社会福祉現場での研修活動を続けている（全14回）。				

授業概要

日本は本格的に少子高齢社会を迎え、さらに、家族のあり方も多様化している。その中で、既存の制度の枠で、個人、家族、地域を支えることは限界があり、新たな仕組みづくりが求められている。また、経済成長に重きを置いた世の流れは、それに乗れるもの、乗れないものを作り出している。そこで本科目では、社会の中で生きづらさを抱えている人、その問題に焦点をあて、その支援のあり方、具体的な方法、社会資源の実際、仕組みづくり等について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	社会状況の知識	メディア、新聞、ネットなどにより社会状況（政治、経済、歴史）について知識を得ることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	社会資源の知識	地域社会における社会資源について、ネット等から情報を得ることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		世の中の当たり前、常識のみに捉われるのではなく、常に疑問を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

各項目ごとに、授業時、提出物あり。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度、授業への参加度	40 %	： 毎回、授業内容まとめを提出してもらう。授業内容に関することがわかりやすく、丁寧に記載されているのか、まとめられているのかを確認する。記載時間は、授業内に指示。その時間内に書くことで評価対象とする。
振り返りシートの記入	10 %	： 3回に1度の割合で、提出物あり。
定期試験	50 %	： 授業総括にあたる50点満点のテストを行い、成績に反映する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
立花直樹・田邊哲男・馬場幸子・灰谷和代・西川友里・矢ヶ部陽一編著	・ 社会福祉	・ ミネルヴァ書房	・ 2024 年

参考文献等

授業ごとに、その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会福祉授業の概要** 授業の進め方、ミニレポート等の説明。社会福祉という学問についての説明。教科書の確認	新聞記事やネットニュースを確認のうえ、社会について興味をもつ。その上で、ノートの作成、確認　【キーワード】社会福祉における社会	4時間
第2回	**社会福祉の道すじ** 戦後の社会福祉制度の変遷、支援のあり方の移り変わりについて説明、学習。	教科書2の内容を確認、ノートの作成　【キーワード】社会福祉の歴史	4時間
第3回	**社会福祉の意味と考え方** なぜ、福祉ではなく、社会福祉とされるのか、考える。	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】社会における福祉	4時間
第4回	**社会福祉の実施体制と財源** 社会福祉の公的機関、民間団体、サービスの種類等を学ぶ。	自身の住んでいる地域の社会資源情報について確認、ノートの作成　【キーワード】社会資源	4時間
第5回	**暮らしを支える社会保障制度** 公的年金、医療保険等の社会保障制度について学ぶ。	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】社会福祉の法と制度	4時間
第6回	**子どもと家族の福祉** 子ども家庭福祉についての学び。	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】子ども家庭福祉	4時間
第7回	**障害のある人の福祉** 障害のある人の福祉における法制度、支援の実際について学ぶ。	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】障害福祉	4時間
第8回	**高齢者の福祉** 高齢社会の実際、高齢者介護における実際とその問題、課題について学ぶ。	自分が暮らす地域の地域包括支援センターについて調べ、ノートの作成　【キーワード】高齢者福祉	4時間
第9回	**高齢者虐待、障害者虐待、児童虐待の実際** それぞれの虐待の実際や背景を知り、防止法の比較検討を行う。	新聞記事、ネットニュース等で虐待の実際を調べ、ノートの作成　【キーワード】虐待	4時間
第10回	**地域福祉** 地域で暮らすということについて考える。また、社会福祉協議会について学ぶ。	自らの地域の特徴をノートにまとめる　【キーワード】地域福祉	4時間
第11回	**地域診断** 自らの地域の特徴をつかみ、まとめ、どのようなニーズがあるのか考える。	授業時配布の地域診断表をまとめる　【キーワード】地域診断	4時間
第12回	**社会福祉の専門職と倫理** 福祉専門職における価値、倫理について学ぶ。	保育士倫理綱領を確認、ノートの作成　【キーワード】専門性	4時間
第13回	**ソーシャルワーク** 社会福祉実践に求められる専門性について考える。さらに、ソーシャルワークとはについて講義をしていく。	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】ソーシャルワーク、人権	4時間
第14回	**利用者の権利擁護とサービスの質** 憲法25条、人権について考える。 授業全体に求められる視点、社会福祉とはについての確認、保育士に求められる資質の確認	倫理綱領の作成【キーワード】人権	5時間

433

授業科目名	子ども家庭支援論				
担当教員名	鈴木大介・中川陽子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービスおよび移動介護、家族支援に従事（全14回）				

授業概要

子ども家庭支援の意義と役割を踏まえた上で、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。その上で、子育て家庭に対する支援の体制について理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の在り方について理解を深める。

具体的には次の3項目をねらいとする。
1．現代社会における子ども家庭支援の意義と役割を理解する。
2．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を理解する。
3．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援について関係機関との連携を踏まえて理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	子ども家庭支援の意義とその機能について理解する。	現代社会において子育て家族を取り巻く諸課題を的確にとらえることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	子育て家庭及びその取り巻く社会的状況等を理解する。	子育て家庭への支援体制及び関係機関との連携について、日々の保育実践を関連づけてとらえることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		社会の今日的課題を的確にとらえることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30 %	： 各回授業において、授業内容のポイントを押さえた予習シートが作成されているか、授業での学びを的確に示しているかについて評定します。
レポート	30 %	： 授業内で指示する２つの課題について、次の点を評定する。 ・家族の今日的課題を的確にとらえ、専門的な知見から、課題・問題点を論じているか。 ・個々の家族の事例を専門的な知見からとらえているか。
定期試験	40 %	： 以下の点を中心とした課題への取組を評価する。 ・子ども家庭支援をめぐる法体系、制度への理解 ・子ども家庭支援の意義と機能への理解 ・関係機関との連携を踏まえた保育士としての専門性

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
才村純・芝野松次郎・新川泰弘編著	・子ども家庭支援・子育て支援入門	・ミネルヴァ書房	・2021　年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
予習シート作成を中心とした「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
具体的には、受講生全員に各回の講義に先立ち、あらかじめ提示したキーワードをもとに予習内容をまとめた予習シートの作成を義務づける。授業においては各自の予習シートの内容を確認しながら、当該授業内容について加筆するなどして基礎的理解を図った上で講義に臨むことができるようにする。
その上で授業終了時点で、授業で学んだことなどをまとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

＜開講日程についての注意事項＞
本科目の主たる履修対象者である幼児教育コース３年次生の児童福祉施設における保育実習期間中は開講せず、別の日程を通常授業に加えて実施する。日程については履修オリエンテーション等において連絡する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に提示する

場所：　各教員による

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
メールアドレスは初回授業時に提示する。
ただし、件名に「子ども家庭支援論：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　子ども家庭支援論を学ぶ意義と必要性を理解する。** 保育専門職として子育て家庭を支援していく必要性を考えていきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回	**保育士が行う家庭支援の原理** 全体としての家族をとらえる視点から保育士が行う家庭支援を考えていきます。 キーワード：子ども家庭福祉の理念、子どもの最善の利益、第一義的責任	予習シートの作成（子育て支援の必要性について）	4時間
第3回	**子育てを自ら実践する力の向上に資する支援** 子育て家庭に関わる実践力向上に資する支援とはどういうものかを考えていきます。 キーワード：自己決定　子育ての喜び　家庭の教育力	予習シートの作成（家庭の教育力について）	4時間
第4回	**子ども家庭支援において支援者に求められる基本的態度** 子育て家庭への支援にあたって求められる支援者の基本的態度について考えていきます。 キーワード：受容　共感的理解　信頼関係　秘密保持	予習シートの作成（人権に配慮した保育について）	4時間
第5回	**家庭の今日的状況とそれに応じた支援** 地域社会の変容という視点から家族の置かれた今日的状況を考えた上で、支援に在り方を考えていきます。 キーワード：子育て家庭の孤立　地域の子育て力	予習シートの作成（核家族の孤立化について）	4時間
第6回	**子ども家庭支援に関連する法と制度** テキスト該当部分である56～69ページをもとに家庭を支援する基本的枠組みをとらえていきます。 キーワード：児童福祉法　児童福祉六法　児童相談所　児童福祉施設	予習シートの作成（子育て支援のための法制度について）	4時間
第7回	**子育て支援サービスの体系とその内容** 子育て支援サービスを体系的に理解していきます。 キーワード：子育て支援サービス　子ども・子育て支援新制度	予習シートの作成（子育て支援事業と実施体制について）	4時間
第8回	**子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進と地域の社会資源の活用** 子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進にあたっての地域の社会資源の活用について考えていきます。 キーワード：次世代育成支援	予習シートの作成（次世代育成支援について）	4時間
第9回	**保育所入所児童の家庭への支援** 保育所における家庭支援を考えていきます。 キーワード：保育所の役割　子どもの最善の利益	予習シートの作成（保育所保育指針における子育て支援について）	4時間
第10回	**地域子育て家庭に対する支援の実際** 地域子育て支援について実践事例をもとに理解を深めます。 キーワード：地域子ども・子育て支援　ドロップインセンター	予習シートの作成（地域子ども・子育て支援事業について）	4時間
第11回	**要保護児童及びその家族に対する支援１（児童虐待への対応）**	予習シートの作成（児童虐待の定義・現状について）	4時間

	児童虐待の現状と世代間伝達を断ち切るための保育者の役割を考えていきます。 キーワード：要保護児童とその家族　児童虐待　世代間伝達		
第12回	**要保護児童及びその家族に対する支援２（障害のある子どもと家族への対応）** 保育士としての障がいのある子どもと家族への対応を考えていきます。 キーワード：障がい　保育者の役割　社会資源	予習シートの作成（障がいのある子どもと家庭への支援）	4時間
第13回	**子育て支援サービスの今後の方向性** 保育等の子育て支援サービスに関する課題・背景と解決の方向性について考えていきます。 キーワード：子育て支援サービス　アウトリーチ	予習シートの作成（子育て支援サービスにおけるアウトリーチサービスについて）	4時間
第14回	**保育士が行う子ども家庭支援の専門性** 保育士の専門性を確認した上で、子ども家庭支援に関わる倫理・知識・技術について、確認していきます。 キーワード：ソーシャルワーカーとしての保育士	予習シートの作成（保育士の専門性・保育相談支援の技術について）	4時間

432

授業科目名	**社会的養護Ⅰ**				
担当教員名	今井涼				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童相談所で児童虐待対応等に従事した実務経験あり（全14回）				

授業概要

本授業では社会的養護について、理念と概念、歴史的変遷、基本原則、倫理と責務などを学び、保育士として社会的養護の課題に取り組む意義を理解する。また、社会的養護における実践の基盤となる、法制度、実施体系、対象、形態、専門職に関する知識を習得し、社会的養護の現状と課題について学ぶ。これらをとおして、子どもの権利擁護に取り組む保育士の専門性と責務を自覚し、子どもをめぐるさまざまな課題に向き合うための基礎知識と実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	社会的養護について、その意義、歴史的変遷、子どもの人権擁護、基本原則、保育士の倫理と責務、制度と実施体系、対象、形態、専門職、現状と課題など、実践のための専門的な知識を理解し、修得する。	社会的養護の実践を支える各種の知識について、包括的、体系的に理解し、説明できる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	現代日本の社会的養護において小規模化や家庭養護が推進される現状をふまえ、保育専門職として子どもの権利擁護の課題にどう向き合うのか、自身の考えを述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業毎のリアクションペーパー	28 %	： 授業毎に感想等を求める。講義内容を吟味、整理し、制度、施策、支援上の課題や疑問等を発見し、明確に述べることができるかについて評価する。
授業参加の姿勢	14 %	： 学修に対する意欲やワークなどに対する取り組み方を評価する。
小テスト	24 %	： 保育専門職として身につけなければならない知識を問う。3回実施予定。
期末レポート	34 %	： 与えられたテーマについて、子どもの権利擁護の視点から社会的養護における制度、施策上の課題、保育専門職の支援上の課題を論理的に述べることができているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

公益財団法人児童育成協会（監修）、相澤仁・林浩康（編集）『新基本シリーズ⑥　社会的養護Ⅰ　第２版』（中央法規、2023、ISBN978-4805887899）

その他の参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に提示する。

場所：　初回授業時に提示する。

備考・注意事項：　初回授業時に提示する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、社会的養護の基本** ①本授業の目標、内容、授業計画、評価方法に関する説明を行う。 ②社会的養護の理念と基本的な原理について学ぶ。	予習としてテキスト第1講を熟読しておくこと。復習として授業内容の要点を整理し、ノート等にまとめること。また、社会的養護の理念や基本的な原理について自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第2回	**社会的養護の歴史** イギリス、アメリカ、日本における社会的養護の歴史的な変遷を学ぶ。また、子ども観の変遷と子どもの権利保障をめぐる経緯について理解する。	予習としてテキスト第2講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を項目立てて整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第3回	**子どもの権利擁護と社会的養護、社会養護の基本原則** 社会的養護における子どもの権利擁護のためのしくみや取り組みについて学ぶ。	予習としてテキスト第3講及び第4講を熟読しておくこと。復習として、①なぜ子どもは人権侵害されやすいのか考察し、子どもの権利擁護の意義についてノート等に自分の考えをまとめること、②社会的養護における家庭養育優先の原則の意義と課題について自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第4回	**社会的養護における保育士等の倫理と責務** 対人支援、社会的養護をめぐる倫理と責務や保育士の倫理と責務について理解する。	予習としてテキスト第5講を熟読しておくこと。復習として授業内容の要点を整理し、ノート等にまとめること。また、対人支援における倫理の意義と責務の自覚の重要性について、自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第5回	**社会的養護の制度と法体系** 社会的養護に関わる法制度について理解する。	予習としてテキスト第6講を熟読しておくこと。復習として社会的養護に関わる法制度について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第6回	**社会的養護のしくみと実施体系** 児童相談所の役割や措置のしくみ、社会的養護の実施体系などについて理解する。	予習としてテキスト第7講について熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第7回	**社会的養護とソーシャルワーク** ソーシャルワークの視点と意義について理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの取り組みについて学ぶ。	予習としてテキスト第8講を熟読しておくこと。復習として、保育士がソーシャルワークの視点をもつ意義について自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第8回	**社会的養護の対象と支援のあり方** 社会的養護の支援の実際について学ぶ。	予習としてテキスト第9講を熟読しておくこと。復習として、代替養育における子どもの支援の意義について、子どもの権利擁護の観点から自分の考えをノート等にまとめること。	4時間
第9回	**家庭養護と施設養護** 家庭養護、施設養護の現状、役割、課題になどついて理解する。	予習としてテキスト第10講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第10回	**社会的養護にかかわる専門職** 社会的養護に関わる専門職について学び、他職種と連携、協働して支援にあたる意義を理解する。	予習としてテキスト第11講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第11回	**社会的養護にかかわる社会的状況** 社会的養護を必要とする社会的背景や家庭状況等について理解する。	予習としてテキスト第12講を熟読しておくこと。復習として、厚生労働省webサイトで公表されている最新の「児童養護施設入所児等調査の結果」を参照し、養護問題発生理由等をノート等に整理する。また同データから読み取れる状況について考察し、自分の考えをノート等にまとめること。	4時間

第12回	**施設等の運営管理の現状と課題** 施設等の設置、運営、管理等に関する規定やしくみ等について学ぶ。	予習としてテキスト第13講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第13回	**施設養護の概要、被措置児童等の虐待防止の現状と課題** 各施設養護の概要について学ぶ。また、被措置児童等の虐待防止のためのしくみ、取り組み等について学ぶ。	予習としてテキスト第14講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	4時間
第14回	**社会的養護と地域福祉の現状及び課題** 措置を終えた子どもの支援や地域で生活する子どもの支援等、地域における社会的養護について学ぶ。	予習としてテキスト第15講を熟読しておくこと。復習として、地域で生活する子どもと保護者に対する支援の意義と、保育士の役割について、自分の考えとノート等にまとめること。また、これまでの授業でふれた社会的養護に関する課題のうち一つ選んで、子どもの権利擁護を図る保育士の役割について、自分の考えをノート等にまとめること。	4時間

433

授業科目名	社会的養護Ⅱ				
担当教員名	今井涼				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童相談所で児童虐待等に従事した経験あり（全14回）				

授業概要

本授業では社会的養護の内容、実際、実態等についてより具体的に学び、子どもの権利擁護としての社会的養護の意義を理解し、課題と展望について考える。また、社会的養護における計画、記録、アセスメント、相談援助等の技術について、その方法と活用する力を習得することで、子どもの支援を組み立て、実践し、課題に取り組む保育士としての専門性を養う。これらの知識、技術、見識は、ワークや事例の検討、カンファレンス、ロールプレイング等をとおして、より実践に即した形で身につける。こうした学びをとおして保育士としての専門性と役割を認識し、他職種と円滑に協働、連携するための共通の基礎理解と実践力を築く。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	社会的養護の現状及び実際と、アセスメント、記録、計画などの手法及び相談援助の理論・方法・技術を理解する。	社会的養護の実態や各形態の特徴を理解し、子どもの権利擁護を実現する支援のあり方について考えを記述することができる。また、アセスメント、記録、計画、相談援助の理論・方法・技術について説明できる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		グループワークやカンファレンス、ロールプレイング等をとおした意見交換及び事例の検討をとおして、多様な考えを尊重し合いながら合意形成を行い、協働して課題の解決に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業毎のリアクションペーパー	28 %	： 授業毎に感想と質問等を求める。授業を通して、自己の学びを進化させているか、新たな気づきを得ているか、問いを投げかけることができているかの3点について評価する。
事例カンファレンス、ロールプレイ	28 %	： 具体的な事例をもとに展開されるカンファレンスやロールプレイに対して、保育士としての専門性を高める意識を持ち、積極的に関与できているか。 また対人援助の基本姿勢を獲得できているか。
期末レポート	44 %	： 与えられたテーマについて、子どもの権利擁護を基盤とした保育専門職の観点から、論理的に述べることができているか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

公益財団法人児童育成協会（監修）、相澤仁・村井美紀・大竹智（編集）『新基本シリーズ⑱　社会的養護Ⅱ』（中央法規、2019、ISBN978-4805857984）

その他の参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する。

場所： 初回授業時に提示する。

備考・注意事項： 初回授業時に提示する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、子どもの権利擁護** ①本授業の目標、内容、授業計画、評価方法に関する説明を行う。 ②児童の権利条約に規定される子どもの権利を確認し、子どもの権利を擁護するための取り組みやしくみを学ぶ。	予習としてテキスト第1講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間
第2回	**社会的養護における子どもの理解** 社会的養護のもとで生活する子どもの実態、家庭環境、アセスメントのための基本的な視点を学ぶ。	予習としてテキスト第2講を熟読しておくこと。復習としてテキスト第2講の演習2-③に取り組むこと。	1時間
第3回	**社会的養護における日常生活支援** 社会的養護のもとで生活する子どもの日常生活の実際を理解し、子どもの権利擁護の実践としての支援のあり方を考える。	予習としてテキスト第3講を熟読しておくこと。復習として、テキスト第3講のCOLUMNについて、授業の内容をふまえて自分の考えをまとめること。	1時間
第4回	**社会的養護における心理的支援** 社会的養護のもとで生活する子どもの心理的なダメージをケアする支援について学ぶ。	予習としてテキスト第4講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間
第5回	**社会的養護における自立支援** 社会的養護のもとで生活する子どもの自立について、リービングケア、アフターケアなどの支援について学ぶ。	予習としてテキスト第5講を熟読しておくこと。復習としてテキスト第5講の事例を一つ選び、自分の考えをノート等にまとめること。	1時間
第6回	**乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設の生活特性と実際** 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について、それぞれの実態や実際の生活について理解する。	予習としてテキスト第6講を熟読しておくこと。復習として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について、要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間
第7回	**児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設の生活特性と実際** 児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設について、それぞれの実態や実際の生活について理解する。	予習としてテキスト第7講を熟読しておくこと。児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設について、要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間
第8回	**家庭養護の生活特性と実際** 養育里親、専門里親、親族里親、小規模居住型児童養育事業について、それぞれの生活の実際を学び、家庭養護の意義を理解する。	予習としてテキスト第8講を熟読しておくこと。復習として、第6講、第7講の内容もふまえつつ、家庭養護の意義について自分の考えをノート等にまとめること。	1時間
第9回	**アセスメントと個別支援計画** 社会的養護における支援の指針となる個別支援計画と、計画を策定するために必要なアセスメントについて学ぶ。	予習としてテキスト第9講を熟読しておくこと。復習として、授業で行ったアセスメントや個別支援計画のワークについて、自分の感想をノート等にまとめておくこと。	1時間
第10回	**記録と自己評価** 記録や自己評価の意義について理解する。また、記録の練習を行い、技術や方法を身につける。	予習としてテキスト第10講を熟読しておくこと。復習として、支援を行う上で記録が果たす役割や意義についてノート等にまとめること。	1時間
第11回	**社会的養護に関わる専門的技術** 保育の専門性に関わる知識、技術、実践と、社会的養護に関わる相談援助の知識、技術、実践について学ぶ。	予習として、テキスト第11講及び第12講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間

第12回	**社会的養護におけるソーシャルワーク** 社会的養護におけるソーシャルワークについて、知識、技術、実践を学ぶ。	予習として、テキスト第13講を熟読しておくこと。復習として、自分の家族もしくは架空の家族について、ジェノグラムとエコマップを作成すること。	1時間
第13回	**社会的養護における家庭支援** 社会的養護のもとで生活する子どもについて、保護者の支援、家族再統合等の支援を学ぶ。	予習として、テキスト第14講を熟読しておくこと。復習として、保護者と離れて生活する子どもにとっての家庭支援の意義とは何か、自分の考えをノート等にまとめること。	1時間
第14回	**今後の社会的養護の課題と展望** 現在の日本が抱える社会的養護の課題とその施策について学ぶ。	予習として、テキスト第15講を熟読しておくこと。復習として授業内容について要点を整理し、ノート等にまとめること。	1時間

433

授業科目名	**子ども家庭支援の心理学**				
担当教員名	木村将夫				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・市役所の要保護児童対策協議会にて、子ども虐待の調整担当者として従事。（全14回） ・市が設置する児童発達支援センターにて、子ども相談、巡回指導、巡回相談に従事し、保育士や学校の教職員へのコンサルテーションも行ってきた。（全14回）				

授業概要

この科目は、保育・教育の本質を理解し、保育を実践するための方法や技術を身につけるために設置された科目である。生涯発達に関する知見を踏まえ、発達課題等について理解する。その上で、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。さらに、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況及び課題並びに子どもの精神保健とその課題について理解することをねらいとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。その上で、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を踏まえて、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題及び授業後レポート（リフレクションシート）	70 %	： リフレクションシートを授業後に作成して提出する（規定回数以上の提出が必要）。5点×14回　5点：授業内課題を提出し、独自の視点を加えて課題・問題点を論じている。4点：授業内課題を提出し、課題・問題点を論じている。3点：授業内課題を提出し、講義内容を理解している。2点：概ね講義内を理解している。1点：授業内レポートの提出のみ。
定期試験	30 %	： 以下の点を中心とした論述課題への取組を評価する。 ・生涯発達の基礎的な知見と発達理論の理解 ・家族・家庭の意義と機能の理解 ・家族が当面する課題の理解 ・子ども家庭支援の諸問題の理解と対応

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
芝野松次郎・新川泰弘・榎本祐子編著	・ 事例で楽しく学ぶ　子ども家庭支援の心理学	・ 中央法規出版	・ 2023　年

参考文献等

山口　薫著（2010）『発達の気がかりな子どもの上手なほめ方しかり方』学研 ISBN:978-4054043473

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
予習シート作成を中心とした「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
具体的には、受講生全員に各回の講義に先立ち、あらかじめ提示したキーワードをもとに予習内容をまとめた予習シートの作成を義務づける。授業においては各自の予習シートの内容を確認しながら、当該授業内容について加筆するなどして基礎的理解を図った上で講義に臨むことができるようにする。
その上で授業終了時点で、授業で学んだことなどをまとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

＜開講日程についての注意事項＞
本科目の主たる履修対象者である幼児教育コース３年次生が対象となる実習期間には開講せず、別の日程を通常授業に加えて実施する。日程については履修オリエンテーション等において連絡する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
ただし、件名に「子ども家庭支援の心理学：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子ども家庭支援における生涯発達の視点／乳児期の発達の特徴と課題** 子ども家庭支援における生涯発達の視点を概観する。 乳児期の発達過程を認知発達と社会的発達の側面から概観し、それらが互いに支え合いながら展開していくヒト特有の発達の姿を理解するとともに、それを支える養育者や家庭の役割について考える。 キーワード：ライフサイクル理論、赤ちゃんが見ている世界、ミラーリング、基本的信頼感	予習シートの作成（赤ちゃんの発達について）	4時間
第2回	**幼児期前期の発達の特徴と課題** 幼児期前期の発達過程を認知発達と社会的発達の側面から概観し、それらが互いに支え合いながら展開していくヒト特有の発達の姿を理解するとともに、それを支える養育者や家庭の役割について考える。 キーワード：ごっこ遊び、認知発達、非認知能力、アタッチメント理論	予習シートの作成（アタッチメント関係について）	4時間
第3回	**幼児期後期の発達の特徴と課題** 幼児期後期の子どもの発達の特徴について学ぶ。また幼児期後期の子どもの発達において家庭生活が果たす役割について理解する。 キーワード：社会化、自己制御、移行支援	予習シートの作成（社会化について）	4時間
第4回	**児童期の発達の特徴と課題** 児童期の子どもの発達の特徴について学ぶ。また児童期の子どもの発達において家庭生活が果たす役割について理解する。 キーワード：児童期の特徴（記憶・読み書き・道徳性・仲間づくり）、生活習慣	予習シートの作成（児童期の子どもの発達について）	4時間
第5回	**青年期の発達の特徴と課題** 生涯発達心理学の視点から、人の発達を包括的に理解して、青年期の心理的発達について学ぶ。 キーワード：アイデンティティ、キャリア発達	予習シートの作成（アイデンティティついて）	4時間
第6回	**成人期・老年期の発達の特徴と課題** 生涯発達心理学の視点から、人の発達を包括的に理解して、成人期、高齢期の心理的発達について学ぶ。 キーワード：キャリア発達、サクセスフル・エイジング	予習シートの作成（キャリアレインボーについて）	4時間
第7回	**子どもの生活・生育環境とその影響** 子どもの生活・生育環境の変化を押さえた上で、子どもの基本的生活習慣の獲得およびそおための援助について取り上げます。	予習シートの作成（基本的生活習慣の獲得について）	4時間
第8回	**子育てを取り巻く社会的状況** 現代の子育てをめぐる社会的状況を中心に家族の置かれた全般的状況を考えていきます。 キーワード：少子高齢社会、合計特殊出生率	予習シートの作成（少子高齢、人口減少社会について）	4時間
第9回	**ライフコースと仕事・子育て**	予習シートの作成（ワンオペ育児、ワークライフバランスについて）	4時間

	ライフコース・ワーク･ライフ･バランスという視点から共生社会という視点から家族の置かれた今日的状況を考えていきます。 キーワード：ジェンダー、ワーク･ライフ･バランス		
第10回	**多様な家庭とその理解** 現代における多様な家庭の現状の理解をし、特に子どもの貧困、ひとり親家庭支援について取り上げます。 キーワード：子どもの貧困、ひとり親家庭支援、	予習シートの作成（子どもの貧困について）	4時間
第11回	**特別な配慮を要する家庭（子ども虐待対応）** 特別な配慮を要する家庭の現状と支援の在り方について考えていきます。 キーワード：気になる子ども・支援、要保護児童、子ども虐待対応、	予習シートの作成（子ども虐待について）	4時間
第12回	**特別な配慮を要する家庭（発達支援）** 発達支援が必要な子どもの理解と支援について、家庭を含めて考えていく。またインクルーシブ教育システムや共生社会についても考えていく。 キーワード：発達支援、障がい児支援、共生社会の実現	予習シートの作成（共生社会について）	4時間
第13回	**家族・家庭の意義と機能／親子関係・家族関係の理解** 家族とは何かをその機能からとらえていきます。 親子関係を中心に家族の心理構造について考えていきます。 家族をひとつのシステムととらえる視点とアプローチの方法を考えていきます。 「子育て」・「親育ち」について考えていきます。 キーワード：家、家族、家庭、家族の心理構造、家族システム論、家族療法	予習シートの作成（家族・家庭について）	4時間
第14回	**子どもの心の健康に関わる問題／子育ての経験と親としての育ち** 子どもの心の健康問題の特徴、災害や事故に遭遇した子どもへの対応、子どもの心を育む保育の展開について学ぶ。また、保育者として子ども家庭支援をしていく上での子育て経験を通して、親としての育ちについて理解する。 キーワード：子どもの心の健康、災害や事故、親準備性、親育ち	予習シートの作成（心の健康について）	4時間

432

授業科目名	子どもの保健				
担当教員名	岡田優				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床医として約30年の経験。耳鼻咽喉科専門医、精神科専門医、児童精神科医として子どもを中心にしたチーム医療の一員として診療を行ってきた。特に小児専門病院では保育士との連携を行ってきた。（全14回）				

授業概要

保育士資格取得必須科目です。年々、保育士が基本的な医療分野の知識を持ち活躍することが期待されています。のびやかな成長と発達を見守り、現実生活でも直接役立つ事柄が身に着く教科とも言えます。子どもの健康を守るための保健活動を理解し、日々の健康状態の変化に気づく技能の取得を目指します。虐待問題などで保育士の果たすゲートキーパー的な役割についても学び、日々ニュースや新聞などにも目を通し、知識を具体例に実践で発揮できることを目指して学ぶことが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	身体の仕組みと働きを理解して、変化に気づき対応できる知識を学び習得する。	子どもの身体の特徴・発達について学び、日常の変化への対応を考える力を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもを取り巻く現在の制度や環境について学び、問題と課題を明らかにすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期テスト	70 %	： 講義内容の理解について評価を行います。
レポート課題	20 %	： 指定された課題へのレポートを評価します。
発表課題	10 %	： 授業中に指定された課題発表について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で指示します。また、受講生自身の母子手帳など、手にして授業内容に即して確認を行ってください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。虐待についても学びます。必要にあわせて受講生にはカウンセリングを使用することを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で提示します

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの身体の特徴** 本講義を学ぶ意義と目的、授業計画や到達目的と評価方法の説明を行います。成人と子どもの身体の違いについて学び、保育士が目指す健康の概念についてを学びます。	受講生自身の身体的成長と発達について、可能な範囲で調べ、講義の復習を行う。	4時間
第2回	**子どもの健康と健康指標** 年齢による身体的な発育や小児の年齢区分を学びます。小児保健統計・母子保健法を中心とした保健活動についても学び、出生率・死亡率の国際比較などから日本の現状と課題について考えます。	年齢的な身体特徴についてや子どもの健康指標について復習を行い、まとめる。	4時間
第3回	**現代社会における子どもの健康の現状と課題** 子どもの取り巻く環境の変化として国連の提唱するSDGｓにも関連する、貧困、電子メディア使用などによる影響を考えます。性的マイノリティーや生殖補助医療についても本国以外の状況も紹介しながら考えます。	ニュースや新聞で関連する情報を収集し自身に当てはまる問題についても考え復習を行う。	4時間
第4回	**地域における保健活動と子ども虐待防止** 「健やか親子２１」について学びます。子どもの生命を守るゲートキーパーとして虐待防止を中心に保育士の役割を考えます。	母子保健の一端を担う専門家として、虐待防止を考えまとめる。	4時間
第5回	**身体発達及び運動機能の発達と保健** 人体の解剖を復習し、子どもの身体発達・運動機能の発達の基礎について学びます。最新の知見もふまえて現状の問題についても講義を行います。発達の遅れについても考えます。	自身の発達について、母子手帳などを通して確認し、講義の復習を行いまとめる。	4時間
第6回	**生理機能の発達と保健** 講義の中で受講生自身の呼吸や脈拍、体温調整などを確認し、生理機能の基礎を学びます。子どもの生理機能との違い・発達についての理解を深めます。生理機能の変化に気づく方法についてもともに考えます。	受講生自身のストレスを整理し、身体の変化についても気づけるように復習を十分におこない、まとめる。	4時間
第7回	**神経・内分泌・免疫機能の発達と保健** 脳神経、内分泌、免疫機能の基礎と働きを学びます。これらの機能の発達と生活習慣についても学び、その変化についても考えます。	疾病に関わる講義になるため復習を必ず行い、講義された用語についての理解に努める。	4時間
第8回	**生活習慣と子どもの発達** 健康を守る基本となる食事、睡眠、清潔保持などの生活習慣について学びます。適切なリズム形成のための養育者への支援についても考えます。	自身の生活習慣について振り返り、理解を深める。	4時間
第9回	**健康状態の観察、心身の不調等の早期発見** 子どもの健康診断について学びます。心身の不調時の子どもの状態をともに考え、早期発見のポイントを確認して行きます	子どもの状態の早期把握はとても重要なため、十分に復習を行いまとめておく。	4時間
第10回	**子どもの感染症とその予防** 本邦における子どもの感染症の特徴と基礎について学びます。また、子どもの予防接種についてと、その重要性についても学びます	予防接種については重要であるため、ポイントを押さえて十分に復習を行う。	4時間
第11回	**保育所で出会う子どもの疾患** 子どものアレルギー疾患の基礎と保育現場で求められる救急対応について学びます。また保育所で出会う代表的な疾患を紹介し対応について学びます。	アレルギーの原因と対応について復習しておく	4時間
第12回	**保護者との情報共有** 保護者との情報共有の大切さについて、疾病予防の観点から学びます。虐待予防と保護者との連携、情報共有についても考えます。	保護者との情報共有の大切さについて十分な復習を行い、まとめる。	4時間
第13回	**子どもの疾病予防、発達評価** 子どもが集団生活を行う中での疾病予防について学びます。また集団のなかでこそ見えてくる、こころの不調について学び考えます。	子どもの疾病予防について、講義内容を復習しまとめておく。	4時間
第14回	**子どもの保健、適切な対応**	これまでの講義内容を十分に復習し、質問があればまとめて、理解が不十分なところを残さないように努める。	4時間

保育士の近年の状況を理解し、保育士自身の健康維持や専門職として継続した情報収集について考えます。授業を振り返り、理解が不十分な場所を確認します。		

433

授業科目名	**子どもの食と栄養**				
担当教員名	須田あゆみ				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	管理栄養士として保育園に勤務（全14回）				

授業概要

子どもの栄養と食生活は、心身の発育・発達を促し、健康な生活を営む基礎となる。本授業では、子どもの発育段階に応じた栄養と食生活の知識および、食物アレルギーや疾病等の配慮を要する子どもの食を学び、保育者として対象者に応じた適切な助言および支援ができる知識と技術を身に付けることを目的とする。また、保育における食育の意義・目的を理解し、家庭や地域、社会や環境とかかわりながら、保育計画に沿った食育を実践できる力を習得する。保育者自身の望ましい食生活の構築にも取り組み、食育の環境構成にも役立ててもらいたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育者としての正しい子どもの食生活と栄養の知識	子どもの発育・発達の過程における食生活の特徴や課題が把握できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		収集した資料から、子どもの食生活における課題を検討できる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		課題に対して、指定の形式にそった資料を完成させることができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		人の前に立ち、自分の伝えたいことを分かりやすく伝える発信力の大切さ・難しさを経験し、より意識をもって取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題および授業時の提出用紙	30 %	： 3点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題・問題点を論じている。2点：講義内容を踏まえ、課題・問題点を論じている。1点：一般論による課題・問題点を論じている。
食育プレゼンテーション①	10 %	： 各自で作成したお弁当の工夫等を発表し、総合評価する（得点化）
食育プレゼンテーション②	10 %	： 各自が考えた食育を発表し、総合評価する（得点化）
期末テスト	50 %	： 栄養の基礎知識及び、発育・発達の過程に応じた栄養と食生活の知識について評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上田玲子	・ 子どもの食生活ー栄養・食育・保育（第7版）	・ ななみ書房	・ 2024　年

参考文献等

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省　(2019)
「平成27年度　乳幼児栄養調査」厚生労働省 (2015)
「気になる子の偏食」　西村実穂/水野智美編著　チャイルド本社 (2014) ISBN 978-4805402276
「たべられないよ　アレルギー」　井島敦子　脚本/鈴木幸枝　絵　童心社　(2013) ISBN 978-4494080090

その他授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当授業終了後

場所：　授業実施教室

備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：suda@g.osaka-seikei.ac.jp
メールの件名には必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの健康と食生活の意義** 授業の目的および14回の内容、評価についてはじめに説明します。私達は何のために食べているのか、そして、現在の日本の食生活の現状と課題について考えていきます。その上で、幼少期が一生の土台であることを再認識するとともに、小児の食の特徴を大まかに理解し、２回目以降の学びにつなげていきます。	第１章、２章を読んでおく。	4時間
第2回	**栄養に関する基礎知識** 第３章：5大栄養素とその働きについて説明します。範囲が広いため細かな点については触れれませんが栄養バランスを整えるとは具体的にどういうことなのか、子どもに伝えていく方法について考えていきます。	第３章を読み、栄養素の主な働きについて整理する。	4時間
第3回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(1)－乳汁栄養** 第４章：母乳栄養・人工栄養・混合栄養について説明し、それぞれの利点、注意点を考えていきます。乳汁栄養の意義を理解した上で、自分ならどのようにしたいのか、また保護者支援をする際の考え方を理解しましょう。調乳実習は行いませんが、ポイントを説明します。様々な調製粉乳がありますので用途の理解および、取り扱いを理解しましょう。授業後、乳汁栄養に関するレポート課題を出します。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。復習：母乳に関するレポートをまとめる	4時間
第4回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(2)－離乳食①：離乳食の意義および進め方** 第４章：離乳食の意義および進め方について、咀嚼機能の発達を中心に説明します。この時期は個人差が大きく、一人ひとりに応じた支援が求められます。子どもが食べる様子の動画を見ながら、介助のポイントをおさえましょう。	第４章：離乳食の進め方の目安を理解しておく	4時間
第5回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(3)－離乳食②：離乳食の進め方と注意点** 第4章：離乳食の食材の進め方および注意点について説明します。ベビーフードの利用についても考えていきましょう。手づかみ食べの意義についても考えていきます。授業後、離乳食に関するレポート課題を出します。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。復習：離乳食の各段階の特徴を整理し、レポートをまとめる。	4時間
第6回	**幼児期の栄養と食生活の特徴(1)－幼児期の特徴と間食の意義** 第5章：幼児期の特徴および、間食の意義や弁当作りのポイントについて説明します。実習に行き、子ども達の食べる姿をみて、どのようなことを感じたかについて改めて振り返ってみましょう	第５章を読んでおく。	4時間
第7回	**幼児期の栄養と食生活の特徴(2)－食生活上の問題点と対処法** 第5章：食生活上の問題点および対処法について考えていきます。年齢毎にどのような対応をしていくのがよいか、意見交換をしながら、自身の対応の幅を広げていきましょう。	予習：好き嫌いの事例を配布しますのでそれを読み、自分なりの考え（対処法）を考えておいてください。	4時間
第8回	**特別な配慮を要する子どもの食事について（１）：食物アレルギー** 第8章：食物アレルギーの仕組み、原因食品および対処法について説明します。その後、食物アレルギーの現場対処について意見交換を行います。授業後、食物アレルギーについての知識をまとめる課題及び、3大アレルゲン不使用の市販のお菓子探しの課題を出します。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。復習：食物アレルギーに関するレポートをまとめる。	4時間
第9回	**学童期・思春期の栄養と食生活の特徴**	学童期の問題点を把握しておく、弁当作りの課題の準備をする。	4時間

	第6章：朝食の役割、心身の健康（コ食）について考えていきます。朝食はなぜ大切なのか、子どもの年齢に応じて説明できるようになりましょう。食の自立とは何か、弁当作りの課題の意図についても説明します（第14回目にお弁当の発表）		
第10回	**生涯発達と食生活、食育の基本と内容(1)－食育の目標および内容** 食育基本法制定の背景と年齢ごとに積み重ねていく食育の目標および内容について説明します（第10章）。乳幼児期の食育の例をいくつか紹介しますので、年齢と時期に応じた食育計画を作成していきましょう（第13回目に食育の発表）	各園でどのような食育をしていたのかを思い出しておく。食育計画の課題の準備をする。	4時間
第11回	**家庭や児童福祉施設における食事と栄養** 第10章：家庭や児童福祉施設における食事について、給食の形態や役割について考えていきます。 1年というサイクルの中にある様々な行事を思い出しながら、集団生活での食の役割、家庭へのアプローチ等について保育や食育の視点で考えていきます。	予習：行事や旬について調べておく。復習：授業内容を踏まえ、食育計画を作成する	4時間
第12回	**特別な配慮を要する子どもの食事（２）：体調不良、障害がある子どもの支援** 第11章：体調不良時、嘔吐、下痢、発熱時の対処法、障害のある子どもの食事等について説明します。自身が体調不良の時にどのようにしているのかも思い出しながら、食の対応を見ていきましょう。	体調が悪い時に自分はどのようにしているのかまとめておく。	4時間
第13回	**食育の基本と内容(2)－食育計画の発表** 各自で考えた食育計画を発表し、評価していきます。他者の発表を聞いたり、意見交換する中で自分の食育に対する視野を深めていきましょう。	食育計画が発表できるように準備しておく。	4時間
第14回	**食育の基本と内容(3)－弁当作りの発表、授業のまとめ** 各自が作成した弁当の意図や工夫を発表し、意見交換を行います。食育の環境とは何か、食育をする上での保育者の役割について考えてもらいます。14回全体の授業を振り返り、まとめていきます。	弁当作りの課題を仕上げ、発表できるように準備しておく。テストに向けて取り組む	4時間

432

授業科目名	乳児保育Ⅰ				
担当教員名	池内昌美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

乳児保育とは、３歳未満児（０歳児・１歳児・２歳児）を念頭においた保育のことでです。まずは乳児保育の意義･目的と役割、歴史的変遷等について学びます。また、保育所・保育園や乳児院など乳児の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解します。その上で、３歳未満児の発育･発達を踏まえ、養護と教育が一体となって展開される保育の基本と内容を学び、運営職員間及び保護者や地域の関係機関との連携･協働についても理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	乳児の発達過程を理解するとともに、発達に応じた遊びや援助を考え、実践する	乳児の発達過程を理解するとともに、発達に応じた遊びや援助を考えることができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		乳児における保育とはどのようなものかについて実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内評価	62 %	： 授業内容理解度レポート62%
乳児のあそび	10 %	： 乳児の発達と遊びを踏まえて、乳児が興味をもちたくなる絵本を選んでいる（8点）乳児の絵本を選んでいる（6点）
定期試験	18 %	： 授業内容を踏まえて，独自の視点から書かれている（20点） 授業内容と課題を踏まえて，書かれている（15点） 課題を踏まえて、書かれている（10点）
授業への参加度	10 %	： 授業への参加度は，教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし，論理的・積極的な発言などを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高内正子　豊田和子　梶美保	・ 健やかな育ちを支える　乳児保育	・ 建帛社 ISBN9784767951126	・ 2021　年

Ⅰ・Ⅱ

参考文献等

「知れば楽しいおもしろい　赤ちゃん学的保育入門」　小西行郎著　フレーベル社　ISBN978-4-577-81195-5

履修上の注意・備考・メッセージ

乳児保育は，保育士資格取得のための必修科目です。
頑張って単位取得を目指してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　後日伝達します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**乳児保育の意義と目的** 乳児保育について現時点での各自の理解程度を認識する	テキストを読んで予習をする	4時間
第2回	**乳児保育及び子育て家庭について** 乳児保育はなぜ必要かを社会的背景から知る	乳児を取り巻く社会について調べる	4時間
第3回	**乳児保育及び子育て家庭について対する支援をめぐる社会的状況** 乳児保育はなぜ必要かを社会的背景から知る	テキストを読んで予習をする	4時間
第4回	**保育所における乳児保育について学ぶ** 保育所における保育とは何かを具体的に学ぶ	子どもの家庭福祉を読む	4時間
第5回	**保育所以外の児童福祉施設（乳児院）における乳児保育** 乳児院における保育とは何かを具体的に学ぶ	保育指針を読んで理解する	4時間
第6回	**３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場** ３歳未満時の子どもを取り巻く環境について理解する	身近にある子育て支援の場について調べる	4時間
第7回	**乳児保育における養護及び教育** 乳児保育について保育所保育指針から学ぶ	保育指針を読んで理解する	4時間
第8回	**乳児保育におけるねらい及び内容** 保育所保育指針　第２章保育の内容における「ねらい」と「内容」について理解する	保育指針を読んで理解する	4時間
第9回	**１歳以上３歳未満児におけるねらい及び内容** 保育所保育指針　第２章保育の内容における「ねらい」と「内容」について理解する	保育所保育指針を読んで理解する	4時間
第10回	**３歳未満児の発達** ３歳未満児の発達について理解する	プリントを読んで理解する	4時間
第11回	**３歳未満児の生活と援助** ３歳未満児の睡眠や食事などについて学ぶ	プリントを読んで理解する	4時間
第12回	**赤ちゃん人形を使用した援助の実際** 乳児の遊びについて、赤ちゃんとのふれあい遊び、絵本などを実際に演習する	乳児を対象とする絵本を調べる	4時間
第13回	**絵本を使用した援助の実際** 乳児の遊びについて、赤ちゃんとのふれあい遊び、絵本などを実際に演習する	乳児を対象とするふれあい遊びを調べる	4時間
第14回	**まとめ** 乳児保育の学びを振り返る	これまでの学習内容を復習する	4時間

432

授業科目名	乳児保育Ⅱ				
担当教員名	池内昌美				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

乳児保育とは、３歳未満児を念頭においた保育のことである。この時期の子どもは、成長するうえで心身ともに発達が著しい時期である。その３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。そして養護及び教育の一体性を踏まえた上で、３歳未満児の子どもの生活や遊びと、環境を基盤とした保育の方法及び配慮の実際について、具体的・実践的に学ぶ。また、乳児保育における計画の作成について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育の場において学び実践したことを省察する。	保育の場において学び実践したことを省察することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		今までの学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内評価	55 %	： 授業内理解度レポート55%
授業への参加度	10 %	： 授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的・積極的な発言などを評価する
乳児のおもちゃ作成	10 %	： 乳児の発達を遊びを踏まえて、乳児自ら遊びたくなるおもちゃを作成している（10点）、乳児の発達と遊びを踏まえておもちゃを作成している（7点）
おもちゃのレシピ	10 %	： おもちゃを通して保育者との関わりが記載されている（10点）、おもちゃを通して乳児の活動が記載されている（7点）
定期試験	15 %	： 授業内容を踏まえて、独自の視点から書かれている（15点） 授業内容を踏まえて、書かれている（10点）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高内正子　豊田和子　梶美保	・健やかな育ちを支える　乳児保育Ⅰ・Ⅱ	・建帛社 ISBN9784767951126	・2019　年

参考文献等

「知れば楽しいおもしろい　赤ちゃん学的保育入門」小西行郎著　フレーベル社 ISBN978-4-577-81195-5

履修上の注意・備考・メッセージ

乳児保育は、保育士資格取得のための必修科目です。頑張って単位取得を目指してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　後日伝達します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**乳児保育の意義について** 授業計画について理解する。また、乳児保育Ⅰを振り返ることにより、乳児保育の意義について理解を深める	「乳児保育Ⅰ」を復習する	2時間
第２回	**個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり** 乳児と大人との関係の大切さを理解したうえで、受動的や応答的なやりとりについて学ぶ	子どもとのやりとりについて映像を見ることにより理解をする	2時間
第３回	**子どもと保育士や大人などとの関係の重要性** 乳児の発達にもとづいて関係の重要性について理解する	保育所保育指針解説書を読んで予習をする	2時間
第４回	**環境を通して行う保育** 主に乳児期における人的・物的環境の大切さについて学ぶ	保育所保育指針を読んで理解を深める	2時間
第５回	**乳児の発達と遊びの特徴** 乳児の発達と遊びの特徴について理解する	乳児の発達について復習しておく	2時間
第６回	**乳児の発育・発達を踏まえた援助の実際** 保育所や乳児院などの施設で実践できるよう乳児の援助の実際について学ぶ	テキストを読んで理解をしておく	2時間
第７回	**３歳未満児の遊びの実際** ３歳未満児の遊びについておもちゃを作成することにより理解をする	３歳未満児の遊びや関わりについて本を読んで理解を深める	2時間
第８回	**乳児の発育・発達を踏まえた保育者の援助の実際** ３歳未満児の援助についておもちゃを通した指導案を作成する	テキストを読んで理解する	2時間
第９回	**乳児保育の実際** 作成したおもちゃと指導案を発表する	発達に応じた指導案が書けているかを確認する	2時間
第10回	**乳児保育の展開** 作成したおもちゃと指導案を発表する	発達に応じたおもちゃを作ることができているか確認する	2時間
第11回	**乳児保育における健康・安全について** 子どもの生命を守り健康を育むことについて学ぶ	乳児の事故について調べる	2時間
第12回	**乳児保育における計画** 乳児保育における計画について学ぶ	テキストを読んで理解する	2時間
第13回	**今後の課題** 乳児保育の質の向上、乳児保育の専門性などについて学ぶ	テキストを読んで理解する	2時間
第14回	**まとめ** 乳児保育の学びを振り返る	これまでの学習内容を復習をする	2時間

433

授業科目名	**子どもの健康と安全**				
担当教員名	岡田優				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床医として約30年の経験。耳鼻咽喉科専門医、精神科専門医・児童精神科医として子どもを中心にしたチーム医療の一員として診療を行ってきた。特に小児専門病院では保育士との連携を行ってきた。（全14回）				

授業概要

保育士資格取得必須科目です。保育現場での事故防止、災害時の専門対応などを学ぶために誕生した科目です。災害時には保育所は避難所としての役割も期待されています。「保育とは子どもの生命を守り預かる場である」という意識を持ちながら安全、安心の保育のために、専門家に必要な不調や怪我への具体的な対応・応急処置の技能取得を目指します。講義中に知識の習得に努め、課外で具体例についても考えながら十分な復習を行い、実践力を深めることが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保育士としての事故防止と安全管理の専門的な知識と技能の習得	専門的に必要とされる知識と技能の習得
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもの事故防止と安全管理について課題を明らかにすることできる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		救急対応および感染防止を理解し実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

人形を用いての乳児心肺蘇生法、また感染症予防PPE（個人用防護具）、エピペンについて実習を行います。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期テスト	70 %	： 講義内容の理解について評価を行います。
レポート課題	20 %	： 決められた課題について作成されたレポートの評価を行います。
発表課題	10 %	： 講義中に指定された課題発表を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められます。基本的に復習に重点を置いた学習となるように講義を構成します。講義内容の復習を十分に行い、知識をまとめてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で提示します

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保育者に必要な保健と安全の基礎** 本講義を学ぶ意義と目的、授業計画や到達目的と評価方法の説明を行います。保育の現場の安全管理の理念ついて学びます。現在の子ども達を取り巻く問題について、新聞記事などを提示しともに考えます。	新聞記事などに目を通して講義内容を復習する。	2時間
第2回	**子どもの事故** 子どもの事故の現状について基本的な事項を省庁の報告を元に学びます。子どもの発達と事故について、年齢別にその特徴を理解し事故発生時の対応についても学びます。	身の回りの環境で事故について考察を行い復習をする。	2時間
第3回	**子どもの保育環境** 子どもの事故の特徴を振り返り、事故の防止・予防を考えます。家庭も含めた望ましい保育環境は何か、保育現場での備えについて考えます。	受講後に年齢と事故の特徴について復習を行いまとめる。	2時間
第4回	**感染症予防と対策** 保育現場という、子どもとのフィジカルディスタンスの取り難い場所での、現在問題になっている感染症発生の予防について学びます。	次回より子どもの身体の講義になるので、これまでの授業の復習を行いまとめる。	2時間
第5回	**子どもの体調チェック** 子どもの健康状態をチェックするポイントを学びます。子どもの不調を見逃さない技能を学びます。	子どもの不調を見逃さないポイントを復習しまとめる。	2時間
第6回	**子どもの体調不良時の対応①発熱・咳・嘔吐など** 発熱・咳・下痢・嘔吐・腹痛などの体調不良時の状況判断、またそれぞれ保育現場で可能な対処について学びます。	衛生管理とも関係が深い内容なので、以前の授業も含めて復習を十分におこない、実際に行えるようにまとめておく。	2時間
第7回	**子どもの体調不良時の対応②創傷・骨折など** 打撲・捻挫・創傷・骨折などが発生した場合の応急処置について、止血の方法や包帯の扱いについて学びます。	止血の方法や包帯の扱いなど復習を十分におこない、実際に行えるようにまとめておく。	2時間
第8回	**子どもの体調不良時の対応③救命措置** 遺物・誤飲・誤嚥などの応急処置、救命処置と救急蘇生法について学びます。実際の救命処置について実習を行います。	自身の周囲のAED設備の確認、および使用方法について復習を行う。	2時間
第9回	**子どもと感染症** 子どもが罹患しやすい感染症と症状について学び、それぞれ保育現場に求められる予防方法の違いを学びます。また集団感染発生時の対応についても学びます。	衛生管理とも関係が深い内容なので、以前の授業も含めて復習を十分におこない、実際に行えるようにまとめておく。	2時間
第10回	**保育における保健的対応** 保育における保健的対応の基本的な考え方、また３歳未満児への対応について学びます。乳幼児突然死症候群の防止について考えます。	保育における保健的対応の基本的な考え方や３歳未満児への対応についての授業内容の復習を十分に行っておく。	2時間
第11回	**個別的な配慮を要する子どもへの対応** アレルギー疾患や慢性疾患について学び、保育現場での食事や環境への配慮について理解を深めます。	厚生労働省の『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』などに目を通して復習を行う。	2時間
第12回	**障害のある子どもへの対応** 障害とはなにかを理解し、それぞれの障害のある子どもへの対応を学びます。また障害のある子どもの親とや関係機関との連携についても考えていきます。	障害のある子どもへの対応は近年、話題となる課題であるため、配布資料にとどまらず復習を行い、まとめる。	2時間
第13回	**健康及び安全の管理の実施体制**	保育における健康及び安全管理に関するこれまでの復習を十分に行いまとめておく。	2時間

	災害時を中心に保育士としての職場での職員間の連携・協働、保育における保健活動の計画と評価、自治体や地域関係機関との連携について学びます。		
第14回	**保育士の社会に置ける役割** 近年、学ぶ内容や望まれる対応が増える保育士の状況を理解する。授業全体を振り返り、理解が不十分な場所を確認します。	理解が不十分と気づいた箇所の復習を行う。	2時間

432

授業科目名	**障害児保育**				
担当教員名	高木玉江				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	市役所の子育て支援課で保育園での発達相談、障がい児の保育所、幼稚園、認定こども園の障害児加配認定業務、障がい者施設認定における受給者証の認定における発達診断の業務経験を有する。障害児発達支援センターの発達相談員として勤務、保育者への発達相談と巡回相談の経験も有する。公立保育士経験も有する。(14回)				

授業概要

発達のみちすじは障がいのある子どももそうでない子どももみな同じです。障がいはさまざまであり，子ども一人ひとり個性があります。そのため，障害児保育は家庭や関係諸機関の連携のもとにしていきたいものです。本講では，障がい児保育の理念や障害の特性を捉えつつ，療育のあり方や育ちあいの保育について学ぶことによって，障がい児保育の基礎を培っていきます。また，保育所や幼稚園などで障害のある子どもの保育の現状と課題についても理解することを目的としています。すべての子どもは発達する権利をもっていること、そして権利は平等に保障されていなければならないことを踏まえた上で、障がい児は権利が保障されるために手厚いサービスを必要としている存在であることを理解していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	障がい児保育の基礎を学び、子ども理解を深めることを目標とする	障がい児保育の理念や障害の特性を捉え、子ども理解をしていく
2. DP２.教育実践の省察・研究	子どもの障がいについて理解をすることを目標とする	子どもの障がいについて理解をし、援助のあり方を学ぶとともに，障がいのない子ども達と育ち合う大切さを理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		討議を実施することにより，課題の重要性を認識することができ，解決に向けた自分の意見を伝えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループ討議やワークをすることで他者への理解を深める
3. DP７.忠恕の心		グループワークやワークを行うことで、自己理解を深め、他者への思いやりの気持ちを深める

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

毎回の講義前までに「予習カード」を提出し、終了時に「小テスト」に挑戦します。
また、班討論やレポート作成などにも取り組みます。
こうしたやり取りや取り組みを通じて、「主体的で対話的な深い学び」をしていきます。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度数	:	授業への参加度は，論理的・積極的な発言などを評価する。グループワークを通じて障がい児理解を深めていく。積極的にグループでのファシリテーターを担った方は加点とする
10 %		
定期試験	:	障害児の実践保育内容を踏まえて，多角的にみる視点と独自の視点から描かれている（25点） 授業内容を踏まえて，障害児保育は家庭や関係諸機関の連携のもとに行われている視点を入れて書かれている。（10点）
38 %		

小レポート課題・課題 : 障害児の発達保障についての内容が整理されており，独自の視点から描かれている（3点）
授業内容が整理されており，書かれている（2点）発達理解をし、整理されている（5点）

10 %

授業理解レポート : 課題レポート 2点×14回（28点）
授業内容を踏まえて，グループワークを通じて障がい児理解を深めていく、独自の視点から描かれている。授業内容を踏まえて，書かれている。

28 %

授業理解小テスト : 各授業の理解がなされているか、復習の小テストを行う。

14 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
野村朋・荒木美知子 編著	・「主体性をはぐくむ障がい児保育」	・文理閣	・2020 年
田中真介 監修	・発達がわかれば子どもが見える	・ぎょうせい	・2009 年

参考文献等

・田中昌人・田中杉恵1981-84『子どもの発達と診断』（全５巻）大月書店
ISBN-9784272400119,9784272400126,9784272400133,9784272400140,9784272400157

・糸賀一雄 「糸賀一雄の最後の講義：愛と共感の教育」（2009）中川書店（改訂版）ISBN-4931363652
・木下孝司 「子どもの発達に共感するとき 保育・障がい児教育に学ぶ」 全障研出版部 ISBN-978-4881348246
・玉村公二彦（編著）「新版 キーワードブック特別支援教育インクルーシブ教育時代の基礎知識」
クリエイツかもがわ ISBN-978-4863422551
・垂髪あかり「〈ヨコへの発達〉とは何か?：障害の重い子どもの発達保障」（2020）日本標準（ブックレット）
ISBN-4820806890

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修がもとめられます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回の授業時にお伝えします

場所： 研究室

備考・注意事項： 質問先：takagi-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学部(教育学部以外)・学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れること

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション 障害児保育とは** 障害の概念，発達と発達権について 発達保障について 障がいのある子どもへの保育とはを学ぶ	障害の捉え方を考える、発達保障について考える	4時間
第2回	**障がいのある子どもの発達・障がい・生活** 障害のある子どもの発達保障、地域社会への参加・包容及び合理的配慮について学ぶ	障害のある子どもへの発達保障、合理的配慮について考える	4時間
第3回	**障がい児保育・教育の歴史と現状** 障がい児保育・教育の歴史と現状について学ぶ	現在の障がいのある子どもの保育の歴史について調べる	4時間
第4回	**障がい児保育の現状と課題：障がい児保育に必要な障害の基礎知識** 障害児保育の現状と課題について学ぶ、障害者権利条約と合理的配慮について 視覚障がいについて	障害者権利条約と合理的配慮について理解をする	4時間
第5回	**障がい児保育に必要な障害の基礎知識：肢体不自由児の理解と援助** 肢体不自由がある子どもへの理解，および，援助について学ぶ	肢体不自由児について理解する	4時間
第6回	**障がい児保育に必要な障害の基礎知識：知的な障がいがある子どもへの理解と援助自閉症スペクトラム障害など** 知的障害がある子どもの理解，および援助について理解する	自閉症スペクトラム障害の特性について予習をする	4時間
第7回	**障がい児保育に必要な障害の基礎知識：医療的ケアの必要な子ども** 医療的ケアの必要な子どもの理解，および，援助について理解する	医療的ケアの必要な子どもの理解を深める、レポートの構想をする	4時間
第8回	**障がい児保育に必要な障害の基礎知識：自閉症スペクトラム障がい、注意欠如多動性障がい，学習障がい等など**	知的障害がある子どもの本を読み理解する	4時間

	自閉症スペクトラム障害がある子どもへの理解，および，援助について理解する 注意欠如多動性障害，限局性学習障害がある子どもの理解，および，援助について理解する		
第9回	**障がい児保育に必要な障害の基礎知識：視覚障がい、聴覚障がい** 視覚障がい、聴覚障がいの子どもの理解，および援助について理解する	これまでの子どもや友達との関わりを振り返る	4時間
第10回	**特別なニーズを要する子どもの理解と援助：子ども同士の関わりと育ち合い** ・特別なニーズを要する子どもの理解と援助について理解する ・障がいのある子どもと障害のない子どもとが関わることにより，育ち合っていく姿について理解する	障害のある子どもの保育の場について復習をする	4時間
第11回	**障がい児保育と発達支援の関係機関：個々の発達を促す生活や遊びの環境、障害のある子どもが通う保育と教育の場について** ・早期発見と早期対応 ・早期支援が必要な1，2歳の保育の場：子どもの障がいへの対応と育児支援 ・専門機関での療育 ・発達を促す環境や障害のある子どもが通う施設について学ぶ	障害のある子どもが生活しやすい環境を考える	4時間
第12回	**家族の障がい受容と成長** ・障害のある子どもの保護者の気持ちについて理解する ・親の障がい受容の過程と支援について理解する ・障がい児のいる家族の成長について ・新型出生前診断について ・きょうだいの支援と課題	テキストを読んで理解する	4時間
第13回	**保育園・幼稚園での障がい児保育と特別支援教育** ・障がいのある子どもの理解とインクルーシブな保育について学ぶ ・障がいのある子どもと遊びについて考える ・障がい児保育における記録 ・個別の指導計画・個別の教育と支援計画について	テキスト・プリントを読んで予習をする	4時間
第14回	**保育園・幼稚園での障がい児保育と特別支援教育：まとめ** ・障害児保育における現状と課題について考えるとともに、これまでの学びを振り返る ・障がいのある子どもと遊びについて考える ・障がい児保育における記録 ・個別の指導計画・個別の教育と支援計画について	これまでの学びをテキスト・プリント等を読んで振り返りをする	4時間

434

授業科目名	子育て支援				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全14回）				

授業概要

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援といった保育相談支援の在り方について、その特性と展開を具体的に理解する。その上で、 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

こうしたことについて、子ども家庭支援論や子ども家庭支援の心理学など既習科目と関連づけながら、子どもの最善の利益と福祉を重視した子育て支援の基本を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	今日の保育現場での多様な場面における保護者に対する支援に関する知識と技術を修得する。	他者を援助するための知識・技術を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保護者支援の計画を考えることを通して、課題解決のための計画を立案していくことができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		保護者支援の具体的実践を理解することを通して、課題解決のための実践に取り組むことができる。
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保護者支援の具体的実践を理解することを通して、課題を解決していく実践力を体得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30 %	： 授業での諸活動への参加状況及び授業終了時のふりかえりを通して、授業への理解度を評定します。
小テスト	35 %	： 各回授業において、前回授業内容に関する小テストを実施し、理解の定着度を評定します。
定期試験（レポート）	35 %	： この授業を通して学んだ保護者への支援に関して、レポートを作成してもらいます。保護者支援の場を具体的に想定しているか、支援理論、技法などの具体性を中心に評定します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
才村純・芝野松次郎・新川泰弘編著	・ 子ども家庭支援・子育て支援入門	・ ミネルヴァ書房	・ 2021　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

１　本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

２　後期開講授業については保育実習１－２実施期間はオンデマンド型オンライン授業とする。
その関係で授業回を入れ替えて実施する予定。詳細は後期授業開始の際に連絡する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期火曜日２講時　後期火曜日３講時

場所： 中央館２階個人研究室72

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@g.osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「子育て支援：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子育て支援の意義** 子育てをめぐる保護者支援の今日的意義を考えていきます。	「全国保育士会倫理綱領」に関する小レポートの作成	1時間
第2回	**保育の特性と保育士の専門性を生かした支援** 子育て支援の原理について、保育士の専門性と保育相談支援にかかわる技術を中心に考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした保育士として保護者に関わる上でのポイントについて。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第3回	**子育て支援の基本１　子どもの最善の利益と保護者の養育力向上に資する支援** 子どもの最善の利益の意味とそれを考慮する視点についてとらえた上で、家族の置かれた社会的状況を踏まえた子育て支援について考えています。	小レポートの作成（現代の子育て家庭が抱えるストレスに対処するための支援・手立てについて）	1時間
第4回	**子育て支援の基本２　信頼関係を基本とした支援** 対人援助者の基本的姿勢・態度を踏まえた上で、事例を通して、ソーシャルワークの過程について考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした援助計画の検討。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第5回	**子育て支援の基本３　地域の資源の活用と関係機関との連携** 事例を基にして、子育てを支援する地域のさまざまな資源とその活用について考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした地域の子育て支援の資源の活用について。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第6回	**子育て支援の実際１　保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容** 具体的な事例を通して、保育の特性に基づく子育て支援について考えた上で、子ども・家庭への支援のあり方を考えていきます。	小レポートの作成（促進サービス、予防サービスについて）	1時間
第7回	**子育て支援の実際２　子育て支援の方法と技術** 保育支援の基本技術として、傾聴・受容的・共感的理解について考えていきます。	小レポートの作成（共感的理解について）	1時間
第8回	**子育て支援の実際３　ケースアセスメント** 具体的なアセスメント技法について学ぶと共に助言のあり方を中心とした援助技術について理解を深めます。	小レポートの作成（効果的な助言のあり方について）	1時間
第9回	**子育て支援の実際４　保育相談支援の展開場面と評価** ソーシャルワークの展開過程を踏また保育相談支援の展開について考えていきます。	小レポートの作成（保育場面におけるＤＥＳＣ法について）	1時間
第10回	**保育所等における子育て支援の内容・方法・技術** 保育における子育て支援の場面について、具体的なやりとりを中心に支援の内容・方法・技術について考えていきます。	小レポートの作成（保育場面におけるＤＥＳＣ法について）	1時間
第11回	**地域の子育て家庭への支援の内容・方法・技術** 地域子育て支援拠点事業における支援の内容・方法・技術のあり方について考えていきます。	小レポートの作成（地域子育て支援の場における保護者への対応において大切にすべきことについて）	1時間
第12回	**こども虐待の予防と対応・障害のある子どもと家族への対応** 特別な対応を要する家庭への支援の意義を踏まえた上で、虐待など特別な対応を要する家庭及び障害のある子どもと家族への支援を考えていきます。	小レポートの作成（特別な対応を要する家庭への支援について）	1時間
第13回	**要保護児童等の家庭に対する支援**	小レポートの作成（保育所以外の児童福祉施設における家庭に対する支援について）	1時間

	要保護児童等の家庭に対する支援について、児童養護施設・障害児施設・母子生活支援施設等で行う家庭に対する支援を中心に、様々な事例を通して家庭支援を考えていきます。		
第14回	**多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解** 子育て家庭の多様な支援ニーズを理解した上で、今後の子育て支援のあり方について、具体的な関わりとともに考えていきます。	小レポートの作成（保育場面におけるリフレーミングについて）	1時間

432

授業科目名	国語科内容論				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	1年・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験　（全14回）				

授業概要

小学校国語科の目標と内容について、学習指導要領解説国語編及び実際に使用されている小学校国語教科書に即して概要を理解する。次に国語に関連する学問分野（国語学・文学理論・コミュニケーション論等）の知見を活用して教科書教材の分析を行い、教材の特性に即した指導上の留意点を理解する。また、小学校現場では実際にどのように指導するのか、児童用教科書を使いながら、話す・聞く、書く、読むなどの具体的な言語活動及び書写に関する事項を指導し評価するために必要な知識・技能をワークショップ等を通じて身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教科に関する教養	文化的素養として文章教材や伝統的な言語文化、国語の特質に関する知識を深めることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	専門知識	国語に関連する学問分野（国語学・文学理論・コミュニケーション論等）の知見を活用して教材分析を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		国語科の内容について、自らの視点から、課題と問題解決の方向を考察できる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		国語科の年間の学習の流れを想定し、指導計画を立案することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	50 %	： 国語科教育の体系、内容、指導理論について基本的な内容を理解しているか、60点以上を最低合格点として評価する。
授業内レポート	40 %	： 国語科教育の実践事例に対して､批判的にとらえて考察しているかを基準に評価する。
ワークショップ等への参加	10 %	： ワークショップ、グループ討議などに主体的に参加し､省察を深めているか、感想シートなどで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辻村敬三	・ 国語科内容論・国語科指導法	・ 東洋館出版	・ 2019　年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説　国語編	・ 東洋館出版	・ 2018　年
教育出版	・ ひろがる言葉小学国語四上	・ 教育出版	・ 2020　年

参考文献等

授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
教科書は、3冊とも、毎時間の授業と「授業外学修課題」及び期末テストで使用しますので、必ず購入してください。購入されない場合、ワーク等に不参加となり評価できない場合があります。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時に周知する

場所：　辻村研究室(中央館2階)

備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**国語教育の意義と目的及び学習指導要領国語科の全体構造** 言葉の教育である国語教育の全体像をとらえた上で、小学校国語科教育の目的や意義について自分自身の経験を振り返りながら考えます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する章を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。	4時間
第2回	**〔知識及び技能〕の内容　(1)言葉の特徴や使い方に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(2)　情報の扱い方に関する事項」に関する章を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。	4時間
第3回	**〔知識及び技能〕の内容　(2)情報の扱い方に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「情報の扱い方に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、国語科授業の具体的なイメージをつかみます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(3)我が国の言語文化に関する事項」に関する章を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。。	4時間
第4回	**〔知識及び技能〕の内容　(3)我が国の言語文化（書写）に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「伝統的な言語文化に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、国語科授業の具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の〔知識・技能〕に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間
第5回	**〔知識及び技能〕の内容に関する教科書教材の分析と指導上の留意点** 小学校教科書の〔知識・技能〕に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「話すこと・聞くこと」の内容に関する章から該当部分を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。。	4時間
第6回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「話すこと・聞くこと」の事項** 学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「話すこと・聞くこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、国語科授業の具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の「話すこと・聞くこと」に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間
第7回	**「話すこと・聞くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点** 小学校教科書の「話すこと・聞くこと」（スピーチ・話し合い）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「書くこと」の内容に関する章から該当部分を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。。	4時間
第8回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「書くこと」の事項**	小学校教科書（第4学年）の「書くこと」（研究レポート）に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間

	学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「書くこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、基礎的な「書くこと」について教科書を使った学習体験を通して、国語科授業の具体的なイメージをつかみます。		
第9回	**「書くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点** 小学校教科書の「書くこと」に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」の内容に関する章から該当部分を読み、疑問点や質問を箇条書きにまとめる。	4時間
第10回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「読むこと」の事項** 学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「読むこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、基礎的な「読むこと」について教科書を使った学習体験を通して、国語科授業の具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の説明的な文章教材に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間
第11回	**「読むこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(1)説明的な文章の教材研究** 説明的な文章について、文章構成、表現、論理構造などを観点として教材分析を行い、学習指導の留意点について考察します。	小学校教科書（第4学年）の文学的な文章教材に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間
第12回	**「読むこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(2)文学的な文章の教材研究** 文学的な文章について、文章構成、表現、論理構造などを観点として教材分析を行い、学習指導の留意点について考察します。	小学校教科書（第4学年）の読むことの文章教材に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などを箇条書きにまとめる。	4時間
第13回	**「読むこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点(3)教科書の分析と授業への構想** 小学校教科書の「読むこと」に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	これまでの本授業の課題やワークをポートフォリオとして整理し、考察したことをメモにまとめる。	4時間
第14回	**国語科学習指導の課題と展望** これまでのレポートや資料を整理することで、これまでの授業で学んだ小学校国語科の内容を振り返り、自分なりの視点から課題を探り、ディスカッションを通して思考を深めてレポートの構想をまとめます。	これまでのレポートや資料を整理しポートフォリオを作成する準備をする	4時間

432

授業科目名	社会科内容論				
担当教員名	丸野亨				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	丸野亨：1997年4月～2018年3月まで、大阪市立小学校教員2年、大阪教育大学附属小学校教員19年（うち教諭14年、主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

小学校社会科の目標・内容とその構成を理解する。特に、学習指導要領の目標や内容について理解し、小学校社会科の目標である公民的資質を養うために必要なことを知る。学びに向かう力、思考力・判断力・表現力等、知識・技能の3つの資質能力や社会的事象の見方・考え方といった現行指導要領の特徴を踏まえて、子供が考える社会科の授業をつくるために必要な要件を考える。さらに、身近な事柄を社会的事象として教材化するための視点に気付いたりすることを通して、よりよい社会科の授業をイメージし、それらを成立するために必要な基礎知識を身に付ける

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	学習指導要領に掲載されている内容についての知識	学習指導要領・教科書に掲載されている内容について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領の内容をもとに、社会生活での課題について把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業の振り返り	50 %	： 振り返りシートへの記述によって各授業後に授業を振り返って学んだことを言語化し、要点を理解している。
期末課題	50 %	： 公民的資質の基礎を育成する社会科に関する課題に対して、授業で学んだ社会科の目標や内容を活用して考えることができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説「社会	・ 東洋館出版社	・ 2018 年

編」

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版、2017年、978-4491034607
その他授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 個人研究室

備考・注意事項： 詳細は、初回授業時に提示

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するオリエンテーションならびに小学校社会科学習の概観** 子供が考える社会科授業に向けた本授業の内容や流れ、評価など。また、小学校3年から始まる社会科について、自身の経験を思い起こしながら概観する。	学習指導要領解説「社会編」を一読しておく。	4時間
第2回	**学習指導要領の改訂の趣旨について** 学習指導要領改訂の背景理解とともに、全教科・領域で共通して育成を目指す「資質・能力の3つの柱」について社会科で育成する資質・能力とは何かを理解する。	学習指導要領改訂の趣旨を整理する。	4時間
第3回	**社会的な見方・考え方** 改訂学習指導要領で強調されている各教科の見方・考え方について、空間、時間、関係でとらえる社会科の見方・考え方について、具体例を挙げながら理解する。	知識・技能と思考力・判断力・表現力を促す「見方・考え方」の働きを整理する。	4時間
第4回	**3年生の学年目標と内容** 地域学習のスタートである3年生の内容について、地域にあるもの・地域に住んでいる人々などとのコミュニケーションの大切さを学ぶ。	３年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第5回	**4年生の学年目標と内容** 防災学習が取り入れられた趣旨を知ると同時に、住民のために公共の諸機関が意図的・計画的に活動に取り組んでいることに重点を置く4年生社会科授業の在り方を理解する。	４年生の学習内容を整理し理解する	4時間
第6回	**5年生の学年目標と内容** 国土の地形・気候・産業・環境について、5年生社会科で取り扱う重点を理解し、つながりと因果関係を見付けられる社会科の在り方を考える。	５年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第7回	**6年生の学年目標と内容** 学習指導要領の改訂に伴う、政治単元・歴史単元・国際単元の配列変更の意図やそれぞれの単元の内容を理解する。	６年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第8回	**社会科授業における諸資料とその活用** 「社会科資料は資料が命」と言われる所以について、体験的に理解する。また、資料の特徴に合わせた資料読解の要点を理解する。	社会科で扱われる諸資料を分類する。	4時間
第9回	**社会科授業におけるICT活用** 先進的な具体的事例とともにICT機器の特徴を理解する。	自身のスマホ利用と照らし合わせながらタブレットを中心としたICT活用のメリット・デメリットを整理する。	4時間
第10回	**アクティブラーニングとしての財政教育** 財務省HPの教材（シミュレーションゲーム）を活用しながら、子供が考える余地のある課題の重要性と、グループで考えることの有効性を考えると同時に、求められる主権者教育の視点に気付く。	歳入・歳出について費目の内容と目的を整理する。	4時間
第11回	**社会科の教科書と副読本の理解** 各自治体で使われている３年生・４年生の副読本について、地域性を考慮した教科書代わりであることを知る。「教科書を教えるのか、教科書で教えるのか」など、教科書・副読本との「付き合い方」を理解する。	副読本の役割を考える。	4時間
第12回	**教材開発と教材研究** 子供の日常生活の中にある事柄を、社会科の学習内容につなげ、教材化する実例にふれたり、そのための視点を獲得したりする。	日常生活の中の教材の「タネ」を見付ける	4時間
第13回	**小学校社会科の評価と指導** 社会科授業に関わる評価について概説するとともに、指導と一体化するための評価の在り方を知る。 評価計画の立案から授業づくりを考える逆向き授業設計について理解する。	評価観点と育成をめざす資質・能力の3つの柱の関係性を考える。	4時間
第14回	**社会科と生活科、総合的な学習の時間との関係について**	社会科と生活科、総合的な学習の共通点と相違点と整理する。	4時間

生活科をベースにして、社会科と総合的な学習の時間に発展することを知るとともに、共通していること違っていることを理解し、それぞれの教科の特性を知る。		

432

授業科目名	**算数科内容論**				
担当教員名	橋本隆公・木村憲太郎				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の内容に関する体験知（全14回） 橋本　大阪市立小学校　国立大学法人　大阪教育大学附属小学校　教諭として勤務 木村　岸和田市立小学校　教諭として勤務				

授業概要

算数科では、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・ 能力を育成すること」をめざしている。また、数学的活動とは、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものである。そこで、本講義では、小学校学習指導要領「算数編」を深く理解し、学年や領域の特性や能力に見合った授業に必要な知識を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	小学校学習指導要領算数編の内容について体験を伴いながら理解を図る。	算数科の授業に必要な知識・技能や考え方を習得し、授業で実践できる力を身につける。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		各学年や領域別の知識・技能や考え方の習得とそれを利用できる力を育てる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題ワークシート	30 %	： 学修内容に対するワークシートへの記入が適切になされているか、またワークシートをもとにして授業中に教員からの質問に対して的確に回答できているかを評価する。
期末レポート	40 %	： 算数科内容論の学修内容を省察し、内容の深い理解を確認する。
授業内レポート	30 %	： 学修内容に対する理解ができているかを記述式による振り返りで確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　算数編	・日本文教出版	・2018　年
橋本隆公	・算数科内容論×算数科指導法	・東洋館出版	・2017　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火・金の昼休み

場所： 橋本研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**小学校算数科教育の現状と算数科学習指導要領の概要** 小学校学習指導要領算数編の概要の解説と小学校算数科教育の現状を照らし合わせた解説を聞き理解する。	小学校算数科教育の現状について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第2回	**小学校学習指導要領算数編の各学年と領域の概要** 小学校学習指導要領算数編における各学年ごと・各領域ごとの解説を通して、算数科内容論の目的・概要・スケジュールを理解する。	小学校学習指導要領算数編の各学年と領域の概要について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第3回	**「数学的活動」と「表現する能力」** 「数学的活動」とは何か、なぜ必要なのかを理解する。算数科における「表現する能力」とは、どのようなものか、どのように育成するのかを考え、理解する。	「数学的活動」と「表現する能力」について事前に調査したり、事後にそれらの重要性等についてまとめたりする。	4時間
第4回	**「問題解決型学習」** 「問題解決型学習」とはどのような流れなのか、なぜ必要なのかを考え、理解する。	「問題解決型学習」について事前に調査したり、事後に意義等についてまとめたりする。	4時間
第5回	**「パフォーマンス課題」** 算数科における「パフォーマンス課題」とはどのようなものか、なぜ必要なのかを考え、理解する。	「パフォーマンス課題」について事前に調査したり、事後にそれらの重要性等についてまとめたりする。	4時間
第6回	**「主体的・対話的で深い学び」** 算数科における「主体的・対話的で深い学び」について理解し、どのように授業を工夫すればよいのか考える。	算数科における「主体的・対話的で深い学び」について事前に調査したり、事後にそれらについてまとめたりする。	4時間
第7回	**「数と計算」領域と第１学年の学習内容** 小学校学習指導要領算数編における「数と計算」領域について、具体的な授業実践を通して理解を深める。同時に、第１学年の学習内容についてを学ぶ。	「数と計算」領域について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第8回	**「測定」領域と第２学年の学習内容** 小学校学習指導要領算数編における「測定・変化と関係」領域について、具体的な授業実践を通して理解を深める。同時に、第２学年の学習内容について学ぶ。	「測定・変化と関係」領域について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第9回	**「図形」領域と第３学年の学習内容** 小学校学習指導要領算数編における「図形」領域について、具体的な授業実践を通して理解を深める。同時に、第３学年の学習内容について学ぶ。	「図形」領域について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第10回	**「変化と関係」領域と第４学年の学習内容** 小学校学習指導要領算数編における「変化と関係」領域について、具体的な授業実践を通して理解を深める。同時に、第４学年の学習内容について学ぶ。	「変化と関係」領域について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第11回	**「データの活用」領域と第５・６学年の学習内容** 小学校学習指導要領算数編における「データの活用」領域について、具体的な授業実践を通して理解を深める。同時に、第５・６学年の学習内容について学ぶ。	「データの活用」領域について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第12回	**学年別まとめ** 育成すべき３つの資質・能力に焦点をあて、学年があがるごとにどのように変化しているのかを考え、理解する。	事前に学年の違いを調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第13回	**算数科における「カリキュラム・マネジメント」と幼稚園・小学校・中学校の連携** カリキュラム・マネジメントについて理解し、算数科において、どのようなカリキュラム・マネジメントを行うことができるのか考える。また、幼稚園と小学校、小学校と中学校との算数科における連携について学ぶ。	算数科におけるカリキュラム・マネジメントや連携について事前に調査したり、事後にまとめたりする。	4時間
第14回	**総括** これまでの学修をふり返り、算数科の意義を再確認する。	事前にこれまでの学修を各自ふり返る。また事後は、算数科の意義についてまとめる。	4時間

432

授業科目名	理科内容論				
担当教員名	福岡亮治				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市内の小学校教諭 京都市教育委員会事務局主任主事 京都市教育委員会研究員　　（全14回担当）				

授業概要

はじめに、小学校現場で使用されている教科書から小学校理科に関する全単元の内容と学習指導要領に記載されている理科の目標と各学年の目標を把握する。その後，受講生各自が教科・学年・単元を選択し、その単元について各社の教科書を比較分析する。合わせて学習指導要領、同解説、指導書の検討を行い、その単元についてのイメージを明確にする。さらに，小学校の理科実験で事故やけがの多い実験についての演習を行い、事故等を未然に防ぐ実験の方法を把握する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教科に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科の内容について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領・教科書の分析・考察から理科教育の課題を検討できる
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 授業の内容に関する知識理解を問う記述式の試験で評価
授業への参加度	15 %	： 授業中の小テスト等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価
研究レポート	15 %	： 授業内レポート及び時間外レポート、欠席した日の分も評価に入れるので自学自習を行い提出が必要

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省	・小学校学習指導要領解説　理科編	・東洋館出版	・2018　年
福岡亮治	・元芸人が教える「笑って学ぶ」小学校理科	・東洋館出版社	・2021　年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します

場所：　福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科内容論：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　評価法と講義目的について** 学習指導要領の理科の目標を分析した上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１４回の授業を通して獲得すべき力の見通しを持つ	学習指導要領第2章の読み込み	4時間
第2回	**学習指導要領の存在について** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の内容の把握 ③事例を使った該当範囲のケーススタディ	学習指導要領第2章の分析	4時間
第3回	**学習指導要領の変遷・教科書の歴史** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②学習指導要領の変遷と社会状況との関りの把握 ③歴代の教科書の内容把握	学習指導要領理科目標の考察	4時間
第4回	**Ｂ生命・地球「天気の変化」** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領5年の目標の分析・考察	4時間
第5回	**Ｂ生命・地球「生物と環境」** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領6年の目標の分析・考察	4時間
第6回	**Ｂ生命・地球「季節と生物」** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領4年の目標の分析・考察	4時間
第7回	**学習指導要領の範囲を超えた指導について** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領第４章の分析・考察	4時間
第8回	**ネットを使用した教材研究の方法** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③ネットを使用した教材研究の体験	学習指導要領第４章の分析・考察	4時間
第9回	**研究的視点で歴代教科書を分析　・　単元の入替について** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②「植物」単元に着目し、学習指導要領の変遷を把握 ③該当範囲の歴代教科書の分析	学習指導要領第３章の目標の分析・考察	4時間
第10回	**理科教育におけるユニバーサルデザインについて** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領第1章の目標の分析・考察	4時間
第11回	**理科の各学年の目標及び内容一覧表まとめ** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領第2章の分析・考察	4時間
第12回	**最近の教育ワードについて①「エデュテイメント」** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領第1章の目標の分析・考察	4時間

第13回	**最近の教育ワードについて②「反転授業」** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領第4章の目標の分析・考察	4時間
第14回	**学習指導要領分析、総括と質疑応答** 学習指導要領の文言を覚えるだけに留まらないように目標・内容区分等を分析し、レポートを作成する	目標・内容区分分析レポートの作成	4時間

432

授業科目名	**生活科内容論**				
担当教員名	**丸野亨・稲井雅大**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	丸野亨：1997年4月～2018年3月まで、大阪市立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち教諭14年、主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全14回担当） 稲井雅大：1996年4月～2024年3月まで、大阪市立小学校教員19年（うち教諭13年、指導教諭6年）、国立大学附属小学校教員9年（うち教諭8年、主幹教諭1年）の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

教科誕生・改訂の経緯とその社会背景について理解する。また、楽しい生活科の授業を行えるように基礎的・基本的な知識と技術を身につけるために、生活科の目標や内容についてしっかり理解するようにする。また、生活科の授業を行える基礎的・基本的な知識と技術を身につけるために、具体的な事例を通して授業づくりのあり方を学ぶ。また、生活科における「遊び」の意味を理解し、楽しい授業が成立するために、気付きの質の高め方や支援のあり方についても事例をもとに考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	楽しい生活科の授業を行うための教養やスキル	授業を楽しくする教養やスキルを身に付けることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領の内容の理解を深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各授業の振り返り	50 %	： 振り返りシートへの記述によって各授業後に授業を振り返って学んだことを言語化し、要点を理解している。
期末課題	50 %	： 子供の思い・願いを大切にする生活科に関する課題に対して、授業で学んだ生活科の目標や内容を活用して考えることができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」	・東洋館出版	・2018 年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年告示）、東洋館出版、2017年、978-4491034607
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 個人研究室

備考・注意事項： 詳細は、初回の授業時に周知します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業に関するオリエンテーションと生活科の概観** 14回分の授業の目的・流れ・評価方法等を説明する。また、小学校1・2年で行う生活科について、学生自身の経験を思い起こしながら教科の特徴を概観する。	学習指導要領解説【生活編】を一読する。	4時間
第2回	**学習指導要領の概要（創設の経緯、改訂の趣旨など）** 生活科のできた背景について、教育界の流れ、子どもの発達の段階などを踏まえ説明する。	生活科ができた背景を整理する。	4時間
第3回	**学校と生活** 幼稚園・保育園から大きく変わる小学校生活について調べ、自分たちの学校生活を支えるためにいろいろな施設があることや多くの人に支えられていることを学ぶ。	スタートカリキュラムについて理解する。	4時間
第4回	**家庭と生活** 家庭における自分の変化に気付き、家族の役割や自分の役割などを理解する。	家庭との協力を得るためにはどうすればいいか考える。	4時間
第5回	**地域と生活** 校区には自分が気付いていないところで、いろいろな人に支えられていることに気付く。	地域にはどんな行事があるか整理する。	4時間
第6回	**公共物や公共施設の利用** 自分の身の回りにはいろいろな公共物や公共施設があることや、多くの人たちが利用していることを知り、自分たちが利用するときに気をつけることなどに気付く。	実際に公共物をあるいは公共施設を利用する。	4時間
第7回	**季節と生活** 日本には四季があることを知り、人々はその季節に応じた生活をしていることや、その季節を感じるためには諸感覚を働かせたフィールドワークが有効であること知る。	季節の行事などをまとめる。	4時間
第8回	**自然や物を使った遊び** 季節のものや生活で不用になったものを利用して、遊び道具をつくったりすること。さらに、友だちといっしょに遊ぶことの大切さなどを知る。	見本となる遊び道具を作る。	4時間
第9回	**飼育と栽培** 実がなり後で食することができるものを栽培したり、昆虫などの小さな生き物からうさぎや鶏などの小動物の飼育を通して、世話をすることによって成長することや命の大切さを学ぶ。	具体的に何を飼育・栽培すればいいか検討する。	4時間
第10回	**人とのかかわり（生活や出来事の交流）** 子どもたちも地域の一員として、いろいろな行事に参加したりしながら地域の人たちとのコミュニケーションをとることの大切さを学び、その方法として自分たちの生活やいろいろな出来事を伝え合うことが最もいいことを知る。	より効率的な発表方法を考える。	4時間
第11回	**自分の成長** 生まれてから今までの成長のあとを振り返り、多くの人たちに支えられて大きくなったことを知る。	自分の成長を記録する。	4時間
第12回	**生活科の評価と支援** 生活科の評価は、それぞれの子どもたちの成長をしっかり見ることからスタートしていることを知り、その方法としてポートフォリオ評価がよく使われることを学ぶ。授業中などの支援で大切なことは子どもに寄り添うことがいちばんであることを学ぶ。	評価規準や評価方法などを整理する。	4時間
第13回	**生活科における気付きと遊びについて** 気付きは生活科特有の評価項目であり、他教科の理解に当たるものであるが、具体的な活動を通して行う部分が違うことを学ぶ。生活の誕生で今まで学ぶことと正反対であった遊びが学習の一貫として認められたことを知る。	気付きを高める方法を考える	4時間
第14回	**事例研究　生活科の授業（時期が合えば、研究発表会で授業参観、参観後の討議会）** 実際の生活科の教科書や授業を見ることにより、自分で授業してみたい単元をイメージしたり、先生の支援のあり方や授業の進め方などを学ぶ。 また、授業の総括として質疑応答を行う。	支援のあり方を整理する。	4時間

432

授業科目名	音楽科内容論				
担当教員名	加戸敬子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、音楽の基礎的な理論である楽典およびその応用である和音、コードネームなどを学ぶ。また、歌唱による読譜練習、教育楽器の基礎的な演奏法と独奏、アンサンブル演奏を通して、音楽の構成要素や仕組みを理解する。
小学校音楽科共通歌唱教材（全24曲より抜粋）の楽曲構成、作曲・作詞の背景、歌詞の意味などを理解し、弾き歌い・独唱することを通して、小学校音楽教科内容を理解しその指導能力を身につけることを目標としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	音楽基礎理論と和音の理解	音名、音程、和音を理解することができる。

汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		理解した専門知識や技能を、音楽科指導に活用する力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
楽典テスト	50 %	:	音楽理論の基礎と和音の内容理解
読譜テスト	10 %	:	音程・リズムの理解
小学校歌唱共通教材の弾き歌い	20 %	:	歌詞と音楽の要素を理解した表現
音楽科の内容に関する筆記試験（レポート）	20 %	:	音楽科の内容に関する理解度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
初等科音楽教育研究会編	・改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 ISBN: 9784276821026	・音楽之友社	・2023 年

参考文献等

『小学校学習指導要領解説-音楽編』（文部科学省2018年）ISBN978-4491034652
『こどもが大好きなうたの本』（大阪成蹊学園2019年）ISBN978-4990886332

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月・火曜の昼休み

場所： 加戸研究室

備考・注意事項： 事前にアポイントを取ってください。kato-hi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、音楽の構成要素の理解①～音部記号、階名と音名** 授業のスケジュールと進め方、成績評価の説明。 楽典①　音部記号、階名と日本語・英語音名を理解する。 小学校１年生歌唱教材（「うみ」「かたつむり」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：階名、音名、歌唱教材）	4時間
第2回	**音楽の構成要素の理解②～嬰♯記号、四分音符と二分音符** 楽典②　嬰♯記号、四分音符と二分音符を理解する。 読譜練習　長・短２度音程 小学校１年生歌唱教材（「日のまる」「ひらいたひらいた」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 音楽のリズム遊び。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：全音と半音、嬰♯記号,）	4時間
第3回	**音楽の構成要素の理解③～変♭記号、デュナーミク記号、声域の理解** 楽典③　変♭記号、デュナーミク（強弱）記号、混声合唱各声部（ソプラノ、アルト、テナー、バス）の声域の理解 読譜練習　長・短２度音程 小学校２年生歌唱教材（「かくれんぼ」「春がきた」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 カスタネットの仕組みと奏法を理解しワークを行う。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：変♭記号、声域）	4時間
第4回	**音楽の構成要素の理解④～全音と半音、長・短２度音程** 楽典④　全音と半音、長・短２度音程 読譜練習　長・短２度音程 小学校２年生歌唱教材「虫のこえ」の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 タンブリンの仕組みと奏法を理解しワークを行う。 楽典復習テスト１	授業についてプリントにまとめる（キーワード：「虫の声」）	4時間
第5回	**音楽の構成要素の理解⑤～全音と半音、長・短３度音程** 楽典⑤　　全音と半音、長・短３度音程 小学校２年生歌唱教材「夕やけこやけ」の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに、ペンタトニックの伴奏について理解する。 歌唱教材（小学校１～２年生）の歌唱小テスト トライアングルの仕組みと奏法を理解しワークを行う。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：長・短３度音程）	4時間
第6回	**音楽の構成要素の理解⑥～完全１・８度音程** 楽典⑥　全音と半音、完全１．８度音程 読譜練習　長・短２度および長・短３度音程 小学校３年生歌唱教材（「うさぎ」「茶つみ」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 様々な歌唱（同時唱、指示唱、交互唱）のワークを行う。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：子どもの歌唱）	4時間
第7回	**音楽の構成要素の理解⑦～完全４・５度音程** 楽典⑦　変化記号を伴う音程、完全４・５度音程 読譜練習　完全４．５度音程 子どもの声域と歌唱 小学校３年生歌唱教材（「春の小川」「ふじ山」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：移調の意味）	4時間
第8回	**音楽の構成要素の理解⑧～奏法・強弱・速度記号** 楽典⑧ 移調の必要性を知り、楽譜作成を行う。長２度の移調 小学校４年生歌唱教材（「さくらさくら」「とんび」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 学年に応じたボディーパーカッションのワークを行う 楽典復習テスト２	授業についてプリントにまとめる（キーワード：速度標語、メトロノーム）	4時間
第9回	**音楽の構成要素の理解⑨～発想・反復記号** 楽典⑨　長・短３度音程 移調の楽譜作成。長３度の移調 小学校４年生歌唱教材（「まきばの朝」「もみじ」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 鍵盤ハーモニカの仕組みと奏法を理解しワークを行う。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：和音）	4時間
第10回	**音楽の構成要素の理解⑩～三和音の基本形**	授業についてプリントにまとめる（キーワード：三和音）	4時間

	楽典⑩　三和音の基本形 読譜練習　歌唱教材を用いた読譜練習 小学校５年生歌唱教材（「こいのぼり」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 鈴・マラカスの仕組みと奏法を理解しワークを行う。		
第11回	**音楽の構成要素の理解⑪～三和音と転回形** 楽典⑪　三和音の基本形と転回形 読譜練習　歌唱教材を用いた読譜練習 小学校５年生歌唱教材（「冬げしき」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 様々な打楽器を紹介し、その奏法を理解する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：「冬景色の歌詞」）	4時間
第12回	**音楽の構成要素の理解⑫～三和音の種類（増、長、短、減）の理解** 楽典⑫　三和音の種類（増、長、短、減）の理解 読譜練習　歌唱教材を用いた読譜練習 小学校６年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 ミュージックベルの仕組みと奏法を理解し、指導方法について知る。 楽典確認テスト３	授業についてプリントにまとめる（キーワード：ミュージックベル）	4時間
第13回	**音楽の構成要素の理解⑬～コードネーム** 楽典⑬　三和音の種類とコードネーム（C、F、G） 読譜練習　歌唱教材を用いた読譜練習 小学校６年生歌唱教材（「おぼろ月夜」）の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 トーンチャイムによるハーモニー奏、カウンターメロディー奏のワークを行い、インクルーシブ教育としての音楽について学ぶ。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：トーンチャイム）	4時間
第14回	**まとめと質疑応答、小テスト（楽典、歌唱）** 楽典⑭　コード付け 選択曲を移調し、簡易コードでの伴奏譜を作成する コード付け弾き歌い実技テスト	授業についてプリントにまとめる（キーワード：歌唱指導時の留意点）	4時間

432

授業科目名	**図画工作科内容論**				
担当教員名	白波瀬達也				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、小学校学習指導要領に示された図画工作科の「目標と学年別の内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」について具体例をあげながら解説し、その背景となる幼児の「造形表現の発達」や「図画工作教育の変遷」を知ることを通して指導の前提となる教科内容の深い理解を目指す。加えて後半には、今日求められる「社会との連携・協働」や「幼小中の連携」について、授業につながる「指導と評価」「アクティブラーニングの視点からの学習過程」などについて、を知ることで、教科指導に資する図画工作科の本質理解を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	図画工作科の教科内容と取扱いに関する知識	学習指導要領における図画工作科の目標や内容と今日求められる課題について理解できる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		他人の意見によく耳を傾け、自分の意図や意見を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	60 %	： 学習内容の理解について正答率で評価します。
課題とレポート	30 %	： 内容の妥当性と構成について独自のルーブリックに基づいて評価します。
授業への参加	10 %	： 論理的で積極的な発言・姿勢などを独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　図画工作編	・ 日本文教出版	・ 2018　年

参考文献等

平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社、2017、ISBN4-8054-0258-0) を授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡します。

場所： 中央館4階　研究室

備考・注意事項： 授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義目的と評価基準及び学修プランについてオリエンテーション** 学習指導要領(図画工作科)の内容理解と授業の関係から、その必要性を知り、学修プランについて理解します。授業の約束、姿勢、評価基準等について確認します。	学習指導要領を通読し、疑問点を見つだす。	4時間
第2回	**図画工作科の目標と内容構成** 学習指導要領における図画工作科の目標について、その意味を理解し、目標達成に向けた内容理解に向けて構成について学びます。	目標を設定した背景を整理する。	4時間
第3回	**各学年別「絵や立体、工作に表す活動」の絵や立体の内容** 「絵や立体」に表す活動の学年による内容の変化について、具体例とともに考えます。また、方式の絵等の絵の指導法について交流し、是非を整理することから目指す指導について考えます。	「A表現」のイの事項について低中高の内容を比較して整理する。	4時間
第4回	**各学年別「絵や立体、工作に表す活動」の工作の内容** 「工作」に表す活動の学年による内容の変化について、具体例とともに考えます。また、方式の絵等の絵の指導法について交流し、是非を整理することから目指す指導について考えます。	「A表現」のイの事項について低中高の内容を比較して整理する。	4時間
第5回	**各学年別「造形遊びをする活動」の内容** 「造形遊び」の誤解や現状をふまえ、内容･方法を具体例とともに確認整理します。 本学の「造形遊び」の授業における演習と関連させ、具体的に整理します。	表現のアの事項について、低中高学年の内容比較して整理する。	4時間
第6回	**各学年別「鑑賞する活動」の内容** 「鑑賞する活動」の現状・目的・指導方法を学び、表現と一体化した鑑賞のあり方を考えます。 また、ＩＣＴ機器の積極的な活用の可能性について交流・整理します。	表現と鑑賞の関係や鑑賞する活動の低中高の違いを整理する。	4時間
第7回	**子どもの造形表現の特徴（幼児期～小学校）** 子どもの成長・発達と造形表現の変化や特徴を作品や活動の実例を通して学び、連続的な学びの必要性と課題について考えます。	子どもの成長と絵の変化について調べ、まとめる。	4時間
第8回	**図画工作教育の変遷　黎明期～戦後～現代** 図画工作(美術)教育の黎明期と現在に比較、民間美術教育運動や視覚テクノロジーの発達を踏まえ、学習指導要領の変遷を通して美術教育の流れを学び、現行を生かす授業のイメージを交流します。	黎明期と現行の図画工作の違いについて調べる。 図画工作科で扱う材料や用具について経験を振返りながら整理する。	4時間
第9回	**内容の取扱いについて** 内容の取扱いに示された配慮事項について、材料・用具の具体的な取扱いや安全について、具体例を挙げて整理し含めて確認し、理解を深めます。	図画工作科におけるICT活用法を考える。	4時間
第10回	**図画工作科と言語活動** 形・色・イメージが中心になる教科における有効な言語活動のあり方（価値や方法）について考えます。	授業における活用法を検討する	4時間
第11回	**幼小中のつながりから見た図画工作教育** 子どもの発達、校園種の違いを知り、幼小連携の必要性及び現状と課題について考えます。	造形美術教育における幼小の連携について意見をまとめる。	4時間
第12回	**図画工作科授業における指導と評価のあり方** 指導と評価の関係と意義について知り、今日的な評価や支援の具体的な方法について学びます。	評価の為のツールについて調べ、考える。	4時間
第13回	**指導計画と学習指導案の作成について** 領域や内容、育みたい資質や能力を意識した学習指導のあり方と基本的な指導案の作成について学びます。	様々な学習指導案を集め、比較する。	4時間
第14回	**図画工作教育の現状と課題**	学習指導要領における図画工作科の変遷をまとめる。	4時間

自らの経験を振り返りながら、現状と課題を明らかにし、課題解決に向けてすべきことについて考えます。とりわけ高学年から中学校にかけての苦手意識の急増への対応について交流検討します。		

432

授業科目名	家庭科内容論				
担当教員名	南千里				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校及び教育大学附属小学校で教員として勤める。附属小学校では家庭科部員として公開発表や共同執筆で家庭科研究に努めた。副校長経験が3年ある。（全14回担当）				

授業概要

家庭科領域における、家庭経営・家庭経済、家族関係、衣食住生活、地域・社会とのかかわり、消費者・生活者としての主体形成などのテーマ別に、事例の紹介、または実習機会を設けながら、理論的・実証的に把握・検討する。また、衣食住、環境等に関する実践的、体験的な活動を通して日常生活に必要な知識技能を理解する。そして、小物づくり（手縫い、ミシン縫い）、模擬授業等を通して基礎的、基本的な知識技能を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	家庭科の内容を科学的に理解し、知識や技能を身に付ける。	家庭科の内容を理解し、自分の興味ある課題を設定できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		日常生活に目を向け、四季折々の衣食住に関する人々の暮らしを観察し、課題をつかむ。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		課題を自分自身のものとして捉え、よりよい者へと改善しようとする実践的態度。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 家庭科の内容を理解し、習得した知識を生活に生かす力を試験として評価する。
提出物	40 %	： 製作作品、レポート、ワークシート等を評価する
授業への参加態度	20 %	： 建設的、意欲的な発表や討議への積極的な発言参加度、感想を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鳴海　多恵子他	・ わたしたちの家庭科5.6	・ 開隆堂	・ 2024　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業について確認し、学習指導要領における家庭科の目標をまとめる	学習指導要領解説「家庭」の内容を読む。	4時間
第2回	**学習指導要領と内容　　「家族･家庭生活」について（１）家庭の仕事と生活時間** 学習指導要領における家庭科の内容を知る。 「家族･家庭生活」の内容を理解し、家庭の仕事と生活時間の学習内容を知る	普段は気にかけていないような家庭の仕事を見つける。	4時間
第3回	**家族･家庭生活」について（２）家族や地域との関わり** 家族や地域との関わりに関する学習内容を知り、課題例について考える	家族・近隣社会について調べる。	4時間
第4回	**「食生活」について（１）栄養** 子どもたちを取り巻く現状と「食生活」の内容を理解し、栄養に関する学習内容を食育との関連で捉える	食事の役割について、自分の考えをまとめる。	4時間
第5回	**「食生活」について（２）調理の基礎・基本と料理例** 調理の基礎･基本の習得と児童の課題解決面から、作る料理例について考える 和食の基本であるご飯と味噌汁の意義や行事食や郷土料理、旬食材の意義を考える	調理について基礎的な調理法を調べる。日本の食文化（行事食・郷土食等）について調べる	4時間
第6回	**「衣生活」について（１）季節に合わせた衣生活** 「衣生活」の内容を理解し、洗濯や衣服の役割・季節に応じた着方の学習内容を知る	季節による衣生活を振り返る。	4時間
第7回	**「衣生活」について（２）手縫いの基礎** 製作実習についての内容を知り、手縫いの基礎の練習として簡単な小物を作る	手縫いの用具やフェルトを用意する	4時間
第8回	**「衣生活」について（３）布を使った製作** 布を使って生活を豊かにするものを自分で考え、製作計画に従って製作する	手縫いで作る物を考え、材料を用意する	4時間
第9回	**「衣生活」について（４）布を使った製作および指導における留意点** 製作計画に従って製作し、作品を完成させる。 授業での活動を参考にして、自分なりに実際の授業での留意点を考える。	授業での活動を活かして、自分なりの授業の具体的な在り方を考える	4時間
第10回	**「住生活」について（１）　整理・整頓と掃除** 「住生活」の内容を理解し、整理･整頓、掃除に関する学習内容について知る	整理・整頓や掃除の方法を調べる	4時間
第11回	**「住生活」について（２）季節に応じた住まい方と環境にやさしい住まい方** 季節に応じた住まい方に、省エネや環境の視点を加えた学習内容や工夫について知る	季節に応じた住まい方や環境に優しい住まい方について調べる	4時間
第12回	**「消費生活･環境」について（２）売買契約と消費者教育ついて** 学習内容である「売買契約」の基礎を知る 推進法での消費者教育の目標を理解し、消費者市民の育成をめざす視点を考える	消費者教育推進法について調べる	4時間
第13回	**「消費生活･環境」について（１）ESDの取り組みとSDGｓ** 「消費生活･環境」の内容を確認し、ESDの取り組みやSDGsとの関連を知る	ESDやSDGｓについて調べる	4時間
第14回	**「消費生活･環境」について（３）持続可能な社会の構築と3R** 持続可能な社会の構築をめざして3Rを基にプラごみや食品ロスについて考える	３Rや物を大切にする生産や消費について調べる	4時間

432

授業科目名	体育科内容論				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

小学校体育科教育は、「自らが運動する意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ姿勢や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めること」を柱に運動体験を通して達成感、粘り強さ、社会性を身につけることが目的とされている。本授業では、「小学校学習指導要領解説　体育編」の内容理解と、①学年別にみた運動発達特性と種目特性および各種目の「こつ」について②運動が幼児、児童期の身体に及ぼす影響について、③体力向上の目的と測定方法、評価法および得られたデータの活用法について、科学的根拠の基遂行できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	小学校体育の意義と課題について理解できる	小学校体育授業おいて、現代の課題を抽出し解決策を提案できる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		小学校体育の意義と課題について理解できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50　%	：　設問について学んだ専門知識を基に記述がなされているか。
課題レポート	40　%	：　①出されたテーマに沿って丁寧に記述されている　②参考文献を活用しているか　以上の観点から全学共通ルーブリックをもとに評価する。
授業の取り組み状況	10　%	：　①質疑応答に積極的に参与しているか　②グループ発表の準備等積極的に取り組んでいるか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領　体育編	・ 東洋館出版	・ 2018　年

参考文献等

必要に応じて印刷配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の２限

場所：　中央館２階安部研究室

備考・注意事項：　それ以外の時間帯を希望の場合は、要相談。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション　発育発達（１）　幼児、児童の形態と体組成および測定方法** 幼児児童の発育発達特性・形態・体組成およびその測定方法（直説法・間接法）について解説する。また、保育教育現場での実践的な測定方法・活用法と注意点について解説する	体組成について予習する	4時間
第2回	**発育発達（２）　幼児、児童の体力・運動能力と測定方法** 幼児児童の体力・運動能力およびその測定方法について解説する。また、保育教育現場での実践的な測定方法・活用法と注意点について解説する	幼児児童の発育発達について予習する	4時間
第3回	**発育発達（３）　幼児、児童の神経・循環器系・骨の特性** 幼児児童の神経・循環器系・骨の特性について解説する。また、保育教育現場での運動遊びの意義について解説する	幼児児童の骨について予習する	4時間
第4回	**幼児、児童の身体活動量とエネルギー供給機構** 幼児児童の身体活動量とエネルギー供給機構について解説する。また、保育教育現場での身体活動量確の意義と課題について解説する	身体活動量について予習する	4時間
第5回	**体育科教育の理解（１）　運動領域の改定とその背景について科学的根拠を基にして解説する** 体育科指導要領改訂の読み解きと課題を科学的根拠を基に理解しその要因についてデイスカッションする	運動領域について予習する	4時間
第6回	**体育科教育の理解（２）　教科体育の役割と目標と指導計画の立て方と注意点について** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた種目別指導案について議論し提案する	体育授業の意義について予習する	4時間
第7回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（１）跳び箱・マット運動・鉄棒** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた跳び箱・マット運動・鉄棒の指導案について議論し提案する	器械運動の内容と評価について予習する	4時間
第8回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（２）走り幅跳び・短距離走** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた走り幅跳び・短距離走の指導案について議論し提案する	跳躍種目の内容と評価について予習する	4時間
第9回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（３）ハードル走** 本講義までの講義内容を総括し系統立てたハードル走の指導案について議論し提案する	ハードル走の内容と評価について予習する	4時間
第10回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（４）球技** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた球技の指導案について議論し提案する	球技種目の内容と評価について予習する	4時間
第11回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（５）体つくり運動・表現ダンス** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた体つくり運動・表現ダンスの指導案について議論し提案する	体つくり運動・ダンスについて予習する	4時間
第12回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（６）水泳** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた水泳の指導案について議論し提案する	水泳の名用途評価について予習する	4時間
第13回	**施設用具の活用法と体育授業におけるリスク管理** 体育科指導中の怪我の種類と要因および対応について解説する	怪我の要因について予習する	4時間
第14回	**体育科指導案作成の目的と方法について総括と質疑応答** 体育科指導案の立案の意義と目的について総括 （具体的な事例をあげ、要因と予防策の提案を行いまとめる） 体育科教育および子どもの健康課題について質疑応答を行う	質疑応答内容をまとめレポートを提出する	4時間

432

授業科目名	**外国語（英語）科内容論**				
担当教員名	石田雅子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪・奈良・京都・三重の小・中・高等学校の英語科教員として通算22年間勤務し、英語教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験あり。（全14回）				

授業概要

急速なグローバル社会の進展に伴い、世界各国で外国語学習の低年齢化が進んでいる。日本においても2011年度より高学年で「外国語活動」が導入され、2020年度からは教科「外国語」（高学年）、「外国語活動」（中学年）が導入されている。本講義では、日本の小学校教育課程における外国語教育の位置づけや目標、また外国語を学ぶ際の発達段階、言語習得を踏まえ、英語に関する基本的な事項（音声、語彙、文構造、正書法など）について学修を進めていく。またその際には、小学生に外国語（英語）を指導するという視点を持って学修していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	小学校外国語教育（外国語活動含）について、学習指導要領で示されている目標や方針を理解するとともに、発達段階や言語習得理論などの理論的基盤について理解する。	小学校外国語（外国語活動含）の授業を実践する際に必要な教科内容について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		小学校外国語教育（「外国語」「外国語活動」）をめぐる理論的知見を理解するとともに、実践的な指導力の基礎となる教科内容を身に付けることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な子どもがいるクラスの中で、個々を尊重し、指導できる力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	20 %	： 毎回の授業に真摯に取り組み、積極的に発言し、仲間と協力して活動できているか、自身でまとめノートを整理できているかを総合的に評価する。（20点）
授業後のレポート・授業内課題	30 %	： 授業内課題(20点）において基礎的な知識を踏まえて課題に取り組めたかを評価する。各授業での振り返り（10点）や、外国語教育に関するさまざまな理論を理解しているかを評価する。
最終発表		： 模擬授業において、小学校英語教育に関する理論をもとに、効果的な授業を行う視点とティーチングスキルをどれだけ身につけられたかを評価する。（30点）

30　%

最終レポート　：　模擬授業の指導案および振り返り、課題をまとめたレポートを課す。指導案の書き方を習得し、分かりやすく簡潔に書かれているか、自身の模擬授業を客観的に見つめ、改善できるかを評価する。（20点）

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編	・開隆堂　978-4304051685	・2018　年
アレン玉井光江ほか	・NEW HORIZON Elementary 6（令和6年度版）	・東京書籍	・2024　年

参考文献等

・柏木賀津子・伊藤由紀子『小・中学校で取り組む　はじめてのCLIL授業づくり』大修館書店　2020年。ISBN978-4-469-24638-4

・赤沢真世（編著）『小学校外国語科・外国語活動の授業づくり』2022年。ISBN978-4-316-80496-5

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業ではノートを準備し、学んだことを整理しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜4限

場所：　伊藤研究室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：小学校外国語、外国語活動の意義と目標、コミュニケーション能力** グローバル化の進展、英語話者、CEFR、多言語主義について触れ、これから求められる英語教育、小学校での英語教育の必要性、コミュニケーション能力について考えます。また、外国語や外国語活動の授業のイメージを体験します。	英語でself-introductionを考える。	4時間
第2回	**学習指導要領に示された外国語、外国語活動の内容・世界の小学校英語教育、第二言語習得理論** 新学習指導要領の外国語、外国語活動の目標・内容や指導方法について整理します。また、背景として、アジア・ヨーロッパ諸国における英語学習、ESLとEFL、早期英語教育の是非について学びを深めます。発達段階や第二言語習得理論からみる、外国語活動の利点やカリキュラムの構成についての注意点について考えます。	外国語・外国語活動の理念について整理する。	4時間
第3回	**英語の音声から文字へ（１）歌とチャンツ** 「外国語活動」におけるチャンツや歌の指導について理解し、音楽を活用したアクティビティを取り入れながら進める授業のイメージを持つとともに、具体的な指導内容と指導のポイントを理解します。TPRの理念や実践を学びます。	興味のある歌・チャンツを調べる。	4時間
第4回	**英語の音声から文字へ（２）英語の音声を認識する** 外国語指導において、特に音声を重視した活動の内容を体験しながら、英語音声の特徴をとらえ、指導のポイントを考えます。外国語を習得する基礎基本となる音韻認識活動を育成するさまざまなアクティビティとその指導法を学びます。	音韻認識活動についての振り返り。	4時間
第5回	**英語の音声から文字へ（３）さまざまなフォニックスについて　音声と文字の関係** 外国語活動、外国語を橋渡しする、発音と綴りの関係について学びます。また、教科書をその視点から分析し、指導のポイント（教材の体験、教材づくりなど）を考えます。外国語（高学年）における読み書きの指導内容を理解します。	外国語のフォニックス指導をとりあげ、分析する。	4時間
第6回	**検定教科書を読み解く、スモールトーク、デジタル・ICT機器を活用した指導** 複数の検定教科書を比較・検討し、現代の英語教育が向かう方向性や、ポイントを考えます。指導者と児童、児童同士の短いやり取りであるスモールトークについて知り、実際に体験します。外国語を指導するにあたり、効果的なデジタル・ICT教材の活用方法について考えます。 デジタル教科書の使用例やコンテンツについて学びます。	ICT機器を活用した指導を考える。	4時間
第7回	**異文化理解、パフォーマンス評価、４技能の指導、中間まとめ** 小学校の授業における教科内容との結びつきの重要性を踏まえ、これからの社会で求められる力や異文化理解、パフォーマンス評価などについて学び、考えます。小学校英語教育における４技能統合型の活動（パフォーマンス課題）とその評価の位置づけおよび在り方を学びます。 中間まとめを行います。	中間まとめを行う	4時間
第8回	**ミニ模擬授業体験にむけての授業づくり（１）指導計画**	教科内容との連携授業を提案する。	4時間

	コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験に向けての相談・準備を行います。グループで指導計画を練ります。		
第9回	**ミニ模擬授業体験にむけての授業づくり（2）** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験に向けての相談・準備を行います。グループで教材作成、指導の練習を行います。	パフォーマンス課題と評価についてまとめる。	4時間
第10回	**グループ発表（1）指導体験** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験を行います。また、その授業について全体を振り返り、相互評価をしながら授業改善について考えます。	ミニ模擬授業体験の振り返り。	4時間
第11回	**グループ発表（2）評価と改善** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験を行います。また、その授業について全体を振り返り、相互評価をしながら授業改善について考えます。	相互評価を参考にミニ模擬授業体験を振り返る。	4時間
第12回	**グループ発表（3）相互評価と授業改善** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験を行います。また、その授業について全体を振り返り、相互評価をしながらより良い授業に向けての改善案を考えます。	相互評価を参考にミニ模擬授業体験を振り返る。	4時間
第13回	**グループ発表（4）模擬授業のまとめ** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験を行います。授業後は相互評価を通して、今後に向けての改善案を考えます。模擬授業のまとめを行います。	ミニ模擬授業体験全体のまとめ。	4時間
第14回	**授業のまとめと振り返り** 授業全体を通しての振り返りを行います。 外国語・外国語活動の目標・内容、指導内容の整理をします。	レポート課題に向けた準備。	4時間

授業科目名	**国語科教育実践研究**				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	3	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

本授業は、国語科における実践研究の動向を知り、主体的・対話的で深い学びを実現する国語科授業の在り方を実践的に探求することを目標とします。まず、小学校国語科の各領域ごとに実践研究の動向を概説し基本的な理解を図ります。次に、各自が関心のある領域から優れた実践事例を取り上げ検討、評価します。さらにそこでの学びを生かして研究授業案を作成し、模擬授業等を通して検証した後に授業研究レポートを作成し、研究発表を行います。一連の学修を通して、国語科の実践研究の手法を学び、今後の実践研究の礎となる力を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教科に関する教養	国語科教育の基礎理論及び関連する学問分野の知見を援用して、創造的で効果的な授業設計ができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		授業研究を通して国語科授業の在り方について探求し、自らの課題を明確にする。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的・対話的で深い学びを実現する国語科授業の単元を構想する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究授業の分析レポート	60 %	： 講義、グループディスカッションの内容を踏まえ、授業研究の成果を盛り込んだ研究授業分析レポートが作成できていることを基準に評価する
総括レポート	30 %	： 国語科の授業に係る理論の基本を理解した上で、実践的に研究授業の考察がされていることを基準に評価する。
模擬授業への参加	10 %	： 模擬授業の事前準備、グループディスカッションへの参加、授業研究会での発言を総合的にとらえて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

辻村敬三「国語科内容論×国語科指導法」　東洋館出版　2019年
文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説　国語編』　東洋館出版　2017年　ISBN-10　：　4491034621
ISBN-13　：　978-4491034621
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版 2017年　ISBN-10　：　4491034605
ISBN-13　：　978-4491034607

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「国語科内容論」「国語科指導法」で身につけた知識や技能をさらに発展、深化させることをめざした授業である。自ら課題を設定し、主体的に授業研究に取り組もうとする態度が求められる。原則として国語科内容論・国語科指導法を履修済みまたは履修中のこと

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時に周知する

場所：　辻村研究室(中央館2階)

備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じる。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**国語科教育実践研究の動向と実践事例・研究の展望** 小学校国語科の実践研究の動向について学び、代表的な実践事例を取り上げてグループで分析、検討して、現在の国語科教育実践研究の課題などについて考察します。	教育雑誌等から小学校国語科の実践事例を検索し、概要をまとめる。	4時間
第2回	**国語科実践研究事例の検討と評価** 各自で収集してきた国語科実践研究事例についてグループで発表、交流し、特徴や優位性、課題などについて考察します。	各自で関心のある実践事例を選択し、概要と特徴、優位性、課題などについて発表資料を作成する。	4時間
第3回	**研究授業案の作成** 前時に分析、検討した実践研究例をもとにして、授業の改善案を設計し、研究的視点を含んだ研究授業案を作成します。	研究授業案作成に向けて、研究目的、授業構想、具体的な授業アイデア等を簡潔にまとめる。	4時間
第4回	**研究授業案の提案・模擬授業（「読むこと」領域）** 前時に作成した研究授業案を提案し、模擬授業やワークショップ等を行います。その結果について、グループで検討し、研究授業案を相互評価します。	担当グループは、提案・模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの研究授業案提案を準備する。	4時間
第5回	**研究授業案の提案・模擬授業（「書くこと」「話すこと・聞くこと」領域）** 前時に作成した研究授業案を提案し、模擬授業やワークショップ等を行います。その結果について、グループで検討し、研究授業案を相互評価します。	担当グループは、提案・模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、研究授業案、模擬授業について感想、評価を簡潔にまとめる。	4時間
第6回	**研究論文作成の基礎　～授業研究レポートの作成～** 授業分析の方法を学び、その手法を使って自グループが作成した研究授業案を分析、検討します。グループ相互の交流を通して考察を深め、研究授業案に改善を加えます。模擬授業、授業研究会を通して得た結論や考察を国語教育理論と関連付けて授業研究レポートにまとめます。	自グループの研究授業案を振り返り、成果と課題、今後の展望についてメモを作成する。	4時間
第7回	**授業研究レポートの発表・交流・考察** 各自の授業研究レポートの概要を発表し、クラス全体でディスカッションを行う。その成果を基に、授業研究レポートを加除修正し、完成させる。	授業研究レポートの発表資料を作成する。	4時間

授業科目名	**算数科教育実践研究**				
担当教員名	橋本隆公				
学年・コース等	3	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の指導に関する体験知（全14回）				

授業概要

算数科教育に関わる今日的課題（幼小架け橋プログラム・子どもの意識の連続性を読み取った指導案作成・育てたい資質・能力の基づく学習評価・アメリアとオーストラリアとの海外教育比較）を取り上げ、演習（模擬授業・グループディスカッション）形式でより高度で実践的な算数科指導力の育成をめざす授業である。具体的には、算数科教育に関わる今日的な課題の説明、評価規準・評価計画を含めた指導案作成、および、模擬授業に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	授業力を磨く（子どもの意識の連続性・子どもに対する評価と支援など）	教育実習を振り返って、算数科の授業実践の個人課題を設定し、模擬授業を通して自己分析することができる
2. DP２.教育実践の省察・研究	算数科の模擬授業実践を通して、算数科の授業づくりにおける子どもの意識の連続性と評価計画	子どもの意識の連続性を中心とした指導案作成と模擬授業の実践を通して、評価と支援について省察することができる
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		幼児教育との接続を意識した教材開発や学習評価が伴う指導案作成、および、模擬授業実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	20 %	： 算数科指導法の課題に即した算数科における問題解決学習に関する実践に関する知識
授業中に行う模擬授業	30 %	： 課題に即し、自ら作成した指導案と、その指導案に基づく模擬授業の技能面
授業への参加度	30 %	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などをワークシートの記述や討議会を通して評価する。
授業内レポート		： 指導案・評価案を作成する技能面

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
橋本隆公他	・ 未定	・ 未定	・ 2025　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火・金の昼休み

場所：　個人研究室７６

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の目的・概要・スケジュール、および、算数科教育に関する今日的課題の説明と共有 グループに分かれて、模擬授業に向けた課題を設定する。特に、子どもの意識の連続性と評価規準を指導案に取り入れることの具体的な説明	抽出した課題に関する教材研究	4時間
第2回	**指導案作成** 課題抽出ワークシートを活用して、教材開発構想を交流し、指導案を作成する。	指導案の見直しと模擬授業準備	4時間
第3回	**数と計算領域における模擬授業を通した課題研究** 幼小架け橋期における小学校1年生の数と計算領域における模擬授業・グループディスカッション、および、教員からの指導助言	数と計算領域の模擬授業の振り返り	4時間
第4回	**図形領域における模擬授業を通した課題研究** 幼小架け橋期における小学校1年生の数と図形領域における模擬授業・グループディスカッション、および、教員からの指導助言	図形領域の模擬授業の振り返り	4時間
第5回	**測定・変化と関係領域における模擬授業を通した課題研究** 幼小架け橋期における小学校1年生測定・変化と関係領域における模擬授業・グループディスカッション、および、教員からの指導助言	測定・変化と関係領域の模擬授業の振り返り	4時間
第6回	**データの活用領域における模擬授業を通した課題研究** 幼小架け橋期における小学校1年生のデータの活用領域における模擬授業・グループディスカッション、および、教員からの指導助言	データの活用領域の模擬授業の振り返り	4時間
第7回	**総括** 全ての模擬授業を振り返り、小学校1年生の個々で、幼小架け橋期における小学校1年生の指導案を個々で作成する授業内レポートに取り組む。	期末レポート作成に向けて7回の授業を振り返る	4時間

授業科目名	**理科教育実践研究**				
担当教員名	福岡亮治				
学年・コース等	3	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市内の小学校教諭 京都市教育委員会事務局主任主事 京都市教育委員会研究員　　（全7回担当）				

授業概要

本授業は、小学校の理科における理科教育および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、小学校の理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能の育成を目指すことを目的とする。特に児童の実態に即した授業づくりや教材作成、板書作成および授業実践に重点を置き、工夫された指導案の立案と授業の実践力を獲得する。さらに、小学校教科書と学習指導要領に記載されている内容から逸脱しないように注意しながら安全で理解が深まる発展的な理科実験の展開を考えるとともに教材開発を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	理科実験に関する教養	習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		理科実験の学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	40 %	： 授業中のミニ課題レポート・ミニ課題発表等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価する。
グループ課題達成度	10 %	： 毎時与えられる理科実験の課題を解決するために理科実験の教材研究を行い、その結果の分析・考察したレポートの内容と研究プロセスを評価する.
授業発表（指導案作成・模擬授業）	50 %	： 研究開発した実験を含む授業の指導案作成とその授業の発表を行う。「わかりやすく安全であること」「現場での実践が可能であること」の２観点で評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　理科編	・大日本図書	・2018　年
福岡亮治	・元芸人が教える「笑って学ぶ」小学校理科	・東洋館出版社	・2021　年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します

場所：　福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科教育実践演習：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価法と講義目的についてオリエンテーション** 理科内容論・理科指導法を振り返った上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、7回の授業を通して獲得すべき力（実践力）の見通しを持つ	グループ課題に向けての研究計画の立案	4時間
第2回	**理科における問題解決学習における授業モデルの模範授業と指導案作成の説明** ①模擬授業を児童の立場で受ける ②模擬授業を教員の立場で分析する ③①②で得た情報・知識をもとに授業および教材の分析を行う ④①～③をもとに模擬授業の指導案を作成する	模擬授業の指導案の作成	4時間
第3回	**指導案立案と指導法および教材研究** ①教科書の調査・分析（第3回からの続き） ②学習指導要領分析（第3回からの続き） ③①②をもとに指導案を作成	指導案立案と授業準備	4時間
第4回	**授業づくり「教材研究・教材開発」** ①第4回目の授業を振り返り教材開発を視点としてテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第5回	**小学校の単元での授業実践　本番** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使っての授業の実施	マイクロティーチング振り返りレポート	4時間
第6回	**小学校の単元の授業事後研究「授業を振り返ってのディスカッション」** ①開発した教材の発表 ②それぞれの教材についての交流 ③まとめ	授業事後研究議事録作成	4時間
第7回	**課題発表会と総括** 本授業に参加して理科教育に対して自分の教育観がどのように変化したかしなかったかについての自己考察を行う。また、大学での学びが教育現場でどのように生かすことができるかについても考える。	省察レポート	4時間

434

授業科目名	**理科総合**				
担当教員名	福岡亮治				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市内の小学校教諭 京都市教育委員会事務局主任主事 京都市教育委員会研究員　　（全14回担当）				

授業概要

本授業は、小学校の理科における理科教育および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、小学校の理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能の育成を目指すことを目的とする。特に児童の実態に即した授業づくりや教材作成、板書作成および授業実践に重点を置き、工夫された指導案の立案と授業の実践力を獲得する。さらに、小学校教科書と学習指導要領に記載されている内容から逸脱しないように注意しながら安全で理解が深まる発展的な理科実験の展開を考えるとともに教材開発を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	理科実験に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		理科実験の学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	40 %	： 授業中のミニ課題レポート・ミニ課題発表等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価する。
グループ課題達成度	10 %	： 毎時与えられる理科実験の課題を解決するために理科実験の教材研究を行い、その結果の分析・考察したレポートの内容と研究プロセスを評価する.
授業発表（指導案作成・模擬授業）	50 %	： 研究開発した実験を含む授業の指導案作成とその授業の発表を行う。「わかりやすく安全であること」「現場での実践が可能であること」の２観点で評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　理科編	・大日本図書	・2018　年
福岡亮治	・元芸人が教える「笑って学ぶ」小学校理科	・東洋館出版社	・2021　年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します

場所：　福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科指導法Ⅱ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価法と講義目的についてオリエンテーション** 理科内容論・理科指導法Ｉを振り返った上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１４回の授業を通して獲得すべき力（実践力）の見通しを持つ	グループ課題に向けての研究計画の立案	4時間
第2回	**理科における問題解決学習における授業モデルの模範授業と指導案作成の説明** ①模擬授業を児童の立場で受ける ②模擬授業を教員の立場で分析する ③①②で得た情報・知識をもとに授業および教材の分析を行う ④①～③をもとに模擬授業の指導案を作成する	模擬授業の指導案の作成	4時間
第3回	**教科書内容把握と各社教科書の比較・分析** ①教科書の調査・分析 ②学習指導要領分析	各社教科書の比較・分析レポート	4時間
第4回	**指導案立案と指導法および教材研究** ①教科書の調査・分析（第3回からの続き） ②学習指導要領分析（第3回からの続き） ③①②をもとに指導案を作成	指導案立案と授業準備	4時間
第5回	**授業づくり　（1）「教材研究・教材開発」** ①第4回目の授業を振り返り教材開発を視点としてテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第6回	**授業づくり（2）「協働で行う授業づくり」** ①第5回目の授業を振り返り授業づくりを視点としてテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第7回	**小学校の単元での授業実践** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのマイクロティーチングの実施	作成する授業についての全体発表交流会	4時間
第8回	**小学校の単元の授業事後研究「授業を振り返ってのディスカッション」** ①開発した教材の発表 ②それぞれの教材についての交流 ③まとめ	授業事後研究議事録作成	4時間
第9回	**教科書内容把握と各社教科書の再調査** 第8回の交流会での学びを生かして ①教科書の再調査・分析 ②学習指導要領分析	各社教科書の比較・分析レポート	4時間
第10回	**指導案の再検討と指導法および教材研究** ①教科書の再調査・分析（第9回からの続き） ②学習指導要領分析（第9回からの続き） ③①②をもとに指導案を再検討	指導案再構築と授業準備	4時間
第11回	**小学校の単元での授業実践　リハーサル** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのリハーサル授業の実施	リハーサルを振り返り授業改善を行う	4時間
第12回	**小学校の単元での授業実践　本番**	マイクロティーチング振り返りレポート	4時間

	①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使っての授業の実施		
第13回	**小学校の単元の授業事後研究「授業を振り返ってのディスカッション」** ①開発した教材の発表 ②それぞれの教材についての交流 ③まとめ	授業事後研究議事録作成	4時間
第14回	**課題発表会と総括** 本授業に参加して理科教育に対して自分の教育観がどのように変化したかしなかったかについての自己考察を行う。また、大学での学びが教育現場でどのように生かすことができるかについても考える。	省察レポート	4時間

授業科目名	**社会科教育実践研究**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	3	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月の期間に、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち教諭14年、主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全7回中7回担当）				

授業概要

暗記教科のイメージが強い社会科から脱却し、子供が考える社会科の授業が展開できるように、実践的な指導力の育成を図る。教材開発・研究、単元・授業構成、発問、板書、ワークシート、学習形態、評価といった視点から具体的な指導法を理解し、指導案作成、教材準備、模擬授業等よってそれらを身に付ける。全7回の授業について、社会科指導法や教育実習などを経て醸成された履修学生の問題意識（学びたいこと）を尊重しながら、柔軟に構成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	より実践的・研究的な視点を持ってカリキュラム、授業構成、教材、発問等を立案・省察する	より実践的・研究的な視点を持ってカリキュラム、授業構成、教材、発問等を立案・省察することを通して、社会科学習指導に関する知見と技能を高める。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		主体的・対話的で深い学び、学習の個別最適化、ICT活用といった新たな教育課題に対応しながら教科の本質を捉えた学習指導を立案・実施・省察できるようにする。
2. DP７.忠恕の心		模擬授業への取り組み、グループワーク等の中で、互いの立場・考えを尊重しつつ議論を重ねることができるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 教員のレクチャー、ディスカッション、模擬授業等の場面において、授業づくり上の課題を解決するために、主体的かつ協調的に参加している。
各授業の振り返り	30 %	： 各授業について、自身の学びを整理しまとめることができている。
期末課題		： 子供が考える社会科授業づくりに向け、交流した互いの授業プランから得られる知見を生かして、自身の立案した授業プランをさらに改善している。

40　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説「社会編」	・東洋館出版社	・2018　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は全7回授業で1単位の科目であるため、平均すると毎回およそ4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　詳細は、初回授業時に提示

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと授業目標立案** 授業の流れ・内容・評価に関するガイダンス。また、この授業で学びたいことを考え、各自の本授業の目標を設定する。 ※第2～7回授業について、第1回授業で内容の概要を示すが、履修者の問題意識（学びたい内容・方法）を尊重し柔軟に構成する。	『小学校学習指導要領解説・社会編』を読んでおく	4時間
第2回	**教材研究の方法** 社会科授業づくりの軸となる教材研究について、社会科指導法や教育実習での経験を踏まえ、より実践的・研究的な視点から考える。	作成する授業プランで取り上げるべき教材について考えをまとめる。	4時間
第3回	**単元・授業構成と学習形態** 問題解決的な単元・授業の構成とそれに適した学習形態について、社会科指導法や教育実習での経験を踏まえ、より実践的・研究的な視点から考える。	立案する授業の流れについて考えをまとめる。	4時間
第4回	**ワークシートの工夫・資料読解指導** 問題解決的な単元・授業の構成とそれに適した学習形態について、社会科指導法や教育実習での経験を踏まえ、より実践的・研究的な視点から考える。	立案する授業に向けて必要な資料とワークシートを作成する。	4時間
第5回	**子供の思考を促す発問と板書** 社会科授業における発問や板書の役割やバリエーションと特徴について、社会科指導法や教育実習での経験を踏まえ、より実践的・研究的な視点から考える。	授業立案の中で発問計画・板書計画を明確にする。	4時間
第6回	**評価計画と指導の在り方** 評価と指導の一体化を自身の立案する指導計画の中で具現化することを通して、社会科授業における評価と指導について、社会科指導法や教育実習での経験を踏まえ、より実践的・研究的な視点から考える。	立案している授業に評価計画を位置付ける	4時間
第7回	**立案した授業の交流と総括** 各視点で改善を重ねてきた授業プランを交流し、互いの授業プランから得られる知見を整理することで本科目での学びを総括する。	互いの授業プランからの学びを自分なりに整理する	4時間

433

授業科目名	**社会総合**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全14回担当）				

授業概要

暗記教科のイメージが強い社会科から脱却し、子供が考える社会科の授業が展開できるように、実践的な指導力の育成を図る。教材開発・研究、発問、ワークシート、学習形態、評価といった視点から具体的な指導法を理解し、指導案作成、教材準備、模擬授業の実施によってそれらを身に付ける。模擬授業においては授業担当班以外の学生は子供役として参加することで、子供の立場で授業づくりを捉えられるようにする。また、模擬授業後のリフレクションを重ねることを通して「授業の見方」も身に付けられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	研究的視点を持って模擬授業を立案・実施・省察する。	研究的視点を持って模擬授業を立案・実施・省察することを通して、社会科学習指導に関する知見と技能を高める。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		主体的・対話的で深い学び、学習の個別最適化、ICT活用といった新たな教育課題に対応しながら教科の本質を捉えた学習指導を立案・実施・省察できるようにする。
2. DP７.忠恕の心		模擬授業への取り組み、グループワーク等の中で、互いの立場・考えを尊重しつつ議論を重ねることができるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30 %	： 教員のレクチャー、ディスカッション、模擬授業等の場面において、授業づくり上の課題を解決するために、主体的かつ協調的に参加している。
各授業の振り返り	30 %	： 各授業について、自身の学びを整理しまとめることができている。
期末課題		： 子供が考える社会科授業づくりに向け、自身の模擬授業で見出した成果と課題を踏まえて、さらに工夫することができる。

40　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説「社会編」	・東洋館出版社	・2018　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　詳細は、初回授業時に提示

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと授業目標立案** 授業の流れ・内容・評価に関するガイダンス。また、この授業で学びたいことを考え、各自の授業の目標を設定するとともに模擬授業単元を決める。	『小学校学習指導要領解説・社会編』を読んでおく	4時間
第2回	**教材研究と授業準備** 模擬授業に向けそれぞれの単元の目標・内容について確認し、模擬授業で扱う教材について考える。	模擬授業で取り上げるべき教材について考えをまとめる。	4時間
第3回	**学習形態と授業準備** 子供が学習の主体となって進む問題解決学習における様々な学習形態について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	模擬授業の流れについて考えをまとめる。	4時間
第4回	**ワークシートの工夫・資料読解指導と授業準備** 子供が考えを広げたり深めたりすることのできるワークシートの工夫や資料読解指導の在り方について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	模擬授業に向けてワークシートを作成する。	4時間
第5回	**子供の思考を促す板書と授業準備** 社会科における板書の役割や特徴、バリエーションについて生活科における板書の重要性について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	模擬授業に向けた板書計画を立てる。	4時間
第6回	**評価計画と授業準備** 暗記科目のイメージの大きな原因となっている知識・理解を中心とした評価観を転換し、育成したい資質・能力に合った評価の在り方について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	構想している模擬授業計画に評価計画を位置付ける	4時間
第7回	**身近な地域や市区町村の様子に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第3学年の内容(1)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第8回	**地域にみられる生産や販売の仕事に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第3学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第9回	**人々の健康や生活環境を支える事業に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第4学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第10回	**自然災害から人々を守る活動に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第4学年の内容(3)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第11回	**我が国の農業や水産業における食料生産に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第5学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第12回	**我が国の産業と情報の関わりに関する単元の模擬授業とリフレクション** 第5学年の内容(4)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第13回	**我が国の政治の働きに関する単元の模擬授業とリフレクション**	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間

	第6学年の内容(1)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。		
第14回	**我が国の歴史上の主な事象に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第6学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間

431

授業科目名	体育実技【2023年入学生～】／体育実技Ⅰ【～2022年入学生】				
担当教員名	中村公美子・小林志保				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

自身の能力に応じた身体運動の実践方法を理解し、幼稚園・保育園・認定こども園における運動あそび、小学校の体育実技における各種目の導入・展開方法を学習する。仲間との協力や、体を動かすことの楽しさと達成感を体験し、保育者・教師として、園児・生徒にどのように伝えていくかを学ぶことを目的とする。また、本授業で実施する、「走る・跳ぶ・投げる・蹴る」等の運動が、得意ではない園児・生徒もおり、個人差を配慮した指導方法、環境構成を考える必要性について学ぶ。基本動作を身に付けるとともに、個人、あるいはグループで「気づき、理解する」しながら学びを深めていくことを目指す。あわせて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなライフスタイルを実現することの重要性を理解させる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	自分の体を意識してコントロールできる	体を動かすことの楽しさを体験学習する
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		自分自身の健康保持増進と、それを伝える力を身に付ける
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者と協力して授業を遂行できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
技の習得状況	40 %	：①各種目の技能習得状況②自身のつまづきを理解して練習を行っているか
授業の取り組み状況	40 %	：①自分の体調を管理し、万全の状態で受講しているか②当初に連絡しているルールを遵守しているか③授業中に指導内容を理解し技の習得に積極的に取り組んでいるか④仲間と共に協力することができているか
期末レポート	20 %	：①指示した型式と提出期限を守っているか②参考文献等を活用して丁寧に作成されているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配付する。事前学習・振り返り学習のための資料やURLなどを案内する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。各回には課題を設定しているため、授業終了時には振り返りの時間を設け、実施した内容について振り返り学習を行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の場所

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、研究室訪問、メールにて受け付ける。
メールには必ず所属コース・クラス・学籍番号・氏名を明記すること。

小林志保　中央館5階131研究室（kobayashi-sh@g.osaka-seikei.ac.jp）

中村公美子　非常勤講師室（授業実施曜日のみ）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールについてオリエンテーション** 授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールを正しく理解する。　課題：体育実技14回で学ぶ内容をまとめること	体育実技における安全管理について	1時間
第2回	**体力・運動能力測定** 体力・運動能力測定の正しい測定方法を理解し、実践する。　課題：小学生・幼児が実施している運動能力測定の種類と内容を調べること	体力・運動能力測定方法について	1時間
第3回	**走る基本技術** 正しい立ち方、姿勢、歩き方、走り方について知る。自身の走るフォーム改善点の確認。リレー、鬼ごっこなどの実践。 課題：走る技術を向上させるために必要な内容をまとめること	速く走るための基本動作について	1時間
第4回	**跳ぶ基本技術** 正しい跳び方について知るハードルを越える技術を知る。踏切と助走の特徴を知る。ハードルに繋げるまでの導入方法を学ぶ。 課題：跳ぶ技術を向上させるために必要な内容をまとめること	高く・遠く跳ぶための基本動作について	1時間
第5回	**投げる基本技術** 正しい投げ方について知る。重心移動と腕の使い方を身に付ける。自身の投げるフォーム改善点の確認。遠投、キャッチボール、ドッヂボールなどにおいて実践する。 課題：投げる技術を向上させるために必要な内容をまとめること	ドッヂボールのルールについて	1時間
第6回	**蹴る基本技術** 正しい蹴り方について知る。自身の蹴るフォーム改善点の確認。サッカーのパス、ドリブル、シュートを理解する。ミニゲームなどにおいて実践する。 課題：蹴る技術を向上させるために必要な内容をまとめること	正確に蹴るための基本動作について	1時間
第7回	**走る・跳ぶ・投げる・蹴る基本技術のまとめ** 第3回～6回までの走る・跳ぶ・投げる・蹴るの基本技術を復習し、運動あそび、体育実技種目として年齢に合わせたゲームを考案、実践する。 課題：走る・跳ぶ・投げる・蹴るの技術を向上させるための創意工夫を考えること	走る・跳ぶ・投げる・蹴る基本技術の復習	1時間
第8回	**準備体操とストレッチング** 準備体操の重要性と、様々なストレッチングの用途について理解する。ラジオ体操の正しい動きの確認。対象年齢に合わせた準備体操の工夫と実践。 課題：準備体操の必要性をまとめること	目的に合わせたストレッチング方法について	1時間
第9回	**体つくり運動①特性の理解** 体つくり運動領域における巧緻性を高める様々な運動を理解して実践する。　課題：体つくり運動の必要性をまとめること	体つくり運動の特性について	1時間
第10回	**体つくり運動②プログラム作成** 体つくり運動領域における操作性を高める様々な運動を理解し、対象年齢に合わせたプログラムを作成して実践する。 課題：子どもが体つくり運動を楽しむための創意工夫を考えること	体つくり運動のプログラムを作成	1時間
第11回	**用具を使った運動あそび①特性の理解** 授業教室として与えられた環境、空間にて、用具を使った運動あそびを実践する。（球技・レクリエーションを含む）用具を使った運動あそびの基本の動きを実践する。 課題：用具を使った運動あそびの安全対策についてまとめること	球技（バスケットボール・バレーボール等）の特性について	1時間
第12回	**用具を使った運動あそび②プログラム作成**	レクリエーション理論について	1時間

	授業教室として与えられた環境、空間にて、用具を使った運動あそびを実践する。（球技・レクリエーションを含む）用具を使った運動あそびのプログラムを作成して実践する。　　課題：用具を使った運動あそびを楽しむための創意工夫を考えること		
第13回	**表現ダンス①エアロビクスの基本** 音楽やリズムに合わせて全身で表現する。幼児向けのリズムダンス、小学校体育科にて実践可能な、エアロビクスの簡単な基本ステップを実践する。 課題：表現運動・表現あそびの必要性をまとめること	小学生が実践可能なエアロビクスの特性について	1時間
第14回	**表現ダンス②表現発表** 音楽やリズムに合わせて全身で表現する。幼児向けのリズムダンス、小学校体育科にて実践可能な、エアロビクスの簡単な基本ステップを使って、グループで振付を考案、実践、発表する。　　課題：表現運動・表現あそびを楽しむための創意工夫を考えること	幼児・児童が取り組みやすいダンスの特性について	1時間

432

授業科目名	幼児体育指導論				
担当教員名	小林志保				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

近年、子どもの体力低下が問題視されており、幼児期をはじめとした早期の対応が特に重要であると言われている。そのため幼児教育において、子どもの体力を向上させるためのアプローチができるかどうかが求められており、本授業では、保育者として必要な指導力を習得すると共に、運動あそび指導に必要な用具の特性を理解し、安全で効果的な指導方法について学習する。それらに加え、幼児が興味・関心を示すような運動あそびの導入・展開方法を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育現場における幼児体育指導者としての専門的な力と専門技能を身に付ける	・身体表現活動を適切に実践するための技能を修得できる ・運動遊びを安全かつ効果的に実践するための技能を習得できる ・幼児の運動能力および身体表現、運動あそびについて理解できる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子ども理解及び、これから保育者を目指す上で必要な自己の課題をみつける
2. DP７.忠恕の心		指導計画作成および模擬保育を通してコミュニケーション能力を育てる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の取り組み状況	40 %	： 各回授業への積極的参加（授業参加の積極性や協調性）や授業態度（受講マナー、身だしなみ、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する。
模擬保育	30 %	： 指導計画の内容によって評価を行う。準備物や子どもへの配慮、時間配分なども実際の指導を想定して詳しく記載されているかも評価の対象とする。模擬保育では、言葉かけや援助の仕方、進行のスムーズさなどの模擬保育中の指導について評価を行う。
レポート（定期試験）	30 %	： 「幼児期における運動あそびの重要性」に関するレポートを作成する。14回授業終了後（定期試験期間）に実施（提出）する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
茗井香保里・宮下恭子	・ 乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　からだとこころを育む指導法	・ 大学図書出版	・ 2022　年

参考文献等

幼児期運動指針（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

参加型の授業であり、出席状況を重視する。1/3（5回）以上欠席した場合は、定期試験のまとめレポートを提出することはできない。遅刻は20分以内とする。実技授業が中心になるため、実技に対する積極的な姿勢・態度・行動を求める。実技授業に適した指定ジャージ・シューズ・髪型（長い髪は結ぶこと）・爪で受講すること。実習や対外試合で欠席する場合は、原則、事前に欠席届を提出すること。幼児体育の楽しさを活かす理論と技術を身に付けることを意識し、教育現場・保育現場において役立つ、多様な運動あそびを模擬授業を通して、身に付ける。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日昼休み～3限

場所：　131研究室（中央館5階）

備考・注意事項：　メールでも質問を受け付けます。kobayashi-sh@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価方法と授業目的について）** 本授業の目的と意義について解説し、授業内容と評価について説明する。 また、運動指導を行うにあたっての注意点を説明する。	子どもの発育発達について調べる	4時間
第2回	**幼児期運動指針について** 幼児期運動指針について解説し、幼児期の運動の重要性について説明する。	幼児期運動指針について調べる	4時間
第3回	**からだを使った運動あそび** 幼児を対象としたからだを使った運動あそびを展開する。 指導時の注意点などを理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。	体を使った様々な運動あそびについて調べる	4時間
第4回	**用具を使った運動あそび①：ボールあそび** 幼児を対象としたボールを使った運動あそびを展開する。 ボールを使用するときの注意点、ボールあそびをする際のルールなどを理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。	ボールを使った運動あそびについて調べる	4時間
第5回	**用具を使った運動あそび②：なわ・フープでの運動遊び** 幼児を対象としたなわ・フープを使った運動あそびを展開する。 なわやフープを使ってあそぶ際の注意点などを理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。	縄跳びやフープなどを使ったあそびの具体的方法や内容について調べる	4時間
第6回	**音楽を使った表現あそび：リズムダンス** 幼児を対象とした音楽を使った表現あそび：リズムダンスを展開する。 リズムダンスをする際の注意点などを理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。	音楽を使った表現あそび：リズムダンスの具体的な内容を調べる	4時間
第7回	**移動遊具を使ったあそび：マット・跳び箱・平均台** 幼児を対象としたマット・跳び箱・平均台を使った運動あそびを展開する。 マット・跳び箱・平均台を使用してあそぶ際の注意点や補助の仕方などを理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。	マット・跳び箱・平均台を使った運動あそびの具体的内容を調べる	4時間
第8回	**サーキット遊び** 幼児を対象としたサーキットあそびを展開する。 移動系（走る・這う等）、平衡系（静的・動的に姿勢を保つ等）、操作系（投げる・蹴る等）、非移動系（ぶら下がる・押す等）などの多種多様な運動課題を理解しながら、幼児役と指導者役に分かれて実践指導を行う。対象年齢に合わせたサーキットのコーナーあそびを設営する。	サーキット運動の効用について調べる	4時間
第9回	**指導計画の作成** 各グループに分かれ、指導計画を作成する。 指導計画作成時の注意点などを理解しながら、グループ内で実施する運動を話し合い作成する。	運動あそびの指導計画の作成方法を調べる	4時間
第10回	**運動あそびの模擬保育①第1グループ** 各グループで作成した指導計画に基づいて、運動あそびの指導を行う。 担当グループ以外の学生は、幼児役として参加し、指導終了後に授業の評価を行う。 担当グループはその評価をもとに振り返りを行う。	指導計画に基づいて、指導ができるように準備する	4時間
第11回	**運動あそびの模擬保育②第2グループ**	指導計画に基づいて、指導ができるように準備する	4時間

	各グループで作成した指導計画に基づいて、運動あそびの指導を行う。 担当グループ以外の学生は、幼児役として参加し、指導終了後に授業の評価を行う。 担当グループはその評価をもとに振り返りを行う。		
第12回	**運動あそびの模擬保育③第3グループ** 各グループで作成した指導計画に基づいて、運動あそびの指導を行う。 担当グループ以外の学生は、幼児役として参加し、指導終了後に授業の評価を行う。 担当グループはその評価をもとに振り返りを行う。	指導計画に基づいて、指導ができるように準備する	4時間
第13回	**レクリエーション・運動会種目** 幼児を対象としたレクリエーション・運動会種目を展開する。 レクリエーション・運動会種目を行う際のプログラムの設定方法や注意点などを理解しながら、実践指導を行う。	運動会のプログラムについて調べる	4時間
第14回	**まとめ（運動と安全管理）** 14回の授業を振り返り、幼児の運動あそびの安全管理について、考える。	幼児の運動あそびと安全について調べる	4時間

431

授業科目名	**水泳**				
担当教員名	野上展子・辻慎太郎				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

水泳は全身を使った運動であり、生涯スポーツとしても適切なスポーツで多くの人々によって親しまれている。しかし、水中運動体験のある児童・生徒と全く体験していない子供の二極化傾向にあり、水泳指導には安全面からも一工夫必要である。そこで、本授業では水泳・水中運動の指導における安全で有効な指導方法として、年齢、性差、発達段階における特性を理解し、水慣れから初歩の泳ぎ、クロール、平泳ぎを中心として、さらに発展的なものとして、背泳ぎ、バタフライを加えた４泳法の基本的な技能および知識の修得を目指す。また、水の事故防止と安全管理、救急・救助法についても学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	水中活動の楽しさを体験学修する	水中活動に関するスキルとリスク管理、安全管理が理解できる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		水の特性を理解し、4泳法を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
泳法実技試験	60 %	:	泳法の修得状況に応じて評価する。
授業の取り組み状況	30 %	:	泳法の修得に対して理論を理解し、反復練習を積極的に実践しているかなど取り組み状況を評価する。
水泳実習レポート	10 %	:	14回の授業終了後に、毎回の学習内容の振り返りと指導の目的、課題を明確したレポートを書けているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の場所

備考・注意事項：　オフィスアワー・授業外での質問方法については、初回の授業でインフォメーションする。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価方法と授業目的と注意点および実技スケジュールについてオリエンテーション** シラバスを基に講義の目的と15回の授業内容、評価方法について説明する。 特に、安全管理について：プール（水温、塩素残量）、着衣、貴重品の管理、各自の体調管理、バディシステム、点呼等についても学修する。 配布される授業ノートの記録について、振り返り、復習を兼ねて、毎回の授業内容を詳細に記録し、自身が指導する際に役立つ記録ノートとするよう心掛ける。	水泳環境について予習する	1時間
第2回	**聞き取り調査を基にしたクラス分けの確定とリスク管理について** 健康調査と泳力調査を基にクラス分けをする。 プールの水温、塩素残量、更衣室、準備・整理体操、体調チェック等の安全管理を確認する。	安全管理について予習する	1時間
第3回	**プールで楽しく泳ぐためには** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 実際の泳力確認を行い、クラス分けの再調整と個人が得意な泳法で泳ぎ、指導法についても学修する。また、水の特性について、浮く、沈む、推進、抵抗、補抵抗について実技を行いながら学ぶ。 30分の授業の後、点呼の後10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	楽しく水中運動を行うために必要なポイントを予習する	1時間
第4回	**クロール　水慣れと伏し浮き・泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 初級コースでは水慣れと伏し浮きを中心に行う。中級および上級コースでは泳法確認後、指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の特性について予習する	1時間
第5回	**クロール　プル練習とローリングの習得・上級は泳ぎこみ** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 初級コースはプル練習とローリングの習得、中級および上級コースでは泳ぎこみ、後半は指導法や泳力確認方法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の「こつ」について予習する	1時間
第6回	**平泳ぎ　平泳ぎのキック** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 平泳ぎのキックについて、正しいキックと誤ったキックについて行う。初級コースはブレス修得と25m完泳を目指す。中級および上級コースでは指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	平泳ぎの指導法について予習する	1時間
第7回	**平泳ぎ　平泳ぎのプルと呼吸法、コンビネーションと長く続けて泳ぐ** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 平泳ぎのプルと息継ぎの方法を身につけ、コンビネーションで長く続けて泳ぐ練習をする。後半は指導法について学習する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	平泳ぎの特性について予習する	1時間
第8回	**背泳ぎ　背浮き、背面キックとプル、25m完泳・背泳ぎ確認**	背泳の「こつ」について予習する	1時間

	健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 初級はプルと25m完泳、中級および上級はクロールと背泳ぎ確認、後半は指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。		
第9回	**バタフライ　ドルフィンキック・バタフライ泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 初級コースはドルフィンキックを中心に練習する。中級および上級コースはバタフライの泳法確認と後半は指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	バタフライの指導法について予習する	1時間
第10回	**バタフライ　プル・4泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 初級コースはプル動作を中心に練習を行い、中級および上級コースでは4泳法の確認と後半は指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	バタフライの特性について予習する	1時間
第11回	**水中運動（アクアビクス）** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 音楽に合わせて水中で楽しく踊る。後半は指導法についても学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	アクアビクスについて予習する	1時間
第12回	**着衣泳法** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 各班毎に着衣泳法を練習し、後半は指導法について学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	着衣泳法について予習する	1時間
第13回	**水の安全と救助法** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 水の安全と救助法を学び、後半は指導法についても学修する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする	水の事故について予習する	1時間
第14回	**泳力別、4泳法の確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 各班毎に4泳法で練習し、後半は新しい班編成で4泳法のレースを行なう。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	授業で習得した救内容を再学習し、現場で実践できること。	1時間

431

授業科目名	ピアノ実技Ⅰ				
担当教員名	岡野七恵・柿原宗雅・河野佑美・園田文子・平石葉子・森住昭子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ演奏力と弾き歌いの技能を修得する。そのために「弾く、聴く、弾き歌う」という活動を行い、聴取力、演奏の技能、楽典の知識も平行して身に付けていく。学校教育や保育の場で必要となる「人前で演奏する力」を養うため、中間交流会および実技試験では一人ずつ演奏発表する形式をとる。大阪成蹊学園ピアノグレードに照らし合わせた進度目標を意識しながら、計画的に演奏技術の修得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達するよう、積極的に自主練習を実施できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い曲合格数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター　監修・編曲	・こどもが大好きなうたの本　130 Children’s　Songs	・大阪成蹊学園	・2019　年
音楽教育センター　監修・編集	・Seikei・Piano	・大阪成蹊学園	・2021　年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学習が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　西館6階音楽教育センター

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・楽譜の基本・音符の基本・ブラインドタッチの基礎・学生個人のレベルに応じた曲選定** ・半期ピアノ授業の流れを説明し、目標設定する ・鍵盤図、大譜表、指番号、小節、拍、音符と休符と音価、拍子記号を学修する ・1～5指までを使った片手奏と両手奏、左右異なる動きで演奏する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第2回	**ポジション移動** ・左手のポジションを下げて演奏する ・長調と短調の響きの違いを学修する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「大きな栗の木の下で」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第3回	**ナチュラルポジションからの指広げ** ・片手で１オクターヴまで広げて演奏する ・和音の成り立ち（ハ長調におけるⅠ・Ⅴ）を学修し演奏する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「むすんでひらいて」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第4回	**付点４分音符とポジション移動** ・付点４分音符と８分音符のリズム、アーティキュレーション、オクターヴ記号を学修し演奏する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「手をたたきましょう」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第5回	**４分音符と８分音符　中間交流会曲選曲** ・４分音符と８分音符について学修し演奏する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「おかえりのうた」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第6回	**移調** ・発声練習用曲を用いて移調を学修し演奏する ・ハ長調以外の調（ト長調、ヘ長調等）について学修する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「ちょうちょう」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第7回	**中間交流会** ・弾き歌い曲の演奏発表 ・振り返りシートを活用し、自身の演奏を客観的に捉える ・他学生の演奏を聴き、自身の今後の演奏に活かす	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第8回	**色々なリズム** ・馴染み深い曲を用いて複雑なリズムの練習を行う ・左手で拍を打ちながら歌う、または左手で拍を打ちながら右手部分の演奏をする ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「おべんとう」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第9回	**付点８分音符と16分音符** ・付点８分音符と16分音符について学修し演奏する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「朝のうた」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第10回	**重音　弾き歌い発表会曲選曲** ・重音の演奏技術を身につける ・手首に力が入らないようううまく脱力しつつ、次の重音を弾く ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「チューリップ」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第11回	**８分の６拍子　実技試験曲選曲**	宿題課題曲の毎日の練習	1時間

	・８分の６拍子、強弱変化、楽語について学修し演奏する ・８分音符３つごとのグループが１小節に２つずつ入る感覚を身につける ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「さよならのうた」		
第12回	**分散和音** ・分散和音、速度記号について学修し演奏する ・左手の伴奏形からどの種類の和音であるかを判別し、また逆にある和音から分散和音に変える方法を学修する ・一人ひとりの習熟度をチェックし、技術の徹底を図る ・弾き歌い「やきいもグーチーパー」	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第13回	**弾き歌い発表会** ・アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第14回	**個人アドバイス** ・実技試験に向けて最終個人アドバイスを行う ・夏休み課題曲選曲	実技試験課題曲の毎日の練習	1時間

431

授業科目名	ピアノ実技Ⅱ				
担当教員名	岡野七恵・園田文子・高田正子・中井由貴子・永井理子・八田京子・堀田久美・森住昭子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ演奏力と弾き歌いの技能を修得する。そのために「弾く、聴く、弾き歌う」という活動を行い、聴取力、演奏の技能、楽典の知識も並行して身に付けていく。授業の一環として人前で一人で演奏発表する場を設定する。試験は履修者一人ずつの演奏発表形式で行う。
大阪成蹊学園ピアノグレードに照らし合わせた進度を意識しながらピアノ演奏力の修得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾けるようになる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合計数により配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター監修・編曲	・こどもが大好きなうたの本　130 Children’s Songs	・大阪成蹊学園	・2019　年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
「ピアノ実技Ⅰ」の単位修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。
ただし、ピアノ技術修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　西館６階音楽教育センター

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・ピアノ実技Ⅰの復習** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・ピアノ実技Ⅰの振り返りを含め、ピアノ演奏の基本を理解する ・後期の目標を設定する	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第2回	**リズムの種類と読譜への活用** ・リズムを形成する音価の種類を理解する ・読譜における音価の利用方法を理解する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第3回	**楽譜の書き方** ・音高と音価を使用し、大譜表に楽譜を書く ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第4回	**コードネームの基本** ・コードネームの読み方、種類、構成音を理解する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第5回	**コードネームを使用した伴奏づけ　中間交流会曲選曲** ・楽譜に書かれているコードネームから左手の伴奏音を読み取り、楽譜に書き込んで演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第6回	**伴奏形の種類と演奏方法** ・伴奏形の種類と演奏方法を理解し、ハ長調の楽曲を様々な伴奏形で演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・中間交流会曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第7回	**中間交流会** ・弾き歌い曲の演奏発表 ・振り返りシートを活用し、自身の演奏を客観的に捉える ・他学生の演奏を聴き、自身の今後の演奏に活かす	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第8回	**指番号の基本** ・指番号の基本的な考え方について理解する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第9回	**指番号の実践** ・指番号の書かれていない楽譜を使用し、適切な指番号を考えて演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第10回	**表現方法の基本　弾き歌い発表会曲選曲** ・表現方法の基本を理解し、演奏への影響を理解する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い発表会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第11回	**表現方法の実践　実技試験曲選曲**	宿題課題曲の毎日の練習	1時間

	・学修中の楽曲の表現方法を考えて楽譜に書き込み、演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）		
第12回	**楽譜の表記** ・調号・臨時記号、タイ・スラー、反復記号、演奏記号を理解する ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第13回	**弾き歌い発表会** ・アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第14回	**個人アドバイス** ・実技試験に向けて最終個人アドバイス実施 ・春休み課題曲選曲	後期実技試験曲の毎日の練習	1時間

432

授業科目名	**ピアノ実技Ⅲ**				
担当教員名	岡野七恵・安達萌・宇治田仁美・鳫真佑子・瀬崎紀子・竹山陽子・深井千聡				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要な演奏技能、弾き歌いの技能を習得する。そのために各自のレベルに合った教則曲や弾き歌い曲の演習を行い、さらに中間交流発表会など互いの演奏や発表を聴き合う場を通して、より良い演奏を聴き分ける力を養い、自分の演奏の技能を高める方法を考えながら技能を習得する。個々人の課題に沿って練習を重ねることでより豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達できるよう、積極的に自主練習を実施できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
定期試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
定期試験（弾き歌い曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合計数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

音楽教育センター監修・編曲　・こどもが大好きなうたの本　130 Children's Songs　・大阪成蹊学園　・2019　年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を推奨する。
「ピアノ実技Ⅱ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　西館6階音楽教育センター

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業概要の説明）、課題曲演奏** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・任意の楽曲を演奏し、担当教員と到達目標グレードを設定する ・次週の課題曲設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第2回	**ペダル奏法** ・ペダルの種類と効果を理解し、楽曲に合わせてペダルを使用する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第3回	**付点８分音符を含むリズム** ・付点８分音符を含むリズムについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第4回	**付点４分音符と複付点４分音符を含むリズム** ・付点４分音符と複付点４分音符を含むリズムについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第5回	**付点４分音符と付点８分音符が混在する楽曲の演奏方法 中間交流会曲選曲** ・付点４分音符と付点８分音符が混在する楽曲の演奏方法について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第6回	**３拍子の楽曲** ・３拍子の楽曲について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・中間交流会曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第7回	**中間交流発表会** ・弾き歌い曲の演奏発表 ・振り返りシートを活用し、自身の演奏を客観的に捉える ・他学生の演奏を聴き、自身の今後の演奏に活かす	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第8回	**３連符に表情をつける** ・３連符について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第9回	**短いスラーと長いスラーを弾き分ける** ・短いスラーと長いスラーについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第10回	**装飾音符　弾き歌い発表会曲選曲** ・装飾音符について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い発表会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第11回	**連打　実技試験曲設定** ・連打について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第12回	**転調**	実技試験曲への取り組み	1時間

	・転調について学修し演奏する ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）		
第13回	**弾き歌い発表会** ・アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	実技試験曲への取り組み	1時間
第14回	**個人アドバイス** ・実技試験に向けて最終個人アドバイスを行う ・夏休み課題曲選曲	実技試験曲への取り組み	1時間

433

授業科目名	**ピアノ演習Ⅰ**				
担当教員名	岡野七恵・園田文子・高田正子・中井由貴子・永井理子・八田京子・堀田久美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

保育現場や幼児教育の場で必要なピアノのテクニックを身に着ける。音楽表現の場で必要となる移調奏、即興演奏をマスターするためには、自由にピアノが弾きこなせることと多くのレパートリー曲を持つことが最も重要となる。そのために、個々のレベルに応じた課題曲を毎回課し、テクニックと共に楽典の知識、読譜力も習得する。
また、教員による個人指導だけではなく、中間交流発表会で演奏し互いに聴き合うことで演奏する力と聴く力を高め、豊かな感受性を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達できるよう、積極的に自主練習を実施することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
平常点	20 %	:	課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	:	演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い）	35 %	:	演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	:	大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	:	半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園　音楽教育センター監修・編曲	・こどもが大好きなうたの本　130 Children’s Songs	・大阪成蹊学園	・2019　年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を推奨する。
「伴奏法」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　図書館棟6階音楽教育センター

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業概要の説明）、課題曲演奏** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・任意の楽曲を演奏し、担当教員と到達目標グレードを設定する ・次週の課題曲設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第2回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音記号） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第3回	**16分音符の粒を揃える（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音記号） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第4回	**メロディーをなめらかに歌う（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて** ・音読み課題（ヘ音記号） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第5回	**3度と6度の重音（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）　中間交流会曲選曲** ・音読み課題（ヘ音記号） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第6回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ヘ音記号） ・ピアノ教則本曲レッスン ・中間交流会曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本と中間交流会曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第7回	**中間交流発表会** ・弾き歌い曲の演奏発表 ・振り返りシートを活用し、自身の演奏を客観的に捉える ・他学生の演奏を聴き、自身の今後の演奏に活かす	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第8回	**10度のユニゾン（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音ヘ音記号混合） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第9回	**内声のメロディー（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音ヘ音記号混合） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第10回	**32分音符のターン、ロンド形式（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）　弾き歌い発表会曲選曲** ・音読み課題（ト音ヘ音記号混合） ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本と弾き歌い発表会曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第11回	**短いスラーと長いスラーの弾きわけ（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）　実技試験曲選曲**	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間

	・弾き歌い発表会曲決定 ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）		
第12回	**分散奏（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第13回	**弾き歌い発表会** ・アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	ピアノ教則本、弾き歌い課題の練習	1時間
第14回	**個人アドバイス** ・実技試験に向けて最終個人アドバイスを行う ・夏休み課題曲選曲	実技試験課題曲の毎日の練習	1時間

433

授業科目名	ピアノ演習Ⅱ				
担当教員名	今村佳奈・柿原宗雅・平石葉子・吉田真奈美				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ピアノ演習Ⅰで修得した読譜力とピアノテクニックを発展させるための課題に取り組む。保育や幼児教育の場で実践するためには、歌唱活動で子どもの声域に合わせた高さに移調したり、その場で子どもの動きに合わせて伴奏をアレンジしたりする力も必要となる。そのために、教則本曲でテクニックを身に付けると同時に調号3つまでの長音階とカデンツを修得し、弾き歌い曲を用いて様々な伴奏型（アルベルティ・バス、マーチ、ワルツ）を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達できるよう、積極的に自主練習を実施することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園　音楽教育センター監修・編曲	・こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	・大阪成蹊学園	・2019　年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を推奨する。
「ピアノ演習Ｉ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　図書館棟6階音楽教育センター

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、課題曲演奏** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・任意の楽曲を演奏し、担当教員と到達目標グレードを設定する。 ・次週の課題曲設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第2回	**声部を弾きわける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第3回	**ワルツのリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・ワルツのリズムについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第4回	**物語の場面を弾きわける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）　弾き歌い発表会曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第5回	**メロディーを歌う（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第6回	**弾き歌い発表会** ・アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表 ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第7回	**同音連打（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・同音連弾について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第8回	**16分休符（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・16分休符について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本と弾き歌い各１曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第9回	**４声を弾き分ける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第10回	**舞曲のリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・舞曲のリズムについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第11回	**レガート奏法（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）　実技試験曲設定** ・レガート奏法について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第12回	**舟歌のリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）**	試験曲への取り組み	1時間

	・舟歌のリズムについて学修し演奏する ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い曲）		
第13回	**和音のスタッカート（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・和音のスタッカートについて学修し演奏する ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い曲）	試験曲への取り組み	1時間
第14回	**後期実技試験に向けて** ・実技試験曲の練習 ・春休み課題曲選曲	試験曲への取り組み	1時間

434

授業科目名	ピアノ演習Ⅲ				
担当教員名	高田正子・中井由貴子・永井理子・堀田久美				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では①ピアノ演奏技術の習得と②弾き歌いの力のレベルアップ（レパートリーを増やすことを含む）の2点を通して、保育の現場で自信をもってピアノを使った音楽表現活動の指導と弾き歌いを実践する力を修得する。
学生個人の習熟度に合わせて、きめ細やかな授業（個人レッスン）を行う。1年次生から継続して身につけてきたピアノ技術の習得度を更に高め、採用試験に備える。中間発表会では互いの演奏を聴きあい、弾き合うことによって、聴く力を高め、豊かな感受性を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達できるよう、積極的に自主練習を実施することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
平常点	20 %	:	課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	:	演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い曲）	35 %	:	演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	:	大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	:	半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園音楽教育センター	・こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	・大阪成蹊学園	・2019 年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を推奨。
「ピアノ演習Ⅱ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　図書館棟6階音楽教育センター

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、課題曲演奏** ・授業（レッスン）の進め方、成績評価の説明など ・春休みの宿題曲チェックとピアノ演習Ⅲでの到達目標設定 ・次週の課題曲設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第2回	**手の交差（ブルクミュラー15～25番より各自に応じて）** ・手の交差について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第3回	**スタッカート、付点のリズムをつかった軽快な演奏（ブルクミュラー15～25番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第4回	**レガート奏法（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・レガート奏法について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第5回	**16分音符の粒を揃える（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）　中間交流会曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第6回	**メロディーをなめらかに歌う（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第7回	**中間交流会** ・音楽室教室などを使って、学生が一人ずつピアノ演奏曲と弾き歌い曲を発表する ・各自「振り返りシート」を記入し、振り返りの資料として活用するよう促す ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察し発表する	宿題曲への取り組み	1時間
第8回	**３度と６度の重音（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・３度と６度の重音について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第9回	**ロンド形式（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・ロンド形式について学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第10回	**10度のユニゾン（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）　弾き歌い発表会曲選曲** ・10度のユニゾンについて学修し演奏する ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第11回	**内声のメロディー（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）　実技試験曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第12回	**32分音符のパターン（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）**	試験曲への取り組み	1時間

	・32分音符のパターンについて学修し演奏する ・実技試験曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）		
第13回	**弾き歌い発表会** アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	試験曲への取り組み	1時間
第14回	**実技試験に向けて** ・実技試験曲の練習 ・夏休み課題曲選曲	試験曲への取り組み	1時間

434

授業科目名	ピアノ演習Ⅳ				
担当教員名	瀬崎紀子・竹山陽子				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、ピアノ演習Ⅲで修得した音楽表現活動の指導と弾き歌いを実践する力を発展させるための課題に取り組む。１年次生から継続して身につけてきたピアノ技術の習熟度を更に高め、学校教育や保育の現場に備える。中間発表会では、演奏の弾き合い、聴き合いに加え、互いの演奏についての意見交換を行い、良い演奏やパフォーマンスとは何かをより深く考察する。毎回の授業では、学生個人の習熟度に合わせて、きめ細やかな個人レッスンを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ピアノ独奏曲、弾き歌い曲の演奏	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を修得し、人前で演奏することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自設定した目標に到達できるよう、積極的に自主練習を実施することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 課題曲の練習状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（弾き歌い曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い合格曲数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園音楽教育センター	・こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	・大阪成蹊学園	・2019 年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を推奨する。
「ピアノ演習Ⅲ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜２限

場所： 図書館棟6階音楽教育センター

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、課題曲演奏** ・授業（レッスン）の進め方、成績評価の説明など ・夏休みの宿題曲チェック ・次週の課題曲設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第2回	**分散奏、３連符、声部の弾き分け、ワルツのリズム（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第3回	**物語場面を弾き分ける、メロディーを歌う、同音連打、16分休符（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第4回	**4声の弾き分け、舞曲のリズム、レガート奏法、和音のスタッカート（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第5回	**手の交差、付点リズムとスタッカート（ブルクミュラー１～25番より各自に応じて）　中間交流会曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第6回	**ソナチネの形式について（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・中間交流会曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と中間交流会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第7回	**中間交流会** ・学生が一人ずつ弾き歌い曲を発表する ・各自「振り返りシート」を記入し、自身の演奏の振り返りの資料として活用するよう促す ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察し発表する	宿題曲への取り組み	1時間
第8回	**２音間のレガート（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第9回	**強弱をつけて（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本曲と弾き歌い曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第10回	**レガートとノンレガート（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）　弾き歌い発表会曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ教則本と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第11回	**トリルの弾き方、テンポの変化、左手の動き（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）　実技試験曲選曲** ・ピアノ教則本曲レッスン ・弾き歌い発表会曲レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	宿題曲への取り組み	1時間
第12回	**16分音符をなめらかに、付点のリズム（ソナチネアルバム１巻NO.４、７、８、他から各自に応じて）** ・ピアノ教則本曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン ・次週の課題設定（実技試験曲と弾き歌い発表会曲）	試験曲への取り組み	1時間

第13回	**弾き歌い発表会** アンサンブル室において弾き歌い曲の演奏発表	試験曲への取り組み	1時間
第14回	**実技試験に向けて（曲仕上げ）** ・実技試験曲の練習	試験曲への取り組み	1時間

432

授業科目名	**伴奏法**				
担当教員名	岡野七恵・安達萌・宇治田仁美・鳫真佑子・河野佑美・平石葉子・深井千聡				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ伴奏法（コード弾き、伴奏アレンジ）を修得する。
教材には幼稚園、保育園、小学校低学年で実践されている程度の曲を扱い、ハ・ニ・ヘ・ト長調によるコードネームを用いた両手の弾き歌い、さらに伴奏形や前奏・後奏など、曲想に応じたアレンジを学び、応用的な実践力を習得する。
毎回の授業では、個人の習熟度に合わせて、きめ細やかな個人レッスンを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	コード弾きおよび伴奏アレンジ	ハ・ニ・ヘ・ト長調のコード弾きと伴奏アレンジができる
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		指定された課題曲を自らアレンジして弾き歌いできる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	25 %	： 課題曲の読譜、各授業で課される課題や自主練習の取組み状況、受講態度（忘れ物、遅刻・早退、付爪・長爪は減点）を総合して評価する
実技試験(弾き歌い曲)	25 %	： 子どもの反応を的確に想定したプログラム内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
実技試験（教則本曲）	35 %	： 演奏内容を独自のルーブリックに基づいて評価する
弾き歌い模擬授業の取り組み	5 %	： アレンジによる演奏効果、演奏技術レベルを客観的な視点で自己評価できているかを測り、ルーブリックに基づいて評価する
基礎点（教則本演奏課題曲レベル）	5 %	： 大阪成蹊学園ピアノグレードを参照し、実技試験で演奏する教則本曲のレベルに応じて配点する
基礎点（弾き歌い曲合格数）	5 %	： 半期で合格した弾き歌い曲の合格数に応じて配点する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター監修・編曲	・こどもが大好きなうたの本 130 Children’s Songs	・ 大阪成蹊学園	・2019 年

参考文献等

バイエル教則本　音楽之友社【ISBN4276410010】
ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社【ISBN4276412102】
ソナチネアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012114】
ソナタアルバム1巻　　全音楽譜出版社【ISBN9784111012213】　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
授業内容に即した課題に、毎回取り組むこと。
ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分の自主練習を行うこと。
「ピアノ実技Ⅲ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　西館６階音楽教育センター

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション 英音名・音程・コード・記譜法** ・授業形態と動画の視聴方法について ・英音名と音程、コードの成り立ちの解説 ・記譜の方法を学修する ・個人レッスン	次回授業の予習	4時間
第2回	**ハ長調のベース弾き** ・ハ長調の楽曲「おうま」「たき火」をベース弾きする ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第3回	**ハ長調のコード弾き** ・調と音階の仕組みを学修する ・ハ長調のコードを学修し、「おうま」「たき火」「とんぼのめがね」「山のポルカ」をコード弾きする ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第4回	**伴奏形のアレンジ　－コード刻み、ベース+上２声－** ・ハ長調の課題曲を用いて、コードのアレンジ（コード刻み、ベース+上二声）を学修する ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第5回	**伴奏形のアレンジ　－アルペジオ、アルベルティ・バス－** ・ハ長調の課題曲を用いて、コードのアレンジ（アルペジオ、アルベルティ・バス）を学修する ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第6回	**伴奏譜による弾き歌い** ・伴奏譜を用いて弾き歌いを学修する ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第7回	**伴奏譜による弾き歌い・弾き歌い模擬授業発表曲を選曲** ・伴奏譜を用いて弾き歌いを学修する ・各自のレベルに対応した弾き歌い曲（伴奏譜）を選曲する ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第8回	**弾き歌い模擬授業** ・実習を想定した模擬授業を実施する ・伴奏譜を用いて弾き歌い曲を演奏する ・発表曲についての曲目解説（作詞者について、作曲者について、歌詞の内容など）を発表する ・演奏後、グループでディスカッション、自己評価を行う	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第9回	**ヘ長調のコード弾き** ・ヘ長調の楽曲「まつぼっくり」「おんまはみんな」をコード弾きする ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第10回	**ト長調のコード弾き** 授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習 ・ト長調の楽曲「うみ」をコード弾きする ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第11回	**ニ長調のコード弾き** ・ニ長調の楽曲「雪」をコード弾きする ・個人レッスン	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第12回	**移調、様々なコード** ・移調方法を学修する ・「ぶんぶんぶん」をヘ長調からニ長調に移調してコード弾きする ・様々なコードを用いて「虫のこえ」をコード弾きする ・個人レッスン	実技試験曲への取り組み	4時間
第13回	**教則本発表会**	実技試験曲への取り組み	4時間

	・教則本の演奏発表を行う ・実技試験曲レッスン		
第14回	**個人アドバイス** ・実技試験に向けて最終個人アドバイスを行う ・春休み課題曲選曲 ・個人レッスン	実技試験曲への取り組み	4時間

433

授業科目名	器楽指導法				
担当教員名	奥田有紀				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	プロの打楽器奏者としてオーケストラ、吹奏楽での演奏、大学での講義、指導の実務経験あり、現在に至る（全14回）				

授業概要

本授業では器楽合奏において必要な基礎知識、楽器の基本奏法や特性を理解することを目的とし、自らの演奏体験を通して子どもへの指導方法を学ぶ。主に打楽器を用いた合奏に取り組み、まずは小太鼓での基礎練習やボディパーカッションを通してリズム感覚、読譜力を向上させ、小編成のアンサンブルから合奏へと発展させる。その過程で楽器の音色の多様性、表現技巧の可能性を理解し探究する。また、グループ演習やグループ発表を行うことで、観察力とコミュニケーション能力を養うことができる。様々な楽器に触れて演奏技術を習得し、自ら合奏を楽しみ、達成感を味わう経験をすることで子どもへの指導に繋がる力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	器楽に関する知識、演奏技術、指導実践に繋げる力	各種楽器の特性を理解した上で、指導実践の方法を考え、工夫することができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		音楽に関する自己の課題を省察することができる。
2. DP７.忠恕の心		他者の意見（演奏）を踏まえて、自分の意志や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	50 %	： 授業への関心を持ち意欲的に取り組んでいるか、準備、セッティングに協力できているか、発表と鑑賞において自己の課題、他者の課題を的確に伝えられるかなど、授業内での積極性について総合的に評価します
授業内での発表	20 %	： 楽曲を理解し、音楽表現の工夫をして演奏できているか、合奏に主体的に取り組んでいるかを評価します
実技試験(発表会)	30 %	： 発表会での合奏の完成度、個々の演奏技術（実技）及び指揮を評価します

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。
リズム基礎練習用のドラムスティックの購入を推奨する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
器楽合奏（実技）を中心とした授業のため、楽譜を読み、演奏することが必須である。
合奏譜は小学校（中～高学年）レベルを用いるため比較的易しい内容だが、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けた予習をすることが必要である。
ただし、読譜が苦手な学生でも履修できるよう、予習、復習のための動画の配信等の工夫をしている。
音楽の得手不得手に関わらず、仲間と共に器楽を楽しむ経験をすることを重視し、各々の指導力に繋げたい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 教室

備考・注意事項： メールにて対応します。
yuki.percussion@gmail.com

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション / 器楽を楽しむために** ・講師紹介を含めた各種楽器のデモストレーション ・楽器の基礎知識について ・楽器の取り扱い方と注意点 ・授業の進め方、評価方法、試験について ・次回から取り組む楽曲の紹介、楽譜の配布	各種楽器の基礎知識についての復習、配布された楽譜の読譜	4時間
第2回	**小太鼓を用いての基礎練習①　４分音符・８分音符を用いて** 小太鼓（練習台・机上）を用いて正しいスティックの持ち方、構え方を学び、4分音符、8分音符のやさしいリズムから基本的奏法を確立できるよう演習する。 グループごとにリズムアンサンブルを発表し考察する。	リズムアンサンブルの復習、テキストの予習	4時間
第3回	**小太鼓を用いての基礎練習②　３連符・１６分音符を用いて／ボディパーカッションについて** 小太鼓（練習台）を用いて、4分音符、8分音符に加え、３連符、１６分音符を含んだエチュードを使い、左右のバランスに注意して、正しいフォームで安定したリズムを打てるように演習する。 グループ、個人で発表し考察する。 小太鼓の特性と仕組み、メンテナンス方法を学ぶ。 次回の授業「ボディパーカッション」についての説明とデモストレーションを鑑賞する。	リズムアンサンブルの復習、テキストの予習	4時間
第4回	**ボディパーカッション　からだを使って音楽を奏でよう！** からだを使って音を出す「ボディパーカッション」に取り組む。 作品を用いて、音色が奏法の工夫によって変化することを学び、アンサンブルの楽しみを体験する。 グループ発表を行い意見交換をする。	ボディーパーカッションの復習とリズムの創作（課題１）、奏法の工夫と音の研究	4時間
第5回	**ボディーパーカッションの発表／鍵盤打楽器でメロディーを弾こう！** ボディーパーカッションのグループ発表を行い意見交換をする。 鍵盤打楽器（木琴、鉄琴）の演奏を鑑賞し、基本奏法と楽器の特性や仕組みを学ぶ。 次回の楽曲【１】の各楽器のパート割りをリーダーを選出して進め、決定する。楽譜の配布	配布された楽譜の読譜、参考音源を聴く	4時間
第6回	**打楽器アンサンブルの演習①　楽曲の解説と演習　楽曲【１】を用いて** 木琴、鉄琴なども加えた打楽器全般を用いた楽曲【１】を演習する。 使用する打楽器の紹介と奏法の解説 譜読み、音名の記入、楽譜の製本などは適宜個人で行うこと。	楽曲【１】の復習、譜読み、音名の記入、楽譜の製本など	4時間
第7回	**打楽器アンサンブルの演習②　個人、グループ練習** 個人練習、グループ練習を中心に行う。 音楽表現に必要な速度記号、強弱記号などに注意しながら練習しアンサンブル能力を高める。 授業の後半には録画をして鑑賞、意見交換をする。	楽曲【１】の復習、譜読み、音名の記入、楽譜の製本など	4時間
第8回	**打楽器アンサンブルの演習③　音楽表現について学ぼう！** 指揮体験と個人練習を行う。 様々なテンポでの合奏を指揮者を中心に練習する。 曲想を感じ取りながら演奏できるよう楽曲の理解を深める。 ビデオを撮影し評価会を行う。	配布された楽譜の読譜　（音名の記入、楽譜の製本）	4時間
第9回	**器楽合奏①　楽曲の解説と指揮の方法について　楽曲【2】**	楽曲【２】の復習（譜読み、音名の記入、楽譜の製本など）	4時間

	楽曲【２】の紹介と解説 各楽器のパート割りをリーダーを選出して進め、決定する。楽譜の配布 アンサンブル、合奏を指導する際に必要な知識や準備、楽器のセッティングについて学ぶ。 個人練習では個々の課題を整理する。 譜読み、音名の記入、楽譜の製本などは適宜個人で行うこと。		
第10回	**器楽合奏②　表現力を身につけよう　楽曲【２】** 個人練習、グループ練習を行う。 豊かな音楽的表現をするための奏法の習得を目標に演習する。 より良い合奏にするにはどうすれば良いのか、奏者の表現力を引き出すにはどのように振ると良いのかなど、指揮者の役割について考察する。	楽曲【２】の復習	4時間
第11回	**器楽合奏③　テンポや強弱に注意して合奏を楽しもう！　楽曲【２】** 指揮者を選出し、様々なテンポで強弱記号に注意しながら合奏を行う。 最終目標のテンポのイメージを持ちながら練習し、グループ発表ではお互いの課題を指摘する。	楽曲【２】と指揮の復習	4時間
第12回	**器楽合奏④　発表会に向けて合奏を楽しもう！　楽曲【２】** 発表会（試験）に向けての個人、グループ演習を行う。 各種楽器の正しい奏法と特性をより深く理解し、楽曲の表現と結びつく奏法を工夫する。 指揮者を中心とした合奏をする。録画を鑑賞して問題点を考察する。 合奏の完成度によっては、楽曲【3】の取り組みをする。	楽曲の復習、配信動画での復習、自己課題のレポート	4時間
第13回	**器楽合奏⑤　合奏をより深く味わう！　楽曲【２】** 発表会（試験）に向けての個人、グループ演習を行う。 発表会の司会、進行、スケジュール係を選出し、全体の流れを確認する。	楽曲の復習、配信動画での復習、自己課題のレポート	4時間
第14回	**器楽合奏⑥　発表に向けて** 発表会(試験)に向けての個人、グループ演習を行う。 セッティング、司会進行を入れた全体（通し）リハーサルを行う。 ビデオを撮影し評価会を行う。	楽曲の復習、配信動画での復習、自主練習	4時間

431

授業科目名	**歌唱指導法**				
担当教員名	大越智比咲英・加戸敬子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府下の合唱連盟、合唱協会において発声・歌唱指導を行う（大越智：14回） 民間の音楽教室、児童センター、発達支援センターでの音楽講師（加戸：14回）				

授業概要

歌唱の基本となる発声や合唱指導に必要な音程・リズム感の技術を身に付け、幼児・児童の発達を踏まえた学校教育における様々な種類の歌唱・合唱指導のあり方を理解する。アンサンブルや指揮の体験を通して個々の声の特性を活かした合唱を経験すると共に、その指導方法を理解する。教材としては幼児向け歌唱曲や小学校音楽科教科書に掲載されている作品、また日本の伝統音楽としてのわらべ歌なども取り上げる。さらに歌唱指導について理解した内容を踏まえてグループでの合唱アンサンブルを行うとともにその指導について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	幼・保・小学校での歌唱・合唱教材を実践する。	歌唱能力を身につけ、合唱指導を実践する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		幼・保・小学校での歌唱・合唱指導の実践力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
数回の小レポート	30 %	:	授業内容の理解を評価します。
発声実技	20 %	:	発声を実践し評価します。
合唱アンサンブル演奏	30 %	:	合唱アンサンブルを実践しその演奏内容を評価します。
歌唱実技試験	20 %	:	歌唱実技能力を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ こどもが大好きなうたの本	・ 大阪成蹊学園	・ 2019 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火・金　昼休み

場所： 西館６階加戸研究室

備考・注意事項： 事前にアポを取ってください。kato-hi@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、発声の基礎、歌唱・唱の魅力について** 発声の基礎や幼稚園、保育所、小・中学校での歌唱・合唱についての資料を読み考察する。	発声に関する資料を読む。	4時間
第2回	**各パートの声域、子どもの声域の考察** 歌唱を行うための読譜力を養う。 声域とパート分けについて説明する。	読譜練習を行う。	4時間
第3回	**「発声」の理解** 発声の際の姿勢・呼吸法について資料を読み理解する。正しい姿勢・呼吸法による色々な発声法を実践する。歌唱を行う為の読譜力を養う。	発声の資料を読みまとめる。読譜練習を行う。	4時間
第4回	**幼稚園・保育園などでの歌唱個人指導** 幼稚園・保育園における歌唱・合唱曲を知る。 わらべうた・輪唱・手遊びうたを実践する。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	幼稚園・保育園での歌唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第5回	**幼稚園・保育園などでの歌唱グループ指導** 幼稚園・保育園における歌唱・合唱曲の指導ポイントをまとめる。 わらべうた・輪唱・手遊びうたの理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	幼稚園・保育園での歌唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第6回	**小学校低学年における歌唱・合唱指導** 小学校低学年における歌唱・合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	小学校低学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第7回	**小学校高学年における歌唱・合唱指導** 小学校高学年における歌唱・合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２・３部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	小学校高学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第8回	**中学校における歌唱・合唱指導** 中学校における歌唱・合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	中学校歌唱・合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第9回	**変声期** 変声期について知り、そのポイントをまとめる。 変声期における発声指導を考察する。	変声期についての資料を読みまとめる。	4時間
第10回	**色々な種類の歌唱・合唱形態を知る。** 独唱曲、児童合唱・女声合唱・混声合唱・男声合唱の演奏を鑑賞し、それらの特徴を知る。	授業で示された独唱・合唱曲を聴き感想をまとめる。	4時間
第11回	**グループアンサンブル 役割分担と取り組み** グループに分かれての合唱実践１ 実践する曲を選び、その練習計画や方法について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第12回	**グループ・アンサンブル パート練習** グループに分かれての合唱実践２ 練習計画、練習方法に沿った練習を各グループで実践する。	読譜練習を行う。	4時間
第13回	**グループアンサンブル発表会に向けてのリハーサル及びディスカッション** グループに分かれての合唱実践３ 各グループでの実践を行い、各パートの役割分担について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第14回	**グループアンサンブル 発表会** グループに分かれての合唱実践４ 他のグループの練習を参考にしながら合唱指揮・伴奏の実践を行う。	読譜練習を行う。	4時間
			時間

433

授業科目名	**リトミック**				
担当教員名	日笠みどり				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園・保育園・こども園にて音楽講師として勤務。（全14回）				

授業概要

リトミックとは、スイスの音楽教育家・作曲家であったダルクローズによって考案された、音楽による身体と心と精神の融合を促す音楽教育のための学習方法である。音楽の基礎となるリズム・速度・拍子・強弱等の諸要素を音を通して感じ、指示に合わせて即時反応することや、身体を用いて表現すること、また、音楽で表現された世界を創造し、そのイメージを身体を用いて表現する。自分自身の音楽能力のスキルアップの為や、現場に即した実践を通した実技と、指導者としての指導方法を学修することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	音楽の諸要素について、シミュレーション型学習を実施することにより、リトミックに関わる確かな知識と技能を身につける	音楽の基本的な知識を理解し、リトミックを指導する上の基本的知識、表現法、指導方法を習得すること
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		リトミックのねらいを理解した上で、適切な指導案が立てられること
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		課題のねらいを理解し、積極的にかつ適切な表現活動ができること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

実技・提出物共に、基本全体に向けてコメントをするが、必要に応じて個別にコメントを行う。提出物は添削後返却。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度と表現の工夫	15 %	： 指示を的確に聴き、真面目に積極的に参加しているか。ねらいに即した指導者を目指す者として、適切な表現をしているか。また独自性があるか。
模擬指導案とパフォーマンス	15 %	： ねらいを明確にした指導案が作成されているか。年齢に応じた案であり、工夫された独自の案であるか。
振り返りシート等記述課題	40 %	： 授業のねらいを理解して記述しているか。
実技課題	10 %	： 基礎リズム。的確なステップが踏め、複リズムが行えているか。

最終小課題レポート　　：　リトミックについての基礎知識・理論について等授業の総括が記述できているか。

20　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『ダルクローズのリトミック』　エリザベス・バンドゥレスパー著　石丸由理訳（ドレミ出版、2012年)ISBN4285106493

履修上の注意・備考・メッセージ

体育館シューズを持参し、動きやすい服装で参加のこと。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。予習として配布資料を読んでくること。毎回の授業の振り返りをまとめ、復習を行うこと。特に、技術的なものは授業の積み重ねが必要となり、繰り返し授業内で行うので取りこぼしの無いように努めること。また、音楽の諸要素のついての基礎知識（義務教育の範囲内）が必要となるので、十分に理解して臨むようにすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　T17横体育教官室

備考・注意事項：　授業前後で質問を受け付ける他、Ｅメールで【hikasa@g.osaka-seikei.ac.jp】で受け付ける。Ｅメールの場合は件名に「リトミックについて（学生番号・氏名）」と記入のこと

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、リトミックの概要、即時反応、音の長さ・言葉とリズム・ビート** 講義の内容・目的、評価の方法、履修についての注意点等を確認。最初にリトミックについての概要を学ぶ。更にリトミックの基本的な考え方の動きや即時反応と、音符・音の長さ、強弱、速度、ビートを感じることや、リズムに言葉を対応させることを学び、音楽用語の確認を行う。	リトミックの概要、音符の名称長さ、音楽用語を覚える事。以降、毎回次回のレジュメを必ず読んでおくこと	4時間
第2回	**基礎リズム・即時反応・音の長さ・強弱・速度** 基礎リズムを覚える（以後毎回基礎リズム行う）。音を聞き分け、主に音の長さ・強弱・速度についてのリトミックの方法を学ぶ。	基礎リズムを覚える。授業内容をまとめ、リトミックの方法を覚える。	4時間
第3回	**基礎リズム（ステップ）、音の長さ・強弱・速度・高さについて手具を用いた表現（ボール・スカーフ））** 前回学んだ基礎リズムのステップの方法を学ぶ。また、音楽の諸要素である、音の長さ・強弱・速度・高さについてボール・スカーフを用いた表現方法を学ぶ	基礎リズムのステップ方法。色々な手具の使用方法をまとめる。	4時間
第4回	**拍子・速度の変化・強弱の変化** 拍子・速度の変化・強弱の変化に対するリトミックの方法を学ぶ。また、フープやスティックを用いた指導方法を学ぶ。	速度や強弱の変化の指導方法を覚える。手具の使用方法を覚える。	4時間
第5回	**複リズムとソルフェージュ** 複リズムについて学ぶ。音階をハンドサインで表現する方法を学ぶ。歌うことや、聴音など、ソルフェージュの方法を学ぶ。	複リズムについて覚える。ハンド歳位の方法を覚える	4時間
第6回	**リトミックを用いた表現遊び** 基礎リズムや、色々な曲想の表現方法を基に、ストーリーのある物語の中に、リトミックを取り入れる方法を学ぶ。	自分が授業で行った表現を記述する	4時間
第7回	**実践の様子をDVD視聴・検討、プラスティックアニメ** 実践の子ども達や指導者の様子をＤＶＤを視聴し、内容についてディスカッションを行う。色々な曲を聴き、感じたままを身体を用いて表現する「プラスティックアニメ」を学ぶ	DVD視聴後のディスカッションのまとめ。プラスティックアニメについて自分の表現方法をまとめる	4時間
第8回	**補足リズム、倍加と半減、リズムカノン** 補足リズムについて学ぶ。基礎リズムの倍加と半減について学ぶ。リズムカノンについて学び、指導方法を知る。	補足リズム、倍加と半減、リズムカノンについて授業で学んだことをまとめる	4時間
第9回	**指導案の作成方法（音の長さ・強弱）、指導法、即興演奏（コードネーム・コードパターン）** 指導案の基本的な作成方法を学ぶ。更に、音の長さ・強弱についての指導案を学ぶ。それを基に指導方法を学ぶ。即興演奏に必要なＣ・Ｆ・Ｇ7のコードを基に、コードの構成音を学び、必要なコードパターンをキーボードを使用して学ぶ。	指導案の作成方法を覚える。コードの構成音とパターンを覚える。	4時間
第10回	**指導案の作成方法（音の高さ・速さ・拍子）、指導法、即興演奏（メロディの作成方法）**	簡単な伴奏が弾けるようになること。指導案の作成方法、指導方法を覚える。メロディが作れるようになる。	4時間

	音の高さ・速さ・拍子に関した指導案の作成方法を学ぶ。その指導案を基に指導方法を学ぶ。前回のコードパターンを基に、メロディの作成方法を学ぶ。目的に合わせた伴奏方法を学び、模擬授業に合わせて曲を弾くことを体験する。		
第11回	**指導案の作成方法（音のニュアンス等）、指導方法、即興演奏(色々な伴奏型）、8分の6拍子基礎リズム** 音のニュアンスを指導目的とする指導案のの作成方法を学び、その指導方法・色々な伴奏方法を学ぶ。新たに、8分の6拍子の基礎リズムを学ぶ。	8分の6拍子の基礎リズムを覚える。今回までに学習したことを基にグループで指導案を作成する。	4時間
第12回	**グループ作成の指導案前半グループ発表・振り返り** グループで作成した指導案を用いて、模擬指導を発表する。全員でグループ発表の批評、検討を行う。（テストに向けてリトミックの伴奏の確認をする）	8分の6拍子の基礎リズムを覚える。今回までに学習したことを基にグループで指導案を作成する。	4時間
第13回	**グループ作成の指導案後半グループ発表・振り返り** グループで作成した指導案を用いて、模擬指導を発表する。全員でグループ発表の批評・検討を行う。（テストに向けて２拍子の基礎リズムの確認をする。）	グループ発表の批評をまとめて記述する。発表したグループは批評を基に作成し直す。	4時間
第14回	**実技試験と統括** ２拍子の基礎リズムの実技テストと、ピアノ伴奏のテストを行う。最終小課題レポートの作成。今まで学んだ内容の総復習を行う。	総括の復習	4時間

431

授業科目名	**造形遊び**				
担当教員名	金崎晴美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校（助教諭）、国立大学附属小学校(図画工作専科 非常勤講師）、公立高等学校（美術科・工芸科 非常勤講師）での勤務経験。（全14回）				

授業概要

「造形遊び」は、小学校学習指導要領図画工作において現在では全学年に位置づけられているものの、学校現場においては時間数においても内容面においても十分に行われているとは言えないのではないか。原因のひとつは、指導内容への理解不足があると考えられる。遊びということばで括られ、絵や彫刻のような一般的な美術分野のジャンルに表されていないため、具体的な作品や活動のゴールをイメージできないのではないだろうか。ここでは自ら体験することを通してつくり出す喜びと造形要素の魅力を味わいながら、「造形遊びをする活動」の価値や「絵や立体，工作に表す活動」との関係について理解し、適切な環境設定を考えられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	造形及び造形遊びに関する知識・技能	様々な材料等による造形遊びを通して、その内容と魅力を理解し、材料や用具を適切に扱うことができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	造形遊び指導内容の理解と教材研究	発想力を発揮し、創造的に取り組む造形遊びを児童と指導者双方の立場で体験し、その学習目標を理解して授業を計画することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		様々な課題に積極的に関わり最後までやり遂げ、さらなる工夫や改善点を考えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		子ども理解を中心に多角的な視点から他者や異質なものへの理解ができる。
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		他者と協同して、多角的な視点から現代社会の教育課題に対応できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	30 %	： 演習はすべて参加し課題を提出することが前提です。内容の独創性、妥当性について評価します。
レポート・振り返りシート	30 %	： 内容の妥当性、意見の論理性、振り返りシートの綿密さについて評価します。
交流・活動への参加	20 %	： 創造的な活動、積極的な発言・姿勢などを評価します。
小テスト、期末試験		： 理解度、内容の妥当性、論理性を評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「小学校学習指導要領」及びその解説「図画工作編」
小学校教科書「図画工作」　日本文教出版、開隆堂出版
その他の参考文献については授業中に紹介する

幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉　平成29年告示（チャイルド本社、2017、ISBN-978-4805402580）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて準備や予習をすること。
受講人数、天候などにより内容を変更することがある。
材料や用具で各自の準備物がある場合は必ず持参すること。忘れると活動できない場合がある。
絵具など様々な材料・用具を扱い、体を動かす演習も行うので、活動に適した服装で、ぞうきん、タオルなど必要に応じて用意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（講義目的と評価基準及び学習プランについて）** 自らの造形体験と「造形遊び」体験を交流して振り返り、学校現場における現状について整理します。 授業や演習時の約束･準備・姿勢について確認します。 ミニ演習による体験を通して、「造形遊び」の位置・意義について、幼児造形表現や図画工作科の他の内容領域と比較しながら、その関係について学びます。	自らの造形体験を振り返り、自分の考える「造形遊び」とはどのようなものかを考えておく。幼稚園教育要領と小学校学習指導要領図画工作を確認する。領域「A表現」におけるア・イの活動の違いを確認する。	4時間
第2回	**造形遊びの材料研究（１）粘土** 身近な素材である粘土の造形的な特性を学びます。種類による違いや基本的な扱い方を確認しながら、いろいろな技法を体験します。	種類による特徴を理解する。粘土を扱う場合の留意点を確認し、整理する。	4時間
第3回	**造形遊びの材料研究（２）自然素材と人工素材** 型押し遊びを通して、いろいろな形や色を見つけたり選んだりしながら、版に表す活動を体験します。	材料の特性（自然素材、人工素材）と可能性を整理する。	4時間
第4回	**造形遊びの材料研究（３）水** 身近な水を材料にして、色水をつくったり混ぜたりする色遊びから、色の組み合わせを考えて並べたり場所を生かして置いたりするなどの活動を体験します。	材料としての魅力と活用方法、場所の可能性を整理する。	4時間
第5回	**造形遊びの材料研究（４）紙（切る・折るなど）** 身近な素材である紙の造形的な特性を学びます。はさみやカッターナイフ、指導者用の裁断機や小刀について安全な扱い方を確認しながら、紙を切る、折る、紙の質感を変えるなどの活動を体験します。	材料としての魅力と活用方法を整理する。刃物を扱う場合の留意点を確認し、整理する。	4時間
第6回	**造形遊びの材料研究（５）紙（接合・接着）** テープ状の紙で差し込む・結ぶ・編む・織るなどの接合する方法を試したり、色や形の組み合わせを選んで接着し、新しい形をつくる活動を体験します。	材料としての魅力と活用方法、扱う用具、場所の可能性を整理する。各材料において接着・接合の方法を考え、整理する。	4時間
第7回	**造形遊びの材料研究（６）光・かげ** 光を通さない素材、光を通す透明な素材と、色光による組み合わせを試しながら、いろいろな影をつくる活動を体験します。	自然の光、人工的な光について、材料としての魅力と活用方法、場所や特徴ある環境の可能性を整理する。	4時間
第8回	**造形遊びの材料研究（７）風・空気** ポリ袋などの材料を使って、空気を閉じ込めたり風のある環境をいかしたりして表現する活動を体験します。	材料としての魅力と活用方法、場所や特徴ある環境の可能性を整理する。 場所、環境の安全面についての基本事項を考え、整理する。	4時間
第9回	**材料・用具（１）彫刻刀** 木の板を彫刻刀で彫り凹凸をつくる活動を通して彫刻刀の種類や安全な扱い方を学びます。	彫刻刀の種類とそれぞれの彫りの特徴について、また事故防止のための留意点について整理する。	4時間
第10回	**材料・用具（２）紙版画**	版画の種類について、版のしくみや版の素材によるそれぞれの表現の特徴について整理する。	4時間

	ローラーやインク、練り板など版画の用具の扱いを学びます。ステンシルと紙版画をの版をつくり、２種類の刷り方を体験します。また、前回彫った版を刷り版木から紙にうつしとる木版画の摺り技法を学習します。		
第11回	**材料・用具（３）木版画（彫り）** 彫刻刀の種類や安全な扱い方を確認します。木版画で絵に表す活動の手順を確認し、前回の摺り結果を参考に、基本の３種類の彫刻刀で彫り始めます。基本の３種類に加え、切り出し刀の扱いを確認し、彫り進めます。	彫刻刀の種類とそれぞれの彫りの特徴について、また事故防止のための留意点について整理する。	4時間
第12回	**材料・用具（４）木版画（刷り）** 前回の摺り経験を参考に、用具の扱い方に慣れるようにします。摺られた版表現を鑑賞し特徴について交流します。各学年に応じた版に表す活動の可能性を考えます。	彫刻刀の種類と摺られた版表現の特徴について、また木目や彫る方向について整理する。版に表す活動における低・中・高学年の違いを意識した題材のあり方を考える。	4時間
第13回	**材料・用具（５）のこぎり・金づち・くぎ・きりなど、針金・ペンチ** 木材を加工する用具や針金などについて、安全な扱い方を学びます。木にくぎを打つ、木を鋸で切る、針金をペンチで切ったり曲げたりする活動を体験します。	各用具の用途、木目や切る方向などについて整理する。立体、工作に表す活動における低・中・高学年の違いを意識した題材のあり方を考える。	4時間
第14回	**造形的な視点** 作品の相互鑑賞を行い、自他の表現の造形的な面白さ、よさや美しさを味わいます。既修の知識を生かして、始めに取り上げた課題の解決策と新しい材料や機器の活用による可能性について考えます。	絵や立体に表す活動と造形遊びにおける指導目標や支援の違いを調べ、学年による内容の変化を理解する。　自分にとって魅力的な指導事例を探し、その理由について説明する。	4時間

431

授業科目名	**子どもとワークショップ**				
担当教員名	**安部永・辻大地**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	安部：国公立公と学校勤務4年（教諭４）その間に美術科の教育内容と指導法の実践をおこなった。（全14回） 辻：運営する造形教室において、幼稚園・保育園・認定こども園の園児を対象にした指導を20年以上おこなっている。（全14回）				

授業概要

土・紙・絵の具・身近な材料・映像などの様々な材料・場所・環境に関わって、実際に感じたり、考えたり、つくったりするワークショップ形式の演習を行い、つくり出す楽しみを体全体の感覚を通して体験することを目指す。その体験を通して発見したことや感じたことについて常に「子どもの視点」と「指導者の視点」から整理することで、子ども理解を深めるとともに、より子どもがつくり出す喜びを味わうことのできる授業やワークショップにつながる可能性を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	造形活動の楽しさと指導についての理解	多様な造形活動の経験を踏まえて、子どもと指導者の視点から指導について考えることができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		豊かに発想し、構想しながら創造的に取り組むことができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		目標に向かって主体的に、積極的に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	50 %	： 内容の独創性、造形性、計画性について独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	30 %	： 内容の妥当性、意見の論理性や独創性について、独自のルーブリックに基づき評価します
討議・活動への参加	10 %	： 論理的で積極的な発言・姿勢などを独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	10 %	： 内容の妥当性、論理性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日　12：30～13：10

場所： 非常勤講師控室

備考・注意事項： 辻は、木曜の３限、４限に図工室にて授業をおこなっている。質問などある場合は、授業の前後の時間に図工室にて受けつけている。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（目的の理解と評価基準及び学習プランに ついて）** 簡単な造形体験とともに、講義の目的・学習プランと演習の進め方・準備等について説明・確認する。併せて、目的達成のための受講姿勢について確認する。	ワークショップとはどのようなものかを調べ、自分なりのイメージを持っておく	4時間時間
第2回	**演習①：ワークショップ（高さ・バランス）** 「高さと安定」を意識して、アイデアを形にする造形ワークショップをとおして、既習の経験や知識を活用してつくる姿勢について考え、学びます。	自らの自然に関わる体験を振り返り、設定・感想・理由などを整理する	4時間時間
第3回	**ワークショップ検討（１）自然物から** 身近な自然材料によるワークショップの検討を通して材料の可能性を検討するとともに、場の設定や指導の留意点について学びます。	材料として扱えるものを考え、それぞれの特性を踏まえて整理する。	4時間時間
第4回	**演習②：ワークショップ（紙）** もっとも身近な素材である紙を使ったワークショップをとおして、その基本的な扱いや可能性、特性を生かす大切さを学びます。	紙に関わる自他の方法やアイデアを整理し、題材化を考える。	4時間時間
第5回	**ワークショップ検討（２）身近な材料から** 身の回りに目をむけ、手に入れやすい素材の収集法、活用の可能性について考え、情報の交流と整理をします。	身近な材料を具体的にあげ種類や特徴、収集法等で整理する。	4時間時間
第6回	**演習③：ワークショップ（絵の具）** 水彩絵の具の基本的な扱いに加えて、多様な活用法・表現技法等の魅力について体験を通して学びます。	絵の具のさまざまな技法について整理し、具体的な活用法を考える。	4時間時間
第7回	**ワークショップ検討（３）組み合わせて** 「組み合わせ」をキーワードに、材料・アイデア・作品など様々な組み合わせの可能性についてワークショップを通して検討する。	身の回りの作品や状況から魅力的な組合せを収集する。	4時間時間
第8回	**演習④：ワークショップ（写真・映像）** デジタルカメラ・スマートフォン等を用いて「みる・みつける」ワークショップを行い、写真・映像メディアを含むＩＣＴ機器の活用と可能性を作品の鑑賞交流を通して学びます。	新しい材料・機器が造形に関わる可能性について考えをまとめる。	4時間時間
第9回	**ワークショップ検討（４）みる・みせる** 「みる・みせる」をキーワードに、楽しくできる鑑賞ワークショップをミニ体験し、可能性と工夫について学びます。	生活に「鑑賞の能力」が活用される場面を具体例をあげてまとめる。	4時間時間
第10回	**演習⑤：共同ワークショップ（力を合わせて）** 共同で制作や作品を組み合わせるワークショップを通して、共同して考えたり、つくったりすることのよさや楽しさについて学びます。	個人制作と共同制作を比較し長所や短所を整理する。	4時間時間
第11回	**ワークショップ検討（５）みんなでつくろう** 共同制作のワークショップを考案・検討することを通して、留意点や課題について学びます。	課題をもとに共同制作のあり方について自分の考えをまとめる。	4時間時間
第12回	**演習⑥：ワークショップ（線とペン）** 線に関わるワークショップを経験し、線による表現と表現技法について考える。同時に、多様なペンの特性について学びます。	身近描画材料について特性を整理する。	4時間時間
第13回	**子どもの成長と表現**	幼児の絵の表現について調べ、整理する。	4時間時間

	子どもの成長とそれにもなう表現の方法の違いや変化を映像と体験を通して学びます。		
第14回	**演習⑦モダンテクニックの活用** モダンテクニックと総称される技法とそれを活用した造形表現の可能性について体験・交流し、授業での活用を考えます。	モダンテクニックについて調べ、活用法を含め整理しておく。	4時間時間

432

授業科目名	**学校・施設ボランティア**				
担当教員名	鈴木勇・保田直美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、「体験活動」や「実習」とはまた異なる視点から現場を知るために設定した科目である。事前指導として、学校および教育・保育施設でのボランティア活動に必要な知識やマナーを確認した上で、実際に現場に出向きボランティア活動に取り組む。活動期間中は、毎回活動日誌を記し、気づいた課題を整理する等の振り返りを行い、次回の活動の目標を明確にしていく。活動終了後は事後リポートの作成及び報告会を実施し、ボランティア活動の総括を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育・保育現場でのフィールドワークを通じ、他者としての子どもの尊厳を尊重し共感的に接する。	自身の活動を省察し、教育観または保育観を深めることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	観察力を身につけ、現状を的確に把握することができる。また、観察をもとにして課題を発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習先研究課題	10 %	： 提出遅れや内容が不十分の場合は減点する。
活動日誌	30 %	： 提出遅れや内容が不十分の場合は減点する。
成果発表	30 %	： 体験活動が真摯に総括され今後の課題が明確になっている（30点）、総括されてはいるが今後の課題が不明確である（20点）、総括が不十分で今後の課題も不明確である（10点）を目安に評価する。
期末レポート	30 %	： 自身の課題の明確化、課題の克服のための方法の把握、今後の学修に対する展望、の３つの基準を全て満たしている（30点）、２つ満たしている（20点）、１つ満たしてる（10点）を目安に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業で随時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 下記参照

場所： 下記参照

備考・注意事項： オフィスアワーについては、最初の授業でお知らせします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―ボランティア活動の意義** 本授業の目標・内容・評価等を確認するとともに、自らの学習課題を整理する。	授業で指示された課題に各自が取り組む。	4時間
第2回	**事前学習（1）学校・施設の概要を理解する** これから参入するフィールドの特性をよく理解する。	これまでの学びを基に、教育コミュニティの趣旨を詳しく調べる。	4時間
第3回	**事前学習（2）活動に必要な事柄を理解する** 活動に当たって求められる知識や態度等をよく理解する。	これまでの学びを基に、特別支援教育及び子育て支援について現状と課題を詳しく調べる。	4時間
第4回	**事前学習（3）学校・保育園などへの事前訪問** 実習施設を訪問し、実習のルールを確認し、準備を行う。	各活動場所での注意事項や事前説明を、活動日誌にまとめる。日誌にまとめた内容をもとに、各個人が次回の活動に備えて準備をする。	4時間
第5回	**ボランティア活動（1）学校・施設の組織を理解する** 学校園・施設の組織的機能についてよく理解する。 また第６回からの実際のボランティア活動に向けて、事前説明を受けたり、注意事項を確認し、理解する。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間
第6回	**ボランティア活動（2）子どもへの全般的なかかわり方を理解する** 各ボランティア活動場所の状況に応じて、活動を行う。その際、とくに子ども・参加者への全般的なかかわり方を理解する。学校園・施設の活動や実践の全体像を理解することにつとめ、子ども・参加者とのコミュニケーションを試みながら、その場の実践や取り組みを理解する。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第7回	**ボランティア活動（3）子どもへの適切なかかわり方を理解する** 各ボランティア活動場所の状況に応じて、活動を行う。教職員・スタッフの指示をあおぎながら、主に、子ども・参加者への適切なかかわり方を学ぶ。子ども・参加者への声掛けや、適切な距離感を実践しながら理解する。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間
第8回	**ボランティア活動（4）子ども・参加者への主体的なかかわり方を理解する** 各ボランティア活動場所の状況に応じて、活動を行う。その際、第６回、第７回の活動をもとにして、主に子ども・参加者への主体的な関りを意識し、その実践を体験を通して理解する。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間
第9回	**ボランティア活動：中間指導** これまでの４回の活動を振り返り、今後の課題を明確にする。 それぞれの学校園・施設の様子や各個人の活動の様子を報告し、共有することを通して、後半の活動の充実につなげる。	中間指導の結果や報告内容をまとめる。また後半のボランティア活動に向けて各個人の必要に応じて、目標の再設定を行う。	4時間
第10回	**ボランティア活動（5）学校園・施設のスタッフと協働して活動する** 主に、学校園・施設のスタッフと協働して取り組むことを目標に置いて活動する。 実際に教職員・スタッフの業務や取り組みを身近で体験しながら、実践の意味や取り組みの意図について学ぶ。積極的に指導をあおぎ、質問したりすることを通して、自身の課題発見につなげる。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間
第11回	**ボランティア活動（6）子ども理解にかんする様々な視点を得る** 主に、より主体的にかかわり子ども理解の様々な視点を得ることを目標に置いて活動する。 質問をするなど、スタッフや教職員との積極的なコミュニケーションをはかり、子ども理解に関する多様な視点を得る。	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間
第12回	**ボランティア活動（7）今後の課題や展望を見出す**	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を・振り返りを行う。また活動日誌を書くことを通して、今後の課題を明確にする。	4時間

	主に、今後の課題や展望を見出すことを目標に置いて活動する。 各学校園施設でのボランティア活動の最終日となるので、これまでの活動へのフィードバックをいただくとともに、スタッフへの感謝を十分に伝える。		
第13回	**事後学習（1）活動全体の振り返り** 本授業での全活動で得られた成果をレポートにまとめる	これまでの活動内容を真摯に振り返り、今後の課題を中心に総括する。	4時間
第14回	**事後学習（2）成果発表会** 成果発表を通じて学生間の交流を図ることによって、相乗的に各自の課題意識を高める	他の受講生の発表内容を参考にして、今後の課題をまとめる。	4時間

431

授業科目名	**学校教育論**				
担当教員名	**服部敬一・宮﨑大樹**				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	服部敬一　　小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年）、教育委員会指導主事（２年），小学校校長（７年）（７回）				

授業概要

学校を中心とした教育実践について、①ひろく歴史的・社会的・文化的な背景のもとに原理的に考察すること、②具体的な事例を科学的根拠を用いて考察することを目的とする。すなわち、学校教育を現場における実践的観点と学術界における理論的観点の両側面からとらえることがテーマとなる。教育学部１年生を対象とし、学校教育の全体像を理解してもらうために、現代の教育問題（担当：保田）及び公教育の意味やそこでの教師のあり方（担当：服部）について、導入的な授業を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教職における専門的知識の獲得	学校教育及び教職における最新課題に関する知識を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		教育事象の成り立ちを科学的根拠を用いながら理解することを通じて、教育現場における具体的な実践を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	40　％	：　各授業担当者（各20%）：主に「授業内容をふまえ、現代の教育課題について具体的なイメージを持てているか」「授業内容を理解し、自分の意見を持てているか」というという観点から評価。
期末テスト	60　％	：　各授業担当者（各30%）：講義内容を踏まえ、「現代の教育問題について実践と理論を結びつけて論じることができているか」「様々の教育課題をとらえる」を問うテスト（論述、穴埋め、記号選択）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書・参考資料等】

（保田）
相澤真一ほか『これからの教育社会学』（有斐閣，2023年，ISBN ISBN9784641200036）
中村高康ほか『現場で使える教育社会学』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092604）
酒井朗ほか『アクティベート教育学03 現代社会と教育』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092475）

（服部）
『文部科学法令要覧』文部科学法令研究会/ぎょうせい/平成30年度版
『児童福祉六法』　中央法規
『幼稚園教育要領』
『小学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領』
『高等学校学習指導要領』
『特別支援学校学習指導要領』
『保育所保育指針』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
藤田晃之編『最新教育データブック　123のデータだ読み解く教育』（時事通信社，2024年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー等

場所：　研究室

備考・注意事項：　（服部）毎週水曜日2限･昼休み（10：30-13：00）、中央館5階服部研究室。
（保田）オフィスアワーは初回授業でお知らせします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―教育と社会** 教育は社会との関係のなかにあること、教育現場における社会学的想像力の重要性について学びます。授業の前半ではオリエンテーションとして、これからの授業の進め方・評価方法などについて理解します。	講義内容を配布資料を用いて復習し、疑問点がないか確認しておく。	4時間
第2回	**現代の教育問題（1）学力と学校（担当：保田直美）** 出身階層が学力に影響すること、そしてそのメカニズムについて理解し、学校で何ができるかを考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、自分の考えをまとめておく。	4時間
第3回	**現代の教育問題（2）貧困と学校（担当：保田直美）** 子どもの貧困とその連鎖の実態を理解し、それを断ち切るための学校の取り組みやスクールソーシャルワークの存在について学びます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、自分の考えをまとめておく。	4時間
第4回	**現代の教育問題（3）ジェンダーと学校（担当：保田直美）** 学校教育に関わるジェンダー問題について学びます。教育の男女格差やジェンダー・トラック、性別役割分業の実際について学び、課題解決のために教員にできることを考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、自分の考えをまとめておく。	4時間
第5回	**現代の教育問題（4）エスニシティと学校（担当：保田直美）** ニューカマー外国人の子どもの教育問題について学び、より多文化に開かれた教育のあり方を探ります。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、自分の考えをまとめておく。	4時間
第6回	**現代の教育問題（5）　事故と学校（担当：保田直美）** 学校で起こる事故の実態と、その背景にある、教育という営みが本質的に抱える要因を学び、事故のリスクを下げる方途について考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、自分の考えをまとめておく。	4時間
第7回	**教育問題のとらえ方（担当：保田直美）** ここまで教育問題について見てきましたが、何が教育問題なのかは自明のことではありません。社会学における「問題」のとらえ方を学び、教育事象を多角的に実証的に考えるために必要な視点を身につけます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、疑問点がないか確認する。また7回の授業内容をまとめ定期テストに備える。	4時間
第8回	**学校とは何か（担当：服部敬一）** オリエンンテーション 学校教育法に基づく学校，保育所保育指針に基づく保育所，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく幼保連携型認定こども園について，その目的や特質，組織の特徴について法令を基に理解する。	講義の内容を配布資料を用いて復習した上で、法令に基づく学校についてノートに整理する。	4時間
第9回	**各学校の特色（担当：服部敬一）** 学校教育法に基づく学校，保育所，幼保連携型認定こども園等について様々な数値（データ）をもとに，現状，課題，変化等を捉え，法令と見比べながら学校種ごとの特色について理解する。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，学校種ごとの現状や課題をデータを基に整理してまとめる。	4時間
第10回	**学校の教職員（担当：服部敬一）** 学校教育法が定める「学校に置かなければならない教職員」と「学校に置くことができる教職員」について知ることによって，学校種ごとの特色や違いや学校間の接続について理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，各学校種ごとに置かなければならない教職員と置くことができる教職員の違いから各学校について理解する。	4時間
第11回	**学校教育と法令　（担当：服部敬一）**	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，学校に関わりのある法令について、その意味をノートに整理する。	4時間

	学校教育に関わりの深い法令（学校教育法，学校教育法施行令，学校教育法施行規則，学校保健法，学校図書館法等）から比較的身近なの条項を幾つか取り上げ，内容について知るとともに，その意味を理解する。		
第12回	**学校教育と学習指導要領等（担当：服部敬一）** 学校教育法施行規則をはじめ，学習指導要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容から，各学校等の教育、保育内容の特色を理解し，それらを通して，各学校の特色とともい，そのことを学習指導要領等で定められている意味を理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，学習指導要領等が示す内容から各学校等の教育，保育内容について整理し，その意味をまとめる。	4時間
第13回	**教員の服務（担当：服部敬一）** 地方公務員法，教育公務員特例法等の中から教員の服務について定めている幾つかの条項について，その内容，目的を理解することを通して，教員の身分，立場について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教員の服務から教員の身分について理解を深めノートにまとめる。	4時間
第14回	**教師の研修（担当：服部敬一）** 教育基本法が定める研修の義務を基に，教育公務員特例法から幾つかの条項を調べ，教員の研修の仕組みについて詳しく理解する。また，研究と修養の違い，修養の意味，資質向上について理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教師の指導力，資質の向上のための研修について更に理解を深めノートにまとめるまた，期末試験に備えこれまでの学修を整理する。	4時間

433

授業科目名	**教育工学入門**				
担当教員名	炭村紀子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ビジネス専門学校において、Office系ソフト・CGデザイン系アプリケーションの指導などコンピュータ専任教員として約５年間勤務経験有。その後、成人向けのパソコン講習を29年、全国の小中学校における、教職員や児童生徒に対してのeラーニングソフトの講習会を16年行っており、小中学生にプログラミング教室を8年行い、それぞれ継続中である。				

授業概要

本授業の目的は、コンピュータの知識だけでなく、子どもたちが自ら学び合うことを常に念頭におき、主体的で対話的な深い学びを活用した情報モラルや道徳教育での授業設計・技量を身に付けることができる学びを行う。教育工学の発展と現在の「教育の情報化」が教育にもたらす利点を学び、ICTとは何かを理解するため、コンピュータ基礎知識理解、プログラミング教育、ICT（Information and Communication Technology情報通信技術）機器の効果的活用授業の構築をするソフトウエア演習を行い、情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育工学に関する基礎理論	教育での様々なICT利用について特色を整理することができる。
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	変化の激しい情報社会に対応し、最新の情報機器やソフトを活用し、時代にあった指導方法を学ぶ。	情報社会の中で、日本だけでなく世界でのICTがどのように教育現場で活用されているかに関心を持ち。教育現場で最新の情報をキャッチでき指導に生かせるようになる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		ICTの機器やシステムを学習の場面で適切に利用し、教育課題を解決することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		ICTを活用した子どもたちが自ら問題発見し問題解決につながるための、教師としての導きを、考えた指導案を作成することができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		正常性バイアスに関して学び、間違った情報に惑わされず、真摯な目で物事を判断し子どもたちを導けるようにできる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

・その他(以下に概要を記述)

・課題（演習、調査、質問紙、レポート、ケースメソッドなど）
・振り返り（振り返りシート、ミニッツペーパーなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

・講義中または最後にレポートや課題をGoogleClassroomで提出していただきます。手直しもする必要も出てくる可能性があるため、自身でも提出前に自身のドライブなどにデーターは保存しておくようにしてください。レポートの内容や講義内容で気づいたこと等を控えておいてください。
・GoogleClassroomを活用し、資料提供や課題出題、課題提出、質問などを行う。グループワークではPadletを活用する。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、
シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の課題達成度	30 %	: 指定された授業回での予習レポート及び毎回の授業終了時に行う小レポートの内容（理解度・文章量など）をもとに評価する。
授業への参加度	30 %	: 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。講義内容以外のPC操作はマイナス評価とする。グループワークでは協調性をはかりながら意見をまとめる。
最終課題	40 %	: 最終課題としてパソコンを用いて制作し、授業で得た知識をを的確にとらえ、課題に沿った理解をまとめ、総括としてのレポートを提出する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
赤堀侃司	・教育工学への招待 改訂新版 教育の問題解決の方法論	・ジャムハウス	・2021 年

参考文献等

著書（編者） タイトル 出版社 出版年
稲垣忠等 教育の方法と技術 北大路書房 2019
赤堀侃司 プログラミング教育の考え方とすぐに使える教材集 ジャムハウス 2018
高橋 純・寺嶋浩介 初等中等教育におけるICT活用 ミネルヴァ書房 2018
水越敏行･吉崎静雄等 授業研究と教育工学 ミネルヴァ書房 2012
藤村裕一 授業改善のための学習指導案 ジャムハウス 2016
リンダ・リウカス作 鳥井雪訳 ルビィのぼうけん 株式会社翔泳社 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

授業内で課題に取り組み完結できるよう、時間内で考えをしっかり文章にまとめられるようにしておくこと。振り返りや毎講義の内容が後の講義内容にもか関わるため、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
使用教科書の「教育工学への招待」に準拠した内容で授業を進め、課題を出す予定である。よって教科書を取得しておかれると良い。
GIGAスクールが開始された昨今、情報に関しては教育の流れの変化が激しい時代であり、また、各学生の個々の理解度やパソコンスキルの違いもあるため、シラバスの内容も必要に応じて最新の状況を踏まえ変更になる可能性がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： ※授業後やメールにて対応いたします。sumimura-n@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、教育工学について** ・授業の目標、学習内容、評価、話し合いの仕方について説明します。 （感染予防対策が必要と思われる際は、話し合いの場を減らすこともあります。） ・ペアで自己紹介をしていただくため、自己紹介文を作成していただきます。 ・グーグルクラスルームの活用方法 ・教育工学とは ・「今のICT教育が現場でどのように行われているかを、教育実習の経験などを書き出していただき、またこれからの子どもたちに育みたい資質と能力」を話し合ってもらいます。	キーワード：オリエンテーション・自己紹介・教育工学	2時間
第2回	**教育工学とは** ・前回のふりかえり ・教育工学研究（プレゼンテーションの向上） ・教育工学の背景と特徴 ・本日のレポート課題(ICTを活用した教育上の課題など) ・校務支援（学校現場での校務事例） ・本日の実技課題（Excel成績表）	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：教育工学とは、プレゼンテーション、Excel・校務支援・テキストマイニング、PowerPoint	2時間
第3回	**認知主義の学習と考え方** ・前回のふりかえり（Excel演習） ・テキストマイニングの活用（前回のレポート内容を活用して） ・教育工学の思考 ・プレゼンテーションの向上。記憶に残るデザインとは（配色やカラーの意味） ・Canvaを使ったプレゼンテーションの作成 ・本日の課題 認知主義の学習の考え方について学びます。「主体的・対話的で深い学びに向けて、学びの質を高めるためにはどうすればいいのか」を自身の意見を書きだした後、話し合ってもらいます。 ・ISD研究・CAI研究	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：テキストマイニング、記憶に残るデザイン、主体的・対話的で深い学び、ISD研究。CAI研究	2時間

第4回	**情報教育の内容と方法** ・前回の振り返り（テキストマイニング） ・プレゼンテーションの手法、Canvaの作成続き、配色やカラーの基本と基礎 ・本日の課題 ・ICTの活用と教科としての情報 ・本日のレポート「行程の図式化」 行程や行動を図式化することで、多角的な思考と整理でき、相手への伝わり方も違うことを知る。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：教育システムデザイン、プレゼンテーションの手法、図式化	2時間
第5回	**状況論的学習、コンピュータによる学習支援** ・前回のふりかえり「行程の図式化」 ・行動主義による学習 ・状況論的学習、認知主義的学習 （インターネットにより得られる情報） ・コンピュータによる学習支援 ・文部科学省CBTシステム「MEXCBT-メクビット-」 ・新学習指導要領の考え方「生きる力」の育成 ・ICTに関わることとは ICT機器などを活用した学習環境が変化する中、学習する子どもたちの視線になり、 育成すべき資質・能力を整理する。 ・本日の課題	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：学習環境、プロジェクタ、タブレット、机の配置、世界の学校現場でのICT、eラーニングソフト、ドリル、メクビット、CBT	2時間
第6回	**Eラーニングソフト活用①、認知主義による学習** ・前回のふりかえり（MEXCBT） ・世界の教育現場とICT ・本日の課題①「子どもたちの学ぶ意欲を高める、学習環境にはどんな要素やデザインについてあなたの先生としての魅力」 ・認知主義による学習 ・子どもたちへ予防教育 ・eラーニング（ドリル学習実習①） 授業の魅力・効果・効率を高めるICT ICTの特徴を理解し、学びのスタイルに応じた適切な活用をすることでその良さをさらに引き出すことができる、eラーニングによる学習支援とはどのようなものかを体験し、実際に子どもたちに、どのようにICTを用いた学習を行えばいいのか、または課題があるかを考える。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：CMI研究、世界のICT教育、eラーニング、ドリル	2時間
第7回	**Eラーニングソフト活用②、CAI・CMI研究** ・前回のふりかえり ・eラーニング（ドリル学習実習②） ・本日の課題　デジタルドリルソフト活用に対して、特別支援学級に対してのコンピューター活用に関して ・CAI・CMI研究 ・OECD世界における日本の生徒の学習到達度調査から ・未来の学校のイメージ ・進歩主義と実在主義	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：CAI研究、CMI研究、OECD、PISA	2時間
第8回	**新学習指導要領と「生きる力」を育む情報教育ICT教育の事例紹介と教材作成** ・前回のふりかえり ・AR（拡張現実）とVR（仮想現実） ・新学習指導要領と「生きる力」 ・正常性バイアスとは ・正しい情報を見抜く力 ・大川小学校の悲劇から学ぶ ・本日の課題　大川小学校の事例から ・「活動のねらい」と「ゴール」を明確にした指導案作成上の留意点 ネット社会の中で確かな情報を掴むみ正しい判断ができる。新学習指導要領の中で「生きる力」を身に付けるための子どもたちが自ら問題発見→問題解決ができる学びとは、指導案を基に考えていきます。 ・幼稚園でのICT教育事例 ・ICTを用いた教材作成（フラッシュカードソフトの実習と作成） ・学習者間評価 ・予防教育科学とは 教材作成の実習を通じて、アプリケーションソフトのスキルアップ図る。児童生徒などに見せる教材作成とは。他者の成果物から比較し、客観的に自身の作品と比較しパソコン技術力を高める。 幼児期や初等教育における、ICTを活用した予防教育科学の紹介	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：AR、VR、新学習指導要領、生きる力、大川小学校の悲劇、正常性バイアス	2時間
第9回	**コンピュータの基礎知識と情報モラル、Society5.0と学校Ver.3.0** ・前回のふりかえり ・フラッシュカードの作成 ・Society5.0と学校Ver.3.0 ・ICTプロフィシエンシー検定試験・情報モラル試験の実施 コンピュータの情報モラル基礎知識の把握。教育の現場ではパソコンで校務を効率よく行うことが求められる。よって自身の知識を把握するためにICTプロフィシエンシー検定試験の情報モラル試験を行う。情報モラルに対しての理解不足を今後補い、教育現場で子どもたちに指導する立場としての知識を養う。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：ICTプロフィシエンシー検定試験、情報モラル、Society5.0、学校Ver.3.0	2時間
第10回	**CBT試験**	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：フラッシュカード、特別支援学級におけるICT活用、ICTの基礎知識、P検	2時間

	・前回のふりかえり　フラッシュカード ・作品評価 ・ICTプロフィシエンシー検定試験（P検）模擬試験　5級・4級（コンピューターの基礎知識） ・支援学級でのICT教育の取り組み紹介 コンピュータ活用に関する基礎知識の確認と理解度の確認。教育の現場では小学校以上ではタブレット型パソコンを使った授業が一般的になっている。 指導者として円滑に授業を進めるためのICT活用や、パソコン活用に際して簡単なトラブル対応や子どもたちへの操作の指導など基礎的な知識の必要性を改めて考える。		
第11回	**プログラミング実習①基礎** ・前回のふりかえり　CBT試験を受けてみて ・情報モラルと情報リテラシー ・プログラミングソフト紹介と実習（グリコード・コードモンキー、学校図書のプログラミングなど） ・OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果概要 世界の中での日本の子どもたちの学習到達度理解 子どもたちが授業で取組む姿をイメージしながら、それぞれのプログラミングソフトを実際に体験する。WEBで学習できるプログラミングソフトを通じてプログラミングの基礎を学ぶことが出来、プログラミングを身近に感じて学ぶことが出来ることを知る。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：情報モラルと情報リテラシー、プログラミングソフト、プログラミング的思考	2時間
第12回	**プログラミング実習②応用と創造** ・前回のふりかえり ・事例紹介 ・アンプラグドプログラミングとは ・論理的な思考 ・プログラミングソフト紹介と実習（CODE studio、スクラッチプログラミングなど） プログラミングを学校で学ぶことの意義としては、プログラマーになることを目指しているわけではない。アンプラグドプログラミングとは、パソコンやタブレット端末といった電子機器を使用することなく、プログラミング的な思考を学ぶ学習方法であることを知る。　カードやパズルなどを用いることで、コンピュータが動作する仕組みや、プログラミング的な問題解決の手順（アルゴリズム）を学習する。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：アンプラグドプログラミング、論理的思考、スクラッチプログラミング	2時間
第13回	**実践授業と道徳情報教育** ・前回のふりかえり ・今までの授業指導案の内容を深める取組み。 ・模擬授業実践 ・実践の模擬授業を通して、NHK for Schoolの題材を活用し、自身の考えと他の人との考えを整理して深めていく。 ・個々の考えを導くための質問の大切さを知る ・ICTを活用して意見交換の場（Padletソフトの活用） 子どもたちが情報社会の中で、健全な心を育み、安全で安心な社会を生きるために、子どもたちを取り巻く情報ネットワークを使う上で、「友情」をキーワードに、ピンチに遭遇した時にどのように対処していくかを学ぶ。指導案の準備をしてください。	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。：NHK for School、ココロ部、指導案	2時間
第14回	**主体的・対話的で深い学びの視点** ・前回のふりかえり ・指導案をより深めるために（指導案の準備） ・授業におけるICT活用の特徴 ・授業における問題発見・問題解決・ゴール設定 ・授業設計 ・ICT活用支援員とは ・学校におけるICT支援員との関り ・時代の流れが激しい世の中で、変化と共に教育でのICT活用の促進と、ICT機器やソフトの変化を受け止め、ICT支援員と共に授業観と教育観をもった授業デザインができる。 ・諸外国のICT教育事例 ・STEM教育とは　STEAM教育 ・持続可能な開発目標　SDGs 海外や日本でもSDGSを取り入れたSTEAM教育の事例から、日本のICT教育が世界の中ではどのような状態なのかを知る。今後持続可能な世界での開発目標（SDGｓ）の取り組みを知り、ICTを活用した教育でどのようなことが出来るかを創造する。 ・世界で起こっている情報を知る	キーワードを検索し予習・復習を行ってください。キーワード：SEAM教育、STEAM教育、SDGｓ、諸外国でのICT教育、APF通信、ICT支援員、指導案	2時間

434

授業科目名	**子どもと英語**				
担当教員名	小川一美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	奈良市内にある小学校（高学年）において外国語活動の指導経験あり。（月2回程度×1年間） 大阪府内にある小学校（中学年）において外国語活動の指導経験あり。（月2回程度×半年間） 京都市内にある小学校（低学年）において外国語活動の指導経験あり。（3学期の内、2回）				

授業概要

本講義を通して、現在小学5年生から扱われている「外国語活動」や小学3年生から触れている「外国語活動」が導入された背景をおさえ、目標や言語習得理論、および児童の発達段階に応じた指導方法について深く理解する。併せて、児童を正しく評価し、授業改善にもつながる教育上のPDCAサイクルを学ぶ。実技に必要な知識を理解する以外に、実践のために必要な英語に関する基礎的な内容を学び、理論で学んだ内容を実践（模擬授業）する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）の目標などを深く理解するとともに、その目標を達成させるべく必要な理論（第二言語習得や発達段階）や英語に関する知識を身に付ける。	

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	副教材や教科書を見ながら、目標を達成できるような計画を立て、それを実行に移す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	28 %	： 毎回の講義において積極的に参加しているかどうかを評価する。
授業外の学修課題	14 %	： 毎回課す授業外の課題に真摯に取り組み、提出をしているかを評価する。
模擬授業	24 %	： 講義で得た知識や視点をもとに、子どもたちに英語を教えるに相応しい指導が身に付いているかを評価する。
最終レポート	20 %	： 小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）の目標を達成できるような計画を立案し、実行可能な内容であるかを評価する。

小テスト	:	実践をするにあたり必要とされる知識を理解し、身に付けているかを評価する。（数回程度実施予定）

14　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
樋口忠彦・加賀田哲也・泉惠美子・衣笠知子（編著）	・ 最新 小学校英語教育法入門	・ 研究社	・ 2023　年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（外国語活動編・外国語編）』開隆堂出版、2018年　ISBN:978-4304051685

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　原則、開講コマ前後の休憩時間

場所：　講義教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび自身の外国語活動の経験の振り返り** オリエンテーションにおいて本講義の目標や今後の授業計画、ならびに成績評価の方法についての説明を行う。また、本講義が初回であることや本講義の内容に対する親しみやすさや次回講義内容につながるよう、自身がどのような外国語活動を経験してきたのか振り返ってもらう。さらに現行の外国語活動に関する情報に触れることで、自身が経験してきたこととは明確に違うものであることを実感する。	外国語活動や外国語を担当する際に必要とされる能力や資質のうち、理論について学ぶ。第1回の講義内で話しがあった実体験について紙面でまとめるとともに、実体験の教育的な効果について分析を行う。また、次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間
第2回	**小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）の理解および教員の資質について** 全面実施となった現行の小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）を通して目標や内容や評価、それぞれの役割や方向性について深く理解をするとともに、それらの目標を達成するためには、指導する教員にどのような資質や能力が求められるかについて考える。	授業内で学んだ内容と自身が経験してきた外国語活動についての違いを考え、自分が指導する立場になった際に必要とされる資質や能力についてまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間
第3回	**新学習指導要領について（２）言語活動および単元計画を含めたカリキュラム・マネジメント（4章，5章）** 外国語活動・外国語科における言語活動が何であるかを理解し、どのような言語活動をどの段階で導入するべきかについて、単元計画と併せて考える。その考えを基盤に巨視的かつスパイラルにカリキュラムを捉える／考える視点を持つ。	言語活動のみならず、外国語活動や外国語はスパイラルに計画する必要性について自分のことばでまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。える必要性について	4時間
第4回	**新学習指導要領について（３）評価および小学校英語の役割（11章，14章）** 外国語活動は領域として、外国語科は教科として扱われているため、評価方法がそれぞれ異なる。殊、外国語科については数値評価も入ってくる。子どもの興味・関心が続く評価になるために、また、教員自身が掲げた目標を達成するような授業を行っているか確認できる評価になるためにはどのような観点が必要かについて考える。	学習指導要領の目標を念頭に、評価の本質や評価方法について考察し、評価をする際の留意点について考えてみる。また、次回の授業に向けて丁寧に予習しておく。	4時間
第5回	**言語（母語・第二言語）習得について（2章）** 子どもの発達と言語の発達について理解をするとともに、自身の記憶や経験を振り返りながら言語習得や第二言語習得理論について考える。	子どもの発達段階や言語の発達に関する知識をもとに、小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）の目標を比較した場合、重視すべき課題は何であるかをまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間
第6回	**子どもの発達および小学校で用いられる外国語指導法について（１）４技能の指導（6章，9章）** 小学校の現場で重用されている指導法を取り上げる。それぞれの指導法が生まれた背景も併せて知ることで、指導法の主旨を理解する。同時に、それぞれの指導法のメリットおよび不十分である点を知ることで、子どもたちの発達に応じた指導法を考える。	発達心理学の基礎的な知識を用いながら、子どもの発達段階に応じた指導法に関する内容をまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間
第7回	**子どもの発達および小学校で用いられる外国語指導法について（２）絵本・歌・チャンツ・視聴覚教材の活用（7章，8章，10章）ー前半**	発表者以外の人は発表内容を自分なりにまとめ、発表者は担当するにあたり調べた知見をまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間

	小学校の現場では絵本やチャンツなどを用いて、外国語を指導することがある。それぞれにはメリットがあるので、受講者が「絵本」「歌・チャンツ」「視聴覚教材」のメリットと使用する際の留意点について発表する。		
第8回	**子どもの発達および小学校で用いられる外国語指導法について（３）絵本・歌・チャンツ・視聴覚教材の活用（7章，8章，10章）ー後半** 小学校の現場では絵本やチャンツなどを用いて、外国語を指導することがある。それぞれにはメリットがあるので、受講者が「絵本」「歌・チャンツ」「視聴覚教材」のメリットと使用する際の留意点について発表する。	発表者以外の人は発表内容を自分なりにまとめ、発表者は担当するにあたり調べた知見をまとめる。次回の授業に向けて丁寧に予習をしておく。	4時間
第9回	**教科書・教材研究および国語教育との連携について（12章）** 2022年度に検定済み教科書として販売されたそれぞれの教科書の特徴を知り、それらの教科書の基盤となった教材We Can!1をもとに、外国語活動・外国語科の教材研究ではどのように行うのかを知る。また、教材研究を通して「英語」という言語に向き合い、国語（日本語）との違いを改めて知り、子どもたち「ことば」への興味・関心を引き付けるために国語とどのような連携が可能なのか考える。	授業内で学んだ教材研究をWe Can!2で実際に自分で取り組んでみる。	4時間
第10回	**ビデオ視聴,ALT等とのティーム・ティーチング（13章）** これまでの知識をもとに外国語活動および外国語科の様子が分かるビデオ視聴を通して、実際に外国語を教えることがどういうことなのか、どういうふうに授業を進めるのか、これまでの授業で得てきた知識とも実践へ具体的なイメージを持つ。また、指導形態（ＴＴ）によって言語活動に広がりが生まれることを知る。	ALTと授業を教えるにはどのような点に留意すべきか、最大限生かせる活動について自分で考えまとめる。また、次回の授業のための準備をする。	4時間
第11回	**学習指導案の作成および模擬授業の実施方法の説明（13章）** 現在の検定済み教科書のもととなったWe Can!を用いながら、実際に学習指導案の作成方法を学ぶ。同時に、13回目から取り組まれる模擬授業に関する説明を行う。	学習指導案が何のためにあるのかを考えるとともに、「本時の展開を含まない」学習指導案の部分を考える。模擬授業のための準備に備える。	4時間
第12回	**模擬授業のための準備** 模擬授業を行うためにグループで準備を行う。	全グループが第13回に当たることを前提に模擬授業の準備を行う。	4時間
第13回	**模擬授業および振り返り（１）前半グループ** グループ単位で模擬授業を行ってもらう。その後、小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）を用いながら、発表してもらった模擬授業の内容を振り返る。	講義内で披露された模擬授業について受講者全員が振り返りを行う。次回に発表する人は発表の準備を行う。	4時間
第14回	**模擬授業および総括（２）後半グループ** グループ単位で模擬授業を行ってもらう。その後、小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）を用いながら、発表してもらった模擬授業の内容を振り返る。	講義内で披露された模擬授業について受講者全員が振り返りを行う。次回に発表する人は発表の準備を行う。また本講義の最終レポートの準備に取り組んでもらう。	4時間

433

授業科目名	海外教育演習				
担当教員名	橋本隆公・稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

オーストラリア（ケアンズ市）の幼児教育施設・小学校・中学校・高等学校の視察および現地の教員や児童との交流を通して、現在のオーストラリアにおける学校教育の実情を知り、それらの国の学校教育を比較することを通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。本演習は、大学での事前指導、オーストラリア（ケアンズ市）での幼児教育施設・小学校・中学校・高等学校での実地演習、大学での事後指導で構成されている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	オーストラリア（ケアンズ市）の幼児教育施設・小学校・中学校・高等学校の視察	各国の学校教育を比較することを通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、課題意識を幅広く高めていく。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていくことができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各国の子どもの教育に物怖じすることなく、かかわっていく力を身につけることができる。

学外連携学修

有り(連携先：Peace Lutheran Coleege、Bentley Park Collegeなど)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
取り組み状況	30 %	： 実地演習中の複数の施設訪問プログラムへの参加状況を評価する。
成果発表内容	30 %	： 事後学習における実地演習を通した学びをまとめた自作のPowerPoint資料、及び、発表内容
期末課題レポート	40 %	： 実地演習を通して得た知識をまとめたレポート

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日・金曜日の昼休み

場所： 橋本：中央館2階

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　渡航に関するガイダンス、および、全体スケジュールの共通理解** 大学にて、次の3つのガイダンスを行う。第1部は、教員による授業の目的・概要・スケジュールの説明とする。第2部は、旅行担当者からの渡航に関する説明とする。第3部は、教員と旅行担当者からオーストラリアの概要を紹介する。	文献研究レポート	4時間
第2回	**事前学習（1）　オーストラリアの歴史・文化・風土（※日本との交流史を含む）** 大学で、オーストラリアの歴史・文化・風土（※日本との交流史を含む）を知り、日本と比較することで、オーストラリアの課題を発見する。	課題発見レポート	4時間
第3回	**事前学習（2）　オーストラリアの教育事情（現地にて子どもと交流する活動の準備）** 大学で、オーストラリアの教育事情を知り、日本と比較することで、オーストラリアの子どもたちとの交流活動の準備に取り組む。	実地演習先についてのレポート	4時間
第4回	**事前学習（3）　教育課題（現地にて教員と交流する企画の準備）** 大学で、教育課題について、実地演習を通して解決できる要素を整理し、現地にて教員と交流する企画の準備に取り組む。	実地演習先での活動計画と質問の立案	4時間
第5回	**実地演習（1）　オーストラリア　実地演習オリエンテーション** 現地滞在中に関するオリエンテーションを行う。	訪問施設①の午前の活動のレポート	4時間
第6回	**実地演習（2）　オーストラリア　幼児教育施設（保育環境の視察）** 幼児教育に関する現地視察を行う。	訪問施設①の午後の活動のレポート	4時間
第7回	**実地演習（3）　オーストラリア　幼児教育施設（子どもとの交流）** 幼児教育に関する施設で、子どもと交流活動を行う。	訪問施設②の午前の活動のレポート	4時間
第8回	**実地演習（4）　オーストラリア　幼児教育施設（教員との情報交換）** 幼児教育に関する現地視察を振り返る。	訪問施設②の午後の活動のレポート	4時間
第9回	**実地演習（5）　オーストラリア　初等教育・中等教育施設（教育環境の視察）** 初等教育・中等教育に関する現地視察を行う。	訪問施設③の午前の活動のレポート	4時間
第10回	**実地演習（6）　オーストラリア　初等教育・中等教育施設（教員との情報交換）** 初等教育・中等教育に関する施設で、教員と交流企画（ディスカッション）を行う。	訪問施設③の午後の活動のレポート	4時間
第11回	**実地演習（7）　オーストラリア　歴史・文化・風土に関する視察見学** 現地で歴史・文化・風土などについて実感を伴いながら理解する。	見学施設に関するふり返り	4時間
第12回	**実地演習（8）　オーストラリア　振り返り** 現地で実地演習全体を振り返る。	実地演習全体についてのふり返り	4時間
第13回	**実地演習の振り返り・考察** 大学で、実地演習を振り返り、課題について考察する。	発表用レジュメの作成	4時間
第14回	**まとめ　オーストラリアの教育事情と実地演習の往還を図る** 大学で、レポートを活用したポスターセッション形式の相互評価を通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。	オーストラリアの教育事情と実地演習の振り返り	4時間

433

授業科目名	教育実習事前事後指導（初等）（小学校）				
担当教員名	加藤博之・須谷弥生・宮﨑大樹				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（8年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回） 宮崎：伊丹市立小学校教諭（9年）、アムステルダム日本人学校教諭（3年）、伊丹市教育委員会事務局（2年）の勤務経験（全14回） 験				

授業概要

教育実習に必要な基本的事項や教育実習参加についての参加要件（参加資格審査要件を満たしているかの確認）や事務手続き（実習参加カード）、心構えなどについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にする。そして、教育実習が効果的に行われるようにする。
教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価させ、教育実習参加体験の交流や発表会などを行い、実習体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	実際の小学校で今までの学修内容や教育の理論を確認し、自らのものとする。	小学校現場での実習を通して今までの授業内容を実際に使用する。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教育実習に向けた心構えを持つとともに、自身の目標課題を明確にする。実習後は、実習への取り組みと成果、課題を明らかにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の振り返り課題、活動への参加	18 %	： 教育実習への参加について、事前事務手続きを確実に行うこと。また、教育実習参加の心構えをきちんと持ち、各教科学習や講義内容の再確認などを適切に行えるかをみる。授業中の課題への取組みを含む。
実習日誌	25 %	： 本講義で指示された記述方法や教育実習参加校での指導、巡回担当指導教員の指示どうり教育実習日誌が記述されているか。また、自分なりの課題や疑問を持って記述されているかどうかなど。
実習報告会での発表	25 %	： 教育実習を経験して得られた知見を基にして、教師を志望するために必要な専門性、人としての豊かさ等といった資質能力を改めて振り返り、現代の教育課題への自分なりの取り組みを考えているかを問う。
実習校からの評価	10 %	： 実習校からの評価票をもとに評価する。
期末レポート	22 %	： 教育実習を経験して得られた知見を基にして、教師を志望するために必要な専門性、人としての豊かさ等といった資質能力を改めて振り返り、現代の教育課題への自分なりの取り組みを考えているかを問う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

原清治ほか監修『新しい教職教育講座　教職教育編⑬　教育実習・学校体験活動』ミネルヴァ書房、2018年。（ISBN：978-4-623-08196-7）
渡辺貴裕『授業づくりの考え方―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ』くろしお出版、2019年。（ISBN：978-4-87424-782-2）
その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、実習時期もばらばらであるので通年を通じた断続的な講義内容となるが、毎回必ず参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所：　加藤：研究室（5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育実習の意義・目的）** 大学で学修した理論と教育実践とを結ぶ機会が教育実習であることを確認します。	教育実習に対する心構えを確かなものにするための考えを持つ。	1時間
第2回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構え）** 教育実習の参加の手続きと心構えについて学びます。また、実習参加時までの成績表を基に、実習参加の可否を判断します。	実習の心構えについて整理する。	1時間
第3回	**学校というところ（1）（学校の1日・1年、教員の職務）** 学校の1日、1年の流れ、教員の職務についての理解を深めます。	実習でお世話になる各学校の年間計画を調査する。	1時間
第4回	**教育実習参加体験談を聴く** 教育実習の参加体験談を聴くことで、自らの実習の展望を持つと共に、実習に向けた目標課題設定をします。	教員の服務についてまとめる。	1時間
第5回	**教育実習の内容（教育課程、学級経営、学習指導、生活指導など）** 児童の教育をつかさどることを具体的に考えます。	不安が残る項目について自主的に学びを深める。	1時間
第6回	**指導案の書き方（教材研究、授業、発問、板書）** 指導案作成の要点を再確認します。	指導法の授業と関連づけながら、指導案作成の要点を整理する。	1時間
第7回	**実習記録の書き方①（児童の観察、授業観察）** 実習日誌の書き方について、具体項目に沿って学修し、そのポイントを学びます。	実習記録の書き方を整理する。	1時間
第8回	**実習記録の書き方②（研究授業）** 実習日誌の書き方について、具体項目に沿って学修し、そのポイントを学びます。	実習記録の書き方を整理する。	1時間
第9回	**学校現場の声を聴く（現職教員またはそれに代わる教員の講話）、夏季直前指導** 各実習指導教員から個別注意事項などの指導を受けます。	体験談（もしくはそれに替わる話）を基に、自分の今持っている力これから補わねばならない力を整理する。	1時間
第10回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価** 実習日誌（記録）を整理し、実習について省察します。	実習日誌を整理する。	1時間
第11回	**教育実習報告会に向けた準備** 実習日誌をもとに実習について省察し、学んだ内容を整理します。	教育実習報告会に向けてプレゼンテーションを作成する。	1時間
第12回	**教育実習報告会（1）グループ①** 教育実習報告会と教員によるフィードバックを行います。	教育実習報告会に向けてプレゼンテーションを作成する。報告会後は、教員からのフィードバックを踏まえて振り返りを行う。	1時間
第13回	**教育実習報告会（2）グループ②** 教育実習報告会と教員によるフィードバックを行います。	教育実習報告会に向けてプレゼンテーションを作成する。報告会後は、教員からのフィードバックを踏まえて振り返りを行う。	1時間
第14回	**実習の評価と総括** 教育実習、実習日誌（記録）、実習報告会について振り返り、自己評価を行います。	教育実習で学んだことをレポートにまとめる。	1時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅰ（初等）（小学校）**				
担当教員名	加藤博之・須谷弥生				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全1回） 宮崎：伊丹市立小学校教諭（9年）、アムステルダム日本人学校教諭（3年）、伊丹市教育委員会事務局（2年）の勤務経験（全1回）				

授業概要

本授業では下記の3点をねらいとします。①小学生の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ、教職についての理解を深めます。②教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子などを通して教育実践力を持てるようになります。③児童理解をはじめとする児童への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとします。これらの目的のために2週間（80時間）実習に参加し、子どもへの接し方、授業力や教職の専門性を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	観察・参加実習	子どもとの関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	指導教員等の実施する教育を、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習校からの成績	80 %	： 実習中の授業や実習記録や言動及び協調性等の実習態度、子どもとの関わり方について評価する。
提出物	20 %	： 実習事前指導及び事後指導時に、実習校への提出物や実習記録等から実習への取り組みについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（総則）』2017年、東洋館出版社、4491034613

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、日々の実習終了後における実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所： 加藤：研究室（5階）

備考・注意事項： 実習校別指導教員もしくは教育実習事前事後指導担当者へ相談してください。
実習校別指導教員については教育実習事前事後指導の授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**観察・参加実習** ・授業を通して授業に対する知見を深める。 ・子どもに接し、共に活動することにより、子ども理解を深める。 ・学校現場を具体的に観察し、教員としての職務について理解する。	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	20時間
第2回			時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅱ（初等）（小学校）**				
担当教員名	加藤博之・須谷弥生				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全1回） 宮崎：伊丹市立小学校教諭（9年）、アムステルダム日本人学校教諭（3年）、伊丹市教育委員会事務局（2年）の勤務経験（全1回）				

授業概要

本授業では下記の3点をねらいとします。①教育実習Ⅰでの学びを活かし、自ら問題意識をもちながら子どもとのかかわりを深める。②各教科の研究授業など、確かな教材研究と指導技術に基づきながら授業づくりおよび学習指導案の作成を行い、教育実践力を形成する。③学級経営の知識を踏まえたうえで学級の実態や目標に基づきながら子どもに指導することができる。これらの目的のために2週間（80時間）実習に参加し、子どもへの接し方、授業力や教職の専門性を深化させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	観察・参加実習	子どもとの関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	指導教員等の実施する教育を、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習校からの成績	80 %	： 実習中の授業や実習記録や言動及び協調性等の実習態度、子どもとの関わり方について評価する。
提出物	20 %	： 実習事前指導及び事後指導時に、実習校への提出物や実習記録等から実習への取り組みについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（総則）』2017年、東洋館出版社、4491034613

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、日々の実習終了後における実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所： 加藤：研究室（5階）

備考・注意事項： 実習校別指導教員もしくは教育実習事前事後指導担当者へ相談してください。
実習校別指導教員については教育実習事前事後指導の授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**観察・参加実習** ・研究授業、指導案の作成を通して授業に対する知見を深める。 ・教員として子どもに関わりながらも適切に指導をすることによって、生徒指導への理解を深める。 ・学校現場の職務に参加し、教員としての職務を体験する。	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	20時間
第2回			時間

433

授業科目名	教育実習事前事後指導（初等）（幼稚園）				
担当教員名	山内淳子・片岡章彦・岡林典子・保田直美・園田育代				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山内：私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回） 園田：私立、公立幼稚園にて教諭、主幹教諭として20年間勤務（全14回） 片岡：私立幼稚園にて教諭、主任として21年間勤務（全14回）				

授業概要

教育実習（幼稚園）に必要な基本的事項と心構えについて確認し、教育実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われるようにする。実習はそれまでに学んだ授業を統合させるものであることから、すでに学んだことがらを十分に活かして実習準備に取り組むことが必要である。教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習園への対応などを含め自己評価をするとともに、教育実習参加体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保育者の専門知識と技能および職業理解	教職および教育課題についての知識をもち、保育教材の研究を行い保育技術の基本を身につける。
2. DP２.教育実践の省察・研究	保育技術と実践	保育技術の基礎を体得した上で、自らの実践を省察しつつ保育を計画する力を身に付ける

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	自らの実践を省察し、課題を見つけることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	保育を計画し、実践に繋げることができる。
3. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	保育技術の基礎を身につけ実践することが出来る。
4. DP７.忠恕の心	実習に向けての事務的な諸手続を完遂することができる。
5. DP７.忠恕の心	保育者の協働、実習生同士の協働について理解し、連帯行動をとることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内活動への積極的参加	20 %	： グループワークや模擬保育等、授業内活動への参加状況を評価します。積極的参加、他者への配慮、表現方法の工夫等を高く評価します。
毎回の小レポート	30 %	： 授業での学びを振り返り、丁寧に記述されているものを高く評価します。

実習後レポート	:	実習での学びを振り返り、自己の課題や次の学修目標等を明確にできているものを高く評価します。
40 %		
諸手続きの遂行	:	個人調査票の提出などの諸手続きが期限を遵守し滞りなく行われている場合、高く評価します。
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省　内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

長島和代（編）『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』　わかば社　2014
ISBN-13 978-4907270353

長島和代（編）『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育のマナーと言葉』　わかば社　2013
ISBN-13 978-4907270353

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業の際にお伝えします

場所：　初回授業の際にお伝えします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（幼稚園教育実習の概要）** 授業の目標、内容、評価方法などについて理解する。 幼稚園教育実習の概要、実習に向けての諸手続きについて知る。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	1時間
第2回	**教育実習参加資格等について** 履修登録認定、実習参加認定について知る。 幼稚園教育実習に向けて準備すべきことを知り、実習開始までのスケジュールをたてる。	成績表をもとに実習参加資格を確認する。実習開始までのスケジュールをたてる。	1時間
第3回	**幼稚園実習の意義** 幼稚園教育実習の意義や目的を確認する。これまでの保育に関する学びを振り返り、幼稚園教育実習に向けて自己課題を明確にする。	幼稚園教育実習に関連すると思われるこれまでの学びを振り返る。	1時間
第4回	**記録の意義** 実習記録の意義、記録の際の留意事項等を確認する。	これまでの実習の記録を見直す。	1時間
第5回	**指導計画の作成** 幼児の発達や季節をふまえた指導計画の作成のあり方について確認する。	実習予定幼稚園に合わせて、部分実習指導案を作成する。	1時間
第6回	**指導計画の作成：グループワークを通しての改善** 各自が作成した部分指導案をグループワークを通してよりよいものにしていく。	自身が作成した部分実習指導案をよりよくするためにどうしたらよいか検討する。	1時間
第7回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構えなど）** 実習生としてどのような態度であれば望ましいのかを確認する。	実習に向けての事務手続きの流れを理解し、基本的なマナーを確認する。	1時間
第8回	**教育実習参加体験談** これまでの実習体験をお互いに話し合い、分かち合う。	実習記録等を通して、これまでの実習体験を振り返る。	1時間
第9回	**さまざまな教育方針の幼稚園** 幼稚園の教育方針は、その地域性や沿革などによって大きく異なることを知る。	実習予定幼稚園の教育目標、地域性、沿革などを調べる。	1時間
第10回	**実習生としての姿勢** 新しい出会いを通して実習生としてどのように成長していきたいかを具体的にイメージする。	教育実習の全体の流れを理解し、各段階における学びのスケジュールをイメージしてまとめる。	1時間
第11回	**実習直前指導** 実習園を訪問する際の身だしなみや振る舞いなどの確認する。	自信をもって実習に臨めるように最後の準備及び心構えを確認する。	1時間
第12回	**実習参加直前指導**	実習予定園ごとに実習準備状況の最終確認をする。	1時間

	各自準備状況を確認するとともに、互いに準備状況を確認し合う。		
第13回	**実習参加直後指導（実習参加レポートの作成）** 実習での体験をどのような視点で振り返ることが望ましいか確認し、自身の体験を振り返る。実習での学び、保育者を目指すうえでの自らの強みや課題に向き合い、言語化する。	実習記録の仕上げを行い、体験を振り返る。	1時間
第14回	**実習の振り返りとまとめ** 実習での学びを振り返り共有し合うことで、実習の総まとめを行う。 自己評価と指導者からの評価を照らし合わせ、各自が今後の課題を明確化する。	実習参加レポートを完成させる。	1時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅰ（初等）（幼稚園）**				
担当教員名	山内淳子・片岡章彦・岡林典子・保田直美・園田育代				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山内：私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回） 片岡：私立幼稚園にて教諭として21年間勤務（全14回）				

授業概要

本授業は、教育実習事前事後指導での事前学習および他の教科目での学修を踏まえ、実際に幼稚園（幼保連携型認定こども園および幼稚園型認定こども園を含む）で80時間（10日間）の実習を行うものである。

実習の目的は、
１．幼児教育に関わる理論や知識と保育実践とを総合的に学ぶ。
２．幼児への接し方や幼児の活動する様子、保育者の幼児への指導の仕方などを観察したり、自らが保育実践したりする。
３．保育者の職務の一端に触れ、教職についての理解を深める。
以上の3点であるが、実習園において事前指導を受けた後、担当教諭の指導の下で、観察実習から参加実習、部分実習へと進む。

実習中に大学教員による訪問指導があり、実習終了後は教育実習事後指導を受け、到達点と課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	幼稚園・幼稚園教諭に関する知識・理解の深化	実体験を通して、幼稚園・幼稚園教諭について理解を深めることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	保育の総合的理解に基づく実践力の育成	既習の内容を総合し、実践に計画的に取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		保育者としての自己を客観的に見つめ、課題を抽出することができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		実習期間中の課題を把握し、計画的に実習を進めることができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		保育者としての自己を意識し、保育者にふさわしい行動をとることができる。
4. DP３.社会への貢献態度		実習をやり遂げることができる。
5. DP７.忠恕の心		実習班の一員として適切な行動ができる。

学外連携学修

有り(連携先：各実習先幼稚園およびこども園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

実習園での指導の他、大学教員が実習園を訪問して指導を行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習園からの評価	30 ％	： 実習園からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況	45 ％	： 80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。

実習記録	:	適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。 優れている：18～20点 適切である：14～17点 努力を要する：10～13点 不備が多い：～9点
20　%		
調整	:	実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。
5　%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・チャイルド本社	・2017　年

参考文献等

・『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館（2018年）ISBN-13:978-4577814475
※ほか、教育実習事前事後指導の授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は教育実習事前事後指導（幼稚園）を受講し、実習への準備を整え実施するものである。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日伝達

場所：　後日伝達

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
各実習施設において、80時間（10日間）の実習を行う。 各実習園において、10日（80時間）の実習を行う。配属クラスの保育に補助的立場で参加し、個々の子どもや幼稚園教諭の職務についての理解を深める。これを踏まえて、短時間・長時間の指導計画案を作成し、担任教諭に代わって保育を行う。実習反省会に参加し、実習を通しての自己の課題を明確にする。 ※実際の内容等は、実習園によって違いがある。	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	10時間
		時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅱ（初等）（幼稚園）**				
担当教員名	**山内淳子・片岡章彦・岡林典子・保田直美・園田育代**				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山内：私立幼稚園にて園長として11年勤務（全14回） 片岡：私立幼稚園にて教諭として21年間勤務				

授業概要

本授業は、教育実習事前事後指導での事前学習および他の教科目での学修、教育実習Ⅰ（幼稚園）での経験を踏まえ、幼稚園（幼保連携型認定こども園および幼稚園型認定こども園を含む）で80時間（10日間）の実習を行うものである。

本実習では、教育実習Ⅰ（幼稚園）での経験と課題をふまえ、個々の幼児理解や援助の方法について学びを深め、保育実践に必要な指導力を身につける。
また、専門職としての幼稚園教諭の技能や態度、役割や職務についてさらに理解を深め、1日実習や責任実習を行い実践的能力の向上を図る。
実習終了後は、教育実習事後指導を受け、教育実習Ⅰと合わせて自身の学びを振り返り、到達点と課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	幼稚園・幼稚園教諭に関する知識・理解の深化	実体験を通して、幼稚園・幼稚園教諭について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保育者としての自己を客観的に見つめ、課題を抽出することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		実習期間中の課題を把握し、計画的に実習を進めることができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		保育者としての自己を意識し、保育者にふさわしい行動をとることができる。
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		実習をやり遂げることができる。
5. DP７.忠恕の心		実習班の一員として適切な行動ができる。

学外連携学修

有り(連携先：各実習先幼稚園およびこども園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

実習園での指導の他、大学教員が実習園を訪問して指導を行います。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習園からの評価	30 %	： 実習園からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況	45 %	： 80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。
実習記録		： 適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。 優れている：18～20点 適切である：14～17点 努力を要する：10～13点 不備が多い：～9点

20　%

調整　　：　実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。

5　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・チャイルド本社	・2017　年

参考文献等

・文部科学省『幼稚園教育要領解説　平成30年3月』(フレーベル館,2018,ISBN978-4577814475)
※ほか、教育実習事前事後指導の授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習Ⅰと同様に教育実習事前事後指導（幼稚園）を受講し、実習への準備を整えてから臨む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日伝達

場所：　後日伝達

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
実習園における観察・参加実習 観察・参加実習 ・実習Ⅰをふまえ研究保育、指導案の作成を通して幼稚園教育に対する知見を深める。 ・幼稚園教諭・保育教諭として子どもに関わりながらも適切に援助や環境構成をすることによって、幼稚園教諭の役割について理解を深める。 ・幼稚園・こども園での職務に参加し、幼稚園教諭・保育教諭としての職務を体験しながら、公立園の役割や体制、幼小連携の在り方についても学ぶ。 ※実際の内容等は、実習園によって違いがある。	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	10時間
		時間
		時間
		時間
		時間
		時間
		時間
		時間
		時間

		時間
		時間

432

授業科目名	**幼稚園体験活動**				
担当教員名	石田貴子・高尾淳子・岡林典子・園田育代				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高尾：保育園に勤務（全14回） 園田：幼稚園に勤務（全14回）				

授業概要

幼稚園体験活動は、実習の一環として位置づけられる。1年次の園見学を受けて、長期にわたり保育現場での活動に継続的に取り組む中で、体験を通して現場の実際を理解する。毎回、目的を持って活動し、幼児との関わりやその他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気づき・学びを日誌に記録していく。授業では、体験活動を行うための事前指導、1回ごとの振り返りと交流、事後指導を行い、自己の課題を明らかにした上で、保育体験活動へとつなぐ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育現場の体験による、求められる専門的知識・技能及び日常的な業務の理解	保育者として求められる専門的知識･技能と業務について述べることができる
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	これまでの学修の総合と、それに基づく保育体験	これまでの学修を総合し、保育現場での活動に適切に参加することができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		幼稚園の意義や役割等を理解し、積極的に活動に参加することができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に体験活動に取り組み、振り返りを通して自己の課題を抽出することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な視点から子ども等を見て、理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際を知り、工夫して課題に対応しようとすることができる
5. DP７.忠恕の心		他者の考えを尊重しながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる

学外連携学修

有り(連携先：体験活動先幼稚園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習園からの評価	:	実習園からの項目別評価･総合評価を合計し、換算する。
50 ％		
授業への参加及び課題達成	:	授業各回の課題への取り組み、授業への積極的な参加ができているかを評価する。（各回の課題に適切に取り組めている：1点×14回　積極的に参加できている：6点）

	20 %		
実習記録		:	記録を適切に記入することができているかを評価する。（毎回の記録がおおむね記入できている：1点×8回　園概要等のページが適切に記入できている：2点）
	10 %		
諸手続きの遂行		:	体験活動に関する諸手続きが滞りなく行われていれば5点とし、不備があるごとに減点する。
	5 %		
期末レポート		:	幼稚園での体験を真摯に振り返り、自己の課題を把握し、今後の学習への展望をもつことができているかをもとに評価する。
	15 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81447-5）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の実習科目であり、①幼稚園現場での体験活動8回、及び②授業での事前指導、中間指導、事後指導からなっている。どちらも不足することのないよう、体調管理に注意し、真摯に取り組むことが望まれる。また、必要に応じ、授業時間外での個別指導も行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　初回授業で伝達します

備考・注意事項：　授業外での質問方法
石田：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
高尾：takao-a@osaka-seikei.ac.jp
岡林：okabayashi@osaka-seikei.ac.jp
園田：後日伝達します
※Eメールには、学年、クラス、学籍番号、氏名を必ず入れてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前指導1：オリエンテーション及び体験活動の概要** 本授業の目標･内容･評価等について理解する。また、自身の体験活動実施園を知り、体験活動の見通しを持つ。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。また、園見学の記録を見直し、書き方を復習する。	1時間
第2回	**事前指導2：体験活動実施園についての事前学習** 事前学習をもとに交流し、体験活動実施園及び幼稚園についての理解を深める。また、実習生個人カードの必要性を知り、書き方について学ぶ。	体験活動実施園について調べる。	1時間
第3回	**事前指導3：事前訪問及び注意事項** 幼稚園体験活動の手引きにもとづき、事前訪問の必要性と行い方、体験活動に関する注意事項について学ぶ。	実習生個人カードを作成する。	1時間
第4回	**事前指導4：目標の設定と記録作成** 体験活動記録の必要性や書き方について学ぶ。事前訪問での諸注意とこれまでの学びを踏まえ、体験活動各回の目標を設定する。	事前訪問報告書を作成する。	1時間
第5回	**体験活動1及び振り返り** 1回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	1回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第6回	**体験活動2及び振り返り** 2回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	2回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第7回	**体験活動3及び振り返り** 3回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	3回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第8回	**体験活動4及び振り返り** 4回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	4回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第9回	**体験活動5及び振り返り** 5回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	5回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第10回	**体験活動6及び振り返り** 6回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。	6回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第11回	**体験活動7及び振り返り** 7回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。また、実習生調査票の受け取りなど、体験活動最終回及び終了後の手続きについて理解する。	7回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間
第12回	**体験活動8及び振り返り** 8回目の体験活動の記録をもとに、振り返りを行う。また、園へのお礼状の書き方について学ぶ。	8回目の体験活動を行い、記録を作成する。	8時間

第13回	**事後指導1：グループ討議** グループに分かれ、体験活動での学びをポスターにまとめる。	お礼状の下書きを作成する。	1時間
第14回	**事後指導2：体験の発表とまとめ** 作成したポスターを掲示しながら、グループごとに、体験活動の学びについて発表する。体験活動全体の振り返りとまとめを行い、後期の保育体験活動及び保育実習、次年度の教育実習に向けて、課題を明確化する。	グループで、学びのポスターを完成させる。	1時間

432

授業科目名	**学校体験活動Ⅰ（初等）**				
担当教員名	加藤博之・須谷弥生・宮﨑大樹				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（8年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回） 宮崎：伊丹市立小学校教諭（9年）、アムステルダム日本人学校教諭（3年）、伊丹市教育委員会事務局（2年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

学校体験活動Ⅰは、実習の一環として位置づけられる。１年次に行った見学実習を受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子ども達とのかかわり方やその他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、学校体験活動Ⅱの学びへとつなぐ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の振り返り課題、活動への参加	20 %	： 振り返りシートの記述内容、ワークシート等への取り組み、グループワークへの意欲的な取り組み、などをもとに評価する。
実習日誌	40 %	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）をもとに評価する。
中間報告	10 %	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。

最終報告 : 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。

10 %

実習校からの評価 : 実習校からの評価票をもとに評価する。

10 %

期末レポート : 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業にむけて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所： 加藤：研究室（5階）

備考・注意事項： ＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知します。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	シラバスを読み、授業及び学校体験活動についてイメージを持つ。	4時間
第2回	**学校体験活動活動の意義と目的、事前学習及び自らの目標課題設定** 学校体験活動活動の意義と目的を確認していきます。また、実習校についての事前学習を行い、自らの目標課題を設定します。	学校体験活動先の教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第3回	**学校体験活動へ向けての指導（1）注意すべき事項** 学校体験活動を行うにあたり、実習生として注意すべき事項について学びます。特に、不適切な振る舞いである体罰、性暴力等についての理解を深めます。	学校体験活動に向けて注意すべき事項を整理する。また自主学習を通して、教師としての不適切な振る舞いについても理解を深める。	4時間
第4回	**学校体験活動へ向けての指導（2）実習日誌の記入方法** 学校体験活動の日誌の記入方法について学びます。	実習日誌の記入方法について整理する。	4時間
第5回	**学校体験活動の省察（1）　初めての学校体験活動で得た知見と印象** 初めての学校体験活動で得た知見と印象を中心に、グループワークを通して学校体験活動での学びを振り返ります。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**学校体験活動の省察（2）　学校全体にかかわる教育の営みにおける教師の意図** 学校全体にかかわる教育の営みの中でも特に「教師の意図」に着目して、グループワークを通して学校体験活動での学びを振り返ります。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**学校体験活動の省察（3）　学校全体にかかわる教育の営み** 学校全体にかかわる教育の営みについて、学校体験活動での学びを振り返ります。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**学校体験活動の省察（4）　学校で教育に当たっている教員・職員** 学校で教育に当たっている教員・職員の役割と働きについて理解を深めることを通して、チーム学校として協働することの重要性を学びます。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**中間報告会** 第1～5回の学校体験活動で学んだこと、自らの課題について中間報告を行います。また、教員からのフィードバックを踏まえて、後半の学校体験活動の目標課題設定を行います。	中間報告会に向けて、これまでの学びをまとめてプレゼンテーションの準備をする。	4時間
第10回	**学校体験活動の省察（5）　授業における子どもと先生の関わりの姿**	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間

	授業場面における教員の活動や指導の実際の姿を中心として学校体験活動での学びを振り返ります。		
第11回	**学校体験活動の省察（6）　教育活動全体における子どもと先生の関わりの姿** 授業のみならず、教育活動全体における子どもと教師の関わりについて、グループワークを通して学校体験活動で学んだことを振り返ります。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**学校体験活動の省察（7）　子どもと子どもの関わりの姿** 学習場面や遊びの場面で捉えた児童相互の関係を中心として学校体験活動での学びを振り返ります。	学校体験活動の日誌を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**学校体験活動の省察（8）　子どもと子どもの関わりの姿と教師** 学習場面や遊びの場面で捉えた児童相互の関係、教師の働きかけを中心として、グループワークを通して学校体験活動での学びを振り返ります。	最終報告会に向けて、これまでの学びをまとめてプレゼンテーションの準備をする。	4時間
第14回	**最終報告会** 中間報告会での課題を踏まえて取り組んだ学校体験活動での学びをまとめ、発表します。教員からのフィードバックを踏まえて、学校体験活動Ⅱに向けた課題を設定します。	最終報告会の内容、教員からのフィードバック、学校体験活動Ⅱに向けた課題を期末レポートにまとめる。	4時間

433

授業科目名	**学校体験活動Ⅱ（初等）**				
担当教員名	加藤博之・須谷弥生・宮﨑大樹				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（8年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回） 宮崎：伊丹市立小学校教諭（9年）、アムステルダム日本人学校教諭（3年）、伊丹市教育委員会事務局（2年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

学校体験活動Ⅱは、実習の一環として位置づけられる。学校体験活動Ⅰ(初等)の学びを踏まえ、週1回程度小学校に出向き、子どもと教育に関する広い体験や学校生活全般を体験する活動を通して、①小学校の教育現場に身を置くことで、体験を通して教育現場の実像（人・物・仕組み）を理解する、②教員の日常を“教育業務”として観察し、将来の自身の仕事をとらえる視点から、その在り方や価値について考察する、③児童とふれあう中で、子どもへの接し方や関わり方について、学び、考えることの3点について、さらに深化を図ることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の振り返り課題、活動への参加	8 %	： 振り返りシートの記述内容、ワークシート等への取り組み、グループワークへの意欲的な取り組み、などをもとに評価する。
実習日誌	40 %	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）をもとに評価する。
中間報告	15 %	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。

最終報告	:	自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。
15 %		
実習校からの評価	:	実習校からの実習評価票をもとに評価する。
10 %		
期末レポート	:	自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかどうかをもとに評価する。
12 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業にむけて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所：　加藤：研究室（5階）

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知します。
ただし、件名に「学校体験活動２：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	シラバスを読み、授業及び学校体験活動についてイメージを持つ。	4時間
第2回	**自らの目標課題設定、実習日誌の記入方法の確認、** 学校体験活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	学校体験活動に臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間
第3回	**学校体験活動時における観察の方法** 学校体験活動時によりよく子どもと関係を結び、授業を観察するために、授業観察を行う上での研究方法や姿勢を学びます。	学校体験活動に臨むに当たって、実習校の概要について調べておく。	4時間
第4回	**教師や子どもの様子を観察・記述する** 学校体験活動時に子どもの様子や教師の取り組みを観察し、記録をとるための方法を学びます。	学校体験活動先の教育方針及び内容を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**学校体験活動の省察（１）教師や子どもの様子を共有する** 学校体験活動での学びを記録をもとにして振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動の日誌を作成し、教師や子どもの様子について学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**学校体験活動の省察（２）子どもの視点から体験を吟味してみる** 小学校の1日の教育活動の流れを中心に学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動の日誌を作成し、子どもの視点から学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**学校体験活動の省察（３）教師の視点から考えてみる** 配当された学年での教師のふるまいを観察して捉えた実像や特性を中心に学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動の日誌を作成し、教師の視点から学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**学校体験活動の省察（４）学びの交流と後半に向けた課題設定** これまでの学校体験活動及び作成したレポートを振り返り、各自の学びをグループで交流することを通して、成果と課題についてまとめ、後半の学校体験活動における自らの課題を明らかにします。	これまでの現場体験を振り返り、学びと自身の課題をまとめる。	4時間
第9回	**学校体験活動の省察（４）　多様な子どもたちとの関わり** 学習場面や遊びの場面で捉えた児童相互の関係を中心として学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動記録を作成し、多様な子どもたちの姿について学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**学校体験活動の省察（６）教員の活動や指導**	学校体験活動の日誌を作成し、教員の活動や指導について学びと自身の課題を明確にする。	4時間

	授業場面を中心に教員の活動や指導の実際の姿を中心として学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。		
第11回	**学校体験活動の省察（７）教員文化と教員の働き方** 現代において教員がどのような位置づけにあるかという点を中心に学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動の日誌を作成し、教員文化と教員の働き方について学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**学校体験活動の省察（８）自分と児童との関わり** これまでの体験活動の中で自分がどのように児童と関わってきたかを中心に学校体験活動での学びを振り返り、グループワークにより学びを深めます。	学校体験活動の日誌を作成し、自分と児童との関わりについて学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**学校体験活動の省察（８）　学びの交流とまとめ** これまでの学校体験活動及び作成したワークシートを振り返り、各自の学びを発表することを通して、成果と課題について考察を深めます。	これまでの現場体験を振り返り、学びと自身の課題をまとめる。	4時間
第14回	**研究考察レポートの作成** これまでの授業で取り上げた課題を元に各自で課題を設定し、学校体験活動で捉えた小学校の教育活動や児童、教員の活動について考察したことをレポートにまとめます。また、学校体験活動全体を振り返り、学びの成果と今後の課題をまとめます。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間

授業科目名	**介護等体験（施設）**				
担当教員名	鈴木克彦・岡田優				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	【鈴木】特別支援学校に勤務した経験及び教育委員会で指導主事として介護等体験に関与した経験をふまえ、具体的事例をもとに講義する（全14回）。				

授業概要

高齢者介護および障害者支援に関する全般的な基礎知識とともに社会福祉施設と特別支援学校の目的や支援の実際や授業内容等に関する基礎知識を修得する。社会福祉施設（５日間）と特別支援学校（２日間）それぞれでの実習と実習にかかる事前学習と事後学習を行う。具体的には、実習にむけて準備を行う事前学習、実習中の指導助言、実習で得た学びと自身の課題を明確にするための事後学習を行う。
本授業は、小学校・中学校教員免許取得に必須の授業であり、教員免許申請時に介護等体験記録証明書が求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	小学校・中学校教員として必要な態度、考え方の修得	他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を持つ
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		小学校・中学校教員として必要な態度、考え方を養うことができる

学外連携学修

有り(連携先：大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
介護等体験の日誌	40 %	： 事象に対する考察を含む日誌の記述内容について、項目に沿って正しく記述したうえで活動をふりかえっての反省と次回に向けた課題設定ができているか評価する。
介護等体験への参加（事前事後学習を含む）	50 %	： 目標と目標達成のための手だての設定および達成状況の的確な把握、達成にむけた改善点について省察することができているか評価する。
期末レポート	10 %	： 介護等体験から何を学び、その学びを今後の生活にどのように生かすかに関する考察について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

全国特別支援学校校長会/介護等体験ハンドブック　新フィリア/ジアース教育新社　ISBN:9784863714472
現代教師養成研究会/教師をめざす人の介護等体験ハンドブック５訂版/大修館書店　ISBN:9784469268768

その他、授業で必要な資料（大阪府社会福祉協議会/HOW TO 介護）を配布するとともに適宜参考書を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

介護等体験の実習にあたっては「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、実習にむけて準備すること。
また、事前学習として実習先施設についてのガイダンスを行うため必ず参加すること。
さらに、社会福祉施設での介護等体験では各担当教員による個別指導が行われるため担当教員と連絡を取り実習に備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業時間以外でも質問等に応じます。その場合のオフィスアワー等については授業時に周知します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価法、介護等体験の目的と障がいに関する基礎知識** 介護等体験特例法により介護等体験を行う必要があることを知り、介護等体験を行う目的と障がいの社会モデル、障がい種別などに関する基礎的な事項について学ぶ。	介護等体験特例法の詳細、障がいの社会モデルについて復習する。	4時間
第2回	**社会福祉施設について** 社会福祉施設のうち特に高齢者福祉施設と障害者福祉施設について、大阪府社会福祉協議会「HOW TO 介護」を使用して具体的に学ぶ。 実習中に留意すべきことについて学ぶ。 各自に配当される実習先施設の概要について知る。	「HOW TO 介護」のQ&Aについて確認し、知識を深める。	4時間
第3回	**特別支援学校について** 特別支援学校の目的、役割、１日の流れ、教育活動の概要について具体的に学ぶ。 実習中に留意すべきことについて学ぶ。 各自に配当される特別支援学校の概要について知る。	特別支援学校の障害種別や教育目標、教育内容についてまとめる。	4時間
第4回	**介護等体験の注意事項、提出書類、持ち物** 事前提出書類の書き方、当日の持ち物について確認する。 介護等体験を行ううえでの注意事項について最終確認し徹底を図る。	提出書類作成に必要な資料の準備、持ち物の確認	4時間
第5回	**特別支援学校での介護等体験（第１日目）** 各特別支援学校の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第6回	**特別支援学校での介護等体験（第２日目）** 各特別支援学校の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第7回	**社会福祉施設での介護等体験実習（第1日目）** 各社会福祉施設の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第8回	**社会福祉施設での介護等体験実習（第2日目）** 各社会福祉施設の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第9回	**社会福祉施設での介護等体験実習（第3日目）** 各社会福祉施設の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第10回	**社会福祉施設での介護等体験実習（第4日目）** 各社会福祉施設の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第11回	**社会福祉施設での介護等体験実習（第5日目）** 各社会福祉施設の指示に従い介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第12回	**特別支援学校での介護等体験のふりかえり** 特別支援学校での介護等体験から得たことを発表、共有する。	発表を聞いて得た他者の見方や考え方を自身の意見にどのように生かすか考える	4時間
第13回	**社会福祉施設での介護等体験のふりかえり** 社会福祉施設での介護等体験から得たことを発表、共有する。	発表を聞いて得た他者の見方や考え方を自身の意見にどのように生かすか考える。	4時間
第14回	**介護等体験　学修のまとめ** 介護等体験のふりかえりを行い、実習先への礼状作成を通して学修のまとめを行う。あわせて介護等体験で得た経験を今後の学修計画にどのように生かすか考える。	教員を志す者として介護等体験を通して明らかになった自身の課題や今後身につけたいものについて考えを深める。	4時間

432

授業科目名	**保育実習Ⅰ－１**				
担当教員名	可児勇樹・白波瀬達也・石田貴子・高木玉江				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	可兒：私立保育園に11年勤務（全10日間） 高木：保育園に勤務（全10日間）				

授業概要

本授業は、保育実習指導Ⅰ－１での事前学習および他の教科目での学修を踏まえ、実際に保育所（幼保連携型認定こども園、小規模保育AB型及び事業所内保育事業を含む）で80時間（10日間）の実習を行う。
実習では、習得した教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。保育所の役割や機能、子どもの保育及び保護者への支援、保育の計画・観察・記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。
実習の目標は、次の5点である。
１．保育所の役割や機能を具体的に理解する。
２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
４．保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育所・保育士及び保育に関する知識・理解の深化	実体験を通して、保育所・保育士及び保育について理解を深めることができる
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	これまでの学修の総合とそれに基づく保育実践	これまでの学修を総合し、観察・参加・部分実習を行うことができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保育所の役割や機能を理解し、積極的に活動に参加することができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に実習に取り組み、振り返りを通して自己の課題を抽出することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な視点から子ども等を見て、理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際を知り、工夫して課題に対応しようとすることができる

学外連携学修

有り(連携先：各実習先保育所)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
実習園の保育士による指導の他、大学教員が実習園を訪問して指導を行う。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習園からの評価	30 %	： 実習園からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況	45 %	： 80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。

実習記録	:	適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。 優れている：18～20点 適切である：14～17点 努力を要する：10～13点 不備が多い：～9点
20　％		
調整	:	実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。
5　％		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・チャイルド本社	・2017　年

参考文献等

・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81448-2）
※ほか、保育実習指導Ⅰ－１の授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目で実地実習を行うには、保育実習指導Ⅰ－1を受講し、事前指導を終えていることが必要となる。また、実地実習は80時間以上行うことが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　初回授業で伝達します

備考・注意事項：　e-mail：
【可兒】kani@osaka-seikei.ac.jp
【白波瀬】shirahase@osaka-seikei.ac.jp
【石田】ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
【高木】takagi-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**実習（80時間10日間）** 各実習施設（保育所）において、10日(80時間)の実習を行う。配属クラスの保育を観察し、生活の流れや子どもの様子、保育士の援助の実際などを理解する。担任の仕事に補助的立場で参加し、個々の子どもや保育士の職務についての理解を深める。これらを踏まえて、手遊びや絵本の読み聞かせなどの簡単な部分実習を、保育士の指導の下で行う。 ※実際の内容等は、実習園によって違いがある。	実習記録を作成する。部分実習の準備を行う。	10時間
			時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間

		4時間
		4時間
		4時間

433

授業科目名	**保育実習Ⅰ－２**				
担当教員名	**山本智也・今井涼・小林志保**				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全回） 今井：児童相談所職員（児童福祉司）（全回）				

授業概要

本授業は、保育実習指導Ⅰ－２での事前学習および他の教科目での学修を踏まえ、実際に保育所以外の児童福祉施設等で80時間（10日間）の実習を行う。
習得した教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。保育所以外の福祉施設等の役割や機能、施設利用者およびその保護者への支援、計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士の業務や職業倫理について学ぶ。
実習の目的は、次の５点である。
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育所以外の福祉施設等の役割や機能、施設利用者およびその保護者への支援、計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士の業務や職業倫理について学ぶ。	児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	保育者としての自己を客観的に見つめ、課題を抽出することができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	保育の計画・観察・記録を適切に行い、自らの実践を省察することができる。
3. DP３.社会への貢献態度	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各実習先（保育所以外の児童福祉施設等））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
実習施設職員による指導の他、大学教員が実習施設を訪問して指導を行う。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習施設からの評価	30 %	： 実習施設からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況	45 %	： 80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。
実習記録		： 適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。 優れている：18～20点 適切である：14～17点 努力を要する：10～13点

不備が多い：～9点

20　％

調整　：　実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。

5　％

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
喜多一憲・児玉俊郎・吉村美由紀・吉村譲　編	・保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック	・みらい	・2019　年

参考文献等

※ 保育実習指導Ⅰ－２の授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目で実地実習を行うには、保育実習指導Ⅰ－２を受講し、事前指導を終えていることが必要となる。また、実地実習は80時間以上行うことが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業初回にお知らせします。

場所：　以下のとおり。

備考・注意事項：　担当教員ごとに異なります。
山本：中央館２階
小林：中央館５階
今井：中央館５階
授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
山本：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
小林：kobayashi-sh@osaka-seikei.ac.jp
今井：imai-r@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育実習指導1-2：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
実習（80時間　10日間） 各実習施設において、80時間（10日間）の実習を行う。	実習計画書、実習記録、実習レポートの作成	10時間
		時間

432

授業科目名	**保育実習指導Ⅰ－１**				
担当教員名	可児勇樹・白波瀬達也・石田貴子・高木玉江				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	可兒：私立保育園に11年勤務（全14回）。 高木：保育園に勤務（全14回）				

授業概要

本授業は、保育実習Ⅰ－１（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習全体の展開と実習の意義、保育実習Ⅰ－１の目標・内容を把握し、保育所について理解を深めながら、諸手続きや心構え、計画や記録等について具体的に学ぶ。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅰ－１での到達点と新たな課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保育所･保育士に関する知識･理解と実習の意義の理解	保育所及び保育士について理解を深め、資格取得における実習の必要性を理解することができる
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	これまでの学修の総合とそれに基づく実習準備	これまでの学修を総合し、部分実習までを想定した実習準備を行うことができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保育所の機能や役割を理解し、積極的に活動に参加することができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に実習に取り組み、振り返りを通して自己の課題を抽出することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な視点から子ども等を見て、理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際を知り、様々な課題に工夫して対応しようとすることができる
5. DP７.忠恕の心		他者の考えを尊重しながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加･貢献	:	授業外学習に取り組み、積極的に演習に参加している（1点×14回）、積極的に発表している(6点満点)で評価する。
20 %		
授業内での課題達成	:	各回の課題に関し、深く丁寧に考察できていれば2点、一通り考察できていれば1点（×14回）で評価する。

※特に優れている場合：2点

30　%

実習記録記入法･指導計画案･保育実技　：　実習記録の書き方がわかり、体験活動等の体験が適切な形式で記入できれば10点、指導計画案(部分案)の書き方がわかり、部分実習に必要な保育実技が模擬保育の形式で適切にできれば10点とする。

20　%

実習レポート（期末）　：　独自のルーブリックにもとづき評価する。

10　%

諸手続きの遂行　：　実習に関する諸手続きが滞りなく行われていれば10点とし、不備があるごとに減点する。

10　%

実習報告会での発表　：　ポスターを適切に作製できれば5点、発表を適切に行えれば5点とする。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017　年

参考文献等

・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81448-2）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　初回授業で伝達します

備考・注意事項：　e-mail：
【可兒】kani@osaka-seikei.ac.jp
【白波瀬】shirahase@osaka-seikei.ac.jp
【石田】ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
【高木】takagi-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本授業の目標、内容、評価等について理解する。また、保育実習全体の展開と実習参加資格、諸手続きについて理解する。	予習：シラバスを読み、授業の概略について理解する。	1時間
第2回	**保育実習の意義と内容** 実習の意義及び段階と、保育実習Ｉ－１の位置づけや内容等について理解する。	予習：園見学及び体験活動の手引きを読み直し、既習内容について確認する。	1時間
第3回	**保育所の理解(1)　保育所及び保育士についての基本的理解** 保育所保育指針やDVD教材により、保育所と保育士の職務について理解する。	予習：保育所保育指針を通読する。	1時間
第4回	**保育所の理解(2)　実習先保育所の理解** 各自の実習予定保育所について調べ、発表する。	予習：実習予定保育所の沿革や方針などについて調べ、まとめる。	1時間
第5回	**実習に際しての留意事項** 子どもの人権の尊重やプライバシー保護、守秘義務、実習態度、マナーなどについて理解する。	予習：実習の手引きを読み、留意事項を確認する。	1時間
第6回	**観察、記録、評価の視点と方法(1)　一般的な留意事項** 観察、記録、評価の視点と方法について学ぶ。	予習：園見学及び体験活動の手引きを読み直し、既習内容について再確認する。	1時間
第7回	**観察、記録、評価の視点と方法(2)　　実習記録の記入法** 実際の保育所実習記録等を見ながら、記入法について具体的に学ぶ。	予習：体験活動で作成した記録を見直す。	1時間
第8回	**計画と実践(1)　実習指導案の作成** 実習における計画と実践のつながりを理解し、実習指導案の作成法について学ぶ。	予習：部分実習指導案を作成する。	1時間
第9回	**計画と実践(2)　模擬保育の実施** 部分実習指導案を発表し、模擬保育を行う。	予習：部分実習指導案を見直し、模擬保育の練習をする。	1時間

第10回	**実習直前指導** これまでの学習を振り返り、実習準備ができているかを確認する。	予習：ワークシートに実習準備の状況を記入する。	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価(1)　実習の振り返りと自己評価** 実習を振り返り、自己評価を行う。	予習：自己評価ワークシートに取り組む。	1時間
第12回	**実習の振り返りと自己評価(2)　体験の交流** 実習体験についてグループで話し合い、発表する。	予習：実習レポート(下書き)を作成する。	1時間
第13回	**実習の振り返りと自己評価(3)　個別面談と自己の課題の明確化** 実習先保育所からの評価にもとづき、担当教員との個別面談を行う。面談を踏まえ、保育者を目指す上での今後の課題と学習目標について考える。	復習：面談を踏まえて実習レポートを見直す。	1時間
第14回	**総括** 実習レポートに基づいてポスターを作成し、報告会を行う。	予習：発表のためのポスターを、園ごとに作成する。	1時間

433

授業科目名	**保育実習指導Ⅰ－２**				
担当教員名	**山本智也・今井涼・小林志保**				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全14回） 今井：児童相談所職員（児童福祉司）（全14回）				

授業概要

習得した教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。保育所以外の福祉施設等の役割や機能、施設利用者およびその保護者への支援、計画・観察・記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

具体的な授業のねらいは次の５点である。
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保育士としての専門的力量形成	保育実習の意義と目的及び内容を理解し、実習における課題を明確にすることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	実践の意味をとらえる力	実習に際しての留意事項を理解し、計画や記録等について具体的に理解することができる。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		実習に取り組むことを通して、自己に課せられた役割・課題を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	20 %	： 各回の取り組み：授業外学習に取り組み、積極的に演習に参加しているかどうか（15%）に加えて、授業における発表に関し、積極性や回数、内容を総合して評定する。
課題達成度：各回授業での考察	30 %	： 授業での学びへの理解、学びを踏まえた考察ができているかを評価する（2点満点）
課題達成度：実習記録の記述	20 %	： 保育の適切な理解に基づく記述がなされ、深く考察されているかを基準に評定する。
課題達成度：実習レポート（期末レポート）		： 実習の成果と課題、学習目標が明確に述べられているかどうかを評定する。

20　%

諸手続きの遂行　：　個人調査票の作成・提出、細菌検査等の手続き、実習後の報告書の提出などが適切に行われているかを評定する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
吉村美由紀・吉村謙編	・福祉施設実習ハンドブック：保育士養成課程　五訂	・みらい	・2019　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

１　本科目は、１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

２　本科目は、2025年11月10日（月）から12月6日(土)までの実習期間には開講しない。
そのため、この期間内の4回分授業については別日程で実施する。（日程については履修オリエンテーションにおいて連絡する）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業初回にお知らせします。

場所：　以下のとおり。

備考・注意事項：　担当教員ごとに異なります。
山本：中央館２階
小林：中央館５階
今井：中央館５階
授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
山本：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
小林：kobayashi-sh@osaka-seikei.ac.jp
今井：imai-r@osaka-seikei.ac.jp

ただし、件名に「保育実習指導1-2：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・実習の諸手続について** ①本授業の目標・内容・評価等について　②保育実習Ｉ－２の目標・内容について	予習：テキスト第１部を熟読しておくこと	1時間
第2回	**保育実習Ｉ－１の振り返りと自己の課題の確認** 保育所における保育実習をふりかえり、児童福祉施設での実習への課題を確認していきます。	予習：保育実習Ｉ－１の実習記録を読み直すこと	1時間
第3回	**社会的養護への理解と再確認** 社会的養護の理念などについて既習内容を踏まえて再確認していきます。	予習：テキスト第２部を熟読しておくこと	1時間
第4回	**実習施設についての理解(1) 社会的養護の現状** 児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設の現状について理解を深めます。	予習：テキスト第４部を熟読しておくこと	1時間
第5回	**実習施設についての理解(2)　障害児(者)系施設について** 障害のある子どもや人に関わる施設について理解を深めます。	予習：テキスト第４部を熟読しておくこと	1時間
第6回	**実習計画の検討** 目標・課題をもって実習に臨む意味を考えた上で、個々の実習計画を作成、検討していきます。	予習：テキスト第３部を熟読しておくこと	1時間
第7回	**実習施設についての理解(3)　児童養護施設について** 児童養護施設における実習の具体的な内容について理解を深めます。	予習：実習計画書案を作成しておくこと	1時間
第8回	**実習施設についての理解(3)　乳児院について** 乳児院における実習の具体的な内容について理解を深めます。	予習：テキスト第７部を熟読しておくこと	1時間
第9回	**観察、記録、評価の視点と方法** 実習における観察、記録、評価の在り方について、特にエピソード記述について理解を深めます。	予習：テキスト第７部を熟読しておくこと	1時間
第10回	**実習直前指導** 実習に際しての具体的な留意事項などを確認していきます。	予習：テキスト第７部を熟読しておくこと	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 事後指導として、実習をふりかえります。	予習：テキスト第５部を熟読しておくこと	1時間
第12回	**今後の実習への課題：個別支援への視点**	予習：発表のための実習記録の精査	1時間

	個別支援計画について学ぶことを通して、今後の実習への学ぶべきことを明確化します。		
第13回	**今後の実習に向けて** 実習を通して得た自己の課題を明確化していきます。	復習：面談のふりかえりをまとめる。	1時間
第14回	**個別のふりかえりと自己の課題の明確化・実習全体のふりかえり** 個別面談等を通して、実習を通しての学びを確認していきます。	復習：実習レポートを作成する。	1時間

434

授業科目名	**保育実習Ⅱ**				
担当教員名	池内昌美・可兒勇樹・石田貴子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	可兒：私立保育園に11年勤務（全10日間）				

授業概要

本授業は、保育実習指導Ⅱでの事前学習および他の教科目での学修を踏まえ、実際に保育所（幼保連携型認定こども園、小規模保育AB型及び事業所内保育事業を含む）で80時間（10日間）の実習を行う。
既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深め、子どもの観察や関わりの視点の明確化を通して保育の理解を深める。さらに、保育の計画･実践･観察･記録･自己評価に実際に取り組み、実習における自己の課題を明確化する。
実習の目標は、次の6点である。
１．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
２．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
３．既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
４．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
６．保育士としての自己の課題を明確化する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	全日保育実習指導計画案の作成と実践及び評価	全日保育実習指導計画案を作成して責任実習を行い、適切に振り返りをすることができる
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	これまでの学修の総合とそれに基づく保育実践	これまでの学修を総合し、全日指導計画案を作成して責任実習を行うことができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保育所の機能や役割を理解し、積極的に活動に参加することができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に実習に取り組み、振り返りを通して自己の課題を抽出することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		さまざまな視点から子ども等を見て、理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際を知り、工夫して課題に対応しようとすることができる

学外連携学修

有り(連携先：各実習先保育所)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
実習園の保育士による指導の他、大学教員が実習園を訪問して指導を行う。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習園からの評価 30 %	：	実習園からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況及び調整	：	80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。

45　%

実習記録　：　適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。
優れている：18～20点
適切である：14～17点
努力を要する：10～13点
不備が多い：～9点

20　%

調整　：　実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。

5　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞	・チャイルド本社 ISBN978-4-8054-0258-0	・2017　年

参考文献等

・『保育所保育指針解説』厚生労働省編（2018年）ISBN978-4-577-81448-2
※ほか、保育実習指導Ⅱの授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目で実地実習を行うには、保育実習指導Ⅱを受講し、事前指導を終えていることが必要となる。また、実地実習は80時間以上行うことが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　初回授業で伝達します

備考・注意事項：　e-mail：
【池内】ikeuchi@osaka-seikei.ac.jp
【可兒】kani@osaka-seikei.ac.jp
【石田】ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**実習（80時間　10日間）** 各実習施設（保育所）において、10日（80時間）の実習を行う。配属クラスの保育に補助的立場で参加し、個々の子どもや保育士の職務についての理解を深める。これを踏まえて、短時間・長時間の指導計画案を作成し、担任保育士に代わって保育を行う。実習反省会に参加し、実習を通しての自己の課題を明確にする。 ※実際の内容等は、実習園によって違いがある。	実習記録を作成する。指導計画案を作成し、準備を行う。	10時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間

		4時間
		4時間
		4時間
		4時間
		4時間
		4時間
		4時間

434

授業科目名	**保育実習指導Ⅱ**				
担当教員名	池内昌美・可兒勇樹・石田貴子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	可兒：私立保育園に11年勤務（全14回）				

授業概要

本授業は、保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰを振り返り、自己の到達点と課題を確認しながら、各科目の学習状況を踏まえて保育所保育に関する理解を深め、総合実習に向けた準備を行う。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅱでの到達点と新たな課題を確認する。また、日程に沿って、諸手続きも同時に行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	全日保育実習指導計画案の作成と実践及び評価	全日保育実習指導計画案を作成して責任実習を行い、適切に振り返りをすることができる
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	これまでの学修の総合とそれに基づく保育実践	これまでの学修を総合し、全日指導計画案を作成して責任実習を行うことができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		保育所の機能や役割を理解し、積極的に活動に参加することができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に実習に取り組み、振り返りを通して自己の課題を抽出することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な視点から子ども等を見て、理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際を知り、工夫して課題に対応しようとすることができる
5. DP７.忠恕の心		他者の考えを尊重しながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加･貢献	10 %	： 授業内での交流･発表への積極的な参加ができているか（5点満点）、参加の前提となる授業時間外学習に適切に取り組めているか（5点満点）で評価する。

授業内での課題達成	:	各回の授業内での課題に適切に取り組めていれば、2点満点×12回（24点）、模擬保育への取り組み6点満点×2回（12点）、適切な指導案作成7点満点×2種（14点）とする。
50 %		
実習レポート（期末）	:	実習終了後のレポートについて、独自のルーブリックに基づき評価する。
20 %		
実習報告会での発表	:	発表用ポスター作成5点満点、発表5点満点とし、各5段階で評価する。
10 %		
諸手続きの遂行	:	実習に必要な手続きを滞りなく行うことができれば10点満点とし、不備があるごとに減点する。
10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	・ チャイルド本社 ISBN978-4-8054-0258-0	・ 2017　年

参考文献等

・『保育所保育指針解説』厚生労働省編　(2018年) ISBN978-4-577-81448-2

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日伝達

場所：　後日伝達

備考・注意事項：　e-mail：
(池内) ikeuchi@osaka-seikei.ac.jp
(可兒) kani@osaka-seikei.ac.jp
(石田) ishida-ta@g.osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本授業の目標・内容・評価等について理解する。また、保育実習Ⅱの目標・内容・手続き等について、具体的に理解する。	シラバス及び保育実習の手引きを読み、保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱの概略について理解する。	1時間
第2回	**保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認** 保育実習Ⅰの事後指導を通じて明らかになった実習の成果と自己の課題を確認し、保育実習Ⅱにおける自己の目標と、それまでの学習計画について考える。	保育実習Ⅰ－１のレポートを読み返し、自己の課題を確認する。	1時間
第3回	**保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理** 保育所保育指針やDVD教材、実習体験の振り返り等により、保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理について理解を深める。	保育所保育指針を読み、保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理についてまとめる。	1時間
第4回	**子どもの保育と保護者への支援** 保育所保育指針やDVD教材、実習体験の振り返り等により、子どもの保育と保護者への支援について理解を深める。	保育所保育指針を読み、子どもの保育と保護者の支援についてまとめる。	1時間
第5回	**観察、記録、自己評価の視点と方法** 観察、記録、自己評価の視点と方法について確認し、保育実習Ⅰ－１での記録を見直す。	保育実習Ⅰ－１の記録を見直し、自己の課題を考える	1時間
第6回	**子どもの理解と適切な関わり** 実習体験を振り返り、子どもの理解と適切な関わりについて学びを深める。	保育実習Ⅰ－１におけるエピソードから、特に気になる事例を抽出する	1時間
第7回	**保育計画の理解と指導計画案の作成** 実習予定保育所にあわせ、全日実習の指導計画案を作成する。	３歳未満児対象及び３歳以上児対象の全日実習指導案を作成する	1時間
第8回	**指導計画案に基づく模擬保育の実施と振り返り(1)　3歳未満児対象** 全日実習指導計画案の中から活動を部分的に取り出し、模擬保育を行う。終了後、指導計画案と模擬保育について振り返り、課題を明確にする。	3歳未満児対象の全日実習指導案を見直し、模擬保育の準備をする	1時間
第9回	**指導計画案に基づく模擬保育の実施と振り返り(2)　3歳以上児対象**	3歳以上児対象の全日実習指導案を見直し、模擬保育の準備をする	1時間

	全日実習指導計画案の中から活動を部分的に取り出し、模擬保育を行う。終了後、指導計画案と模擬保育について振り返り、課題を明確にする。		
第10回	**実習直前指導** これまでの学習を振り返り、実習準備ができているかを確認する。	ワークシートに準備の状況を記入する。	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 実習を振り返り、自己評価を行う。	実習自己評価シートを作成する。	1時間
第12回	**実習体験に関する話し合いと発表** 実習体験についてグループで話し合い、発表する。	実習レポートを作成する。	1時間
第13回	**実習先評価に基づく個別面談および自己の課題の明確化** 実習先保育所からの評価にもとづき、担当教員との個別面談を行う。面談を踏まえ、保育者を目指す上での今後の課題と学習目標について考える。	面談を踏まえ、実習レポートを見直す。	1時間
第14回	**総括** 実習レポートに基づき、ポスターを用いて実習報告会を行う。	報告会のためのポスターを作成する。	1時間

434

授業科目名	保育実習Ⅲ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全回）				

授業概要

本授業は、保育実習指導Ⅲでの事前学習および他の教科目での学修を踏まえ、実際に保育所以外の児童福祉施設等で80時間（10日間）の実習を行う。
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに保護者・家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。さらに、保育士の業務内容や職業倫理を具体的実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確化する。
実習の目的は、次の４点である。
１．児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。
２．保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
３．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
４．実習における自己の課題を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、具体的に理解することができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		保育の計画・観察・記録を適切に行い、自らの実践を省察し、自己の課題を明確化することができる。
2. DP３.社会への貢献態度		保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各実習先（保育所以外の児童福祉施設等））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
実習施設職員による指導の他、大学教員が実習施設を訪問して指導を行う。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習施設からの評価	30 %	： 実習施設からの評価を換算する。総合評価：20点満点、項目別評価：10点満点。
実習への参加・取り組み状況	45 %	： 80時間以上実習を行っている状態を45点とし、遅刻や早退、欠勤で延長した場合、減点していく。
実習記録	20 %	： 適切に実習記録の記入ができているかを、同一基準にて評価する。 優れている：18～20点 適切である：14～17点 努力を要する：10～13点 不備が多い：～9点

調整　　：　実習中の訪問指導の状況、実習中に取り組んだ課題の量と質などにより、評価を調整する。

5　％

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
喜多一憲・児玉俊郎・吉村美由紀・吉村譲　編	・保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック	・みらい	・2019　年

参考文献等

※ 保育実習指導Ⅲの授業中、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目で実地実習を行うには、保育実習指導Ⅲを受講し、事前指導を終えていることが必要となる。また、実地実習は80時間以上行うことが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日２講時

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス　yamamoto-to@g.osaka-seikei.ac.jp

ただし、件名に「保育実習指導３：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
実習（80時間　10日間） 各実習施設において、80時間（10日間）の実習を行う。	実習計画書、実習記録、実習レポートの作成	10時間
		時間

434

授業科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全14回）				

授業概要

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに保護者・家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。さらに、保育士の業務内容や職業倫理を具体的実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確化する。

具体的な授業のねらいは次の４点である。
１．児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解する。
２．保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
３．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
４．実習における自己の課題を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深めることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		実習に取り組むことを通して、自己に課せられた役割・課題を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： 準備的学習の状況、授業への取組の積極性などを観点として評価する。
課題達成度	30 %	： 個別支援計画、実習計画の作成状況、実習の事後指導での省察の深まりなどを観点として評価する。
実習レポート（期末）	40 %	： 実習の成果と課題、学習目標が明確に述べられているかどうかを評定する。
諸手続の遂行		： 実習に関わる諸手続の遂行状況を評価する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
喜多一憲・児玉俊郎・吉村美由紀・吉村譲　編	・保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック	・みらい	・2019　年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日２講時

場所：　中央館２階個人研究室72

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@g.osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育実習指導３：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー保育実習Ⅲの目標・内容についてー** ①本授業の目標・内容・評価等について　②保育実習Ⅲの目標・内容について	予習：テキスト第１部を熟読しておくこと	1時間
第2回	**保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認** これまでの保育実習をふりかえり、児童福祉施設での実習への課題を確認していきます。	予習：保育実習Ⅰ－２の実習記録を読み直すこと	1時間
第3回	**子どもの最善の利益を考慮した養護・療育の具体的理解** 養護・療育について、子どもの最善の利益を踏まえて理解を深めます。	予習：テキスト118～119ページを熟読しておくこと	1時間
第4回	**子どもの養護と療育と保護者支援** 保育士にとってのソーシャルワーク的援助の視点について理解を深めます。	予習：テキスト120～123ページを熟読しておくこと	1時間
第5回	**地域社会とのかかわりへの理解** 施設と地域の関係、他機関との連携について理解を深めます。	予習：テキスト123～125ページを熟読しておくこと	1時間
第6回	**子ども支援の基本的態度** 対人援助者としての基本的態度について再確認していきます。	予習：相談援助での学びをまとめておく	1時間
第7回	**子どものニーズ把握と適切な関わり** ニーズを多面的に理解し、支援計画につながるアセスメントの在り方について理解を深めます。	予習：相談援助での学びをまとめておく	1時間
第8回	**個別支援計画の理解** 事例を通して個別支援計画の意義について理解していきます。	予習：個別支援計画案の作成すること	1時間
第9回	**個別支援計画の作成** 事例を通して個別支援計画について理解していきます。	予習：部分的支援計画案を作成すること	1時間
第10回	**実習直前指導** 実習に際しての具体的な留意事項などを確認していきます。	予習：実習計画書案を作成しておくこと	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 事後指導として、実習をふりかえります。	予習：テキスト第５部を熟読しておくこと	1時間
第12回	**実習体験に関する話し合いと発表** 受講生相互に話し合うことで、実習体験をわかちあいます。	予習：発表のための実習記録の精査	1時間
第13回	**実習先評価に基づく個別面談** 個別面談を通して、実習を通しての学びを確認していきます。	復習：面談のふりかえりをまとめる。	1時間
第14回	**保育士としての自己の課題の明確化** 実習を通して得た自己の課題を明確化していきます。	復習：実習レポートを作成する。	1時間

432

授業科目名	保育体験活動				
担当教員名	高尾淳子・鈴木勇・高木玉江・齋藤久美子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高尾：保育所保育士および中学校英語科教員として勤務（全14回） 高木：保育所保育士として勤務（全14回）				

授業概要

保育体験活動は、実習の一環として位置づけられる。保育・教育現場での活動に継続的に取り組む中で、保育者・教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子どもとのかかわり方やその他の業務を体験するとともに、保育現場で得られるさまざまな気付き･学びを記録し、省察することで学びを深める。授業では記録に基づく交流を行ない、自己の課題を明らかにした上で、教育･保育実習での学びへと繋ぐ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に保育・教育現場に身を置くことによって日常的な業務内容を知ると同時に、求められる専門的な知識や技能を理解する。	保育者・教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

有り(連携先：各体験活動先保育所)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
　必要に応じて、ゲストスピーカーを呼ぶ場合がある。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	40 %	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言、教材作成、模擬保育等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
体験活動記録	50 %	： 記録の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末レポート		： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡

場所：　初回授業で連絡

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後に回答するほか、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：後日連絡

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等）** 本授業の目標・内容・課題・評価等について共有する。 保育体験活動に係る書類を確認し、準備する。	授業で指示された課題に取り組むこと。	4時間
第2回	**保育体験活動の意義・目的・留意事項** 保育体験活動の意義、目的、および留意すべき事項を理解し、心構えをする。	保育体験活動に臨むに当たり、必要な準備事項をまとめておく。	4時間
第3回	**保育体験活動実施園についての事前学修および自らの目標課題設定** 保育体験活動実施園に関する事前学修内容を確認した上で、自らの目標課題を設定する。	保育体験活動に臨むに当たり、実習先の園の概要を調べておく。	4時間
第4回	**保育体験活動「事前訪問報告書」の作成** 保育体験活動実施園での事前訪問結果を整理して報告書を作成する。	保育体験活動実施園の保育・教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**模擬保育（絵本遊び）** 保育体験活動での実践を想定し、絵本のさまざまな活用法を理解する。 各グループで選定した絵本を用いて、模擬保育を行なう。	模擬保育前には教材を準備し、実践練習をする。 模擬保育後には振り返りを行ない、改善点を整理する。	4時間
第6回	**保育体験活動の省察（1）** 第１回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 クラスメイトと学修内容を共有したうえで、第２回保育体験活動の目標設定をする。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**保育体験活動の省察（2）** 第２回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 クラスメイトと学修内容を共有したうえで、第３回保育体験活動の目標設定をする。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**保育体験活動の省察（3）** 第３回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 クラスメイトと学修内容を共有したうえで、第４回保育体験活動の目標設定をする。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**保育体験活動の省察（4）** 第４回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 グループ内で学修内容を共有したうえで、第５回保育体験活動の目標設定をする。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**保育体験活動の省察（5）** 第５回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 グループ内で学修内容を共有したうえで、第６回保育体験活動の目標設定をする。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**保育体験活動の省察（6）** 第６回保育体験活動における自己の学びを振り返る。 グループ内で学修内容を共有する。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**グループディスカッション** グループ内で保育体験活動での学びを振り返り、子どもへの具体的な関わり方を検討する。 各グループでポスターを作成し、クラスでプレゼンテーションを行なう。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**報告書作成と発表会について** 保育体験活動での学びを明確化する。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間

第14回	**まとめと質疑応答** 保育体験活動全体を振り返り、次の保育実習に向けての自己課題を明確に整理する。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

431

授業科目名	**教職実践演習（幼稚園、小学校）**				
担当教員名	加藤博之・片岡章彦				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回） 片岡：私立認定こども園にて教諭として21年間勤務経験（全14回）				

授業概要

本授業では、教職課程（幼稚園、小学校）に関するこれまでの学修を振り返り、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項、のそれぞれについて、幼稚園教諭・小学校教諭として必要な知識・技能の修得状況を確認し、必要に応じて補完的指導を行う。さまざまな角度から一人ひとりの資質能力が確認できるよう、講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬授業・模擬保育などの方法を適宜取り入れる。
また、現職又は元教員からの特別授業も企画する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	学校・保育現場における実践的な内容について学ぶ。	学校・保育現場における指導内容・指導方法について、演習を通して身につける。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		目標に向かってやりとげることができる。
2. DP７.忠恕の心		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30 %	： 授業内でのグループ討論、ロールプレイング等への関与状況。
課題達成度	30 %	： 2点×14回。毎授業終了時点で提出するふりかえりシートの記載内容。 教員としての専門性を踏まえたふりかえりができている：2点 授業内容を踏まえている：1点 教職履修カルテ：2点
期末レポート	40 %	： 授業概要記載の4項目につき、現時点での到達点及び今後更に向上させるために必要なことを具体的かつ詳細に記載できている：10点 具体性を欠くもしくは詳細ではない：5点 具体性を欠くかつ詳細ではない：1点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 各教員研究室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
加藤：katoh-h@osaka-seikei.ac.jp
片岡：kataoka-f@osaka-seikei.ac.jp

ただし、件名に「教職実践演習：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―授業の内容や授業の目的を知り、教職課程の履修を振り返る** ①本授業の目標・内容・評価等について理解します。②これまでの学修を振り返り、教員として資質能力及び実践的指導力の基礎がどのくらい培われているかを、履修カルテを通して確認します。 キーワード：オリエンテーション、履修カルテ	これまでの履修カルテ記載事項を確認しておくこと	4時間
第2回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(1)　教員に求められる資質能力** 教員に求められる資質能力について、歴史的変遷を踏まえながらグループ討論などを通して理解を深めます。 キーワード：求められる資質能力	教員の資質能力に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第3回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(2)　教員としての使命感・愛情** 教員としての使命感や教育的愛情について、歴史的変遷を踏まえながら、グループ討論などを通して理解を深めます。 キーワード：使命感、教育愛	教員としての使命感・愛情に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第4回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(3)　教員の職務内容と責任** 教員の職務内容と子どもに対する責任について、事例を検討することなどを通して理解を深めます。キーワード：教師の１日と責任	教員の職務内容と責任に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第5回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(1)　教員に求められる社会性** 「幼稚園」「学校」という組織の一員であることの自覚について、グループ討論や事例の検討などを通して理解を深めます。 キーワード：教員組織、学校(園)文化	教員に求められる社会性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第6回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(2)　人間関係構築の基礎** 人間関係構築の基礎について、講義やグループ討論などを通して理解を深めます。 キーワード：組織内における人間関係の構築	人間関係構築の基礎に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第7回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(3)　保護者や地域関係者との関係構築** 保護者や地域の関係者との人間関係の構築について、事例の検討やロールプレイングなどを通して理解を深めます。 キーワード：保護者・地域との信頼構築	保護者等との関係構築に関して指示する課題に取り組む	4時間
第8回	**子ども理解と学級経営(1)　幼児・児童理解と適切な関わり** 幼児・児童理解と適切な関わりについて、実習事例の検討などを通して理解を深めます。 キーワード：幼児・児童理解の実際	幼児・児童理解と関わりに関して指示する課題に取り組む	4時間
第9回	**子ども理解と学級経営(2)　幼児・児童理解に基づく学級経営** 幼児・児童理解に基づく学級経営について、教員勤務経験者の講義を通して理解を深めます。 キーワード：教員経験者の講話から学ぶ。	幼児・児童理解と学級経営に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第10回	**子ども理解と学級経営(3)　子どもの問題と学級経営** いじめ・不登校（園）などの問題と学級経営について、事例の検討やロールプレイングなどを通して理解を深めます。 キーワード：いじめ・不登校（園）	子どもの問題と学級経営に関して指示する課題に取り組むこと	4時間

第11回	**教科・保育内容等の指導力(1)　　授業・保育の計画と評価** 学習指導計画案、保育指導計画案の作成と評価について、講義やグループ討論などを通して理解を深めます。それをもとに、指導計画案を作成します。 キーワード：指導計画作成の実際	授業・保育の計画と評価に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第12回	**教科・保育内容等の指導力(2)　　模擬保育・授業の実践と振り返り** 作成した保育・学習指導計画案をもとに模擬保育・授業を実施し、評価の観点にもとづいて振り返ります。 キーワード：模擬保育・模擬授業の実践①	保育・学習指導計画案作成と模擬授業に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第13回	**教科・保育内容等の指導力(3)　　模擬保育・授業の実践と振り返り** 作成した保育・学習指導計画案をもとに模擬保育・授業を実施し、評価の観点にもとづいて振り返ります。 キーワード：模擬保育・模擬授業の実践②	保育・授業指導計画案作成と模擬保育・授業に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第14回	**教科・保育内容等の指導力(4)　幼小の連携・接続** 幼稚園と小学校との連携・接続について、教員勤務経験者の講義やグループ討論などを通して理解を深めます。 キーワード：教員経験者の講話から学ぶ。	幼小の連携・接続に関して指示する課題に取り組むこと	4時間

434

授業科目名	**保育・教職実践演習（幼稚園）**				
担当教員名	石田貴子・片岡章彦・齋藤久美子・園田育代				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	片岡：私立認定こども園にて教諭として勤務（全14回） 園田：幼稚園に勤務（全14回）				

授業概要

本授業では、教職課程及び保育士養成課程に関するこれまでの学修を振り返り、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③子ども理解や学級経営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項、のそれぞれについて、幼稚園教諭・保育士として必要な知識・技能の修得状況を確認し、必要に応じて補完的指導を行う。さまざまな角度から一人ひとりの資質能力が確認できるよう、講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬保育などの方法を適宜取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教員・保育者としての使命感・責任感・愛情、社会性・対人関係能力、子ども理解と学級経営、保育内容等の指導力の確認	4年間の学修を振り返り、自己の到達点と課題を理解することができる
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育・保育現場でのさまざまな事例の検討と実習体験の共有	事例や体験を保育者の視点で分析し、考察することができる
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		さまざまな保育現場の役割や機能を具体的に理解し、専門職として働く自覚をもつことができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		自己の到達点と課題を理解し、克服に向けて努力することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		ひとつの事例を様々な視点から検討し、他者理解を深めることができる
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		保育現場の実際から課題を見出し、対応を工夫することができる
5. DP７.忠恕の心		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業参加度	： 2点×14回（授業内でのグループ討論、ロールプレイング等への関与状況）+4点（履修カルテ） 積極的に参加・発言し、授業に大きく貢献している：2点 必要な活動を行っている：1点 履修カルテの適時記入と関連レポート綴じこみができている：4点 カルテに一部不備はあるが、おおむね適切である：3点 カルテの記入漏れやレポート不足等が多い：2点

課題達成度	32　%	: 2点×14回：毎授業終了時点で提出するふりかえりシートの記載内容。 教員としての専門性を踏まえたふりかえりができている：2点 授業内容を踏まえている：1点
期末レポート	28　%	: 授業概要記載の4項目につき、現時点での到達点及び今後更に向上させるために必要なことを具体的かつ詳細に記載できている：10点 具体性を欠くもしくは詳細ではない：5点 具体性を欠くかつ詳細ではない：1点
	40　%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省　厚生労働省　内閣府	・幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉	・チャイルド本社	・2017　年

参考文献等

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81447-5 ）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81448-2）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館　2018年　ISBN978-4-577-81449-9）
ほか、適宜、授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、教職履修カルテを作成していることが授業参加の前提となるため、記入漏れがないよう確認しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で伝達します

場所：　各教員研究室

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
石田：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
片岡：kataoka-f@osaka-seikei.ac.jp
齋藤：saito-k@osaka-seikei.ac.jp
園田：後日伝達
ただし、件名に「保育・教職実践演習：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―授業の内容や授業の目的を知り、教職・保育士養成課程の履修を振り返る** ①本授業の目標・内容・評価等について理解します。②直近の実習及びこれまでの学修を振り返り、教員・保育士として資質能力及び実践的指導力の基礎がどのくらい培われているかを、実習レポートや履修カルテを通して確認します。	直近の実習レポート及びこれまでの履修カルテ記載事項を確認しておくこと	4時間
第2回	**使命感、責任感、教育的愛情等（1）　教員・保育士に求められる資質能力** 教員・保育士に求められる資質能力について、グループ討論などを通して理解を深めます。	教員・保育士に必要とされる資質能力に関し、履修カルテ「資質評価」を見直しておくこと	4時間
第3回	**使命感、責任感、教育的愛情等（2）　教員・保育士としての使命感・愛情** 教員・保育士としての使命感や教育的愛情について、グループ討論などを通して理解を深めます。	これまでの実習記録を見直し、実習先指導者からの助言から、使命感や教育的愛情について考えること	4時間
第4回	**使命感、責任感、教育的愛情等（3）　教員・保育士の職務内容と責任** 教員・保育士の職務内容と子どもに対する責任について、事例を検討することなどを通して理解を深めます。	幼稚園教育要領・保育所保育指針を読み、教員・保育士の職務についてまとめること	4時間
第5回	**教員・保育士に求められる社会性・対人関係能力（1）　教員・保育士に求められる社会性** 組織の一員であることの自覚について、グループ討論や事例の検討などを通して理解を深めます。	教員に求められる社会性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第6回	**教員・保育士に求められる社会性・対人関係能力（2）　保護者や地域関係者との関係構築** 保護者や地域の関係者との関係構築について、講義や事例の検討、ロールプレイングなどを通して理解を深めます。	日常での自分の人間関係を振り返り、傾向や特徴について考えること	4時間
第7回	**子ども理解と学級経営（1）　子ども理解と適切な関わり** 子ども理解と適切な関わりについて、実習事例の検討などを通して理解を深めます。	これまでの実習記録の「エピソード」と「考察」を見直し、自分の子ども理解と関わり方について考えること	4時間
第8回	**子ども理解と学級経営（2）　子ども理解に基づく学級経営**	「学級経営」という視点から、自分の実習記録の「エピソード」と「考察」を読み返すこと	4時間

	子ども理解に基づく学級経営について、教員勤務経験者の講義を通して理解を深めます。		
第9回	**子ども理解と学級経営（３）　子どもの問題と学級経営** 子どもの問題と学級経営について、事例の検討やロールプレイングなどを通して理解を深めます。	前回の講義からの学びをまとめること	4時間
第10回	**保育内容等の指導力、子育て家庭への支援（１）　保育の計画と評価** 保育指導計画案の作成と評価について、講義やグループ討論、事例の検討などを通して理解を深めます。それをもとに、指導計画案を作成します	これまでの実習で作成した指導計画案を見直し、自分の課題について考えること	4時間
第11回	**保育内容等の指導力、子育て家庭への支援（２）　模擬保育の実践と振り返り** 作成した保育指導計画案をもとに模擬保育を実施し、評価の観点にもとづいて振り返ります。	指示された課題に沿った指導計画案を作成すること	4時間
第12回	**保育内容等の指導力、子育て家庭への支援（３）　保幼小の連携・接続** 保育所、幼稚園と小学校との連携・接続について、教員勤務経験者の講義やグループ討論などを通して理解を深めます。	「小1プロブレム」について調べること	4時間
第13回	**保育内容等の指導力、子育て家庭への支援（４）　子育て家庭への支援** 子育て家庭への支援や施設養護などについて、実務経験者の講義や事例の検討、グループ討論などを通して理解を深めます。	これまでの実習記録を見直し、子育て家庭への支援や施設養護などに関して、体験からの学びをまとめること	4時間
第14回	**資質能力の確認と自己の課題の明確化** 教職課程・保育士養成課程の学修を振り返り、自分の到達度と課題について理解を深めます。	履修カルテを完成させること	4時間

432

授業科目名	**基礎ゼミⅠ**				
担当教員名	鈴木勇・羽野ゆつ子・保田直美・惟任泰裕・須谷弥生・齋藤久美子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究法の基礎について学び、研究とは何かを理解することが本授業の目的である。教育・保育のプロセスや対象となる幼児・児童を理解する上で重要な問いの立て方、さまざま研究方法（質問紙調査法、フィールド調査法、インタビュー法、授業分析など）を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを理解し、研究倫理についても把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	研究の目的と方法	教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法の基礎について学び、その特徴を理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		研究論文や研究方法を自らの課題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（コメントカード、ワークなど）	30 %	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
課題（ワークシート・ミニレポートなど）	60 %	： 6回の提出課題について、文章力、読解力、理論的構成力等の観点から評価する。
期末レポート	10 %	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の演習であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 備考参照

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究とは** 授業の趣旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについてその概略を学びます。	卒業研究論文の概要を計画する。	4時間
第2回	**研究方法（1）インタビュー調査法** インタビュー調査法についてその目的と方法を理解する。	配布されたインタビュー調査法に関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第3回	**文献による理解（1）インタビュー調査法** インタビュー調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返りインタビュー調査法についてまとめてくる。	4時間
第4回	**研究方法（2）アンケート調査法** アンケート調査法についてその目的と方法を理解する。	配布されたアンケート調査法に関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第5回	**文献による理解（2）アンケート調査法** アンケート調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返りアンケート調査法についてまとめてくる。	4時間
第6回	**研究方法（3）行動観察法** 行動観察法についてその目的と方法を理解する。	配布された行動観察法に関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第7回	**文献による理解（3）行動観察法** 行動観察法を用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返り行動観察法についてまとめてくる。	4時間
第8回	**研究方法（4）当事者研究** 当事者研究についてその目的と方法を理解する。	配布された当事者研究に関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第9回	**文献による理解（4）当事者研究** 当事者研究を用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返り当事者研究についてまとめてくる。	4時間
第10回	**研究方法（5）フィールドワーク** フィールドワークについてその目的と方法を理解する。	配布されたフィールドワークに関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第11回	**文献による理解（5）フィールドワーク** フィールドワークを用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返りフィールドワークについてまとめてくる。	4時間
第12回	**研究方法（6）文献研究** 文献研究についてその目的と方法を理解する。	配布された文献研究に関する論文を読んでまとめてくる。	4時間
第13回	**文献による理解（5）文献研究** 文献研究を用いた研究論文を読んで理解する。	授業を振り返り文献研究についてまとめてくる。	4時間
第14回	**研究倫理** 研究者に必要な研究倫理とその内容を理解する。また卒業研究に必要な研究倫理審査の手続きについて理解する。	最終レポートの作成	4時間

432

授業科目名	**基礎ゼミⅡ**				
担当教員名	惟任泰裕・池内昌美・岡林典子・可兒勇樹・須谷弥生・園田育代				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：私立、公立幼稚園にて教諭、主幹教諭として20年間勤務(全14回) 可兒：私立保育所にて保育士として11年間勤務（全14回）				

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解することが本授業の目的である。教育的事象を分析していく上で理解しておくべき様々な研究方法（事例研究、観察法、実験法、質問紙調査法、インタビュー法）を学び、実際に研究を遂行するためのスキル（質的および量的研究の分析法や論文の記載法等）を体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	研究方法	教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		研究論文や研究方法を自らの問題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（コメントカード、ワークなど）	20 %	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
課題（レポートなど）	60 %	： 3回の提出課題について、文章力、読解力、理論的構成力等の観点から評価する。
文献発表	10 %	： 読解力と表現力によって評価する。
期末レポート	10 %	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 備考参照

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究へのいざない** 科目の主旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについての概要を学びます。	これから学ぶ3つの方法論について論点をまとめる。	4時間
第2回	**参与観察法（1）　観察対象の選定と分析の方法** 参与観察法の概要と視点を学びます。	参与観察法の概要をまとめる。	4時間
第3回	**参与観察法（2）　保育実践の観察** 参与観察法（幼児教育）の事例研究の方法を学びます。	観察した対象（幼児教育）の論点をまとめる。	4時間
第4回	**参与観察法（3）　授業実践の観察** 参与観察法（初等教育）の事例研究の方法を学びます。	観察した対象（初等教育）の論点をまとめる。	4時間
第5回	**参与観察法（4）　参与観察レポートの作成方法** 参与観察法に基づく研究レポートの作成方法を学びます。	参与観察法についてレポートを完成させる。	4時間
第6回	**アンケート調査法（1）　質問紙の作成** アンケート調査法の概要と、質問紙の作成方法を学びます。	アンケート調査の質問項目を完成させる。	4時間
第7回	**アンケート調査法（2）　質問紙調査の分析方法** 分析の視点を検討し、データ分析の方法を学びます。	アンケート調査の分析方法について論点をまとめる。	4時間
第8回	**アンケート調査法（3）　データ分析と結果の整理** データ分析の結果を読み、考察します。	アンケート調査法に関するレポート作成に向けて、文献を読む。	4時間
第9回	**アンケート調査法（4）　量的研究レポートの作成方法** 図表の作成や、レポート作成の方法を学びます。	アンケート調査法についてレポートを完成させる。	4時間
第10回	**インタビュー調査法（1）　インタビュー項目の作成** インタビュー調査法の概要を学び、インタビュー項目を考えます。	インタビュー項目を完成させ、協力者にアポイントを取る。	4時間
第11回	**インタビュー調査法（2）　インタビュー・データの分析方法** 質的データの分析方法を学びます。	インタビューを実施する。	4時間
第12回	**インタビュー調査法（3）　インタビュー・データの分析** インタビュー・データを分析し、結果を整理し、考察します。	インタビュー調査法に関するレポート作成に向けて、文献を読む。	4時間
第13回	**インタビュー調査法（4）　質的研究レポートの作成方法** 質的データに基づく研究レポートの作成方法を学びます。	インタビュー調査法についてレポートを完成させる。	4時間
第14回	**研究方法の整理** これまでの授業内容を振り返り、卒業研究とのつながりについて整理する。	最終レポートを完成させる。	4時間

433

授業科目名	専門基礎演習Ⅰ（初等教育・幼児教育）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、インターンシップ等での教育・保育実践経験をふりかえり、受講生自身の課題意識を明確にしていく。その後、広い意味での教育・保育に関わる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開を学ぶ。受講生には、担当の文献を読み、発表することが求められる。この過程をとおして、文献の批判的な読み方および教育・保育についての認識を深めていく。最後に、研究の視点から教育・保育実習のテーマを検討する。並行して、４年生の卒業研究構想発表・研究計画立案の発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	受講者の個別課題	個別課題の基づく文献研究と認識を深める
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		個別の課題に基づく文献研究と課題への認識を深める
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		討議に積極的に参加し、意見を述べることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況(ポートフォリオを含む)	60 %	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
試験（研究構想提出または発表）	20 %	： 研究構想を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年　　ISBN: 9784623065721

・『保育研究へのアプローチ１　課題研究・ゼミナールの手引き』飯田良治　民秋言編　萌文書林　1988年
ISBN: 9784893470188

その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理に関する学習・文献の講読（１）　講読文献の選定と文献の読み方** インターンシップ等での教育・保育実践経験をふりかえりを含めて、受講生の自己紹介を行い、関心を共有する。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。日本学術振興会の研究倫理教育教材等を用いて、研究を進めたり論文を書いたりする際に求められる研究倫理について学習する。講読文献と発表担当者を決め、文献の読み方の基本を再確認する。	テーマ構想発表準備	4時間
第2回	**文献の講読（２）　目的と方法の関連性** 研究の目的と方法の関連性に着目し、文献講読の方法を確認する。	テーマ構想発表準備	4時間
第3回	**卒業研究の構想発表参加（１）　第１グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表準備	4時間
第4回	**卒業研究の構想発表参加（２）　第２グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表準備	4時間
第5回	**卒業研究の構想発表参加（３）　第３グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表レジュメ作成	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（１）　第１グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	テーマ構想発表レジュメ作成・文献調査	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（２）　第２グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	テーマ構想発表レジュメ作成・文献調査	4時間
第8回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（３）　第３グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	文献調査	4時間
第9回	**卒業研究の計画発表参加（１）　第１グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献調査	4時間
第10回	**卒業研究の計画発表参加（２）　第２グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献調査	4時間
第11回	**卒業研究の計画発表参加（３）　第３グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献講読発表準備	4時間
第12回	**文献の講読（１）　第１グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	文献講読発表準備	4時間
第13回	**文献の講読（２）　第２グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	文献講読発表準備	4時間

第14回	**文献の講読（３）　第３グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	テーマ構想	4時間

433

授業科目名	専門基礎演習Ⅱ（初等教育・幼児教育）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、保育・教育分野における自己の関心・課題を明確にし、専門研究につなげることをねらいとする。専門基礎演習Ⅰで明確になった各自の関心・課題にもとづき、保育学・教育学の先行研究を調査して分析し、研究方法や到達点などについて討論する。この過程で先行研究調査と分析の方法を学び、各自の研究テーマを考え、そのテーマに基づく資料収集や調査研究などを行う。並行して４年生の卒業研究中間発表・研究概要発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。データ管理、引用、実験及び著作権等に関する研究倫理の学習を継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	受講者の個別課題	各自のテーマを定め、批判的に考察することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		各自の課題の遂行、プレゼン
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況（ポートフォリオを含む）	60 %	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
試験（研究計画書提出）	20 %	： 卒業研究計画書（３年次）版を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年　　ISBN: 9784623065721

・『保育研究へのアプローチ１　課題研究・ゼミナールの手引き』飯田良治　民秋言編　萌文書林　1988年
ISBN: 9784893470188
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。
卒業研究計画書（３年次）未提出の場合、不合格となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。研究倫理について確認する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第2回	**卒業研究中間発表への参加（1）　第１グループ** ４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第3回	**卒業研究中間発表への参加（2）　第２グループ** ４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第4回	**卒業研究中間発表への参加（3）　第３グループ** ４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第5回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（1）　第１グループ** 教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。	先行研究調査計画	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（2）　第２グループ** 教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。	先行研究調査計画	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（3）　第３グループ** 教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。	先行研究整理（扱う順の検討・分析の視点）	4時間
第8回	**研究概要発表への参加（1）　第１グループ** ４年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー	4時間
第9回	**研究概要発表への参加（2）　第２グループ** ４年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー	4時間
第10回	**研究概要発表への参加（3）　第３グループ** 4年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第11回	**先行研究についての討論（1）　第１グループ** 第１グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第12回	**先行研究についての討論（2）　第２グループ** 第２グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第13回	**先行研究についての討論（3）　第３グループ** 第３グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	卒業研究計画書作成準備	4時間
第14回	**卒業研究のテーマと構想と卒業論文完成報告** これまでの学びを踏まえ、卒業研究のテーマと構想の概要を発表する。４年生の卒業論文完成報告を聴く。	卒業研究計画書提出	4時間

434

授業科目名	専門演習Ⅰ				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。受講生は、各自の卒業研究を構想し計画して発表する。特に、問題設定（問題意識、概念定義、先行研究、仮説）に基づく研究方法の立案を中心に、構想の妥当性を全体で検討・討議して、各自の研究にフィードバックさせていく。並行して、３年生のテーマ構想発表・文献講読に参加し、討議に参加するとともに、自身の研究方法にフィードバックさせる機会とする。研究遂行過程をとおして、研究倫理の学習も継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各自の課題（卒業研究）を行う	各自の課題（卒業研究）の研究方法を立案し、実施する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各自の課題（卒業研究）を行う
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループ討議での建設的な意見

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況（ポートフォリオを含む（	60 %	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
試験（研究計画書提出または研究計画発表）	20 %	： 5月の研究計画書からの進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年　　ISBN: 9784623065721
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理に関する学習・卒業研究の構想に向けた調査（1）　調査の計画** 各自のテーマを発表し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。日本学術振興会の研究倫理教育教材等を用いて、研究を進めたり論文を書いたりする際に求められる研究倫理について学習する。卒業研究の構想に向けた調査について、実施計画を立てる。	研究方法立案に向けた調査計画の構想	4時間
第2回	**卒業研究の構想に向けた調査（2）　方法の立案** 調査結果（文献紹介など）にもとづき、卒業研究方法を立案する。	研究計画書の作成	4時間
第3回	**卒業研究の構想発表（1）　第１グループ** 第1グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成	4時間
第4回	**卒業研究の構想発表（2）　第２グループ** 第2グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成	4時間
第5回	**卒業研究の構想発表（3）　第3グループ** 第3グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成・提出	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（1）　第１グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（1）　第２グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施	4時間
第8回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（1）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第9回	**卒業研究の計画立案（1）　第１グループの発表と検討** 第1グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第10回	**卒業研究の計画立案（2）　第２グループの発表と検討** 第2グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第11回	**卒業研究の計画立案（3）　第３グループの発表と検討** 第3グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	調査等の実施	4時間
第12回	**文献の講読への参加（1）　第１グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間
第13回	**文献の講読への参加（2）　第２グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間
第14回	**文献の講読への参加（3）　第３グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間

434

授業科目名	専門演習Ⅱ				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の進め方に関する指導を受けながら卒業研究を完遂する。演習では各自の卒業研究の進捗発表を行う。専門演習Ⅰで設定した問題と研究方法（対象者、材料・文献、手続き）と研究の進捗を中心に、全体で検討・討議して各自の研究にフィードバックさせていく。これらを通じて、卒業研究の成果物としての卒業論文を完成させる。並行して３年生のテーマ構想発表・文献レビュー発表に参加し、自身の研究にフィードバックさせる。研究倫理について、研究の遂行と論文執筆の過程で生じた疑問等について、個別に指導を受けながら学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各自の課題	卒業論文の完成
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	討議への参加	建設的な意見を述べる
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		各自の課題

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
各自の課題への進捗状況（ポートフォリオを含む）	60 %	：	各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	：	討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
試験（卒業研究発表会）	20 %	：	卒業研究発表会の発表および参加について、卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年　　ISBN: 9784623065721
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・卒業研究中間発表準備** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。中間発表に向けて、各自の研究構想と計画を再確認し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に、卒業研究中間発表準備を進める。	中間発表準備	4時間
第2回	**卒業研究中間発表（１）　第1グループ** 第1グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	中間発表準備・調査等の実施、結果の整理	4時間
第3回	**卒業研究中間発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	中間発表準備・調査等の実施、結果の整理	4時間
第4回	**卒業研究中間発表（３）　第３グループ** 第３グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第5回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（２）　第２グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（３）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理、研究概要発表準備	4時間
第8回	**研究概要発表（１）　第１グループ** 第1グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理、研究概要発表準備	4時間
第9回	**研究概要発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（序章）	4時間
第10回	**研究概要発表（３）　第３グループ** 第２グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第11回	**先行研究についての討論への参加（１）　第１グループと論文執筆進捗報告** 年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第12回	**先行研究についての討論への参加（２）　第２グループと論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	論文執筆（終章）	4時間
第13回	**先行研究についての討論への参加（３）　第３グループと論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	図表や注、文献を整理し、全体を推敲する。第３グループの先行研究についての討論への参加（３）	4時間
第14回	**卒業研究のテーマと構想への参加　と　卒業論文完成報告** ３年生の卒業研究のテーマと構想の概要発表に参加し、全体Tで討議する。卒業論文の完成報告を行い、提出準備を完了させる。	卒業論文提出	4時間

431

授業科目名	**教育学概論**				
担当教員名	**山本智也・惟任泰裕**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（第2回）				

授業概要

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に当面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不充分である。そこで、この授業では、教育をめぐる現実の問題状況をどのようにとらえ、どのようにして解決に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視して教育の意義・目的を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育思想・歴史的展開の理解	教育に関する様々な思想を理解した上で、その今日的意義を理解できる。 教育の歴史的展開をとらえ、近代教育制度の成立と展開を理解できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもの現状を踏まえた上で、教育をめぐる課題を発見し、解決の方向性を考えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 教育の歴史、思想について的確に理解することができているかを評価の基準とします。
レポート	15 %	： 教育思想家を一人取り上げ、その思想の今日的意義についての理解度を評価の基準とします。
授業への参加度	45 %	： 各授業回のテーマに関する予習シート（30%）、各授業の最後に提出する小レポート（15%）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川信廣・山本智也編　「現代社会と教育の構造変容」　ナカニシヤ出版　2018年 ISBN:9784779512650

教育思想史学会編　「教育思想事典 増補改訂版」　勁草書房　2017年　ISBN:978-4-326-25122-3
広田照幸　「日本人のしつけは衰退したか　「教育する家族」のゆくえ」　講談社　1999年 ISBN:978-4061494480
ポルトマン　「人間はどこまで動物か－新しい人間像のために」　岩波書店　1961年　ISBN:978-4004161219
デューイ　「学校と社会」岩波書店　1957年 ISBN:978-4003365229
デューイ　「民主主義と教育」(上下)　岩波書店　1975年　上のISBN:978-4003365236 下のISBN:978-4003365243
デューイ　「経験と教育」　講談社　2004年　ISBN:978-4061596801
ルソー　「エミール」（上中下）　岩波書店　1962年 上のISBN:978-4003362211 中のISBN:978-4003362228 下のISBN:978-4003362235

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業初回にお知らせします。

場所：　授業初回にお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育をめぐる今日的状況と課題** 教育をめぐる今日的な状況について確認した上で、教育をめぐる課題を理解していきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回	**子どもをめぐる問題と教育** 少年非行、ひきこもり、児童虐待など子どもをめぐる問題について、その動向を確認した上で、こうした問題に対して教育の役割を考えていきます。	予習シートの作成（子どもの問題行動について）	4時間
第3回	**人間形成における教育の意義** 人間の発達について理解していくことを通して、人間にとって教育の意義を考えていきます。	予習シートの作成（生理的早産について）	4時間
第4回	**学校の成立と展開** 学校の歴史的経過について踏まえ、その社会的な意味について考えていきます。	予習シートの作成（学校の存在意義について）	4時間
第5回	**近世以前の日本の教育** 古代から近代までの日本において、どのような変遷をたどってきたかについて考えていきます。	予習シートの作成（日本の教育の歴史について）	4時間
第6回	**近代以降の日本の教育** 近代以降、特に戦後日本の教育について、学習指導要領の変遷を踏まえつつ、考えていきます。	予習シートの作成（日本の学校教育制度の歴史について）	4時間
第7回	**西洋教育思想の歴史と展開（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイを中心に）** 西洋教育思想を概観した上で、今日の学校教育、教育改革にどのような意味を持つものなのかを考えていきます。	予習シートの作成（教育における開発主義と注入主義について）	4時間
第8回	**教育制度と教育法規** 戦後日本の教育法政の体系を踏まえた上で、今日の教育制度をめぐる課題を考えていきます。	予習シートの作成（教育基本法の改正について）	4時間
第9回	**学校・学級経営の機能と構造** 学校経営・学級経営それぞれの機能と構造について考えていきます。	予習シートの作成（学校経営計画について）	4時間
第10回	**子どもの「育ち」を支援するために** 児童・生徒一人一人の人格を尊重していくとはどういうことなのかを対人援助の実践理論を通して考えていきます。	予習シートの作成（生徒指導の２つの側面について）	4時間
第11回	**教育課程・教育方法の変遷と子どもの学力** 教育課程・教育方法の変遷について、戦後の学習指導要領の変遷を中心に理解を深めていきます。	予習シートの作成（学習指導要領の変遷について）	4時間
第12回	**地域とともにある学校づくり** 学校評議員制度、学校運営協議会の制度化、コミュニティ・スクールといった学校をめぐる状況を理解した上で、コミュニティの課題を考えていきます。	予習シートの作成（コミュニティ・スクールについて）	4時間
第13回	**家庭教育支援の方向性** 今日の子育て家庭の課題を踏まえた上で、家庭教育支援の歴史及びその方向性を考えていきます。	予習シートの作成（家庭教育支援条例について）	4時間
第14回	**教育の機能　－人間関係と教育－** 学びにおける他者・対話の存在を考えた上で、教育とは何かを問い直していきます。	予習シートの作成（学びの共同体について）	4時間

431

授業科目名	**教職論**				
担当教員名	蓑毛智樹				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれてます。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚･責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では教育関連法規や教育現場の具体的な事象を取り上げるとともに、映像資料等も用います。そして、本授業をとおして、教師とは何か、という問いに答えられるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教師としての基礎的資質に関する知識	生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教職とは何かについて学び、教師の使命や職責について考えていく。	自己の理想とする教師･保育者像を確立する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。
2. DP７.忠恕の心		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験レポート	50 %	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
授業のなかの課題（ミニレポート）	30 %	： 教師としての基礎的資質に関して、知識理解と表現力などの観点から独自のルーブリックに基づいて評価をします。
受講状況	20 %	： 授業中の学習意欲、受講態度（私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）提出物などを、チェックリストを活用し、総合的に評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新しい時代の教職入門』（改訂版）秋田喜代美・佐藤学編著　有斐閣アルマ　2016年
『はじめて学ぶ教職論』広岡義之編著　ミネルヴァ書房　2017年
『教職論ハンドブック』山口健二・高瀬淳編　ミネルヴァ書房　2011年
ほか、適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。

場所：　初回授業時に周知します。

備考・注意事項：　メールでも受け付けます。初回の授業で紹介する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションと教職の意義** 授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。	教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べることができるようにする。	4時間
第2回	**学校教育の現状と課題** 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育の諸問題のうち学力について調べてまとめてくる。	4時間
第３回	**教職についての社会の見方** 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。	4時間
第4回	**求められる教員の資質能力－教員としての人間性・能力－（現職教員の講話）** 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受けれる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。また、教員は授業が勝負であると言われ、一人一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。講話は場合によっては視聴覚教材を活用することもある。	教師の人間性や授業力を高めるための取り組みをまとめる。	4時間
第5回	**教職員の種類と資格** 教員の免許について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第６回	**教員の身分保障** 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第７回	**教員研修と向上心（指導体制の充実のための研修）** 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種別と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第８回	**教員の力量と学習指導** 中学校及び高等学校の専門教科など、教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べることができるようにする。	4時間
第９回	**校内組織と教員の力量（校長を中心とした校内組織と補佐）** 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめてくる。	4時間
第10回	**校務分掌とその実際** 校務分掌の内容を、学校運営上必要である教務、研究、生徒指導、保健などの校務の実際の様子と課題について理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間
第11回	**学校外の職務と教員の関わり** 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であることと教員のかかわりについて理解する。	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第12回	**教職員等と学校関係者等との連携協働（チーム学校運営への対応）**	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間

	地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。		
第13回	**教員をめぐる事件・事故** 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第14回	**まとめと授業全体の振りかえり** 教員として教育現場に赴く際、一人一人の児童・生徒へ の深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたれる理 想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。	教員を目指す上での課題を明確にできるようにまとめることができる。	4時間

432

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として従事。その後、臨床心理士・公認心理士として公立中学校スクールカウンセラーを経験。【全14回】				

授業概要

「教育心理学」は心理学の一領域で，教育に関連する諸事象を心理学的に研究し、教育の効果を高めるために役立つ心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。本講義は、発達、パーソナリティと知能、学習と教育評価、動機づけを取り上げ、一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応や集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深め、心理学的知見に基づく教育観を醸成する。本講義は、グループで与えられた課題をレポートし、そのプレゼンテーションを行う形式で進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育心理学に関する基本的知識	教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		与えられたテーマについて、グループで計画的に調査し、発表することができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		自分の担当した役割に責任があることを自覚し、グループワークを最後まで遂行できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のテスト	10 %	： 授業内に実施する各回の基礎的事項に関するテストにより評価する。
各回のノート	70 %	： 毎回提出するノートにより評価する。
プレゼンテーション	5 %	： 与えられた課題に関するプレゼンテーションの内容とパフォーマンスにより評価する。
プレゼンテーションに用いる資料	5 %	： プレゼンテーションに用いた資料の内容の正確さと適切さで評価する。

期末レポート　　:

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤司編著	・ 教育心理学	・ 一藝社	・ 2014　年

参考文献等

古川聡編著『教育心理学をきわめるチカラ』福村出版　2019　ISBN:457122057X
古谷喜美代ら編著『児童生徒理解のための教育心理学』ナカニシヤ出版　2013 ISBN:9784779507144
藤澤文編著『教職のための心理学』ナカニシヤ出版　2013 ISBN:9784779507168
桜井茂男編著『たのしく学べる最新教育心理学』図書文化社、2004 ISBN：978-4-8100-7690-5
前原武子編著『生徒支援の教育心理学』北大路書房　2002 ISBN　　9784762822605

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。予習としてテキストの次時の範囲を読んでワークシートにまとめて授業に臨むこと、事後に自分で学修した事項をまとめること、確認テストに備えて復習しておくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2時間目

場所：　中央館５階127

備考・注意事項：　質問は、Ｅメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「教心質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　教育心理学とは何かを明らかにしよう** 教育心理学の定義、領域について概説し、この講義の進め方等について解説します。	シラバスを熟読する。教育心理学の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**発達と教育（１）発達とは何か** 発達の定義、規定するもの、基本となる代表的な理論について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第3回	**発達と教育（２）発達の諸相** 発達段階と各段階の特徴について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第4回	**発達と教育 (3) 児童期・青年期について** 児童期・青年期の発達について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第5回	**学習の理論** 学習の定義、基本となる代表的な学習理論の概観、記憶について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第6回	**教授と学習** 代表的な教授理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第７回	**動機づけの理論** 動機づけ、原因帰属、自信と無気力について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第8回	**知能と学力** 定義、代表的な理論，測定法、知能と学力の関係について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第9回	**教育の評価・授業の実践と研究** 子どもを生かす教育評価を概観し、心理学を生かした授業実践について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第10回	**学級集団** 心理学を生かした学級集団づくりについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間

第11回	**パーソナリティの問題と生徒理解** 定義、代表的な理論、社会性や道徳性に関する理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第12回	**不登校** 教育心理学の立場から不登校について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第13回	**いじめ** 教育心理学の立場からいじめについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第14回	**障害のある子どもへの支援　全体総括** 支援を要する子どもへの支援のあり方を学び、最後に、本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考えます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間

433

授業科目名	**教育社会学**				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目はまず、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的としている。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。具体的には、初めに教育社会学の基本的な考え方や主要テーマについて学んだ後、不平等、社会的包摂、国際化といった教育についての現代的課題を検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育の社会学に関する知識	学んだ知識を用いながら社会学的な視点から教育について改めてとらえなおすことができる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		相手の意見をよく聴いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30 %	： 授業内容を的確にまとめ理解できているか、という観点から評価する。
試験	70 %	： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

相澤真一ほか『これからの教育社会学』（有斐閣，2023年，ISBN ISBN9784641200036）
中村高康ほか『現場で使える教育社会学』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092604）
酒井朗ほか『アクティベート教育学03 現代社会と教育』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092475）

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 備考参照

備考・注意事項： オフィスアワーについては最初の授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育における今日の課題** 教育社会学とはどのような特徴を持つ学問領域なのか。また、どのように発展してきたのか。これらのことから教育社会学を学ぶ意義について考えます。加えて教育社会学という学問領域について、現在の教育社会学研究のトレンドと課題を中心に学習し、教育社会学を学習するために必要な基礎知識の習得を目指します。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第2回	**近代の教育行政と学校制度** 近代に入ると国が学校を作り、国民は学校に行くことになった。国が学校制度を整備したのはなぜなのか。また、その結果、日本の教育はどのように変わったのか。こうしたことについて考えます。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、教育評価の現状と課題について理解を深める。	4時間
第3回	**近代家族と教育** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「家族」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における家族と教育の問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育と家族の関係について理解を深める。	4時間
第4回	**学校と地域の連携** 子どもの成長には、学校のみならず地域の影響も大きい。特に近年では学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが重要視されている。そのための取り組みや課題について考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、地域連携について理解を深める。	4時間
第5回	**子どもの生きづらさと学校の役割** いじめ、不登校、引きこもりなど、今日の子どもたちは様々な生きづらさを抱えている。ただそれは子どもたちだけの問題ではなく、社会の仕組みや不安定さとも深くかかわる社会全体の問題でもある。こうした課題に学校や教育が果たせる役割について考える。	講義の内容を復習し、課題を抱える子供たちに教員として何ができるかについて理解を深める。	4時間
第6回	**若者の「移行」の今日的課題** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「進路」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における子ども・若者の進路選択やキャリア形成の問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育と進路の関係性について理解を深める。	4時間
第7回	**教育課題と教師の実践** 教育社会学において議論されてきた「生徒指導上の課題（特に逸脱行動）」と「学校」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、学校で「問題」とされる事象に対して、どのように学校制度・組織や教師が対応してきたかを考察します。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育課題と学校の関係性について理解を深める。	4時間
第8回	**ジェンダーと教育** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「ジェンダー」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における教育の男女格差やジェンダー・トラックなどの問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育とジェンダーの関係性について理解を深める。	4時間
第9回	**特別支援教育とインクルージョン①：「医療モデル」から「社会モデル」へ** 支援が必要な子どもたちに等しく教育の機会を与えようとするインクルーシブ教育の考え方や取り組みが広がっている。主に日本のインクルーシブ教育の歴史と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第10回	**特別支援とインクルージョン②：発達障害** 通級や特別支援学級、特別支援学校の子どもたちの数が増加し、中でも発達障害の子どもたちが増えている。こうした子供たちは人間関係や学力においてどのような課題を抱えているのかを知り、いかにサポートすべきなのか考えます。	講義の内容を復習し、教員としての緊急時の対応について理解を深める。	4時間
第11回	**学校安全と防災教育：災害・事故のリスク管理** 阪神大震災や東日本大震災の経験から災害時の教員や学校の対応が注目されている。また、学校内での事故や事件も後を絶たない。教員の緊急対応や平時から学校安全のためにしておくべきこと、防災教育等について検討します。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、学校教育における多職種協働について理解を深める。	4時間
第12回	**教育と格差問題①：なぜ様々な格差が生じるのか**	講義の内容を配布資料を用いて復習し、これからの教師のあり方について自分なりの考えを深める。	4時間

	近年、世界的に社会の格差が広がっており日本も例外ではない。そしてその格差は教育における格差や不平等を生むこととなる。教育の格差や不平等の現状とそれらがいかにして再生産されるのかについて考えます。		
第13回	**教育と格差問題②：格差を克服できるか** 格差を克服する「効果のある学校」について紹介し、いかにすれば学校教育の場で格差の再生産を克服することができるのかを考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育格差の問題について理解を深める。	4時間
第14回	**国内外の教育施策の動向** 世界の主要な国々の教育施策の動きと比較しながら日本の教育を検討する。そうすることで日本の教育の特徴と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間

433

授業科目名	**教育社会学**				
担当教員名	保田直美				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的とする。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。

具体的には、まず教育の基本的な場である学校・家族と教育の関わりについて学んだあと、幼児期から中学校までの子どもの園・学校生活における現代的課題に関する社会学的な議論を学ぶ。加えて、家庭や地域と学校の連携、教師以外の専門職との連携について学び、教師の役割について理解を深め、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育の社会学に関する知識	学んだ知識を用いながら社会学的な視点から教育について改めてとらえなおすことができる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		相手の意見をよく聴いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30 %	： 授業内容を的確にまとめ理解できているか、という観点から評価する。
試験	70 %	： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

相澤真一ほか『これからの教育社会学』（有斐閣，2023年，ISBN ISBN9784641200036）
中村高康ほか『現場で使える教育社会学』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092604）
酒井朗ほか『アクティベート教育学03 現代社会と教育』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092475）

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 備考参照

備考・注意事項： オフィスアワーについては最初の授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：教育の社会学** 教育は社会との関わりの中にあることを理解し、教育社会学を学ぶ意義を考える。学校の社会的機能と学校組織の特徴について学ぶ。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、学校の社会的機能と組織の特徴について理解を深める。	4時間
第2回	**学校と教育** 日本の学校制度と公教育の重要性について学ぶ。義務教育学校、学びの多様化学校など、制度化され始めた新しい学校の姿についても学ぶ。	講義の内容を配布資料を用いて復習する。学びの多様化学校について1校とりあげ調べてみる。	4時間
第3回	**家族と教育** 家族の姿が近代家族から変化していく一方で、教育についての家族の責任が強まっている状況について学ぶ。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育と家族の関係について理解を深める。	4時間
第4回	**幼児教育の社会学** 幼稚園における集団教育の仕組みについての社会学的研究を学ぶ。発達障害をめぐる排除と包摂の問題についても考える。	講講義の内容を配布資料を用いて復習する。学んだ内容をふまえて、実習等での経験を振り返ってみる。	4時間
第5回	**「友だち」の社会学** 近年、若者の友人関係がどのように変化しつつあるのかを把握する。その上で、中学校の学級における友人関係の特徴を明らかにする。	講義の内容を配布資料を用いて復習する。学んだ内容をふまえて、自身の友人関係における経験を振り返ってみる。	4時間
第6回	**いじめの社会学** いじめの定義と実態を確認し、発生の構造的要因として学級に着目し、その望ましいあり方について考える。また構築主義的な立場からのいじめの実態主義的な研究への批判についても触れる。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、どのような学級の在り方が望ましいかを考える。	4時間
第7回	**不登校の社会学** 不登校の捉え方の変遷と近年の急増、就学義務についての考え方の変化について知る。学校が持つ息苦しさと今後の可能性について考える。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、不登校について理解を深める。	4時間
第8回	**学力の社会学** 学力の階層差についての調査データを確認し、学力の階層差を生む要因についての社会学的な理論を理解する。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、学力の階層差について理解を深める。	4時間
第9回	**学校と家庭の連携** 子どもや保護者の生活状況の変化を踏まえての、学校と家庭の連携のあり方について考える。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、子どもや保護者の生活状況について理解を深める。	4時間
第10回	**学校と地域の連携** 学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが近年重要視されている。その政策的な経緯や、学校評価制度、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について学び、具体的な取り組みや課題について考える。	講義の内容を配布資料を用いて復習する。コミュニティ・スクールの取り組み例について調べてみる。	4時間
第11回	**「安全・安心」と教師役割** 学校における安全教育の重要性を知る。そのうえで、教師はその役割として、どこまで「安心」を追求するべきか考察する。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、安全教育において教師が果たすべき役割について理解を深める。	4時間
第12回	**教師の専門性を考える** 教職をめぐる現在の社会状況と、その背景にある教師の多忙化の実際を知る。その上で、教師の専門性・専門職性についての議論を学び、専門職としての教師の在り方について考える。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教師の専門性について理解を深める。	4時間
第13回	**日本の多職種協働と教育** 「チームとしての学校」など、日本の教育における多職種協働について学ぶ。子どものケアという観点も踏まえて、教師の役割について考える。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、日本の教育における多職種協働について理解を深める。	4時間
第14回	**諸外国の多職種協働と教育**	講義の内容を配布資料を用いて復習する。これまで学んだ教育社会学の知見も活かして、これからの学校の役割・教師の役割について考える。	4時間

アメリカやフランスなど諸外国の教育における多職種協働について学び、諸外国の状況と比較しながら、これからの日本の学校役割・教師役割について考える。グループでの議論も行う。		

431

授業科目名	**特別支援教育概論**				
担当教員名	瀧本一夫				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府立の支援学校で35年間、大阪府教育委員会(支援教育課)で１年勤務する。特別支援教育コーディネーターとして地域の幼小中高を支援した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全14回）。				

授業概要

文部科学省によると通常学級に在籍して支援を要する子どもの割合は6.5%といわれています。例えば30人の学級であれば支援を要する子どもが２人はいるということになります。このことは、障害のある子どもを支援する立場にある者にはそのような特別な支援にかかわる基礎的・専門的な知識と技能が求められるということを意味します。このことを踏まえて、本講義では、障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子どもの発育・発達や個性を理解し、子どもの健やかな成長への援助や協力に積極的に取り組むことができる支援者の養成を目指します。具体の講義内容としては、実践に役立つ支援者として必要な理論・技能を中心に説明します。授業の形態としては、講義を聞く、事例を基に支援を考える、復習テスト(対面)、まとめを提出する(遠隔)という流れになります。また実習、体験的活動やグループワークも取り入れています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と支援への方策を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（３点×１４回）	42 %	： 毎回、講義の復習テスト(対面授業)、まとめや感想(遠隔授業)を求める。
講義への参加度（28点）	28 %	： グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
期末レポート（30点）	30 %	： 講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　(文部科学省　2015　4303124249)
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　(文部科学省 2015　4304042319)
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
　(ジアース教育新社　2020年　978-4863715486)
【改訂版】特別支援教育基本用語100　(明治図書出版　2014年　978-4-18-108510-0)
障害のある子供の教育支援の手引き　(文部科学省　2022　4863716133)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
takimoto-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 個別の教育(指導)計画書の内容や役割及びそれらの書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：進路/校内支援体制/センター的機能/地域連携** 校(園)内委員会にかかわる支援体制整備及びその役割と実際について解説する。 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。 特別支援学校のセンター的機能について大阪府の実例を示しながら解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会 自立活動** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。 インクルーシブ教育システムの構築に向けて必要な「個が生きる授業づくり・学級づくり」について、小学校等の実例を挙げながら解説する。 共生社会の実現に向けた取り組みである「交流及び共同学習」について、小学校等の実例をあげながら解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害　聴覚障害** 視覚障害教育及び聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 デイジーや手話、点字などの体験を通して、視覚障害及び聴覚障害のある子供への支援について理解を深める。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは弱視　点字　手話など	4時間

第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：発達障害** 発達障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 当事者の体験談や錯視図形の体験等を通して、発達障害のある子供の不便さを体験し、発達障害のある子供に寄り添った支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは自閉症スペクトラム症　ADHD　LDなど	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：肢体不自由　重複障害　病弱** 肢体不自由教育・重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 身体的な制限だけでなく、そのために生じる日常生活の不便について知り、その支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは院内学級　筋ジストロフィー　てんかん発作など	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：応用行動分析等** 応用行動分析について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードはS-R理論　先行条件　機能的アセスメント	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)　ペクス(PECS)等** ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)及びペクス(PECS)について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードはアンガーマネージメント　アサーショントレーニング	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：感覚統合等** 感覚統合について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは前庭感覚　ボディイメージ　目と手の協応	4時間
第13回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツのある家庭** 障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難とその対応について理解する。 障害のある子どもの進路について概観する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。 キーワードは貧困、外国籍	4時間
第14回	**特別支援教育の理論と方法（７）：①福祉避難所　②避難所について考えよう** ①福祉避難所について理解する。 ②これまで学んだ各障害の特性や支援方法をいかして、どのような避難所であれば障害のある方が安心して避難できるかについて考える。学んだことを実践に応用するワークを行うことで学修事項の「実践知」への移行を目指す。	キーワードについてまとめておく。キーワードはWISC　K-ABC　DN-CAS	4時間

432

授業科目名	**教育課程論**				
担当教員名	星川佳加				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について学びます。
学習指導要領や教育課程改革の変遷について、時代背景や教育思想等を踏まえながら学ぶとともに、各時代の教育課程の特徴と関連付けながら、教育課程編成の視点を学びます。また、教科・領域、単元・学期・学年をまたいで、教育課程を構想する視点について学びます。
講義を中心に行いますが、Google Classroom等を活用したコメント交流や、協同学習等のアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育課程に関する基礎的な知識・考え方	教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育課程に対する考察	教育課程に関する基礎的な知識・考え方を活用し、実際の教育課程の特徴と課題について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		他者と協同しながら現代の教育課題に対応するカリキュラムの在り方について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	50 %	： 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得できているかを判断します。
協同学習	30 %	： 他者と協同しながら、主体的に、現代の教育課題に対応するカリキュラムの在り方について考えることができているかを判断します。
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験（レポート）について、ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程　第2版』（ミネルヴァ書房、2018年、ISBN　9784623082698）

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』（東山書房、2018年、ISBN9784827815801）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー・研究室は初回授業時にお伝えします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ／教育課程・学習指導要領とは何か** この科目のテーマである「教育課程」について、その定義やこれを編成する目的を学びます。また、学習指導要領の性格や位置づけなどについて学びます。	予習シートの作成：「確かな学力」	4時間
第2回	**学習指導要領の変遷（1）現代の学習指導要領** 2000年代以降の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「生きる力」	4時間
第3回	**学習指導要領の変遷（2）「ゆとり教育」の時代** 1970年代末～1990年代頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「系統主義」	4時間
第4回	**学習指導要領の変遷（3）「系統主義」の時代** 1950年代末～1970年代頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「経験主義」	4時間
第5回	**学習指導要領の変遷（4）「経験主義」の時代** 戦後～1950年代末頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「皇国民錬成」	4時間
第6回	**日本の教育課程改革の歴史（1）国民学校の時代** 1930年代末～終戦までの日本の教育課程の特徴について学びます。	予習シートの作成：「大正自由教育」	4時間
第7回	**日本の教育課程改革の歴史（2）大正自由教育の時代** 大正期の日本の教育課程の特徴について学びます。	予習シートの作成：「学制」	4時間
第8回	**日本の教育課程改革の歴史（3）近代学校誕生の時代** 明治期の日本の教育課程の特徴について学びます。ここまでの学びから、教育課程が社会において果たしている役割や機能について考えます。	予習シートの作成：「教育目標」	4時間
第9回	**教育課程編成の視点（1）教育の目標とカリキュラム** 教育課程を編成する視点について、教育目標に関する事項を中心に学びます。また、カリキュラム・マネジメントについて教育の目標との関連という側面から解説を受けます。	予習シートの作成：「カリキュラム・マネジメント」	4時間
第10回	**教育課程編成の視点（2）教育の評価とカリキュラム** 教育課程を編成する視点について、教育評価に関する事項を中心に学びます。また、カリキュラム評価の基礎的な考え方について解説を受けます。	予習シートの作成：「特別の教科 道徳」	4時間
第11回	**教育課程編成の視点（3）教科のカリキュラムと長期的視野に立った教育課程** 教育課程を編成する視点について、教科に関する事項を中心に学びます。また、単元・学期・学年、さらに学校階梯をまたいで、教育課程を検討することの重要性について解説を受けます。	予習シートの作成：「総合的な学習の時間」	4時間
第12回	**教育課程編成の視点（4）教科外のカリキュラムと教科や領域を横断する教育課程** 教育課程を編成する視点について、教科外に関する事項を中心に学びます。また、学校の教育実践に即して、教科や領域を横断して教育課程を編成する方法について解説を受けます。	予習シートの作成：「社会に開かれた教育課程」	4時間
第13回	**教育課程編成の視点（5）カリキュラムを支える教育環境** 教育課程を編成する視点について、教育環境に関する事項を中心に学びます。また、学校や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することの重要性について解説を受けます。	予習シートの作成：「主体的・対話的で深い学び」	4時間
第14回	**教育課程編成の視点（6）子どもの姿とカリキュラム ／まとめ** 教育課程を編成する視点について、子どもの発達や実態に関する事項を中心に学びます。また、子どもの姿をふまえて教育課程や指導計画を検討することの重要性について考えます。最後に、これまでの学びについて振り返り、学習者自身の経験を相対化します。	これまでの学習を振り返る	4時間

432

授業科目名	**教育方法論・ＩＣＴ活用**				
担当教員名	星川佳加				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について身に付けることを目標とします。とくに、多様な児童生徒を理解する視点をもち、ICTを活用しながら、教育実践を構想/計画・展開・評価する方法や技術等について学びます。
講義を中心に行いますが、Google Classroom等を活用したコメント交流や、協同学習等のアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育方法（ICT活用を含む）に関する基礎的な知識・考え方	教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育方法や教育実践を省察・研究する力	教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえ、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な他者・子どもを理解する視点をもって、教育実践や教育方法を構想・評価することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	50 %	： 教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得できているか評価します。
マイクロティーチング及び振り返り	30 %	： 教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえながら、主体的かつ協同的に、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができているか評価します。
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験（レポート）について、ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育の方法〔改訂版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22125-3）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワー・研究室は初回授業時にお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ：教育方法とは** この科目のテーマである教育方法について、その学問的な精神について学びます。また、現代日本の学校教育において求められる教育方法の概要と、学校教育におけるICTの位置づけ等について解説を受けます。	予習シートの作成：令和の日本型学校教育	4時間
第2回	**現代の学校教育において求められる教育方法** これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要とされる教育の方法として、ICT活用を含め現代の学校教育で求められる事項について解説を受けます。	予習シートの作成：学習指導要領、情報活用能力の育成	4時間
第3回	**教育の目標と評価** 教育の目標と評価に関して、特に「情報活用能力の育成」、学習評価の基礎的な考え方、実践/実践者に対する評価という考え方について学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：GIGAスクール構想、1人1台端末	4時間
第4回	**授業の内容と教材・教具** 授業の内容と教材・教具に関して、特にICTの活用を含め授業の内容に適した教材や教具を選択する視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：学校施設、Schools for the Future	4時間
第5回	**指導の技術と環境の構成** 指導の技術と環境の構成に関して、特に話法や板書等の技術、ICT活用、教室やICT機器を含む環境の構成等について考える視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	学習指導案の作成	4時間
第6回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀頃まで** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に17世紀～19世紀に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践を理解します。 第6～10回の授業で順次マイクロティーチングを実践します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀頃まで）	4時間
第7回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀末頃以降** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に19世紀末頃以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀末頃以降）	4時間
第8回	**日本における教育方法の理論と実践：明治期** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に明治期に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（明治期）	4時間
第9回	**日本における教育方法の理論と実践：大正期以降** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に大正期以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（大正期以降）	4時間
第10回	**戦後日本における教育方法の論点と課題** 戦後日本における教育方法の論点と課題について、特に論争史に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解し、教育実践を捉える視野を広げます。 第6～10回の授業で順次実践したマイクロティーチングについて振り返ります。	マイクロティーチング振り返りシートの作成	4時間
第11回	**子どもの学習と学力** 子どもの学習と学力について、特に子どもたちの興味・関心を高め、子どもたちとともに課題や学習内容を捉えるという視点から学びます。効果的なICT活用について考えます。	学習指導案の改善	4時間
第12回	**教師と子どもと学習形態** 教師と子ども、子どもと子どもの関係に注目して授業を構想し展開する視点、子どもが集団で学ぶ意味と必要性について学びます。効果的なICT活用について考えます。	学習指導案の改善	4時間
第13回	**教科外教育活動の構想**	学習指導案の完成	4時間

	教科教育と教科外教育の相違点と連関について学ぶとともに、教科外教育活動を構想するために必要な視点や方法について学びます。		
第14回	**まとめ：教育実践を担う教師** 現代日本の学校教育においてどのような教育実践が求められているかについて学びます。最後に、これまでの学びを振り返り、教育実践を創造することについて考えます。	これまでの学びの振り返り	4時間

433

授業科目名	道徳の理論及び指導法【2023年入学生～】／道徳の理論及び指導法（中等）【～2022年入学生】				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校長（７年）（全１４回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，児童・生徒に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに，「特別の教科道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら，道徳科の授業づくり(教材研究，発問，児童・生徒の意見の取り上げ方，板書等）についても取り上げる。その中で，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について，実際の児童・生徒の姿を具体的に示しながら，教師として求められる姿勢や態度，指導力について論じる。

その上で，道徳科の特質を生かした授業づくりを複数経験することで，内容項目，教材の特質を踏まえた授業づくりの仕方を理解できる力の育成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳とは何か，道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　教材研究，授業体験

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート（毎回）	30 ％	： 各回の授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
小テスト	20 ％	： 『学習指導要領』における「道徳教育の目標」「特別の教科道徳の目標」「道徳教育の内容」の理解を評価する。
期末試験		： 筆頭試験によって授業内容の理解度を評価する。

50　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編	・廣済堂あかつき	・2017　年
文部科学省	・中学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編	・教育出版	・2017　年
文部科学省	・小学校学習指導要領	・東洋館出版社	・2019　年

参考文献等

上記「使用教科書」に加えて，以下の教科書を使用します。
『文部科学省　中学校学習指導要領　東山書房　2019年』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限・昼休み

場所：　中央館５階服部研究室

備考・注意事項：　具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**道徳的に生きることの意味** 「道徳的に生きることは損だ。それよりも上手に生きることがよい。」と考える人がいる。つまり，道徳的に生きることは世知と一致しないということであろう。しかし一方で，私たちは道徳的でない人や行為に対して批判したり，道徳的な人や行為を称賛したりしている。それはなぜだろうか。 この時間は，私たちにとって道徳的に生きることの意味ついての理解を深める。 この授業は,決まったことがらを覚えるような授業ではなく，道徳教育について現状や課題を自分に落とし込んで理解し，納得することで道徳教育についての実践力を身に付けることを目的とする。 ◆本時の評価……倫理的な問題を取り上げ，批判的な視点から考えることを通して，倫理の意味，倫理的に考えることの意義，道徳教育の意味についてより深く考えることができたか。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し，道徳的に生きることの意味についての理解を深める。	4時間
第2回	**学校における「道徳教育」何をするのか** 『学習指導要領』では，「学校における道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うもの」とされている。では，実際の学校現場では，どのような機会に，どのような道徳教育が，どのように行われてるのであろうか？小学校においては，「学級経営」を中心に，中学校においては「生徒指導」を中心にどのように道徳教育が行われているのかを自身の経験と重ね合わせながら深く理解する。そのことを通して，『学習指導要領』における道徳教育の目標を理解する。 また，『学習指導要領』に示された道徳教育の「内容」についても理解する。 ◆本時の評価……学校における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科道徳」によって，行われていること，さらに前者の教育の特質，「内容」，方法を理解できたか。 【次回，小テスト】	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，価値観が多様化しても道徳の問題には共有できる答えがあることついて理解を深める。	4時間
第3回	**「道徳科」の授業で何をするのか　―道徳科の目標と道徳教育の内容―** 前時に学修したように，「学校における道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行う」ものである。その上で，授業としての「道徳科」が計画的に行うようになっている。 道徳科では「道徳教育」とは異なる何をめざすのか？『学習指導要領』の道徳教育と道徳科の目標から，道徳科だからこそすべきことを明らかにするとともに，道徳教育の目標と道徳科の目標について深く理解する。 ◆本時の評価……「特別の教科道徳（道徳科）」の特質，内容，その意味を理解できたか。 【次回，小テスト】	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し,子供の道徳上の問題と道徳性形成について考えを深める。	4時間
第4回	**道徳科の授業はこれでよいのか**	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し，道徳教育における分かることの意味についての理解を深める。	4時間

	学校現場ではどのような授業が行われているのだろうか。児童・生徒にとって学びのある時間になっているのだろうか。もちろん，授業の仕方は教師によって異なるが，検定教科書に付属されている教師用指導書に載っている指導案は，「導入・展開前段・展開後段終末の型にはまったもの」「読み物の登場人物の心情理解に偏った形式的なもの」や「自分ならどうするか」と行為を選択させるもの，「これからの生活にどのように生かすか」のように決意表明を強いるものが非常に多い。 この時間は，これらの授業について批判的な視点に立って検討する。 ◆本時の評価……「特別の教科道徳」がつくられた経緯，そこでの課題，道徳授業でしなければならないこと，してはいかないことを理解できたか。		
第5回	**教材「新次のしょうぎ」の授業づくりについて考えよう** 実際の小学校道徳科教科書の教材から「新次のしょうぎ」を取り上げ，それを検討する中で，教材を用いてどのような授業をすればよいかについての議論を通して理解を深める。 そのために，まず本時で取り上げる内容項目について「児童が授業前から分かっていること」や「教材を読むだけで分かってしまうこと」を除外し，「児童がまだ知らないこと」や「気づかせる意味があること」を見つける必要がある。 そのことに気づかせるためには授業で，児童にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについて深く考える。 ◆本時の評価……教材「新次のしょうぎ」を用いた道徳授業について検討する中で，道徳授業でするべきこと，留意すべきことについて深く考えることができたか。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業の課題について考えを深める。	4時間
第6回	**教材「新次のしょうぎ」の模擬授業を受けてみよう** この時間は，前時で検討した教材「新次のしょうぎ」を用いて，教師が行う模擬授業を学生が受ける。学生は自分が児童の立場になって授業を受けることを通して，前時までの学修した「道徳科」の授業の意味や何をすべきかについて気づいていくことになる。 そして，自身が考えた授業をもう一度見直し，課題を見つけることになる。 また，模擬授業を受けることで，小学生の立場から「道徳科」の授業を見て，授業についての考えを深める。 ◆本時の評価……教材「新次のしょうぎ」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業がどのような 特質をもつかを理解できたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の教材理解とねらいについて考えを深める。	4時間
第7回	**教材「卒業文集最後の二行」の授業づくりについて考えよう** 「いじめ」はどこの学校でも起こりうる重大な問題である。そこで，本時は「いじめ」を扱った教材「卒業文集最後の二行」を取り上げて検討することを通して，教材を用いてどのような授業をすればよいかについての議論を通して理解を深める。 そのためには，「生徒にとって学びのある視点」「誰もが納得できる道徳的な答え」を見つけ出す必要があることを理解させる。 そして，そのことに気づかせるためには教師がどのような視点をもって，どのように授業を進めればよいのか，生徒にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについての理解を深める。 ◆本時の評価……教材「卒業文集采簿の二行」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業ではどのようなねらいを立てるべきかについて深く考えることができたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業づくりについて考えを深めるとともに，授業構想を立てる。	4時間
第8回	**教材「卒業文集最後の二行」の模擬授業を受けてみよう** この時間は，前時で検討した教材「卒業文集最後の二行」を用いて，教師が行う模擬授業を学生が受ける。学生は自分が中学生の立場になって授業を受けることを通して，前時までの学修した「道徳科」の授業の意味や何をすべきかについて気づいていくことになる。 そして，自身が考えた授業をもう一度見直し，課題を見つけることになる。 また，模擬授業を受けることで，中学生の立場から「道徳科」の授業を見て，授業についての考えを深める。 ◆本時の評価……教材「卒業文集最後の二行」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業ではどのようなねらいを立てるべきかについて理解できたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習しながら，「道徳科」の授業づくりを考える。	4時間
第9回	**教材「絵はがきと切手」の授業づくりについて考えよう** 答えが分かりにくい教材として「絵はがきと切手」，それを検討することを通して，教材を用いてどのような授業をすればよいかについての議論を通して理解を深める。 そのために，まず本時で取り上げる内容項目について「児童にとって学びのある視点」「誰もが納得できる道徳的な答え」を見つけ出し，「児童がまだ知らないこと」や「気づかせる意味があること」を見つける必要がある。そして，そのことに気づかせるためには教師がどのような視点をもって，どのように授業を進めればよいのか，児童にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについての理解を深める。 ◆本時の評価……教材「絵はがきと切手」を用いた道徳授業について検討する中で，道徳授業には誰もが納得できる道徳的な答えがあるべきだということについて深く考えることができたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業についての考えを深めるとともに，学習指導案や授業について理解を深める。	4時間

第10回	**教材「絵はがきと切手」の模擬授業を受けてみよう** この時間は，前時で検討した教材「絵はがきと切手」を用いて，教師が行う模擬授業を学生が受ける。学生は自分が児童の立場になって授業を受けることを通して，前時までの学修した「道徳科」の授業の意味や何をすべきかについて気づいていくことになる。 そして，自身が考えた授業をもう一度見直し，課題を見つけることになる。また，模擬授業を受けることで，小学生の立場から「道徳科」の授業を見て，授業についての考えを深める。 ◆本時の評価……教材「絵はがきと切手」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業ではどのようなねらいを立てるべきかについて理解できたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間
第11回	**教材「二通の手紙」の授業をつくってみよう** 「規則を守らなければならない」ことは生徒にとっては当たり前のことである。そこで，本時は，規則をやぶることに意味を感じる教材「二通の手紙」を取り上げて検討することを通して，どのような授業をすればよいかについての議論を通して理解を深める。 そのために，まず本時で取り上げる内容項目について「生徒がまだ知らないこと」や「気づかせる意味があること」を見つける必要があることを理解させる。 そして，そのことに気づかせるためには教師がどのような視点をもって，どのように授業を進めればよいのか，生徒にどのような思考をさせるのか，どのような活動をさせるか等，「道徳科」の授業づくりについての理解を深める。 ◆本時の評価……教材「二通の手紙」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業ではどのようなねらいを立てるべきかについて深く考えることができたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業力について考えを広げ，深める。	4時間
第12回	**教材「二通の手紙」の模擬授業を受けてみよう** この時間は，前時で検討した教材「元さんと二通の手紙」を用いて，教師が行う模擬授業を学生が受ける。学生は自分が中学生の立場になって授業を受けることを通して，前時までの学修した「道徳科」の授業の意味や何をすべきかについて気づいていくことになる。 そして，自身が考えた授業をもう一度見直し，課題を見つけることになる。 また，模擬授業を受けることで，中学生の立場から「道徳科」の授業を見て，授業についての考えを深める。 ◆本時の評価……教材「二通の手紙」を用いた模擬授業を受けることで，道徳授業ではどのようなねらいを立てるべきかについて理解できたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間
第13回	**「道徳科」の評価はどうすればよいか？** 「特別の教科道徳」の実施に伴い，児童・生徒指導要録や通知票に，その評価欄が設けられた。しかし，道徳の時間についての評価は十分に理解されておらず，何をどのように評価するのかが曖昧なままである。 この時間は，「教育評価とは何か」「道徳科の評価はどのようにすればよいのか」「授業評価と子供の評価の違いは」などの観点から，「特別の教科道徳」の評価はどのようにすれば可能なのかについて考えを深める。 ◆本時の評価……「道徳教育は評価できない」と言われることがある。しかし，目標のある教育活動であれば，「目標と評価の一体化」の視点で評価できなければならない。このことは道徳授業においても例外でないことを理解できたか。	講義の内容を『小学校学習指導要』や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業ついて考えを深める。	4時間
第14回	**「道徳の問題の答えは人によって異なっていてよいのか？** 現在は価値観の多様化の時代である。人々はそれぞれに価値観をもち，その価値観に従って判断したり，行動したりしている。このような社会では人それぞれの価値観をもつことが認められなければならない。そうすると道徳の問題の答え(善いこと，悪いこと）は人によって異なっているように思われる。果たして，それは正しいのだろうか？もしも，道徳の問題に誰もが共有できる答えがないのであれば，人々は法に触れなければ何をしても構わないのだろうか？また，道徳教育では何をめざすせばよいだろうか？ この時間は,価値観が多様化する社会において，道徳教育はどのように行われるべきかについての理解を深める。 ◆本時の評価……道徳の問題には答えはないのか？道徳の答えは人によって異なるのかについて、批判的な視点から深く考えることで単純に「答えがない」とは言えないことを理解できたか。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の評価について考えを深める。	4時間

433

授業科目名	特別活動の指導法【2023年入学生～】／特別活動の指導法（中等）【～2022年入学生】				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・教育研究会特別活動部、部長校に勤務し研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容である「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別活動の指導法についての理解を深める。	特別活動の特質を理解し、児童・生徒の自発的・自治的活動を促す指導の在り方を追究する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもたちを取り巻く急激な社会の変化の中で、今日的な教育課題について理解を深めることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： 授業内での役割遂行や課題提出、自主的発表など授業参加状況などを評価します。
授業振り返りシート	30 %	： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
期末レポート	50 %	： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・中学校学習指導要領（平成29年3月告示）　文部科学省　978-4827815795
・中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成29年3月告示）　文部科学省　978-4324900031
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 特別活動（令和２年）東洋館出版　978-4491041414

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、理解を確かなものにしておくこと。授業時間外の学修については４時間程度求められている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡

備考・注意事項：　詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**特別活動の目標・内容と特質及び教育的意義** 特別活動の目標・内容について理解することを通して、特別活動の特質や教育的意義についての理解を深める。また、他の教科等との関連について学び、特別活動が各教科等の学びを実践につなげたり、全教育活動の基盤となる役割を担ったりしていることを学ぶ。	これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。また、配布プリントをもとに丁寧に本時の復習を行う。	4時間
第2回	**学級活動の目標と内容** 学級活動の目標・内容から学級や学校生活やをよりよくするために、また、自己の課題を解決するために、課題を見つけ、改善するために話し合い、合意形成や意思決定をしたりして、自主的実践的に取り組む活動であることを具体的な事例を取り上げ理解を深める。	学級活動の目標・内容からどのようなことがわかるのか考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行うこと。	4時間
第3回	**学級活動(1)(2)(3)における指導方法** 学級活動(1)(2)(3)において、各々の学習過程をもとに指導法の違いや特質があることを理解するとともに、合意形成や意思決定に至るまでの事前の活動や本時の活動、評価などの具体的なプロセスについて理解を深める。	テキストをもとに学級活動(1)(2)(3)の違いについて調べ、整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行う。	4時間
第4回	**学級活動(2)における指導案作成の作成** とりわけ、中学校で取り組まれることが多い学級活動(2)を取り上げ、学級活動(2)の学習過程に沿って、取りあげた題材をもとにテキストを参考にしながら学習指導案を作成する。	テキストをもとに学級活動(2)に相応しい題材を概観しておく。復習により配付された学習指導案と作成した学習指導案との対比により理解を一層深める。	4時間
第5回	**学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現** キャリア教育は特別活動を核として進めていくことが学習指導要領に示されている。このことから、学級活動(3)の「一人一人のキャリア形成と自己実現」における学習内容や取り上げる題材などについて具体的に示したり、キャリア教育でどのような資質・能力を身に付けていくのか理解を深める。	学級活動(3)を進めるにあたり、どのような学習過程を踏まえ、キャリア教育ではどのような資質・能力を身に付けていくのかをテキストを基に理解を深めておく。	4時間
第6回	**学校行事の目標と内容** 校行事の目標・内容、評価などについて理解を深めるとともに、地域との連携をふまえた取り組みなど学校と地域との関係について学修を深める。	テキストを基に、学校行事にはどのような内容が位置付けられているのか、また、地域とのつながりを踏まえた学校行事について整理しておく。	4時間
第7回	**生徒会活動の目標と内容** 生徒会活動の目標・内容から、どのような活動が行われてきたのかを振り返ることを通して、生徒会活動の意義や身に付けたい資質・能力などについての理解を深める。	中学校や高等学校で行われた生徒会活動を振り返り、どのような活動があったのかを整理しておく。	4時間

433

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法【2023年入学生～】／総合的な学習の時間の指導法（中等）【～2022年入学生】				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・生活・総合的学習をテーマにした校内研究の計画・運営・カリキュラム作成に関わり研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

総合的な学習の時間が制定された歴史的な背景や教育課程上の位置づけなどについて理解するとともに、学習指導要領における総合的な学習の時間の教育目標・内容について確認する。また、各教科等との関係性や違いを理解し、実社会・実生活の中から課題を見つけ一解決のための情報の収集一整理・分析一まとめ・表現するという探究の学びを実現するための指導法を身に付ける。総合的な学習の時間で学んだ基礎的な事項や優れた教育実践をもとにしながら、自ら指導計画や単元計画なども作成したりする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	総合的な学習の時間の指導法について理解を深める。	総合的な学習の時間の特質を理解し、探究的な学習の方法について理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		総合的な学習の特質である探究学習のスタートである課題の設定ができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		総合的な学習の時間の課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学修の見通しを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内評価	20 %	:	授業内での役割遂行や課題提出などで評価します。
振り返りシート	30 %	:	授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
期末レポート	50 %	:	授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省（平成29）中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　東山書房　978-4827815900
・文部科学省（平成22）　今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校）　教育出版　978-4908007378
・文部科学省（令和2）「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間　東洋館出版　978-4491041421

履修上の注意・備考・メッセージ

授業時間外の学習については、テキストをもとに予習を行ったり、配布プリントで復習を行ったりすることが４時間程度求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡

備考・注意事項：　詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「総合的な学習の時間」のねらい、意義、教育課程の位置づけ** 「総合的な学習の時間」が制定された背景、ねらいや教育的意義、及び教育課程の位置づけについて理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」が実施された背景や意義などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「総合的な学習の時間」のできた背景や意義などについて理解を深める。	4時間
第2回	**「総合的な学習の時間」の目標・内容と全体計画作成の考え方** 「総合的な学習の時間」の目標・内容、育てたい資質・能力について理解するとともに、全体計画との関連について学ぶ。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力、全体計画などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに「総合的な学習の時間」の全体計画についての理解を深める。	4時間
第3回	**「総合的な学習の時間」における「探究的な学習」の在り方** 「総合的な学習の時間」の特質とも言える「探究的な学び」のプロセスや「探究課題」について理解を深める。	テキストをもとに「探究的な学習のプロセス」や「探究課題」について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「探究的な学習のプロセス」「探究課題」について理解を深める。	4時間
第4回	**「総合的な学習の時間」と各教科等との関連** 「総合的な学習の時間」と各教科等で育成を目指す資質・能力との関連について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」と他の教科等との関連について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、他の教科等で育成する資質・能力との関連について理解を深める。	4時間
第5回	**「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の留意点** 「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の基本的な考え方と留意事項についての理解を深める。	「総合的な学習の時間」の年間指導計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに年間指導計画作成の基本的な考え方や留意点について理解を深める。	4時間
第6回	**「総合的な学習の時間」の単元計画についての考え方** 「総合的な学習の時間」の単元計画作成の基本的な考え方と授業づくりの留意事項についての理解を深める。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の単元計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに単元計画作成の基本的な考え方や留意事項について理解を深める。	4時間
第7回	**「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方とその方法** 「総合的な学習の時間」についての評価の基本的な考え方と方法について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の評価について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、評価の基本的な考え方や方法について理解を深める。	4時間

432

授業科目名	小中保健体育科指導法【2023年入学生～】／中等保健体育科指導法Ⅰ【～2022年入学生】				
担当教員名	滝沢洋平				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業で取り扱う中心テーマは、「体育授業づくりに必要な基礎知識」である。学習指導要領における保健体育科の目標及び内容や体育における指導案作成の手順と形式等について学修することを通して、体育授業づくりに必要な基礎知識を習得する。到達目標として、学習指導要領における保健体育科の目標や内容、全体構造を理解していること、学習指導案の構成を理解し、具体的な体育授業を想定した授業設計ができることを掲げている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	学習指導要領における保健体育科の目標及び内容	保健体育科教員としての専門性を高めるための基礎的な知識・技能を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的・継続的に学び続ける習慣を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記）	30 %	： 試験の素点に基づいて、到達度を評価します。
単元構造図と指導案	30 %	： 最終的に提出された単元構造図と指導案について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	40 %	： 各授業で課す小レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省	・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編	・東山書房	・2018 年
文部科学省	・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編	・東山書房	・2019 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本科目のねらいと流れ）、体育授業開き** 本科目のねらいと流れを確認したうえで、ワークショップを通して体育授業開きの意義や実施方法について学修する。	中学校・高校時代の体育授業開きについてまとめる。	4時間
第2回	**良い体育授業・良い体育教員** これまでの体育授業に関する被教育体験を振り返り、自身の体育授業観、体育教師観を明確にする。	これまでの体育授業に関する被教育体験についてまとめる。	4時間
第3回	**学習指導要領における保健体育科の目標と内容** 学習指導要領における保健体育科の目標と内容を理解し、現代の保健体育科教員に求められる資質能力について検討する。	学習指導要領における保健体育科の目標についてまとめる。	4時間
第4回	**体育の歴史的変遷** 学習指導要領における体育科の歴史的変遷を理解する。	学習指導要領における体育科の歴史的変遷についてまとめる。	4時間
第5回	**体育の内容構成と本質的な課題（１）球技／体育理論** 球技と体育理論の目標や内容、教材研究の方法などについて学修する。	球技と体育理論の指導方法についてまとめる。	4時間
第6回	**体育の内容構成と本質的な課題（２）陸上競技／水泳** 陸上競技と水泳の目標や内容、教材研究の方法などについて学修する。	陸上競技と水泳の指導法方法についてまとめる。	4時間
第7回	**体育の内容構成と本質的な課題（３）体つくり運動／器械運動** 体つくり運動と器械運動の目標や内容、教材研究の方法などについて学修する。	体つくり運動と器械運動の指導法方法についてまとめる。	4時間
第8回	**体育の内容構成と本質的な課題（４）武道／ダンス** 武道とダンスの目標や内容、教材研究の方法などについて学修する。	武道とダンスの指導法方法についてまとめる。	4時間
第9回	**体育授業づくりの基礎知識（１）学習者論・学習指導論** 体育学習の主体である生徒の体力・運動能力、運動技能、心理、運動に対する価値観等について学修する。	体育授業づくりの基礎知識（１）学習者論・学習指導論についてまとめる。	4時間
第10回	**体育授業づくりの基礎知識（２）体育の学習内容と教材・教具論** 体育の授業づくりにおける教員の中心的な仕事である学習内容の分析と抽出、教材・教具の構成・開発の際に求められる基本的な視点や条件について学修する。	体育授業づくりの基礎知識（２）体育の学習内容と教材・教具論についてまとめる。	4時間
第11回	**体育授業づくりの基礎知識（３）体育の指導技術（ICT機器の活用を含む）** 授業の成果と肯定的な雰囲気づくりに重要な役割を果たすモニタリングや相互作用技術、ICT機器の活用をはじめとした、教授行為について学修する。	体育授業づくりの基礎知識（３）体育の指導技術（ICT機器の活用を含む）についてまとめる。	4時間
第12回	**体育授業づくりの基礎知識（４）実技指導におけるリスク管理** 体育授業で最も重要な要素であるリスク管理について、具体的な事例から学修する。	体育授業づくりの基礎知識（４）実技指導におけるリスク管理についてまとめる。	4時間
第13回	**体育授業の授業計画づくり（１）単元構造図と指導案作成の手順と形式** 単元構造図と指導案の概要を理解し、作成のための順序とその形式を理解する。	単元構造図と指導案を各自で作成する。	4時間
第14回	**体育授業の授業計画づくり（２）目標・内容・方法・評価の一貫性** 目標・内容・方法・評価の一貫性が担保された単元構造図と指導案を作成する。	指導法Ⅱに向けて、自己の課題をまとめる。	4時間

432

授業科目名	**中等保健体育科指導法Ⅱ**				
担当教員名	安部惠子・滝沢洋平				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業で取り扱う中心テーマは「体育授業の模擬授業及びリフレクション」である。具体的な運動種目として、マット運動、ダンス、短距離走・リレー、長距離走、バレーボール、サッカーを取り扱う。体育授業の模擬授業及びそのリフレクションを通して、体育授業設計能力と体育授業運営能力、さらに体育授業評価能力を向上させることを目指す。到達目標として、体育の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けていることを掲げている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	体育授業の模擬授業及びリフレクション	体育授業改善の視点を身に付けることができる。

汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的・継続的に学び続ける習慣を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。
指導案及び模擬授業	40 %	： 作成した指導案に準拠して、学習指導が円滑に進んでいるかを、独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	40 %	： 各授業で課す小レポートを、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週火曜日の昼休み

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／体育授業の設計と運営（1）素材研究・教材研究と基礎的教授技術** 体育授業における素材研究と教材研究の違いを理解したうえで、基礎的教授技術について学修する。	自身が担当する模擬授業の指導案作成・検討	4時間
第2回	**体育授業の設計と運営（2）授業リフレクション（外部講師による講義）** 外部講師による講義から，体育授業におけるリフレクションについて学修する。	自身が担当する模擬授業の素材研究と教材研究	4時間
第3回	**モデル模擬授業と協議会** モデル模擬授業と協議会を通して、第2回で学修した授業リフレクションについて理解を深めつつ、第4回以降のマイクロティーチングについて見通しをもつ。	自身が担当する模擬授業の導入・予備運動・主運動・振り返りのつながりの検討	4時間
第4回	**マイクロティーチングとそのリフレクション（1）マット運動** マット運動のマイクロティーチングとそのリフレクションを行う。	マット運動のリフレクションシートの作成	4時間
第5回	**マイクロティーチングとそのリフレクション（2）サッカー** サッカーのマイクロティーチングとそのリフレクションを行う。	サッカーのリフレクションシートの作成	4時間
第6回	**マイクロティーチングとそのリフレクション（3）バレーボール** バレーボールのマイクロティーチングとそのリフレクションを行う。	バレーボールのリフレクションシートの作成	4時間
第7回	**マイクロティーチングとそのリフレクション（4）バスケットボール** バスケットボールのマイクロティーチングとそのリフレクションを行う。	バスケットボールのリフレクションシートの作成	4時間
第8回	**体育授業の設計と運営（3）インストラクション方略（ICT機器の活用を含む）** 体育授業の運営において重要な要素であるインストラクション方略について、ICT機器の効果的な活用も含めて学修する。	自身が担当する模擬授業のインストラクション方略の検討	4時間
第9回	**体育授業の設計と運営（4）マネジメント方略** 体育授業の運営において重要な要素であるマネジメント方略につい学修する。	自身が担当する模擬授業のマネジメント方略の検討	4時間
第10回	**模擬授業とそのリフレクション（1）ハードル走** ハードル走の模擬授業とそのリフレクションを行う。	ハードル走のリフレクションシートの作成	4時間
第11回	**模擬授業とそのリフレクション（2）走り幅跳び** 走り幅跳びの模擬授業とそのリフレクションを行う。	走り幅跳びのリフレクションシートの作成	4時間
第12回	**模擬授業とそのリフレクション（3）リレー** リレーの模擬授業とそのリフレクションを行う。	リレーのリフレクションシートの作成	4時間
第13回	**模擬授業とそのリフレクション（4）長距離走** 長距離走の模擬授業とそのリフレクションを行う。	長距離走のリフレクションシートの作成	4時間
第14回	**授業全体の振り返り** 中等保健体育科指導法Ⅱにおける自己の課題を認識し、その解決方法を考える。	中等保健体育科指導法Ⅲに向けた保健の教材研究	4時間

433

授業科目名	中等保健体育科指導法Ⅲ				
担当教員名	滝沢洋平				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業の中心テーマは、「保健授業の模擬授業及びリフレクション」である。保健授業の模擬授業及びそのリフレクションを通して、保健授業設計能力と保健授業運営能力、さらに保健授業評価能力を向上させることを目指す。具体的な単元としては、健康の成り立ちと疾病の発生要因、運動と健康、体の発育・発達、生殖機能の成熟、傷害の発生要因、交通事故の発生要因、生活習慣病の起こり方などを取り扱う。到達目標として、保健の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けていることを掲げている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	保健模擬授業とそのリフレクション	保健授業改善の視点を身に付けることができる。

汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的・継続的に学び続ける習慣を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
定期試験（レポート）	20 %	:	定期試験レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。
指導案と模擬授業	40 %	:	作成した指導案に準拠して、学習指導が円滑に進んでいるかを、独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	40 %	:	各授業で課す小レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
戸田芳雄	・ 新しい保健体育	・ 東京書籍株式会社	・ 2021 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週火曜日の昼休み

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／モデル保健模擬授業とそのリフレクション** 本授業の目標と流れを確認し、モデル模擬授業の観察とそのリフレクションを通して、今後の見通しを立てる。	自身が担当する模擬授業の指導案検討	4時間
第2回	**保健授業づくりの基礎知識（１）保健の授業づくり・教材論** 保健授業における教材研究の意義と方法を理解したうえで、保健の指導案を作成する。	自身が担当する模擬授業の教材研究	4時間
第3回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（１）健康の成り立ちと疾病の発生要因** 健康の成り立ちと疾病の発生要因の模擬授業とリフレクションを行う。	健康の成り立ちと疾病の発生要因のリフレクションシートの作成	4時間
第4回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（２）運動と健康** 運動と健康の模擬授業とリフレクションを行う。	運動と健康のリフレクションシートの作成	4時間
第5回	**保健授業づくりの基礎知識（２）保健の指導方法論（ICT機器活用含む）・評価論** 保健授業におけるICT機器の活用を含めた指導方法と評価方法について学修する。	自身が担当する模擬授業の指導方法・評価の検討	4時間
第6回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（３）食生活と健康** 食生活と健康の模擬授業とリフレクションを行う。	食生活と健康のリフレクションシートの作成	4時間
第7回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（４）体の発育・発達** 体の発育・発達の模擬授業とリフレクションを行う。	体の発育・発達のリフレクションシートの作成	4時間
第8回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（５）生殖機能の成熟** 生殖機能の成熟の模擬授業とリフレクションを行う。	生殖機能の成熟のリフレクションシートの作成	4時間
第9回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（６）傷害の発生要因** 傷害の発生要因の模擬授業とリフレクションを行う。	傷害の発生要因のリフレクションシートの作成	4時間
第10回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（７）生活習慣病の予防** 生活習慣病の予防の模擬授業とリフレクションを行う。	生活習慣病の予防のリフレクションシートの作成	4時間
第11回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（８）喫煙の害と健康** 喫煙の害と健康の模擬授業とリフレクションを行う。	喫煙の害と健康のリフレクションシートの作成	4時間
第12回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（９）環境への適応能力** 環境への適応能力の模擬授業とリフレクションを行う。	環境への適応能力のリフレクションシートの作成	4時間
第13回	**保健の模擬授業とそのリフレクション（１０）感染症の広がり方** 感染症の広がり方の模擬授業とリフレクションを行う。	感染症の広がり方のリフレクションシートの作成	4時間
第14回	**授業全体の振り返り** 本授業における自己の課題を認識し、その解決方法について検討する。	中等保健体育科指導法Ⅳに向けた体育の教材研究	4時間

433

授業科目名	中等保健体育科指導法Ⅳ				
担当教員名	滝沢洋平				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業の中心テーマは「保健体育科における実践研究の授業設計への活用」と「自己の授業観・教師観の確立」である。保健体育科における実践研究の動向について学修することを通して、より良い保健体育授業を設計・実施・評価する能力を向上させることを目指す。到達目標として、①発展的な学習内容について探究し、指導の位置付けを考察することができる、②保健体育科における実践研究の動向を知り、授業設計・実施・評価能力の向上に取り組むことができる、の2点を掲げている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保健体育科における実践研究の動向	保健体育科における実践研究の動向を授業設計へ活用することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的・継続的に学び続ける習慣を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
筆記試験（レポート）	20 %	:	定期試験レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。
指導案と模擬授業	40 %	:	目標・内容・方法・評価の妥当性及び一貫性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	40 %	:	各授業で課す小レポートを、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週火曜日の昼休み

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと教育実習における学びの振り返り** 本授業の目標と流れを確認し、教育実習における成果と課題を共有する。	自身の理想とする保健体育授業・教師について考えておく。	4時間
第2回	**体育授業における実践研究の動向（1）カリキュラム論** 体育授業における実践研究の動向として、カリキュラム論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	カリキュラム論を活かした体育指導案について検討しておく。	4時間
第3回	**体育授業における実践研究の動向（2）教授・学習指導論** 体育授業における実践研究の動向として、教授・学習指導論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	教授・学習指導論を活かした体育指導案について検討しておく。	4時間
第4回	**体育授業における実践研究の動向（3）体育教師教育論** 体育授業における実践研究の動向として、体育教師教育論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	体育教師教育論を活かした体育指導案について検討しておく。	4時間
第5回	**体育授業における実践研究の動向（4）体育科教育学の研究方法論** 体育授業における実践研究の動向として、体育科教育学の研究方法論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	体育科教育学の研究方法論を活かした体育指導案について検討しておく。	4時間
第6回	**保健授業における実践研究の動向（1）カリキュラム論** 保健授業における実践研究の動向として、カリキュラム論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	カリキュラム論を活かした保健指導案について検討しておく。	4時間
第7回	**保健授業における実践研究の動向（2）教授・学習指導論** 保健授業における実践研究の動向として、教授・学習指導論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	教授・学習指導論を活かした保健指導案について検討しておく。	4時間
第8回	**保健授業における実践研究の動向（3）保健教師教育論** 保健授業における実践研究の動向として、保健教師教育論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	保健教師教育論を活かした保健指導案について検討しておく。	4時間
第9回	**保健授業における実践研究の動向（4）保健科教育学の研究方法論** 保健授業における実践研究の動向として、保健科教育学の研究方法論を取り扱い、この内容を活かした指導案作成について学修する。	保健科教育学の研究方法論を活かした保健指導案について検討しておく。	4時間
第10回	**実践研究の知見を踏まえた体育授業の指導案作成** これまでの授業で学修したことを活かし、体育授業の指導案を作成する。	実践研究の知見を踏まえた体育授業の指導案を完成させる。	4時間
第11回	**実践研究の知見を踏まえた保健授業の指導案作成** これまでの授業で学修したことを活かし、保健授業の指導案を作成する。	実践研究の知見を踏まえた保健授業の指導案を完成させる。	4時間
第12回	**作成した保健体育科指導案に関するポスターセッション** 第10回・第11回で作成した指導案に関するポスターセッションを行う。	ポスターセッションの内容についてリフレクションシートを作成する。	4時間
第13回	**理想の保健体育授業・保健体育教師に関するプレゼンテーション（1）準備** 理想の保健体育授業・保健体育教師に関するプレゼンテーションの準備を行う。	理想の保健体育授業・保健体育教師に関するプレゼンテーションを完成させる。	4時間
第14回	**理想の保健体育授業・保健体育教師に関するプレゼンテーション（2）発表会** 理想の保健体育授業・保健体育教師に関するプレゼンテーション発表会を行う。	中等保健体育科指導法での学修を振り返る。	4時間

432

授業科目名	**小中英語科指導法**				
担当教員名	伊藤由紀子・石田雅子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	（伊藤）大阪市の公立中学校英語教諭として、その後教育センター研究員として24年間勤務。小中学校英語教育、国際理解教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験。（全14回）（石田）大阪・奈良・京都・三重の小・中・高等学校の英語科教員として通算22年間勤務し、英語教育、異文化　コミュニケーションの授業提案等に関わる経験あり。（全14回）				

授業概要

急速なグローバル社会の進展に伴い、世界各国で外国語学習の低年齢化が進んでいる。日本においても2011年度より高学年で「外国語活動」が導入され、2020年度からは教科「外国語」「外国語活動」が導入されている。本講義では、日本の小学校教育課程における外国語教育の位置づけや目標、また外国語を学ぶ際の発達段階、言語習得を踏まえ、英語に関する基本的な事項（音声、語彙、文構造、正書法など）について学修を進めていく。また、小学校外国語教育はそのあとに中学校・高等学校へと指導が継続していく。小学校、中学校の目標の違いや小中連携という視点を大切にして、考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	小学校および中学校外国語教育について、学習指導要領で示されている目標や方針を理解するとともに、発達段階や言語習得理論などの理論的基盤について理解する。	小学校および中学校の外国語の授業を実践する際に必要な教科内容について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		小学校および外国語教育をめぐる理論的知見を理解するとともに、実践的な指導力の基礎となる教科内容を身に付けることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な児童生徒がいるクラスの中で、個々を尊重し、指導できる力を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	20　％	：　毎回の授業に真摯に取り組み、積極的に発言し、仲間と協力して活動できているか、自身でまとめノートを整理できているかを総合的に評価する。（20点）
授業後のレポート・授業内課題	30　％	：　授業内課題(20点）において基礎的な知識を踏まえて課題に取り組めたかを評価する。各授業での振り返り（10点）や、外国語教育に関するさまざまな理論を理解しているかを評価する。
最終発表		：　模擬授業において、英語教育に関する理論をもとに、効果的な授業を行う視点とティーチングスキルをどれだけ身につけられたかを評価する。（30点）

30　%

最終レポート　：　模擬授業の指導案および振り返り、課題をまとめたレポートを課す。指導案の書き方を習得し、分かりやすく簡潔に書かれているか、自身の模擬授業を客観的に見つめ、改善できるかを評価する。（20点）

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編	・開隆堂　978-4304051685	・2018　年
アレン玉井光江ほか	・NEW HORIZON Elementary 6（令和6年度版）	・東京書籍	・2024　年

参考文献等

・柏木賀津子・伊藤由紀子『小・中学校で取り組む　はじめてのCLIL授業づくり』大修館書店　2020年。ISBN978-4-469-24638-4

・赤沢真世（編著）『小学校外国語科・外国語活動の授業づくり』2022年。ISBN978-4-316-80496-5

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業ではノートを準備し、学んだことを整理しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜4限

場所：　伊藤研究室

備考・注意事項：　質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：小学校および中学校における外国語教育の意義と目標、コミュニケーション能力** グローバル化の進展、英語話者・英語学習者の人口推移、CEFR、多言語主義について触れ、小学校での英語教育の必要性、コミュニケーション能力、小中連携について考えます。また、外国語や外国語活動の授業のイメージを体験します。	英語でself-introductionを考える。	4時間
第2回	**小中学習指導要領に示された外国語活動、外国語の内容、第二言語習得理論** 小学校および中学校の学習指導要領について学びます。 ・改訂の基本方針と要点 ・外国語・外国語活動の目標 ・4技能5領域のそれぞれの目標と内容 背景として、アジア・ヨーロッパ諸国における英語学習、ESLとEFLについて学びを深めます。また、発達段階や第二言語習得理論からみる、外国語活動の利点やカリキュラム構成、TPRについて学びます。さらに、小学校から中学校へと繋がっていく外国語の指導について考えます。	学習指導要領の目標について整理する。	4時間
第3回	**英語の音声から文字へ（１）歌とチャンツ** 外国語教育におけるチャンツや歌の指導について理解し、音楽を活用したアクティビティを取り入れながら進める授業のイメージを持つとともに、具体的な指導内容と指導のポイントを理解します。	興味のある歌・チャンツを調べる。	4時間
第4回	**英語の音声から文字へ（２）英語の音声を認識する** 外国語教育において、特に音声を重視した活動の内容を体験しながら、英語音声の特徴をとらえ、指導のポイントを考えます。外国語を習得する基礎基本となる音韻認識活動を育成するさまざまなアクティビティとその指導法を学びます。	音韻認識活動についての振り返りをする。	4時間
第5回	**英語の音声から文字へ（３）さまざまなフォニックスについて　音声と文字の関係** 小学校の音声指導から中学校の文字指導へと繋がっていくような音韻認識・フォニックス指導について学びます。さまざまなフォニックス指導を通して発音と綴りの関係について学びます。また、高学年における読み書きの指導内容を理解します。	フォニックス指導をとりあげ、分析する。	4時間
第6回	**検定教科書を読み解く、スモールトーク、デジタル・ICT機器を活用した指導** 複数の検定教科書を比較・検討し、現代の英語教育が向かう方向性や、ポイントを考えます。指導者と児童生徒、児童生徒同士の短いやり取りであるスモールトークについて知り、実際に体験します。また、外国語を指導するにあたり、効果的なデジタル・ICT教材の活用としてデジタル教科書の使用例やコンテンツ作りについて学びます。	ICT機器を活用した指導を考える。	4時間
第7回	**４技能の指導、検定教科書を使った指導の体験、教科連携** 外国語の授業における教科内容との結びつきの重要性を踏まえ、これからの社会で求められる力や異文化理解、パフォーマンス評価などについて学びます。小学校英語教育における４技能統合型の活動（パフォーマンス課題）とその評価の在り方を学びます。クラスルームイングリッシュを学びます。	異文化理解の活動について調べる。	4時間

第8回	**ミニ模擬授業体験にむけての授業づくり（1）指導計画** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識した、検定教科書を使ったミニ模擬授業体験に向けての相談・準備を行います。個人またはペアで指導計画を練ります。 クラスルームイングリッシュを学びます。	指導のアイデアを練る。	4時間
第9回	**ミニ模擬授業体験にむけての授業づくり（2）** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験に向けての相談・準備を行います。個人またはペアで教材作成、指導の練習を行います。 クラスルームイングリッシュを学びます。	パフォーマンス課題と評価についてまとめる。	4時間
第10回	**グループ発表（1）指導体験** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識したミニ模擬授業体験を行います。また、その授業についてクラス全体で振り返り、相互評価をしながら授業改善について考えます。	ミニ模擬授業体験の振り返り。	4時間
第11回	**グループ発表（2）評価と改善** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識した模擬授業を行います。また、その授業について全体を振り返り、相互評価をしながら授業改善について考えます。	相互評価を参考にミニ模擬授業体験を振り返る。	4時間
第12回	**グループ発表（3）、模擬授業のまとめ、振り返り** コミュニケーション場面における指導のポイントを意識した模擬授業を行います。実践した模擬授業について、クラス全体で振り返りながら、今後の学修への課題を考えます。また、指導案の書き方について確認します。クラスルームイングリッシュの確認テストをします。	相互評価を参考に、ミニ模擬授業体験を振り返る。	4時間
第13回	**小学校外国語教育のまとめと小中連携** 小学校外国語教育のまとめと振り返りを行います。小学校の教科書を使ったミニ模擬授業体験をふまえ、小中学校の学習指導要領の目標に触れながら、中学校への繋がりと中学校における授業づくりについて考えます。 ・小学校外国語活動、外国語科の目標 ・小中連携	小中連携について整理する。	4時間
第14回	**授業のまとめと振り返り** 14回の授業全体を通しての振り返りを行います。小学校学習指導要領外国語科・外国語活動の目標と具体的指導について整理します。また、中学校学習指導要領に関して、以下の内容を中心に復習します。 ・学習指導要領改訂の基本方針 ・外国語科改訂の趣旨と要点 ・外国語科の目標 ・4技能5領域のそれぞれの目標と各ア、イ、ウの理解	レポート課題に向けた準備。	4時間

432

授業科目名	中等英語科指導法Ⅱ				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	2年生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校教諭、指導教諭、主幹教諭（首席）（全14回）				

授業概要

小中英語科指導法での優れた学修の成果をもとに、よりすぐれた授業実践力および授業運営力を習得する。そのために、指導案作成の意義と方法を理解して、学習指導要領、英語教授法、評価方法等をより深く理解する。これらにもとづいて、input→intakeの授業実践のあり方のみならず、自己表現等を含むoutputに導くすぐれた授業の指導案を作成して、その授業を実践する力を模擬授業とその後の討論や省察で習得する。さらに、生徒理解を含めた１年間などの長期的な視点での授業運営力も習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英語教育に関する知識	英語教育に関する情報や知見を理解できる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	具体的な場面での課題を検討することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	具体的な場面に応じた指導を計画・立案できる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解	具体的な場面に応じて、的確に指導することができる。
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス	あらゆる困難を超克して優れた指導をすることができる。
5. DP７.忠恕の心	優れたコミュニケーションをとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
定期試験（レポート）	40 %	：	学修の成果を測定する。
授業外課題・小テスト	30 %	：	予習課題、レポート、復習、小テストなど。
授業への参加度	30 %	：	教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを特に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説　外国語編	・ 開隆堂出版	・ 2018　年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編	・ 開隆堂出版	・ 2019　年
高橋昌由	・ 英語×「主体的・対話的で深い学び」-中学校・高校 新学習指導要領対応-	・ 大学教育出版社	・ 2021　年

参考文献等

使用教科書：
望月明彦　新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版　大修館書店　2018
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　中学校外国語　東洋館出版社　2020
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　高等学校外国語　東洋館出版社　2021
山本崇雄　使えるフレーズ満載! All Englishでできるアクティブ・ラーニングの英語授業　学陽書房　2016

参考文献等：
齋藤榮二　『「英語で授業」ここがポイント』　大修館書店　2015　ISBN-13　：　978-4469245936
髙橋昌由　『英語授業「主体的・対話的で深い学び」を高めるために』　大学教育出版社　2023　ISBN-13　：　978-4866922614

履修上の注意・備考・メッセージ

・教職をめざすことについて覚悟してください。
・教室で使える正確な英語の力を高めてください。そのためにも文法・語法の整理に注力してください。
・予習、復習、準備を怠らないように。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2限目

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション、外国語教育の目的と意義、英語教育課程、技能統合型の指導** 授業の進め方と評価についてのオリエンテーション 英語教育課程、授業の準備と計画、模擬授業、学習指導案の作成 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第2回	**授業計画に必要な知識、授業計画、授業実践、評価、異文化指導** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第3回	**リーディング、第二言語習得と教授法** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第4回	**リスニング、学習者論、英語教師論** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第5回	**指導案（1）コミュニケーション英語I（リーディング・リスニングと4技能統合）、語彙指導、模擬授業（1）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第6回	**ライティング** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第7回	**スピーキング、** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第8回	**指導案（2）コミュニケーション英語I（ライティング・スピーキングと4技能統合）、文法指導、模擬授業（2）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第9回	**指導案（3）英語表現I（音声・語彙・辞書と文字・文法と4技能統合）、模擬授業（3）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第10回	**指導案（4）英語表現I（4技能統合）、模擬授業（4）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第11回	**指導案（5）中学校英語教科書①（input→intake→outputと4技能統合）、模擬授業（5）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第12回	**指導案（6）中学校英語教科書②（input→intake→output と4技能統合）、模擬授業（6）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第13回	**模擬授業（7）中学校英語教科書③（input→intake→output と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第14回	**模擬授業（8）コミュニケーション英語I／英語表現I（input→intake→output と4技能統合）、総括と質疑応答**	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間

講義、発表、実践、タスク		

433

授業科目名	**中等英語科指導法Ⅲ**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	2年／3年	開講期間	前期／後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校教諭、指導教諭、主幹教諭（首席）（全14回）				

授業概要

中等英語科指導法IIまでの優れた学修の成果をもとに、コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成のための授業の学習指導案を立案して、それにもとづいたよりすぐれた授業設計力および授業実践力を習得する。そのために、リデザイニング、教材教具の深い理解、提案・課題解決型学習の授業構築も含むすぐれた授業力を、模擬授業とその後の討論や省察で練磨する。また、小・中・高連携の視点でのよりすぐれた授業運営力を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英語教育に関する知識	英語教育に関する情報や知見を理解できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		具体的な場面での課題を検討することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		具体的な場面に応じた指導を計画・立案できる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		具体的な場面に応じて、的確に指導することができる。
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		あらゆる困難を超克して優れた指導をすることができる。
5. DP７.忠恕の心		優れたコミュニケーションをとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（レポート）	40 %	： 学修の成果を測定する。
授業外課題・小テスト	30 %	： 予習課題、レポート、復習、小テストなど
授業への参加度	30 %	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを特に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・中学校学習指導要領解説　外国語編	・開隆堂出版	・2018　年
文部科学省	・高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編	・開隆堂出版	・2019　年
高橋昌由	・中学英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL	・大学教育出版社	・2022　年

参考文献等

使用教科書：
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　中学校外国語　東洋館出版社　2020
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　高等学校外国語　東洋館出版社　2021
望月明彦　新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版　大修館書店　2018
山本崇雄　使えるフレーズ満載！All Englishでできるアクティブ・ラーニングの英語授業　学陽書房　2016
高橋昌由　英語×「主体的・対話的で深い学び」-中学校・高校 新学習指導要領対応-　大学教育出版社　2021

参考文献等：
齋藤榮二　『「英語で授業」ここがポイント』　大修館書店　2015　ISBN-13　：　978-4469245936
高橋昌由　『英語授業「主体的・対話的で深い学び」を高めるために』　大学教育出版社　2023　ISBN-13　：　978-4866922614

履修上の注意・備考・メッセージ

・教職をめざすことについて覚悟してください。
・教室で使える正確な英語の力を高めてください。
・予習、復習、準備を怠らないように。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2限目

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション、小・中・高連携の視点でのよりすぐれた授業設計力、授業実践力、授業運営力** 授業の進め方と評価についてのオリエンテーション 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第2回	**英語授業デザイン活用の授業実践のための模擬授業（中学校教科書①）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第3回	**言語活動のための模擬授業（中学校教科書①）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第4回	**授業中の問題への対処とリデザイニングへの模擬授業（中学校教科書②）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第5回	**教材教具と教材開発のための模擬授業（1）基礎的技術（中学校教科書②）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第6回	**アクティブ・ラーニング型授業への模擬授業（1）基礎的技術（中学校教科書③）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第7回	**授業外学習との連環のための模擬授業（中学校教科書③）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第8回	**評価のあり方のための模擬授業（英語コミュニケーションI）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第9回	**CAN-DOリストと観点別評価のための模擬授業（英語コミュニケーションI）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第10回	**省察とクラスルームリサーチのための模擬授業（英語コミュニケーションI）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第11回	**測定とテスト作成のための模擬授業（論理・表現I）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第12回	**教材教具と教材開発のための模擬授業（2）応用的技術（英語コミュニケーションII）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第13回	**アクティブ・ラーニング型授業への模擬授業（2）応用的技術（論理・表現II）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第14回	**アクティブ・ラーニング型授業への模擬授業（3）発展的技術（英語コミュニケーションIII）、総括と質疑応答**	予習・復習課題、発表の準備・練習、これまでの学修をよく振り返っておいてください。	4時間

講義、発表、実践、タスク		

433

授業科目名	**中等英語科指導法Ⅳ**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校教諭、指導教諭、主幹教諭（首席）（全14回）				

授業概要

中等英語科指導法IIIまでの優れた学修の成果をもとに、生徒の英語運用能力のさらなる伸長のために、アクティブ・ラーニング型授業実践のアプローチとしてのTBLTとCLILにより、授業実践力を模擬授業を通して修得する。これにより、コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成を達成するためのより高度な授業実践力を錬磨することにつなげる。さらに、生徒の効果的な学習を仕掛けるために、動機づけ、自己調整学習理論、集団力学等に基づいた授業構築をする高度な授業実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英語教育に関する知識	英語教育に関する情報や知見を理解できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		具体的な場面での課題を検討することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		具体的な場面に応じた指導を計画・立案できる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		具体的な場面に応じて、的確に指導することができる。
4. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		あらゆる困難を超克して優れた指導をすることができる。
5. DP７.忠恕の心		優れたコミュニケーションをとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（レポート）	40 %	： 学修の成果を測定する。
授業外課題・小テスト	30 %	： 予習課題、レポート、復習、小テストなど
授業への参加度		： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを特に評価する。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋昌由	・高校英語 「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL×PBL	・大学教育出版社	・2024　年
文部科学省	・中学校学習指導要領解説　外国語編	・開隆堂出版	・2018　年
文部科学省	・高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編	・開隆堂出版	・2019　年

参考文献等

使用教科書：
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　中学校外国語　東洋館出版社　2020
国立教育政策研究所教育課程研究センター　「指導と評価の一体化」のための学修評価に関する参考資料　高等学校外国語　東洋館出版社　2021
山本崇雄　使えるフレーズ満載！All Englishでできるアクティブ・ラーニングの英語授業　学陽書房　2016
高橋昌由　英語×「主体的・対話的で深い学び」-中学校・高校 新学習指導要領対応-　大学教育出版社　2021
高橋昌由　中学英語 「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL　大学教育出版社　2022
高橋昌由　高校英語 「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL×PBL　大学教育出版社　2024
望月明彦　新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版　大修館書店　2018

参考文献等：
笹島茂　『教育としてのCLIL』　三修社　2020　ISBN-13　：　978-4384059298
Cambridge University Press　The TKT Teaching Knowledge Test Course CLIL Module　Kay Bentley　2010　ISBN-13　：　978-0521157339
齋藤榮二　『「英語で授業」ここがポイント』　大修館書店　2015　ISBN-13　：　978-4469245936

履修上の注意・備考・メッセージ

・教室で使える正確な英語の力を高めてください。
・予習、復習、準備を怠らないように。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2限目

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、授業の進め方と評価についてのオリエンテーション** 授業の進め方と評価についてのオリエンテーション アクティブ・ラーニング型の授業としてのTBLTとCLIL、動機づけ等に関する理論	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第2回	**TBLT（1）：TBLTの基礎・基本** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第3回	**TBLT（2）：中学校でのTBLT授業実践①－Pre-task** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第4回	**TBLT（3）：中学校でのTBLT授業実践②－Task cycle** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第5回	**TBLT（4）：高等学校でのTBLT授業実践①－Language focus** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第6回	**TBLT（5）：高等学校での表現IのTBLT授業実践②－Conditions for language learning** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第7回	**TBLT（6）：よりよいTBLT授業実践** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第8回	**CLIL（1）：CLILの基礎・基本** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第9回	**CLIL（2）：中学校でのCLIL授業実践①－CLILの３つの目標（内容、ことば、学習スキル）と融通性（柔軟性・多面性）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第10回	**CLIL（3）：中学校でのCLIL授業実践②－CLILの30のコア** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第11回	**CLIL（4）：高等学校でのCLIL授業実践①－CLILの４Cs** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第12回	**CLIL（5）：高等学校でのCLIL授業実践②－CLILのauthenticityとactive learning** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第13回	**CLIL（6）：よりよいCLIL授業実践** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間
第14回	**アクティブ・ラーニング型の授業、TBLT、CLILのまとめ、すぐれた英語指導10の原則。総括と質疑応答。**	予習・復習課題、発表の準備・練習	4時間

講義、発表、実践、タスク		

432

授業科目名	生徒・進路指導論【2023年入学生～】／生徒・進路指導論（中等）【～2022年入学生】				
担当教員名	中野澄				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。（全14回）				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	望ましい生徒指導・進路指導のあり方へ の理解を深め，教育現場での実践に活か すことができるようにする。	生徒指導・進路指導に関する知識・技 能を身につけている。教育現場におけ る生徒指導・教育相談の役割と重要 性を理解している。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教職に携わることを目指す者として必要な常識や生徒・保護者への姿勢等を生徒指導面から確認し、より充実させるよう努める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度	35 %	： 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。
授業内課題	40 %	： ノート及びワークシートの内容を点検し、授業内課題の達成率について評価する。
期末レポート	25 %	： 生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　『生徒指導提要』　令和４年１2月改訂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室または教室（授業時間の前後）

備考・注意事項：　特に前回授業を欠席した場合は、翌週の授業までに必ず研究室に資料等を取りに来て、指示を受けること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 生徒指導及び進路指導について、基礎的な知識及び考え方について知る。また、シラバスを活用して、授業の進め方や準備物、評価の観点等について理解する。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理して おく。	4時間
第2回	**教育課程における生徒指導の位置づけ及び生徒指導体制・教育相談体制の違いについて** 学校教育において、生徒指導が何を目的としてどのように位置づけられるべきかを理解する。その上で、生徒指導体制と教育相談体制の具体例を示し、目的や構成員の違いについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何が生徒指導とし て行われていたか考えてみる。	4時間
第3回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（１）各教科・道徳教育における生徒指導のあり方と進め方** 各教科・道徳教育における生徒指導のあり方について探求することで、日常的な教育活動の中で生徒指導の機能がどのようにいかされるべきかを理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第4回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（２）総合的な学習の時間における生徒指導のあり方と進め方** 総合的な学習の時間において、「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、児童生徒の自主性をいかす生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第5回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（３）特別活動における生徒指導のあり方と進め方** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第6回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（１）家庭・地域・関係機関と連携した対応の重要性と進め方** いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発生件数の全国的な状況を理解するとともに、具体的な事案も取り上げながら、児童生徒の最善の利益のための家庭・地域・関係機関との連携の必要性を理解し、具体的な進め方を考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、教育実習校に関連する関係機関の場所を調べる。	4時間
第7回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（２）教員と専門職との日常的な連携の目的や進め方** 今後、さらに進むであろうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充を意識し、教員と専門職との連携の重要性について、具体的な事案も取り上げながら理解する。アwせて、専門職の特性をいかした教育相談体制のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、専門職の資格や役割についてさらに調べる。	4時間
第8回	**実践事例研究（１）いじめへの対応、「学校いじめ防止基本方針」の目的・内容の理解** 実際の「学校いじめ防止基本方針」を収集しその内容を比較しながら、いじめの対応に関する基本的な考え方、専門職の活用、関係機関との連携のあり方について理解し、その内容をまとめる。グループワークを行う。	「学校いじめ防止基本方針」の事例を収集し、学修内容を踏まえて、内容の読み込む。	4時間
第9回	**実践事例研究（２）不登校への対応、集団指導と個別支援の方法原理** 国の動向も踏まえつつ、不登校対策を3つの視点に分けて、個別指導と集団指導の重なりの具体策や個別指導に必要な視点について理解する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、様々な自治体や学校におけるチーム学校の構成員を調べる。	4時間
第10回	**実践事例研究（３）暴力行為及び今日的な課題への対応、生徒指導に関する法令内容の理解** 生徒指導に関する法令を知り、それが学校現場ではどのように反映されるのかについて、暴力行為や児童虐待、ネット上のトラブル等の対応事例をもとに考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、体罰に関する報道等を調べまとめる。	4時間
第11回	**キャリア教育・進路指導の理論と進め方** 学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位 置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を目指して実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導として行われていたか考えてみる。	4時間

第12回	**職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義** 学校が地域と連携して取り組む体験活動の事例をもとに、事前事後学習の方法について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のHP等から職業体験に関する事例を収集する。	4時間
第13回	**ガイダンス機能を生かしたキャリア教育、キャリアカウンセリングの考え方** 進路指導・キャリア教育の方法として、全生徒を対象としたガイダンスとしての指導のあり方を理解する。進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。	4時間
第14回	**キャリアカウンセリングの方法、まとめ　―理論と実践の統合を図るために** 進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導を具体的に考える。これまでの学修内容を振り返り，望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレ ポートする。定期試験にむけて１４回の授 業全体から学んだことを復習する。	4時間

433

授業科目名	学校教育相談【2023年入学生～】／学校教育相談（中等）【～2022年入学生】				
担当教員名	米田薫・房村利香				
学年・コース等	3	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として従事。その後、臨床心理士・公認心理士として公立中学校スクールカウンセラーを経験。【全14回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は、前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校教育相談に関して、今日的な課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内テスト	10 %	：	授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題ワークシート	60 %	：	授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	20 %	：	授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価する。
定期試験（レポート）		：	授業で示された課題についてレポートし、指定された期間内に提出する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米田薫	・『改訂版　厳選　教員が使える５つのカウンセリング』	・ほんの森出版	・2019　年

参考文献等

・日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」　図書文化　2013年 ISBN：978-4-8100-3629-9

他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2時間目

場所：　中央館５階127

備考・注意事項：　質問はＥメール（yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「学校教育相談：質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育相談とは** 教育相談の定義、領域と内容　歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	シラバスを読む。教育相談の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**教育相談の基礎** 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメント、基本となる接し方について学びます。	前時の復習と本時の予習。基本となる接し方のレポート作成	4時間
第3回	**集団対象の教育相談（１）ー自他理解をテーマとする構成的グループエンカウンターー** 構成的グループエンカウンターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。授業体験レポートの作成	4時間
第4回	**集団対象の教育相談（2）ー自己受容を深める構成的グループエンカウンターー** 構成的グループエンカウンターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第5回	**集団対象の教育相談（3）ーソーシャルスキル教育** 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学び、その発展形であるSELについても触れます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第6回	**個別面接の基本（１）ー非言語的側面ー** 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第7回	**個別面接の基本（２）ー面接を始める際のポイントー** 個別面接を始める際のポイントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	**個別面接の基本（3）ー面接を進め、終結に至るー** 個人面接を進め、終結に至るプロセスを学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	**個別面接の基本（4）ー模擬面接** 個別面接の基本として学んだ事項を模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。摸擬面接レポート作成	4時間
第10回	**発達と学習についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第11回	**いじめや不登校、反社会的行動についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	**障害のある子どもの理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	**キャリア教育とキャリアカウンセリング** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間

第14回	**教育相談の現状と展望** チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

431

授業科目名	陸上競技Ⅰ				
担当教員名	濱口幹太				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

陸上競技は走・跳・投・歩から構成される運動であり、あらゆる運動・スポーツ活動の基本となる身体能力を用いる種目である。本授業では、個人で設定した課題目標を達成する事を目指し、他者へ陸上競技の指導が行えるような能力の養成を目指す。さらに、中学校・高等学校体育科教育を教授するにための専門的知識および技能を修得することも目標とする。また、受講生が、陸上競技における正しい記録測定の方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することも期待する。
中学・高等学校学習指導要領に基づき、トラック種目として100m、1500m、1500m、50mハードルおよびリレーを、跳躍種目は走幅跳び、走高跳びおよび三段跳びを投てき種目は砲丸投げとやり投げの記録測定を実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	陸上競技（走・跳・投・歩）の基本的技能	陸上競技（走・跳・投・歩）の基本的技能を習得し、それぞれの運動の仕組みを理解できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		自己の運動技能を評価し、陸上競技の基本的技能習得のために必要な課題を説明することができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者と協力して授業を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
基本的技能の習得状況	40 %	：①各種目における基本的技能の習得状況 ②自分の課題を明確にし、その課題に応じた練習を行っているかどうか
授業中の課題レポート	20 %	：①指示した形式と提出期限を守っているかどうか ②参考文献等を活用し、客観的な事実と自分の考えを具体的に書いているかどうか
授業への取り組み状況	40 %	：①体調管理を行い万全の準備で受講しているかどうか ②授業中に指導内容を理解し、技能習得に積極的に取り組んでいるかどうか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房 2017年
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房 2018年
その他は、授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問などの対応については初回授業時に伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**陸上競技の特性およびルールの解説と評価について説明** 陸上競技の特性について解説するとともに、授業を進めるにあたってのルールや評価方法について説明する。	陸上競技の特性について予習、復習する。	4時間
第2回	**短距離種目（1）100m** スターティングブロックを用いたクラウチングスタートとスタンディングスタートの違いを理解し実践する。 100m走の運動局面（加速局面、中間疾走局面、減速局面）を理解し、各局面に応じた走り方を実践する。	クラウチングスタートのルール、100m走の運動局面について予習、復習する。	4時間
第3回	**短距離種目（2）ハードル走** ハードル走における踏切、クリアランス（ディップ、抜き脚、着地）を理解し、様々なインターバルやハードル高での50mハードル走を実践する。	ハードル走のルール（走距離、ハードル高、インターバル、男女によるルールの違い）を予習、復習する。	4時間
第4回	**短距離種目（3）4×100mリレー** 100mリレーのルール（バトンゾーン、ブルーゾーンなど）と、バトンパス方法（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）について理解し、実践する。	リレーのルールと、バトンパス方法について予習、復習する。	4時間
第5回	**中・長距離種目（1） 1500m** 短距離種目のアネロビクス運動と、中距離・長距離種目のエアロビクス運動の違いについて理解し、アネロビクスとエアロビクスの境界に位置する1500m走を実践する。	アネロビクス運動とエアロビクス運動の違いについて予習、復習する。	4時間
第6回	**中・長距離種目（2）2000m** 1500m～5000m走に相当するペースで走り、心拍数による運動強度のコントロールを実践する。また、心拍数と主観的運動強度の対応関係を理解する	安静時心拍数、最大心拍数、主観的運動強度について予習、復習する。	4時間
第7回	**跳躍種目（1）走高跳** 走高跳の運動局面（助走、踏切、空中、着地）とクリアランス方法（はさみ跳び、背面跳び、ベリーロール）を理解し、実践する。	走高跳の運動局面（助走、踏切、空中、着地）とクリアランス方法（はさみ跳び、背面跳び、ベリーロール）について予習、復習する。	4時間
第8回	**跳躍種目（2）走幅跳** 走幅跳の運動局面（助走、踏切、空中、着地）と空中動作（かがみ跳び、はさみ跳び、そり跳び）を理解し、実践する。	走幅跳の運動局面（助走、踏切、空中、着地）と空中動作（かがみ跳び、はさみ跳び、そり跳び）について予習、復習する。	4時間
第9回	**跳躍種目（3）三段跳び** 三段跳びの運動局面（助走、ホップ、ステップ、ジャンプ、着地）を理解し、実践する。また、リズミカルに跳躍するバウンディング運動の特性について理解し、実践する。	三段跳びの運動局面（助走、ホップ、ステップ、ジャンプ、着地）とバウンディング運動の特性について予習、復習する。	4時間
第10回	**投擲種目（1）砲丸投げ** 砲丸投げの投法（立投げ、グライド投法、回転投法）を理解し、実践する。ボールを「投げる」動作と、砲丸を「突き出す」動作との違いを理解する。また、安全に砲丸投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	砲丸投げの投法（立投げ、グライド投法、回転投法）について予習、復習する。	4時間
第11回	**投擲種目（2）円盤投げ** 円盤投げの特性（構え、ターンの仕方）を理解し、実践する。また、安全に円盤投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	円盤投げの特性（構え、ターンの仕方）を予習、復習する。	4時間
第12回	**投擲種目（3）やり投げ** やり投げの特性（構え、クロスステップ）を理解し、実践する。また、安全にやり投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	やり投げの特性（構え、クロスステップ）を予習する。	4時間

第13回	**グループワーク（1）トラック種目** トラック種目の中で、再度記録更新したい種目を選択した者同士でグループを作成し、自らのセルフコーチングおよび他者へのコーチングに挑戦する。その課題に向けて試行錯誤して、問題点へのクリアを目指す。	トラック種目の特性やルールなど、これまでの授業で実施した内容を復習する。	4時間
第14回	**グループワーク（2）跳躍種目・投擲種目** 跳躍種目、投擲種目の中で、再度記録更新したい種目を選択した者同士でグループを作成し、自らのセルフコーチングおよび他者へのコーチングに挑戦する。その課題に向けて試行錯誤して、問題点へのクリアを目指す。	跳躍種目と投擲種目の特性やルールなど、これまでの授業で実施した内容を復習する。	4時間

431

授業科目名	**器械運動Ⅰ**				
担当教員名	樋口和真				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

中学校・高等学校の学習指導要領に示されている器械運動の特性や例示されている技の系統性を理解する。身体を動かすための基礎的な能力を身につけ、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動についてそれぞれの実技演習を通して、指導要領に示されている技を習得することを目指す。また、技を組み合わせて演技を発表するなど発展的な演習にも取り組む。さらに器械運動の指導方法について、段階的な練習を実践を通じて理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	器械運動の基本的な技の技術を理解し習得する	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編「器械運動」に例示された技の技術ポイントを理解し、示範することができる

汎用的な力	
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス	技の習得において、不足する感覚や動き方を抽出し、解決に向けた情報収集を行うことができる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	技の習得に向けて継続して修練することができる
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解	技の習得において、お互いに教え合うことで技術ポイントや動き方の情報をわかりやすく伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
運動課題の習熟度	70 %	： 授業内で、３種目の運動課題を出し、その達成度から評価する
授業への参加度	30 %	： 出席の割合、授業への積極性などから評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

良好な健康状態で参加できるよう努めてください。
器械運動では、できない技でもあきらめずに練習を重ねれば必ずできるようになります。上達することを楽しみながら、頑張っていきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業場所

備考・注意事項：　実技を伴うので運動に適した服装などの準備をすること。
装飾品は外すこと。
詳細は初回授業にて説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と器械運動の特性** オリエンテーション（器械運動の基本的な知識、授業の進め方） 柔軟運動・3点倒立・倒立	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年、第3学年」を読むこと	2時間
第2回	**マット運動（1）** 前転系の技　倒立前転・伸膝前転	前転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第3回	**マット運動（2）** 後転系の技　伸膝後転、後転倒立	後転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第4回	**マット運動（3）** 側方回転系の技　側方倒立回転、ロンダート	側方回転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第5回	**マット運動（4）** 倒立回転系の技　ヘッドスプリング、ハンドスプリング	ほん転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第6回	**マット運動（5）** 前転系、後転系、側転系、倒立回転系、およびジャンプやバランスを組み合わせた演技	自分の行う演技をイメージし、技術ポイントを整理しておく	2時間
第7回	**跳び箱運動（1）** 切り返し系の技　開脚跳び	切り返し系の技について、ポイントを整理しておく	2時間
第8回	**跳び箱運動（2）** 切り返し系の技②　かかえ込み跳び・屈身跳び	切り返しの技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第9回	**跳び箱運動（3）** 回転系の技　台上前転・ヘッドスプリング・ハンドスプリング	回転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第10回	**鉄棒運動（1）** 後方回転系の技　逆上がり・後方支持回転	後方回転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第11回	**鉄棒運動（2）** 前方回転系の技　前方支持回転	前方回転系の技について、技術ポイントを整理しておく	2時間
第12回	**鉄棒運動（3）** 膝かけ上がり・け上がり	膝かけ上がり、け上がりについて、技術ポイントを整理しておく	2時間
第13回	**鉄棒運動（4）** 上がり技　回転技　下り技　を組み合わせて演技を実施	自分の演技をイメージし、技術ポイントを整理しておく	2時間
第14回	**技能テストまとめ（マット・跳び箱・鉄棒）** 各授業でできなかった技について、テストを行う	自分のできていない技について確認し、技術ポイントを整理しておく	2時間

431

授業科目名	**球技Ⅰ（ネット型）**				
担当教員名	中村浩也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内外における幅広い競技レベル（普及レベル～国代表レベル）・年齢層（就学前～高齢者）を対象に、20年以上にわたり指導を行っている。（全14回）				

授業概要

学習指導要領に示されるネット型スポーツのうち、バレーボールを中心に取り上げる。バレーボールは力と高さと予測のゲームと言われており、日本で人気の高いスポーツの一つである。しかしバレーボールを教材として体育授業を展開するとき、その技術習得の難しさからバレーボール本来の楽しさを伝えることが困難なケースがよく見受けられる。本講義では、レクリエーションレベルから競技レベルまで幅広く対応できるよう、それぞれのレベルに応じた指導法を学ぶ。指導者を志す学生としてふさわしい態度で臨んでいただきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	バレーボールに関する知識・技能の獲得	授業での学びをもとに、バレーボールの概要について理解できる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	ネット型スポーツの授業実践力の獲得	授業での学びをもとに、ネット型スポーツの学習指導案を作成することができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		身体運動の構造と機能について理解できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
実技試験	50 %	：	ネット型スポーツにおける各種スキルについて、独自のルーブリックに基づき4段階で評価する。
授業への取り組み状況	50 %	：	教員や他の受講生とのやり取り、実習への取り組み姿勢、および授業中に作成するプログレスレポートを独自のルーブリックによって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

コーチングバレーボール（基礎編）,日本バレーボール協会,大修館書店,2017(ISBN:9784469268119)

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。
本授業は実技中心で行います。よって、運動にふさわしい服装・シューズを着用し参加すること。また、ピアスやネックレス、指輪等の装飾品は原則として外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業前後に質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ネット型スポーツの基本的要素** ネット型スポーツの基本的要素について概説する。また、バレーボールの歴史的背景や技術の進化、授業化にあたっての要点理解を促す。	ネット型スポーツについてまとめる	1時間
第2回	**パスの基礎技術** バレーボールにおけるパスの種類について理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	パスの基礎技術を練習する	1時間
第3回	**パスの応用技術** バレーボールにおけるパスの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	パスの応用技術を練習する	1時間
第4回	**アタックの基礎技術** バレーボールにおけるアタックについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	アタックの基礎技術を練習する	1時間
第５回	**アタックの応用技術** バレーボールにおけるアタックの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	アタックの応用技術について練習する	1時間
第6回	**ブロックの基礎技術** バレーボールにおけるブロックについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	ブロックの基礎技術について練習する	1時間
第7回	**ブロックの応用技術** バレーボールにおけるブロックの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	ブロックの応用技術について練習する	1時間
第8回	**サーブの基礎技術** バレーボールにおけるサーブについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	サーブの基礎技術について練習する	1時間
第9回	**サーブの応用技術** バレーボールにおけるサーブの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	サーブの応用技術について練習する	1時間
第10回	**レセプションの基礎技術** バレーボールにおけるレセプションについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	レセプションの基礎技術について練習する	1時間
第11回	**レセプションの応用技術** バレーボールにおけるブロックの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	レセプションの応用技術について練習する	1時間
第12回	**チーム構成とフォーメーション** バレーボールのチーム構成とフォーメーションについて理解し、戦術に関する基礎的理解を促す。	フォーメーションについて練習する	1時間
第13回	**バレーボールにおける戦術の基礎的理解** バレーボールにおける戦術の基礎的理解を深めるとともに、発展の可能性を探り、その指導法を学ぶ。	戦術シートの作成	1時間
第14回	**バレーボールの教材化** バレーボールを教材化する際の問題点について理解し、より良い授業とは何かについて考える。	戦術シートの作成	1時間

431

授業科目名	**球技Ⅱ（ベースボール型）**				
担当教員名	灘本雅一				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、中学校及び高等学校学習指導要領(保健体育)に示されるベースボール型スポーツのうち、ソフトボール・ティーボール・キックベースボールを中心に行う。また、レクリエーションレベルから競技レベルまで幅広く対応できるよう、それぞれのレベルに応じた指導法を学ぶことを目的とする。具体的には、次の5点を習得させる。①種目の特性と審判法②キャッチング・トス・バッティングスキル・ピッチングの基本技能と応用技能③守備パターン・攻撃パターンと走塁の実践学習④戦術のバリエーション⑤基本技能を修得するための指導法

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	①ウォームアップ・クールダウンの方法を理解できる。 ② ベースボールに必要な基本動作(投・捕・打・走)を修得することができる。 ③ 安全対策を重視した種々のゲームを理解し、その実践方法を理解できる。	正確な投球と正しい捕球体制がとれる。狙った方向に打球を打てる。進塁打、犠打が打てる。状況に応じた適切な走塁ができる。
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	個人的技能の課題を見つけ、修正する力を身につける。	指導を意識しながらゲーム展開を実践できる知識と技能を修得する。フォースアウト、タッチアウトの理解ができ、状況に応じた判断プーレができる。集団技能としてダブルプレーができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		個人的技能の課題を見つけ、修正する力を身につける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		集団的技能を高めるための、ホジション理解とカーバーリング及び犠打の理解で身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
特性・ルールの習得	30 %	： 状況に応じた判断プレーと状況に応じた攻守のセオリー理解を総合的に評価を行う。
技能・戦術の習得	30 %	： 投能力(距離と正確性)、捕球技能(ゴロとフライの基本捕球姿勢)、打撃能力(飛距離と狙った方向に打てる)、ゲーム形式での打撃・守備・走塁の判断能力を総合的に評価を行う。
指導練習における事前準備・運営・実践		： 準備運動や整理運動、集合時の聞く姿勢、判断能力を高める適切な指示の声、チームワークを総合的に評価を行う。

40　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・中学校学習指導要領解説　保健体育編	・東山書房	・2008　年
文部科学省	・高等学校学習指導要領解説　保健体育編	・東山書房	・2009　年

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業を行う場所

備考・注意事項：　授業の諸注意、オフィスアワーの活用に関しては、初回授業で説明します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション** ボール運動に対する自己評価などを行う ソフトボールのルール理解。	学習指導要領　球技ベースボール型を熟読し、内容を把握しておくこと。	4時間
第2回	**チーム編成及びウォームアップ・クールダウンの方法** チーム編成に基づき、ベースボールに適したウォームアップ・クールダウンを行う。 キャッチボールドリル、バッティングドリルを行う。	授業で実践したベースボールに適したウォームアップ・クールダウンをできるようにしておく。	4時間
第3回	**ウォームアップ・クールダウンの実践及びキャッチボールの基本動作について** チーム編成に基づき、キャッチボールを行う。様々なキャッチボールの展開。	授業で実践した、色々なキャッチボールをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第4回	**Ｔボール、ソフトボール、キックベースボールの概要及び解説** ベースボール型のゲーム展開をケースごとに行う。簡易ゲームの展開による打つ、守る技能を高める。	授業で実践した、色々なケースでの動きをイメージし理解しておく。	4時間
第5回	**Ｔボールの実践（１）打撃練習** ティーを用いた打撃練習による、バッティングポイントを習得する。簡易ゲームの展開による打つ、守る技能を高める。	授業で実践したバッティングポイントをイメージして、バッティング動作をイメージしておくこと。	4時間
第6回	**Ｔボールの実践（２）守備、走塁練習** ランナー付きのノックとT打撃によるランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第7回	**Ｔボールの実践（３）ゲーム** ティーボールでのゲーム展開を理解する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第8回	**ソフトボールの実践（１）打撃練習** ティーボールと異なり、ソフトボールでの動くボールを打つ、ヒッティングポイントを習得する。満塁スタート制による守備機会、得点機会の多い試合展開を学ぶ。	授業で実践したバッティングポイントをイメージして、バッティング動作をイメージしておくこと。	4時間
第9回	**ソフトボールの実践（２）守備、走塁練習** ランナー付きのノックとランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。走塁の判断練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第10回	**ソフトボールの実践（３）ゲーム** ソフトボールのゲーム展開を理解する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第11回	**ソフトボールの実践（４）ゲーム** 満塁スタート制によるフォームプレー、ダブルプレーの判断理解を展開する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第12回	**キックベースの実践（１）打撃(キック)練習** 打撃練習によるヒッティングポイントを習得する。	ボールをヒットするタイミングやポイントをイメージしておく。	4時間

第13回	**キックベースの実践（２）守備、走塁練習** ランナー付きのノックとランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第14回	**総括と質疑応答** 授業で展開したゲーム理解をケースに応じた状況判断が理解出来たかをテストする。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間

431

授業科目名	**球技Ⅲ（ゴール型）**				
担当教員名	坂本拓巳				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

サッカーにおける個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、習得することで仲間と関わり合いながら攻防するサッカー本来の楽しさを経験することを目的とする。また、ゲーム分析を通じて、戦術に関わるグループディスカッションを交えることで、将来、教育現場における指導者として適切な指導が行える能力を養うことを目的とする。具体的に、ゲーム状況をビデオ撮影し、ゲームの流れや現象に関する課題を抽出することで、トレーニングメニューやゲームプランの立案を行えるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	前半は、サッカーに欠かせないスキルトレーニング（パス・ドリブル・シュート等）を行う。後半は、個人戦術・グループ戦術・チーム戦術について、実技形式で学習する。	サッカーにおける個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、習得することで仲間と関わり合いながら攻防するサッカー本来の楽しさを経験することを目的とする。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループディスカッションを交えることで、将来、教育現場における指導者として適切な指導が行える能力を養うことを目的とする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	20 %	： 指定した課題に対して参考図書や文献等を用いて論述できているかどうか。文字数や提出期日などが守られているかどうか。総合的に判断し採点を行う。
授業への取り組み	50 %	： サッカー技能に対する個人の取り組みおよびチーム、グループでの活動状況を総合的に判断し採点を行う。
実技テスト	30 %	： サッカー技能習得に向けて、中間および最終に実技試験を行う。個人、チーム等での実技を通して、その成長や努力も含めて総合的に判断し、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業を行う場所

備考・注意事項：　授業の諸注意、オフィスアワーの詳細に関しては、初回授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**サッカーの歴史およびルールについて** サッカーの歴史および背景を振り返るとともに、ルールの確認を行っていく。また、今後のスケジュールの確認やグルーピングを行うと同時に、授業参加にあたっての注意事項等についても確認していく。	授業内で配布した資料を用いて、サッカーの歴史およびルールの復習を行う。	4時間
第2回	**ボールフィーリング** 「どのくらいの強さでボールタッチすると、ボールがどのくらい移動するのか？」や「足のどの部分でタッチすると、どの方向にボールが移動するのか？」といったボールフィーリングを養うことを目的に、授業を展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第3回	**基本技術の習得（１）パス** 多様なキックの方法について紹介し、意図した方向、強さ、タイミングでパスが行えることを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第4回	**基本技術の習得（２）トラップ** 自分に向かってくるボールに対して、意図した場所にボールを置くことを目的に、授業を展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第5回	**基本技術の習得（３）ドリブル** ドリブルの種類（運ぶドリブル、交わすドリブル、突破するドリブル等）について解説する。また、ドリブルをしながら相手や味方の状況を把握することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第6回	**基本技術の習得（４）シュート** シュートキックそのものの技能向上を目的とするだけではなく、どのポジションで、どのような身体の向きでボールを受ければ質の高いシュートが打てるのかについても追及し、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第7回	**１対１の攻防（１）オフェンス** 個人戦術の攻撃に着目し、これまでの授業で習得したトラップ、ドリブル、シュートを1vs1の攻防の中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第8回	**１対１の攻防（２）ディフェンス** 個人戦術の守備に着目し、ボールを持っている者に対する守備とボールを持っていない者に対する守備について、優先順位を整理するとともに、正しいポジショニングについて理解することを目的として、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第9回	**２対１の攻防** グループ戦術の攻撃に着目し、1vs1では発生しなかったパスの選択肢を増やすことで、「壁パス」や「クロスオーバー」といったコンビネーションプレーを活用できるようになることを目的として、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第10回	**３対２の攻防** グループ戦術の守備に着目し、1vs1では発生しなかったチャレンジ＆カバーの原則について、理解することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第11回	**５対５の攻防** これまで学習した個人戦術・グループ戦術をゲームの中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第12回	**８対８（ハーフコートゲーム）** これまで学習した個人戦術・グループ戦術をゲームの中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第13回	**１１対１１（ゲーム）の実践とビデオ撮影** グルーピングした各チームでチーム戦術を共有し、実際のゲームの中で発揮することを目的とする。ゲームはビデオ撮影し、次回のゲーム分析時に用いる。	撮影したゲームを一通り見直す。	4時間
第14回	**ゲーム分析と課題の抽出** 前回撮影したゲームから、ポジティブ・ネガティブ場面を抽出し、課題を見つける。課題克服のためにどのようなトレーニングが必要であるかグループディスカッションを行う。	ポジティブ・ネガティブ場面を整理し、各自トレーニングメニューを作成しておく。	4時間

431

授業科目名	**水泳**				
担当教員名	川島康弘・野上展子・野尻奈央子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技・講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

水泳・水中運動は体育科教育における基礎的運動種目であり、人の生活の喜びや健康づくりとして活用できる生涯スポーツの代表的な種目でもある。水泳・水中運動の指導における安全で有効な指導法として、年令、性差、発達段階における特性を理解し、水慣れから初歩の泳ぎ、クロール･平泳ぎを中心として、さらに背泳ぎ、バタフライを加えた４泳法における基本的な技術及び知識の習得。効果的な授業の展開ができる指導力を養成する。
さらに、水の事故防止と安全管理、救急・救助法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	水中運動の楽しさを体験学習する。	水中運動に関するスキルとリスク管理、安全管理が理解できる。
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	水泳・水中運動が生涯スポーツとして、教育や健康作りにおける効果と役割を学ぶ	年齢に応じた水泳・水中運動の指導法を身につける
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		水の特性を理解し、４泳法を身につける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		水の安全と事故防止、事故対処能力を身につける
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		水泳・水中運動の自己研鑽とその指導法について発展的に考える姿勢を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
4泳法実技試験	60 %	： 4泳法の習得状況に応じて評価する。
授業の取り組み状況	30 %	： 水泳の4泳法の習得に対して、反復練習を積極的に実践しているか、また、泳ぎの理論と指導法について理解しているかなど、取り組み状況を評価する。
水泳実習レポート	10 %	： 14回の授業終了後に、毎回の学習内容の振り返りと指導の目的、課題を明確したレポートを書けているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考資料等を配布
必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を記録するとともに丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の場所

備考・注意事項：　上記日程にて対応します。また授業前、終了時に声を掛けて下さい。時間を調整します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価方法と授業目的と注意点および実技スケジュールについてオリエンテーション** シラバスを基に講義の目的と14回の授業内容、評価方法について説明する。 特に、安全管理について：プール（水温、塩素残量）、着衣、貴重品の管理、各自の体調管理、バディシステム、点呼等についても学習する。 配布された授業ノートの記録について。授業振り返り、復習を兼ねて、毎回の授業内容を詳しく記録し、自身が指導する際に役立つ記録ノートにする。	水泳環境について予習する	1時間
第2回	**聞き取り調査を基にしたクラス分けの確定とリスク管理について** 健康調査と泳力調査を基に4グループにクラス分けをする。 プールの水温、塩素残量、更衣室、準備・整理体操、体調チエック等の安全管理を確認する。	安全管理について予習する	1時間
第3回	**プールで楽しく泳ぐためには？** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 実際の泳力確認を行い、クラス分けの再調整と個人が得意な泳法で泳ぎ、指導法についても学習する。 水の特性について、浮く･沈む、推進と抵抗、補抵抗について実技を行いながら学ぶ。 30分の授業の後、点呼の後10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	楽しく水中運動を行うために必要なポイントを予習する	1時間
第4回	**クロール　水慣れと伏し浮き・泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。初級コースでは水慣れと伏し浮きを中心に行う。中級および上級コースでは泳法確認後、指導法について学習する。 バタ足、クロールの息継ぎ方法の基本的技術と指導法。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の特性について予習する	1時間
第5回	**クロール　プルと息つぎ練習、ローリングの習得・上級は泳ぎこみ** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。初級コースはプル練習とローリングの習得、中級および上級コースでは泳ぎこみ、後半は指導法や泳力確認方法について学習する。30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	平泳ぎの特性について予習する	1時間
第6回	**平泳ぎ　平泳ぎのキックと25mクロール完泳** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 平泳ぎのキックについて、正しいウィップキックと誤ったキックの指導法について。 初級コースはクロールのブレス習得と25m完泳を目指す。 中級および上級コースではクロールを中心に後半は指導法について学習する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	平泳ぎの指導法について予習する	1時間
第7回	**平泳ぎ　平泳ぎのプルと呼吸法、コンビネーションと長く続けて泳ぐ**	背泳ぎの特性について予習する	1時間

	健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 平泳ぎのプルと息継ぎ法を身に付け、コンビネーションで長く続けて泳ぐ練習をする。 後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。		
第8回	**背泳ぎ　背浮き、背面キックとプル、25m完泳・背泳ぎ確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 初級はプルと25m完泳、中級および上級はクロールと背泳ぎ確認、後半は指導法について学習する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の「こつ」について予習する	1時間
第9回	**バタフライ　ドルフィンキック・バタフライ泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。初級コースはドルフィンキックを中心に練習する。中級および上級コースはバタフライの泳法確認と後半は指導法について学習する。30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の指導法について予習する	1時間
第10回	**バタフライ　プル・4泳法確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。初級コースはプル動作を中心に練習を行い、中級および上級コースでは4泳法の確認と後半は指導法について学習する。30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	バタフライの特性について予習する	1時間
第11回	**水中運動（アクアビクス）** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。音楽に合わせて水中で楽しく踊る。後半は指導法についても学習する。30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	アクアビクスについて予習する	1時間
第12回	**着衣泳法** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。各班毎に着衣泳法を練習し、後半は指導法について学習する。30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	着衣泳法について予習する	1時間
第13回	**水の安全と救助法を学ぶ** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 水の安全と救助法を学び、後半は指導法についても学習する。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする	水の事故について予習する	1時間
第14回	**泳力別、4泳法の確認** 健康状態の確認と準備体操、シャワーを浴びグループ毎に入水する。 各班毎に4泳法で練習し、後半は新しい班編成で4泳法のレースを行なう。 30分の授業の後、10分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	水の事故予防について予習する	1時間

432

授業科目名	野外活動				
担当教員名	横山誠				
学年・コース等	2年	開講期間	前期集中	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、自然に親しむ知識や技能を深化させることを目標とする。野外教育では、体験を通じた学習を重視しており、野外活動を指導する上で必要な基礎的技術を身につけることを目標として様々な活動に取り組む。また、活動場所となる施設の特性に対する理解を深めると同時に、野外での活動を安全に実施するためのポイントについても理解を深めていく。さらに自然環境の中で相互協力を行うことで、他者とのコミュニケーション能力や人間性･創造性を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	野外活動を指導するための基礎的な知識と技術を習得する。	正しく自然を理解し、野外活動の目的と意義を理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		野外活動を指導する上で必要な基礎的な知識や技術、リスクマネジメント等を習得できる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		児童・生徒に適切なキャンプや野外活動の指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習前の実施計画書	20 %	： 野外活動に関する計画書を作成し、その内容を評価する。
実習後レポート試験	20 %	： 全授業終了後にレポートを実施し、その内容を評価する。
野外活動にかかわる技術の習得度	60 %	： それぞれの実習における技術、技能の習得度合いを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1）公益社団法人日本キャンプ協会『キャンプ指導者入門』（2006年、ISBN9784904008003）
2）自然体験活動研究会編　野外教育入門シリーズ第1巻　『野外教育の理論と実践』（杏林書院、2011年、ISBN9784764415812）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、安全で楽しい野外活動について自分なりにイメージを持ち、これまでの経験を振り返っておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　集中授業のため授業前後で対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス（集中講義の詳細）、野外活動の理解と計画書の作成** 本時全体のイメージを共有する。 様々な野外活動プログラムがある中、それらがどうぞのように実施されているのか、またどのような点に注意しながら指導を行っているのか、実際に現時点での指導計画書等を作成してみる。	野外活動についてのイメージを明確にし、多くの事例から様々なの指導計画等を学び進めていく。	2時間
第2回	**野外活動の意義や効果** 我が国のキャンプの歴史は約100年を数える。時間と共に社会状況と共に変わってきたこともあるが、変わらず大切に伝承されてきていることもある。そうした背景を理解し、野外活動の意義や効果について学びを深める。	日本キャンプ協会やYMCAなど古くからキャンプを実施している団体等の資料も参考にしておく。	2時間
第3回	**野外活動の基本的な考え方と野外における安全管理法** 野外活動は楽しい反面、自然の厳しさを目の当たりにすることがあり、様々な事故事例も報告されている。それらすべての事故の要因を排除することは難しいが、安全管理を徹底することで事故の発症を最小限に抑えることができる。それは指導者側だけではなく、参加者の意識も非常に重要であることを認識する。	様々な事故事例を自分なりに分析し、安全教育について考える。	2時間
第4回	**野外活動における事故事例とリスクマネジメント** 日本子供会連合会などが作成したKYT(危険予知トレーニング）のワークシートなどをもとに、リスクマネジメントについてグループワークを通して考えていく。	キャンプを実施している団体等の危機管理マニュアルなども参考にしておくこと。	2時間
第5回	**コミュニケーション実習（1）アイスブレーキング** コミュニケーション技法について体験的に理解を深める。	どの様な場面でどのようなアイスブレーキングが有効なのかを検討する。また自分が体験したアイスブレーキングをふりかえる。	2時間
第6回	**コミュニケーション実習（2）ASE** 海外のキャンプ場で実施されているパッケージドプログラムを体験する。グループで与えられた課題を体験学習法のサイクルに基づき体験し学びを深める。	Jリーグほか、多くのスポーツチームや企業などでの実践事例があるので、それらの情報を入手し社会のニーズや背景を知る。	2時間
第7回	**キャンプサイトの設営・ロービング実習** キャンプでは必須といってよいスキルのひとつがロープワークである。特に海洋プログラムではキング・オブ・ノットと言われるもやい結びをはじめヨット操船でいくつかのロービングが必要とされる。実践の場で使えるようにしたい。	身の回りにいろいろなひもがあると思うので、予習・復習をきちんとすること。	2時間
第8回	**野外炊飯実習・ナイトプログラム実習** キャンプでの野外炊事は楽しみのひとつである。この野外炊事のスキルは被災した際などにも使える・使わないといけないスキルでもある。楽しみながら基本的なスキルを身につけてほしい。またナイトプログラムは、感性を磨く活動としても有効である。五感を研ぎ澄ましいろいろなことを感じてほしい。	野外炊事は火や刃物を使うので、各自で事前にリスクマネジメントを考えておくこと。	2時間
第9回	**野外フィールド実習・登山実習** 野外のフィールドは海だけでなく、身近な山の活動も含まれる。また近年発生の可能性が高まっている東南海沖の地震では津波の被害も予想されている。そうなれば海抜の低いところから高台へ避難し、そこで生活をしないといけないことも考えられる。そうした防災教育の観点からも、一時的に海から山へ移動し活動を行う。	一日に必要な水の量や山の活動でのリスクマネジメントについても各自調べておくこと。	2時間
第10回	**体験学習法の理解** 様々なプログラムを体験し、個人としてグループとしての成長を考える。体験学習法について理解を深め、体験による効果を振り返る。	プログラム中の気づきなどを整理しておくと学びを深めるのにも役立つ。	2時間
第11回	**水辺活動実習**	自分の体験をふりかえり、単なるスキルの習得だけでなく理論的なことが理解できているかもふりかえる。	2時間

	水辺活動では、様々なアクティビティがある。自走するものや風の力を受けながら操作するものや、また一人で行うものもあればグループで協力しないとできない活動もある。そうしたことを考えながら安全に楽しく体験する。		
第12回	**プログラムデザインと対象者の理解** 本時の活動を通して、フロー理論などを用いて評価を行う。自己のスキルだけでなく対象者全体にとって無理のない、そして退屈しない活動であったのかをふりかえる。	様々な対象者に応じたプログラムデザインを考えてみる。もちろん、そこには安全が最優先されていなければならない。。	2時間
第13回	**キャンププログラムの企画・運営・評価** 本時全般について、企画面、運営名から評価を行う。どのような意図でどのような学びがあったのか、それを引き出すための工夫はどのようなところにあったのかなどを理解する。	単なる感想に終わることのないよう、気づきを振り返りながら評価を行う。	2時間
第14回	**振り返り（グループ討論）とレポートの作成** 個人としてだけでなくグループとしてのふりかえり、評価を行い多くの気づきを得るようにする。そして、今後は実践者として、そして指導者側になった際に生かせるような意見交換を行い、今後のアウトドアライフをイメージする。	日々の生活や教育現場など、あらゆるところでのアウトドアライフをイメージし、本授業を糧にしていく。	2時間

431

授業科目名	**体つくり運動**				
担当教員名	**樋口和真**				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

様々なスポーツの基本となる体をコントロールする能力を向上させ、その能力を学校現場で教授できる力を身につけることを目指す。体つくり運動としての「体ほぐしの運動」「体力を高める運動」について理解し、実践することでその運動の持つ楽しさや喜びを身をもって感じる。また、体つくり運動の教材づくりに取り組み、それぞれの運動に効果的な運動を考える。またそれを効果的に指導する方法についても考えることで実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	体つくり運動の基本的な理論を理解する	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編「体つくり運動」に記載された運動の意義を理解し、目的に応じた運動を提示することができる

汎用的な力	
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス	個々の体力について課題を発見し、それに応じた体つくり運動を選択することができる
2. DP３.社会への貢献態度	体つくり運動の教材を開発することができる
3. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	個々の体力に応じた体つくり運動について選択し、実行することができる
4. DP５.多角的な視点からの他者への理解	体つくり運動の方法・手順を相互に共有することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
運動課題の習熟度	30 %	：	授業中の活動状況、運動課題の達成度に基づいて評価する
課題発表	40 %	：	授業中、運動課題を考え発表し、その取り組み内容から評価する
授業の参加度	30 %	：	出席の割合や、授業での積極性などから評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

健康状態を良好に保つよう努め、元気に授業に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業場所

備考・注意事項：　実技を伴うので運動に適した服装などの準備をすること。
装飾品は外すこと。
詳細については初回授業で説明します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（体つくり運動の基本的な概念、授業の進め方）、アイスブレーキング** 授業の進め方について説明する 体を使ったアイスブレーキングを行う	体つくり運動について理解する	2時間
第2回	**ペアラジオ体操** 「ラジオ体操第一」の実践・習得 「ラジオ体操第一」の曲に合わせて、ペア体操を行う	ラジオ体操のアレンジを考える	2時間
第3回	**ボールをつかった運動** ボールを使ってさまざまな運動を行う	ボールをつかった運動を考える	2時間
第4回	**フープをつかった運動** フープを使ってさまざまな運動を行う	フープをつかった運動を考える	2時間
第5回	**短なわをつかった運動** 短なわを使ってさまざまな運動を行う	短なわをつかった運動を考える	2時間
第6回	**長なわをつかった運動** 長なわを使ってさまざまな運動を行う	長なわをつかった運動を考える	2時間
第7回	**リズムに合わせた運動** リズムや曲を使ってさまざまな運動を行う	リズムや曲に合わせた運動を考える	2時間
第8回	**マットをつかった運動** ペアストレッチ マットを使ってさまざまな運動を行う	マットをつかった運動を考える	2時間
第9回	**Gボールをつかった運動** Gボールを使ってさまざまな動きを行う	Gボールをつかった運動を考える	2時間
第10回	**からだつくり運動のミニ模擬授業作成** アイディアを出し合い、ミニ模擬授業の指導案を完成させる	体つくり運動の模擬授業内容について、アイディアを出す	2時間
第11回	**ミニ模擬授業の実践①** ミニ模擬授業の実践を行う	自分の担当の日に合わせて、模擬授業の準備をしておく。	2時間
第12回	**ミニ模擬授業の実践②** ミニ模擬授業の実践を行う	自分の担当の日に合わせて、模擬授業の準備をしておく。	2時間
第13回	**ミニ模擬授業の実践③** ミニ模擬授業の実践を行う	自分の担当の日に合わせて、模擬授業の準備をしておく。	2時間
第14回	**授業総括およびミニ模擬授業の予備日** 体つくり運動の理論、実践についてのまとめ	授業で未解決の疑問について整理する	2時間

431

授業科目名	**武道**				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公益財団法人全日本柔道連盟公認A指導員。講道館柔道七段。国内外での柔道指導を多数実施している。				

授業概要

本科目では日本固有の文化ある武道の中で柔道について学ぶ。柔道は嘉納治五郎師範によって創始され、その目的とするところは相手との稽古などを通して身体や精神を鍛錬修養し、これによって自己を完成させ、社会に役立つ人間づくりとしている。本授業では、柔道に必要な基本動作と対人技能の習得により、柔道の技能能力を高め身体を鍛錬する。加えて技能の習得過程を通して精神の修養に努め、柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神とは何かについて学んでいく。また、Google Classroomを活用し、実技に関する動画の配信や学習シートの作成・振り返り、指導者からのコメントなど双方の考え方や疑問、アドバイスを共有するアクティブターニングも取り入れていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	①認知的領域、②技能的領域、③情意的領域について学び実践し、自己を高めていく。	①日本傳講道館柔道の概要（歴史、目的など）について説明できる。②中学校および高等学校で実技授業ができる。③伝統的な行動の仕方に留意し、互いを尊重することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		柔道を通して育んだものを自他ともに栄える世の中を作っていくために活かしていく。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技習熟度	30 %	： 受け身：前回り受け身（左右）、投げ込み時の受け身の完成度チェック 技　術：崩し、作り、掛けを用いた投げ技の完成度チェック
学習シート	20 %	： 実技概要、成果、課題などについて個々にまとめ毎回提出する。
期末レポート	20 %	： 出題されたテーマについてレポートを作成・提出する。
授業への参加度		： 毎回の授業準備（道場の設営・撤去）と授業時に行われる個人、ペア、グループワークなどを標準とし、乱取り、試合での成果は加点材料とする。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

履修にあたり下記項目について厳守すること。

1. 事故防止、学習効果を高めるため、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケン付の柔道衣の着用を義務づける。
2. 柔道衣の着用時には、身に着ける装飾類、ミサンガなどは必ず取り外すこと。
3. 柔道衣の下には、男子は衣類を着用せず、女子はTシャツなどボタンのない衣類を着用すること。
4. 長髪時は必ず髪留め（ゴム）をすること。
5. 感染症防止のため、柔道衣の貸し借りは厳禁とする。また柔道衣は毎回洗濯をして清潔を保つこと。
6. 履修者の安全確保のため、受け身の習得授業は（3回目、4回目、5回目）必ず出席すること。
7. その回のテーマに関する動画をアップするので、事前に確認し実技へ臨むこと。
8. 希望者は学内において昇段審査を受験できる。（有償）別途柔道昇段講座への参加が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　①授業の前後以外で質問したい場合には、クラスルームに提出する毎回のシートに書き添えること。
②本学は柔道場を有していないので、後戻り授業はできない。そのため、第3～5回目までの「受け身」の単元は欠席しないように。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**柔道の歴史と理念、柔道場の設営と撤去作業の仕方** 実技全体の流れ、評価方法、柔道場内における諸注意、柔道の歴史、柔道場の設営・撤去方法について説明する。	シラバスを熟読し、柔道の概要について調べる。	1時間
第2回	**立ち技の基本動作　礼法、組み方、姿勢、進退動作、崩し、体さばき** 柔道衣の各名称と着方について説明する。また、基本動作の中から礼法、組み方、姿勢、進退動作、崩し、体さばきについて解説する。	本日の概要（立ち技の基本動作　礼法、組み方、姿勢、進退動作、崩し、体さばき）、その成果、課題についてまとめる。	1時間
第3回	**受け身の習得と投げ技（１）後ろ受け身と大外刈り** ①後ろ受け身の説明およびその練習方法を紹介する。 ②大外刈などを解説し、この技を用いて後ろ受け身を習得する。	本日の概要（受け身の習得と投げ技（１）後ろ受け身と大外刈り）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第4回	**受け身の習得と投げ技（２）横受け身と支え釣り込み足** ①横受け身の説明およびその練習方法を紹介する。 ②支え釣り込み足を解説し、この技を用いて横受け身を習得する。	本日の概要（受け身の習得と投げ技（２）横受け身と支え釣り込み足）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第5回	**受け身の習得と投げ技（３）前回り受け身と体落し** ①前回り受け身の説明およびその練習方法を紹介する。 ②体落しを解説し、この技を用いて前回り受け身を習得する。	本日の概要（受け身の習得と投げ技（３）前回り受け身と体落し）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第6回	**学びの精度を高める(1)　各受け身と投技（約束練習）** ①各受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）の反復練習後、「強さ、高さ、速さ」を加え、受け身の精度を高めていく。 ②各技（大外刈、支え釣り込み足、体落し）の反復練習後、技に動きを加え、「強さ・早さ」を増し、正確性を高めていく。 ③取り受けを決めて約束練習を行う。	本日の概要（学びの精度を高める　かかり練習（打ち込み）、約束練習、受け身の反復練習）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第7回	**学びの精度を高める(2)　運動力学の活用、防御の方法、乱取り練習** ①学んだ技を効率よくかつ効果的に仕掛ける方法（相手の力を利用する）として、慣性の法則、作用・反作用などを用いることについて解説する。 ②相手の攻めを防ぐ防御の仕方について解説する。 ③技の攻防が自由に行える乱取り練習を実施する。	本日の概要（学びの精度を高める(2)　運動力学の活用、乱取り練習）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第8回	**技の発展　連絡技と新たな技（大内刈りと小内刈り）** ①技の作り、崩し、体さばきを複合的に組み合わせて連続で技を掛ける連絡技を開設する。 ②①をより効果的に行えるよう新たな技として大内刈り、小内刈り、足払い等を紹介する。	本日の概要（技の発展　連絡技と新たな技（大内刈りと小内刈り）、成果、課題についてまとめる。	1時間

第9回	**固め技の基礎知識　固め技の分類、抑え込みの条件、抑え技の紹介** 固め技（寝技）基礎知識として、固め技の分類、抑え込みの条件、抑え込むポイント以下について説明する。	本日の概要（固め技の基礎知識　固め技の分類、抑え込みの条件、抑え技の紹介）、成果、課題についてまとめる。	1時間
第10回	**代表的な抑え技と攻撃の仕方・逃れ方　その1（横四方固め）** ①横四方固めの抑え方、攻撃の仕方、逃れ方について説明する。 ②寝技の乱取りを行う。	本日のテーマに関する概要、成果、課題についてまとめる。	1時間
第11回	**代表的な抑え技と攻撃の仕方・逃れ方　その2（袈裟固め）** ①袈裟固めの抑え方、攻撃の仕方、逃れ方について説明する。 ②寝技の乱取りを行う。	本日のテーマに関する概要、成果、課題についてまとめる。	1時間
第12回	**代表的な抑え技と攻撃の仕方・逃れ方　その3（上四方固め）** ①上四方固めの抑え方、攻撃の仕方、逃れ方について説明する。 ②寝技の乱取りを行う。 柔道審判規定　試合場、審判、技の効果の判定、禁止事項	本日のテーマに関する概要、成果、課題についてまとめる。	1時間
第13回	**柔道審判規定と試合** ①柔道審判規定について説明する。 ②試合を実施する。	本日のテーマに関する概要、成果、課題についてまとめる。	1時間
第14回	**まとめ（柔道技術の習熟度チェック）** 以下の技能について習熟度チェックを行う。 ①前回り受身（左右） ②動きながらの投げ込み（取り・受け）	本日のテーマに関する概要、成果、課題についてまとめる。	1時間

431

授業科目名	ダンスⅠ				
担当教員名	北島奈津				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校・高等学校において保健体育教諭として勤務（全14回）				

授業概要

本授業では、体育の授業を効率よく展開するために必要となるダンスの専門知識・基礎的技能を獲得し、表現を深めながら他者と協働してダンス作品を制作する。また、ダンス作品の発表に向けた計画の立案とその実践力を身につける。発表と鑑賞の体験を通して、創造する面白さと可能性について自ら理解を深めると共に、他者と協働することによってさらに表現の幅を広げる経験を得る。
授業は実技形式で行い、各実習を通して学校教育の中で行われるダンスの指導に必要な内容を盛り込んでゆく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育におけるダンス（身体表現）の役割や可能性及び必要性を理解する。また、身体を使った多様な学びを体験し、表現能力を高めることができる	ダンス（身体表現）の可能性を追求し、創造的な学びについての理解と育成する視点を体得し、実践することができる

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	適確に自分の意志を表現し、行動選択ができる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	他者と自分との体力や技能の差、価値観の違いを認識した上で、それらを受容し、共に課題達成ができる調整力や判断力を身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加(2点×14回)	28 %	： 毎時の実習への積極的参加と実践、授業の振り返りのコメントシートによって内容の理解度を総合的に評価する。
授業内課題レポートの作成	12 %	： 課題の条件を満たし、授業での学びを的確に示しているかを評価する。
創作発表	60 %	： ダンス作品の発表に関して、課題の達成度や発表までのプロセス、技能の獲得状況等を総合的に評価する。(現代的なリズムのダンス・フォークダンス：各18%、創作ダンス24%)

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

文部科学省	・中学校学習指導要領解説　保健体育編	・東山書房	・2019　年
文部科学省	・高等学校学習指導要領解説　保健体育編	・東山書房	・2018　年

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。具体的には、授業で習得した動きの反復練習や学生同士での確認作業を行うこと。また、同じグループの学生同士が話し合いなどによって次の授業が円滑に進む為の準備を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　諸注意などは初回授業にて説明します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／コミュニケーションとダンス** 本授業の目標と内容について解説し、今後の授業計画にそった準備物、内容について説明する。また評価基準について説明する。積極的なコミュニケーションとダンスの導入の在り方、ストレッチやトレーニングついての紹介と実践。	学習指導要領（中学校保健体育Gダンス）を熟読し、内容を把握しておく。	4時間
第2回	**ダンスの様々なジャンルの表現技法の習得(1)現代的なリズムのダンス1** 現代的なリズムの音楽を使って、リズムの特徴を捉えて基本のステップを実践し、短いひと流れの動きを全身で弾んで踊る。	実践した現代的なリズムのダンスのステップを覚え、踊れるように復習する。	4時間
第3回	**ダンスの様々なジャンルの表現技法の習得(1)現代的なリズムのダンス2** 現代的なリズムのダンスの音楽を使って、リズムの特徴を捉え、変化やまとまりをつけた課題作品に挑戦する。	実践した現代的なリズムのダンスの課題振付けの動きを覚え、踊れるように復習する。	4時間
第4回	**ダンスの様々なジャンルの表現技法の習得(1)現代的なリズムのダンス3** 現代的なリズムのダンスの音楽を使って、リズムの特徴を捉え、変化やまとまりをつけて全身でダイナミックに踊る。また、グループで動きの対比やアクセントを加えるなどの変化を工夫する。	授業で実践したリズムダンスの内容を思い出し、復習することによって発表に備える。	4時間
第5回	**ダンスの様々なジャンルの表現技法の習得(1)現代的なリズムのダンス4** 現代的なリズムのダンスの振付課題をグループごとに発表する。互いの作品を鑑賞・評価し合うことでダンス作品の発表に対する理解を深める。	現代的なリズムのダンスの発表と鑑賞をもとに、ダンスの発表の在り方と鑑賞した作品への振り返りを行う。	4時間
第6回	**ダンスの様々な表現技法の習得(2)フォークダンス1** 各地に伝承されている様々なフォークダンスを実践し、必要となる各ステップを習得・実践する。	授業内で実践した各ステップの名称や動き方について復習する。	4時間
第7回	**ダンスの様々な表現技法の習得(2)フォークダンス2** 伝承されているフォークダンスの振付を習得し、グループごとに隊形変化、ステップの組み合わせについて工夫する。	授業内で実践したフォークダンスの振付内容、動き方について復習する。	4時間
第8回	**ダンスの様々な表現技法の習得(2)フォークダンス３** 伝承されているフォークダンスの発表に向けたグループ練習に取り組む。また、ステップや動きへの理解を深め、軽快なリズムの踊りや力強い踊り方を工夫する。	授業内で実践したフォークダンスの振付内容、動き方について復習する。作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第9回	**ダンスの様々な表現技法の習得(2)フォークダンス4** 伝承されているフォークダンス（ミニ作品）を完成させ、発表と鑑賞を行う。実技能力と隊形等の作品構成要素について互いに鑑賞・評価する。	伝承されているフォークダンス（ミニ作品）について、ダンスの発表の在り方と鑑賞した作品への振り返りを行う。	4時間
第10回	**ダンス作品の創作(1)題材からテーマ、動きのモチーフ作り** 題材やテーマ選択の方法を学び、テーマにふさわしい動きのモチーフづくりを行う。	ダンスのテーマにつながる情報の収集と、モチーフづくりの手法を振り返る。	4時間
第11回	**ダンス作品の創作(2)ダンス作品の動きのモチーフ作りとその発展** ひと流れの動きと動きの緩急のつけ方、個の動きと群の動きの対比を理解し実践する。	ひと流れの動きや、動きの緩急のつけ方、個と群の動きについて振り返り復習する。	4時間
第12回	**ダンス作品の創作(3)ダンス作品の動きのモチーフ、空間構成・作品の演出効果について**	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間

	ダンス作品を「はじめ・なか・おわり」の構成で表現するとともに、空間構成の工夫と、個の動きと集団の動き、対比する動きについて理解し、実践する。		
第13回	**ダンス作品の創作(4)ダンス作品のイメージの追求について、発表会に向けた準備** これまで授業の中で創作した作品のイメージ表現をさらに追求し、発表会作りに必要な内容と作成物を作る。	授業で仕上げ・完成まで達成していない内容を把握し、次回の授業までに仕上げておく。	4時間
第14回	**ダンス作品の創作(5)発表と鑑賞・授業内課題レポート・まとめ** ダンス発表会を行い、互いの作品を鑑賞・評価し合うことでダンス作品発表に対する理解を深める。また、これまでの授業のまとめとして授業レポートを作成する。	作品の評価の観点について発表会前に学習しておき、ポイントをまとめておく。発表・鑑賞・評価を通して学んだ内容を整理し復習する。	4時間

431

授業科目名	**体育原理**				
担当教員名	寶學淳郎				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、体育原理の観点から、現代社会の体育とスポーツのあり方を考えようとする。そのために、体育、スポーツの用語概念とその意味や内容の違いを解説する。次に体育・スポーツの歴史的変遷及びその振興を欧米、日本を中心に解説する。そして、体育授業やスポーツ実践の今日的状況を人文科学的立場から考察し、その理論的背景を学ぶ。また、特に高等学校学習指導要領（保健体育）を踏まえ、ドーピング、オリンピック・ムーブメント、スポーツ関係規定等を体育原理の観点から取り上げる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	体育の学問的基盤となる体育原理の基礎的知識や考え方を習得する。	① 体育原理の意義と目的、体育・スポーツの用語概念、その意味や内容の違いを理解できる。② 体育やスポーツの歴史や理論的背景を理解できる。③ ドーピングやオリンピック・ムーブメントなどを理解できる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		体育授業やスポーツ実践の今日的状況を人文科学的な立場から考察できるようになり、教職に役立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	50 %	： 定期試験期間に実施する。設問に理論的に回答がなされているかに応じて点数を加点・減点を行う。
授業中の課題提出	40 %	： ①テーマに対して参考文献を活用して丁寧に作成されているか。②指示された形式を守り提出期限が守られているか。
授業の取り組み状況	10 %	： 授業時間中の指導者の設問に積極的な回答をしているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　お昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： 連絡方法は、初回授業時に伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的、概要，評価についてのオリエンテーション，体育原理の基礎理論（１）体育原理とは何か** 講義の目的、概要，評価について学習した後，体育原理とは何かについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育原理とは何かについて理解を深める。	4時間
第2回	**体育原理の基礎理論（２）体育とスポーツの概念** 体育とスポーツの概念について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育とスポーツの概念について理解を深める。	4時間
第3回	**体育・スポーツの変遷（１）スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツ** スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第4回	**体育・スポーツの変遷（２）近代体育の成立（ドイツを中心に）** 近代体育の成立についてドイツを中心に学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代体育の成立について理解を深める。	4時間
第5回	**体育・スポーツの変遷（３）近代スポーツの成立（イギリス、アメリカを中心に）** 近代スポーツの成立についてイギリス，アメリカを中心に学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代スポーツの成立について理解を深める。	4時間
第6回	**体育・スポーツの変遷（４）オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツ** オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第7回	**体育・スポーツの変遷（５）近代日本における体育・スポーツの受容と展開** 近代日本における体育・スポーツの受容と展開について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代日本における体育・スポーツの受容と展開について理解を深める。	4時間
第8回	**体育・スポーツの変遷（６）戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツ** 戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第9回	**体育原理の発展理論（１）体育における人間形成、体育と身体形成** 体育における人間形成，体育と身体形成について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育における人間形成，体育と身体形成について理解を深める。	4時間
第10回	**体育原理の発展理論（２）運動、遊びと体育、競争とフェアプレイ** 運動、遊びと体育、競争とフェアプレイについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、運動、遊びと体育、競争とフェアプレイについて理解を深める。	4時間
第11回	**体育原理の発展理論（３）技術指導からみた体育、体育と指導者** 技術指導からみた体育、体育と指導者について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、技術指導からみた体育、体育と指導者について理解を深める。	4時間
第12回	**体育原理の発展理論（４）社会の変化と今後の体育** 社会の変化と今後の体育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、社会の変化と今後の体育について理解を深める。	4時間
第13回	**現代スポーツの周辺** オリンピズム、オリンピック・ムーブメント、ドーピングについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、オリンピズムとオリンピック・ムーブメントについて理解を深める。	4時間
第14回	**総括と質疑応答** 14回の授業内容を振り返り、２～３分程度で順番に発表する。	授業の振り返りレポートを作成する。	4時間

432

授業科目名	スポーツ心理学				
担当教員名	野上展子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	運動とスポーツに関する調査を行い，データ化し発表ならびに実戦で活用を行った.				

授業概要

本講義は，心理的課題に対処できる基礎知識とスキルを体得することを目標とする.
スポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え，心理学的な支援を実践できるようになること，問題を心理学的側面から明らかにし，スポーツの実践や指導に役に立つ知識を修得する.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	スポーツ心理学に関する知識	競技スポーツ・運動学習・健康スポーツ・障がい者スポーツにおける心理的現象を学習し、現場で活用できる基礎力を養う。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		講義で学んだことを日常生活に活かし、自己理解・他者理解を深め、ソーシャルスキルの向上を図る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記確認テスト	60 %	： 適宜，筆記確認テストを行う
レポート	30 %	： 講義内で指示したテーマについてレポートを作成し提出する
振り返りシート	10 %	： 授業内容を振り返りを行う

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

諸注意などは初回授業で説明する

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ心理学とは？（アスリーターの心理って？）** シラバスの確認，授業の進め方などについて説明する．また，スポーツ心理学とはどのような学問なのか，さらにアスリーターの心理的側面について説明する．	スポーツ心理学研究のテーマや動向について情報収集を行う	4時間
第2回	**メンタルトレーニングの方法** 様々なメンタルトレーニングの技法について学ぶ．修得した知識を日常活動に役立てるよう授業内容の振り返りを行い，場面場面でのシュミュレーションを行う．	今までに体験したメンタルトレーニングについてまとめておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第3回	**考えること** 「考えること」とは何か．修得した知識を活用し，自己や周囲の人々の言動を観察する．	「考える」をキーワードに様々なことを調べておく．	4時間
第4回	**自己理解** 本当の自分とは何か．思っている自分と思われている自分の差異を考える．シュミュレーションを通じて自己の理解を深める．講義内容を振り返り，より自己理解を深める．	自分について自己分析を行い，自分について考えておく	4時間
第5回	**ARCSモデル** 競技力向上およびリハビリテーション等に活用される動機づけについてその技法を学ぶ．また，基本的な方法を学び実践に繋げる．	ARCSについて調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第6回	**傾聴（listening）** コーチングに関与する傾聴について，その基本を学ぶ．修得した知識を活用する場面を想定し，シュミュレーションを行う．	話を聞くことについて調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第7回	**ラポール** コーチングに関与するラポール（信頼関係）について，その基本を学ぶ．修得した知識を活用する場面を想定し，シュミュレーションを行う．	ラポールについて調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第8回	**レフレーミング** 心理的枠組みにより，物事への印象や意味を変化させ、理想に向かう技法を学ぶ．また，日常場面においてksつ要することでさらに知識を深める．	自己の思考のくせを分析しておく	4時間
第9回	**コーチング（グッドコーチとは）** なぜ体罰が起こるのか．どのようにすれば防ぐことができるのか．また，体罰に関するデータを提示し，問題点や課題についてグループディスカッションならびに発表を行う．自己が所属する環境において学びを振り返り活用を行う．	コーチングについて調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第10回	**モチベーション** 様々なモチベーションの技法について学ぶ．修得した知識を活用する場面を想定し，シュミュレーションを行う．	自己のモチベーションの保ち方についてまとめ，ディスカッションに備える	4時間
第11回	**ウエルネス** 健康とは何か，ウエルネスとは何かを学び，自己の健康感を養い，生涯スポーツに関する基礎的な思考を養う．	自己の健康観について考える　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第12回	**劣等感** 劣等感とは何か，劣等感を持つことは悪い事なのか，劣等感について学ぶ．修得した知識を活用する場面を想定し，シュミュレーションを行う．	劣等感について調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間
第13回	**ガニエの9教授事象** ガニエの9教授事象について学ぶ．修得した知識を活用する場面を想定し，シュミュレーションを行う．	ガニエの9教授事象について調べておく	4時間
第14回	**カウンセリング** カウンセリングの各種理論や活用事例を学び，スポーツや教育現場における実践的な知見の習得を図る．	カウンセリングについて調べておく　自己の経験をまとめディスカッションに備える	4時間

432

授業科目名	スポーツ経営管理学				
担当教員名	長谷川健司				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は，生涯スポーツ社会の実現をめざす「スポーツ経営管理学」の基本的構造と役割を理解することが目的である．具体的には，学校や地域社会における生涯スポーツの推進や競技スポーツの発展，およびスポーツのビジネス化・産業化などに求められる経営学やマネジメントなどの基礎理論と実践を学習するために，「Ⅰ．スポーツ経営管理学の基礎理論」，「Ⅱ．スポーツと人間教育」「Ⅲ．スポーツと地域社会」「Ⅳ．行政の中の体育・スポーツ」「Ⅴ．スポーツと産業・ビジネス社会」といった5つのパートに従って授業を進める．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	生涯スポーツ社会を創造していくために必要なスポーツ経営管理に関する知識	スポーツの本質を理解し，人々の豊かなスポーツ生活の形成・定着に必要なスポーツ経営管理の構造と基礎理論を理解できる．
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校体育、地域スポーツ、プロスポーツなど、それぞれの領域での課題について明確にすることができる． また、わが国のスポーツ振興の現状（調査データの分析）から，スポーツ政策課題を検討することができる．
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		学校体育、地域スポーツ、プロスポーツなど、それぞれの領域で発見された課題について、論理的な解決案を検討し、提示することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点評価	30 %	： 授業中の受講態度（私語・居眠り・無気力など）や，授業中の教員からの設問への回答姿勢および振り返りシート、授業内の小レポートの内容などから，授業への主体的な参加意欲や学習意欲などの取組状況を評価します．
課題解決学習（PBL型）レポートの提出	30 %	： 課題解決学習（PBL型）による授業におけるレポートの内容が、授業で学習したポイント（配付資料）に基づいて適切に作成され、内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて４段階で評価します。
定期試験（レポート）	40 %	： 定期試験レポートについて、内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中西純司編著『はじめて学ぶスポーツマネジメントの基礎と実践』みらい,2024年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間（4時間×45分＝180分）の授業外学修が求められる．そのため，「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすることが大切です．
また，本講義を理解し，より到達目標を達成するためには，参考文献等に示された図書などを積極的かつ主体的に学習する姿勢があることが強く望まれます．
　さらには，体育・スポーツの新しい動き（とくに，学校体育や部活動改革，総合型地域スポーツクラブ，球団経営やチームの運営，法律や規則の改正，スポーツイベントをめぐる問題など）について敏感であり，体育・スポーツに関する記事（単なる試合結果だけではなくコラム記事のようなもの）は日頃より注意して読んでおくことも重要です．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　教室

備考・注意事項：　授業前や，授業後に質問ができなかった場合は，メール（hasegawa@tgu.ac.jp）にてお願いします．
その際，メールの「件名」（たとえば，「〇〇〇についての質問」など）を必ず記載すると同時に（もし記載がない場合は「迷惑メール」となることもありますので），メールの本文には「学籍番号」「所属」「氏名」を明記するようにしてください．

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：スポーツ経営管理学を学習する意義** ・本講義の目的・内容・意義，学習の進め方，および成績評価の方法などについて説明する． ・21世紀生涯スポーツ社会において，なぜスポーツ経営管理学が求められているのかについて，その現代的な意味・意義などについて学習する．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，現代社会におけるスポーツ経営管理学の必要について理解を深める	4時間
第2回	**スポーツ経営管理学の基礎理論：スポーツ経営管理の概念と構造** 　学校体育経営や地域スポーツ経営，そしてスポーツ産業・ビジネスのマネジメントを理解するうえで，その基礎理論となるスポーツ経営管理学について学習することが肝要である． こうした点から，人々のスポーツ行動の成立・維持・発展と豊かなスポーツ生活の形成・定着を図るための基礎理論について学習する． 　「スポーツ経営管理とは何か」という概念的な理解と，そうしたスポーツ経営管理を実際のスポーツ現場で実践していくための構造的な理解を深める．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，スポーツ経営管理の概念と構造について学校現場などを想定しながら検討する．	4時間
第3回	**スポーツ経営管理学の基礎理論：スポーツ経営管理と豊かな運動生活・スポーツ生活** 　人間とスポーツの3つのかかわり方（する・行うスポーツ，みるスポーツ，創る・ささえるスポーツ）について整理するとともに，スポーツ経営管理がめざす「豊かな運動生活やスポーツ生活（スポーツライフ）とは何か」について学習する．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，豊かな運動生活・スポーツ生活の考え方を理解するとともに，自分自身が実際，どのような運動生活・スポーツ生活を送っているのかについて自己分析する．	4時間
第4回	**学校体育経営の構造と特性：プログラムサービス事業論の展開①：教科体育の経営（体育の授業づくり）** 　学校体育経営の中核的な職務であるプログラムサービス事業の企画運営，具体的には教科体育の経営（体育の授業づくり）について，保健体育科教員という立場にたって学習する．また，体育の授業づくりの基盤でもある「年間計画」の立て方などについてもPBL型学習を行う． 　アクティブラーニング形式の授業展開を行う．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，「学校体育の三層構造」や「体育の学習指導の構造」，および「年間計画づくり」の方法などについて理解を深める．	4時間
第5回	**学校体育経営の構造と特性：プログラムサービス事業論の展開②：健康安全・体育的行事の企画運営** 　学校体育経営の中核的な職務であるプログラムサービス事業の展開として「健康安全・体育的行事」の企画運営をとりあげ，実際に「みんなで運動会・体育祭を企画してみよう」という課題でグループワークとグループディスカッションを行いながらPBL型学習をする． 　アクティブラーニング形式の授業展開を取り入れる。	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，児童生徒が主人公となる運動会・体育祭などの企画運営方法について理解を深める．	4時間
第6回	**学校体育経営の構造と特性：クラブサービス事業論の展開①：運動部活動に関する社会病理** 　運動部活動については、スポーツと教育それぞれの側面から多くの成果に期待がかけられる一方で、社会病理ともいえる問題事象もまた多くみられる。自身の部活動経験や、問題となった事例をもとに、問題の原因の分析を行い、部活動指導や運営の課題を明らかにする。	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，学校における運動部活動の必要性について吟味する．	4時間

第7回	**学校体育経営の構造と特性：クラブサービス事業論の展開②：運動部活動の経営と顧問の基本的任務** 運動部活動については，「教員の働き方改革」や「少子化社会」に対応しながら様々な部活動改革が進められ、現在特に「運動部活動の地域移行」が段階的に進められている． とはいえ，クラブサービス事業としての部活動は生徒たちにとっては重要なスポーツ活動の機会であるため，生徒主導型の部活動経営のあり方を学習するとともに，顧問としての基本的任務について理解しておくこと、青少年のスポーツ環境全体からみたあり方の検討が必要不可欠である．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，生徒主導型の部活動経営のあり方について吟味する．また，もし部活動を地域スポーツクラブ化するとしたら，どのような形で学校（保健体育科教員）がかかわっていくべきかを考える．	4時間
第8回	**学校体育経営の構造と特性：学校体育経営組織論の展開：「協働システム」として の保健体育科組織** 「よい事業（仕事）はよい組織から産まれる」と言われるように，学校体育経営という職務（仕事）を円滑に遂行していくためには，学校組織や保健体育科教員組織が「協働システム」として機能しなければならない．そのため，保健体育科教員組織の円滑なマネジメントを展開していくために必要な考え方について学習する．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，学校体育経営組織を円滑に動かしていくために必要な組織理論について理解を深める．	4時間
第9回	**スポーツと地域社会：地域スポーツ経営と総合型地域スポーツクラブの現代的意味** 行政だけが公共の役割を担うのではなく，地域の様々な主体（市民・企業・学校など）が公共の担い手の「当事者」としての自覚と責任をもって活動することで「支え合いと活気がある社会」をつくるという「新しい公共」の考え方が重要視されている． 「新しい公共」の担い手として期待される総合型地域スポーツクラブと地域スポーツ経営のあり方などについて学習する．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，「新しい公共」に寄与する総合型地域スポーツクラブの現代的意味について理解を深める．	4時間
第10回	**スポーツ産業・ビジネスを支える「スポーツマネジメント」を学ぶ** オリンピックやワールドカップなどのメガスポーツイベントのマネジメントをはじめ，メジャーリーグやプロ野球，Jリーグなどのプロスポーツ・ビジネスの基盤となる「スポーツマネジメント」の考え方について学習する	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，自身が興味・関心のあるメガスポーツイベントやプロスポーツが実際どのようにマネジメントされているのかを整理し，スポーツマネジメントに対する理解を深める．	4時間
第11回	**行政の中の体育・スポーツ：わが国のスポーツ振興システムの基本的理解** 学校体育をはじめ，地域スポーツ，競技スポーツなど，これまでのわが国のスポーツが行政主導で普及・振興されてきたことは否めない．そのため，スポーツ行政のしくみやスポーツ政策などを学習し，わが国のスポーツ振興システムについて基本的な理解を深める．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，わが国のスポーツ振興システムとスポーツ行政の法的根拠とそのしくみ（特に，教育委員会制度の概要など）について理解を深める．	4時間
第12回	**行政の中の体育・スポーツ：スポーツ行政の役割とスポーツ政策** 国・地方自治体におけるスポーツ行政（スポーツ庁，都道府県・市区町村行政・教育委員会など）の基本的な役割と，国の「スポーツ基本計画」や地方自治体の「地方スポーツ推進計画」などの各行政レベルのスポーツ政策の概要などについて学習する．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，スポーツ庁の役割と「スポーツ基本計画」，および地方自治体（都道府県・市区町村）のスポーツ行政担当部署の基本的な役割と「地方スポーツ推進計画」などについて理解を深める．とりわけ，地方スポーツ推進計画についての現実を把握するためには，地方自治体（たとえば，大阪府や大阪市など）のHPなどを活用して調べることも重要である．	4時間
第13回	**行政の中の体育・スポーツ：わが国におけるスポーツ振興の現状と課題** わが国のスポーツ振興の現状（成人のスポーツ実施率，スポーツ観戦率，スポーツボランティア参加率，学校部活動の現状，スポーツ少年団の現状，総合型地域スポーツクラブの設立状況，スポーツ指導者の現状，体育・スポーツ施設の現況，国・地方自治体のスポーツ振興予算の現状など）について学習することによって，今後のわが国のスポーツ振興課題について考える．	講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，わが国のスポーツ振興の現状について理解を深めるとともに，そうした現状から導き出されるスポーツ振興課題を踏まえて，これからのわが国のスポーツ政策のあり方について各自で構想する．	4時間
第14回	**総括と質疑応答** 13回の授業内容を振り返り、自身が最も関心を持った内容や自身が最も課題を感じた内容について、その問題点を指摘し、課題の原因を分析し、その解決案の提案を行い、2～3分程度で順番に発表する．	これまで講義内容について，配付資料や参考文献等を用いて復習・学習することによって，授業内容の理解を深めるとともに、レポートを作成する．	4時間

432

授業科目名	**運動学**				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士およびトレーナーとして、病院やスポーツ現場で高齢者やスポーツ選手に対し、リハビリテーションやトレーニング等を実施				

授業概要

運動学とは、人間をはじめとする生体の構造や機能、運動を、科学的な観点から解明しようとする学問であり、医療やリハビリテーション、スポーツの分野で盛んに研究・応用されている。体育・スポーツの分野における運動学は、力強い運動や巧みな運動などの様々な身体運動をとり上げて、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を応用して研究することにより、それらの運動の仕組みを明らかにするところに特徴がある。本講では、身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ応用的な知識を学修し、今後の体育・スポーツ指導をしていくうえで必要な技能を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	身体運動の仕組みに関する知識	様々な身体運動パターンをもとに、今後の体育・スポーツ指導をしていくうえで必要な技能を身につける。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		日常生活や運動場面において、力学、解剖学の知識を活かすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（筆記）	35 %	： 運動学における、身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ応用的な知識について理解を求める問題から評価する。
試験（筆記）	35 %	： 体力測定・評価の意義や方法を理解しているか否かで評価する。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業態度およびプレゼンテーション	30 %	： グループで分担、協力し、責任を持ってやり遂げたかを、次の観点から評価する。1.発表資料の作成、2,発表と質疑・応答の対応。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー・授業外での質問方法については、初回の授業でインフォメーションする。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動学の定義の解説および授業ガイダンス** 運動学の定義と応用例を解説するとともに、授業概要のガイダンスを行う。	運動学の定義を理解する	4時間
第2回	**スポーツ運動学** 体育授業や競技スポーツの指導現場において、指導者の「どう教えるか」、学習者の「どうすればできるようになるのか」という問題に対して、必要不可欠な知識、理論、方法を学ぶ。	スポーツ運動学を理解する	4時間
第3回	**人体の動く仕組み** 運動を行う際に働くエネルギー供給系（ATP-CP系、解糖系、酸化系）と、全身を構成する骨格系と筋系を概観し、身体運動の生み出す身体の構造を学ぶ。	エネルギー供給系の違いを理解する	4時間
第4回	**身体の構造と運動** 運動を行う際に、テコの原理がどのようにはたらいているのかを学ぶ。	身体におけるテコの原理を理解する	4時間
第5回	**身体運動と力学の法則** 身体運動を運動学的・力学的に理解する上で重要なベクトルの成分とその応用について学ぶ。	ベクトルの合成と分解について理解する	4時間
第6回	**身体運動と変位・速度・加速度** 身体運動を運動学的・力学的に理解する上で重要な変位、速度、加速度とその応用について学ぶ。	変位、速度、加速度の定義を理解する	4時間
第7回	**身体運動とニュートンの法則** 身体運動を運動学的・力学的に理解する上で重要なニュートンの運動法則とその応用について学ぶ。	ニュートンの法則を理解する	4時間
第8回	**身体運動と運動量・力積・パワー** 身体運動を運動学的・力学的に理解する上で重要な運動量、力積、パワーとその応用について学ぶ。	運動量、力積、パワーを理解する	4時間
第9回	**身体重心** ヒトの立位姿勢における姿勢の安定・制御の仕組み、身体重心の定義について学ぶ。	姿勢の安定、制御を理解する	4時間
第10回	**歩行と走行** 歩行と走行におけるストライドとピッチ､速く走るメカニズムについて学ぶ。	歩行と走行のメカニズムを理解する	4時間
第11回	**投動作** 様々なスポーツ種目に存在する投動作の特性を学ぶ。	投動作の特性を理解する	4時間
第12回	**変化球の正体～マグヌス効果～** ボールの回転によって生じる空気の流れによって発生する、マグヌス効果について学ぶ。	マグヌス効果を理解する	4時間
第13回	**スポーツ外傷と障害** スポーツや運動において発生する外傷や障害について、その運動学的な発生要因や特徴を学ぶ。	スポーツ外傷の発生メカニズムを理解する	4時間
第14回	**運動学の実践的研究** 運動学における実践的研究の方法を学び、実際の学術論文の知見を紹介する。 スポーツ動作や身体運動に関して研究する際、どのようにして仮説検証を行うのか、また学術論文にはどのようにしてまとめるのか、その方法論を学ぶ。	学術論文の定義を理解する	4時間

431

授業科目名	**生理学Ⅰ**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

生理学とは、身体の「構造」と「機能」を究明する学問である。それゆえ、運動生理学や運動学、栄養学など他の様々な学問を学ぶ上で、また自身の健康や身体パフォーマンス向上を考える上で、最も基礎となる専門分野である。本講義では、身体の形態的特徴およびその機能を、器官・組織・細胞レベルで概説する。これにより、人体の持つ精巧な仕組みを知り、さらに科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニングや健康の維持増進を目的とした運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割について理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	運動が身体へ及ぼす変化とそのしくみを生理学的観点から理解し、生理学的な基本的知識をもとに、体育やスポーツ指導の際に活用できる知識を身につける。	身体の構造と機能を理解し、さらに発育発達による身体の成長やその機能、また老化に伴う変化について理解できる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	生理学に知識を習得することで、安全かつ効果的な運動指導、スポーツ指導につなげる。また最新の運動生理学に関する知見から本学問の理解を深めていく。	生理学的な基本的知識をもとに、保健体育授業やスポーツ指導の際に活用できる知識を習得できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		近年問題となっている運動やスポーツ現場での課題を明確にし、それらの解決方法に生理学の知識が必要であることを理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内ワークシートの完成	15 %	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示せていれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全5テーマ分実施する。
小テスト	40 %	： ・各単元ごとに、まとめ（確認テスト）を行い、その内容を1～5点で評価する。自己の考えや具体的事例などを示していれば5点とする。内容不足により減点する。未提出の場合は0点とする。これを全8回実施する。
期末試験	45 %	： 授業内容の確認と特に授業内で学んだ基礎知識を用いて、正しく表現できているかどうか、それを活用した健康教育や運動指導に関する取り組みの提案ができているか。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日昼休み

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： ※連絡方法については初回授業において伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生理学とは？** 「健康」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深めます。	振り返りシートの完成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える）	4時間
第2回	**循環器の構造と機能** ・心臓の構造と機能 ・心臓の拍動メカニズム（刺激伝道系） ・血圧の仕組み	振り返りシートの完成（循環器の構造と機能）	4時間
第3回	**血液と免疫の働き** ・血液循環 ・血液の性質と働き ・血液の性状と機能 ・細胞性免疫と液性免疫 ・白血球の働き	振り返りシートの完成（血液の成分と免疫機能）	4時間
第4回	**呼吸器の構造と機能** ・呼吸中枢と調節 ・呼吸のメカニズム ・ガス交換 ・呼吸運動と呼吸筋 ・呼吸型	振り返りシートの完成（呼吸器系の構造と機能）	4時間
第5回	**筋の特性と骨格筋の機能** ・骨格筋の構造と機能 ・筋収縮のメカニズム ・筋収縮の種類 ・骨格筋の作用 ・骨格筋と運動神経、感覚神経	振り返りシートの完成（骨格筋の働きと性質）	4時間
第6回	**骨の構造と機能、骨代謝の理解** ・骨の構造と機能 ・骨代謝とメカニカルストレス ・骨代謝と骨細胞 ・骨の成長と老化	振り返りシートの完成（骨の構造と機能、骨代謝）	4時間
第7回	**脳・神経系の構造と機能** ・脳、神経系の種類 ・ニューロン ・中枢神経系 ・末梢神経系 ・脊髄神経	振り返りシートの完成（脳の構造と機能）	4時間
第8回	**自律神経の機能と健康への影響** ・交感神経 ・副交感神経 ・自律神経と免疫 ・自律神経と腸との関連	振り返りシートの完成（自律神経の働き、交感神経と副交感神経）	4時間
第9回	**体温調節機能の働き** ・体温調節のメカニズム ・体温調節と発汗 ・体温の異常 ・低体温が及ぼす影響 ・保温とヒートショックプロティン	振り返りシートの完成（体温調節のメカニズム）	4時間
第10回	**脂肪細胞の働きと作用** ・肥満の分類 ・肥満細胞の働き ・白色脂肪細胞 ・褐色脂肪細胞 ・ベージュ細胞 ・アディポサイトカイン	振り返りシートの完成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**ホルモン、内分泌の働きと作用**	振り返りシートの完成（ホルモンの種類とその作用）	4時間

	・内分泌とは ・ホルモンの作用機序 ・視床下部と下垂体 ・甲状腺と副甲状腺 ・副腎 ・膵臓 ・性ホルモン		
第12回	**エネルギー代謝（脂質代謝）の理解** ・筋収縮とエネルギー ・ATP ・TCA回路 ・脂質代謝	振り返りシートの完成（脂質代謝）	4時間
第13回	**エネルギー代謝（糖代謝）の理解** ・筋収縮とエネルギー ・糖代謝 ・ピルビン酸 ・乳酸 ・乳酸と脳細胞 ・乳酸と筋線維	振り返りシートの完成（糖代謝のメカニズム）	4時間
第14回	**消化器系（消化吸収）の構造と機能** ・消化管 ・食道と胃 ・十二指腸と膵臓 ・小腸と大腸 ・消化液と消化酵素 ・肝臓の働き	振り返りシートの完成（消化と吸収）	4時間

431

授業科目名	**生理学Ⅱ**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

生理学とは、身体の「構造」と「機能」を究明する学問である。それゆえ、運動生理学や運動学、栄養学など他の様々な学問を学ぶ上で、また自身の健康や身体パフォーマンス向上を考える上で、最も基礎となる専門分野である。本講義では、身体の形態的特徴およびその機能を、器官・組織・細胞レベルで概説する。これにより、人体の持つ精巧な仕組みを知り、さらに科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニングや健康の維持増進を目的とした運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割について理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	生理学に知識を習得することで、安全かつ効果的な運動指導、スポーツ指導につなげる。また最新の運動生理学に関する知見から本学問の理解を深めていく。	生理学的な基本的知識をもとに、保健体育授業やスポーツ指導の際に活用できる知識を習得できる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	運動が身体へ及ぼす変化とそのしくみを生理学的観点から理解し、生理学的な基本的知識をもとに、体育やスポーツ指導の際に活用できる知識を身につける。	身体の構造と機能を理解し、さらに発育発達による身体の成長やその機能、また老化に伴う変化について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		近年問題となっている運動やスポーツ現場での課題を明確にし、それらの解決方法に生理学の知識が必要であることを理解できるようになる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		教育現場での健康課題を抽出し、生理学的に課題解決する方法が理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内ワークシートの完成	15 %	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示せていれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全5テーマ分実施する。
小テスト	40 %	： ・各単元ごとに、まとめ（確認テスト）を行い、その内容を1～5点で評価する。自己の考えや具体的事例などを示していれば5点とする。内容不足により減点する。未提出の場合は0点とする。これを全8回実施する。
期末試験	45 %	： 授業内容の確認と特に授業内で学んだ基礎知識を用いて、正しく表現できているかどうか、それを活用した健康教育や運動指導に関する取り組みの提案ができているか。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日昼休み

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： ※連絡方法については初回授業において伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生理学Ｉでの学びの振り返り** 「健康」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深めます。	振り返りシートの完成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える）	4時間
第2回	**循環器の構造と機能、運動との関連** ・心臓の構造と機能 ・心臓の拍動メカニズム（刺激伝道系） ・血圧の仕組み	振り返りシートの完成（循環器の構造と機能）	4時間
第3回	**免疫細胞の働きと運動との関連** ・血液循環 ・血液の性質と働き ・血液の性状と機能 ・細胞性免疫と液性免疫 ・白血球の働き	振り返りシートの完成（血液の成分と免疫機能）	4時間
第4回	**呼吸器の構造と機能、運動との関連** ・呼吸中枢と調節 ・呼吸のメカニズム ・ガス交換 ・呼吸運動と呼吸筋 ・呼吸型	振り返りシートの完成（呼吸器系の構造と機能）	4時間
第5回	**骨格筋の行動と機能、運動との関連** ・骨格筋の構造と機能 ・筋収縮のメカニズム ・筋収縮の種類 ・骨格筋の作用 ・骨格筋と運動神経、感覚神経	振り返りシートの完成（骨格筋の働きと性質）	4時間
第6回	**骨の構造と機能、骨代謝と運動との「関連** ・骨の構造と機能 ・骨代謝とメカニカルストレス ・骨代謝と骨細胞 ・骨の成長と老化	振り返りシートの完成（骨の構造と機能、骨代謝）	4時間
第7回	**脳・神経系の行動と機能、運動との関連** ・脳、神経系の種類 ・ニューロン ・中枢神経系 ・末梢神経系 ・脊髄神経	振り返りシートの完成（脳の構造と機能）	4時間
第8回	**自律神経活動と運動との関連** ・交感神経 ・副交感神経 ・自律神経総活動 ・自律神経と免疫 ・自律神経と腸との関連 ・自律神経とサーカディアンリズム	振り返りシートの完成（自律神経の働き、交感神経と副交感神経）	4時間
第9回	**体温調節機能の構造と働き、運動との関連** ・体温調節のメカニズム ・体温調節と発汗 ・体温の異常 ・低体温が及ぼす影響 ・加温とヒートショックプロティン	振り返りシートの完成（体温調節のメカニズム）	4時間
第10回	**脂肪細胞の働きと運動との関連** ・肥満の分類 ・脂肪細胞の働き ・白色脂肪細胞 ・褐色脂肪細胞 ・ベージュ細胞 ・アディポサイトカイン	振り返りシートの完成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**ホルモン、内分泌の働きと運動との関連**	振り返りシートの完成（ホルモンの種類とその作用）	4時間

	・内分泌とは ・ホルモンの作用機序 ・視床下部と下垂体 ・甲状腺と副甲状腺 ・副腎髄質と皮質 ・膵臓 ・性ホルモン		
第12回	**エネルギー代謝（脂質代謝）と運動との関連** ・筋収縮とエネルギー ・ミトコンドリア ・ATP ・TCA回路 ・脂質代謝	振り返りシートの完成（脂質代謝）	4時間
第13回	**エネルギー代謝（糖代謝）と運動との関連** ・筋収縮とエネルギー ・糖代謝 ・ピルビン酸 ・乳酸 ・乳酸と脳グリア細胞 ・乳酸と筋線維	振り返りシートの完成（糖代謝のメカニズム）	4時間
第14回	**消化器系（消化吸収）の構造と機能、運動との関連** ・消化管 ・食道と胃 ・十二指腸と膵臓 ・小腸と大腸 ・消化液と消化酵素 ・肝臓の働き ・消化管ホルモンと運動	振り返りシートの完成（消化と吸収）	4時間

432

授業科目名	**スポーツ生理学**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は、運動を行うことによって起こる身体の変化や適応についての専門基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、①生体の様々な仕組みと機能について体系的に学習する。②運動理論や運動に伴う生態機能の変化についての理解を深める。③ヒトの基本的生活活動と環境の変化に適応するしくみを理解する。④運動時と安静時の循環器系の機能変化を中心とする自律神経系の働きや脳機能などについて学習する。⑤スポーツ各分野におけるトレーニング効果の向上や健康の維持・増進に必要な専門知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	運動が身体へ及ぼす変化とそのしくみを生理学的観点から理解し、生理学的な基本的知識をもとに、体育やスポーツ指導の際に活用できる知識を身につける。	身体の構造と機能を理解し、さらに発育発達による身体の成長やその機能、また老化に伴う変化について理解できる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	生理学に知識を習得することで、安全かつ効果的な運動指導、スポーツ指導につなげる。また最新の運動生理学に関する知見から本学問の理解を深めていく。	生理学的な基本的知識をもとに、保健体育授業やスポーツ指導の際に活用できる知識を習得できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		近年問題となっている運動やスポーツ現場での課題を明確にし、それらの解決方法に生理学の知識が必要であることを理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内ワークシートの完成	18 %	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全6テーマ分実施する。
確認テスト	30 %	： ・各単元ごとに、まとめ（確認テスト）を行い、その内容を1～5点で評価する。自己の考えや具体的事例などを示していれば5点とし、内容不足の場合減点していく。未提出の場合は0点とする。これを全6テーマ分実施する
期末試験	52 %	： 授業内容の確認と特に授業内で学んだ基礎知識を用いて、正しく表現できているかどうか、それを活用した健康教育や運動指導に関する取り組みの提案ができているか。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は１年後期の生理学の知識を要する科目のため、生理学の単位を取得済みのこと。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日昼休み

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： ※連絡方法については初回授業において伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ生理学とは？** 「健康」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深めます。	振り返りシートの完成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える）	4時間
第2回	**運動と循環** ・心臓の構造と機能 ・心臓の拍動メカニズム（刺激伝道系） ・血圧の仕組み ・運動と心拍	振り返りシートの完成（循環器の構造と機能）	4時間
第3回	**運動と免疫** ・血液循環 ・血液の性質と働き ・血液の性状と機能 ・細胞性免疫と液性免疫 ・白血球の働き ・運動の効用	振り返りシートの完成（血液の成分と免疫機能）	4時間
第4回	**運動と呼吸** ・呼吸中枢と調節 ・呼吸のメカニズム ・ガス交換 ・呼吸運動と呼吸筋 ・呼吸型 ・運動と呼吸商 ・運動と酸素摂取量	振り返りシートの完成（呼吸器系の構造と機能）	4時間
第5回	**運動と骨格筋** ・骨格筋の構造と機能 ・筋収縮のメカニズム ・筋収縮の種類 ・骨格筋の作用 ・骨格筋と運動神経、感覚神経 ・運動とロコモティブシンドローム ・運動とサルコペニア	振り返りシートの完成（骨格筋の働きと性質）	4時間
第6回	**運動と骨代謝** ・骨の構造と機能 ・骨代謝とメカニカルストレス ・骨代謝と骨細胞 ・骨の成長と老化 ・運動と骨代謝活性	振り返りシートの完成（骨の構造と機能、骨代謝）	4時間
第7回	**運動と脳神経系** ・脳、神経系の種類 ・ニューロン ・中枢神経系 ・末梢神経系 ・脊髄神経 ・運動による効用	振り返りシートの完成（脳の構造と機能）	4時間
第8回	**運動とエネルギー代謝** ・運動と脂質代謝 ・運動と糖代謝 ・運動と乳酸	振り返りシートの完成（運動とエネルギー代謝）	4時間
第9回	**運動と体温調節** ・体温調節のメカニズム ・体温調節と発汗 ・体温の異常 ・低体温が及ぼす影響 ・保温とヒートショックプロティン	振り返りシートの完成（体温調節のメカニズム）	4時間
第10回	**運動と脂肪細胞** ・肥満の分類 ・肥満細胞の働き ・白色脂肪細胞 ・褐色脂肪細胞 ・ベージュ細胞 ・アディポサイトカイン	振り返りシートの完成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間

第11回	**運動と内分泌** ・内分泌とは ・ホルモンの作用機序 ・視床下部と下垂体 ・甲状腺と副甲状腺 ・副腎 ・膵臓 ・性ホルモン	振り返りシートの完成（ホルモンの種類とその作用）	4時間
第12回	**運動と生活習慣病予防①高血圧と運動** ・運動と高血圧 ・運動と虚血性心疾患 ・運動と動脈硬化	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病①）	4時間
第13回	**運動と生活習慣病予防②糖尿病と運動** ・運動と糖尿病 ・運動とインスリン抵抗性 ・運動と肥満	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病予防②）	4時間
第14回	**運動と生活習慣病予防③認知症予防と運動** ・運動と脳血管疾患 ・運動と認知症予防 ・運動とフレイル予防	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病予防③）	4時間

432

授業科目名	**衛生学**				
担当教員名	石原真穂				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	薬剤師の免許を有し、衛生管理者でもある。病院等で実務経験がある。また研究では、医薬品の安全性を評価する薬剤疫学研究を継続している。教育分野では、医学部や看護系大学で公衆衛生学の授業の講義及び実習の経験がある。（全14回）				

授業概要

本講義では、衛生の本質である「衛」＝守る、「生」＝生命、健康の視点から、母子保健、学校保健、産業保健についての制度や、栄養、心、身体活動などの視座から健康づくりの重要性について学ぶことを目的としている。「衛生学」がいわゆる「保健」のあらゆる分野に関与していることを基本に、健康の保持増進、疾病予防、QOL(Quality of life)向上のための方法論について学び、我が国の課題である少子高齢 化に対する対応について理解を深める。さらに、心の健康問題についても現状の理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	疫学から健康に関する情報を取得する。 最新の統計資料をよみとり、日本の公衆衛生上の問題点について考察する。	食品、環境、感染症等が人々にどのような影響をあたえるのか。これらの我が国の現状と問題点について学ぶ。 最新の統計資料をよみとり、日本の公衆衛生上の問題点について考察することができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	食品、環境、感染症等が人々にどのような影響をあたえるのか。これらの我が国の現状と問題点について、考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記試験）	80 %	： 授業中に強調して説明したところは、しっかりと学習しておくこと。
振り返り（シャトルシート）	20 %	： 授業で学んだことをよく理解できているか？

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 公衆衛生がみえる　2024-2025	・ メディック　メディア社	・ 2024　年

参考文献等

厚生労働統計協会編：国民衛生の動向　2023-2024（厚生労働統計協会　雑誌コード：03654-08）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、専門用語が多いことから事前に予習をすることとし、わからない用語は調べておくように。また、本科目は社会問題と非常に密接していることから、新聞やインターネットに掲載される時事問題には常に目を通すこと。
尚、授業中の写真撮影、録音、録画は固く禁止します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 未定

場所： 中央館5階　個人研究室114

備考・注意事項： 来室時にはアポイントメントをとること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション　なぜ、衛生学が必要なのか？** 衛生学が取り扱う領域について概説し、全体を俯瞰することを目的とする。 衛生学（公衆衛生学も含む）の歴史、概念等について説明する。	衛生学は、専門的知識が必要となるが、まず は、新聞などのマスコミュニケーションにお ける情報において、インフルエンザなどの感 染症、地球温暖化などにようる自然環境の変 化、などについてなどについて関心を持つこ とが重要である。1回目においては、衛生学と はどのような学問なのかを知ることで、社会 環境と私たちの健康問題について常に関 心を持つように心がけることが重要であ る。授業時に配布する資料を参考にして、関 心のある分野については、さらにインター ネット等で検索して知識を深めるること	4時間
第2回	**環境保健（1）　生態系、環境汚染について** 環境とは人間を含めたすべての生物を取り囲む条件を指す。人間の健康は、空気や土壌、水、化学物質等の物理化学的環境、昆虫、動物、植物等の生物学的環境等によって左右される。本講義では、物理化学的環境に関する影響がどのように我々の健康に及ぼすのかについて講義する。 キーワード：環境基本法、環境の概念、生態系、生物濃縮、四大公害、大気汚染、水質汚濁、上水道、下水道、水系感染症、土壌汚染	環境から私たちは、健康にもなるが、一方で は疾病にも陥ることになる。日ごろから社会 環境や自然環境が私たちの健康に及ぼす影響を知り、また、健康を保持するための方 策について知ることが重要である。過去の環 境問題を知り、未来の環境問題解決につなげ るための知識を配布資料等から習得する。	4時間
第3回	**環境保健（2）　化学物質汚染、居住環境汚染、廃棄物について** 前回の講義に続き、ここでは、化学物質の我々にどのような健康への影響を及ぼすのかについて学習する。併せて、廃棄物の処理方法とリサイクル、生活環境に関わる管理（空気環境、温熱指数、照明、シックハウス症候群）、化学過敏症、ダイオキシン等の内分泌かく乱物質、さらに、地球温暖化、オゾン層破壊等の地球環境問題が、我々の健康にどのような影響を与えるのかについて学ぶ。 キーワード：３R、シックハウス症候群、化学過敏症、ダイオキシン、地球温暖化	環境から私たちは健康にもなるが、一方では疾病にも陥ることになる。日ごろから社会 環境や自然環境が私たちの健康に及ぼす影 響を知り、また、健康を保持するための方 策について知ることが重要である。過去の環 境問題を知り、未来の環境問題解決につなげ るための知識を配布資料等から習得する。	4時間
第4回	**食品保健（1）　機能食品、食の安全に関する法律、遺伝子組み換え食品について** 日々口にする食物は、私たちの生命の糧であり、健康を維持するための必要不可欠なものである。しかし、現実には、食の安 全が脅かされることが過去に多く発生しており、その結果、多く の健康問題が発生した。食品公害は、私たちの生命と健康を脅かす重大な問題であり、その解決に向けては個人には限界があり、行政の対応が求められることになる。 さらに、本講義では、我が国の食品保健に関する施策、食品の表示方法をはじめ、昨今、健康意識の高まりから、流通している多種多様な保健機能食品、特別用途食品、健康食品についても解説する。 キーワード：食品衛生法、食品安全基本法、食品添加物、遺伝子組み換え食品、保健機能食品（特定機能食品他）、特別用途食品	我が国の食に関する問題点、事件について、新聞やインターネットで報道されている内容について調べ、なぜ、そのような問題が起こるのか、解決策（予防法）は何かについて考える。多種多様な保健機能食品について、どのようなものがあるか、調べる。	4時間
第5回	**食品保健（2）食中毒について** 本講義では、今までに発生している食中毒について学ぶ。食中毒の種類と特徴、食中毒が発生した場合の行政としての対応方法、予防方法について学ぶ。 キーワード：食品衛生法、食中毒の季節変動、細菌性食中毒（サルモレラ菌、黄色ブドウ球菌他）、ノロウイルス、毒キノコ、フグ毒	昨今流行している、食中毒について、報道資料等から調べる。食中毒の予防方法についても併せて調べること。	4時間
第6回	**感染症　感染症の発症に関する基礎知識** 昨今、SARS,MERS、COVID-19等の新興感染症、さらにエボラ出血熱等の致死性の高い感染症が世界的に流行し、人類を脅かしている。本講義では、感染症とは、感染症の三大因子、感染経路、感染源等の概論に加え、感染症法に定められている感染症の種類と施策について学習する。 キーワード：感染症、三大因子、感染経路、感染症法、人獣共通感染症	感染症法に定められている感染症について調べる。また、世界的に流行している感染症について、報道資料等から調べ、見識を深めること。	4時間
第7回	**感染症　検疫法、新興感染症、再興感染症について**	我が国の検疫制度について、予防接種の種類と予防接種スケジュール、新興感染症、再興感染症について、事前に自主学習をして、各自で見識を深めること。また、予防接種のスケジュールについては、母子手帳を持っている人はみておくこと。	4時間

	本講義では前回授業（「感染症（1）」）の内容を踏まえ、国内に常在しない感染症の侵入を阻止する「検疫」が果たす役割について学ぶ。また、感染症の第1次予防でもある、予防接種に関する我が国の施策及び、予防接種の種類について学ぶ。さらに世界で流行したことのある主な新興、再興感染症についても学ぶ。 キーワード：検疫法、勧奨接種と任意接種、新興感染症（SARS、MERS、新型コロナウィルス肺炎他）、再興感染症（黄熱、デング熱、百日咳他）		
第8回	**疫学　傷病のリスク評価について** 傷病の分布や健常指標の分析によって、把握し、公衆衛生上の問題を明らかにするには、問題となる原因を探求し、問題解決のために「疫学」という手法を使う。当講義では、疫学研究デザインの種類、疾病の発生状況を表す指標（有病率、罹患率）、疾病の発生リスクを求める方法（オッズ比）について学ぶ。 キーワード：有病率、断面研究、コホート研究、オッズ比、相対危険度等	「ある食物と循環器疾患との関連」や「歩行時間と要介護発生との関連」等、ある因子と病気のとの関連を調べた研究は、よく報道されているが、これらの研究は大部分が疫学研究である。また、疫学は医学系だけではなく、電力会社でも研究に利用されている。（例：電磁波と〇〇がんとの関連等）報道資料や電力会社のHPをみて、疫学がどのように応用されているのか、各自調べ、見識を深めること。	4時間
第9回	**保健統計（1）　日本の人口の現状について** 5年に一度の調査である、人口動態統計、毎年実施されている人口静態統計について学ぶ。また、我が国の人口構造の変化や人口構成についても学ぶ。さらに出生数、死亡に関する指標についても学び、母子に関する統計から、我が国の母子保健に関する現状を学ぶ。 キーワード：人口静態統計、人口動態統計、人口構造、人口構成、出生数、特殊出生数	人口動態統計、人口静態統計に関する各々の特徴について調べる。また、直近の特殊出生率、出生数の動向は、日本の人口構造、さらに社会保障の観点からどのような影響を及ぼすのか、考察する。	4時間
第10回	**保健統計（2）　日本の離婚、婚姻、離婚の現状について** 本講義では、人口動態統計に基づき、離婚、婚姻の現状についてみる。さらに、高齢者に関する、保健統計を通じて、我が国の高齢者に関する動向について考える。さらに、少子化に関する施策についても学ぶ。 キーワード：人口動態統計、少子化対策（エンゼルプラン）、	離婚、婚姻の現状、さらに高齢者に関する保健統計を通じ、我が国の現状で問題となっている現状について、報道資料、統計資料等を用いて考えてみる。	4時間
第11回	**保健統計（3）　平均寿命と平均余命について** 平均寿命と平均余命、健康寿命について学ぶ、最新版の統計を用いて、我が国の寿命と他国と比較をし、世界における我が国の現状について学ぶ。 死亡、死因統計についても学ぶ。 キーワード：平均寿命、平均余命、健康寿命、死因統計	我が国の平均寿命は世界一である。平均寿命が延びることは喜ばしいことであるが、一方、色々な課題もある、どのような問題があるのか考察する。一方、平均寿命の延伸よりも、健康寿命の延伸が重要であると昨今はいわれているが、健康寿命と平均寿命を比較して、どのようなことがみえてくるのか、もしそれが問題点であれば、どのような問題があり、それを解決する方法は何かについて考察する。	4時間
第12回	**疾病統計　日本の疾病状況について** 集団の健康を評価するためにも、平均寿命だけではなく、生存中の健康状態を把握することが必要ある。日本人における国民の健康状態、生活状況をしたるための主な調査には「国民生活基礎調査」「患者調査」がある。それらの資料から、国民の健康状態、患者の受療状況等の現状をみる。	国民生活基礎調査、患者調査を利用した報告にはどのようなものがあるか、報道資料等から調べる。	4時間
第13回	**社会保障と医療保障、国民医療費について　日本の社会保障の現状とは** 日本国憲法第25条では、日本国民は生存権を有すると記載されている。すべての国民が生存権を保障するために、社会保障が存在する。 本講義では、日本の社会保障にはどのようなものがあるのか、学習する。さらに、我々にも最も身近な「医療保障制度」は、国民皆保健のもと、国民が必要な時に、必要な医療を受けられることを保障する制度についても解説する。 さらに、少子高齢化により社会保障上の問題となっている、我が国の医療費の現状についても最新の統計資料を用いながら学習する。 キーワード：セーフティーネット、社会保障を支える4本の柱、国民皆保険、医療保険の種類	日本の社会保障制度は、海外と比較しても高水準の制度となっている。具体的にどのようなものがあるのか、また、他の国の社会制度はどのようなものがあるのか、各自調べ、見識を深めること。	4時間
第14回	**医の倫理、医薬品の適正使用　　我が国における医薬品の適正使用とは** 医薬品の適正使用（ＯＴＣ、ジェネリック医薬品、お薬手帳等）とは、セカンドオピニオン、インフォームドコンセント、臓器移植等の医の倫理とは何か、さらに疾病統計資料をみることで、現在我が国の疾病状況はどのようになっているのかを学ぶ。	キーワードが多いので、各キーワードを調べておくこと	4時間

432

授業科目名	**公衆衛生学**				
担当教員名	石原真穂				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	薬剤師、衛生管理者の免許を有し、病院等で実務経験がある。また、研究では、医薬品の安全性を評価する薬剤疫学研究を継続している。教育分野では、医学部や看護系大学で公衆衛生学の授業の講義及び実習の経験がある。（全14回）				

授業概要

公衆衛生は、衛生（衛＝守、生＝生命）を社会的環境等の大きな視点からとらえ、いわゆるポピュレーションアプローチによってその成果を期 待するために原因を探り、その効果的な対策を講じることにある。いわば地域社会、職域をカバーして、住民、労働者の健康保持増進を確保するための学問である。また、当該科目は教採の保健体育の専門試験で重要な役割を果たすこと、さらに教育現場で保健の授業のみならず、学校保健活動の基礎となる科目であることから、教科書の内容にとらわれず、適宜、教採の過去問および報道資料等を使いながら授業を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	疾病等を社会的な視点を眺望する。	疾病等を社会的な視点を眺望できるようになる
2. DP２.教育実践の省察・研究	社会的環境と健康についての関係性を理解する。	社会的環境と健康についての関係性を理解できるようになる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		健康問題が発生した場合にその要因を追求し、解決策を見出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記試験）	80 %	： 授業中に大事であるところは丁寧に学習しているかどうか
振り返りシート	20 %	： 授業内容はしっかり理解できているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・「公衆衛生がみえる　2024-2025」	・メディック　メディア社	・2024　年

参考文献等

厚生労働統計協会編：国民衛生の動向　2023-2024（厚生労働統計協会　雑誌コード：03654-08）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、専門用語が多いことから事前に予習をすることとし、わからない用語は調べておくように。社会問題と非常に密接していることから、新聞やインターネットに掲載される時事問題には常に目を通すこと。
尚、授業中の写真撮影、録音、録画は固く禁止します。定期試験については大学から指示がない限り、必ず対面筆記試験（持ち込み不可）を実施します。授業中の私語、騒ぐ等著しく態度が悪かったり、悪質なクレームがある場合は厳正なる対応をします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 未定

場所： 個人研究室114

備考・注意事項： 来室時には必ずメールでアポイントメントをとること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**第1回：授業の進め方と評価についてオリエンテーション** 公衆衛生学についての体系的説明。特に社会医学的な健康づくり についての理解を深めるための学問体系であることを学ぶ。我が国が直面している少子高齢化と健康問題について理解を深めるとともにその対応策について学ぶ。	授業において、公衆衛生学がどのような学 問であるのかを概説する。私たち を取り巻く環境の変化によってどのような健 康問題が発生するのか、について理解を深め ること。マスコミ等で我が国における高齢化 問題や生活習慣病などについての報道があれ ば、関心をもって読み、理解すること。社会 生活を送る上で必要な知識でもあり、ま た知っておくべき制度もあるので、はじめ て知ったものについては、一度調べておくこ と。	4時間
第2回	**地域保健と保健行政** 地域保健では、地域に在住する人々の実態を具体的に把握し、地域の特性を生かした保健と福祉のまちづくのみならず、快適かつ安心のできる生活環境を確保することである。地域保健は、保健所と市町村保健センターの違い、地域保健政策はどのようにすすめられているのかについても解説する。 キーワード：保健所、地域生活保健センター、地域保健法、ＰＤＣＡサイクル	自分が住んでいる町では、どのような地域保健政策をしているのか、各自調べ、発表できるようにしておく。	4時間
第3回	**母子保健(1)　（母子に関する法律と制度について）** 少子高齢化が急速に進展する我が国において、子供が健やかに成 長できるように支援する社会的責務がある。母性ならびに乳 児、幼児の健康の保持および増進を図るために母子保健法が制 定され、その詳細について規定されている。母性健康管理が十 分でなければ妊娠から分娩までに至る経過でいろいろな問題が発 生することが予測されうる母性管理について理 解を深めることを目的とする。また、母子に関わる法律である「母子保健法」の施策に基づき、訪問指導、健康診査、妊娠の届出、母子健康手帳の交付、未熟児養育医療について学ぶ。 さらに、母体の生命と健康の保護を目的とする法律である「母体保護法」を通じて、不妊手術、人工妊娠中絶等についても学ぶ。	母子保健にまつわる、問題点について考える。自分の母子手帳をみて、母子健康手帳にどのような情報が記載されているのか、確認しておく。不妊手術、人工中絶が、母体の健康にどのような影響を与えるのかについても調べておく。キーワード：母子保健法、母子健康手帳、健康診査、訪問指導、未熟児養育医療、母体保護法	4時間
第4回	**母子保健（２）（母子をとりまく問題、我が国の少子化対策）** 本講義では、母子をとりまく問題点―児童虐待、出産育児に関する制度（女性労働者の母性保護に関する法律、給付制度等）とその問題点、さらに我が国の少子化社会対策についても学ぶ。 キーワード：児童相談所、児童虐待防止法、児童福祉法、男女雇用機会均等法、育児、介護休業法、労働基準法、エンゼルプラン、健やか親子21	昨今報道で、児童虐待事件、少子高齢化、子どもをもつ女性労働者に関する問題点が社会問題となっている。どのような問題があるのか。報道資料等から調べ、これらの解決策を各自で考える。	4時間
第5回	**学校保健の現状** 文部科学省が公表している、「学校保健の動向」（学校保健に関する統計）や「学校保健統計調査」の統計をもとに、学校保健における現状と問題点についてみる。	「学校保健の動向」は、webでダウンロードができるので、最新版に目をとおしておくこと。それらのデータから、問題点を見出し、解決策を考える。併せて、学校保健統計調査や学校保健に関わる報道資料についても目をとおしておくことキーワード：いじめ、不登校、疾病、体格、体力、肥満、やせ	4時間
第6回	**成人保健** 成人保健は、20歳から64歳までと対象者の年齢幅が広い。我が国では、疾病の予防や、ＱＯＬ向上、がん対策のためにいろいろな施策を打ち出してきた。本講義では、我が国が打ち出した、国民健康づくり対策、各種健診、検診の種類、がん対策について学習する。さらに、各まちでは、そのまち独自の健康づくり政策を打ち出しているので、ある市を一例に、市町村がどのような健康づくり対策をしているのかをみる。 また、生活習慣病対策や特定健康診査・特定保健指導についても学ぶ。 キーワード：がん対策基本法、国民健康づくり対策、検診と健診、特定健康診査、特定保健指導、三大予防	我が国の健康づくり対策について調べる。自分が住んでいる町の健康づくり対策や検診にはどのようなものがあるのか、しらべておく。我が国でもっとも多いがんの死亡は何があるのか、男女別でしらべておく。特定健康診査・特定保健指導は、どのようなことをするのか、問題点についても考える。	4時間

第7回	**健康増進について** 健康増進法の施策について（健康診査、受動喫煙の防止、国民健康栄養調査）について学ぶ。また、我が国の健康増進における施策では「健康日本21（第21）」が重要であり、具体的にどのような施策があるのかをみていく。 キーワード：受動喫煙、健康診査、健康増進法、健康日本21	公共の場所では、受動喫煙の防止に向けて様々な対策をしている。実際どのような対策をしているのか、また問題点は何かを考える。国民健康・基礎調査から得られた、日本人の身体、栄養摂取状況、生活習慣調査をもとに、どのようなことが調査されたか、報道資料を基に調べる。健康日本21（第2次）の目標をみて、自分自身の生活習慣、食生活等を振りかえってみる。	4時間
第8回	**産業保健（１）（労働に関する法律と保障について）** 産業保健は労働者の健康を守るための援助である。本講義では、労働行政のしくみ、労働者をまもるための法律（労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法について学ぶ） キーワード：労働基準法、労働安全衛生法、労働災害補償保険法、労働災害の現状	昨今問題になっている、労働者にまつわる社会問題関して、報道資料等を各自調べ、何が問題点で、予防するにはどのようにしたらよいか、考察すること。	4時間
第9回	**産業保健（２）（メンタルヘルスと健康診断、作業三管理について）** 労働者の健康 は、労働安全衛生法によって規定されており、健康診断並びに事 後措置、健康の保持増進対策などが明文化されている。ここで は、職場が抱える課題について理解を深め、さらに高齢者の労働 災害、中高年齢者のメンタルヘルス不調問題について概説し、そ の課題解決に向けた取り組みの必要性について概説する。 キーワード：作業管理、作業環境管理、健康管理、過重労働対策、メンタルヘルス対策	労働者が病気になったとき、仕事で重大な健 康被害にあったときは、いったいどのよう な対応がなされるのかを知ること。作業管理とは、作業環境管理とは具体的にどのようなものがあるのか調べること。	4時間
第10回	**産業保健（３）（職業に特有な疾患とは）** ある職業に従事することによって発生する職業に特有な疾患であり、「アスベスト曝露による肺がん」「放射線曝露による白血病」、換気不良の場所での作業における「酸素欠乏症」等がある。本講義では、社会問題となったものや、作業の状態でなりやすい「職業性腰痛」「ＶＤＴ作業に伴う健康障害」等を解説する。 キーワード：職業性がん、職業性疾患、ＶＤＴ作業、職業性アレルギー	社会問題となった、職業性疾患について調べる。普段の生活について、自分の作業の姿勢等を見直してみる。	4時間
第11回	**老人保健** 日本は超高齢社会に入り、高齢者に関わる施策は避けては通れないものとなっている。本講義では、高齢者に関わる法律である、老人福祉法、高齢者医療確保法、介護認定制度、地域包括支援センターについても学ぶ キーワード：老人福祉法、高齢者医療確保法、介護認定制度、地域包括支援センター	介護保険制度についてしらべ、良い点と問題点について考察する。問題点がある場合、どのように改善すればよいか、自分が高齢者になったときに、介護保険制度を利用することをイメージして考えてみる。	4時間
第12回	**精神保健** 我が国においては、平成10年から14年間自殺者数が3万人を超え るような状況であった。まさしく、精神的な問題が、このよう な状況を招いたことになるが、その原因は、社会的、経済的な問 題が考えられる。心の健康問題は、精神医学上の問題だけではな く、社会の仕組みや経済状況の変化によって大きく影響を受けることになる。ここでは、我が国の自殺の問題やその原因、さらに は、現代人のストレスの原因等について概説する。さらにアルコール関連問題、発達障害者支援、精神福祉に関する制度及び精神障害者の社会復帰施策についても学習する。 キーワード：精神保健における三大予防、精神保健福祉法	我が国の精神福祉制度はどのようなものがあるのか、さらに、我が国の精神保健に冠する諸問題についてどのようなものがあるのか、各自調べ見識をもつこと。	4時間
第13回	**障害者社会福祉** 障害者の社会福祉は行政がメインであったものが、自ら自立を選択する制度が中心となっており、障害者が安心して地域で生活できるような支援体制となっている。本講義では、それら支える制度はどのようなものがあるか、さらに問題点についても考察する。 キーワード：ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、リハビリテーション、障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法	今まで経験したノーマライゼーションについて、さらに、目にしたこと、手に触れたことのあるユニバーサルデザインについて調べる。障害者を支える制度や取り組みについて、各自しらべ、良い点、問題点とその改善策について調べる。	4時間
第14回	**国際保健**	世界の健康問題について調べ、問題点と解決策等について考察する。国際保健におけるＷＨＯの役割について調べておく。日本の国際協力をしている組織「ＪＩＣＡ」が、実際どのような役割を果たしているのか、報道資料等から調べる。	4時間

世界には、おおよそ200近くの国家があり、保健医療体制は、各国で格差があるのが現状であり、その差を小さくすべく、様々な国際機関、国独自の組織が取り組んでいる。本講義では、日本が行っている、国際協力、さらに、WHO等が行っている国際協力の仕組みと役割について学ぶ。 キーワード：ＪＩＣＡ、二国間協力、他国間協力、ＷＨＯ、ＩＬＯ、国際連合（ＵＮ）、政府開発援助（ＯＤＡ）、世界の健康問題		

432

授業科目名	**学校保健**				
担当教員名	石原真穂				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	薬剤師および衛生管理者の免許を有し、病院等で実務経験がある。また、研究では、医薬品の安全性を評価する薬剤疫学研究を継続している。教育分野では、医学部や看護系大学で公衆衛生学の授業の講義及び実習の経験がある。（全14回）				

授業概要

本講義は、学校保健に関する法的根拠や構造を学び、学校教育機関における健康指導のあり方について理解することを目的とする。具体的には、①「学校保健安全法」を基に、生徒の健康問題について理解を深める。②学校保健の教育現場における領域、構造や内容を学習する。③疾 病とその予防および感染症の対応について理解する。④救急処置の理論と実際を学習する。⑤学校保健の実践活動を概説し、保健室の役割を理解する。⑥現代的な諸所の健康課題について現状把握と課題検討を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	生徒の健康管理についての法的根拠	学校保健安全法についての理解
2. DP２.教育実践の省察・研究	健康管理についての専門的知識	健康管理の具体的な方法についての理解
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校における健康問題の把握
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		疾病（感染症等）の対応とその予防
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		健康管理並びに健康づくりの対処行動

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記試験）	80 %	： 授業中に大事であると説明したところは、特にしっかりと学習できているかどうか。
振りかえりシート	20 %	： 授業で学んだことが理解できているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 学校保健（よくわかる！教職エクササイズ８）	・ ミネルヴァ書房	・ 2019 年

参考文献等

日本学校保健会「学校保健の動向」編集委員会　令和5年度　学校保健の動向（日本学校保健会　ISBN13　978-4903076270）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、専門用語が多いことから事前に予習をすることとし、わからない用語は調べておくように。また、本科目は教採、学校現場で直接関係する科目なので常に問題意識をもつこと。
尚、授業中の写真撮影、録音、録画は固く禁止します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 未定

場所： 個人研究室114

備考・注意事項： 来室時にはメールでアポイントメントをとること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校保健とは** 学校保健で重要な法律である。学校保健安全法は、第1条に「学校における児童生徒及び職員の健康の保持増進を図るため、学校における保健管理に関し必要な事項を定めるとともに、学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における安全管理に関し必要な事項を定め、もって学校 教育の円滑な実施とその成果を確保に資することを目的とする。」と定められている。健康と安全の両立を学校で確立するためにどのようなことが法律で定められているのかを理解することを目的とする	学校保健安全法以外の学校保健に関する法律は何か？	4時間
第2回	**学校保健・学校安全計画、保健室経営** 学校保健経営をしていくには、計画、すなわち学校保健計画や学校安全計画をたてることが不可欠である。学校保健安全法第5条に、「学校保健計画の策定」が定められ、児童生徒等と職員の健康診断、環境衛生管理等について、計画の策定、実行しなければならないとしている。養護教諭の教諭のもと、保健主事が中心となって原案を策定する。計画内容は、健康調査、健康診断、健康相談等対人的なものから、環境に関連したもの（学校環境衛生等）、さらに健康教育や、学内外の保健活動と多岐にわたっている。どのような内容をいつ頃の計画に組み込むのかについて、事例を見せながら解説する。さらに保健室は、児童・生徒の健康診断ならびにその事後 措置、健康相談などの対応を行っている。学校保健の積極的な推進には、保健室の存在が必要不可欠である。その運営については、学校全体で議論すべきものであり、またその活動について は教職員が理解すべきものである。学校保健安全法に定められ た保健室の経営について概説し、教職員としての活動の一環としての健康管理を支援する保健室の機能を理解する。	学校保健計画で必要な項目は何か考える。	4時間
第3回	**保健教育①　保健学習** 保健教育は教科教育で実施される。また学校のあらゆる教育活動の中で行われる保健指導に分けられる。ここでは発達段階における保健教育と方法について学ぶ。	発達段階による保健教育について考えてみる。	4時間
第4回	**保健教育②　保健指導** 保健指導には。個別の保健指導と集団の保健指導がある。ここでは、それらの２つの方法と位置づけ、目的、実際の方法ににについて学ぶ。	個別の保健指導と集団の保健指導の違いについて説明できるようにする。	4時間
第5回	**健康観察・保健調査・健康診断について** 健康観察、健康診断は、個々の健康状態の把握だけではなく、健康増進の役割を担っている。 ここでうは健康観察の方法、健康診断の方法と測定項目等について学ぶ	健康診断がなければ、どのような影響がでるのか考えてみよう。	4時間
第6回	**健康相談** 児童・生徒の取り巻く環境が複雑化、多様化するに従い、各々の健康問題も多種多様である。 健康相談には早期発見、早期対応の足掛かりとなるため、非常に重要な役割を果たす。ここでは健康相談の基本的理解と方法、留意点等について学ぶ	健康相談で気を付けなければならないことはどんなことか考えてみよう。	4時間
第7回	**発育・発達／学校における感染症の予防と対応** 子どもたちの発育・発達の評価をするには、成長曲線を用いる。ここでは実際の成長曲線をみて、発育、発達上どのような問題があるのか学ぶ。さらに学校生活においては、ウイルス・細菌等の感染症は、学級、さらには学校内に伝播する危険性が極めて高く、蔓延を予防するために種々の対応策が講じられている。児童・生徒に見られる感染症及び各感染症における出校停止の数え方等を解説し、その対応について理解を深める。	インフルエンザ、ノロウイルス、COVID-19等の対応方法について、また予防方法について考える。	4時間
第8回	**学校生活で特に注意をすべき子どもの病気** 教育現場で直面する各種疾患および対応方法について学ぶ。さらにアレルギーショックを起こした際に使用されるエピペンのデモ機を用いて、エピペンの使用方法についても学ぶ。	アレルギーを引き起こす原因は何か考えてみる。	4時間
第9回	**こころの健康問題** 昨今、心の健康問題が注目されている。その背景には生徒、児童が抱える心理的ストレス、こころの病気等があげられる。ここでは、教育現場で直面する精神疾患及び対応方法について学ぶ。	こころの健康問題に対応するチーム支援において、教員は何をすべきか考える。	4時間
第10回	**特別支援教育と学校保健** ここでは特別支援教育の理念と動向と現状、発達障害について、さらに特別支援教育を行うための教育体制について学ぶ	発達障害の各障害に関する特性についてどのように関わっていけばいいか考える。	4時間

第11回	**学校環境衛生** 学校保健安全法第5条では、児童生徒の健康の保護及び維持されることを目的として、学校環境衛生基準を定めており、策定されている項目を学校薬剤師が中心となって、定期・臨時的に検査を行うこととしている。しかし、教職員も日常的な点検を行い、環境の維持・改善を図る必要がある。本講義では、学校環境基準で定められている検査項目について、「なぜ、その項目は必要なのか」をしっかりと踏まえながら、解説する。	学校環境衛生基準で策定されている、測定項目は何か。なぜ、それが必要なのか。各自の小学校、中学校、高校生活を振り返って、考えてみる	4時間
第12回	**学校安全と学校危機管理** 学校安全については、過去に多くに学校ならびに児童・生徒が危険にさらされた事件が物語っている。学校のみで安全対策を万全にすることは難しく、地域などの支援が必要である。学校 独自の取り組みとともに地域との連携を強化して、学校の安全を確保することを学ぶ。さらに、一次救命処置（BLS）の手順について、危機発生と心のケアについても学ぶ。	教育現場で危機が発生したとき、教員として児童、生徒にどのようにかかわることが必要か考える。	4時間
第13回	**給食・食育** 学校における給食は、学校給食法によって規定されており、その第1条は、「学校給食が、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適 切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実 施に関し必要な事項を定め、もって学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。」と規定されている。教育における食育は、以後の健康の向上にも寄与すること から、十分な知識を有することが必要であることを学ぶことを目 的とする。	学校給食の役割は、また期待される食育と は。最近の地産地消とは。	4時間
第14回	**喫煙、飲酒、薬物乱用防止について** 喫煙、飲酒、薬物乱用は、心身に悪影響を及ぼすだけではなく、依存性があるので禁ずることが難しい。特に未成年者における喫煙、飲酒は未成年者では禁止、薬物、特に麻薬、覚せい剤等の所持、使用は法律で禁止されている。講義では、これらの概要と問題点、教育現場でどのようにそれらの危険性、有害性を発信していくのかを解説する。	喫煙、飲酒、薬物乱用に関する知識をどのように小中高生に伝えるのか、調べてみよう。	4時間

432

授業科目名	**救急処置法**				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士およびトレーナーとして、スポーツ現場で高齢者やスポーツ選手に対し、スポーツ活動中に発生したスポーツ傷害に対して救急処置を実施				

授業概要

教育現場における緊急時の対応の基礎知知識と技術を修得することを目的とする。
教育現場においては予見できない事態、特に生命が危険にさらされる事故を想定した対処を学ぶことは必要不可欠である。本講義では、万が一の不測の事態に備えて、CPRやAEDの実践方法について学ぶ。また、教育現場において発生が予測できる各種外傷に対する遊休処置の必要性を理解し、確実に実践できるように実技を含めて学修する。さらにスポーツ現場におけるRICE処置についても理解とともに実践できるようにすることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	救急処置についての正しい知識とスキルの習得	CPRについての正しい知識とスキルの習得
2. DP２.教育実践の省察・研究	AEDなどを実践で使用できるスキルの確実な習得	AEDを正しく使用することができる

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	救急処置が必要な場合の迅速な判断
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	AEDを的確に使用することができるスキル

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（筆記）	35 %	： 救急処置の意義や方法について理解しているかで評価する。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業中の実技確認テスト	35 %	： 授業内で実施する実技内容の習熟度を確認する。 適切な方法、適切な用具、適切な時間で行えているかどうかで評価する。
授業態度およびプレゼンテーション	30 %	： グループで分担、協力し、責任を持ってやり遂げたかを、次の観点から評価する。1.発表資料の作成、2,発表と質疑・応答の対応。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

講義だけでなく、多くの演習を行いながら展開するため、服装や持ち物などの指示に必ず従うこと。また、応急処置の材料について各個人に配布するため、大切に管理して使用すること。
また、授業中の質問に対しては、自分の知っている範囲でいいので、しっかりと回答すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワー・授業外での質問方法については、初回の授業でインフォメーションする。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション** 救急とはどういうことなのかの理解を深める。また、救命の連鎖とBLS(basic Life Support)について学習する。	救急処置の全般について学び、具体的に救急事案に遭遇した場合にどのような処置ができるのかについてまずは学ぶこと。	4時間
第2回	**救急処置の基本知識** 救急（応急）処置とはどのようなことなのか。我が国の救急医療の現状と問題点について学ぶ。	救急処置の現状と問題点について、例えば、大規模マラソンなどでは心肺停止事例が報道されているが、もしその場に居合わせて場合にどのような対応をすればよいのだろうか。法的問題について日頃から関心を持つ。	4時間
第3回	**緊急時の対応計画** エマージェンシーアクションプランの作成について、どのような条件であれば、どのような緊急事案が発生するのかについて学習する。	スポーツ大会、大規模マラソン大会ではどのような救護体制によって救急処置がなされているのか。その実態について知る。	4時間
第4回	**緊急時の救命処置　基礎編** 心肺蘇生法、AEDの使い方などについて学び、現場で活用できるよう基本的知識について概説する。また、熱中症の初期対応についても触れ、救急搬送する場合の注意点なども触れることとする。救急処置に対するABCDを学修する。	自分が意識のない人に遭遇した場合、どのように対応するか考える。	4時間
第5回	**緊急時の救命処置　実践編** 心肺蘇生法、AEDの使い方などについて学び、現場で活用できるよう基本的知識について概説する。また、熱中症の初期対応についても触れ、救急搬送する場合の注意点なども触れることとする。救急処置に対するABCDを実践的に学修する。	AEDはどのような場合に使用するのか、正しい知識を身につける。	4時間
第6回	**外傷の処置　基礎編** 出血、骨折、捻挫、打撲、筋断裂、腱断裂などの外傷に対する基本的な対処は、RICEであり、この基本をまず理解し、外科的疾患の種類や重症度に応じて個別に対応することになる。具体的な事例における対応を学修する。	スポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶことが必要。救急処置についての実践能力を高めることが必要。そのためには、授業、研修を受けること。	4時間
第7回	**外傷の処置　実践編（固定法）** 骨折や脱臼、捻挫が発生した際の、応急処置としての固定法を学修する。	スポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶ。	4時間
第８回	**外傷の処置　実践編（足関節テーピング）** スポーツ外傷のなかでも発生頻度の高い、足関節の外傷における応急処置としての、テーピングぐ方法を学修する。	スポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶことが必要であり、救急処置についての実践能力を高める。	4時間
第９回	**外傷の処置　応用編（足関節テーピング）** スポーツ外傷のなかでも発生頻度の高い、足関節の外傷における応急処置としての、テーピングぐ方法を学修する。	足関節のスポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶ。	4時間
第10回	**外傷の処置　実践編（膝関節テーピング）** スポーツ外傷のなかでも発生頻度の高い、膝関節の外傷における応急処置としての、テーピングぐ方法を学修する。	スポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶことが必要であり、救急処置についての実践能力を高める。	4時間
第11回	**外傷の処置　応用編（膝関節テーピング）** スポーツ外傷のなかでも発生頻度の高い、膝関節の外傷における応急処置としての、テーピングぐ方法を学修する。	膝関節のスポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶ。	4時間
第12回	**脳振盪　基礎編** コンタクトスポーツなどで発生する脳振盪について正しく理解し、その重要性を学修する。	脳振盪に対する基本的知識について学ぶ。	4時間

第13回	**脳振盪　実践編（評価、運搬法）** コンタクトスポーツなどで発生する脳振盪についての評価方法を学び、また、運搬方法を学修する。	脳振盪に対する評価方法について実践できるようトレーニングする。	4時間
第14回	**総合演習** 実技についての総合演習を行う。すでに今までの授業で習得して救急処置について再度確認をし、現場での活動に生かすことを目的とする。現場での救急処置は、チームワークが大きな力になることを学修する。	今までに習得した救急処置の理論と実際を再学習し、現場で実践できること。	4時間

433

授業科目名	アスレティックトレーニング論				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士およびトレーナーとして、病院やスポーツ現場でスポーツ選手に対し、アスレティックトレーニング等を実施				

授業概要

学校教育現場においてスポーツ事故が発生した場合、教員およびスポーツ指導者としてそれらに対応する必要に迫られることとなる。特に学校の体育的活動においては、その発生率は高くなる。本講義では、代表的スポーツ傷害としての急性外傷や慢性障害、内科系疾患を深く理解し、それらの発生要因を考える。さらにスポーツ指導者として対応すべきスポーツ傷害の管理や予防を実践するために必要な専門知識の習得と課題解決能力の獲得を目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	スポーツ傷害の管理と予防	スポーツ傷害の管理と予防に関する専門知識の習得
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		緊急時の状況の理解
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		評価と実践の基礎能力の修得

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	30 %	： 授業中の参加状況、発問内容、課題発表について評価する。
試験（筆記）	35 %	： アスレティックトレーニングの意義や方法を理解しているか否かで評価する。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業内課題	35 %	： 授業内容を踏まえて、アスレティックトレーニングの意義や方法について、論理的な考察を行い、適切にまとめられているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・スポーツ外傷アセスメント　適切な処置のための理論と実際，西村書店（ISBN：978-4-89013-196-9）
・アスレティックトレーニング　テキスト版，ブックハウスエッチデイ（ISBN-10：4938335034）
・アスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス ，文光堂（ISBN 978-4-8306-5191-5）

履修上の注意・備考・メッセージ

専門分野であるので、授業に出席することが重要である。原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。授業中の質問に対しては、自分の知っている範囲でいいので、しっかりと回答すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎回の授業前後

場所： 授業を行う教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校教育現場におけるスポーツ傷害管理の実態について** 学校教育現場のスポーツ事故の発生状況をもとに、教育者・指導者としてスポーツ傷害の管理と予防の理解と実践の必要性について概説する。	スポーツ傷害の発生状況について調べる	4時間
第２回	**スポーツ傷害の発生要因（運動学的要因、心理社会学的要因、行動学的要因）** スポーツ傷害の発生要因について、最新の研究動向を踏まえて概説する。	スポーツ傷害の発生要因の研究動向について調べる	4時間
第３回	**スポーツ傷害の管理と予防に関する世界的潮流** スポーツ傷害の管理と予防は、どの国においても大きな関心事である。本時では、日本および欧米の研究動向を中心に概説する。	欧米のスポーツ傷害の管理と予防の状況について調べる	4時間
第４回	**スポーツ傷害の予防（１）　基本的な考え方、学校教育現場のスポーツ傷害発生状況** スポーツ傷害の予防に関する考え方について、学校教育現場の事故発生状況をもとに議論する。	学校教育現場の事故発生状況を調べる	4時間
第５回	**スポーツ傷害の予防（２）　学校教育現場におけるスポーツ傷害発生の要因** 学校教育現場でのスポーツ傷害発生の要因について、実際のデータをもとに議論する。	スポーツ傷害発生の要因について調べる	4時間
第６回	**スポーツ傷害の予防（３）　学校教育現場のスポーツ傷害予防の検討** 学校教育現場においてスポーツ傷害の発生予防を提言するための方策について議論する。	スポーツ傷害予防についての方策について調べる	4時間
第７回	**救急処置の基礎理論（１）　学校教育現場における緊急対応計画　救急法の理論** 学校教育現場でスポーツ傷害が発生した際の計画の概要と現場でできる救急処置について考察する。	緊急時対応計画について調べる	4時間
第８回	**救急処置の基礎理論（２）　学校教育現場における緊急対応計画　救急法の実践** 学校教育現場でスポーツ傷害が発生した際の計画に基づく行動を検証し、具体的方法について考察する。	緊急時の行動について調べる	4時間
第９回	**アスレティックリハビリテーション（１）　医療機関と学校教育機関の役割** スポーツ傷害後のリハビリテーションの流れの概要について理解し、学校と医療機関との連携の在り方について検討する。	学校と医療機関との連携について調べる	4時間
第１10回	**アスレティックリハビリテーション（２）　安全かつ効率的な実践方法** スポーツ傷害後の安全かつ効率的なリハビリテーションの実践方法について考察する。	リハビリテーションの実践方法について調べる	4時間
第11回	**学校教育現場における競技者の自己管理能力について** 生徒のスポーツ傷害予防への認識を深め、自己管理能力を高めるための方策について検討する。	自己管理能力の向上の方策について調べる	4時間
第12回	**測定と評価（１）　測定項目の検討** 学校教育現場で実施可能なスポーツ傷害の評価に関する項目について検討する。	スポーツ傷害の評価について調べる	4時間
第13回	**測定と評価（２）　評価の観点** 学校現場で実施可能なスポーツ傷害の評価の観点について検討する。	学校で実施可能な傷害評価について調べる	4時間
第14回	**ドーピングコントロール** スポーツ傷害予防やパフォーマンス向上を目的とした各種取組の中で、ドーピングとのかかわりについて考察する。	アンチドーピングの方策について調べる	4時間

433

授業科目名	**スポーツ医学**				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義は、スポーツ外傷・障害の発生器所や各種疾患の事例を通じて学習し、対処や予防法について専門知識とスキルの修得を目的とする。具体的には、①内科的および整形外科的スポーツ外傷と障害について医科学的に理解を深める。②特殊環境下でのスポーツ障害について医科学的に理解を深める。③スポーツ障害発生時の緊急対応について医科学的に理解を深める。④小児のスポーツ医学について理解を深める。⑤女子のスポーツ医学について理解を深める。⑥高齢者のスポーツ医学について医科学的に理解を深める。⑦スポーツ障害の予防に向けたトレーニングの実践について理解を深める。⑧生活習慣病予防に向けた効果的な運動トレーニングの実践について理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	スポーツ医科学に関する基礎知識の修得と教育現場や地域スポーツでの実践	健康とスポーツ、運動と生活習慣病に対する理解とその予防方法を学び、具体的な方法を考え実践することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣病予防のための方法を理解し、他者に説明できる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		最新の健康課題やスポーツ医科学、生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	60 %	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば3点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば5点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全14回実施する。
振り返りシート	14 %	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。内容不足または未提出の場合は0点とする。これを全14回実施する。
受講態度	14 %	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
期末レポート	12 %	： 健康管理の重要性および疾病予防の理解とその具体的予防法、実践的具体策について理解を求める問題から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日昼休み

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： 上記以外の対応に関しては、授業開始時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要と目的のガイダンス** 「健康」という観点から自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考える。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深める。	振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめ直す）	4時間
第2回	**スポーツ生理学概要** これまでに学んできた生理学、スポーツ生理学の内容を確認する。	振り返りシートの作成（生理学、スポーツ生理学の復習）	4時間
第3回	**スポーツ障害（1）内科的スポーツ障害、心臓突然死** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも心臓突然死について理解を深める。	振り返りシートの作成（心臓突然死について）	4時間
第4回	**スポーツ障害（2）内科的スポーツ障害、熱中症、脱水症状、スポーツ貧血** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも熱中症、脱水症状、スポーツ貧血について理解を深める。	振り返りシートの作成（スポーツ中に起こりうる外傷や障害を考える）	4時間
第5回	**スポーツ障害（3）心肺蘇生法とAEDの活用** スポーツ指導をするうえで、安全管理や安全教育が重要とされている。特にスポーツ中の突然死は問題とされており、その対処方法の理解が求められている。そこで心臓の構造や機能を理解し、正しい心肺蘇生法の方法やAEDの正しい活用について考える。	振り返りシートの作成（心肺蘇生法の実際）	4時間
第6回	**スポーツ障害（4）頭頚部のスポーツ外傷と障害** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも頭頚部のスポーツ外傷及び障害について理解を深める。	振り返りシートの作成（頭頚部のスポーツ外傷と障害）	4時間
第7回	**スポーツ障害（5）上肢のスポーツ外傷と障害** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも上肢（肩関節・肘関節・手関節）のスポーツ外傷及び障害について理解を深める。	振り返りシートの作成（上肢のスポーツ外傷と障害）	4時間
第8回	**スポーツ障害（6）腰部・体幹部のスポーツ外傷と障害** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも腰部・体幹部のスポーツ外傷及び障害について理解を深める。	振り返りシートの作成（腰部・体幹部のスポーツ外傷と障害）	4時間
第9回	**スポーツ障害（7）下肢のスポーツ外傷と障害** 運動中やスポーツ中に起こりうるスポーツ障害について理解する。なかでも下肢のスポーツ外傷及び障害について理解を深める。	振り返りシートの作成（下肢のスポーツ外傷と障害）	4時間
第10回	**肥満・心疾患・脳血管疾患などの生活習慣病について** 肥満は血管系の病気を招く危険因子でもある。肥満になるメカニズムを理解し、その予防方法を学ぶ。具体的には、肥満になる生活習慣や内臓脂肪が病気を引き起こす理由を学ぶと共に、肥満による心疾患や脳血管疾患との関連について理解を深める。	振り返りシートの作成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**睡眠不足・睡眠負債が及ぼす身体への影響について** 現代社会は睡眠不足に陥りやすい環境と言われており、睡眠不足が身体に及ぼす影響について学ぶ。具体的には、睡眠不足と肥満の関係、睡眠不足と生活習慣病との関係、効果的な睡眠を知るための睡眠メカニズムについて学ぶ。	振り返りシートの作成（睡眠の質を高めるための方法）	4時間
第12回	**ロコモティブシンドローム・サルコペニアについて**	振り返りシートの作成（日常生活において下肢筋力を高める工夫を考える）	4時間

	超高齢社会の日本では、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態であるロコモ（ロコモティブシンドローム：運動器症候群）や、サルコペニアが大きな問題となっている。そのメカニズムや具体的な予防法について考える。		
第13回	**健康の維持増進に向けた効果的な運動トレーニングの実践** 健康の維持増進のためにスポーツクラブやフィットネスクラブに通い運動する者が増加してきている。さらにメディアを通じて様々な健康情報が取り上げられているが、その中には誤った方法や健康を害する内容も含まれている。そこで、効果的かつ安全に筋力、筋量を高めるトレーニングや脂肪燃焼や持久力を高めるトレーニングについて学ぶ。	振り返りシートの作成（実践できるトレーニング計画を考える）	4時間
第14回	**生活習慣病の予防に向けた効果的な運動トレーニングの実践** これまでの授業を通して生活習慣病の成り立ちや病理学的理解が身に付いているが、それを基に生活習慣病予防に必要な運動方法や健康管理について学ぶ。さらに過度な運動やトレーニングに関する弊害に関しても最近の知見を基に理解を深める。	振り返りシートの作成（ダイエットの弊害）	4時間

431

授業科目名	**英語学概論**				
担当教員名	松林城弘				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、動物と人のコミュニケーションの違いや言語の起源から始まり、日本語とは異なる英語独特の発音（音声学・音韻論）、語形成の規則（形態論）、文法規則（構造主義文法、生成文法）、語や文の意味および認知との関係（意味論、認知言語学）、文脈や場面の中の文（語用論・情報構造）、英語の文化と社会、言語習得と言語教育といった英語学に関わる多様な分野を概観していく。この授業で身に付けた英語学や言語習得論の基礎知識を踏まえて、英語の学習や指導のあり方を考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語という言語を、音声学、形態論、統語論、意味論、語用論、言語習得論、言語教育論の視点から概観するとともに、英語の変種や文化にも触れる。	英語学や言語習得論で用いられる基礎概念を理解できている。
2. DP２.教育実践の省察・研究	英語学の専門知識を活用しながら、言語習得や英語教育について学習する。	英語学や言語習得論の知識に基づいて、英語の学習や指導の在り方について論じることができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		基礎的な問題の解決を積み重ね、より大きな問題を解決する態度、構えを身に付ける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		外国語の深い理解を通じて、自らの言語である日本語を、相対的に再認識していく視点を獲得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 英語学や言語習得論で用いられる基礎概念を理解できている。プリントやテキストの内容を理解している。英語学や言語習得論の基礎的な用語を用いて、自らの考えを表現することができる。
課題・小テスト	20 %	： 英語学や言語習得論で用いられる基礎概念を理解できている。プリントやテキストの内容を理解している。
授業への参加・取り組み	20 %	： 積極的に授業に取り組み、自らの考えを発表できる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長谷川瑞穂、山脇怜（編著）	・ 英語総合研究（改訂版）	・ 研究社	・ 2017　年

参考文献等

ISBN4-8122-0018-0 大喜田喜夫『英語教員のための応用言語学』昭和堂 2016
ISBN978-14-035158-1 大西泰斗、ポール・マクベイ『ハートで感じる英文法（決定版）』NHK出版 2023

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡します。

場所：　初回授業で連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション－英語の起源と仕組み** 授業の進め方や成績評価について説明する。 英語の起源と仕組み（音声・統語・意味・語用など）の概要を学ぶ。	動物と人のコミュニケーションの違いは何か、人のことばの特徴は何か考えておく。	4時間
第2回	**英語の仕組み（１）語形成** 英語の音素・形態素・語・句・節・文・談話の仕組みについて学ぶ。	テキストを読み、音素・形態素・語・句・節・文・談話とは何か説明できるようにしておく。	4時間
第3回	**英語の仕組み（２）形態素と文** 英語の種々の形態素(進行形、過去形、冠詞など)や色々な形の文(否定形や疑問形など)の仕組みとその習得について学ぶ。	テキストを読み、種々の形態素や色々な文の形について説明できるようにしておく。	4時間
第4回	**英語の仕組み（３）文構造** 英語の文型(5文型など)や文構造の成り立ちとその仕組みについて学ぶ。	テキストを読み、文型や文構造について説明できるようにしておく。	4時間
第5回	**脳の仕組みと英語（１）脳の言語機能** 言語に関わる脳の仕組みと脳の言語機能に関わる色々な実験について学ぶ。	テキストを読み、言語に関わる脳内の部位や脳の言語機能について説明できるようにしておく。	4時間
第6回	**脳の仕組みと英語（２）言語臨界期** 言語臨界期仮説と英語の音声や文法の習得との関係について学ぶ。	テキストを読み、言語臨界期仮説や脳の一則化とは何か説明できるようにしておく。	4時間
第7回	**社会と英語の変種** アメリカ社会における英語の起源と変種について学ぶ。	テキストを読み、英語の起源や英語の変種にはどのような種類があるか説明できるようにしておく。	4時間
第8回	**英語の文法理論（１）　構造主義** 構造主義言語学・構造主義心理学の概要を学び、オーラルアプローチの方法などを知る。	テキストを読み、構造主義言語観やそれに基づく教授法について説明できるようにしておく。	4時間
第9回	**英語の文法理論（２）生得主義** 生得主義言語観や生成文法理論の概要を学び、認知的教授法について知る。	テキストを読み、生得主義言語観とは何か、生成文法とは何か説明できるようにしておく。	4時間
第10回	**英語の文法理論（３）創発主義** 創発主義言語観の概要を学び、相互主義的教授法について知る。	テキストを読み、創発主義とは何か、相互主義教授法にはどのような種類があるか説明できるようにしておく。	4時間
第11回	**英語の分析理論（１）対照分析** 英語と他の言語の構造を比較分析し、どこに類似点と相違点があるか学ぶ。	テキストを読み、英語と日本語の類似点と相違点について説明できるようにしておく。	4時間
第12回	**英語の分析理論（２）誤用分析** 英語の誤用の種類と原因を知り、具体的な分析方法について学ぶ。	テキストを読み、形態素の必然的事例分析について説明できるようにしておく。	4時間
第13回	**英語の分析理論（３）中間言語分析** 中間言語の概要と中間言語の発達過程を学ぶ。	テキストを読み、中間言語とは何か説明できるようにしておく。	4時間
第14回	**言語観の変遷とまとめ** 言語観の変遷にともなう英文法の扱いや英語教授法の移り変わりについて学び、本授業の振り返りをする。	過去にどのような英文法理論あり、どんな教授法があったかについて説明できるようにしておく。	4時間

431

授業科目名	英語音声学・音韻論				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、英語の発音上達に特化したクラスです。英語音声学・音韻論の基礎を知識として身につけると同時に、実際に声を出して発音練習をします。英語音声学的な知見を身に付けることが英語学習や英語教育に役立つということが実感できることを目指します。

日本の英語教育において発音は軽視されがちですが、相手に誤解なく理解してもらうためには、英語の母音や子音を明確に区別して発音することが必須です。例えば日本語の母音が「あ・い・う・え・お」の５種類であるのに対して、英語は約１５種類もの母音が存在します。１５種類の区別をしない状態では、残念ながら意図が正しく相手に伝わることはありません。この授業で個々の発音を区別するトレーニングをすれば、聞き返されることが格段に少なくなります。さらに、発音のトレーニングがリスニング力の向上に繋がることも実感できます。

学修到達目標は次の通りです。
(1)英語の母音について、舌の位置を基準に分類し、発音方法を説明できる。それぞれを区別して発音できる。
(2)英語の子音について、調音方法と調音位置、そして有声性の３要素で説明できる。それぞれを区別して発音できる。
(3)英語の発音記号を正しく発音できる。自分が正しく発音できる単語について、発音記号を書くことができる。
(4)英文を見て、英語の音声変化する環境を見つけ、どういう音に変化するかを説明できる。英語の音声変化を自分で発音できる。
(5)英語のストレス・イントネーションを、リズムを取りながら再現できる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語音声学と英語音韻論の基礎を理解する。	英語教員にふさわしい発音を身につける。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		知識だけではなく技術を身につけるために、英語の発音の訓練を継続する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み、宿題	40 %	： 授業活動や問題演習への参加度、宿題の提出状況で評価します。
中間レポート	30 %	： 中間レポートの内容をそれまでの授業内容の理解度でABCDEの５段階で評価します。
期末レポート	30 %	： 期末レポートの内容をそれまでの授業内容の理解度でABCDEの５段階で評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子	・ 改訂新版 初級英語音声学	・ 大修館書店	・ 2013 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

発音上達のためには、自分の声を録音して確認することが非常に重要です。スマートフォンやパソコン、ICレコーダーなど、自分の声を録音できる機材を用意してください。毎週の課題やレポートの一部に、録音の提出を求める場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワーは第1回目の授業で知らせます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**導入：英語音声学・音韻論の学び方** オリエンテーション：授業目的、授業課題についての確認。 英語音声学・音韻論とは 発音向上の意義 発音向上のために必要なこと	音声録音（読み上げ課題）	4時間
第2回	**母音と子音の違い、調音器官** 母音や子音を正しく発音するための調音器官について学びます。母語（日本語）を頼りにして、丸暗記にならずに英語音声学の知識を身につける方法を伝えます。	シャドーイング録音課題、調音器官の復習	4時間
第3回	**英語の母音（１）：母音四角形の図を理解する** 母音を区別するための母音四角形の図について説明します。まずは日本語を題材に、母音四角形を理解できるようにします。さらに、英語の母音の違いを口頭で説明できるように訓練します。また、母音を区別して発音する練習をします。	シャドーイング録音課題、復習（母音四角形の図の理解）	4時間
第4回	**英語の母音（２）：母音四角形の図を理解する** 母音を区別するための母音四角形の図について説明します。母音の違いを口頭で説明できるように訓練します。また、母音を区別して発音する練習をします。発音記号だけを見て、自分で発音し、かつ母音四角形を用いて説明できるようにします。	シャドーイング録音課題、復習（母音四角形を使った発音練習）	4時間
第5回	**英語の母音（３）：二重母音・長母音・短母音** 二重母音・長母音・短母音について説明します。それぞれの母音を区別して発音する練習をします。	シャドーイング録音課題、復習（二重母音、長母音、短母音）	4時間
第6回	**英語の子音（１）：英語の子音：調音方法・調音点・有声性の３要素** 英語の子音について、調音方法・調音点・有声性による分類を説明します。まずは日本語を題材に３要素を理解します。似た子音を対比して発音する練習をします。	シャドーイング録音課題、復習（子音の調音法、調音点の理解））	4時間
第7回	**英語の子音（２）：英語の子音：調音方法・調音位置・有声性の３要素、中間レポートの説明** 英語の子音について、調音方法・調音位置・有声性による分類を説明します。英語特有の子音について練習します。似た子音を対比して発音する練習をします。また、中間レポートについて説明します。	シャドーイング録音課題、復習（子音の調音法、調音点の記憶）	4時間
第8回	**英語の子音（３）：英語の子音：調音方法・調音位置・有声性の３要素** 英語の子音について、調音方法・調音位置・有声性による分類を説明します。似た子音を対比して発音する練習をします。特に、発音が難しい子音クラスターの練習をします。	グ録音課題、復習（子音クラスター）	4時間
第9回	**英語の音単位：音節構造** 聞こえ度について説明し、英単語を音節に区切る練習をします。また、これまで学んだ子音や母音について、発音の練習をします。	グ録音課題、復習（音声構造）	4時間
第10回	**英語の強勢と弱音化、強勢の３要素** 英語の強勢と弱音化、強勢の３要素について説明します。強勢をつける練習や、強勢をなくして母音を曖昧にする練習をします。	グ録音課題、復習（強勢、弱音）	4時間
第11回	**英語の音声変化・リンキング：** 英語の音声変化（リンキング）について学びます。自分で音声変化を説明できるように訓練します。また、音声変化をさせた上で発音する練習をします。	グ録音課題、復習（リンキング）	4時間
第12回	**英語の音声変化・同化（２）**	グ録音課題、復習（音声の同化）	4時間

	英語の音声変化（同化）について学びます。自分で音声変化を説明できるように訓練します。それぞれの音声変化について、音韻論的に分析する訓練をします。また、音声変化をさせた上で発音する練習をします。		
第13回	**英語のリズム** 日本語と英語のリズムの違いを説明します。また、英語の音調について説明します。リズムを取りながら、英語らしいイントネーションで発音する練習をします。	グ録音課題、復習（リズム）	4時間
第14回	**英語のイントネーション、期末レポートについて** 日英語らしいイントネーションで発音する練習をします。さらに、これまでのまとめを行います。また、期末レポートについて説明します。	グ録音課題、復習（イントネーション）	4時間

432

授業科目名	第二言語習得論				
担当教員名	橋本健一				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、第二言語・外国語を身につける際のメカニズムについてこれまでの研究で明らかになった知見を学び、それらに基づいて日本における英語の学習・指導を検討していきます。いわゆる「科学的視点」から提案されている学習・指導法に触れていきますが、必ずしもそれらを絶対視することはせず、自らの外国語学習経験とも照らし合わせながら、英語という言語そのものや学習者、学習プロセス等について幅広い視点を持ちつつ、適切かつ効果的な英語指導を考案・実践できるような英語教員になるための基礎力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	第二言語習得の理論	第二言語習得の理論・基礎概念、及び教育への応用可能性の理解。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		第二言語習得理論に基づく学習者理解と教育への応用。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	30 %	： 第二言語習得論で用いられる基礎概念や英語の授業・活動との関わりを理解できているか
発表	20 %	： 授業内容を踏まえて、論理的かつわかりやすく伝えているか
授業内容の振り返り	30 %	： 毎回の授業内容を的確かつ簡潔にまとめられているか
授業への参加状況	20 %	： グループワークやコメントを求められた際に積極的に発言しているか（グループワーク中の個別コメントにも積極性が求められる）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中田達也・鈴木祐一（編）	・ 英語学習の科学	・ 研究社	・ 2022　年

参考文献等

馬場今日子・新多了　『はじめての第二言語習得論講義』　大修館書店　2016 ISBN：978-4469246087
Lightbown, Patsy M. and Nina Spada,　How Languages Are Learned,　Oxford University Press, 2013 ISBN：978-0194541268
鈴木渉『第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店　2017 ISBN：978-4469246117
森島泰則『なぜ外国語を身につけるのは難しいのか: 「バイリンガルを科学する」言語心理学』勁草書房 2015 ISBN：978-4326299102
白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版』大修館書店 2023 ISBN：978-4469246612

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、前回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　基本的に授業前後

場所：　教室

備考・注意事項：　授業時間外の質問等はメールで受け付けます。詳細は初回授業時にお知らせします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**SLA研究から考える英語学習の大原則** 第二言語習得研究をベースに英語教育を考えるにあたって特に重要な概念について触れて、この後の授業の土台づくりをします。	自分自身の英語力を全体的に振り返って、得意なところや苦手なところ、これまでどんな学習をしてきたか等を考えておく。復習においては授業で取り上げた概念の確認をしておく。	4時間
第2回	**単語の学習** 単語の学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第2章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だった単語の学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第3回	**文法の学習** 文法の学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第3章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だった文法の学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第4回	**発音の学習** 発音の学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第4章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だった発音の学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第5回	**リスニングの学習** リスニングの学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第5章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だったリスニングの学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第6回	**リーディングの学習** リーディングの学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第6章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だったリーディングの学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第7回	**スピーキングの学習** スピーキングの学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第7章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だったスピーキングの学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第8回	**ライティングの学習** ライティングの学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第8章を読んでおく。自身の英語学習を振り返り、効果的だったライティングの学習法を考えておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第9回	**英語学習と個人差** 英語学習における個人差に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、英語学習・指導を考えるにあたって抑えておくべき個人差について検討します。	予習として教科書の第9章を読んでおく。自分の周りにいる様々な英語学習者を思い浮かべて、英語が得意な人の特徴を考えてみる。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間

第10回	**動機づけ・学習スタイル・学習ストラテジー** 個人差の中でも特に動機づけ・学習スタイル・学習ストラテジーに焦点を当てて、よく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えるとともに、効果的な英語学習・指導について考えます。	予習として教科書の第10章を読んでおく。自分の周りにいる様々な英語学習者を思い浮かべて、英語学習の動機が高い人の特徴を考えてみる。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第11回	**子どもの英語学習** 子どもの英語学習に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、小学校やそれより前の英語学習について検討します。	予習として教科書の第11章を読んでおく。自分が最初に英語を学習し始めた時のことを振り返って、どういう学習活動が効果的だったか考えてみる。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第12回	**留学による英語学習** 英語学習における留学の効果に関してよく問われる疑問について第二言語習得研究の成果を踏まえて考えて、学校教育や大学等でどのような留学（海外研修）が効果的か検討します。	予習として教科書の第12章を読んでおく。海外滞在経験がある人はそれが英語学習にどう影響を与えたか、ない人は初めての海外としてどういうところにどのくらい行きたいかを考えてみる。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第13回	**第二言語習得研究の歴史** 授業で取り扱った内容の復習と取り扱えなかった内容の紹介を織り交ぜつつ、第二言語習得研究の歴史的な流れを概観します。	予習として、これまでの授業内容を全体的に振り返っておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間
第14回	**第二言語習得研究と外国語教育** 前回に引き続き第二言語習得研究の歴史的な流れを概観して、現在それがどのように外国語教育につながっているかを紹介します。	予習として、これまでの授業内容を全体的に振り返っておく。また他の授業も含めて、現在英語教育でどのような指導法が注目を集めているかを調べておく。復習として授業内容を振り返りつつ、発見・疑問点等をコメントする。	4時間

431

授業科目名	英語文法論				
担当教員名	松林城弘				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、英語の文法のうち主要な項目を取り上げ、文の構造・意味・機能について丁寧に解説していくことで、受講者が英語の言語的特性と日本語との共通性や差異を意識しながら、基本的な文法項目を統一的に捉えられるようになることを目指す。さらに、そうした基礎的な知識の修得に加えて、日本人英語学習者にそれぞれの要点をどのように指導すれば効果的な学習が促進されるかという実践的指導方法も検討し、文法指導のあり方全般について考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	基本的な英語文法の構造・意味・機能を再整理する。	基礎的な文法の働きに親しみながら、授業実践に繋げられる形で、英語文法を再整理する。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		基礎的な問題の解決を積み重ね、より大きな問題を解決する態度、構えを身に付ける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		外国語の深い理解を通じて、英語や日本語を相対的に再認識していく視点を獲得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 基本的な英語文法の知識が身に付いている。テキストの内容を理解している。自らの言葉・表現で、文法事項の解説ができる。
課題・小テスト	20 %	： 英語文法の知識が身に付いている。テキストの内容を理解している。
授業への参加・取り組み	20 %	： 積極的に授業に取り組み、議論・発表している。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大西泰斗、ポール・マクベイ	・ ハートで感じる英文法（決定版）	・ NHK出版	・ 2023 年

参考文献等

ISBN978-4-327-40119-1 長谷川瑞穂、脇山怜『英語総合研究（改訂版）』研究社 2017
ISBN4-8122-0018-0 大喜田喜夫『英語教員のための応用言語学』昭和堂 2016

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で連絡します。

場所： 初回授業で連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション－英語文法の種類** 授業の進め方や成績評価について説明する。 英語の文法知識はどのような性質で、どのような種類があるかについて学ぶ。	自身の英語文法の知識と日本語文法の知識を比較して、性質的にどのように違うか説明できるようにしておく。	4時間
第2回	**日英語の文法知識の性質（1）「XはYが...」構文** 日本語話者の「XはYが...」構文に関する知識を例にして、文法知識の性質とは何かについて学ぶ。	「象は鼻が長い」は適格で、「大阪は姉が病気だ」は不適格なのは何故か説明できるようにしておく。	4時間
第3回	**日英語の文法知識の性質（２）英語の受け身文** 英語話者の英語受け身文に関する文法知識の性質と種類について学ぶ。	英語受け身文の形・意味・機能（働き）について説明できるようにしておく。	4時間
第4回	**日英語の文法知識の性質（３）日本語の受け身文** 日本語話者の日本語受け身文に関する文法知識の性質と種類について学ぶ。	日本語受け身文の形・意味・機能（働き）について説明できるようにしておく。	4時間
第5回	**日英語の文法知識の性質（４）日英語のTough構文** 日英語話者の日英語Tough構文に関する文法知識の性質と種類について学ぶ。	Tough構文の形・意味・機能（働き）について説明できるようにしておく。	4時間
第6回	**コア・イメージ文法（１）過去形と現在完了形** コア・イメージ文法の観点から、過去形と現在完了形の機能的違いについて学ぶ。	テキストを読み、過去形と現在完了形のコア・イメージの違いについて説明できるようにしておく。	4時間
第7回	**コア・イメージ文法（２）過去形と丁寧表現** コア・イメージ文法の観点から、過去形と丁寧表現の機能的類似性について学ぶ。	テキストを読み、過去形と丁寧表現のコア・イメージの類似性について説明できるようにしておく。	4時間
第8回	**コア・イメージ文法（３）過去形と仮定法** コア・イメージ文法の観点から、過去形と仮定法の機能的類似性について学ぶ。	テキストを読み、過去形と仮定法のコア・イメージの類似性について説明できるようにしておく。	4時間
第9回	**コア・イメージ文法（４）冠詞と可算・不可算名詞** コア・イメージ文法の観点から、冠詞と可算・不可算名詞の機能について学ぶ。	テキストを読み、冠詞と可算・不可算名詞の機能について説明できるようにしておく。	4時間
第10回	**コア・イメージ文法（５）現在形と進行形** コア・イメージ文法の観点から、現在形と進行形の機能的違いについて学ぶ。	テキストを読み、現在形と進行形のコア・イメージの違いについて説明できるようにしておく。	4時間
第11回	**コア・イメージ文法（６）未来の表現** コア・イメージ文法の観点から、色々な未来表現の機能について学ぶ。	テキストを読み、未来表現のコア・メージについて説明できるようにしておく。	4時間
第12回	**コア・イメージ文法（７）助動詞** コア・イメージ文法の観点から、色々な助動詞の機能について学ぶ。	テキストを読み、色々な助動詞のコア・イメージについて説明できるようにしておく。	4時間
第13回	**コア・イメージ文法（８）不定詞** コア・イメージ文法の観点から、不定詞の機能について学ぶ。	テキストを読み、不定詞のコア・イメージについて説明できるようにしておく。	4時間
第14回	**文の形とコア・イメージ ― まとめ** 色々な文の形とコア・イメージについて学ぶ。	テキストを読み、色々な文形のコア・イメージについて説明できるようにしておく。	4時間

432

授業科目名	**英語文学史Ⅰ**				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、イギリス文学やアイルランド文学、およびアメリカ文学について学びながら、英語文学・文化の歴史や特性について基礎的な知識を身につける。それにより、英語文学・文化における文化的特性や時代思潮についても理解を深め、さらには現代において英語文学・文化を学ぶ意味についても考えていく。具体的には、各時代の著名な作家の作品（詩・演劇・小説）の一部を原文で読解する一方、翻訳や映像作品なども活用をし、できる限り多くの原作に触れ、英語文学における基礎的教養を養っていくことを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	イギリスやアメリカ等の文学における作家や作品について知識を養う	イギリスやアメリカ等の文学作品について、その時代思潮等に基づきながら、全体像を理解することができる
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各々の作家の作品について、文学史における位置づけを考慮しつつ、作品のもつ意味を考察することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション	20 %	:	作品や作家についての知識の正確性、およびそれらについての論点の明確さについて評定します。
課題	30 %	:	作品や作家についての知識の正確性と、作品のもつ意味合いについての理解度について評定します。
定期試験	50 %	:	時代思潮を含めた、通史的な作品や作家に関する理解度について評定します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『イギリス文学史入門』、川崎寿彦(著)、研究社出版、1986、ISBN 978-4-327-37501-0
『アメリカ文学史入門』、大橋吉之輔(著)、研究社出版、1987、ISBN 978-4-327-37502-7

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡します

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、イギリス文学（１）　概観（中世～小説の勃興）** 中世から小説の勃興までのイギリス文学を概観する。	全体のイギリス文学の流れについて調べ、ノートにまとめる	4時間
第２回	**イギリス文学（２）　中世** 中世に書かれた作品について学修する。	中世の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第３回	**イギリス文学（３）　イギリス・ルネサンス** イギリス・ルネサンスの作品について学修する。	イギリス・ルネサンスの作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第４回	**イギリス文学（４）　王政復古期** 王政復古期の作品について学修する。	王政復古期の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第５回	**イギリス文学（５）　新古典主義** 新古典主義の作品について学修する。	新古典主義の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第６回	**イギリス文学（６）　小説の勃興** 小説の勃興期の作品について学修する。	小説の勃興期の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第７回	**イギリス文学（７）　アイルランド文学** マライア・エッジワスの作品を中心に学修する。	マライア・エッジワス等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第８回	**アメリカ文学（１）　概観（植民地時代～ロスト・ジェネレーション）、植民地時代** 植民地時代からロスト・ジェネレーションまでのアメリカ文学を概観する。また、植民地時代の作品について学修する。	全体のアメリカ文学史の流れ、および植民地時代の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第９回	**アメリカ文学（２）　アメリカン・ルネッサンス①　ヘンリー・デイヴィッド・ソロー** ヘンリー・デイヴィッド・ソローの作品を中心に学修する。	ヘンリー・デイヴィッド・ソロー等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第１０回	**アメリカ文学（３）　アメリカン・ルネッサンス②　エドガー・アラン・ポー** エドガー・アラン・ポーの作品を中心に学修する。	エドガー・アラン・ポー等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第１１回	**アメリカ文学（４）　ロスト・ジェネレーション①　アーネスト・ヘミングウェイ** アーネスト・ヘミングウェイの作品を中心に学修する。	アーネスト・ヘミングウェイ等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第１２回	**発表準備** これまでの履修内容に基づき、作品を1つ選んで考察し、発表の構想作成と準備を行う。	これまでの学習を振り返りながら、発表の準備を行う	4時間
第１３回	**発表（１）　前半** 作品の考察に基づき、各自が発表を行う。	これまでの文学史の流れを復習する	4時間
第１４回	**発表（２）　後半** 作品の考察に基づき、各自が発表を行う。	これまでの文学史の流れを復習する	4時間

432

授業科目名	英語文学史Ⅱ				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、英語文学史Ⅰで学修した知識に基づき、より焦点を当ててイギリスやアメリカの文学史を形成する特徴的な作品について学びを深め、各作家や作品のその文化史上の位置づけおよび、文化的特性や思潮について理解を深めていく。さらには、20世紀以降の現代的な作品についても検討を行っていく。それにより、社会問題や時代背景に基づく諸課題を巡って、各作品が英語文学史上でどのように展開されてきているかについても考察し、より深い作品鑑賞に向けての土台を養っていくことをも目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	イギリスやアメリカ等の文学における作家や作品について知識を養う	イギリスやアメリカ等の文学作品について、その時代思潮等に基づきながら全体像を考察することができる
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各々の作家の作品について、文学史における位置づけを考慮しつつ、作品のもつ意味を考察することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
プレゼンテーション	20 %	:	作品や作家についての知識の正確性、およびそれらについての論点の明確さについて評定します。
課題	30 %	:	作品や作家についての知識の正確性と、作品のもつ意味合いについての理解度を評定します。
試験	50 %	:	時代思潮を含めた、通史的な作品と作家に関する理解度について評定します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『イギリス文学史入門』、川崎寿彦(著)、研究社出版、1986、ISBN 9784327375010
『アメリカ文学史入門』、大橋吉之輔(著)、研究社出版、1987、ISBN 9784327375027

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡します

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、イギリス文学（１）　概観（ロマン主義～第二次世界大戦後）** ロマン主義から第二次世界大戦後までのイギリス文学について概観する。	全体のイギリス文学史の流れを調べ、ノートにまとめる	4時間
第２回	**イギリス文学（２）　ロマン主義①　ウィリアム・ワーズワース** ウィリアム・ワーズワースの作品を中心に学修する。	ワーズワース等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第３回	**イギリス文学（３）　ロマン主義②　メアリー・シェリー** メアリー・シェリーの作品を中心に学修する。	シェリー等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第４回	**イギリス文学（４）　ヴィクトリア朝①　シャーロット・ブロンテ** シャーロット・ブロンテの作品を中心に学修する。	ブロンテ等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第５回	**イギリス文学（５）　ヴィクトリア朝②　ロバート・ルイス・スティーヴンソン** ロバート・ルイス・スティーヴンソンの作品を中心に学修する。	スティーヴンソン等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第６回	**イギリス文学（６）　モダニズム** モダニズムの作品について学修する。	モダニズムの作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第７回	**イギリス文学（７）　第二次世界大戦後** 第二次世界大戦後の作品について学修する。	第二次世界大戦後の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第８回	**アメリカ文学（１）　概観（ロスト・ジェネレーション～第二次世界大戦後）、ロスト・ジェネレーション②　ウィリアム・フォークナー** ロスト・ジェネレーションから第二次世界大戦後までのアメリカ文学について概観する。また、ウィリアム・フォークナーの作品を中心に学修する。	全体のアメリカ文学史の流れ、およびフォークナー等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第９回	**アメリカ文学（２）　1930年代** 1930年代の作品について学修する。	1930年代の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第１０回	**アメリカ文学（３）　第二次世界大戦後①　J・D・サリンジャー** J・D・サリンジャーの作品を中心に学修する。	サリンジャー等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる	4時間
第１１回	**アメリカ文学（４）　第二次世界大戦後②　トニ・モリスン** トニ・モリスンの作品を中心に学修する。	モリスン等の作品の特徴について調べ、ノートにまとめる。	4時間
第１２回	**発表準備** これまでの履修内容に基づき、作品を1つ選んで考察し、発表の構想作成と準備を行う。	これまでの学習を振り返りながら、発表の準備を行う	4時間
第１３回	**発表（１）　前半** 作品の考察に基づき、各自が発表を行う。	これまでの文学史の流れを復習する	4時間
第１４回	**発表（２）　後半** 作品の考察に基づき、各自が発表を行う。	これまでの文学史の流れを復習する	4時間

431

授業科目名	リーディングスキルズⅠ				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、語彙力を高めたり、また文章を読み取る力を向上させることによって、英語でリーディングを行う基礎力を身に付けることを目指す。各回では、身近なトピックに関する様々な英語の演習問題を行い、読解力を伸長していく。さらには、ペアやグループでリーディングのトピックに関する意見を交流する機会を設け、自分の意見を述べたり友人の意見を聴いたりする活動をも通して、総合的にリーディングの基礎となる英語力を培っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	語彙や表現、文構造を理解することができる	英文を正確に理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文で伝えられている情報や考えを理解するために、継続的な英語学習を行う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 語彙や表現、文の構造を理解し、文章の内容を正確に理解をすることができている
プレゼンテーション	20 %	： 語彙や表現、文の構造について理解し、文章に対する自分の考えを正確に伝えることができている
定期試験	50 %	： 学習をした語彙や表現、また文の構造の定着度、および文章の内容を正確に理解をすることができているかについて評定する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Casey Malarcher	・Reading Advantage 3, ISBN 9789815200034	・Cengage	・2012 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Unit 1 Spiders** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 1に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第2回	**Unit 2 The Sphinx** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 2に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**Unit 3 Blogging** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 3に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**Unit 4 Blockbuster Movies** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 4に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**Unit 5 The Tour de France** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 5に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**Review Units 1-5** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、復習をする リーディング課題を行う	Unit 1-5に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**Unit 6 Left-Handedness** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 6に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**Unit 7 Music and Dance** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 7に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**Unit 8 Body Language** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 8に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**Unit 9 Cosmetic Surgery** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 9に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**Unit 10 Natural Wonders** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 10に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**Review Units 6-10、発表準備** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、復習をする リーディング課題を行う 学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、リーディング課題に関する自分の考えをまとめる	Unit 6-10に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる。発表について準備を行う	1時間
第13回	**発表（1）前半**	これまで習った語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間

	リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う		
第14回	**発表（2）後半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間

431

授業科目名	リーディングスキルズⅡ				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、語彙力を高めたり、また文章を読み取る力を向上させることによって、英語でリーディングを行う基礎力を身に付けることを目指す。各回では、身近なトピックに関する様々な英語の演習問題を行い、読解力を伸長していく。さらには、ペアやグループでリーディングのトピックに関する意見を交流する機会を設け、自分の意見を述べたり友人の意見を聴いたりする活動をも通して、総合的にリーディングの基礎となる英語力を培っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	語彙や表現、文構造を理解することができる	英文を正確に理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文で伝えられている情報や考えを理解するために、継続的な英語学習を行う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 語彙や表現、文の構造を理解し、文章の内容を正確に理解をすることができている
プレゼンテーション	20 %	： 語彙や表現、文の構造について理解し、文章に対する自分の考えを伝えることができている
定期試験	50 %	： 学習をした語彙や表現、また文の構造の定着度、および文章の内容を正確に理解をすることができているかについて評定する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Casey Malarcher	・Reading Advantage 3, ISBN 9789815200034	・Cengage	・2012 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Unit 11 Delivering the Mail** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 11に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	4時間
第2回	**Unit 12 Motivating Students** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 12に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**Unit 13 Mystery Mansion** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 13に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**Unit 14 International Baseball** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 14に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**Unit 15 Strange Foods** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 15に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**Review Units 11-15** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、復習する リーディング課題を行う	Unit 11-15に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**Unit 16 A Special Station** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 16に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**Unit 17 Taekwondo** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 17に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**Unit 18 White Sands** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 18に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**Unit 19 Paper Products** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 19に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**Unit 20 Camouflage Art** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 20に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**Review Units 16-20、発表準備** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、復習する リーディング課題を行う 学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、リーディング課題に関する自分の考えをまとめる	Unit 16-20に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる。発表について準備を行う	1時間
第13回	**発表 (1) 前半**	これまで習った語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間

	リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う		
第14回	**発表（2）後半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間

431

授業科目名	パラグラフライティングⅠ				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、英語の文章構成の特性において重要となるパラグラフ構成について基本的な知識を修得する。その際には、毎回テーマを決め、身近なテーマにしたがってまとまった分量を書く活動を位置づけ、パラグラフライティングについて実践的に学んでいく。また、単に書くことだけではなく、テーマに即した、まとまった分量の英文を読み、自分自身の意見を整理した上で書くことが求められる。したがって、リーディングに基づいたライティングの活動を展開していく。さらに、書いた文章を協同して編集する機会を取り入れ、優れた構成や文章を書く力を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英作するために必要な基本的な語彙・語句、文法を理解し、要約や自分の意見を書く能力を身につけていく。	基本的な語彙・語句、文法を習得し、要約や自分の意見を書くことができる。

汎用的な力	
1. DP７.忠恕の心	Proactively solve problems while respecting the opinions of others.
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	Communicate and collaborate with others successfully while seeing things from their perspective.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 各単元で学習した、語彙や表現等について、適切に使用しているかについて評定します。
発表	20 %	： 各単元で学習した、語彙や表現等について、適切に使用しているか、および正確に内容を伝えられているかについて評定します。
Class participation	20 %	： Actively prepares/participates in discussion and group work. Engage in opinion exchange and debate. Active learning notetaking, summarizing, in-class paragraph writing, homework. Professors' rubric.
Critical thinking skills	10 %	： Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions. Assessed based on Professors' rubric.
Project-based learning presentation/debate		： Theme and evaluation standards based on class and instructor choice based on textbook topics.

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮田　学	・ 英語で書いてみよう(改定版)	・ 三修社	・ 2020　年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡します

場所：　初回授業で連絡します

備考・注意事項：　Please bring a notebook or loose leaf notepaper to every class. PC and cell-phone use is by teacher permission only. Tech use and sleeping in class is distracting. All students are expected to be fully engaged in the class experience. Human to human communication is the heart of education.

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、ユニット1 Self-Introduction(1) ライティング** 自己紹介に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	自己紹介に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第2回	**ユニット1 Self-Introduction(2) ライティングの振り返りと修正** 第1回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	自己紹介に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**ユニット2　My College(1) ライティング** 学校に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	学校に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**ユニット2 My College(2) ライティングの振り返りと修正** 第3回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	学校に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**ユニット３ Family and Hometown(1) ライティング** 身近な人や場所に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	身近な人や場所に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**ユニット３ Family and Hometown(2) ライティングの振り返りと修正** 第5回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	身近な人や場所に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**ユニット4 Pastimes and Hobbies(1) ライティング** 娯楽や趣味に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	娯楽や趣味に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**ユニット4 Pastimes and Hobbies(2) ライティングの振り返りと修正** 第7回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	娯楽や趣味に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**ユニット5 Weekends(1) ライティング** 週末に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	週末に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**ユニット5 Weekends(2)　ライティングの振り返りと修正** 第9回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	週末に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**ユニット6 Friends(1) ライティング** 友人に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	友人に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**ユニット6 Friends(2) ライティングの振り返りと修正** 第11回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	友人に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第13回	**発表の準備** これまでに学習した語彙や表現を使用して、ライティングを行う	発表の準備をする	1時間
第14回	**発表** 第13回で行ったライティングについて、発表を行う	これまで学習した語彙や表現を復習する	1時間

431

授業科目名	パラグラフライティングⅡ				
担当教員名	J・リング				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、パラグラフ・ライティングⅠを踏まえて、英語の文章構成の特性において重要となるパラグラフ構成について、より精錬した文章を書くための演習を行う。身近ではあるが一般的なテーマに即して、５段落程度のまとまった分量を書く活動を通して、パラグラフライティングについて実践的に学んでいく。その際には、テーマに即したまとまった分量の英文を読み、自分自身の意見を整理した上で書くことが求められる。さらに、書いた文章を協同して編集する機会を取り入れ、優れた構成や文章を書く力を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英作するために必要な基本的な語彙・語句、文法を理解し、要約や自分の意見を書く能力を身につけていく。	基本的な語彙・語句、文法を習得し、要約や自分の意見を書くことができる。

汎用的な力

1. DP７.忠恕の心	Proactively solve problems while respecting the opinions of others.
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	Communicate and collaborate with others successfully while seeing things from their perspective.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 各単元で学習した、語彙や表現等について、適切に使用しているかについて評定します。
発表	20 %	： 各単元で学習した、語彙や表現等について、適切に使用しているか、および正確に内容を伝えられているかについて評定します。
Class participation	20 %	： Actively prepares/participates in discussion and group work. Engage in opinion exchange and debate. Active learning notetaking, summarizing, in-class paragraph writing, homework. Professors' rubric.
Critical thinking skills	10 %	： Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions. Assessed based on Professors' rubric.
Project-based learning project		： Theme and evaluation standards based on class and instructor choice based on textbook topics.

20　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮田　学	・英語で書いてみよう(改定版)	・三修社	・2020　年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で連絡します

場所： 研究室

備考・注意事項： Please bring a notebook or loose leaf notepaper to every class. PC and cell-phone use is by teacher permission only. Tech use and sleeping in class is distracting. All students are expected to be fully engaged in the class experience. Human to human communication is the heart of education.

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、ユニット7 High School Days (1) ライティング** 高校生活に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	高校生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第2回	**ユニット7 High School Days (2) ライティングの振り返りと修正** 第1回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	高校生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**ユニット8 Education in Japan (1) ライティング** 教育に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	教育に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**ユニット8 Education in Japan (2) ライティングの振り返りと修正** 第3回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	教育に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**ユニット9 Love and Marriage (1) ライティング** 恋愛や結婚に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	恋愛や結婚に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**ユニット9 Love and Marriage (2) ライティングの振り返りと修正** 第5回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	恋愛や結婚に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**ユニット10 College Life (1) ライティング** 大学生活に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	大学生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**ユニット10 College Life (2) ライティングの振り返りと修正** 第7回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	大学生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**ユニット11 Family Life (1) ライティング** 家庭生活に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	家庭生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**ユニット11 Family Life (2) ライティングの振り返りと修正** 第9回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	家庭生活に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**ユニット12 Social Issues (1) ライティング** 社会的課題に関連する語彙や表現を学び、ライティングを行う	社会的課題に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**ユニット12 Social Issues (2) ライティングの振り返りと修正** 第11回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する. Presentation/Debate Preparation.	社会的課題に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第13回	**発表の準備** これまでに学習した語彙や表現を使用して、ライティングを行う. Presentation/Debate Preparation.	発表の準備をする	1時間
第14回	**発表** 第13回で行ったライティングについて、Presentation/debateを行う.	これまで学習した語彙や表現を復習する	1時間

431

授業科目名	リスニングスキルズⅠ				
担当教員名	小林英雄				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語母語話者にとって、英語の聴解力を身につけるためには、文法知識、語彙力を養いながら、英語を聞くことのみならず、ディクテーション活動をすることが有効である。これらの方法を駆使しながら、受講生が聞いて興味をもてるような題材を用いて、リスニングやディクテーションを行いながら英文を把握する。そのあと、内容について受講生同士で意見交換を行う。英語のクイズやロールプレイングなどを用いてリスニング力だけではなく、課題レポートの作成やクラス内での発表をとおして、自主的、自律的に英語を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際の英語を聞き取れるようになる。そのために、背景知識や英語文法力などを向上させて応用できるようになる。	英語の音声を聴いて、個々の英単語を書き取ることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		英語でコミュニケーションがとれるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

英語の会話文を単に聞き取れるようになることにとどまらず、その台詞を話す人物になりきって英語での会話を進める練習を行います。模倣からやがて通じる英語へと導くつもりですので、ペアやグループで行う発表のために練習してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記）	40 %	： 14回の授業で学んだ、学習事項の達成度を評価します。
小テスト	20 %	： 小テストは、授業で学習したまとまった範囲から出題します。学習した内容を理解しているかについて、評価します。
レポート課題	40 %	： 初回授業時に紹介する問について、レポートを作成する。期日を守り、レポート課題を提出する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米山明日香、Lindsay Wells	・Listening Steps［英語の音を鍛えるリスニング・ステップ～1語からパッセージへ～］	・金星堂	・2017 年

参考文献等

参考書等は、毎時間の授業の中で、受講生の必要に合わせて紹介する。また参考資料などは、受講生の英語力に合わせて、授業中に適時配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間以上の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時には、学習ノート、学習用辞書（英和・和英）を必ず持参して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業実施教室

備考・注意事項： 授業の前後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第１回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属（学籍番号を含む）を明記して下さい。

授業計画

	授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Unit 1: Travel（旅行）の前半 Step 1（発音: 二重母音[eɪ]）** 授業の受け方、小テスト、レポート課題、授業外学習活動のやり方などの説明 ※授業概要の説明を行います。履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。	予習内容：教科書を購入済みの場合は、教科書の最初のページから最後のページまで目を通し、教科書全体の構成を把握しておく。復習内容：授業で出てきた語彙や文法を覚えておくこと。第2回目～第14回目の授業時には、 教科書、学習用ノート、辞書（英和・和英）を必ず持参する。	1時間
第２回	**Unit 1: Travel（旅行）の前半 Steps 2-3（発音: 二重母音[eɪ]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 1のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。音声を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。	1時間
第３回	**Unit 1: Travel（旅行）の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 音の連結）** Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 1で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第４回	**Unit 2: College Life（大学生活）①の前半 Steps 1-3（発音: [r]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 2の音声を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。Step 2の内容を復習する。教科書の音声を活用して、Unit 2で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第５回	**Unit 2: College Life（大学生活）①の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 弱形）** 第１回小テストを行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容教科書の音声を活用して、Unit 2で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第６回	**Unit 3: Shopping（買い物）の前半 Steps 1-3（発音: [l]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 3のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、音声を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。	1時間
第７回	**Unit 3: Shopping（買い物）の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 強形）** Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 3で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第８回	**Unit 4: College Life（大学生活）②の前半 Steps 1-3（発音: [ʔ]）**	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 4のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。音声を視聴し、教科書の音声を活用して、Unit 4で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間

	Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。		
第９回	**Unit 4: College Life（大学生活）②の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 弱化①）** 次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：教科書の音声を活用して、Unit 4で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第１０回	**Unit 5: Hotel（ホテル）の前半　Steps 1-3（発音: [a]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容: Unit 5のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。音声を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。教科書の音声を活用して、Unit 5で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第１１回	**Unit 5: Hotel（ホテル）の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 弱化②―音の脱落―）** 第２回小テストを行う。Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：教科書の音声を活用して、Unit 5で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第１２回	**Unit 6: Train（電車）のSteps 1-5とロールプレイング（発音: [ʃ] / 音声: r音化）** Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 6のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。教科書の音声を活用して、Unit 6で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第１３回	**Unit 7: Restaurant（レストラン）のSteps 1-5とロールプレイング（発音: [f] [v] / 音声: 同じ音の連続）** Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：Unit 7のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。Step 2の内容を復習する。教科書の音声を活用して、Unit 7で学習したSteps 1-5の範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間
第１４回	**Units 1-7の総括と質疑応答、課題への総合評価** Units 1-7の学習範囲を復習する。ペアやグループになって、音読しながら前期に学んだ範囲を総復習し、発表する。	予習内容：定期試験対策の勉強として、教科書のUnits 1-7に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：教科書の音声を活用して、Units 1-7で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。	1時間

431

授業科目名	リスニングスキルズⅡ				
担当教員名	小林英雄				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

日本語母語話者にとって、英語の聴解力を身につけるためには、文法知識、語彙力を養いながら、英語を聞くことのみならず、ディクテーション活動をすることが有効である。これらの方法を駆使しながら、受講生が聞いて興味をもてるような題材を用いて、リスニングやディクテーションを行いながら英文を把握する。そのあと、内容について受講生同士で意見交換を行う。英語のクイズやロールプレイングなどを用いてリスニング力だけではなく、課題レポートの作成やクラス内での発表をとおして、自主的、自律的に英語を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際の英語を聞き取れるようになる。そのために、背景知識や英語文法力などを向上させて応用できるようになる。	英語の音声を聴いて、個々の英単語を書き取ることができるようになる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		英語でコミュニケーションがとれるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験（筆記）	40 %	： 14回の授業で学んだ、学習事項の達成度を評価します。
小テスト	20 %	： 小テストは、授業で学習したまとまった範囲から出題します。学習した内容を理解しているか（＝採点結果）について、評価します。
レポート課題	40 %	： 初回の授業時に、レポート課題の問いを紹介します。提出期日を守り、提出してください。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米山明日香、Lindsay Wells	・Listening Steps［英語の音を鍛えるリスニング・ステップ～1語からパッセージへ～］	・金星堂	・2017　年

参考文献等

参考書等は、毎時間の授業の中で、受講生の必要に合わせて紹介する。また参考資料などは、受講生の英語力に合わせて、授業中に適時配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間以上の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時には、学習ノート、学習用辞書（英和・和英）のを必ず持参して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業実施教室

備考・注意事項： 授業の前後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第１回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属（学籍番号を含む）を明記して下さい。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Unit 8: College Life（大学生活）③の前半　Steps 1（発音: [ʌ]）** 授業の受け方、小テスト、レポート課題、授業外学習活動のやり方などの説明 ※授業概要の説明を行います。履修希望者は必ず第１回目の授業に出席して下さい。	教科書pp. 53-54に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第2回	**Unit 8: College Life（大学生活）③の前半　Steps 2-3** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.55-57に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第3回	**Unit 8: College Life（大学生活）③の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: port とsport）** Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.57-58に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第4回	**Unit 9: Leisure（レジャー）の前半　Steps 1-3（発音: [ɜ:]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.59-61に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第5回	**Unit 9: Leisure（レジャー）の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 強勢（ストレス））** 第１回小テストを実施する。Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.62-64に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第6回	**Unit 10: Traffic（交通）の前半　Steps 1-3（発音: [tʃ/dʒ]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.65-67に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第7回	**Unit 10: Traffic（交通）　の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: rain とtrain）** Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.68-69に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第8回	**Unit 11：Business（ビジネス）①の前半　Steps 1-3（発音: [θ][d]）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.71-73に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第9回	**Unit 11: Business（ビジネス）①の後半　Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 語頭と語末の/b/ /d/ /g/）** Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.74-75に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第10回	**Unit 12: Clinic（クリニック）の前半 Steps 1-3** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.77-79に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第11回	**Unit 12: Clinic（クリニック）の後半 Steps 4-5** 第２回小テストを行う。Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。	教科書のpp.80-81に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第12回	**Unit 13: Business（ビジネス）②の前半Steps 1-3（発音: [ɪ, i, i:][ʊ, u, u:] / 音声: リズム）** Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。	教科書のpp.83-85に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間
第13回	**Unit 13: Business（ビジネス）②の後半Steps 1-3（発音: [ɪ, i, i:][ʊ, u, u:] / 音声: リズム）** Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。	教科書のpp.86-87に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。	1時間

第14回	**後期の総まとめ** 後期に学んだ範囲を総復習し、ディクテーションや発表を行う。	後期の学習内容を復習して、疑問点をまとめておく。	1時間

431

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、コミュニケーションとは何かを考え、コミュニケーションのモデルを学びながら、意思伝達に用いられる要素や手段について学びます。また、よくあるスピーキングテストの形式に慣れ効果的なスピーチができるようになること、また、与えられたテーマで、自分の考えを英語スピーチができるようになることを目指し、スピーキング演習を行います。講義の前半は、様々なスピーキングテストに取り組み、課題に合わせてスピーチの内容を構成することを学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	コミュニケーションについて学び、英語でコミュニケーションをとるために重要なことについて考える。また、演習を通して実践力も身につける。	英語でのコミュニケーション能力を養成する。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加	10 %	： ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己およびピアチェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の10%として算入する。
宿題等の課題	20 %	： 授業の準備として出される課題を、期日までに提出できていること、また、内容について教員がA,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の20%として算入する。遅れて提出された課題は評価対象としない。
中間発表	30 %	： 前半の授業（第６回目まで）の内容の理解度について、第７回目に中間発表を行う。ルーブリックを使用し30点満点の評価を行い、最終評価に算入する。

スピーキングテスト課題	:	各課題ごとスピーチ課題についてA,B,Cの３段階で評価し、全ての課題の評価を合計し最終評価に30点を算入します。
30 ％		
最終レポート	:	ルーブリックを使用し10点満点の評価を行い、最終評価に算入する。
10 ％		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、授業外の学修課題のうち、指定されたものについては英語教育センターでの指導を受けながら行うこと。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　最初の授業で告知

場所：　個人研究室

備考・注意事項：　メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、評価等の確認）　グリープディスカッション** ・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 ・グループワーク１:Rules of the class! ・グループワーク2：What is communication?	リーディング課題と要約	1時間
第2回	**コミュニケーションとは：定義とモデル、バーバル、ノンバーバルメッセージ** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第3回	**意図されたメッセージと意図されていないメッセージの伝達** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第4回	**文脈におけるメッセージ** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第5回	**コミュニケーションスタイルと文化** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第6回	**言語教育におけるコミュニケーション活動** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク） ・中間発表の課題についての解説	中間発表の準備	1時間
第7回	**中間発表、まとめ** ・事前準備:発表グループの設定、実施方法、評価方法（ルーブリック）の確認 ・発表：ここまでの授業の内容をもとに、授業で与える課題から１つ選んで各自15分で発表する。課題は第６回の授業で指定し、発表方法についても解説する。発表は、少人数のグループ内で行い、発表者以外は与えられたルーブリックを用いてピアチェックを行う。 ・ふりかえり	中間発表の録画を提出	1時間
第8回	**スピーキングテスト課題：音読** ・主要なスピーキングテストについての紹介と説明 ・スピーチ課題（効果的にメッセージを伝えるための音読について考える）	スピーキングテスト課題（音読）録音提出	1時間
第9回	**スピーキングテスト課題：描写（１）：風景、状況の描写**	スピーキングテスト課題（風景、状況描写）録音提出	1時間

	・授業前課題について発表とピアチェック（ペア、グループワーク） ・スピーチ課題（人物や状況を描写する：効果的な描写法、表現法について学ぶ）		
第10回	**スピーキングテスト課題：描写（２）：人物、状況の描写** ・授業前課題について発表とピアチェック（ペア、グループワーク） ・スピーキングテスト課題（人物や状況を描写する：効果的な描写法、表現法について学ぶ）	スピーキングテスト課題（人物、状況描写）録音提出	1時間
第11回	**スピーキングテスト課題：応答（１）：インタビューの答え方** ・授業前課題について発表とピアチェック（ペア、グループワーク） ・スピーキングテスト課題（インタビューの意図を理解し的確に回答する方法についての演習）	スピーキングテスト課題（インタビューの答え方）録音提出	1時間
第12回	**スピーキングテスト課題：応答（2）：インタビューとその報告** ・授業前課題について発表とピアチェック（ペア、グループワーク） ・スピーキングテスト課題（知りたいこと聞き取り、まとめて報告する方法についての演習）	スピーキングテスト課題（インタビューの報告）録音提出	1時間
第13回	**スピーキングテスト課題：説明（１）：イベントの説明** ・授業前課題について発表とピアチェック（ペア、グループワーク） ・スピーキングテスト課題（イベントの説明：効果的な広報の仕方についての演習）	スピーキングテスト課題（イベントの説明）録音提出	1時間
第14回	**まとめ、最終発表** ・英語コミュニケーションを教える上で重要なことについてのまとめて発表	最終発表の録画提出、最終レポート	0時間

431

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ				
担当教員名	Ｇ・ウイリアムス				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、英語劇を通じて実践的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とします。演技を通じて英語の会話表現や発音、リスニングスキルを実践的に学びます。授業では、グループごとに短い劇のシナリオを熟読しながら、話者の意図を理解し、その意図を伝えるための発音の演習、ノンバーバルコミュニケーションツールを効果的に用いる演習などを通し、実際の英語でのコミュニケーションの場面での実践力を身につけます。学生は発表前にフィードバックを受けながら、他の学生と協力してスキルを高め、最終的には人前で劇を上演します。英語劇を用いた英語教授法を体験することで、英語の自らが実践的な使い方を楽しみながら学び、言語運用能力を強化することに加え、英語教員としてこのアプローチを効果的に使えるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	自分の意見や考えをまとめて英語で伝えられる能力を養成する。	英語でのコミュニケーション能力を養成する。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加	10 %	： ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己チェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の10%として算入する。
発表（Non-verbal communication）	20 %	： 発表に向けての準備課題の提出状況と取り組み、および発表について、ルーブリックを用いて、20点満点で評価する。
発表（One minute scene）		： 発表に向けての準備課題の提出状況と取り組み、および発表について、ルーブリックを用いて、20点満点で評価する。

20 %

最終発表(Angel) : 発表に向けての準備課題の提出状況と取り組み、および発表について、ルーブリックを用いて、30点満点で評価する。

40 %

最終レポート : 英語ドラマの効果についての理解しているかどうかを、ルーブリックを用いて10点満点で評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction. Course outline. Non-verbal communication ・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・Non-verbalコミュニケーションとは：ペアワークをとおしてNon-verbalコミュニケーションとは何かを考える。	Non-verbalコミュニケーションについての課題	1時間
第2回	Non-verbal communication communication in context. Eye contact. Proximity. Mimic. ・Non-verbalコミュニケーションの実践 異なる文脈におけるNon-verbalコミュニケーションツールの用い方について考え、ペア、グループで演習行う。	Non-verbalコミュニケーションの演習課題	1時間
第3回	Development of a scene ・Non-verbalコミュニケーションを使うシナリオ作成 Non-verbalコミュニケーションを行う場面を設定し、寸劇のシナリオを作成する。	シナリオの完成と練習	1時間
第4回	Scene presentation: Non-verbal communication (Assessment skills) ・Non-verbalコミュニケーション自作シナリオの発表１：評価基準 ペア、またはグループで自作したNon-verbalコミュニケーションを用いる場面のシナリオを演じ、教員および学生同士の評価を行い、評価する際の基準について考えることで、理解を深める。	シナリオの修正と練習	1時間
第5回	Scene presentation: Non-verbal communication (Presentation of revised work) ・Non-verbalコミュニケーショ自作シナリオの発表２：修正した劇の発表 前回の授業での評価に基づき、加筆修正した劇を発表する。 ・One minute scene課題の導入 映画やドラマのシーンから1分を切り取り発表する課題について説明し、準備を始める。	One minute scene課題	1時間
第6回	Scene presentation: One minute Scene (Presentation & Assessment skills) ・One minute sceneの発表と評価 ペア、またはグループで自作したOne minute sceneを演じ、教員および学生同士の評価を行い、評価する際の基準について考えることで、理解を深める。	ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part1）	1時間
第7回	ドラマ発表準備：スクリプト理解（Part1） ・最終発表についての説明 ・Angelのスクリプトの理解(Part1部分) ドラマのスクリプトのPart1部分について宿題で理解している内容を発表し、クラス全体で理解を深める。場面状況、話者の意図を理解した上で、どのうように演じるべきかを考える。	ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part2）	1時間
第8回	ドラマ発表準備：スクリプト理解（Part2） ・Angelのスクリプトの理解(Part2部分) ドラマのスクリプトのPart1部分について宿題で理解している内容を発表し、クラス全体で理解を深める。場面状況、話者の意図を理解した上で、どのうように演じるべきかを考える。	ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part3）	1時間
第9回	ドラマ発表準備：スクリプト理解（Part3）	ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part4）	1時間

	・Angelのスクリプトの理解(Part3部分) ドラマのスクリプトのPart1部分について宿題で理解している内容を発表し、クラス全体で理解を深める。場面状況、話者の意図を理解した上で、どのように演じるべきかを考える。		
第10回	**ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part4）** ・Angelのスクリプトの理解(Part4部分) ドラマのスクリプトのPart1部分について宿題で理解している内容を発表し、クラス全体で理解を深める。場面状況、話者の意図を理解した上で、どのように演じるべきかを考える。	ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part5）	1時間
第11回	**ドラマ課題(Angel)のスクリプト熟読（Part5）** ・Angelのスクリプトの理解(Part5部分) ドラマのスクリプトのPart1部分について宿題で理解している内容を発表し、クラス全体で理解を深める。場面状況、話者の意図を理解した上で、どのように演じるべきかを考える。	発表準備	1時間
第12回	**発表（前半グループ）** ・ドラマ発表 ペアまたはグループでドラマの実演する。教員および学生同士の評価を行い、評価する際の基準について考えることで、理解を深める。	発表準備	1時間
第13回	**発表（後半グループ）** ・ドラマ発表 ペアまたはグループでドラマの実演する。教員および学生同士の評価を行い、評価する際の基準について考えることで、理解を深める。	発表準備	1時間
第14回	**ふりかえりとまとめ** ・ドラマを用いた英語学習でどのような効果があるかについてのディスカッションを行い、授業で学んだことを振り返る。	最終レポートの作成	1時間

432

授業科目名	英語プレゼンテーションⅠ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、論理的なスピーチができるようになること、また、与えられたテーマで、自分の考えを英語スピーチができるようになることを目指し、スピーキング演習を行います。講義の前半は、与えられたトピックに対して即興でおこなう1-2分程度の短いスピーチの演習を行います。。後半では、与えられたテーマについて、まとまりのある4-5分程度のスピーチの作成に取り組みます。与えられてテーマでその背景をまとめた上で、自分の考えをその根拠を提示しながら、論旨のまとまった聞き手を納得させられるスピーチができるようになることを目指します。また、効果的なスピーチデリバリーについても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語でのスピーチや、ディベートを通して、聞き手を納得させられる力を身につけます。	英語での発信力を身につける。

汎用的な力	
1. DP７.忠恕の心	授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
宿題等の課題	20 %	： 授業の準備として出される課題を、期日までに提出できていること、また、内容について教員がA,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の20%として算入します。遅れて提出された課題は評価対象としません。
即興スピーキング課題	30 %	： 各課題ごとスピーチ課題についてA,B,Cの３段階で評価し、全ての課題の評価を合計し最終評価に30点を算入します。
スピーチプレゼンテーション課題	30 %	： 事前に提示するルーブリックを使用し30点満点の評価を行い、最終評価に算入します。
最終レポート	20 %	： ルーブリックを使用し20点満点の評価を行い、最終評価に算入します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 個人研究室

備考・注意事項： メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、評価等の確認）** シラバスの確認、授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 （授業目的、授業計画、課題、音声教材等の配信方法の確認、評価方法等の確認、スピーキングテスト課題やプレゼンテーションの概要の確認） 宿題：Self-choice speechの説明	Self-choice speech課題	1時間
第2回	**スピーキングテスト課題：Paired Choice Question(Topic 1)：全体構成（導入、展開、結論）** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（スピーチの構成について学ぶ）	Self-choice speech課題、スキーキングテスト課題録音提出	1時間
第3回	**スピーキングテスト課題：Paired Choice Question(Topic 2)：選択とその理由** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（選択とその理由を論理的にまとめて話す練習）	スピーチ導入部分作成	1時間
第4回	**スピーキングテスト課題：Paired Choice Question(Topic 3)：反対意見（問題点）への対応** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（反対意見（問題点）への対応をまとめて話す練習）	Self-choice speech課題、スキーキングテスト課題録音提出	1時間
第5回	**スピーキングテスト課題：Free Choice Question(Topic 1)：全体構成（導入、展開、結論）** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（スピーチの効果的な構成について学ぶ）	Self-choice speech課題、スキーキングテスト課題録音提出	1時間
第6回	**スピーキングテスト課題：Free Choice Question(Topic 2)：意見とその理由** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（自分の意見とその理由を論理的にまとめて話す練習）	Self-choice speech課題、スキーキングテスト課題録音提出	1時間
第7回	**スピーキングテスト課題：Free Choice Question(Topic 3)：展開と結論** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーキングテスト課題（自分の意見を一般論に展開し、結論に導く話す練習）	Self-choice speech課題、スキーキングテスト課題録音提出	1時間
第8回	**スピーチプレゼンテーション：テーマとその背景（1）情報収集と整理** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題の到達目標および最終課題（発表、レポート）の確認 ・スピーチプレゼンテーション課題：テーマの設定と背景についての調査とまとめ	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題提出	1時間
第9回	**スピーチプレゼンテーション：テーマとその背景（2）まとめと英文作成** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題：テーマの設定と背景についての調査とまとめについてのスピーチの導入部分を完成させる。発表スライドを作成する。	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題録画（テーマの背景）提出	1時間
第10回	**スピーチプレゼンテーション：意見と理由（1）構成を考えアイディアをまとめる** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題：テーマに関する自分の意見（2つ）とその根拠についてまとめスピーチのフレームワークを作る。	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題提出	1時間
第11回	**スピーチプレゼンテーション：意見と理由（2）意見①とその根拠を英文にまとめる**	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題録画(意見①）提出	1時間

	・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題：テーマに関する自分の意見とその根拠についてまとめた内容を英文にする。発表スライドを作成する。		
第12回	**スピーチプレゼンテーション：意見と理由（3）意見②とその根拠を英文にとめる** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題：テーマに関する自分の意見とその根拠についてまとめた内容を英文にする。発表スライドを作成する。	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題録画(意見②）提出	1時間
第13回	**スピーチプレゼンテーション：結論** ・Self-choice speech課題のピアチェック ・スピーチプレゼンテーション課題：結論部分をまとめ英文にする。発表スライドを作成する。	Self-choice speech課題、スピーチプレゼンテーション課題録画(結論）提出	1時間
第14回	**スピーチプレゼンテーション：発表** スピーチプレゼンテーションの実施。	最終レポート（スピーチプレゼンテーション課題の振り返り）	1時間

432

授業科目名	英語プレゼンテーションⅡ				
担当教員名	Ｇ・ウイリアムス				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、英語でのディベートを通じて、論理的思考力、表現力、リスニング力を総合的に向上させることを目的とします。学生は、賛成・反対の立場に分かれて特定のトピックについて議論し、根拠に基づいた意見を述べる練習を行います。
授業では、提示されたトピックについて、資料を集め、論拠を整理して発表する練習を行います。ディベート実践では、立場を決められた上で、スピーチと反論を行い、質疑応答を通じて論理的に相手を納得させる話した方の練習を行います。教員や同級生からのフィードバックをもとに、自身の主張や表現を改善しながら、英語でのコミュニケーション能力の向上に加え、多様な視点を理解し、批判的思考を養うことを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語で論理的にまとまりのある内容をまとめプレゼンテーションできる力を身につける。	英語でのプレゼンテーション力を身につける。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	10 %	： 授業内でのディスカッションに積極的な参加について、毎回の参加度をABCの３段階で評価し、その累積を最終評価の10%として参入します。
中間発表(Mini debate)	40 %	： 中間発表に向けての事前準備課題および発表の内容や取り組みにうちて、A,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の40%として算入します。遅れて提出された課題は評価対象としません。
最終発表 (Debate)	40 %	： 最終発表に向けての事前準備課題および発表の内容や取り組みにうちて、A,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の40%として算入します。遅れて提出された課題は評価対象としません。
期末レポート	10 %	： 振り返りレポートをもとにDebateの学習効果についての理解を10点満点の評価を行い、最終評価に算入します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：Course Orientation** ・オリエンテーション Course Outline (授業目的、授業計画、課題、評価方法等の確認) ・What is debate? What are benefits of using debate for English lessons? Debateの実例を見ながら、Debateの構成を理解し、Debateにはどのような準備が求められるのか、どのような力がつくのかについて考える。	Debateについて小レポートにまとめる	1時間
第2回	**英語で意見を述べる：Stating opinions** ・与えられたトピックについて意見を述べる Stating Opinions 根拠を示しながら、英語で自分の意見を述べる練習。	授業で考えた意見を口頭発表できるように練習する。	1時間
第3回	**賛成・反対意見の表明の仕方：Agreement and Disagreement** ・宿題で練習してきた意見の発表 Homework presentation ・賛成・反対意見の表明の仕方 Staging agreement and disagreement 理由を示しながら、賛成、反対意見を表明する練習をする。	宿題として与えられたテーマに対し、賛成・反対の両方の立場で意見を書いてみる	1時間
第4回	**情報収集:Collecting information & data** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・情報収集 collecting information & data 与えられたトピックについて、信頼できる情報ソースから、関連のある情報を収集し、まとめる。	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間
第5回	**論理的な主張の組み立て:Developing a logical statement** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・論理的な主張の組み立て、Developing a logical statement 与えられたトピックについて、集めた情報をもとに、相手を納得させられ雨ように、自分の意見を論理的にまとめる練習をする。	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間
第6回	**相手の意見に対する反論: Counter arguments** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・相手の意見に対する反論: Counter arguments 相手の意見に対して、反論できるポイントを見つけ、反論の根拠を示しながら反論する練習をする。	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間
第7回	**相手の反論への対応: Responding to counter arguments** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・相手の反論への対応: Responding to counter arguments 相手の反論に対して回答しながら、自分の主張を擁護する練習をする。	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間
第8回	**中間発表：Mini debate** ・中間発表：Mini debate ここまでの授業で準備してきた内容をもとに、Mini debateを行う。 発表の後には、教員およびクラスメートからの講評を行い、良かった点や改善すべき点を確認する。	1回目のディベートの振り返り小レポート(第9回目で提出)	1時間
第9回	**最終発表の準備１（トピック設定と背景リサーチ）:Preparation for a debate(Topic setting and background research)** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・最終発表のトピック設定と背景リサーチ:Preparation for a debate(Topic setting and background research) 最終発表のディベートのトピックを決め、そのトピックの背景にある背景をまとめる。	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間
第10回	**最終発表の準備2（賛否の表明と論理的な根拠）:Preparation for a debate(Stating agreement/disagreement with supporting data, info, logic)**	授業でまとめた内容を口頭発表できるよう練習する。	1時間

	・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・賛否の表明と論理的な根拠:Preparation for a debate(Stating agreement/disagreement with supporting data, info, logic) その根拠となるデータや情報、理論などを示しながら、賛否の立場を表明する内容をまとめる。		
第11回	**最終発表の準備3（反論への準備）:Preparation for counter arguments** ・宿題で練習した内容を発表する。Homework presentation ・反論への準備:Preparation for counter arguments 相手側が反論する可能性のあるポイントを考え、その回答のために必要なデータ、情報、理論をまとめる。	最終発表のための練習	1時間
第12回	**最終発表（前半グループ）** ・最終発表：Debate （Group 1） ここまでの授業で準備してきた内容をもとにDebateを行う。 発表の後には、教員およびクラスメートからの講評を行い、良かった点や改善すべき点を確認する。	ポスター（またはスライド）の最終調整	1時間
第13回	**最終発表のための練習** ・最終発表：Debate （Group ２） ここまでの授業で準備してきた内容をもとにDebateを行う。 発表の後には、教員およびクラスメートからの講評を行い、良かった点や改善すべき点を確認する。	Debateのふりかえり（Debateで学んだことを次の授業で口頭発表できるように準備しておく）	1時間
第14回	**振り返り** Debateを通して学んだこと、Debateが英語教育にどのように役立つかについてのディスカッションを行う。	振り返りレポート	1時間

432

授業科目名	異文化理解				
担当教員名	末岡加奈子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、英文教科書を用いて具体的事例を取り上げながら、歴史が文化や現代社会とどのように密接に関わっているのかを学ぶ。英語が使用されている国・地域の事例を中心としつつも、地球規模での様々な事例に幅広く視野を拡げ、文化の多様性の理解に努める。
その上で、グローバル化した現代社会における様々な異文化の理解に繋がるような実践的なワークやディスカッションを行ない、多文化共生社会を担う一員としての異文化コミュニケーションの行動・実践に資する資質・能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英文読解を通して現代の文化理論や異文化に触れ、歴史と言語・文化が密接に関わっていることを理解する。	学問的に「文化」を理解し、多文化共生社会における異文化間コミュニケーションの意義や困難を理解することができる。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	英語の読解力を向上させることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	英語による思考力、コミュニケーション力を向上させることができる。
3. DP６.新しい教育課題に対応するセンス	多様な社会文化的背景を有する異質な他者との、異文化間コミュニケーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50 %	： 講義内容や教科書の英文の理解度を50点満点で評価します。
授業の課題提出	20 %	： 提出された課題を20点満点で評価します。
授業への参加度	15 %	： 授業中のディスカッション等での積極的な発言および参加度を15点満点で評価します。
小テスト	15 %	： 毎授業時に行う単語・熟語の小テストを15点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松井夏津紀、飯田泰弘ほか	・ 世界の衝撃アイテムから学ぶ15の国の文化と人々 (Guess What?! - Intercultural Surprises-)	・ 南雲堂	・ 2021 年

参考文献等

授業中に、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業で扱う教科書の英文の内容を辞書をこまめに引いて理解に努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 初回授業で指示します

備考・注意事項： 質問等はメールにより受け付けます。メールアドレスは授業中に別途指示します。
質問に対する回答は、必要に応じて他の受講生にも共有する場合があります。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「文化」についての考察** オリエンテーション：授業の進め方について説明する。 「文化」とは何かについて考察し、「異文化」を有する他者と共生する上での意義や課題について、グループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 1」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第2回	**教科書「Unit 1 (Canada: Natural Beauty Abounds) 」からの考察** 教科書「Unit 1 (Canada: Natural Beauty Abounds) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 2」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第3回	**教科書「Unit 2 (Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize) 」からの考察** 教科書「Unit 2 (Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 4」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第4回	**教科書「Unit 4 (Turkey: Finish Up Your Coffee) 」からの考察** 教科書「Unit 4 (Turkey: Finish Up Your Coffee) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 5」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第5回	**教科書「Unit 5 (Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans) 」からの考察** 教科書「Unit 5 (Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 6」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第6回	**教科書「Unit 6 (Israel: A Land of Tradition and Technology) 」からの考察** 教科書「Unit 6 (Israel: A Land of Tradition and Technology) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 7」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第7回	**教科書「Unit 7 (South Africa: The Country with 11 Different Names) 」からの考察**	次回までに教科書「Unit 8」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間

	教科書「Unit 7 (South Africa: The Country with 11 Different Names) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。		
第8回	**教科書「Unit 8 (The United States: A Nation on the Road) 」からの考察** 教科書「Unit 8 (The United States: A Nation on the Road) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 9」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第9回	**教科書「Unit 9 (France: A Place of Little Waste) 」からの考察** 教科書「Unit 9 (France: A Place of Little Waste) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 11」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第10回	**教科書「Unit 11 (New Zealand: Where Native Culture Thrives) 」からの考察** 教科書「Unit 11 (New Zealand: Where Native Culture Thrives) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 12」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第11回	**教科書「Unit 12 (South Korea: The Crossroads of Food, Culture, and Tradition) 」からの考察** 教科書「Unit 12 (South Korea: The Crossroads of Food, Culture, and Tradition) 」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 13」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第12回	**教科書「Unit 13 (Niger: Friendly Faces in a Dry Land)」からの考察** 教科書「Unit 13 (Niger: Friendly Faces in a Dry Land)」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	次回までに教科書「Unit 14」の単語・熟語を予習し、本文を熟読しておく。単元で取り上げられている国・地域について事前学習しておく。また、各自の担当課題に取り組むこと。	4時間
第13回	**教科書「Unit 14 (Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers)」からの考察** 教科書「Unit 14 (Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers)」について、本文の内容に基づいて質疑応答を行い、歴史的・文化的背景を理解する。 単元で取り上げられた地域についてより深く学び、講義のテーマについてグループまたは全員で議論を行う。	これまでの学習内容について復習を行い、疑問点や不明点を整理した上で次回の授業に臨むこと。	4時間
第14回	**まとめと振り返り** これまでの講義内容を振り返り、総括を行なう。	これまでの授業で扱った講義内容を復習し、定期試験に備える。	4時間

432

授業科目名	**陸上競技Ⅱ**				
担当教員名	**濱口幹太**				
学年・コース等	2年・保健体育コース	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

走・跳・投はすべてのスポーツの基本である。本講義では、学校体育で取り扱う陸上競技種目について学習することを目的とする。特に、①各種目の特性と「こつ」を理解する。②各種目の正しい基本動作を習得し技能を向上させる。③「陸上競技：短距離とリレー」、「陸上競技：ハードル走」、「陸上競技：走り幅跳び」、「陸上競技：走り高跳び」」、「陸上競技：砲丸投げ」のルールを理解する。④各種目の測定方法と安全管理および「つまづき」を見抜くための観察眼を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各種目の特性・こつを理解し自身の動作に反映させることができる。	基本動作を、運動学的知見から理解し説明できる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		他者の基本動作を観察し、「動きのつまづき」に関して課題解決できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
各種目の技能習得状況	60 %	:	1年次の陸上競技で測定した記録と比較し、技術習得状況を評価する。
学修レポート	30 %	:	指定された形式で期日内に提出すること。テーマに沿った内容であるか評価する。
時間外学習レポート	10 %	:	指定された形式で期日内に提出すること。テーマに沿った内容であるか評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房 2017年
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房 2018年
その他は、授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

陸上競技は、中学・高校体育、教育実習および教員採用試験実技種目としても実践されることが多い種目です。本講義では、1年前期履修された陸上競技を深めることを目的とします。特に、自身の技能向上は記録向上のみならず、立案された指導案を指導者として具体化し実践する際に必ず必要な力の習得をめざします。また、陸上競技の経験が少ない人や苦手意識のある人ほど受講することを進めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問などの対応については初回授業時に伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本講義の目的と評価基準およびオリエンテーション** ①学校体育の意義と課題について ②体育実技の特性と必要な技能と知識について ③科学的根拠を基にした体育授業の検証について	「運動の意義と効果」についてまとめる	4時間
第2回	**陸上競技各種目の特性と「こつ」について解説** 次の5種目について、特性、「こつ」、ルールについてを理解する。 ①短距離走、リレー ②ハードル走 ③走り幅跳び ④走り高跳び ⑤砲丸投げ	担当種目の特性と「こつ」をまとめる	4時間
第3回	**走動作の基本（1）短距離走** 短距離走における、 ①効果的な脚・腕の基本動作を習得する ②クラウチングスタート技能の習得 ③スタートダッシュと中間疾走 に関する技能を習得する。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第4回	**走動作の基本（2）リレー** リレーにおける、有効なバトンパスの技能を習得する	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第5回	**走動作の基本（3）50mハードル走Ⅰ** ハードル走における、踏切の技能を習得する。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第6回	**走動作の基本（4）50mハードル走Ⅱ** ハードル走における、振り上げ脚、抜き脚、デイップについて技能を習得する。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第7回	**跳動作の基本（1）走り幅跳びⅠ** 走り幅跳びにおける、助走と踏切の技能を習得する	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第8回	**跳動作の基本（2）走り幅跳びⅡ** 走り幅跳びにおける、空中動作（そり跳び）と着地の技能を習得する	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第9回	**跳動作の基本（3）走り高跳びⅠ** 走り高跳びにおける（はさみ跳び・ベリーロール）、助走と踏切の技能を習得する。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第10回	**跳動作の基本（4）走り高跳びⅡ** 走り高跳びにおける（はさみ跳び・ベリーロール）、空中姿勢と着地の技能を習得する。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第11回	**各種目の記録測定方法と安全指導** 各種目の記録測定方法と安全指導について解説する。 記録会の説明	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第12回	**記録会Ⅰ** 50m走と走り幅跳びの記録収集	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第13回	**記録会Ⅱ** 50mハードル走と砲丸投げの記録収集	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第14回	**授業総括** 1年次の自身の記録を基に、課題と要因および解決策を提案 質疑応答	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間

432

授業科目名	**器械運動Ⅱ**				
担当教員名	樋口和真				
学年・コース等	2年・保健体育コース	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校・高等学校で器械運動の授業の経験有				

授業概要

中学校・高等学校の学習指導要領に示されている器械運動の技について、その指導法について理解する。マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動・平均台運動において、実技の再習得を通して、段階的な練習についてより理解を深める。また、各技における効果的な指導方法・示範の仕方・幇助法について理解する。グループごとに模擬授業を行い、体育授業の実践に必要な、安全管理能力・技術指導力・マネジメント能力といった運動指導力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	器械運動の指導法について理解し、実践する	中学校及び高等学校学習指導要領に例示された技について、体育授業を行うことができる
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者の運動感覚に共感することできる
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		発展技を習得し、技を高い完成度で実施できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業への取組み	50 %	： 授業内で模擬授業を実施する。その事前準備や実際の取組みなどから評価する
運動課題の習熟度	20 %	： 授業内で出す運動課題の達成度から評価する
授業への参加度	30 %	： 出席の回数、授業内での積極性などから評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

三木四郎著　『器械運動の動感指導と運動学』　明和出版　2015(ISBN:490193337X)

履修上の注意・備考・メッセージ

健康状態を良好に保つよう努めてください。
器械運動Ⅰの発展として、技を指導することについて学びます。「技ができる」だけでなく、「できない人の感覚」について理解を深め「どうすればできるようになるのか」を考えていきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に質問に応じます。

場所： 授業場所

備考・注意事項： 実技を伴うので運動に適した服装などの準備をすること。
装飾品は外すこと。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** オリエンテーション（授業の進め方） グループ分け 非日常的な運動の理解　3点倒立・倒立	器械運動の授業で行った内容について復習しておくこと	2時間
第2回	**マット運動の復習、段階練習および指導方法の学習（1）** 前転系の技の復習と段階練習　倒立前転・伸膝前転	前転系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第3回	**マット運動の復習、段階練習および指導方法の学習（2）** 後転系の技の復習と段階練習　伸膝後転・後転倒立 側方回転系の技の復習と段階練習　側方倒立回転・ロンダート	後転系の技及び側方回転系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第4回	**マット運動の復習、段階練習および指導方法の学習（3）** 倒立回転系の技の復習と段階練習　ヘッドスプリング・ハンドスプリング	倒立回転系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第5回	**跳び箱の復習、段階練習および指導方法の学習（1）** 切り返し系の技の復習と段階練習　開脚跳び・かかえ込み跳び	切り返し系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第6回	**跳び箱の復習、段階練習および指導方法の学習（2）** 回転系の技の復習と段階練習　台上前転・ヘッドスプリング・ハンドスプリング	回転系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第7回	**鉄棒運動の復習、段階練習および指導方法の学習（1）** 上がり系の技の復習と段階練習　逆上がり・足かけ上がり・け上がり	上がり系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第8回	**鉄棒運動の復習、段階練習および指導方法の学習（2）** 支持回転系の技の復習と段階練習　後方支持回転・前方支持回転	支持回転系の技について、技術ポイントを復習しておく	2時間
第9回	**模擬授業の実践（1）** 課されたテーマについて、8回までに復習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を実践する	テーマとなる技の技術ポイント・指導法について復習し、指導案を作成する	2時間
第10回	**模擬授業の実践（2）** 課されたテーマについて、8回までに復習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を実践する	テーマとなる技の技術ポイント・指導法について復習し、指導案を作成する	2時間
第11回	**模擬授業の実践（3）** 課されたテーマについて、8回までに復習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を実践する	テーマとなる技の技術ポイント・指導法について復習し、指導案を作成する	2時間
第12回	**模擬授業の実践（4）** 課されたテーマについて、8回までに復習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を実践する	テーマとなる技の技術ポイント・指導法について復習し、指導案を作成する	2時間
第13回	**模擬授業の実践（5）** 課されたテーマについて、8回までに復習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を実践する	テーマとなる技の技術ポイント・指導法について復習し、指導案を作成する	2時間
第14回	**平均台運動の実践・授業のまとめ** 平均台運動について、基礎的な技を実践する 授業のまとめを行う	平均台の技について、学習指導要領を確認しておく。器械運動の授業づくりのポイントをまとめる	2時間

432

授業科目名	ダンスⅡ				
担当教員名	北島奈津				
学年・コース等	2年・保健体育コース	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校・高等学校において保健体育教諭として勤務（全14回）				

授業概要

本授業では身体による創造的な学びに焦点をあて、従来のダンス授業の枠組にとらわれずに教科横断的でアイデアに富んだ表現の可能性にチャレンジする。記憶・理解・実践に留まらず、主体的な計画の立案と実行・分析・評価・対話と内省・創造といった活動に比重を置いたユニークで探究的な学びを深めていく。また、多様な価値観の共有と対話を通して、多角的に物事を捉え、主体的で柔軟な思考を持った指導者の育成を目指す。同時に創造的・探究的学びの評価の在り方についても考察を深め、これからの社会で必要とされる力を育成できる総合的なスキルを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育におけるダンス（身体表現）の役割や可能性及び必要性を理解することができる。また、身体を使った多様な学びを体験し、表現能力を高めることができる	ダンス（身体表現）の可能性を追求し、創造的な学びについての理解と育成する視点を体得し実践することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		適確に自分の意志を表現し、行動選択ができる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者との協働により、多様な価値観を受け止めて対話を重ね、創造的な活動ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（2点×14回）	28 %	： 毎時の実習への積極的参加と実践、グループワークなどの取り組み姿勢について総合的に評価する。
ポートフォリオ（学習記録）	10 %	： 学びについての理解と課題に対する準備（適確な計画の立案）、結果の分析、考察及び評価、グループや個人での学習の振り返り（コメントシート）について、学習記録の達成度として総合的に評価する。
創作発表	62 %	： 課題のプレゼンテーション及びダンス作品の発表に関して、課題の達成度や技能の獲得状況等を総合的に評価する。 （課題1・2:各18%、課題3:26%）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習（振り返り）し、次回の授業に向けて必要な予習や準備をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 諸注意などは初回授業にて説明します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／課題①「ダンスとユニバーサルデザイン」の導入** 本授業の目標と内容について解説し、今後の授業計画にそった準備物、内容について説明する。また、評価基準について説明する。 課題①「ダンスとユニバーサルデザイン」の導入として多様な個性に対するダンスのアプローチを検討する。	選択したユニバーサルデザインについて調べ次の授業の予習と準備を行う	4時間
第2回	**課題①「ダンスとユニバーサルデザイン」（1）** 多様な個性に対する理解を深める。ダンスのアプローチの方法を選択し、適切な表現方法について空間・物・振付を決定していく。	選択したユニバーサルデザインについての理解を深める。	4時間
第3回	**課題①「ダンスとユニバーサルデザイン」（2）** ユニバーサルデザインとして適切であるか、現在の表現方法についてさらに検証し、振付を発展させる。	授業で実践した振付内容を思い出し、復習することによって発表に備える。	4時間
第4回	**課題①「ダンスとユニバーサルデザイン」（3）** 「ダンスとユニバーサルデザイン」の振付課題をグループごとに発表する。互いの作品を鑑賞・評価し合うことで本課題の理解を深める。	「ダンスとユニバーサルデザイン」の発表と鑑賞をもとに、自分自身の課題の捉え方や多様な考え方について振り返りを行う。	4時間
第5回	**課題②「ダンスと映像」（1）** 架空の宣伝・広告を設定し、ダンスとオリジナルの映像を融合させた作品を企画する。身体表現に適した宣伝・広告内容を選択し、効果的な映像の使い方を検討する。	作品で使用する映像についてアイデアを考え作成及び編集する。	4時間
第6回	**課題②「ダンスと映像」（2）** 映像と身体表現それぞれの利点について整理し、企画にそった効果的な映像の使い方について検証する。また、効果的な表現方法を探る為、グループ内でアイデアや振付を共有・統合していく作業を繰り返す。	次回の授業に向けた映像編集及び振付のアイデアを練り、既に決まった振付に関しては反復練習を行う	4時間
第7回	**課題②「ダンスと映像」（3）** グループ内でアイデアや振付に修正や工夫を加え統合していく作業を繰り返す。 また、企画にそった作品であるかを検証し、相手に伝わりやすくする為には何が必要であるかについて考える。	次回の中間発表に向けて修正点がないか点検する。既に決まった振付に関しては反復練習を行う。	4時間
第8回	**課題②「ダンスと映像」（4）** 「ダンスと映像」の振付課題を中間発表する。現状の改善点を理解し、最終発表に向けて修正点を整理する。互いに評価をしながら、ダンス作品を練り上げていく。	中間発表での反省点を踏まえて、最終発表に向けた反復練習を行う。	4時間
第9回	**課題②「ダンスと映像」（5）** 「ダンスと映像」の振付課題をグループごとに発表する。互いの作品を鑑賞・評価し合うことで本課題の理解を深める。	「ダンスと映像」の発表と鑑賞をもとに、グループワークの活動と身体表現と映像の使い方に対する可能性について振り返りを行う。	4時間
第10回	**課題③「ダンスと空間構成」（1）** 多様な基本ステップを体験しながら、空間構成（上下左右）などのアレンジを加えていく。	次回の授業に向けて基本ステップの反復練習を行う。	4時間
第11回	**課題③「ダンスと空間構成」（2）**	次回に向けて空間構成の理解をさらに深め、アイデアを練る。既に決まった振付については反復練習を行う。	4時間

	多様な基本ステップに空間構成のアレンジを加え、相互に組み合わせて決定していくことで、オリジナルの振付に変換する。		
第12回	**課題③「ダンスと空間構成」（３）** 個々のステップをグループで組み合わせて多様な感性や価値観を共有する。また、互いの振付を組み合わせて新しい振付をつくると共に、複雑な空間構成の変化に挑戦する。	グループワークの振り返りを行う。授業で新たに覚えた振付や既に決まった振付については反復練習を行う。	4時間
第13回	**課題③「ダンスと空間構成」（４）** グループワークでの振付を作品化する。空間構成にさらに移動の視点を加えて作品のオリジナリティを高めていく。 また、中間発表を行い、現状の改善点を理解して最終発表に向けて修正点を整理する。最終発表に向けてダンス作品を練り上げていく。	中間発表での反省点を踏まえて、最終発表に向けた反復練習を行う。	4時間
第14回	**課題③「ダンスと空間構成」（５）** 「ダンスと空間構成」の作品を発表する。作品を鑑賞・評価し合うことで本課題の理解を深める。 また、これまでの全ての授業内容について振り返りを行い、これからの時代を見据えた探究的な学びの在り方や評価について確認する。	授業で学習した内容について振り返り、考察を深める。	4時間

432

授業科目名	**スポーツ球技**				
担当教員名	藤高紘平・滝沢洋平				
学年・コース等	2年・保健体育コース	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ゴール型のボールゲームであるバスケットボール、サッカーを中心に、その特性を踏まえてゲームそのもののしくみを理解し、知識、技術、戦術の修得を目指す。また、学習指導法などの周辺領域と関連付けて、指導する立場としての側面からも理解を深める。
スポーツならではの、ルールや歴史を知ったうえで、様々な人とのコミュニケーションを通じて、相互の意思伝達を適切に行い、他社との良好な関係を確立するために、技術練習により個人的・集団的な習熟を図り、個人やチームのスキルをゲームの中で応用できるようにし、班別学修などで計画的なチーム作りと指導方法の計画立てと実践を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	球技の知識、技術、戦術を学び、指導方法とチーム形成に生かす。	集団の活動においてより良い成果をあげるために、他社と協働して作業を行えるようになる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		経験や学修から得られた教養に基づき、課題や問題を解決できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	50 %	： 指定した課題に対して文献などを用いて論述できているかどうか、文字数や期限など守られているか総合的に評価する。
授業への取り組み	25 %	： バスケットボール、サッカーの技能に対する個人の取り組みおよびチーム、グループでの活動状況を総合的に判断し評価する。
実技テスト	25 %	： バスケットボール、サッカーの技能習得に向けて実技試験を行う。個人、チームなどでの実技を通して、成長や努力も含めて総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。なお、実技については原則指定のジャージおよびスポーツウェアとし、外傷予防の観点から眼鏡・ピアスを含めた服飾品は取り外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー・授業外での質問方法については、初回の授業でインフォメーションする。

急を要する場合は、メールで対応する。
hougaku@g.osaka-seikei.ac.jp,fujitaka@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、バスケットボール　歴史、ルール** バスケットボールの歴史および背景を振り返るとともに、ルールの確認を行う。また、今後のスケジュールの確認やグルーピングを行うと同時に、授業参加にあたっての注意事項などを確認する。	バスケットボールの歴史およびルールの復習を行う。	4時間
第2回	**バスケットボール　個人技能練習法（シュート、パス、ドリブル）** 基本的なシュート、パス、ドリブルの種類について解説する。またそれぞれの練習方法について実践する。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第3回	**バスケットボール　集団技能練習（2対1、2対2の攻防）** グループ戦術に着目し、1対1ではできないパスの選択肢を増やすことで、コンビネーションプレーを活用できるようにする。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第4回	**バスケットボール　攻防のまとめ** これまで学修した個人戦術、グループ戦術をゲームの中で応用する。また、各グループでチーム戦術を共有し、ビデオ撮影などを利用して振り返る。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第5回	**バスケットボール　チーム練習およびリーグ戦（オフェンス実践、ディフェンス実践）** これまで学修した個人戦術、グループ戦術をゲームの中で応用する。特にオフェンス、ディフェンスのチーム戦術について共有し、実際のゲームの中で発揮する。	撮影した動作やゲームを分析する。	4時間
第6回	**バスケットボール　チーム練習およびリーグ戦（課題・問題解決）** これまで展開してきたゲームから、ポジティブ・ネガティブ場面を抽出し、課題を見つけて克服する解決策を見出す。	撮影した動作やゲームを分析する。	4時間
第7回	**バスケットボール　チーム練習およびリーグ戦（総合・応用実践）** これまで展開してきたゲームから、ポジティブ・ネガティブ場面を抽出し、課題を見つけて克服する解決策を見出したものについて、どのような練習方法やトレーニング方法が有効であるか検討して実践する。	ポジティブ・ネガティブ場面を整理し、各自メニューを作成する。	4時間
第8回	**ガイダンス、サッカーの歴史およびルールについて** サッカーの歴史および背景を振り返るとともに、ルールの確認を行っていく。また、今後のスケジュールの確認やグルーピングを行うと同時に、授業参加にあたっての注意事項等についても確認していく。	授業内で配布した資料を用いて、サッカーの歴史およびルールの復習を行う。	4時間
第9回	**サッカー　基本技術の習得（1）キック、トラップ、シュート** 多様なキックの方法について紹介し、意図した方向、強さ、タイミングでパスが行えることを目的に、授業展開する。また、自分に向かってくるボールに対して、意図した場所にボールを置くことを目的に、授業を展開する。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第10回	**サッカー　基本技術の習得（2）ドリブル、ヘディング** ドリブルの種類（運ぶドリブル、交わすドリブル、突破するドリブル等）について解説する。また、ドリブルをしながら相手や味方の状況を把握することを目的に、授業展開する。ヘディングについては、身体の動かし方に注意させる。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第11回	**サッカー　１対１の攻防** 個人戦術の攻撃に着目し、これまでの授業で習得したトラップ、ドリブル、シュートを1vs1の攻防の中で応用することを目的に、授業展開する。また、対人戦術の守備に着目し、ボールを持っている者に対する守備とボールを持っていない者に対する守備について、優先順位を整理するとともに、正しいポジショニングについて理解することを目的として、授業展開する。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間
第12回	**サッカー　２対１の攻防** グループ戦術の攻撃に着目し、1vs1では発生しなかったパスの選択肢を増やすことで、「壁パス」や「クロスオーバー」といったコンビネーションプレーを活用できるようになることを目的として、授業展開する。	授業内での練習方法を繰り返す。	4時間

第13回	**サッカー　１１対１１（ゲーム）の実践とビデオ撮影** グルーピングした各チームでチーム戦術を共有し、実際のゲームの中で発揮することを目的とする。ゲームはビデオ撮影し、次回のゲーム分析時に用いる。	撮影したゲームを一通り見直す。	4時間
第14回	**サッカー　ゲーム分析と課題の抽出** 前回撮影したゲームから、ポジティブ・ネガティブ場面を抽出し、課題を見つける。課題克服のためにどのようなトレーニングが必要であるかグループディスカッションを行う。	ポジティブ・ネガティブ場面を整理し、各自メニューを作成する。	4時間

431

授業科目名	**スポーツ測定と評価**				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士およびトレーナーとして、病院やスポーツ現場で高齢者やスポーツ選手に対し、体力テスト・フィジカルチェック・メディカルチェック等を実施				

授業概要

学校体育において体力測定は毎年恒例の行事となっており、部活動だけでなくアスリートにおいても体力・フィジカルテストは競技種目の評価として実施されている。体力測定は身体資源のコンディションを評価することであり、選手の身体を様々な角度から精細に観察することができ、その選手自身の長所・短所を見つけ出す材料になりうる。また、高齢者の体力測定は、豊かな生活を営むための運動機能の把握・確認することが健康増進に効果的である。様々な視点から体力に関する測定と評価を実施することは、重要なことと言える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	体力測定・評価の意義	各年齢層における体力測定に対する理解とその評価を学び、実践することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		測定に対する評価を行うことで疑問が生まれ、その疑問に対して課題遂行ができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		実験方法の計画をグループで立案することで、計画・立案力を養うことができる。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		実験課題や計画に責任感を持つことで行動・実践力につながる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（筆記）	35 %	： 体力測定・評価の意義や方法を理解しているか否かで評価する。14回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業内課題	35 %	： 授業内容を踏まえて、体力測定・評価の意義や方法について、論理的な考察を行い、適切にまとめられているかを評価する。
授業態度およびプレゼンテーション	30 %	： グループで分担、協力し、責任を持ってやり遂げたかを、次の観点から評価する。1.実験プロトコルの内容と作成方法、2.実験準備と手順、3.データ処理および発表資料の作成、4,発表と質疑・応答の対応。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後にて質疑・応答を行う。

場所： 各授業の実施場所

備考・注意事項： 詳細に関しては、授業初回時に伝える。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション　-スポーツ測定と評価の意義-** 学校体育や運動部では体力測定を行っているが、その体力が競技種目にどのように影響するかまで把握できていないのが現状である。さらに測定だけで終わり、個々に対して十分なフィードバック（評価）できておらず、パフォーマンスが伸び悩んだり、スポーツ障害を引き起こす原因になることもある。そこで、スポーツ測定と評価では運動やスポーツに重要である体力要素を理解し、測定でけでなく評価までを実施する。	スポーツ測定と評価の意義についてまとめておく。	4時間
第2回	**文部科学省による「新体力テスト」の理解と実践（理論編）** 交通機関の発達や労働の機械化進み、からだを動かす機会の減少にともない子どもから高齢者の体力低下が指摘されている。 この体力の低下が将来、様々な病気を引き起こことはすでにわかっており社会問題となっている。 そこで文部科学省は、まず自分自身の体力把握することが重要であり、学校教育現場や地方自治体などで体力測定が実施されている。 この授業では体力測定の方法とその測定に関する体力要素について理解する。	文部科学省が定めている体力測定の内容と意義についてまとめておく。	4時間
第3回	**文部科学省による「新体力テスト」の理解と実践（実践編）** 実践編では測定の準備から方法までを実施する。 測定後はグループで測定結果をまとめ、データをもとに評価を行う。	新体力測定の内容と方法についてまとめておく。	4時間
第4回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅰ-瞬発力・スピード** 近年、競技者向けに新たな体力測定（フィジカルテスト）がスポーツ選手や部活動で行われている。 特に、Ｓｐｅｅｄ（スピード）：重心移動の速さ・Agility（アジリティ）：運動時に身体をコントロールする能力・Quickness（クイックネス）：刺激に反応して素早く動き出す能力が競技力のパフォーマンス向上には欠かせないことから、SAQ能力に関するフィジカルテストが求められている。 この授業では競技者におけるフィジカル測定法と評価方法について学習する。	フィジカル（SAQ）テストの測定内容と方法、意義についてまとめておく。	4時間
第5回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅱ　-筋力測定法・RM法を用いた最大筋力①-** レジスタンストレーニングは筋に一定以上の抵抗力（レジスタンス）をかけ、筋活力を高める運動である。近年では幅広い年齢層において筋力トレーニングが健康維持や競技力の向上に有効的であると報告されており、トレーニングの方法について学ぶことは運動処方の基本である。 トレーニングの効果を得るためには、挙上重量・反復回数やセット数、休憩時間および頻度を目的と個人の能力に合わせて、処方できる人材が必要とされている。この授業では、個々の筋力に関係する測定と評価を行い、競技目的に応じた運動処方ができるよう学習する。	筋力測定法であるRM法の測定方法と意義についてまとめておく。	4時間
第6回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅱ　-筋力測定法・RM法を用いた最大筋力②-** レジスタンストレーニングは筋に一定以上の抵抗力（レジスタンス）をかけ、筋活力を高める運動である。近年では幅広い年齢層において筋力トレーニングが健康維持や競技力の向上に有効的であると報告されており、トレーニングの方法について学ぶことは運動処方の基本である。 トレーニングの効果を得るためには、挙上重量・反復回数やセット数、休憩時間および頻度を目的と個人の能力に合わせて、処方できる人材が必要とされている。この授業では、個々の筋力に関係する測定と評価を行い、競技目的に応じた運動処方ができるよう学習する。	筋力測定法であるRM法の測定方法と意義についてまとめておく。	4時間
第7回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅲ-全身持久力の測定方法・有酸素性能力の算出-** 全身持久力は長時間、一定の強度の運動を続けることができる能力のことをいい、有酸素性能力とも呼ばれている。 有酸素性能力は競技パフォーマンスには欠かせないことや将来、生活習慣病や心疾患の発症・死亡率に関係している。 そのため全身持久力を把握し、維持・向上させることは様々な観点からも重要である。 そこでこの授業では、現場で実施されている測定法を用いて有酸素性能力を算出する。	最大酸素摂取量の測定内容の算出方法、意義についてまとめておく。	4時間

第8回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅳ-敏捷性-** 競技力の要素の一つである、敏捷性について学習する。 この授業では、実際に敏捷性に関する測定を行い、評価を行う。	スポーツ競技の敏捷性についてまとめておく。	4時間
第9回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅴ　-柔軟性の測定法①-** 柔軟性は、からだの柔らかさのことである。筋などが硬いと正常に伸び縮みせず、関節の動きが円滑でなくなり、競技力の低下・スポーツ外傷・障害だけでなく膝痛や腰痛などのリスクが高まると指摘されている。これらのスポーツ障害予防や競技力との関連からも柔軟性に関する測定と身体各部位の柔軟性が障害発生や競技成績とどのような関係があるのかを理解し、評価を実施する。	柔軟性の測定内容と方法・意義についてまとめておく。	4時間
第10回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅴ　-柔軟性の測定法②-** 柔軟性は、からだの柔らかさのことである。筋などが硬いと正常に伸び縮みせず、関節の動きが円滑でなくなり、競技力の低下・スポーツ外傷・障害だけでなく膝痛や腰痛などのリスクが高まると指摘されている。これらのスポーツ障害予防や競技力との関連からも柔軟性に関する測定と身体各部位の柔軟性が障害発生や競技成績とどのような関係があるのかを理解し、評価を実施する。	柔軟性の測定内容と方法・意義についてまとめておく。	4時間
第11回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅵ　-平衡性の測定法-** 身体の平衡性（バランス能力）は姿勢安定に関係しており、ポーツや運動はもちろん日常生活の身体活動に重要な役割を果たしている。近年では高齢者だけでなく取り巻く環境の変化により子どもまでもがバランス能力を失い、転倒からケガの発生まで発展しており、社会的問題となっている。また姿勢を安定させることは競技パフォーマンスである速く走ることや強い力を出すことにも大切であることから、平衡性（動的・静的バランス）に関する測定と評価を実施する。	平衡性の測定内容と方法・意義についてまとめておく。	4時間
第12回	**測定・評価の実施、データ加工、フィードバックの実際** 今まで実施した、測定データを統計を利用して、処理とグラフを作成する。 またデータ結果を踏まえ、先行研究を引用しながら考察・まとめまでを作成する。	データ処理における統計についてまとめておく。	4時間
第13回	**測定と評価の実際 Ⅰ-測定と評価における実験プロトコルの作成と実験-** グループで測定と評価における実験プロトコルを作成し、その実験を実施する。 実験終了後はその実験で得た、データを統計で処理し、まとめまでの作業を行う。	発表に向けての資料を完成させる。	4時間
第14回	**測定と評価の実際 Ⅱ-測定と評価における実験プロトコルと実験結果の発表-** 実験テーマについての発表と今後の発展について発表形式で実施する。 また、その発表に関する内容や疑問を討論しあう。	実験における達成度と発展についてまとめる。	4時間

432

授業科目名	スポーツトレーニング理論演習				
担当教員名	坂本拓巳				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士およびトレーナーとして、病院やスポーツ現場でスポーツ選手に対し、アスレティックトレーニング等を実施				

授業概要

スポーツパフォーマンス向上や運動・スポーツの技能向上を目的とした各種トレーニングについて学ぶ。またトレーニングをより深く理解するための機能解剖学や運動生理学、トレーニング科学などについても学びを深める。身体の構造や機能、発育発達に応じた、かつ学術的根拠が明確なスポーツトレーニングを学ぶことで、体育授業および課外活動での活用が可能となるような授業展開とする。また各種スポーツトレーニングの実践を通じて基礎体力の向上と運動・スポーツの楽しさを体験し、健康教育を実施していく上での礎とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	スポーツに必要なトレーニングの基礎的な知識と技術	トレーニングの実践を通じて基礎体力の向上と運動・スポーツの楽しさを体験し、健康教育を実施していく。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各種トレーニングの理論を理解、実践・指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
積極的な共同活動の遂行とワーシートの作成提出	40 %	： 能動的および自主的に共同活動に参加し、毎回の授業でワークシートを作成したものについて、①授業内容を踏まえているか、②共同活動でディスカッションしたものとなっているかを評価する
課題レポート	30 %	： 14回の授業終了後に課題を出題し、その出題内容に対して論理的に考察し、適切にまとめられているかを評価する
実技試験	30 %	： 指定されたトレーニングについて実践・指導が可能なレベルに到達しているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。なお、実技については原則指定のジャージおよびスポーツウェアとし、外傷予防の観点から眼鏡・ピアスを含めた服飾品は取り外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業場所

備考・注意事項：　諸注意、オフィスアワー・授業外での質問方法については、初回の授業でインフォメーションする。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業評価方法と授業の目的について）** トレーニング科学の概論、トレーニングの原理、原則、基本的知識	トレーニング科学の基本的知識について理解する	4時間
第2回	**神経-筋系、骨格筋の機能解剖とバイオメカニクス** 骨格筋の形態と機能、筋発揮のメカニズム、骨格筋に対するトレーニング効果	筋骨格系の形態と機能について理解する	4時間
第3回	**心臓血管系と呼吸器系** 心臓血管系と呼吸器系の解剖と生理、エネルギー供給システム	心血管系の解剖生理について理解する	4時間
第4回	**トレーニングの種類（無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニング）** 無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニングの種類と効果	トレーニングの種類とその効果について理解する	4時間
第5回	**レジスタンストレーニング（上肢）** 胸部、上背部、肩部、上腕部のトレーニング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第6回	**レジスタンストレーニング（下肢）** 下肢の単関節、多関節トレーニング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第7回	**レジスタンストレーニング（体幹）** 体幹部のトレーニング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第8回	**プライオメトリクストレーニング** 上肢、下肢、体幹、複合的動作のプライオメトリクストレーニング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第9回	**スピード系トレーニング** アジリティ、クイックネス能力向上のためのトレーニング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第10回	**バランス、コーディネーション向上のスポーツトレーニング** バランス向上に関する基礎を学ぶとともに、各種トレーニングを実践する	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第11回	**ストレッチングと柔軟性のトレーニング** 柔軟性の評価と様々なストレッチング	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第12回	**トレーニングと内分泌、食事、栄養** トレーニングとホルモンの作用、パフォーマンスのための食事と栄養	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第13回	**特別な人のためのトレーニングプログラム** 子ども、女性、高齢者、危険因子を持つ人に向けたプログラムデザイン	授業で学んだ内容と自身のスポーツ活動と関連付ける	4時間
第14回	**トレーニングのプログラムデザイン** スクリーニングとトレーニングプログラムの立案	各競技の特徴をしっかりと調べておく	4時間

432

授業科目名	コンディショニング理論演習				
担当教員名	中尾哲也				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アスレティックトレーナー（JSPO)、理学療法士、トレーニング指導者（JATI)として、アスリートのコンディショニングやリハビリテーションの指導をしている。				

授業概要

身体構造や骨関節の3次元的運動、様々な身体機能を理解し、身体運動時に弊害となる局所的ストレスを最小眼にしならがパフォーマンス向上につなげる方法を自らが体験・実践し、体育授業およびスポーツ・健康教育を実施していく上での基礎作りを目指す。
理論理解として重力と地面反力の活用を基礎とします。しかし、正しい姿勢で重力や地面反力を受け取らなければ傷害につながるだけでなく、身体運動パフォーマンスの向上を獲得できない。正しい姿勢で重力や地面反力を活用することで、筋腱複合体SSCを各関節から導き出すことができることを体験して欲しい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	コンディショニング技術による身体の構造および機能的変化に関する理解	基礎体力の向上と運動・スポーツの楽しさを自らが体験し、体育授業およびスポーツ・健康教育を実施していく上での礎とする。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各種コンディショニングの理論的根拠を示しながら、実践・指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技試験	50 %	： 指定されたコンディショニング技術について実践・指導が可能なレベルに到達しているかを評価する
課題レポート	50 %	： 各授業内容に対して論理的に考察し、適切にまとめられているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。なお、実技については指定のジャージ

およびスポーツウェアとする。なお、外傷予防の観点からピアスなどの装飾物は取り外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業場所

備考・注意事項： 諸注意などは初回授業にて説明する。
急な場合はメールで対応する。
nakao051828@gmail.com

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** コンディショニングの定義と授業内容のガイダンスと共に、授業担当者の実践内容を説明する。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第2回	**コンディショニング時の原理原則** 重力・地面反力・筋腱複合体ストレッチショートニングサイクル（SSC）を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第3回	**動的ストレッチ** 体幹の運動と上下肢の連動を連動させる動的ストレッチのリスクと効果をラジオ体操から理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第4回	**静的ストレッチ** 上下肢・体幹の静的ストレッチのリスクと効果を時間、強度、タイミングを見直しながら理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第5回	**体幹コントロールエクササイズ** 胸郭・胸椎の可動性を向上させ、N式体幹エクササイズで下部体幹筋群や骨盤底筋群、横隔膜の活動や体幹と上下肢連動の重要性を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
	胸郭・胸椎の可動性を向上させ、N式体幹エクササイズで下部体幹筋群や骨盤底筋群、横隔膜の活動や体幹と上下肢連動の重要性を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。		
	胸郭・胸椎の可動性を向上させ、N式体幹エクササイズで下部体幹筋群や骨盤底筋群、横隔膜の活動や体幹と上下肢連動の重要性を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。		
第8回	**様々な歩行** 竹馬・パカポコ・1本歯下駄を活用することで、股関節や体幹の機能が引き出せることを理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第9回	**スクワット動作・スライドランジ動作・ランジ動作** 両脚荷重および・片脚荷重での様々な運動を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第10回	**自重トレーニング** 腕立て伏せで大胸筋の鎖骨部・胸骨部・肋骨部の強化を個別に強化することや、ラットプルやチンニング、ベントオーバーで広背筋を強化できることを理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第11回	**テーピング** 足関節の構造と機能を理解の上、ホワイトテープを用いて足関節を固定する技術を獲得し、実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
	ハムストリングス上の皮膚や下腿三頭筋上の皮膚にキネシオロジーテープを貼り付けることで関節機能が向上すること、を理解し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。		
第13回	**KBW; Knee Bent Walk ～ KBT; Knee Bent Turn** 移動は方向転換時に必要な基本的な股関節の運動を理解し、実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間
第14回	**ダブルラインエクササイズ** 2本のラインを活用して体幹や股関節の機能を引き出し、身体運動パフォーマンス向上の実践および指導につなげる。	自らの活動時に考え、体験する	4時間

433

授業科目名	エアロビックエクササイズ理論演習				
担当教員名	野上展子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	エアロビック・ジムナスティックスの国際，国内審判員，指導専門委員，技能検定員，アクアエアロビック指導員Ⅰ種の資格を有し，世界大会や国内大会で審判ならびに中央講習会で講師を務める経験を有している．				

授業概要

エアロビックは，運動処方理論である「エアロビクス＝有酸素運動」を起源として生まれており，これを技術的に体系化されて，「エアロビックダンス＝スポーツ」に発展したものである．音楽のビートにのって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツであり，表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている．本講義では，エアロビックすなわち有酸素運動の特性と効果を理論と実践により学習し，必要な知識・技能を習得する．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	エアロビクス理論を理解し，実践することができる	エアロビック技能の基本的，初級的な技術を修得し，実践，指導することが出来る．
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		課題解決に向けた自立した行動ができる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	20 %	： 毎回の授業へ取り組む姿勢，道徳的・社会的態度などを併せて評価する．
振り返りシート等，授業内容課題	20 %	： 授業課題を理解し，十分に情報を収集し，独自の見解を述べた内容であるかを評価する．
エアロビック実技試験	60 %	： 学期末に行うエアロビック実技（エアロビック技能検定３級，４級）の完成度と５分程度の課題ルーティンの指導内容で評価する，

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成テキスト」
公益社団法人　日本エアロビック連盟　「エアロビック指導教本」
適宜，資料を配布する．

履修上の注意・備考・メッセージ

運動に適したウェアやジャージ，また，教場に適したシューズを着用すること．
習得度によって進度を若干変更する場合がある．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　最初の授業で説明する．基本的にはアポイントメントを取ることが必要となる．

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**現代社会における運動の必要性とエアロビクス理論** 現代社会の健康問題を取り上げ，生活習慣病とその予防の必要性を講義する．心拍数から運動強度と目標運動強度設定の仕方を知り，目標運動強度を算出し強度を設定する．主観的運動強度（RPE）と心拍数の関係について学習する．学んだ地域を運動の場面で活用する．	平均寿命と健康寿命の関係と運動の必要性についてまとめておく	4時間
第２回	**エアロビック技能検定の評価法（5級から特級）** エアロビック技能検定における基本から特級である5級，4級，3級，2級，1級ならびに特級の内容を理解し，その評価内容について理解する．	エアロビック技能検定の5級から特級の内容を動画サイト等で調べておく．	4時間
第３回	**エアロビック技能検定４級の実技・基本・初級の動き【実技】** エアロビック技能検定４級の実技を行う．基礎的な動きをリズミカルにバランスよく行い，基礎技術を連結して，連続的に動くことが出来ることを目的とする．	エアロビック技能検定４級について，これまでの動きをまとめ，初級段階の動きの練習を行っておく	4時間
第４回	**エアロビックの動きとリズム，コミュニケーション【実技】** エアロビックダンスエクササイズのリズム取りや動き方について修得する．また，動きを伴ったコミュニケーションを目的とした集団でのエアロビックを体験する．	ダンスやリクリエーションなどの内容を動画サイト等で調べておく．	4時間
第５回	**エアロビックの美しいフォームとムーブメント【実技】** エアロビックダンスエクササイズにおける動き方について，美しいフォームやムーブメントの習得を目指す．	初級段階の動きの練習を行っておく	4時間
第６回	**エアロビック技能検定3級の実技・中級の動き【実技】** エアロビック技能検定3級の実技を行う．多様な動きをリズミカルに正しく行い，応用技術を連結して，バランスよく配置した連続動作が出来ることを目的とする．	エアロビック競技について動画サイト等で調べておく	4時間
第７回	**エアロビック指導の実際（基本）【実技】** 対象者の目的に合った指導内容，やる気を促す評価の方法を考慮した指導内容を構築する．	これまでの動きをまとめ，基本段階の動きの練習を行っておく	4時間
第８回	**エアロビック指導の実際（初級）【実技】** エアロビック指導の実際（基本）で修得した内容とともに，指導隊形や目的に合ったコーチングを考慮した指導内容を構築する．	これまでの動きをまとめ，初級段階の動きの練習を行っておく	4時間
第９回	**健康づくりとしてのエアロビック指導【実技】** 保健体育教育課程における「健康づくり」に着目したエアロビック指導の修得を行う．	学校教育の保健体育における教育指針について調べておく	4時間
第10回	**フィットネスとしてのエアロビック【実技】** フィットネスとしてのエアロビックダンスエクササイズ指導の修得を行う．また，エアロビックを生涯スポーつとしてその内容を活用する．	スポーツクラブ等，フィットネス業界について調べておく	4時間
第11回	**エアロビック技能検定４級，3級の実技練習，課題ルーティンの指導練習【実技】** 本講義で評価されるエアロビック技能検定の４級ならびに３級の実技練習．５分程度の課題ルーティンの指導練習を行う．	集団をまとめるための声掛けについて調べておく	4時間
第12回	**エアロビック技能検定４級，3級の実技試験【実技】** エアロビック技能検定４級，３級の実技試験を行う．	初級，中級段階の動きの練習を行っておく	4時間
第13回	**課題ルーティンの指導実技試験（前半）【実技】** ５分程度の課題ルーティンの指導実技試験を行う．	これまでの動きをまとめ，動きの練習，指導の練習を行っておく	4時間
第14回	**課題ルーティンの指導実技試験（後半）【実技】** ５分程度の課題ルーティンの指導実技試験を行う．	これまでの動きをまとめ，動きの練習，指導の練習を行っておく	4時間

433

授業科目名	**スポーツ生理学演習**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

安全かつ効果的に運動やスポーツ指導を行うには、運動に伴う身体の反応やその効果を正しく測定し、評価する技術と技能が必要になる。本演習を通じて、運動や身体活動が生体に及ぼす影響とその反応を測定し、運動プログラムや指導に反映する技術を身につける。また本演習では、グループにおいて運動やスポーツ、健康に関わる様々なテーマでのミニ実験を行い、正しい測定方法や結果の分析評価法を学ぶ。さらにグループ研究を行い、課題発見能力やプレゼンテーション能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	生理学やスポーツ医学に関する知識の習得と教育現場での実践	人体の構造や機能を理解した上で、安全かつ効果的な運動方法について具体的に考えることができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		運動やスポーツが抱える諸問題を理解し、教育現場や地域スポーツにおいて安全で効果的な運動指導や指導方法を考えることができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		最新の運動効果を高めるための方法や指導方法を理解し、正しい運動の実践や指導を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	65 %	： グループでの研究の遂行とそのデータ整理が完成できていれば4点とし、さらに自己の考えや先行研究を用いて考察などを示していれば5点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全13回実施する。
受講状況	10 %	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
研究報告書の作成	25 %	： 授業で実施した各実験と得られた測定データをまとめる。さらに近年のスポーツ医科学や学校体育の課題をふまえ、授業で得られた知識やデータの活用方法を考える。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子（有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423）
2) 基礎生理学、安谷屋均（東洋書店、2008年、ISBN9784885958069）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日昼休み

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、それ以外の時間にも受け付けます。
連絡方法は、初回授業時に伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**健康や運動に関する最近の知見** 現代のスポーツ現場が抱える諸問題という問いから、安全で効果的な運動についてグループワークを用いて考える。	振り返りシートの作成（現代のスポーツが抱える諸問題）	4時間
第2回	**スポーツ生理学の必要性** 安全に効果的に運動を実践するためには、その効果を正しく測定し評価できる知識と技術が求められる。幼児期や学童期におけるスポーツ測定の意義や具体的方法、さらにその評価方法について考える。	振り返りシートの作成（幼稚園や小学校で行われている運動能力テスト）	4時間
第3回	**運動と心拍数（漸増負荷との関連）** 生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、運動と心拍数との関係を理解し、実際の運動中の心拍数の測定を行う。得られたデータを用いて、運動と心拍数との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られた体力測定データの整理と図表作成）	4時間
第4回	**運動と心拍数（定常負荷との関連）** 漸増負荷による心拍数の変動を理解し、それをふまえて運動強度と心拍数の関係を明らかにする。実際の運動中の心拍数の測定を運動強度に違いに応じて行う。得られたデータを用いて、運動強度と心拍数との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第5回	**運動と心拍数（高強度インターバル運動との関連）** 運動強度と心拍数との関連を理解し、それをふまえて近年現場で多く実践されているインターバル運動と心拍数との関連を明らかにする。実際の高強度インターバル運動中の心拍数の測定を行う。得られたデータを用いて、インターバル運動と心拍数との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第6回	**運動と血圧** 生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、運動と血圧との関係を理解し、実際の運動中や身体活動中の血圧の測定を行う。得られたデータを用いて、運動、身体活動と血圧との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第7回	**ストレス負荷と血圧** 近年、ストレス状態の簡易的な把握として拡張期血圧が用いられている。生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、ストレスと血圧との関係を理解し、実際のストレス負荷による血圧の測定を行う。得られたデータを用いて、ストレスと心拍数との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第8回	**運動と体温** 生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、運動と体温との関係を理解し、実際の運動中の体温の測定を行う。得られたデータを用いて、運動と体温との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第9回	**身体活動と体温** 日中の体温上昇や体温変動を時計遺伝子のリズムを整えたり、自律神経活動のバランスを是正するのに有効であると言われている。生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、日常生活における様々な身体活動と体温との関係を理解し、実際の様々な身体活動における体温の測定を行う。得られたデータを用いて、身体活動と体温との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第10回	**運動と自律神経活動** 生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、運動と自律神経活動との関係を理解し、実際の運動中の自律神経活動の測定を行う。得られたデータを用いて、運動と自律神経活動との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間
第11回	**身体活動、ストレスと自律神経活動**	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と図表作成）	4時間

	自律神経活動は健康度の指標として用いられるようになってきている。特に自律神経総活動であるトータルパワーを高めることは健康に貢献することが示されている。生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、日常生活における様々な身体活動と自律神経活動との関係を理解し、実際の様々な身体活動における自律神経活動の測定を行う。得られたデータを用いて、身体活動と自律神経活動との関係を考察する。		
第12回	**運動と脳機能** 生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、運動と脳機能との関係を理解し、実際の運動中の脳機能の測定を行う。得られたデータを用いて、運動と脳機能との関係を考察する。	振り返りシートの作成（研究テーマとその方法の検討）	4時間
第13回	**身体活動と脳機能** 脳機能、なかでも前頭葉の刺激や注意機能を高めることは、健康の保持増進に極めて有効であると言われている。生理学、スポーツ生理学で習得した知識をふまえ、日常生活における様々な身体活動と脳機能との関係を理解し、実際の様々な身体活動における脳機能の測定を行う。得られたデータを用いて、身体活動と脳機能との関係を考察する。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理）	4時間
第14回	**データの整理・報告書の作成** 各グループ実験で得られたデータを整理し、研究報告書の作成を行う。	振り返りシートの作成（得られたデータの整理と報告書の作成）	4時間

433

授業科目名	運動と生活習慣病				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

慢性的な運動不足が生活習慣病に関連し、将来的に3大疾患（悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患）を招く可能性が高い。メタボリックシンドロームに総称されるような肥満、高血圧、脂質異常症、糖尿病の病態や高齢者のサルコペニアやフレイルについても講義し、運動生理学の基礎知識、運動・身体活動の予防効果や治療効果を学ぶ。各病態に対する運動プログラムの立案や自ら健康行動を実践できるようにグループワーキングも導入する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	身体活動・運動とは何か？生活習慣病とは何か？の基本的な理解と知識、および運動生理学を応用する能力の修得。	生活習慣病の分類ができ、各病態を理解することで、運動の種類や強度、時間、頻度から運動プログラムを考えることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	生活習慣病が蔓延している原因を理解し、その解決策としての運動の役割をみつける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	自分自身の健康行動を振り返り、自らも生活習慣を改善できる。また、グループワークを通じてコミュニケーション能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業	50 %	： 保健授業及び生活習慣病に関する基礎知識を理解しているか否かで評価する。
授業の取り組み状況	30 %	： 各授業の参加（発言や質問、グループワークでの関わり）、授業態度（受講マナー）などの取り組みから評価する。
レポート	20 %	： 指定された課題に対して、シンプルかつ論理的にまとめられているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日

場所： 研究室

備考・注意事項： 研究室で対応する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション － 運動とは？** 本講義の目的や進め方について説明する。運動、身体活動、スポーツなど類似した用語をきちんと定義し、適切に使用できるように理解を深める。また、「運動を続ける」ために必要なことを考える。	運動や身体活動、スポーツの違いについて説明できるようにしておく。	4時間
第2回	**発育発達と生活習慣病の現状** 発育発達による運動の役割や過去と未来を考える。また、ライフスタイルの変化、文明の利器によって生活習慣病が増加しているが、完治させるための薬はない。今後も増え続けることが予想される生活習慣病を分類し、その根本治療の方法を考える。	生活習慣病にはどのような疾患があるか予習しておく。	2時間
第3回	**運動・スポーツで健康寿命を延ばす** 健常者、生活習慣病患者、心疾患患者など多くの人にとって、生命予後を規定する強力な因子は運動耐容能である。平均寿命を延ばすよりも、健康寿命を延ばすことが重要であり、そのために必要な運動・身体活動・スポーツの役割を考える。	平均寿命と健康寿命の違いを説明できるように予習しておく。	4時間
第4回	**運動指導に役立つ運動生理学の知識（代謝・骨格筋）** 身体を動かすエネルギー源は糖と脂質である。また、骨格筋は刺激が入ることで適応する。運動による代謝の変化や骨格筋の適応などの生理的な反応を理解し、簡単でわかりやすい言葉で説明できるように学習する。	運動によるエネルギー消費と骨格筋の特徴について予習しておく。	4時間
第5回	**運動指導に役立つ運動生理学の知識（呼吸・循環）** 人は呼吸によってガス交換を行い、心臓のポンプ機能で全身に送られ、各臓器で酸素が利用される。運動時の呼吸と循環の変化や適応について理解し、簡単でわかりやすい言葉で説明できるように学習する。	肺、心臓、骨格筋での酸素と二酸化炭素の役割について予習しておく。	4時間
第6回	**運動と肥満・脂質異常症の予防や治療** 肥満は生活習慣の乱れによる最上流の因子であることを理解し、肥満の一次予防の重要性を理解する。運動によるエネルギー消費量を計算でき、中性脂肪やLDLコレステロールを下げるために楽しく継続可能にな運動プログラムが立案できることを目標に学習する。	肥満と肥満症の違いを説明できるように予習しておく。	4時間
第7回	**運動と高血圧の予防や治療** 高血圧の分類ができ、動脈硬化の重要な危険因子であることを理解する。また、運動による自律神経の変化や血管拡張などの降圧機序を理解し、血圧を下げるために最適な運動プログラムを立案できることを目標に学習する。	血圧が高くなりやすい生活習慣について予習しておく。	4時間
第8回	**マンダラートシートで行動目標を明確にしよう** 運動や食事などの生活習慣の改善には目標設定が大切である。目標達成に向けて行動するためには、「何をどのようにしたらよいか」が重要であり、今すべき行動を整理しなければならない。そこで、チームカンファレンスでも活用されているマンダラートシートを活用した演習を行う。	目標設定の必要性を予習し、自分の10年後の姿を想像しておく。	4時間
第9回	**運動と糖尿病の予防や治療** 糖尿病と合併症について理解し、運動による血糖低下の機序や血糖管理に必要な生活習慣を理解する。また、低血糖予防、合併症の予防など血糖コントロールに最適な運動プログラムが立案できることを目標に学習する。	1型糖尿病と2型糖尿病の違いについて予習しておく。	4時間
第10回	**心臓リハビリテーション** 心臓リハビリテーションは単に運動療法だけでなく、食事指導や生活指導も含めた包括的な治療であることを理解する。また、心臓病患者が再発予防や社会復帰、生命予後の改善に向けた運動プログラムを立案できることを目標に学習する。	心臓の解剖と機能、心臓病の種類について予習しておく。	4時間
第11回	**運動とロコモティブシンドローム予防**	運動器症候群の種類や転倒の危険因子について予習しておく。	4時間

	ロコモティブシンドロームの生活習慣との関係を理解し、人にとって歩くことの重要性を理解する。また、ロコモティブシンドロームのチェック方法を理解し、運動機能の低下予防、介護予防に最適な運動プログラムが立案できることを目標に学習する。		
第12回	**運動とサルコペニア・フレイル予防** サルコペニアとフレイルの定義と違いを理解し、高齢者の介護予防、特に一次予防の必要性を理解する。身体機能、筋力、骨格筋量の低下を予防したり、増やすために必要な運動プログラムが立案できることを目標に学習する。	高齢者の身体機能と生活習慣の特徴について予習しておく。	4時間
第13回	**コグニサイズと認知症予防** 認知症になりやすい生活習慣、認知機能と認知症の違いを理解する。また、運動は二重課題を含むような運動が有用であり、認知機能と運動を合わせた造語であるコグニサイズの実践とそのプログラムが立案できることを目標に学習する。	認知機能の分類と認知症の症状を予習しておく。	4時間
第14回	**運動処方作成で学ぶ講義のまとめ** 症例に対する運動処方を作成し、プレゼンテーションを行う。また、質疑応答を通じて自分が作成した運動処方の理解を深めることを目標に学習する。今まで学修したことが自分自身の生活習慣にフィードバックできることも目標とする。	症例に対する運動処方を作成し、プレゼンテーション資料を準備しておく。	4時間

433

授業科目名	生涯スポーツと健康【2023年入学生～】／生涯スポーツ論【～2022年入学生】				
担当教員名	野上展子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	エアロビック・ジムナスティックスの国際，国内審判員，指導専門委員，技能検定員，アクアエアロビック指導員Ｉ種の資格を有し，世界大会や国内大会で審判ならびに中央講習会で講師を務める経験を有している．				

授業概要

スポーツは単なる競技だけでなく，生涯を通じた健康促進や社会交流を含む多岐にわたる活動である．各庁省やスポーツ団体は，継続的な「スポーツ・運動」への取り組みを通じて社会全体の健康や連帯感を育む努力をしている．生涯スポーツ論では，個々の選手だけでなく，観戦やサポートも含む「する」「みる」「ささえる」視点からスポーツを捉え，多様な価値観や新しいアプローチを模索し，生涯を通じた活動の一環として位置づけられる能力を養う．また，健康を視野に入れた生涯スポーツの中に，エアロビックエクササイズが存在する．本講義では，その指導者としての知識の習得を目指す．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	様々なスポーツや活動について触れ，それらの理解ならびに新しい考え方を模索する．	「する」「みる」「ささえる」視点からスポーツを多角的に説明できる．

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	生涯スポーツに関して理解し，実践できる．

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りシート	70 %	： 学習の要点や新しく発見したことや気付いたことについて，自己評価が適切に行われているか評価する
課題・レポート	30 %	： 講義内で指定した課題・レポートについて評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省ホームページ　厚生労働省ホームページ　スポーツ庁ホームページ
公益社団法人　日本エアロビック連盟　「エアロビック指導教本」
適宜資料を配布する．

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．

「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を振り返り，次回の授業に向けて準備を行うこと．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　最初の授業で説明する．基本的にはアポイントメントを取ることが必要となる．

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツとは** スポーツとは何か．運動・活動とは何かを説明する．	自己の行ってきたスポーツ，運動・活動について振り返り，授業内で発表できるようにまとめる	4時間
第2回	**スポーツ基本法について** スポーツに関し，基本理念ならびに国および地方公共団体の責務，スポーツ団体の努力等を明らかにし，スポーツに関する施策の基本となる事項が定められたスポーツ基本法について説明する．	スポーツ基本法について調べておく．	4時間
第3回	**スポーツライフの現状と今後について考える** 新型コロナウイルス感染症は，スポーツを「する」「みる」「ささえる」にどのような影響をおよぼしたのかについて説明する．今後の自己のスポーツライフや，周囲の人のスポーツライフについて考察を行い実践する．	コロナ禍はスポーツにどのような影響をおよぼしたのかを考え，授業内で発表できるようにまとめる	4時間
第4回	**子どもの運動習慣形成と体力向上について** 「ゴールデンエイジ」（幼児期から中学生）の運動習慣は，生涯にわたる体力・運動能力等の基盤となる極めて重要な要素である．全国体力・運動能力，運動習慣等のデータを基に子どもの運動習慣の形成や体力向上について説明する．	子どもの運動習慣の形成や体力向上について調べておく．	4時間
第5回	**第五次国民健康づくり 健康日本21（第三次）について** 厚生労働省が行っている健康増進に係る取組として，令和6年度から令和17年度までの健康日本21（第三次）を推進している．この健康日本21（第三次）について説明する．	健康日本21（第三次）について調べておく．	4時間
第6回	**健康寿命の延伸について** 少子高齢化が進む現在，健康寿命の延伸は喫緊の課題である．スポーツ，運動．活動による健康寿命の延伸への効果・効能に着目し，自治体のスポーツ関連団体の施策について説明する．	健康寿命について調べておく．	4時間
第7回	**ニュースポーツ** 誰でも気軽に楽しめることを目的に，エッセンスを生かしつつ，ルールや道具を改良することで発達してきたニュースポーツ．様々なニュースポーツの中から，コートのエンドライン上に置かれたネットにボールをシュートするハンドボール形式のスポーツ，チュックボールについて説明する．また，生涯スポーツとして学んだ知識を活用する．	ニュースポーツについて調べておく．	4時間
第8回	**パラスポーツ** パラスポーツ・障害者スポーツについて説明する．	オリンピック終了後に行われるパラリンピックについて調べておく．	4時間
第9回	**ニュースポーツにおけるエアロビクスについて** 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたエアロビクス授業の進め方と，エアロビクスを取り入れた体力の向上を図る運動の計画と実践について説明する．	学校現場におけるエアロビクスについて考え，授業内で発表できるようにまとめる	4時間
第10回	**エアロビックの歴史と健康安全管理について** エアロビックは，米国で提唱された「エアロビクス」を起源とし，その後派生した「エアロビックダンス」を体系化して，スポーツとして発展察せたものである．その歴史を理解する．また，エアロビックで起こりやすい障害について，その予防についても修得する．	スポーツにおける起こりやすい障害について調べておく	4時間
第11回	**エアロビックの基本構造と指導計画の組み立て** エアロビックは，その運動特性から「身体つくり」「表現つくり」「動きつくり」を目的とした運動として位置づけられている．その技術構造や体系，音楽との関わり，基本の技術の内容について修得する．	エアロビクスについて調べておく	4時間
第12回	**エアロビック技能検定制度について** エアロビック技能検定を主宰する公益社団法人日本エアロビック連盟の概要を理解し、エアロビック技能検定制度の内容について修得する．	エアロビック技能検定について調べておく	4時間
第13回	**エアロビック技能検定の評価法** エアロビック技能検定における基本から特級である5級，４級，３級，２級，１級，特急の内容およびフリールーティンについて理解し，その評価内容について修得する．	エアロビック技能検定の内容を動画サイト等で調べておく．	4時間
第14回	**総合型地域スポーツクラブについて** 人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブでる総合型地域スポーツクラブについて説明する．	自己の身近な総合型地域スポーツクラブについて調べ，授業内で発表できるようにまとめる	4時間

授業科目名	**レクリエーション理論**				
担当教員名	小林志保				
学年・コース等	3	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本レクリエーション協会　レクリエーションコーディネーター・福祉レクワーカー資格保持 2003年4月～公益財団法人大阪府レクリエーション協会公認講師 健康スポーツ学科等で、レクリエーションインストラクター資格取得につながるレクリエーション指導法、ニュースポーツ等、関連の授業を担当				

授業概要

レクリエーションは、スポーツと同様に、現代の超高齢社会（65歳以上の高齢者の割合が人口の21%を超えた社会）、生涯学習社会、子どもの体力低下などにおいて重要な役割を持っている。レクリエーションとは、「人々の心を元気にし、
人としていきいいきと楽しく豊かに生きること」を理念として、様々な活動を行うことである。本授業では、生涯スポーツとしてのレクリエーション活動の必要性を認識し、レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付ける。具体的には、教育現場・地域の様々な場面において役立つ、多様なレクリエーション活動を支援することができる人材を育成し、対象者や、対象年齢にあったレクリエーションを計画・導入・展開できるようになることを目的とする。上記のレクリエーション理論を主に学習し、演習も行う。後期のレクリエーション演習の基礎とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	生涯スポーツとしてのレクリエーション活動の必要性を認識する。	生涯スポーツとして、レクリエーション活動の必要性を理解し、授業や指導に取り入れる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付ける	生涯スポーツとして、レクリエーション活動を展開できるようになる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		生涯スポーツとしてのレクリエーション活動を教員、指導者として提供する力を身に付ける。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		生涯学習社会において、学び続ける姿勢・態度の土台を築く。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な児童、生徒、参加者がいる中で、多角的な視点でレクリエーション活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（出席状況・授業態度）	40 %	： 参加型の授業であり、出席状況を重視する。1/3（5回）以上欠席した場合は、定期テストのまとめレポートを提出することはできない。遅刻は20分以内とする。積極的な意欲・態度を求める。
理解度（レポート・確認テス）	30 %	： レクリエーションの基礎理論を理解しているかを確認するために、レポート、確認テストを実施する。
まとめレポート（定期テスト）	30 %	： 14回の授業で学んだことを振り返り、学んだこと、気づいたこと、今後に活かせることを自分の言葉でまとめる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

楽しさをとおした心の元気づく　りレクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人日本レクリエーション協会）
レクリエーション支援の基礎　楽しさ・心地よさを活かす理論と技術（公益財団法人日本レクリエーション協会）

履修上の注意・備考・メッセージ

参加型の授業であり、出席状況を重視する。1/3（5回）以上欠席した場合は、定期テストのまとめレポートを提出することはできない。遅刻は20分以内とする。実習や対外試合で欠席する場合は、原則、事前に欠席届を提出すること。積極的な意欲・態度を求める。レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付けることを意識し、教育現場・地域の様々な場面において役立つ、多様なレクリエーション活動を支援することができる力を身に付けましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み～3限

場所： 131研究室（中央館5階）

備考・注意事項： メールでも質問を受け付けます。kobayashi-sh@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス（授業の方針・内容・評価方法等）** シラバスを活用した授業方針・内容・評価についての説明 レクリエーション理論とは	レクリエーション理論の授業概要をまとめる	4時間
第2回	**アイスブレーキングの基本** レクリエーション活動におけるアイスブレーキングの基本 アイスブレーキングとは 様々なアイスブレーキングを体験する（ペアワーク・グループワーク）	アイスブレーキングの概要をまとめる	4時間
第3回	**アイスブレーキングの応用** クリエーション活動におけるアイスブレーキングの応用 アイスブレーキングとは 様々なアイスブレーキングを体験する（プログラムの流れを考えてみよう）	アイスブレーキングのプログラムの流れの重要性についてまとめる	4時間
第4回	**楽しさと心の健康づくりの理論①レク活動がもたらす楽しさの理解** 楽しさと心の健康づくりとは レクリエーション活動がもたらす楽しさとは 自分にとっての心の健康とは	レクリエーション活動がもたらす楽しさについてまとめる	4時間
第5回	**楽しさと心の健康づくりの理論②ライフステージと心の元気づくり** 楽しさと心の健康づくりとは ライフステージ（幼児期・学童期・思春期・成人期・高齢期）と心の元気づくりとは 自分自身の各ライフステージの楽しさと心の健康について振り返る	自分自身の各ライフステージの楽しさについてまとめる	4時間
第6回	**楽しさと心の健康づくりの理論③現場のきずなづくりとレクリエーション** 楽しさと心の健康づくりとは 現場のきずなづくりとレクリエーションとは 保育現場・小学校・中学校・高校・大学・地域で行われているレクリエーション活動について	保育現場・小学校・中学校・高校・大学・地域で行われているレクリエーション活動についてまとめる	4時間
第7回	**レクリエーション支援理論①コミュニケーションと信頼関係づくりの理論** レクリエーション支援とは コミュニケーションと信頼関係づくりの創意工夫	コミュニケーションと信頼関係づくりの創意工夫についてまとめる	4時間
第8回	**レクリエーション支援理論②良好な集団づくりの理論** レクリエーション支援とは 良好な集団づくりの創意工夫	良好な集団づくりの創意工夫についてまとめる	4時間
第9回	**レクリエーション支援理論③自主的、主体的に楽しむ力を育む理論** レクリエーション支援とは 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論とは	自分が考える自主的、主体的に楽しむ力を育む理論についてまとめる	4時間
第10回	**レクリエーション活動の習得①レクリエーション支援のためのゲーム** レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム 履修者で協力して様々なゲームに取り組む	様々なゲームに取り組んだ学びと気付きについてまとめる	4時間
第11回	**レクリエーション活動の習得②レクリエーション支援のための運動遊び** レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のための運動遊び 履修者で協力して様々な運動遊びに取り組む	様々な運動遊びに取り組んだ学びと気付きについてまとめる	4時間
第12回	**レクリエーション活動の習得③レクリエーション支援のための音楽にあわせた身体活動**	様々な音楽にあわせた身体活動に取り組んだ学びと気付きについてまとめる	4時間

	レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のための音楽にあわせた身体活動 履修者で協力して様々な音楽にあわせた身体活動に取り組む		
第13回	**レクリエーション活動の習得④レクリエーション支援のためのリズムダンス** レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのリズムダンス 履修者で協力して様々なリズムダンスに取り組む	様々なリズムダンスに取り組んだ学びと気付きについてまとめる	4時間
第14回	**レクリエーション理論・演習のまとめ** 14回の授業で学んだ、楽しさと心の健康づくりの理論・レクリエーション支援理論・レクリエーション活動の習得についての内容を振り返り、自分が今後活かせると思う内容を具体的に提案する	14回の授業で学んだ内容について自分が今後活かせると思う内容についてまとめる	4時間

授業科目名	**レクリエーション演習**				
担当教員名	小林志保				
学年・コース等	3	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本レクリエーション協会　レクリエーションコーディネーター・福祉レクワーカー資格保持 2003年4月～公益財団法人大阪府レクリエーション協会公認講師 健康スポーツ学科等で、レクリエーションインストラクター資格取得につながるレクリエーション指導法、ニュースポーツ等、関連の授業を担当				

授業概要

レクリエーションは、スポーツと同様に、現代の超高齢社会（65歳以上の高齢者の割合が人口の21%を超えた社会）、生涯学習社会、子どもの体力低下などにおいて重要な役割を持っている。レクリエーションとは、「人々の心を元気にし、
人としていきいいきと楽しく豊かに生きること」を理念として、様々な活動を行うことである。本授業では、生涯スポーツとしてのレクリエーション活動の必要性を認識し、レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付ける。具体的には、教育現場・地域の様々な場面において役立つ、多様なレクリエーション活動を支援することができる人材を育成し、対象者や、対象年齢にあったレクリエーションを計画・導入・展開できるようになることを目的とする。前期のレクリエーション理論を基礎として、演習を行い、実践力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	生涯スポーツとしてのレクリエーション活動の必要性を認識する。	生涯スポーツとして、レクリエーション活動の必要性を理解し、授業や指導に取り入れる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付ける	生涯スポーツとして、レクリエーション活動を展開できるようになる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		生涯スポーツとしてのレクリエーション活動を教員、指導者として提供する力を身に付ける。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		生涯学習社会において、学び続ける姿勢・態度の土台を築く。
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		様々な児童、生徒、参加者がいる中で、多角的な視点でレクリエーション活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（出席状況・授業態度）	40 %	： 参加型の授業であり、出席状況を重視する。1/3（5回）以上欠席した場合は、定期試験のまとめレポートを提出することはできない。遅刻は20分以内とする。積極的な意欲・態度を求める。
模擬授業（指導計画・授業実践）	30 %	： レクリエーションの基礎理論を理解した上で、レクリエーション活動の指導計画を立て、模擬授業を行う。
まとめレポート（定期試験）	30 %	： 14回の授業で学んだことを振り返り、学んだこと、気づいたこと、今後に活かせることを自分の言葉でまとめる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

やさしいレクリエーション実践（公益財団法人日本レクリエーション協会）
楽しさをとおした心の元気づく　りレクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人日本レクリエーション協会）
レクリエーション支援の基礎　楽しさ・心地よさを活かす理論と技術（公益財団法人日本レクリエーション協会）

履修上の注意・備考・メッセージ

参加型の授業であり、出席状況を重視する。1/3（5回）以上欠席した場合は、定期試験のまとめレポートを提出することはできない。遅刻は20分以内とする。演習は実技授業が中心になるため、実技に対する積極的な姿勢・態度・行動を求める。実技授業に適した指定ジャージ・シューズ・髪型（長い髪は結ぶこと）・爪で受講すること。実習や対外試合で欠席する場合は、原則、事前に欠席届を提出すること。レクリエーション支援の楽しさ、心地よさを活かす理論と技術を身に付けることを意識し、教育現場・地域の様々な場面において役立つ、多様なレクリエーション活動を模擬授業を通して、身に付ける。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日昼休み～3限

場所： 131研究室（中央館5階）

備考・注意事項： メールでも質問を受け付けます。kobayashi-sh@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス（授業の方針・内容・評価方法等）** シラバスを活用した授業方針・内容・評価についての説明 レクリエーション演習とは	レクリエーション演習の授業概要をまとめる	4時間
第2回	**活動領域・目的に応じたコミュニケーションワークの導入・展開方法** 活動領域・目的に応じたコミュニケーションワーク 導入・展開方法 様々なコミュニケーションワークを体験する（プログラムの流れを考えてみよう）	コミュニケーションワークの概要をまとめる	4時間
第3回	**活動領域・目的に応じた運動あそびの導入・展開方法** 活動領域・目的に応じた運動あそび 導入・展開方法 様々な運動あそびを体験する（プログラムの流れを考えてみよう）	運動あそびのプログラムの流れの重要性についてまとめる	4時間
第4回	**活動領域・目的に応じたニュースポーツの導入・展開方法** 活動領域・目的に応じたニュースポーツ 導入・展開方法 様々なニュースポーツを体験する（プログラムの流れを考えてみよう）	ニュースポーツのプログラムの流れの重要性についてまとめる	4時間
第5回	**指導実践①アイスブレイク・プログラムの立案・計画** 少人数の担当班ごとにアイスブレイク・プログラムの立案・計画、実践準備とプログラム運営を行う受講生同士の相互評価、自己評価を行う	イスブレイク・プログラムの立案・計画についてまとめる	4時間
第6回	**指導実践②アイスブレイク・プログラムの立案・計画** 少人数の担当班ごとにアイスブレイク・プログラムの立案・計画、実践準備とプログラム運営を行う受講生同士の相互評価、自己評価を行う	指導実践の振り返りを行って学んだ点・気づいた点をまとめる	4時間
第7回	**ニュースポーツの実際と指導法①ドッジボール型ゲーム** ニュースポーツの実際 対象年齢に合わせたドッジボールの創意工夫 転がしドッジボール・田の字ドッジボールなど	対象年齢に合わせたドッジボールの創意工夫についてまとめる	4時間
第8回	**ニュースポーツの実際と指導法②ネット型ニュースポーツ** ニュースポーツの実際 対象年齢に合わせたネット型ニュースポーツの創意工夫 インディアカ・フリンゴなど	対象年齢に合わせたネット型ニュースポーツの創意工夫についてまとめる	4時間
第9回	**ニュースポーツの実際と指導法③スポーツ・レクリエーション種目** ニュースポーツの実際 対象年齢に合わせたスポーツ・レクリエーション種目の創意工夫 キンボール・カバディなど	対象年齢に合わせたスポーツ・レクリエーション種目の創意工夫についてまとめる	4時間
第10回	**レクリエーション活動の模擬授業のための立案・計画・実践・評価の方法** レクリエーション模擬授業 少人数の担当班ごとにプログラムの立案・計画・実践準備を行う。評価の方法を説明する。　役割分担を決め、担当教員に指導計画の確認を受ける。	レクリエーション活動の模擬授業のための立案・計画・実践・評価の方法についてまとめる	4時間
第11回	**レクリエーション活動の模擬授業①プログラム運営を行う（第1グループ）**	レクリエーション活動の模擬授業についてまとめる	4時間

	少人数の担当班ごとにレクリエーション活動の模擬授業を行う。 （人数・時間は受講生の人数により決定する） 受講生同士の相互評価、自己評価を行う。		
第12回	**レクリエーション活動の模擬授業②プログラム運営を行う（第2グループ）** 少人数の担当班ごとにレクリエーション活動の模擬授業を行う。 （人数・時間は受講生の人数により決定する） 受講生同士の相互評価、自己評価を行う。	レクリエーション活動の模擬授業より、仲間の指導から学んだことについてまとめる	4時間
第13回	**レクリエーション活動の模擬授業③プログラム運営を行う（第3グループ）** 少人数の担当班ごとにレクリエーション活動の模擬授業を行う。 （人数・時間は受講生の人数により決定する） 受講生同士の相互評価、自己評価を行う。	レクリエーション活動の模擬授業より、自分の指導を振り返り、気づいたことについてまとめる	4時間
第14回	**レクリエーション演習のまとめ** 14回の授業で学んだ、活動領域・目的に応じたコミュニケーションワークの導入・展開方法、指導実践アイスブレイク・プログラムの立案・計画、ニュースポーツの実際と指導法、レクリエーション活動の模擬授業についての内容を振り返り、自分が今後活かせると思う内容を具体的に提案する	14回の授業で学んだ内容について自分が今後活かせると思う内容についてまとめる	4時間

433

授業科目名	実践体育教育研究Ⅰ				
担当教員名	安部恵子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、中等教育および高等学校における保健体育科の学習内容に応じた学習指導の展開および学習評価等を理解し、授業論や指導論を中心とした授業研究及び授業分析、運動教材の特性に応じた授業案について学び、指導計画の作成と展開によって教育的実践力の資質を養う。特に①中学校及び高等学校における運動種目の特性と「こつ」を理解する。②中学校及び高等学校における運動種目の実践的な学習指導計画の立案と学習評価について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育現場での課題を抽出し、その解決方法をグループ学習で導き出す。	教育現場の課題を明らかにし、その解決に向かう態度を養う。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		教育現場の現状分析から、授業での課題を明らかにする。
2. DP７.忠恕の心		課題を構築する過程で、グループ間のコミュニケーションを図り、解決策を考える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
担当種目の学習指導案の作成と提出	30 %	：①指示された型式にそって時系列に展開されているか②各種目の「こつ」と「めあて」が明確であるか③実践可能な指導内容であり導線も考慮されているか④動作分析などわかりやすく丁寧に図示されているか
指導案立案と模擬授業の技能面	30 %	：①作成された指導案を具現化できたか②声かけ、立ち位置、効果的に移動させているか③スキル修得のための「しかけ」が基本動作にかなって実践されているか
時間外学修レポート	10 %	：①指定された形式で提出期限を守れているか②文献図書を利用し丁寧になされているか③文献図書を利用し丁寧に記述されているか
レポート	30 %	：15回の授業終了後に課題を出題し、その内容について論述する。①指定された形式で提出期限を守れているか②文献図書を利用し丁寧になされているか③文献図書を利用し丁寧に記述されているかなどを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献に関しては、授業中に随時指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
模擬授業および授業研究を行いますので教員希望者の履修が望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週月曜日の2限目

場所： 安部研究室（中央館２階）

備考・注意事項： 上記以外の時間帯を希望する場合は、時間調整をしますので声をかけて下さい。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価基準および学習プランについてオリエンテーション** 本授業の目的と評価基準および学習プランについてオリエンテーション ①座学と体育の違いと注意点 ②体育の領域改訂の意義と理解 ③生徒の体力を把握する方法とその活用法	「運動の意義」について本時の内容を基にまとめる	4時間
第2回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（１）陸上競技・球技** 陸上競技（ハードル走・短距離走・走り幅跳び）及びバスケットボール・バレーボール種目の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を生徒が実践可能にする教材づくり・授業づくりを行う。	陸上競技及び球技の運動特性についてまとめる。自らが経験をした「こつ」について言語化する。	4時間
第3回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（２）器械運動（マット・跳び箱）** 器械運動（マット・跳び箱）の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を生徒が実践可能にする教材づくり・授業づくりを行う。	器械運動（マット運動・跳び箱）の運動特性について予習する。自らが経験をした「こつ」について言語化する。	4時間
第4回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究（３）ダンス** ダンスの特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を生徒が実践可能にする教材づくり・授業づくりを行う。	ダンスの運動特性について予習する。自らが経験をした「こつ」について言語化する。	4時間
第5回	**導線と指導案作成について学び模擬授業の対象学年と指導種目、指導日程の決定する** グランド・体育館での体育科指導における導線の重要性とその課題を明確にした上で各担当の学年および種目の指導案の作成を行う。また実践体育教育研究Ｉの指導案作成の際のポイントと注意点を解説する。	自分が指導案を作成することを念頭に置き、授業に参加し、復習する。	4時間
第6回	**「マット運動」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第7回	**「跳び箱」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第8回	**「バレーボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第9回	**「バスケットボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第10回	**「サッカー」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間

第11回	**「ダンス」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第12回	**「短距離走」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	指導案を予習しておく。次週の模擬授業の準備を行う。	4時間
第13回	**「走り幅跳び」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第14回	**各種目模擬授業の検証と各自の指導案修正と総括（質疑応答）** 模擬授業で得られた感想や意見を集約し、今後の授業に生かせる工夫を考える。 教育実習に向け、何が課題になるかを討議し、その解決方法を考える。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間

433

授業科目名	**実践体育教育研究Ⅱ**				
担当教員名	野上展子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

小学校教育，中学教育および高等学校教育における保健体育科の学習指導要領に応じた学習指導の展開を理解すること，また，現在学校で課題とされている児童生徒の様々な健康問題について，教職実践力と関連づけて理解することは重要である．学習指導要領の「体つくり運動」は，体ほぐしの運動と体の動きを高める運動および実生活に生かす運動の計画で構成されている．本講義では，体つくり運動で実施される種々の動きを実践し習得するとともに教職実践力を養う．

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	保健体育授業の授業研究および実践研究を行う．	保健体育領域の特性に応じた指導計画の作成
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		児童生徒の健康な体つくりに関する思考力，実践力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
「発表・ディスカッション」	50 %	:	課題について回答できているか評価する．
運動実習内容の評価	30 %	:	課題遂行能力について評価する．
授業参加への積極性	20 %	:	授業参加の積極性は、教員の質問に応じて的確に回答することを標準とし、積極的な発言、出された課題への対応などを評価する．

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月－平成29年告示
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　平成30年7月－平成30年告示

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を振り返り，次回の授業に向けて準備を行うこと．

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　最初の授業で説明する．基本的にはアポイントメントを取ることが必要となる．

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**中学校，高等学校の保健体育の学習指導要領での体つくり運動の位置づけ** 保健体育に関する学習指導要領に説明と「体つくり運動」の位置づけについて説明する．	体つくり運動について学習指導要領解説を読み調べておく	4時間
第2回	**体つくり運動とは** 中学校，高等学校の保健体育の学習指導要領における「体つくり運動」の構造，その役割について説明する．	現代の子どもたちの健康課題について調べ，授業内で発表できるようにまとめる	4時間
第3回	**体ほぐしの運動（用具を用いない運動）【実技】** 「体つくりの運動」に関係する「体ほぐしの運動」について，用具を用いない体ほぐしの運動を紹介し，実践を通した理解を深める．また日常生活において活用する．	体ほぐし運動（用具を用いない）のねらいや内容について調べておく	4時間
第4回	**体ほぐしの運動（用具を用いた運動）【実技】** 「体つくりの運動」に関係する「体ほぐしの運動」について，用具を用いた体ほぐしの運動を紹介し，実践を通した理解を深める．また日常生活において活用する．	体ほぐし運動（用具を用いた）のねらいや内容について調べておく	4時間
第5回	**体操，ラジオ体操について．また，その歴史** 永い歴史を持つラジオ体操や体操に関する歴史について説明する．その理解をもって今後の指導内容を深める．	ラジオ体操の歴史について調べておく	4時間
第6回	**ラジオ体操第一前半6項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** ラジオ体操第一について前半６項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	ラジオ体操第一前半の動きについて調べておく	4時間
第7回	**ラジオ体操第一後半7項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** ラジオ体操第一について後半7項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	ラジオ体操第一後半の動きについて調べておく	4時間
第8回	**ラジオ体操第二前半6項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** ラジオ体操第二について前半６項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	ラジオ体操第二前半の動きについて調べておく	4時間
第9回	**ラジオ体操第二後半7項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** ラジオ体操第二について後半7項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	ラジオ体操第二後半の動きについて調べておく	4時間
第10回	**みんなの体操前半4項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** みんなの体操について前半４項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	みんなの体操前半の動きについて調べておく	4時間
第11回	**みんなの体操後半4項目の動作練習と運動における効果の学習及び実践練習【実技】** みんなの体操について後半４項目を実践を伴い修得する．修得した内容を指導に繋げるために，説明内容や言葉がけ，タイミング等を考慮する．	みんなの体操前半の動きについて調べておく	4時間
第12回	**ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の指導試験にむけての実践練習【実技】** ラジオ体操第一，ラジオ体操第二，みんなの体操の動作や指導を完成形に近づける．	ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の動き指導内容の確認	4時間
第13回	**ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の指導試験（前半グループ）【実技】** ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の指導試験を行う．グループを分け前半グループ半分が実技試験となる．	ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の動き指導内容の修得確認	4時間
第14回	**ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の指導試験（後半グループ）【実技】** ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の指導試験を行う．グループを分け後半グループ半分が実技試験となる．	ラジオ体操第一，第二，みんなの体操の動き指導内容の修得確認	4時間

授業科目名	**英語ゼミⅠ**				
担当教員名	工藤律子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	20年以上、私立中高での英語学習指導経験あり。12年一貫教育の英語教育計画作成経験あり。				

授業概要

本科目では、教員として必要な英文法の知識を整理するだけでなく、実際の指導に活かせるスキルの習得を目指します。具体的には、英文法をコミュニケーションの中で活用するタスク型授業や、実際の授業場面を想定した文法指導に焦点を当てた模擬授業（導入・解説）を実施します。
授業では、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、学習者同士が協働しながら課題に取り組む姿勢を育成します。これにより、知識の定着を促すだけでなく、実践的な指導力を磨くことを目的とします。文法の理解を深めるとともに、効果的な教授法を身につけることで、将来の教育現場で自信を持って指導できる力を養います。
本授業を通じて、教員に求められる文法力と指導力をバランスよく伸ばし、実践的な英語教育に貢献できる人材の育成を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	文法の模擬授業課題を通して、実践的な指導法を学びながら、同時に文法知識も学ぶ。	教育に関する幅広い教養を身につけ、多様な視点から指導し、適切な教育実践ができる力を養う。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		毎回の課題を通して、ペアやグループからのフィードバックを取り入れる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		模擬授業などのタスクを通じて、生徒にとって分かりやすい授業展開を工夫する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業	40 %	： 模擬授業を評価する。
小レポート	20 %	： 振り返り・他者評価・文法関連の課題等を評価する。
小テスト	20 %	： 教員として必要な文法知識を単元ごとにテストする。
最終レポート	20 %	： 文法指導に関する模擬授業についてレポートを書く。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小寺茂明	・ チャート式　Dual Scope 新訂版	・ 数研出版	・ 2017　年

参考文献等

そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　西館５５（研究室）。授業時間以外は研究室にいるため、質問がある場合は直接来てください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・時制** ・授業の進め方について説明する。 ・様々な時制について理解する。 ・時制学習の導入について学ぶ。 ・時制問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	時制の文法知識を復習する。	4時間
第2回	**時制の模擬授業にチャレンジ・助動詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・様々な助動詞について理解する。 ・助動詞学習の導入について学ぶ。 ・助動詞問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	助動詞の文法知識を復習する。	4時間
第3回	**助動詞の模擬授業にチャレンジ・動詞の態** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・様々な動詞の態について理解する。 ・動詞の態の導入について学ぶ。 ・動詞の態の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	動詞の態の文法知識を復習する。	4時間
第4回	**動詞の態の模擬授業にチャレンジ・不定詞と動名詞（基本）** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・不定詞と動名詞について理解する。 ・不定詞と動名詞の導入について学ぶ。 ・不定詞と動名詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	不定詞と動名詞（基本）の文法知識を復習する。	4時間
第5回	**不定詞と動名詞（基本）の模擬授業にチャレンジ・不定詞と動名詞（構文）** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・不定詞と動名詞について理解する。 ・不定詞と動名詞の導入について学ぶ。 ・不定詞と動名詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	不定詞と動名詞（構文）の文法知識を復習する。	4時間
第6回	**不定詞と動名詞（構文）の模擬授業にチャレンジ・分詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・分詞について理解する。 ・分詞の導入について学ぶ。 ・分詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	分詞の文法知識を復習する。	4時間
第7回	**分詞の模擬授業にチャレンジ・分詞構文** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・分詞構文について理解する。 ・分詞構文の導入について学ぶ。 ・分詞構文の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	分詞構文の文法知識を復習する。	4時間
第8回	**分詞構文の模擬授業にチャレンジ・比較** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・比較について理解する。 ・比較の導入について学ぶ。 ・比較の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	比較の文法知識を復習する。	4時間
第9回	**比較の模擬授業にチャレンジ・比較構文** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・比較構文について理解する。 ・比較構文の導入について学ぶ。 ・比較構文の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	比較構文の文法知識を復習する。	4時間
第10回	**比較構文の模擬授業にチャレンジ・関係代名詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・関係代名詞について理解する。 ・関係代名詞の導入について学ぶ。 ・関係代名詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	関係代名詞の文法知識を復習する。	4時間
第11回	**関係代名詞の模擬授業にチャレンジ・関係副詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・関係副詞について理解する。 ・関係副詞の導入について学ぶ。 ・関係副詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	関係副詞の文法知識を復習する。	4時間

第12回	**関係副詞の模擬授業にチャレンジ・複合関係詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・複合関係詞について理解する。 ・複合関係詞の導入について学ぶ。 ・複合関係詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	複合関係詞の文法知識を復習する。	4時間
第13回	**複合関係詞の模擬授業にチャレンジ・話法** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・話法について理解する。 ・話法の導入について学ぶ。 ・話法の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	話法の文法知識を深める。	4時間
第14回	**まとめ** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・１～13回までの授業を通して、文法指導演習の解説練習を行う。	1～13回までの文法知識を総復習する。	4時間

授業科目名	**英語ゼミⅡ**				
担当教員名	工藤律子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	20年以上、私立中高での英語学習指導経験あり。12年一貫教育の英語教育計画作成経験あり。				

授業概要

本科目では、教員として必要な英文法の知識を整理するだけでなく、実際の指導に活かせるスキルの習得を目指します。具体的には、英文法をコミュニケーションの中で活用するタスク型授業や、実際の授業場面を想定した文法指導に焦点を当てた模擬授業（導入・解説）を実施します。
授業では、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、学習者同士が協働しながら課題に取り組む姿勢を育成します。これにより、知識の定着を促すだけでなく、実践的な指導力を磨くことを目的とします。文法の理解を深めるとともに、効果的な教授法を身につけることで、将来の教育現場で自信を持って指導できる力を養います。
本授業を通じて、教員に求められる文法力と指導力をバランスよく伸ばし、実践的な英語教育に貢献できる人材の育成を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	文法の模擬授業課題を通して、実践的な指導法を学びながら、同時に文法知識も学ぶ。	教育に関する幅広い教養を身につけ、多様な視点から指導し、適切な教育実践ができる力を養う。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		毎回の課題を通して、ペアやグループからのフィードバックを取り入れる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		模擬授業などのタスクを通じて、生徒にとって分かりやすい授業展開を工夫する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業	40 %	： 模擬授業を評価する。
小レポート	20 %	： 振り返り・他者評価・文法関連の課題等を評価する。
小テスト	20 %	： 教員として必要な文法知識を単元ごとにテストする。
最終レポート	20 %	： 文法指導に関する模擬授業についてレポートを書く。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小寺茂明	・チャート式　Dual Scope 新訂版	・数研出版	・2017　年

参考文献等

そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　西館５５（研究室）。授業時間以外は研究室にいるため、質問がある場合は直接来てください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**仮定法（基本）** ・授業の進め方について説明する。 ・仮定法（基本）について理解する。 ・仮定法（基本）の導入について学ぶ。 ・仮定法（基本）の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	仮定法（基本）の文法知識を復習する。	4時間
第2回	**仮定法（基本）の模擬授業にチャレンジ・仮定法（応用）** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・仮定法（応用）について理解する。 ・仮定法（応用）の導入について学ぶ。 ・仮定法（応用）問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	仮定法（応用）の文法知識を復習する。	4時間
第3回	**仮定法（応用）の模擬授業にチャレンジ・接続詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・接続しについて理解する。 ・接続詞の導入について学ぶ。 ・接続詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	接続詞の文法知識を復習する。	4時間
第4回	**接続詞の模擬授業にチャレンジ・前置詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・前置詞について理解する。 ・前置詞の導入について学ぶ。 ・前置詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	前置詞の文法知識を復習する。	4時間
第5回	**前置詞の模擬授業にチャレンジ・名詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・名詞について理解する。 ・名詞の導入について学ぶ。 ・名詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	名詞の文法知識を復習する。	4時間
第6回	**名詞の模擬授業にチャレンジ・冠詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・冠詞について理解する。 ・冠詞の導入について学ぶ。 ・冠詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	冠詞の文法知識を復習する。	4時間
第7回	**分詞の模擬授業にチャレンジ・代名詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・代名詞について理解する。 ・代名詞の導入について学ぶ。 ・代名詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	代名詞の文法知識を復習する。	4時間
第8回	**分詞構文の模擬授業にチャレンジ・形容詞と副詞** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・形容詞と副詞について理解する。 ・形容詞と副詞の導入について学ぶ。 ・形容詞と副詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	形容詞と副詞の文法知識を復習する。	4時間
第9回	**形容詞と副詞の模擬授業にチャレンジ・無生物主語** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・無生物主語について理解する。 ・無生物主語の導入について学ぶ。 ・無生物主語の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	無生物主語の文法知識を復習する。	4時間
第10回	**無生物主語の模擬授業にチャレンジ・複雑な構文（強調・倒置・省略）** ・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・複雑な構文について理解する。 ・複雑な構文の導入について学ぶ。 ・複雑な構文の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。	複雑な構文の文法知識を復習する。	4時間
第11回	**複雑な構文の模擬授業にチャレンジ・まとめ**	関係副詞の文法知識を復習する。	4時間

	・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・関係副詞について理解する。 ・関係副詞の導入について学ぶ。 ・関係副詞の問題にチャレンジし、その解説方法を学ぶ。		
	・指定された範囲での模擬授業を行う。 ・1〜11回までの授業を通して、文法指導園主の解説練習を行う。		
第13回	**コミュニケーションとしての文法タスク** ・文法知識を用いたコミュニケーションタスクを理解する。 ・文法を用いたコミュニケーションタスク指導を考える。	コミュニケーションタスクを作成する。	4時間
第14回	**文法タスク指導法発表** ・13回の授業で考案したタスクを発表する。	タスク指導の再構成をする。	4時間

432

授業科目名	インテンシブ・リーディングⅠ				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、各回でテーマに沿った読解を行いながら、英語の語彙や表現、文構造について確認し、リーディング力を伸ばすことを目的とする。それと同時に、各回のテーマに関する自分の意見を述べたり、友人の意見を聴いたりすることによって、各回の内容をより深く理解し、リーディング力をさらに伸ばすことを目指す。ペア・グループ活動を頻回に行い、コミュニケーションを取りながら、英語の読解力や語彙力等を総合的に伸長する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	語彙や表現、文構造を理解することができる	英文を正確に理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文で伝えられている情報や考えを理解するために、継続的な英語学習を行う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 語彙や表現、文の構造を理解し、文章の内容を正確に理解をすることができている
プレゼンテーション	20 %	： 語彙や表現、文の構造について理解し、文章に対する自分の考えを正確に伝えることができている
定期試験	50 %	： 学習をした語彙や表現、また文の構造の定着度、および文章の内容を正確に理解をすることができているかについて評定する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Neil J Anderson	・Active skills for reading 2, Third edition, ISBN 9781133308034	・Cengage	・2013 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Unit 1 Exam Time (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 1に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第2回	**Unit 1 Exam Time (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 1に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**Unit 2 Going abroad (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 2に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**Unit 2 Going abroad (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 2に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**Unit 3 Movie makers (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 3に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**Unit 3 Movie makers (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 3に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**Unit 4 Young athletes (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 4に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**Unit 4 Young athletes (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 4に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**Unit 5 The amazing human body (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 5に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**Unit 5 The amazing human body (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 5に関連する語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**Unit 6 Leisure time (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 6に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**Unit 6 Leisure time (2) 復習、発表準備** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う 学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、リーディング課題に関する自分の考えをまとめる	Unit 6に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる。発表について準備を行う	1時間
第13回	**発表 (1) 前半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間

第14回	**発表（2）後半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間

432

授業科目名	インテンシブ・リーディングⅡ				
担当教員名	片山美穂				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、各回でテーマに沿った読解を行いながら、英語の語彙や表現、文構造について確認し、リーディング力を伸ばすことを目的とする。それと同時に、各回のテーマに関する自分の意見を述べたり、友人の意見を聴いたりすることによって、各回の内容をより深く理解し、リーディング力をさらに伸ばすことを目指す。ペア・グループ活動を頻回に行い、コミュニケーションを取りながら、英語の読解力や語彙力等を総合的に伸長する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	語彙や表現、文構造を理解することができる	英文を正確に理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文で伝えられている情報や考えを理解するために、継続的な英語学習を行う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 語彙や表現、文の構造を理解し、文章の内容を正確に理解をすることができている
プレゼンテーション	20 %	： 語彙や表現、文の構造について理解し、文章に対する自分の考えを伝えることができている
定期試験	50 %	： 学習をした語彙や表現、また文の構造の定着度、および文章の内容を正確に理解をすることができているかについて評定する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Neil J Anderson	・Active skills for reading 2 , Third edition, ISBN 9781133308034	・Cengage	・2013 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Unit 7 A world of music (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 7に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	4時間
第2回	**Unit 7 A world of music (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 7に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第3回	**Unit 8 Career paths (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 8に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**Unit 8 Career paths (1) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 8に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**Unit 9 The story of chocolate (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 9に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第6回	**Unit 9 The story of chocolate (1) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 9に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第7回	**Unit 10 The secrets of advertising (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 10に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第8回	**Unit 10 The secrets of advertising (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 10に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第9回	**Unit 11 Food and the environment (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 11に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第10回	**Unit 11 Food and the environment (2) 復習** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う	Unit 11に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第11回	**Unit 12 Living for the future (1) Reading** テーマに関するパッセージを読み、語彙や表現、文の構造を確認し、内容を理解する パッセージに関して、学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、友人と意見を交換する	Unit 12に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる	1時間
第12回	**Unit 12 Living for the future (2) 復習、発表準備** これまでに学習したテーマに関する語彙や表現、また文の構造などについて、より発展的な語彙などを確認する リーディング課題を行う 学習した語彙や表現、文構造を使用しながら、リーディング課題に関する自分の考えをまとめる	Unit 12に関連する語彙や表現、文の構造等を調べ、ノートにまとめる。発表について準備を行う	1時間
第13回	**発表 (1) 前半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間

第14回	**発表（2）後半** リーディング課題に関するプレゼンテーションを行う	これまで習った語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間

432

授業科目名	アカデミックライティングⅠ				
担当教員名	Ｊ・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、論文の構成方法やトピックの選び方等を学びながら、英語でのアカデミックなライティング力を身に付けることをに目的とする。実際にライティングを行いながら構成方法などを学び、同時に、順序や付加・敷衍、結論等の、よく論文で使用する言葉を、どのような英単語や表現を使用するのが適切かについて学ぶ。さらには、自分の書いたライティングを授業で発表することによって、自分の伝えたい内容をより正確に伝えることができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語でのライティング活動	論文でよく使用される語彙や表現を身に付けて、アカデミックな英語での発信力を高める
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文でのライティングを通して、自分の意見や考えを伝える力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Text unit 課題	10 %	： 各ユニットで学習した、構成方法や、語彙や表現等について、適切に使用しているかについて評定します。Each student will prepare a PowerPoint presentation and paper summary for an assigned unit sub-section of the text.
Text unit 発表	15 %	： 各ユニットで学習した、構成方法や、語彙や表現等について、適切に使用しているか、および正確に内容を伝えられているかについて評定します。Each student will give a PowerPoint presentation and spoken summary for an assigned unit sub-section of the text.
Final academic writing report	25 %	： 授業で履修した、構成方法や、語彙や表現等の定着度について評定します。Students will write a short report using the academic writing skills from this class on their individual research topic. Professor's rubric.
Final 発表	25 %	： Students will give a PowerPoint presentation about their individual research topic. Professor's rubric.
Class Participation	25 %	： Students will be evaluated on level of willing engagement in the class. Professors' rubric. E.g., fully focused at all times, seeking and responding to feedback, dedication to study objectives.

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一橋大学英語科	・英語アカデミック・ライティングの基礎	・研究社	・2015　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で連絡します

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、1．0　アカデミック・ライティングの文化、2．0　リサーチを始めるにあたって** リサーチ・ペーパーの作成の流れやトピックの選び方、検索の行い方等について学修する	各自設定したトピックについて、ブレーン・ストーミングし、ノートにまとめる。また、各自で設定したテーマについて実際に検索し、その結果をまとめる	1時間
第2回	**3．0　リサーチ・ペーパーの構成** 主題文やアウトライン等について学修する．Outline drafting.	自分で設定したトピックについて、学修した主題文やアウトラインの書き方等を使用してライティングを行い、ノートにまとめる	1時間
第3回	**4．0　原稿を書く、4.1　本論を書く、4.2　論旨の展開を分かりやすくするために　順序(1) ライティング** 本論の書き方等について学修する。また、論の順序を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う．Student led mini-presentation.	論の書き方や、順序を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第4回	**順序(2) ライティングの振り返りと修正** 第3回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する．Student led mini-presentation.	順序を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第5回	**付加・敷衍(1)　ライティング** 付加・敷衍を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う．Student led mini-presentation.	付加・敷衍を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第６回	**付加・敷衍(2) ライティングの振り返りと修正** 第5回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する．Student led mini-presentation.	付加・敷衍を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第７回	**結論(1) ライティング** 結論を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う．Individual mini-presentations of thesis choices.	結論を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第８回	**結論(2) ライティングの振り返りと修正** 第7回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	結論を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第９回	**因果関係(1) ライティング** 因果関係を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	因果関係を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第１０回	**因果関係(2) ライティングの振り返りと修正** 第9回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	因果関係を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第１１回	**賛成・反対(1) ライティング** 賛成・反対を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う．Presentation preparation.	賛成や反対を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	1時間
第１２回	**賛成・反対(2) ライティングの振り返りと修正** 第11回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する．	賛成や反対を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる。	1時間
第１３回	**発表の準備** これまでに学習した構成や語彙、表現などを使用して発表の構想を作成し、発表準備を行う	発表の準備をする	1時間
第１４回	**発表** これまでに学習した構成や語彙、表現などを使用して、発表を行う	発表の準備をする	1時間

432

授業科目名	アカデミックライティングⅡ				
担当教員名	工藤律子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、100から150ワードで、段階をへてまとまりのある文を書けるようになることを目指します。書くための材料を集めるために、モデル文を用いたペアでのスピーキング活動を行います。さらには、自分の書いたライティングをchat GPTを利用し、リバイスしたものを授業で発表することによって、自分の書いたものとのギャップに気付き、自分の伝えたい内容をより正確に伝えることができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語でのライティング活動	語彙や表現を身に付けて、まとまりのある英語の文を書けるようにする。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		英文でのライティングを通して、自分の意見や考えを伝える力を身につける
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		chatGPTを用いた授業実践の方法を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30 %	： 自分のライティングとリバイスされたもライティングのギャップ（語彙・表現・文法など）をまとめる。
発表	30 %	： リバイスされたライティングを原稿を見ずに発表する。
定期試験	30 %	： 新しいテーマでライティングに取り組む。
授業貢献度	10 %	： 授業内でのペアワークの取り組む姿勢を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
静哲人	・ Writing Accelerator	・ 松柏社	・ 2024　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 研究室

備考・注意事項： 研究室にいる場合は、質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Unit 1 パラグラフとは** ・授業の進め方を確認する。 ・すでに学習しているパラグラフについて復習する。	Unit 1の内容をまとめる。	1時間
第２回	**Unit 2　Topic Sentence** ・トピックセンテンスとは何かを学習する。	Unit 2の内容をまとめる。	1時間
第３回	**Unit３Supportin Sentence** ・トピックセンテンスからサポートセンテンスへのつなげ方を学習する。	Unit 3の内容をまとめる。	1時間
第４回	**Unit 4 Concluding Sentence** ・まとめの文の書き方を学習する。	Unit 4の内容をまとめる。	1時間
第５回	**Unit５The Process of Paragraph Writing** ・Unit１～4までの内容を復習する。 ・チャットGPTの使い方を学習する。	Unit 5の内容をまとめる。	1時間
第６回	**Unit 6 Describing your favorite place** ・自分のお気に入りの場所について書く。 ・冠詞と名詞に焦点をおく。	Unit 6の内容をまとめる。	1時間
第７回	**Unit 7 Describing your passion** ・自分の力を入れていることについて書く。 ・単数形と複数形に焦点をおく。 ・Unit６の内容について発表する。	Unit 7の内容をまとめる。	1時間
第８回	**Unit８Expressing an Opinion** ・学校の部活動の是非について書く。 ・時制に焦点をおく。 ・Unit７の内容について発表する。	Unit 8の内容をまとめる。	1時間
第９回	**Unit 9 Giving advice and instrucitons** ・物事の方法や手順について書く。 ・Unit8の内容について発表する。	Unit 9の内容をまとめる。	1時間
第10回	**Unit 10 Comparing and contrasting** ・２つのものを比較対照する文を書く。 ・Unit9の内容について発表する。	Unit 10の内容をまとめる。	1時間
第11回	**Unit10 Explaining Japanese Culture** ・説明文を書く。 ・Unit9の内容について発表する。	Unit 10の内容をまとめる。	1時間
第12回	**Unit11 Narrating Past Events** ・エッセイ文を書く。 ・Unit10の内容について発表する。	Unit 11の内容をまとめる。	1時間
第13回	**Unit12 Describing Data Expressed in Graphs** ・図や表から情報を読み取って文を書く。 ・Unit11の内容について発表する。	Unit 12の内容をまとめる。	1時間
第14回	**発表** ・Unit12の内容について発表する。 ・リフレクションシートを完成させる。	振り返りシートを書く。テストに備えて語彙や表現をまとめる。	1時間

432

授業科目名	インタラクティブ・リスニングⅠ				
担当教員名	小林英雄				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、やや長めの英語を聞きながら、プロソディー（リズム、アクセント）や音変化（弱化、連音、脱落、同化）に焦点を当てることで、CEFR B2レベルのリスニング力を培っていく。とくに、ディクテーションや、オーバーラッピング、シャドウイングといった集中力を必要とする作業を通して、大まかな内容をトップダウン的に把握するだけでなく、細部の音声を分析しボトムアップ的に内容を理解することのできる確かなリスニング力の獲得を目指す。内容把握のために必要な英文法の知識や語彙力を養っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語の発音を詳しく聞き取るための学習をする。	英語の聞き取る力、発音能力を更に身に付けることによって以前より英語を活用できる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		内容を予想しながら聞く態度が身に付いている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
定期試験	50 %	:	全体を正確に聞き取れている、細部まで正確に聞き取れている
レポート課題	30 %	:	初回授業時にレポート課題について伝えます。提出期日を守り、取り組んで下さい。
小テスト	20 %	:	教科書でのまとまった学習範囲内で、２回小テストを実施します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
James M. Vardaman, 野地 薫	・Listening to dialogues on social issues.	・音羽書房鶴見書店	・2018 年

参考文献等

竹林滋他　『改訂新版 初級英語音声学 CD付』　大修館書店　2013

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、最低でも毎回１間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習するとともに、次回の授業に向けてしっかりと予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 教室内

備考・注意事項： 授業後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第１回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属（学籍番号を含む）を明記して下さい。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Chapter 1 Civilian Drones 前半** ・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・予習復習の進め方、レポート課題 ・教科書pp. ２－３ ・問題演習	次回の授業(pp. ４-５)の準備をすること。	1時間
第2回	**Chapter 1 Civilian Drones 後半** ・教科書pp. ４-５ ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. ６-７)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第3回	**Chapter 2 Reading while Young** ・教科書pp. ６-７ ・問題演習	次回の授業(pp. ８-９)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第4回	**Chapter 2 Reading while Young 後半** ・教科書pp. ８-９ ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. 10-11)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第5回	**Chapter 3 Intelligent Assistance 前半** ・教科書pp. 10-11 ・問題演習	次回の授業(pp. 12-13)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第6回	**Chapter 3 Intelligent Assistance 後半** ・第１回小テスト ・教科書pp. 12-13 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. 14-15)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第7回	**Chapter 4 Keeping it Clean 前半** ・教科書pp. 14-15 ・問題演習	次回の授業(pp. 16-17)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第8回	**Chapter 4 Keeping it Clean 後半** ・教科書pp. 16-17 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. 18-19)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第9回	**Chapter 5 Manners in Public 前半** ・教科書pp. 18-19 ・問題演習	次回の授業(pp. 20-21)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第10回	**Chapter 5 Manners in Public 後半** ・教科書pp. 20-21 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. 22-23)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第11回	**Chapter 6 Which News is Fake? 前半** ・教科書pp. 22-23 ・問題演習	次回の授業(pp. 24~25)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第12回	**Chapter 6 Which News is Fake? 後半** ・第２回小テスト ・教科書pp. 24-25 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	次回の授業(pp. 26~27)の準備（ディクテーションを含む）をすること。	1時間
第13回	**Chapter 7 Food Self-Sufficiency 前半** ・教科書pp. 26-27 ・問題演習	前期の授業内容を振り返り、疑問点をまとめる。	1時間
第14回	**前期の総まとめ**	前期授業の総復習（英文法、語彙、ディクテーションを含む）をすること。	1時間

・前期に学習した英文法の知識や語彙の確認 ・問題演習		

432

授業科目名	インタラクティブ・リスニングⅡ				
担当教員名	小林英雄				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、社会的な問題に関する長めの英語を題材にして、ディクテーションや、オーバーラッピング、シャドウイング等の作業を通して、リスニング力のさらなる向上を図っていく。CEFR B2レベルのリスニング力を培っていく。内容把握のために必要な英文法の知識や語彙力を養っていく。また、大まかな内容をトップダウン的に把握するだけでなく、細部の音声を分析しボトムアップ的に内容を理解する練習を行なう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	英語の発音を詳しく聞くための学習をする。	英語の聞き取る力、発音能力を更に身に付けることによって以前より英語を活用できる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		内容を予想しながら聞く態度が身に付いている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50 %	： 全体を正確に聞き取れている、細部まで正確に聞き取れている。
レポート課題	30 %	： 初回授業時にレポート課題について伝えます。提出期日を守り、取り組んで下さい。
小テスト	20 %	： 教科書でのまとまった学習範囲内で、２回小テストを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
James M. Verdaman, 野地 薫	・Listening to dialogues on social issues.	・音羽書房鶴見書店	・2018 年

参考文献等

竹林滋他　『改訂新版 初級英語音声学 CD付』　大修館書店　2013

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 教室内

備考・注意事項： 授業後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第１回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属（学籍番号を含む）を明記して下さい。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、Chapter 8 Whose Fsih? 前半** ・授業の概要・目標・評価方法について説明する。 ・教科書pp.30-31 ・問題演習	音声ファイルをダウンロードし、教科書のChapter ８前半を予習しておくこと。	1時間
第2回	**Chapter 8 Whose Fsih? 後半** ・教科書pp.32-33 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter ８後半を予習しておくこと。	1時間
第3回	**Chapter 9 English: Necessary or Not? 前半** ・教科書pp.34-35 ・問題演習	教科書のChapter９前半を予習しておくこと。	1時間
第4回	**Chapter 9 English: Necessary or Not? 後半** ・教科書pp.36-37 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter 10前半を予習しておくこと。	1時間
第5回	**Chapter 10 Career Education 前半** ・教科書pp.38-39 ・問題演習	教科書のChapter 10後半を予習しておくこと。	1時間
第6回	**Chapter 10 Career Education 後半** ・第１回小テスト ・教科書pp.40-41 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter 11前半を予習しておくこと。	1時間
第7回	**Chapter 11 Hours Worked 前半** ・教科書pp.42-43 ・問題演習	教科書のChapter 11後半を予習しておくこと。	1時間
第8回	**Chapter 11 Hours Worked 後半** ・教科書pp.44-45 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter 12前半を予習しておくこと。	1時間
第9回	**Chapter 12 Gender Equality 前半** ・教科書pp.46-47 ・問題演習	教科書のChapter 12後半を予習しておくこと。	1時間
第10回	**Chapter 12 Gender Equality 後半** ・教科書pp.48-49 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter 13前半を予習しておくこと。	1時間
第11回	**Chapter 13 Where does the Stress Come from? 前半** ・教科書pp.50-51 ・問題演習	教科書のChapter 13後半を予習しておくこと。	1時間
第12回	**Chapter 13 Where does the Stress Come from? 後半** ・第２回小テスト ・教科書pp.52-53 ・問題演習 ・ペア・ワークを通じての対話演習	教科書のChapter 14前半を予習しておくこと。	1時間
第13回	**Chapter 14 The Age of Childlessness 前半** ・教科書pp.54-55 ・問題演習	後期の学習範囲を振り返り、疑問点をまとめること。	1時間
第14回	**後期の総まとめ** ・後期に学習した内容を総復習する。 ・問題演習	教科書の音声を反復して視聴すること。	1時間

433

授業科目名	**実践英語教育研究Ⅰ**				
担当教員名	伊藤由紀子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の公立中学校英語教諭として、その後教育センター研究員として24年間勤務。 小中学校英語教育、国際理解教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験。（全14回）				

授業概要

昨今、我が国ではさまざまな英語教育に関する改革が進められており、学校現場の指導においても大きな変化が見られる。英語指導において理解すべき、英語学習のプロセスや外国語教授法の具体的方法を知り、その知識をもとに、学習者の環境や年齢、ニーズに応じて、最良の教授法を取捨選択し、実践できるようになることが望ましい。本授業では、将来教職に就いた際の基礎となる外国語教育に関する理論に加え、実際に一定の時間をかけた模擬授業を行い、ティーチングスキルを身につけることができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	中学校・高等学校における英語指導について、学習指導要領で示されている目標や方針を理解するとともに、言語習得理論などの理論的基盤について理解する。	中学校・高等学校の外国語授業を実践する際に必要な教科内容について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		中学校・高等学校で教えるための、さまざまな外国語教授法を理解し、効果的な授業案を立てることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		英語指導において、中学生・高校生に対するティーチングスキルを身につけ、さらにその効果を検証することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加	20 %	： 毎回の授業に真摯に取り組み、積極的に挙手、発言し、仲間と協力して活動できているか、学んだ内容を自身でまとめ、整理できているかを総合的に評価する。(20点)
授業後のレポート・授業内課題	20 %	： 授業内課題について基礎的な知識を踏まえて課題に取り組めたかを評価する。各授業での振り返り(10点)や、外国語教育に関するさまざまな理論を理解しているかを評価する。

模擬授業	:	2回の模擬授業において、理論をもとに、効果的な授業を行う視点とティーチングスキルをどれだけ身につけられたかを評価する。(40点)
40 %		
期末レポート	:	模擬授業の指導案および振り返り、課題をまとめたレポートを課す。指導案の書き方を習得し、分かりやすく簡潔に書かれているか、自身の模擬授業を客観的に見つめ、改善できるかを評価する。(20点)
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
工藤洋路ほか	・ NEW CROWN English Series 1（令和7年度版）	・ 三省堂	・ 2025 年

参考文献等

テキスト、参考文献については授業の中で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、2単位であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
授業ではノートを準備し、学んだことを整理しておく。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜4限

場所： 伊藤研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、コミュニケーション活動　音声からの指導　音韻意識とフォニックス** コミュニケーション活動 授業のルール、準備物、課題、評価について この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること 小中高12年間における英語教育の役割 中学校・高等学校学習指導要領の目標について 中学校における音声からの指導について 音韻意識の重要性、さまざまなフォニックス	音声指導の復習	4時間
第2回	**語彙指導、授業の組み立て、ウォーミングアップ活動　教材・教具の工夫** 語彙指導について、具体的な指導法を学ぶ。 ティーチャートークについて。 50分の授業の組み立てについて学ぶ。 授業のウォーミングアップ活動および検定教科書を使用した授業について、授業の進め方、活動例などを学ぶ。	ウォーミングアップの例を検討する。	4時間
第3回	**デジタル・ICT機器を活用した指導、中学校検定教科書に関連した模擬授業の準備(1)　内容の検討** デジタル・ICT機器を活用した教材についてその効果を考える。 プレゼンテーションソフトの使用について。 これまで学んだ内容を踏まえて、中学校検定教科書に関連したウォーミングアップ、授業の導入場面での指導を考える。教材・教具を工夫し、生徒がアクティブに学べる展開を検討する。	模擬授業の準備１（内容の検討）	4時間
第4回	**中学校検定教科書に関連した模擬授業の準備(2)　教材・教具・授業展開の検討** これまで学んだ内容を踏まえて、中学校検定教科書に関連したウォーミングアップ指導を考える。教材・教具を工夫し、生徒がアクティブに学べる展開を検討する。	模擬授業の準備２　教材・教具・授業展開の検討	4時間
第5回	**模擬授業の実践と振り返り(1)　課題発見** 実際の授業を想定した模擬授業を行う。1回目 模擬授業後にグループディスカッション（お互いの提案について振り返る）を行い、 発見した課題について話し合う。	模擬授業の改善の検討と提案	4時間
第6回	**模擬授業の実践と振り返り(2)　課題改善** 実際の授業を想定した模擬授業を行う。2回目 模擬授業後にグループディスカッション（お互いの提案について振り返る）を行い、 発見した課題について話し合う。	模擬授業の改善の検討と提案	4時間
第7回	**模擬授業の実践と振り返り(3)　まとめ** 実際の授業を想定した模擬授業を行う。3回目 模擬授業後にグループディスカッション（お互いの提案について振り返る）を行い、 発見した課題について話し合う。	模擬授業の振り返り	4時間
第8回	**中間まとめ、ユニバーサルデザイン　生徒の多様性に応じた指導、4技能の指導**	UD,DIについての振り返り・授業内容を復習する	4時間

	これまで学んだ内容についてのまとめを行う。 ユニバーサルデザイン（UD)と生徒の多様性に応じた指導（Differentiated Instruction)について学ぶ。 「聞く」「話す」「読む」「書く」の４技能の指導について学ぶ		
第9回	**中学校検定教科書を使った模擬授業の準備・指導案の作成(1)** 実際の中学校検定教科書を使った模擬授業を行うための準備を行う。 模擬授業は複数でグループになり、協力して、効果的な授業を計画する。	模擬授業の準備（指導計画）	4時間
第10回	**模擬授業の準備・指導案の作成(2)　具体的な内容と指導** さまざまな授業ビデオを視聴する。 模擬授業を行うため、指導案および教材を作成する。 模擬授業のためのグループ内練習を行う。	模擬授業の準備（教材の作成）	4時間
第11回	**模擬授業の実践と振り返り(1)　グループ１　課題発見** グループ１について、模擬授業を行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、発見した課題について話し合う。	模擬授業の改善の検討と提案	4時間
第12回	**模擬授業の実践と振り返り(2)　グループ2　課題の改善** グループ２について、模擬授業を行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、課題の改善について検討する。	模擬授業の改善の検討と提案	4時間
第13回	**模擬授業の実践と振り返り(3)　グループ3　模擬授業全体の振り返り** グループ３について、模擬授業の実施、振り返りを行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、模擬授業全体を振り返る。 模擬授業で作成した教材をグループでより良く改善する。	模擬授業のまとめと振り返り	4時間
第14回	**授業のまとめとふりかえり** 14回の授業を受けて、学修したことをまとめる 教育実習に向けての準備について整理する 最終レポート課題についての説明	授業の総括および最終レポートの作成	4時間

433

授業科目名	実践英語教育研究Ⅱ				
担当教員名	伊藤由紀子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の公立中学校英語教諭として、その後教育センター研究員として24年間勤務。 小中学校英語教育、国際理解教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる経験。（全14回）				

授業概要

昨今、我が国ではさまざまな英語教育に関する改革が進められており、学校現場の指導においても大きな変化が見られる。英語指導において理解すべき、英語学習のプロセスや外国語教授法の具体的方法を知り、その知識をもとに、学習者の環境や年齢、ニーズに応じて、最良の教授法を取捨選択し、実践できるようになることが望ましい。本授業では、「実践英語教育研究Ⅰ」に引き続き、具体的な指導の手立てを学び、実際に一定の時間をかけた模擬授業を行い、ティーチングスキルを身につけることができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	中学校・高等学校の英語授業について、学習指導要領で示されている目標や方針を理解するとともに、言語習得理論などの理論的基盤について理解する。	中学校・高等学校の英語授業を実践する際に必要な教科内容について理解できる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		中学校・高等学校で教えるための、さまざまな外国語教授法を理解し、効果的な授業案を立てることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		英語指導において、中学生・高校生に対するティーチングスキルを身につけ、さらにその効果を検証することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的な参加 20 %	:	毎回の授業に真摯に取り組み、積極的に挙手、発言し、仲間と協力して活動できているか、自身でまとめノートを整理できているかを総合的に評価する。(20点)
授業後のレポート・授業内課題・ミニテスト	:	授業内課題(10点）およびミニテスト（理論）(10点）について基礎的な知識を踏まえて課題に取り組めたかを評価する。各授業での振り返り(10点)や、外国語教育に関するさまざまな理論を理解しているかを評価する。

	30 %	
最終発表	:	最終発表（模擬授業）において、理論をもとに、効果的な授業を行う視点とティーチングスキルをどれだけ身につけられたかを評価する。（30点）
	30 %	
期末レポート	:	模擬授業の指導案および振り返り、課題をまとめたレポートを課す。指導案の書き方を習得し、分かりやすく簡潔に書かれているか、自身の模擬授業を客観的に見つめ、改善できるかを評価する。（20点）
	20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
伊藤由紀子・中田葉月・竹内ニコール・マリー・柏木賀津子・笹島 茂	・ CLIL 英語で伝える日本の伝統文化・伝統工芸 CLIL Dive Deep into Japanese Culture	・ 三修社	・ 2025 年
	・ ISBN:978-4-384-33539-2 C1082	・	・ 年

参考文献等

参考文献については授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、2単位であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しておくこと。
授業ではノートを準備し、学んだことを整理しておく。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限

場所： 伊藤研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、この授業について　コミュニケーション活動　学習指導要領** 授業の進め方。 授業のルール、準備物、課題、評価について。 （この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること） コミュニケーション活動。	授業の振り返り	4時間
第2回	**デジタル・ICT機器を活用した指導、小中連携の音声・文字指導　フォニックス発展編　発音指導** 中学校英語教育と高等学校英語教育との繋がり デジタル・ICT機器を活用した指導について学ぶ。 つまずきやすい小学校から中学校への「音声⇒文字」の橋渡しについて学ぶ。 フォニックス発展編について。 チャンツを利用した発音指導について。	フォニックス教材の検討	4時間
第3回	**ESDおよびSDGsの観点からの教育、さまざまなフォニックスについて、フォニックス教材作成** ESD（持続可能な開発のための教育）およびSDGs（持続可能な開発目標）の観点での教育について。 アナリティックス・フォニックス、シンセティック・フォニックス指導法について知る。 学びと思考の構造を知り、目指すべき英語の授業について検討する。 自作フォニックス教材の発表、協議、振り返りを行う。	フォニックスについての復習	4時間
第4回	**文法指導ビデオの検討** 文法指導のひとつとしてビデオ教材を考える。 実際に指導ビデオを作成する。	文法指導ビデオの作成	4時間
第5回	**教科連携について、CLIL（内容言語統合型学習）について、** 他教科との連携授業の意義、世界の動向など、教育界を取り巻く教科連携の実情について知る。 CLIL（内容言語統合型学習）について理論を学び、実際に体験することでその意義を考える。	フォニックス教材発表の振り返り	4時間
第6回	**CLILの指導例紹介（1）** CLIL指導をベースに日本の伝統文化や伝統工芸を体験型で伝えるアプローチを学ぶ。	体験型英語授業を振り返る	4時間
第7回	**CLILの指導例紹介（2）中間まとめ** CLIL指導をベースに日本の伝統文化や伝統工芸を体験型で伝えるアプローチを学ぶ。 これまでの授業を振り返り、中間まとめを行う	中間まとめを行う	4時間
第8回	**模擬授業の準備・指導案の作成（1）概要と計画** 模擬授業を行うための教材をグループで検討する。 指導案の検討をする。	模擬授業の計画・準備	4時間
第9回	**模擬授業の準備・指導案の作成（2）確認・具体的内容の検討**	模擬授業の原案検討	4時間

	模擬授業を行うための指導計画、教材を作成する。 指導案の原案を作成する。		
第10回	**模擬授業の準備・指導案の作成（3）発表準備・教材作成** 模擬授業を行うための指導案および教材を作成する。 模擬授業のため、グループで練習を行う。 指導案作成に取り組む。	模擬授業の準備、リハーサル	4時間
第11回	**模擬授業の実践と振り返り(1)　グループ１，２　課題の改善** グループ１について、模擬授業を行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、課題の改善について検討する。 相互評価をする。	模擬授業の改善の検討と提案	4時間
第12回	**模擬授業の実践と振り返り(2)　グループ３，４　課題の改善と検討** グループ2について、模擬授業を行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、課題の改善について検討する。 相互評価をする。	模擬授業の改善の振り返りと検討	4時間
第13回	**模擬授業の実践と振り返り(3)　グループ５．６　模擬授業全体の振り返り** グループ3について、模擬授業を行う。 模擬授業後に質疑応答を行い、模擬授業全体を振り返る。	模擬授業のまとめ、振り返り	4時間
第14回	**生徒を活かす授業マネジメント** 模擬授業で作成した教材をグループでより良く改善する。 14回の授業を受けて、自分なりに学んだことをまとめる。 期末提出課題についての説明。	授業のまとめと最終レポートの作成	4時間

434

授業科目名	**国際理解教育**				
担当教員名	末岡加奈子				
学年・コース等	2年／4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	The instructor has extensive experience in program and curriculum design.				

授業概要

In this class we will study topics that promote international understanding for citizens in a global society. We will study topics from the perspective of Education for Sustainable Development (ESD) and the Sustainable Development Goals (SDGs). We will study these topics mostly in English and occasionally in Japanese (as required for background reading/research). However, the main language of instruction will be English.
Class work will be based on discussion and project-based learning (PBL). By participating in this class, students will develop their skills and understanding of global education, multicultural education, civic education, and ESD. Students will develop the ability to design ESD teaching methods and curriculum design and deepen their understanding of global education as an educator.

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	グローバル社会の現代的課題を理解し、教育実践の在り方を構想する。	グローバル社会の一員であるという認識のもと課題解決に取り組むことができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	国際理解教育の歴史や実践の系譜を理解するとともに、教育をめぐる状況を的確に捉える。	教育専門家としての知識理解をもとに国際理解教育の実践に取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		国際理解に関する今日的課題を見出すことができる。
2. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		Proactively work towards finding solutions to social, economic, and educational issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.
3. DP５.多角的な視点からの他者への理解		国際理解のための授業実践を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Midterm performance event/debate 20 %	:	Evaluation based on Instructor's rubric.
ESD portfolio	:	Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Instructor's rubric.

	30 %		
Class participation		:	Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Instructor's rubric.
	20 %		
Critical thinking skills		:	Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions. Assessed based on Instructor's rubric.
	10 %		
Project-based learning project		:	Theme and evaluation standards based on class and instructor choice.
	20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
達川奎三、ウォルター・デイビス他	・Global Issues Towards Peace DVDで学ぶ共存社会-グローバル時代を考える	・南雲堂	・2023 年

参考文献等

Students will access and read the following for background information:
「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」available at:
https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm

The instructor will prepare further materials and provide opportunities for students to bring their own research and materials.

履修上の注意・備考・メッセージ

Because this course is a 2-credit course, an average of 4 hours of out-of-class study is required weekly.
This is a seminar style class. Students can expect to work in pairs or groups, make individual presentations, and participate in critical thinking and project-based learning activities.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： To Be Announced (TBA)

場所： TBA

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ESDとは何か：オリエンテーション** Class orientation and introduction to ESD objectives and background. Introduction to Sustainable Development Goals (SDGs) and Millennium Development Goals (MDGs).	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第2回	**学校教育におけるESD：ユネスコスクール** Discuss the outline of how ESD has been applied in public education in Japan. Specifically, we will have an introductory study of the efforts and actual situation of UNESCO Schools.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第3回	**ESDとカリキュラム： Principles and practice of curriculum design** In this class, we will look at actual, practical, examples of what is being done in junior high/high schools in Japan for the teaching of ESD. We will also study the basics of how to understand curriculum design and implementation.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第4回	**ESDの実践にあたって** In this class we will study real world examples in some detail. We will also look at other factors such as lifelong learning and global citizenship.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第5回	**Sustainable Development Goals (SDG's) Part 1** In this class, we will begin our study of the sustainable development goals in detail. We will become familiar with the global challenges that affect us all from an international perspective.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間

第6回	**Sustainable Development Goals (SDG’s) Part 2** In this class we will continue our in-depth study of the SDG’s from an international perspective. We will look at real world issues and what other schools from other countries are doing about selected SDG’s.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第7回	**グローバルシティズンシップ教育とESD Part 1** In this class we will study in detail the concept of global education and global citizenship. We will look at educational methods and models from an international perspective.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第8回	**グローバルシティズンシップ教育とESD Part 2** In this class we will continue to study in detail the concept of global education and global citizenship. We will look at educational methods from an international perspective. Students will choose an overseas educational model for group discussion.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第9回	**グローバルシティズンシップ教育とESD Pros and Cons** In this class, students will learn and practice the basics of debate. The two topics will be the pros and cons of global citizenship education and education for sustainable development.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第10回	**The Four Dimensions of ESD** In this class, students will learn how to teach ESD content, design pedagogy and learning environments, evaluate learning outcomes, and empower learners of any age to help with societal transformation. Students will choose a dimension for group discussion.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第11回	**多文化共生教育とESD** In this class, we will discuss the basics of multiculturalism and multicultural education.	In class, students will read and discuss the materials distributed in class to deepen their understanding of the contents, and briefly summarize their in class notes, ask questions, and share opinions/ideas.	4時間
第12回	**国際理解教育をデザインする Part 1** In this class, we will review and discuss all the topics to date. Students will form teams for discussion and begin selection of a topic for presentation. We will begin research and analysis with the support and guidance of the instructor.	Group work, research, and presentation preparation/project-based learning.	4時間
第13回	**国際理解教育をデザインする Part 2** In this class, we will continue research and analysis with the support and guidance of the instructor to prepare for the final presentation.	Group work, research, and presentation preparation/project-based learning.	4時間
第14回	**国際理解教育をデザインする Part 3: Presentations and class conclusion** Final project-based learning presentations of each team’s topic about education for sustainable development, presentation reflections, and course wrap up by the instructor.	Final presentations and course conclusion/wrap up.	4時間

433

授業科目名	英語ボランティアⅡ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、ボランティア活動の教育的意義を理解し、自分の専門の学びにつながるボランティア活動を経験しその意義を体験することを目的とします。また、本授業での経験を通して、将来教員として効果的なボランティア活動を指導できるようになることも目指します。授業では、ボランティア活動が個人の成長、変化にどのように影響するのかについて様々な事例を見ながらその教育的意義を学びます。その上で、自分の成長につながるボランティア活動を計画し、実施し、事後の振り返りを通して、自らの成長、今後の課題をまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	ボランティア活動を通して、自分の専門の学びを深める。	ボランティア活動の意義を理解し、自分の専門を生かしたボランティア活動ができる。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		自分の学びを深めることができるボランティア活動を実践することができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		ボランティア活動を通して、自分の課題を見つけることができる。

学外連携学修

有り(連携先：教育実習予定先学校)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習課題	20 %	： 事前学習の課題の提出状況、およびその内容をA・B・Cの３段階で評価します。
ボランティア活動計画書	20 %	： 自分が行うボランティア活動が自分の学びとどのようにつながり、どのような効果があるのかをしっかりと計画書にまとめられていることを評価します。
活動報告書	20 %	： 日々の活動の振り返りの記述内容をA・B・Cの３段階で評価します。
事後発表	20 %	： ルーブリックに基づき評価します。
期末レポート	20 %	： ルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

自分で英語を使ったボランティア計画を立てて実行できることが履修条件になります。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 個人研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、ボランティア活動要件等の確認** 授業の目的の確認、ボランティア活動の要件、今後のスケジュールおよび手続きの確認	ボランティア活動とは何かについてのまとめ	4時間
第２回	**ボランティア活動の歴史と教育的意義** ボランティア活動がどのような思考に基づき、コミュニティーにおいてどのような役割を果たすのか、そしてボランティアを教育プログラムとして実施することの意味について考える。	ボランティア活動の実例の調査	4時間
第３回	**ボランティア活動の実例研究** 様々なボランティア活動の実例についてその効果に関するディスカッション	サービスラーンングとはなにかについての調査	4時間
第４回	**サービスラーニング** サービスラーニングの教育プログラムとしての意義と効果を学ぶ。	サービスラーニングの実例の調査研究	4時間
第５回	**サービスラーニングの実例** 様々なサービスラーニングの実例について調べてきた内容を発表し、その教育的意義について学ぶ。	ボランティア活動計画書の作成	4時間
第６回	**ボランティア活動計画の発表** ボランティア活動計画の発表、意見交換、修正	マナー・危機管理のためのケーススタディー課題	4時間
第７回	**研修参加のためのマナー・危機管理講習** 様々な場面を想定し、どのように対応するべきかについてディスカッションを行う。	ボランティア活動計画書の最終確定（危機管理の視点を加える）	4時間
第8-12回	**ボランティア活動実施** ボランティア活動実施と日誌作成	日々の振り返り日誌	4時間
第13回	**事後学習（研修の振り返り）** 研修での学びについてのグループディスカッション	発表の準備、最終レポート作成	4時間
第14回	**事後学習（研修のまとめ発表）** 研修のまとめをPPTにまとめて発表する。	発表資料の校正と提出、最終レポート完成	4時間

432

授業科目名	**海外英語教育演習Ⅰ**				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、１）海外での英語研修を経験し、日本の学校での英語教育との類似点・相違点について考え、英語教育についての知見を深めること、２）海外の学校（小学校・中学校・高等学校など）の視察を通して、日本とは異なる教育制度、教育法について知ること、３）視察先の学校の教員や児童・生徒、現地の大学生や留学生との交流を通して、グローバルコミュニケーション力の向上をはかることを、目標とする。事前事後の調査、ふりかえり、帰国後の発表を行うことで、海外研修での学びを深められるように指導する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	海外の英語教育、学校教育についての知見を深める。	海外と日本の英語教育、学校教育を比較し、それぞれの利点と問題について自分の意見を述べることができる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		文化的背景の異なる人たちと効果的な意思疎通をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習課題	30 %	： 研修前に行う、事前学習でのレポートについて、調査すべき内容がしっかりまとめられているか、研修中の学びの目標がしっかり定められているかで評価します。
研修中の日誌	20 %	： 研修中の日誌について、その日の学びの記録、ふりかえり、次の日の学びの目標についてどの程度深く記述できているかを毎日A・B・Cの３段階で評価します。
研修後の発表	30 %	： 研修での学びをPPTにまとめ発表したものを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。
期末レポート	20 %	： 事前に提示するルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

しっかりとした問題意識を持って、自ら学ぼうとする姿勢で、事前・事後学習および海外での研修に参加してください。
特に、海外研修中は、安全に研修を進められるように、必ず引率教員の指示に従い、勝手な行動を取らないようにしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 個人研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 研修参加のための手続き、スケジュール、研修の目的の確認	英語研修先についての調査	4時間
第２回	**英語研修先について** 現地での英語研修先についての調査内容の発表と確認	訪問先の学校についての調査	4時間
第３回	**訪問先の学校について** 現地訪問校についての調査	異文化交流プログラムの準備	4時間
第４回	**現地での異文化交流プログラムについて** グループで準備してきた異文化交流プグラムを発表し意見交換をする。	危機管理講習資料の熟読	4時間
第５回	**研修参加のための危機管理講習（１）** 海外旅行保険アプリの設定、現地での生活上の注意、緊急時の対応、連絡体制等についての講習	危機管理のためのケーススタディー課題	4時間
第６回	**研修参加のための危機管理講習（2）** 様々な場面を想定し、どのように対応するべきかについてディスカッションを行う。	研修日誌の目標設定	4時間
第７-12回	**海外での研修** 海外での英語研修をとした英語教授法についての学習 海外の学校視察を通した教育システムについての学習 現地の児童、生徒、学生、留学生などとの異文化交流	日々の振り返り日誌	4時間
第13回	**事後学習（研修の振り返り）** 研修での学びについてのグループディスカッション	発表の準備	4時間
第14回	**事後学習（研修のまとめ発表）** 研修のまとめをPPTにまとめて発表する。	最終発表のビデオを提出	4時間
			時間
			時間

432

授業科目名	**海外英語教育演習Ⅱ**				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	8
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、長期（３－６ヶ月）の海外での研修を経験し、現地と日本の教育の類似点・相違点について考えます。現地での研修プログラムは教育学部で提供されているものから１つを選んで参加しますが、それぞれのプログラムでの現地研修を通して、外国語教育法についての知見を深めること、日本とは異なる教育制度、教育法について知ること、グローバルコミュニケーション力の向上をはかることを、目標とします。また、現地では科目担当者の指導の下、事前に計画したフィールド調査も実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	海外の外国語教育・学校教育についての知見を深める。	海外と日本の英語教育、学校教育を比較し、それぞれの利点と問題について自分の意見を述べることができる。

汎用的な力	
1. DP７.忠恕の心	異なる文化的背景を持つ人たちと意思疎通ができ交流することができる。
2. DP３.社会への貢献態度	自らの研究課題を設定し、担当教員の指導のもと、現地でのフィールド調査を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習課題	20 %	： 研修前に行う、事前学習でのレポートについて、調査すべき内容がしっかりまとめられているか、研修中の学びの目標がしっかり定められているかで評価します。
研修中のレポート	20 %	： 研修中に、現地での学び・フィールド調査の記録、ふりかえり、次の学びの目標についてどの程度深く記述できているかについて定期的に提出してもらうレポートをA・B・Cの３段階で評価します。
研修後の発表	20 %	： 研修での学びをPPTにまとめ発表したものを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。
期末レポート		： 研修中に実施したフィールド調査および研修で学んだことをまとめたレポートを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。

40　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は、英語力および１年次科目の履修状況の条件を満たし、教育学部で参加が認められた学生のみ履修することができます。
しっかりとした問題意識を持って、自ら学ぼうとする姿勢で、事前・事後学習および海外での研修に参加してください。
長期の研修になりますので、事前の危機管理講習をしっかりと理解し、自分の健康管理、安全管理は自己責任でしっかりと行ってください。現地滞在中は、常に法律（現地および日本の法律）を遵守した行動をとり、身に危険がおよぶ可能性のある行動は厳重に謹んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　適時

場所：　個人研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 研修参加のための手続き、スケジュール、研修の目的の確認	滞在都市についての調査	4時間
第２回	**滞在都市について** 滞在都市についての調査内容の発表と確認	研修先のについての調査	4時間
第３回	**研修先について** 研修先の施設についての調査内容の発表と確認	研修プログラムについての調査	4時間
第４回	**研修プログラムについて** 研修プログラムについての調査内容の発表と確認	ホームステイ先についての調査	4時間
第５回	**ホームステイ先について** ホームステイについての調査内容の発表と確認	危機管理講習資料の熟読	4時間
第６回	**研修参加のための危機管理講習（１）** 海外旅行保険アプリの設定、現地での生活上の注意、緊急時の対応、連絡体制等についての講習	危機管理のためのケーススタディー課題	4時間
第７回	**研修参加のための危機管理講習（２）** 様々な場面を想定し、どのように対応するべきかについてディスカッションを行う。	フィールド調査テーマの設定準備	4時間
第8回	**現地でのフィールド調査の準備（１）：テーマの設定** 現地で実施するフィールド調査のテーマの設定	フィールド調査のテーマに関する資料収集	4時間
第9回	**現地でのフィールド調査の準備（２）：関連資料の確認** 現地で実施するフィールド調査のテーマの背景知識の確認と指導	フィールド調査実施計画	4時間
第10回	**現地でのフィールド調査の準備（３）：フィールド調査の実施計画** 現地で実施するフィールド調査の実施計画の確認と指導	海外渡航準備	4時間
第11-56回	**海外での研修** 研修プログラムへの参加 現地でのフィールド調査の実施 定期的な（３ヶ月のプログラム：週１回、６ヶ月のプログラム：週２回）のミニレポート	事後学習（研修の振り返り）での報告の準備	4時間
第57回	**事後学習（研修の振り返り）** 研修で学んだことについての振り返りとディスカション	発表の準備	4時間
第56回	**事後学習（研修のまとめ発表）** 研修のまとめをPPTにまとめて発表する。	発表資料の校正と最終レポートまとめ	4時間

433

授業科目名	英語イマージョン教育Ⅰ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

カナダでは1960年代よりイマージョン・プログラムにより、言語教育が行われてきた。これを応用した外国語教育は、2000年代に入り世界の各地で広く実践されている。日本では1990年代より始まってたが、今日では公立私立を問わず、初等教育から高等教育の教育現場で、おもに英語教育の一つの取り組みの方法として、英語イマージョン教育と呼ばれ運用されている事例が各地に見られる。このコースでは、英語イマージョン教育の効用を課題も交えながら、言語習得及び言語学習の理論の視点から考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英語イマージョン教育に関する知識	言語習得及び学習理論を理解し、それに基づき実践的方法をグループで説明できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		課題を発見し、それを自ら解決する方法を習得する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)

プレゼンテーション後、全体に向けてコメントします。
討議について、適宜、フィードバックやアドヴァイスします。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	10 %	： 授業活動への積極的な関与がなされているのかどうか、判断する。
提出課題	30 %	： 課題について、十分な考察がなされているのかどうか、評価する。
最終レポート	30 %	： 授業で学んだことを、修得できているのかどうか、判断する。
授業内発表	30 %	： 課題について、十分な考察がなされているのかどうか、評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

大喜多喜夫　・To Learn How to Teach English　・関西学院大学出版会　・2015　年

参考文献等

「中学校学習指導要領」
「高等学校学習指導要領」
「英語教員のための応用言語学」（昭和堂）
「英語教員のための授業活動とその分析」（昭和堂）
「バイリンガルな日本を目指して―イマージョン教育からわかったこと」（学樹書院）
「みんなが輝く小学校英語―岡山市立石井小学校『イマージョン教育』の取り組み」（啓林館）

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の授業については、あらかじめその範囲を内容を予習し、十分理解して授業に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業で指示する

場所：　授業で指示する

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の進め方や成績評価についての全般的な説明をします。とくに、毎回の授業で学習する教科書の範囲については、どのような点に留意し予習すべきかを確認するとともに、それが最終の評価に、どのように関係するかを説明します。また、言語教育におけるイマージョンの位置づけを理解し、その歴史の考察を深めるとともに、その特徴を理解します。	教科書の構成を理解し、学習方法を、各自考えておいてください。	4時間
第2回	**英語イマージョン教育におけるリスニングについての考え方** Acquisition-oriented listening とlearning-oriented listening との違いと、その具体例についての知識を深めるなかで、英語の授業はできるだけ英語でという、英語教育の流れを理解する一方で、learning-oriented listening の功罪についての考察を深めます。	二つのリスニングについて、各自の中学校・高等学校での授号活動を振り返りましょう。る	4時間
第3回	**英語イマージョン教育におけるインプット理論** Natural approach におけるinput の考え方が、英語イマージョン教育にはいかに生かされているのか、また、Natural approach だけでは、その効果が充分に理解されない英語イマージョン教育の特徴についても議論を深めます。	インプット理論について母語の習得に照らして考えをまとめておきましょう。	4時間
第4回	**インプット理論の英語授業への応用** Acquisition-oriented listening の英語授業活動への応用例としての Total Physical Response とそのゲーム化された Simon Says を紹介・実践し、さらにこれらの授業活動とlearning-oriented listening の根本的な違いを、多種な例を挙げながら考察を深め、今後の中等教育での英語教育の在り方を探ります。	インプット理論の特徴を、言語習得の視点から捉えましょいう。	4時間
第5回	**オーディオリンガル方式について** Audio-lingual method は語学教育現場では pattern practice や minimal-pair practice として一般に知られていますが、ここではAudio-lingual method　が誕生した時代の背景を探りながら、この教え方の功罪についての理解を深めます。	オーディオリンガル方式の当時の時代的な価値をまとめておきましょう。	4時間
第6回	**コミュニケーション能力の育成** Communicative Language Teaching とは、学習者の communicative competence を育成する多様な言語指導の形態を総括してさしますが、それでは元来、mommunicative competence とはどのように定義されているのでしょうか。ここでは、最もオーソドックスな linguistic competence, socio-linguistic competence, discourse competence, strategic competence を詳説します。	言語能力、社会言語能力、談話能力が欠如すればどのような結果を招くのか、考えましょう。	4時間
第7回	**コミュニケーション能力の育成を目指した授業内活動** 学習者のコミュニケーション能力の育成の目指す教室内の活動、いわゆるコミュニケーション活動にはどのようなものがあるのかを、実例とともに理解します。具体的には、information-gap 活動、opinion-gap 活動、role-play, speech などを体験したいと思います。	各自、中学校・高等学校での英語教育で、どのようなコミュニケーション活動を経験したか、振り返りましょう。	4時間
第8回	**文法訳読式の特徴** Grammar-translation method が誕生した時代背景を理解し、この言語学習方法が必ずしも、今後の英語教育の主流となり得ない理由を学びます。この学習方法は学習者の bottom-up reading とメタ言語の知識を深めるという点では優れた学習方法ですが、日本が置かれた国際的な状況を考えれば、或いはこれを背景にした社会の要請から考えると、新たな視点に立った言語教育の構築が望まれる。	文法訳読式の授業の功罪を振り返り、まとめてみましょう。	4時間
第9回	**イマージョン教育でのライティングの考え方**	各自、中学校・高等学校でのライティングを振り返り、どのようのことを経験したか、まとめてみましょう。	4時間

	長らく日本の英語教育でのライティング活動は、form-focused は活動が主流でした、しかしこればかりだとライティング本来の目的は達成できません。ライティングはもともと、書き手が自分の意見や主張を、文字を媒体にして、既知の者、未知の者に伝える行動です。このような考えに基づいて、今、叫ばれているのが meaning-focused なクリエイティブ・ライティング活動です。		
第10回	**イマージョン教育での発音指導のありかた** 英語イマージョン教育では、どうしてもその内容にばかり学習者の関心が集まるため、学習者自身の発音指導には責任ある教員による、正確な発損指導が重要になります。学習者の英語の聴解能力を高めるには、学習者自身による正しい音韻の知識が不可欠になる。ここでは、日本人の英語学習者に必要な発音指導上の留意点についての理解を深めたい。	中学校・高等学校での発音指導を振り返り、まとめておきましょう。授業外学修課題に関しては授業で指示する	4時間
第11回	**イマージョン教育から示唆されるタスクの統合の考え方** これからの英語学習活動の目指すべき学習活動として重要視されているのが、4領域5技能の言語運用能力を統合して育成する、つまり multi-skilled language activity です。ここでは、タスクの統合をどのようにすれば実践できるかを、実際の文部科学省検定教科書を使用して、その具体例を示すことで、この指導方法の効果を体験したいと思います。	中学校・高等学校での英語活動をタスクの統合という点から振り返り、まとめてみましょう。	4時間
第12回	**イマージョン教育から示唆されるクラスルーム・ダイナミズム** クラスルーム・ダイナミズムについて学ぶことで、クラスを効果的に運営する上での多様な視点に立った具体的方策を知ることができます。具体的には teacher talk, active learning, さらにはevaluation などの効果的な運用方法について理解を深めることができます。ここでは、とくに英語教員として、teacher talk を効果的に進める上での留意点を考察したいと思います。	中学校・高等学校での授業を、teachier talk の点から振り返り、まとめておきましょう。	4時間
第13回	**英語イマージョン教育の実践** 英語イマージョン教育の事例を広く調査し、それをクラスで報告していただきます。これにより、この英語学習形態が、今後の一つの流れになるための、さらなる克服すべき問題点にも視点を広げ、これからの日本における英語教育についての考えを深めることができます。	英語イマージョン教育を実践するに当たって、教員に要求されることは何だと思いますか。まとめておきましょう。授業外学修課題に関しては授業で指示する	4時間
第14回	**イマージョン教育にヒントを得る英語教育** イマージョン教育にヒントを得た外国語教育の事例が、世界で、また日本でひろく見られる背景には何があるかを正しく理解するために、このコースで学習した言語取得・言語学習理論を振り返り、各自が英語教員となるための指針としたいと思います。	英語教員となるため新たな目標を設定しましょう。	4時間

433

授業科目名	英語イマージョン教育Ⅱ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、「英語を英語で教える」授業を立案し、実践することを通して、英語教員としての素養を身につけることを目指します。いくつかの実践例を分析し、効果的な英語での授業を組み立てるために必要なこと考え、それを自らの授業に取り込みながら授業を計画し実践していきます。授業では他の受講者の授業計画や模擬授業についてのグループディスカッションを繰り返すことで、「英語で教える」ために必要な視点を身につけ、自らの授業改善に生かせるよう指導します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	英語で教える授業の立案、実践ができる。	英語で授業を行うことができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループワークや生徒の視点に立った授業計画の立案、実践を通して、他者の視点からものを考える力を養成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業準備課題	20 %	： 授業でのディスカションのまとめや模擬授業の評価シートにしっかりと分析的な視点で記載できているかで評価します。
授業計画（指導案）	20 %	： 最終提出する授業計画（指導案）をルーブリックに従って評価します。
授業実践	30 %	： 授業実践をルーブリックに従って評価します。
最終レポート	30 %	： レポートをルーブリックに従ってで評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

この授業では模擬授業の計画および実践が授業活動の中心になります。
自分が模擬授業を担当する時はもちろん、その他の授業もやむ終えない事情がない限り全て出席することが基本となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で告知

場所： 個人研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**導入：英語イマーション教育とは** 英語イマージョン教育の実践例とその効果 グループディスカッション：「英語を英語で教える」ことについての課題と解決法	グループディスカッションのまとめ	4時間
第2回	**実践例（1）：小学校** 実践例の視聴と授業計画の分析	実践例から学んだことのレポート	4時間
第3回	**実践例（2）：中学校** 実践例の視聴と授業計画の分析	実践例から学んだことのレポート	4時間
第4回	**実践例（3）：高校** 実践例の視聴と授業計画の分析	実践例から学んだことのレポート	4時間
第5回	**授業計画立案** 「英語で教える」授業を計画作成	授業案（指導案）を完成させる	4時間
第6回	**授業計画についての意見交換** 授業案（指導案）についての発表と意見交換	授業案（指導案）の修正	4時間
第7回	**授業実践とグループディスカッション（1）：模擬授業第１グループ１回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第8回	**授業実践とグループディスカッション（2）：模擬授業第2グループ１回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第9回	**授業実践とグループディスカッション（3）：模擬授業第3グループ１回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第10回	**授業実践とグループディスカッション（4）：模擬授業第4グループ１回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第11回	**授業実践とグループディスカッション（5）：模擬授業第1グループ2回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第12回	**授業実践とグループディスカッション（6）：模擬授業第2グループ2回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第13回	**授業実践とグループディスカッション（7）：模擬授業第3グループ２回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	模擬授業の評価シート	4時間
第14回	**授業実践とグループディスカッション（8）：模擬授業第4グループ２回目** 模擬授業の実践と授業後の振り返り（グループディスカッション）	最終レポート	4時間

431

授業科目名	特別支援教育原論				
担当教員名	瀧本一夫				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府立の支援学校で35年間、大阪府教育委員会(支援教育課)で１年勤務する。在職中大阪府支援コーディネーター(３年)、大阪府立学校指導教諭会会長(５年)を兼務する。				

授業概要

特別支援学校教諭普通免許状（知的障害・肢体不自由・病弱）を取得する上での原論の位置づけであり、テーマは特別支援教育に係る理念、歴史及び思想、社会的・制度的・経営的事項を知り、原論を理解することである。具体的には、2012年の中教審報告を手掛かりに日本型インクルーシブ教育システムへの道を探った上で、障害領域に応じた特別支援教育、多様な学びの場における特別支援教育に即して、理念、歴史及び思想、社会的・制度的・経営的事項を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	特別支援教育の原論に係る幅広い教養	特別支援教育に係る理念、歴史及び思想、社会的・制度的・経営的事項を幅広く知り、理解する。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	自らテーマを設定してレポート作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

毎回の講義開始までに「予習カード」を、終了時に「小テスト」を提出します。
また、班討論やレポート作成などにも取り組みます。
こうした遣り取りや取り組みを通じて、「主体的で対話的な深い学び」の実現を志向しています。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、不可とします。
教科書を予習復習するとともに、レポート作成によって学修の発展と深化を図ります。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
予習カード（１点×１４回＝１４点）	14 %	：秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
小テスト・時事課題（４点×１４回＝５６点）	56 %	：秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
最終レポート（３０点）		：秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
渡部昭男	・改訂新版　障がいのある子の就学・進学ガイドブック(978-4-8208-0721-6)	・日本標準	・2022　年

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

１）特別支援学校教諭普通免許状（知的障害・肢体不自由・病弱）を取得するための講義群の１科目であり、
・特別支援教育の基礎理論に関する科目に該当します。
２）本科目は毎回「２単位時間」の対面講義に対して４時間の授業外学修が求められます。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、テキスト等を参考にその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜～木曜の都合の良い時

場所：　講義終了時または研究室

備考・注意事項：　初回授業にて説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**２０１２年中教審「インクルーシブ教育システム」報告のインパクト　本時の時事課題** 障がいの種類と程度に応じて分離型の「特殊教育」から個々のニーズに応じた包摂型の「特別支援教育」への制度転換の背景にある「インクルーシブ教育」とは何かについて理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第２回	**諸外国からの示唆１：スウェーデン・イギリス　本時の時事課題** インクルーシブ教育を具体例を、スウェーデンとイギリスの事例から理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第３回	**諸外国からの示唆２：オーストラリア・アメリカ　本時の時事課題** インクルーシブ教育の具体例を、オーストラリアとアメリカの事例から理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第４回	**日本型インクルーシブ教育システムへの道　本時の時事課題** 諸外国の具体例を受けて、日本のインクルーシブ教育システムへの道を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第５５回	**障害者権利条約の批准発効と障害者差別解消法の施行　本時の時事課題** インクルーシブ教育と深い関係にある障害者権利条約について、国連での採択・発効、日本での批准・発効、障害者差別解消法の施行について理解する。 インクルーシブ教育をテーマにグループで話し合う。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第６回	**視覚障害者の教育　本時の時事課題** 横浜市立盲学校の映像を観ながら、視覚障害者の教育を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第７回	**聴覚障害者の教育　本時の時事課題** グラハム・ベルの映像を観ながら、聴覚障害者の教育を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第８回	**知的障害者の教育　本時の時事課題** アメリカのピーター君の映像を観ながら、知的障害者の教育を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第９回	**肢体不自由者の教育　本時の時事課題** バリバラの映像を観ながら、肢体不自由者の教育を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第１０回	**病弱者・身体虚弱者の教育　本時の時事課題** 慢性疾患の子の映像を観ながら、病弱者・身体虚弱者の教育を理解する。 さまざまな障害と個々のニーズに応じた教育のあり方をテーマにグループで話し合う。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆	4時間
第１１回	**特別支援学校学習指導要領の変遷と概要（自立活動を含む）　本時の時事課題** 神戸大学附属校及び鳥取大学附属校を事例にしながら、特別支援学校の学習指導要領の変遷と概要（自立活動を含む）を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆	4時間
第１２回	**特別支援学校の教育／特別支援学級の教育　本時の時事課題** 特別支援学校及び特別支援学級の映像を観ながら、特別支援学校の教育を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆	4時間

第１３回	**通級による指導、通常学級における特別支援教育　本時の時事課題** 発達障害の子どもの映像を観ながら、通級による指導、通常学級における特別支援教育を理解する。 通常学級・通級指導、特別支援学級・学校の教育をテーマにグループで話し合う。	テキストの復習と予習、「レポート」の執筆	4時間
第１４回	**特別ニーズの教育　本時の時事課題** 障害以外の理由による特別ニーズ児の教育、たとえば不登校、貧困家庭、外国籍の子どもたちの教育を理解する。 持参したレポートをグループで発表し合う。	半期の講義の振り返り、レポートの提出	4時間

431

授業科目名	**視覚障害総論**				
担当教員名	辻岡均				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校、知的支援学校、視覚支援学校、聴覚支援学校小学部勤務の経験 視覚支援学校では、全盲児、弱視児、重複児の担任、外部支援（教育相談、通級指導、巡回指導、理解教育研修会講師）担当				

授業概要

授業の概要
1.　配布資料により講義する。
2. 視覚情報は、全情報の80%以上を占める。そのため、視覚障害は感覚障害であるとともに、情報障害でもある。そのことを様々な方法で体験して学習をすすめる。
3. 視覚障害児教育は、全盲児教育、弱視児教育、重複児教育があり、自立活動や外部支援や支援制度などについて学習する。
4. 視覚障害者の手引きの仕方や、点字についても学習する。
5. 授業では、視覚障害児の教材教具を触りながら、認知過程や、学習の特徴を理解できるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	視覚障害児の病理・生理・心理について知り、障害者を取り巻く状況について学ぶ。	視覚障害児の見えや眼疾、心理的な成長、社会的な背景や制度について理解を深める。
2. DP２.教育実践の省察・研究	視覚障害児教育の概要と特徴、教材・教具などについて学ぶ。	視覚特別支援学校の教育全般（自立活動、支援教育、合理的配慮、理解教育など）について知り、幼児、全盲児、弱視児、重複児の教育について理解を深める。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		全盲児の触察体験や弱視児の見えの体験を通して、視覚障害児の理解過程や困り感を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20　％	：　１．授業時の参加度を評価する ①メモを取る。積極的に発言、質問等をすることができる。
定期試験	80　％	：　２． ①視覚障害児教育の概要について理解し、授業内容を踏まえてまとめ、自分の意見が述べられている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
・青柳まゆみ・鳥山由子　編著『視覚障害教育入門』ジアース教育新社　ISBN:9784863711983
・猪平眞理　編著　『視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える』　　慶応義塾大学出版会 ISBN:9784766424973
・香川邦生　編著　『視覚障害教育にかかわる方のために』　慶應義塾大学出版会
・五十嵐信敬　著　『視覚障害幼児の発達と指導』　コレール社 ISBN:9784876371600
・文部科学省　『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。
メールには必ず氏名と所属を明記すること。（thigeok@gmail.com）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**第１回：視覚障害児の病理** ・視覚器の構造と主な眼疾について知る。 ・見る仕組みと視覚障害の主な見え方を、シミュレーションレンズを使っての体験する。 ・視力以外の視機能（視野や眼球運動、明暗、色覚など）についての理解、その検査について知る。 ・視力がよくても見る力の弱い例について知る。	・「ロービジョン」について調べてまとめる。	1時間
第2回	**第２回：視覚障害児のてびき、点字のしくみ** ・視覚障害児・者の手引きの仕方を理解し、声かけから配慮について考える。 ・点字の仕組みと読み書きについて学習する。	「てびきの仕方」についての動画を視聴する。	1時間
第3回	**第３回：視覚障害児教育の全体像** ・視覚支援学校の教育の特色。 ・自立活動のいろいろ･･･歩行訓練、触察訓練、視知覚訓練、日常生活訓練、障害受容。 ・幼稚部、小学部、中学部、高等部、職業科の各部の教育の特色について。 ・教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメント	・筑波大学付属視覚特別支援学校など視覚支援学校のHPを調べ、何を伝えようとしているのかを考える。	1時間
第4回	**第４回：早期教育と幼児教育** ・視覚障害児の障害特性と、各年齢の発達ステージの発達特性について晴眼児の発達と比較しながら考える。 ・早期教育の必要性と、年齢に合わせた支援、保護者支援について考える。	早期教育の必要性についてまとめる。	1時間
第5回	**第５回：全盲児教育　教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメント** ・指先で点字を読み、両手で触り学習をすすめる全盲児の学習方法について知る。 ・学習指導内容、教材について体験しながら理解をすすめる。	点字教科書で学習する子どもの認知過程について考える。	1時間
第6回	**第６回：弱視児教育　教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメント** ・弱視児の見えと学習課題について知る。 ・学習指導内容と教材、視知覚訓練、ビジョントレーニングについて学ぶ。	クラスに弱視児が在籍した時の配慮を考えてまとめる。	1時間
第7回	**第７回：重複児教育** ・重複児の発達について学び、発達特性について考える。 ・日常生活、手指、運動、感覚などの学習指導内容について学ぶ。	重複児の課題についてまとめる。	1時間

431

授業科目名	聴覚障害総論				
担当教員名	中瀬浩一				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	聾学校で22年間、聴覚障害者の高等教育機関で3年間、中学校で4年間の実務経験				

授業概要

聴覚に障害のある幼児、児童及び生徒への指導を行う際には、必要とされる知識が数多くあります。本授業は、聴覚に関わる生理や病理やきこえにくいことによりどのような心理的状況になるのかの理解をした上で、発達段階に沿ってどのような指導法がなされているのかの理解を図り、聴覚に障害のある幼児、児童及び生徒への支援について考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	聴覚に障害のある子どもの心理、生理、、病理、教育課程、指導法に関する知識の理解。	聴覚障害のある子どもの教育を担う上で必要な知識を理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		聴覚に障害のある子どもが抱えている教育的な課題を把握できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前および事後学修に関するシート等	35 %	： 学びに向かうための準備と振り返りができているか。
授業中の小レポート、グループワーク等	55 %	： 授業内容を理解し、積極的に取り組めているか。
最終レポート	10 %	： 授業内容を理解し、自らの視点で論じることができているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・「聴覚障害」（障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～）	・文部科学省ホームページ	・ 年
	・https://www.mext.go.jp/content/20210629-	・	・ 年

mxt_tokubetu01-000016487_02.pdf

参考文献等

必要に応じて授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業では、グループワークなどを多数取り入れる。積極的に参加できない者は評価の対象としない。
出席による加点はない。授業に出席の上、各種課題に取り組むことで評価で行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所：

備考・注意事項：　質問等はメールで行うこと。その際、「大学名・授業科目名・学部名・名前・学籍番号・返信先メールアドレス」を必ず明記すること。
メールアドレスは授業時間内に提示する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**聴覚の生理と病理** 聴覚に関わる医学的な知識の理解を図る。また、きこえに仕組みについて理解する。	文部科学省発行「聴覚支援資料」の「聴覚障害について」を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第2回	**きこえの評価と聴覚補償** 聴力の評価、聴覚補償機器等について理解する。	文部科学省発行「聴覚支援資料」の「障害の状態の把握」を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第3回	**きこえにくさの心理** ききとりにくいことによって生じる心理について理解する。	配付資料を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第4回	**聴覚障害教育の歴史** 日本におけるろう教育の歴史を理解し、現在の聴覚障害教育の状況を把握する。	配付資料を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第5回	**聴覚障害教育の教育課程と指導法（幼稚部・小学部）** 特別支援学校（聴覚障害）の、幼稚部・小学部段階での指導内容について理解する。	文部科学省発行「聴覚支援資料」の「聴覚障害のある子供に必要な指導内容」を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第6回	**聴覚障害教育の教育課程と指導法（中学部・高等部）** 特別支援学校（聴覚障害）の、中学部・高等部段階での指導内容について理解する。	文部科学省発行「聴覚支援資料」の「聴覚障害のある子供に必要な指導内容」を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間
第7回	**聴覚障害児への教育的支援・心理的支援** きこえにくい子どもへの教育的・心理的支援について理解する。特に通常の学級に在籍する子どもを想定した内容を行う。	文部科学省発行「聴覚支援資料」の「聴覚障害のある子供の教育における合理的配慮の観点」を熟読し、授業内容の事前学修および復習を行う。	2時間

431

授業科目名	**発達障害総論**				
担当教員名	鈴木克彦				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	発達障害児を含む知的障害児を対象とする特別支援学校に勤務。また、教育委員会で特別支援教育行政に従事。発達障害児の教育的支援体制整備に参画。（全7回）				

授業概要

言語障害，情緒障害，限局性学習症(LD)，注意欠如多動症(ADHD)，自閉スペクトラム症(ASD)などの発達障害児の特性について理解し、その教育に関する基礎知識や指導法について学び,幼児児童生徒の人権を尊重し一人一人に寄り添った教育の大切さ，保護者や医療，福祉等の専門機関と連携して指導にあたる重要さに気づくことをねらいとします。できるだけ小グループでの協議や調査，調査結果のプレゼンテーションなどを取り入れ、学生が主体的・多面的に考察できるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	発達障害に関する基礎知識	インターネットや書籍の情報などをもとに、発達障害児の特徴や配慮点を理解することができる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	学修した知識を生かし発達障害児に配慮した指導について立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の小レポート	70 %	： 発達障害児の特性や教育に関する基礎知識を持ち、現状をふまえて課題解決に向けた留意点を示すことができているかどうかを判断する。
定期試験（レポート）	30 %	： 発達障害児の教育に関する基礎知識や留意点を修得できているかどうかを判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示します。

場所： 初回授業時に提示します。

備考・注意事項： 詳細については初回授業にて説明します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発達障害児の障害と行動の全般的な理解** 言語障害，情緒障害，学習障害(LD)，限局性学習症，注意欠陥・多動性障害(ADHD)等の障害の様子と行動上の特徴について知る。	ふりかえりシートの作成：言語障害、理解と支援，コミュニケーション	2時間
第2回	**言語障害児，情緒障害児の発達特性と教育** 言語障害、情緒障害の子どもの心理と教育の現状について知る。	ふりかえりシートの作成：情緒障害，理解と支援	2時間
第3回	**学習障害(LD)児の発達特性と教育、障害特性に応じた教育課程とカリキュラム・マネジメントの理解** 学習障害（LD）、限局性学習症(SLD)の子どもの心理と教育の現状について知る。	ふりかえりシートの作成：学習障害（LD）・限局性学習症（SLD），理解と支援	2時間
第4回	**注意欠如・多動性障害（ADHD）児の発達特性と教育、障害特性に応じた教育課程とカリキュラム・マネジメントの理解** 注意欠如・多動性障害(ADHD)の子どもの心理と教育の現状について知る。	ふりかえりシートの作成：注意欠如・多動性（ADHD），理解と支援	2時間
第5回	**自閉スペクトラム症の発達特性と教育、障害特性に応じた教育課程とカリキュラム・マネジメントの理解** 自閉スペクトラム症の子どもの心理と教育の現状について知る。	ふりかえりシートの作成：自閉スペクトラム症（ASD）、理解と支援	2時間
第6回	**二次障害、親・家族の支援** 発達障害の発生頻度、二次障害、親・家族への支援、障害者の権利に関する条約、合理的配慮などについて学び、発達障害の理解と支援について学修を深める。	ふりかえりシートの作成：二次障害の予防、親・家族への支援	2時間
第7回	**保護者、関係機関との連携：自立活動を関連づけて** 学校と保護者、医療・福祉等関係機関との連携、自立活動の指導と関連づけた授業設計などについて学び、発達障害の理解と支援について学修を深める。	定期試験に向けて，これまでの学修をふり返る。	2時間

431

授業科目名	**重度重複障害総論**				
担当教員名	藤澤憲				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床医として約30年の経験。耳鼻咽喉科専門医、精神科専門医・児童精神科医として子どもを中心にしたチーム医療の一員として診療を行ってきた。特に小児専門病院では重複障がい児の診療にあたってきた。（14回）				

授業概要

重度重複障害児者の心理・生理・病理を知り、教育・福祉・医療保障に係る理念思想・歴史・法制度について探求する力を養う。教育課程編成の実際や具体方策並びに暮らし・地域支援の現状と課題を理解する。今の日本では、どのように重い障害があっても希望すれば、医療と福祉を結合させながら６歳から１８歳までの１２年間の学校教育を受けることができる。この世界に類例をみない重度重複障害教育の地平を切り拓いてきた先達の営みを学び、更にこれからの課題についても学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	重度重複障害児者の理解	重度重複障害児者の病態を理解し学びへの応用を基礎を学修する。
2. DP２.教育実践の省察・研究	重度重複障害児者の教育課程編成の力	重度重複障害児者の教育課程編成を理解している（教育課程、教材教具、自立活動、個別の指導計画など）。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	テーマを探究しレポートが作成できる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解	多角的な視点を十分に理解し、応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

毎回の講義終了時に振り返りシートを作成します。
また、グループワークや発表などにも取り組みます。
GoogleClassroomを通じて、「主体的で対話的な深い学び」の実現を志向しています。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

授業中の発言も評価を行い、全体的な傾向についてコメントをします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	45 %	： 授業中の発言や毎回授業終了時の振り返りシートを評価します。予習・復習を基本とした積極的な授業参加が必要です。
特別授業レポート	10 %	： 秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
最終レポート		： 秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。

良：良好な成果を収めている。
可：学修の目標を達成している。
不可：学修の目標を達成していない。

45　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省2018『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』海文堂、ISBN-13　：　978-4303124243
・文部科学省2018『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂、ISBN-13　：　978-4304042294
・松元 泰英（著)2022『かゆいところに手が届く重度重複障害児教育』ジアース教育新社、ISBN-13　：　978-4863716308

履修上の注意・備考・メッセージ

特別支援学校教諭普通免許状を取得するための講義群の１科目です。本科目は毎回「1単位時間」の対面講義に対して２時間の授業外学修が求められます。参加型授業を行うため積極的な授業参加が求められます。授業内容は多岐にわたるため十分な復習が必要です。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて準備をしましょう。虐待についても学びます。必要にあわせて受講生にはカウンセリングを使用することを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で提示します。

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～概念・疾患・実態及び心理発達** 重度重複障害（児）の心理・生理・病理について、映像を視聴しながら概念・疾患・実態及び心理発達を理解する。	授業の復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第２回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～生理・病理を中心に学ぶ** 重度重複障害（児）の心理・生理・病理について、身体発達と病理について学び、教育の場での実際を理解する。	授業の復習と予習、「レポート」の構想	4時間
第３回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～医療的ケア児** 訪問教育・医療的ケアの実際を映像など視聴しながら学ぶ。さらに学習指導要領を学びながら医療的ケア児対応のあゆみと実践を理解する。	授業の復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第４回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～その実際（家族の視点より）** 重度重複障害（児）の学校生活を含む生活全般について、実際の家族より意見を伺いながら実際と課題について理解する。	授業の復習と予習、「レポート」の執筆準備	4時間
第５回	**重度重複障害児の教育課程編成（自立活動を含む合科統合）** 重症児教育の映像を視聴し、学習指導要領を学びながら、重度重複障害児者の教育課程編成を理解する（教育課程、教材教具、自立活動、個別の指導計画など）。	授業の復習と予習、「レポート」の執筆	4時間
第６回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～福祉政策** 数年ごとに刷新される福祉政策について理解し、重度重複障害児者の授業づくりにおける課題を理解する（個別の指導計画など）。	授業の復習と予習、「レポート」の執筆	4時間
第７回	**重度重複障害（児）の心理・生理・病理～社会的背景と今後の課題** 重度重複障害児者の暮らしと地域支援、その中での課題について理解する。	講義のの振り返り、レポート提出	4時間

431

授業科目名	**障害発達支援論**				
担当教員名	鈴木克彦				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	知的障害児、肢体不自由児を対象とした特別支援学校に教諭として勤務。その後、教育委員会にて特別支援教育行政に従事。その後、知的障害児を対象とした特別支援学校長を務めた。（全14回）				

授業概要

発達段階及び発達課題に応じた教育指導と発達支援、学校階梯・ライフステージ間における移行の課題と支援について知り、学習指導要領にある学びの多様性・連続性・個別性の実際を学ぶ。
発達段階及び発達課題に応じた教育指導と発達支援について乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期の時期に分けて取り上げる。その中で学校階梯・ライフステージ間における移行の課題と支援について取り上げ、保育・教育の課題とそれ以外の学びの場について考え、後半では就学、就労、生涯学習をそれぞれ各回のテーマとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	障害発達支援の観点から特別支援学校教諭に必要な知識・技能、職業理解を促す。	発達段階及び発達課題に応じた教育指導と発達支援、学校階梯・ライフステージ間における移行の課題と支援について知る。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		自らテーマを定めて探究し、レポートをまとめる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
予習カード（１点×１４回＝１４点）	14 %	:
シャトルシート（４点×１４回＝５６点）	56 %	:
最終レポート（３０点）	30 %	: 秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省・特別支援教育の教育要領・学習指導要領及び解説（ウェブ情報を活用）
・田中昌人・田中杉恵（1981-84）『子どもの発達と診断』（全５巻）大月書店 ISBN:第１巻978-4-27-240011-9 第２巻978-4-27-240012-6 第３巻978-4-27-240013-3 第４巻978-4-27-240014-0 第５巻978-4-27-240015-7
・明和政子（2012）『まねが育むヒトの心』岩波ジュニア新書　ISBN:978-4-00-500728-8

履修上の注意・備考・メッセージ

１）特別支援学校教諭普通免許状を取得するための講義群の１科目であり、
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
（中心領域:知的障害、含む領域:肢体不自由・病弱）に該当します。
２）本科目は毎回「２単位時間」の対面講義に対して４時間の授業外学修が求められます。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日10：30～11：00

場所： 講義終了時または研究室

備考・注意事項： 研究室：中央館５階118
メールアドレス：suzuki-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**学習指導要領にある多様性・連続性等の扱いと対応：知的障害、発達障害など** 第１回は、知的障害、発達障害の児童生徒に関する学習指導要領にある多様性・連続性等の扱いと対応について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの構想	4時間
第２回	**学習指導要領にある個別の指導計画、個別の教育支援計画（移行支援を含む）の策定と活用** 第２回は、学習指導要領にある個別の指導計画、個別の支援計画（移行支援を含む）の策定と活用について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの構想	4時間
第３回	**乳児期前半期の発達段階にいる障害児の教育と支援** 第３回は、乳児期前半期の発達段階にいる障害児の教育と支援について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの構想	4時間
第４回	**乳児期後半期の発達段階にいる障害児の教育と支援** 第４回は、乳児期後半期の発達段階にいる障害児の教育と支援について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆準備	4時間
第５回	**幼児期前期の発達段階にいる障害児の教育と支援** 第５回は、幼児期前期の発達段階にいる障害児の教育と支援について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆準備	4時間
第６回	**幼児期中期の発達段階にいる障害児の教育と支援** 第６回は、幼児期中期の発達段階にいる障害児の教育と支援について理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆準備	4時間
第７回	**幼児期後期の発達段階にいる障害児の教育と支援** 第７回は、幼児期後期の発達段階にいる障害児の教育と支援について理解する。 「発達段階及び発達課題に応じた教育指導と発達支援」をテーマにグループで話し合う。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆	4時間
第８回	**学童期前半の障害児の教育と支援：小学校・小学部の学校生活** 第８回は、学童期前半の障害児の教育と支援について小学校・小学部の学校生活から理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆	4時間
第９回	**学童期後半の障害児の教育と支援：小学校・小学部の学校生活** 第９回は、学童期後半の障害児の教育と支援について小学校・小学部の学校生活から理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆	4時間
第10回	**思春期の障害児の教育と支援：中学校・中学部の学校生活** 第１０回は、思春期の障害児の教育と支援について中学校・中学部の学校生活から理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの執筆	4時間
第11回	**青年期の障害児の教育と支援：高校・高等部の学校生活** 第１１回は、青年期の障害児の教育と支援について高校・高等部の学校生活から理解する。	予習と学修内容の復習、レポートの完成	4時間
第12回	**青年期から成人期の障害児の教育と支援：卒業後の生活への移行** 第１２回は、就労準備を通して青年期から成人期への移行を図る障害児の教育と支援について生涯学習の点から理解する。	予習と学修内容の復習、期末試験の準備	4時間
第13回	**幼児期から学童期へ、就学前から学校教育への移行の課題と支援（就学・進学）** 第１３回では、これまでの学修をふり返り、改めて幼児期から学童期へ、就学前から学校教育への移行の課題と支援（就学・進学）、それが学童期、思春期、青年期から成人期にどのようにつながっていくのかについて理解する。	予習と学修内容の復習、期末試験の準備	4時間
第14回	**青年期から成人期へ、学校から社会への移行の課題と支援とアクティブエイジング（就労・地域生活・生涯学習）**	ふり返りとまとめ	4時間

第１４回では、青年期から成人期へ、学校から社会への移行の課題と支援（就労・地域生活・生涯学習）について理解する。 また、壮年期から老年期へ、リタイア後への移行の課題と支援（アクティブエイジング）についても取り上げる。 「学校階梯・ライフステージ間における移行の課題と支援（移行支援計画の活用を含む）」をテーマにグループで話し合う。		

432

授業科目名	**知的障害者の心理・生理・病理**				
担当教員名	村田絵美・藤澤憲				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

心理領域に関しては、知的障害の基礎的知識について発達的な視点から講義する。また発達の法則について、主に幼児期から学童期までの発達を中心に講義する。生理・病理領域では、知的障害を伴う疾患の代表的なものや健康課題について講義する。また、青年期の知的障害のある生徒が直面する進路選択や学校生活における課題について講義する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	知的障害、および知的障害を併存する疾患に関する知識、および支援スキルの基礎	授業で得た知識を基に子どもの発達の状態を多角的に把握し、教育・支援につなげる
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		障害のあるなしにかかわらず、子どもの心理的理解ができ、教育・支援につなげることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
【心理】学期末のレポート	50 %	： 知的障害のある子どもを発達的に理解するとはどういうことか、またその意義は何かを理解できている。
【生理・病理】レポート	50 %	： 知的障害のある子どもを発達的に理解すること、どのような支援が必要なのか、その意義は何かを理解できているかを評価する。（村田）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

原則毎回出席するようにしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　初回授業時に提示します（村田）。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の進め方、成績評価に関する説明を実施する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第2回	**発達的視点から子どもを理解するとは①：障害児保育の実践記録映像から** 知的障害のある子どもの保育実践のビデオから子どもの姿を観察し、発達的視点から理解するとはどういうことかを体験的に学ぶ。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第3回	**発達的視点から子どもを理解するとは②：発達的視点から分析する** 幼児期前半の発達について概要を学び、これを踏まえた上で知的障害のある子どもの行動について分析を深める。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第4回	**知的障害とは** 知的障害の定義について、発達的視点を踏まえながら概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第5回	**知能検査・発達検査/発達診断** 知的障害のある子どものアセスメントの方法や、それらの限界について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第6回	**幼児期前期の発達と障害** 幼児期前期の子どもの発達と、生じやすい発達的課題について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第7回	**幼児期中期の発達と障害** 幼児期中期の子どもの発達と、生じやすい発達的課題について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第8回	**幼児期後期の発達と障害** 幼児期後期の子どもの発達と、生じやすい発達的課題について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第9回	**学童期前期から中期までの発達と障害** 学童期前期から中期までの子どもの発達と、生じやすい発達的課題について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第10回	**事例に学ぶ：知的障害のある子どもおよび大人の発達と発達診断** 知的障害のある子ども及び大人の発達とその診断について、事例に基づいて概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第11回	**知的障害をきたす疾患** 知的障害をきたす疾患について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第12回	**知的障害のある子どもの健康課題** 睡眠や肥満など知的障害のある子どもが抱えやすい健康課題について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第13回	**知的障害を伴う自閉スペクトラム症** 知的障害を伴う自閉スペクトラム症について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第14回	**事例に学ぶ：知的障害のある生徒の課題と支援** 進路選択や学校生活における課題について、事例に基づいて概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテーマが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間

432

授業科目名	**肢体不自由者の心理・生理・病理**				
担当教員名	原一正・新規非常勤				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床医として約30年の経験。耳鼻咽喉科専門医、精神科専門医・児童精神科医として子どもを中心にしたチーム医療の一員として診療を行ってきた。特に小児専門病院では重複障がい児の診療にあたってきた。（14回）				

授業概要

近年の肢体不自由教育において教員の医療的視点からの知識取得要請は大きくなっています。各々症状も障害の程度も違う生徒達を理解し、安全な学校生活を毎日送るために学ぶ教科です。基本的に受講生はこれまでに学んだ解剖・生理・生化学の知識を復習して受講することが求められます。指導するのではなく、共に学び考える姿勢についても考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	肢体不自由・重複障がいを持つ子ども達の医学的な基礎知識を学び、変化へに気づき対応する技能習得を目指す。	障がいがもたらす影響を理解し、教育現場で実際に観察・評価し対応を考える力を身につけ、共に学び考える姿勢を習得する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		自己理解と共に子ども達の症状や違いを理解し、教育現場での課題発見と解決を考える技能をつける。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		課題に対して、学んだ基礎的な知識をもとに適切な行動を選び実践に移すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

授業中の発言も評価を行い、全体的な傾向についてコメントをします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 %	： 授業中の発言や振り返りシートを評価します。予習・復習を基本とした積極的な授業参加が必要です。
小テスト	20 %	： 理解度の確認のために小テストを実施します。
課題レポート	10 %	： 決められた課題へのレポートについて評価を行います。
期末レポート		： 指定された期末レポート課題について評価を行います。

40　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映画　「こんな夜更けにバナナかよ　愛しき実話」
『五体不満足』　（乙武洋匡　講談社）ISBN-13　：　978-4770029676
『特別支援教育に向けた新たな肢体不自由教育実践講座』ISBN-13　：　978-4921124472
（全国肢体不自由養護学校長会編著　ジアース教育新書）
『新たな課題に応えるための肢体不自由教育実践講座』ISBN4-921124-11-6 C3037
（全国肢体不自由養護学校長会編著　ジアース教育新書）
『リハビリの夜』（熊谷晋一郎　医学書院）ISBN-13　：　978-4260010047

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。虐待についても学びます。必要にあわせて受講生にはカウンセリングを使用することを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で提示

場所：　研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**肢体不自由と日常生活** 自己理解や基本的な人体解剖・生理・生化の知識について確認を行います。2年生時までの復習が求められます。また、学齢期・思春期の心理発達の知識を確認します。	基本的な人体解剖・生理・生化・心理についての復習を行ってください。	4時間
第2回	**障がいの起点・解剖と生理** 肢体不自由の概要について学び、生活上で不自由と考えられるポイントを共に考えます。先天性の障がいと後天性の障がいによる肢体不自由について学び考えます。	次週の実習へむけて予習が求められる。	4時間
第3回	**補助装具の使用と心理・発達** 車いすを実際にグループワークで使用します。ロールプレイを通して補助装具を使用する子どもたちの心理発達について考えます。ジェンダーによる違いはあるのでしょうか？	実習について学んだことをまとめて提出する。	4時間
第4回	**社会の中の肢体不自由** 肢体不自由をきたす疾患について症状や配慮のポイントを学び考えます。補助装具についても学び、車いすを使用する場合、しない場合の違いについて考えていきます。	復習を十分に行いテストに備えまとめる。	4時間
第5回	**障がいを持つ児の理解** 重複障がい児の病態について学びます。実際に障がいがある状態をグループワークで考えます。家族や地域、医療機関との連携について学びます。	教育現場で症状がもたらす課題について考えまとめる。	4時間
第6回	**障がいを持つ児の認知** 重複障がい児の病態を通して認知について学びます。感覚器の働きを理解し、違いについて考えます。	復習を十分に行いまとめる。	4時間
第7回	**障がいを持つ児の心理** 重複障がい児の認知を理解し心理について学びます。同じ病態であっても、心理的な違いに影響するものは何でしょうか？フィンクの危機モデルを学び障がい受容について、受講者自身の受容についてもグループワークで考えます。偏見の軽減は可能でしょうか。	これまでの３回の講義についてまとめる。	4時間
第8回	**介護者としての教員・職員** 障がい児教育の現場で、子どもを支える介護者の働きを求められる教員・職員に必要な知識について学びます。教育現場の可能性と限界について考えます。	医療的な技能について復習を行う。	4時間
第9回	**介護も行う教育現場での課題** 前回学んだ教員・職員の働きについて理解を確認し現在の課題を考えます。教育現場での虐待やハラスメントについて考えます。	虐待防止について役割について振り返りを行う。	4時間
第10回	**テクノロジーのもたらす未来** テクノロジーの進化は教育現場を変えるかもしれません。AIやBMI（Brain Machine Interface)、ロボット使用の可能性について考えます。	新聞記事や関連情報を集めてまとめておく。	4時間
第11回	**家族と考える特別支援教育** 特別支援教育をうけている子どものご家族を招き、その実際を伺います。	感想をレポートにまとめて提出を行う。	4時間
第12回	**自傷行為を起点とした障がい** 精神症状や発達障がいによる自傷行為を起点とした障がいについて学びます。家族や地域、医療機関との連携を取った上での、教育現場の働きについて考えます。	ファーストエイドについて復習を行いまとめる。	4時間
第13回	**肢体不自由・重複障がい者の実際**	自立と依存についてまとめておく。	4時間

	日常生活における重複障がい児の実際について学びます。自立とは何を表すのでしょうか。障壁となるものについても考えます。		
第14回	**これからの障がい者の課題と自立** 障がいをもつ子ども達の学校生活について復習しながら考えます。講義内で学んだ技能についても振り返ります。	期末レポートを作成し提出を行う。	4時間

432

授業科目名	病弱者の心理・生理・病理				
担当教員名	村田絵美・永井祐也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

医療スタッフとの協働のもとに教育実践を適切に計画、実施し、振り返りを行うために必要な対象理解の知識と技術を探求する。本授業は２部構成とする。第１部「病弱児の心理」では、病気のある幼児児童生徒の心理学的特徴を紹介し、それらに応じた教育的支援の具体例を提示する。第２部「病弱児理解の視点」では、代表的な疾患について学ぶとともに、入院治療中・退院後の生活における子どもと家族の理解の必要性と課題を学び、支援者のあり方を検討する。
（オムニバス方式／全14回）
（永井祐也／10回）「病弱児の心理」を担当し、「病弱児理解の視点」の一部を10回の講義内で取り扱う。
（村田絵美／４回）「病弱児理解の視点」のうち入院治療中・退院後の生活における子どもと家族の理解を担当する。病弱者の小児医学の代表的な疾患を中心に講義する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	病弱者理解と支援技法の基礎	小児慢性疾患を中心に，子どもの疾病及び治療並びに治療に伴う生活上の諸課題を理解し，子どもが病気とつきあいながら自分らしく生きることを支えるために求められることを説明できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		生物心理社会モデルに基づき寄り添いながら対象理解を深めていく明確で柔軟な視点をもち、自らが対象の立場に立ったとき、あるいは教師の立場に立ったときをイメージしながら自分にできることを具体的に検討できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

＊学習進度を確認して，課題や手順を調整することがあります。具体的な方法は時々で異なることをご了解ください。
授業の進め方についても，受講生による積極的な提案を期待します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
【心理】小レポート・調べ学習課題	30 %	： 授業内で提示するスライド内に提示された課題について、自身の考えをまとめ、授業時間内に論述する。また、授業内で課した課題について事前に調べたことを授業時間内に論述する。（内容では評価しない）
【心理】授業への積極的な参加	10 %	： 授業内容に関する質問・意見等をもとに評価する。
【心理】期末レポート	30 %	： 病弱児の心理を踏まえた指導・支援のあり方について、課せられたテーマに沿って論述することができる。
【生理・病理】レポート		： ①授業で取り上げた疾患の基本が理解できている。②各疾患のある事例において、どのような支援が必要かを説明できること。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山本昌邦・島治伸・滝川国芳	・ 標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版　ISBN:9784863716186	・ ジアース教育新社	・ 2022　年

参考文献等

『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』小野次郎・榊原洋一・西牧謙吾、ミネルヴァ書房、2011年 ISBN:9784623061532
『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』文部科学省、ジアース教育新社、2022年 ISBN:9784863716131
『子ども療養支援』中山書店　2014年 ISBN:9784521739625

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　非常勤のため，授業に関する問合せはメールにて受け付ける。
nagai5＊gifu.shotoku.ac.jp（永井）　＊は@に変更する。
担当分の初回授業時に提示します（村田）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**病気の子どもの理解①（アレルギー性疾患を中心に）（村田）** アレルギー性疾患等の症状、および支援のポイントについて概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテー マが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第2回	**病気の子どもの理解②（悪性新生物を中心に）（村田）** 悪性新生物等の症状、および支援のポイントについて概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテー マが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第3回	**プレパレーション（村田）** 医療現場におけるプレパレーションの実践例と教育現場における応用について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテー マが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第4回	**病弱児のQOL（村田）** 病弱児本人の遊びや学び等に加え、きょうだい児や家族支援について概説する。	授業の内容、もしくは授業内でテー マが出された場合はそのテーマに基づき、ミニレポートを作成。	4時間
第5回	**特別支援教育における病弱教育の位置づけ（永井）** 特別支援教育における病弱教育の位置づけを前提知識として概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第6回	**病弱教育における医療等との連携・協働の意義と実際（永井）** 病弱教育における医療等との連携・協働の意義と実際について概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第7回	**病弱児のストレス対処過程とコーピング（永井）** 病弱児が抱える様々なストレスをどのように対処するのか、コーピングとの関係を含めて概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第8回	**病弱児のストレス対処過程とソーシャルサポート（永井）** 病弱児が抱える様々なストレスをどのように対処するのか、ソーシャルサポートとの関係を含めて概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第9回	**病弱児の自己概念の発達①自己効力感** 病弱児の自己概念として、自己効力感を取り上げる。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第10回	**病弱児の自己概念の発達②自尊感情** 病弱児の自己概念として、自尊感情を取り上げる。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第11回	**病弱児の自己管理能力の育成（永井）**	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間

	第5回から第10回までの内容を踏まえ、病弱児の自己管理能力の育成の在り方について論じる。		
第12回	**精神疾患等のある児童生徒への心理・教育的支援** 特別支援学校（病弱）に在籍する精神疾患等のある児童生徒への心理・教育的支援のあり方を概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第13回	**発達障害等の二次障害と病弱教育** 発達障害等の二次障害と病弱教育との関係について概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。病弱教育の対象となる疾患のうち、指定した疾患について調べ学習を行うこと。	4時間
第14回	**発達障害等の二次障害を予防する心理・教育的支援** 発達障害等の二次障害を予防する心理・教育的支援について概説する。	テキスト及び配布資料を確認し、授業内容を復習すること。期末レポート課題に取り組むこと。。	4時間

432

授業科目名	**知的障害教育論**				
担当教員名	鈴木克彦				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	知的障害児を対象とした特別支援学校に教諭として勤務。その後、教育委員会にて知的障害を含む特別支援教育行政に従事。その後、知的障害児を対象とした特別支援学校長を務めた。（全14回）				

授業概要

知的障害について認知、学習、言語、運動などの点から理解し、知的障害児の教育に関する学習指導要領に定める内容、教育課程編成にかかるカリキュラムマネジメントの取り組み、自立活動や各教科等、教科等を合わせた指導の授業のあり方について学びます。併せて、障害者の権利に関する条約、合理的配慮、就学制度、進路指導等に関する基礎的な事項について学修します。さらに、余暇活動や生涯学習についても取り上げます。グループ別の調査や協議を経て作成した授業案についてのプレゼンテーションによって主体的・多面的に考えることができるようになることをめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	知的障害に関する基礎知識	知的障害児の心理機能と行動上の特徴を正しく理解することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		計画的に学習を進め、プレゼンテーションに向けて発表する内容や方法を立案することができる。
2. DP７.忠恕の心		グループ内で他者の意見をよく聞き、自己の考えを適切に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	30 %	： 知的障害の特性の理解、知的障害児の教育に関する基礎知識や留意点を修得できているかどうかを判断します。
授業内課題を含むレポート	50 %	： 学修をふり返り、知的障害に関する基礎知識や知的障害児の教育に関する留意点を記すことができているかどうかを判断します。
プレゼンテーション	20 %	： 作成した授業案について授業のねらいに沿って評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
笠井新一郎、坂井聡、苅田知則	・認知機能・知的機能の困難への対応　ISBN 978-4-7679-2125-9	・建帛社	・2021　年

参考文献等

参考文献については開講時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間以上の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧にかつ多面的に復習するとともに次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回の授業時に提示します。

場所：　初回の授業時に提示します。

備考・注意事項：　詳細については初回授業にて説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**知的障害の理解とアセスメント** 知的障害の状態、原因と分類等について学術的に理解するとともに障害のとらえ方の変遷、障害の社会モデル等の観点から社会における知的障害の理解・受け止めについて知る。併せて、心理検査を含むアセスメントについて学ぶ。	ワークシート作成：知的障害の状態、原因と分類、障害の社会モデル、アセスメントの分類と特徴	4時間
第2回	**知的障害児の心理機能と発達支援** 知覚、学習、言語、コミュニケーション、パーソナリティの形成の観点から知的障害児の心理機能について知り、特性に応じた支援方法について学ぶ。	ワークシート作成：知的障害児の心理機能を踏まえた支援方法	4時間
第3回	**知的障害児の発達支援** 知的障害児の言語・コミュニケーション、パーソナリティ・行動について、さらに、実態把握のしかた、障害特性とあわせて生活と結びつけて行う授業構想のしかたについて学ぶ。	ワークシート作成：知的障害児の特性と授業構想の考え方	4時間
第4回	**知的障害児の運動「体育・保健体育の見方・考え方」** 知的障害児の体育・保健体育の授業の指導法について学習指導要領の「体育の見方・考え方」「保健の見方・考え方」について知り、指導上の留意点や指導法を学ぶ。	ワークシート作成：知的障害児の運動特性と指導方法	4時間
第5回	**知的障害児の運動「体育・保健体育の授業づくり」** 知的障害児の体育・保健体育の授業の指導法について、ＱＯＬ（生活の質）の改善につながる成人期の体格・体力維持の観点から考え、学校での指導上の留意点や指導法を学ぶ。	ワークシート作成：知的障害児の体育・保健の授業案	4時間
第6回	**自立活動の意義、目的と内容** 特別支援学校の教育課程の特色でもある自立活動の意義、目的と内容について知り、自立活動を中心とした個別の指導計画での指導目標・内容の設定について理解する。	ワークシート作成：自立活動の内容、個別の指導計画作成	4時間
第7回	**自立活動の個別の指導計画の作成と活用** 授業案づくりを通して自立活動の意義・目的、６区分27項目の内容と個別の指導計画の目標や内容の設定との連動について理解を深める。さらに、言語コミュニケーションに関する指導の実際について知る。	ワークシート作成：自立活動の授業案	4時間
第8回	**個別の教育支援計画、個別の指導計画（カリキュラム・マネジメントの方法）** 就学や在学中の関係機関との連携および卒業後の生活と生涯にわたって支援ツールとなる個別の教育支援計画とそれに基づく個別の指導計画それぞれの内容や作成および活用方法、さらには個別の指導計画の評価から教育課程の見直しを図るカリキュラム・マネジメントの方法について学ぶ。	ワークシート作成：個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	4時間
第9回	**個別の指導計画、学習指導案** 特別支援学校で使用されることの多い学習指導案の形式・内容等、個別の指導計画にある目標や指導内容を授業で扱うために学習指導案に表す方法について学ぶ。学修を通じて知的障害教育の核となる「身近な生活と結びつけて具体的に学ぶ」「児童生徒一人ひとりに配慮する」ことの大切さについて考える。	ワークシート作成：個別の指導計画の長期目標・短期目標、学習指導案の形式・内容・書き方	4時間
第10回	**就学に関する制度、特別支援学校の教育** 障害者の権利に関する条約の批准に伴う就学制度の変更、インクルーシブ教育における連続する多様な学びの場としての知的障害児を対象とした特別支援学校の教育課程、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。学修を通して特別支援教育とインクルーシブ教育、小学校・中学校の教育と特別支援学校の教育との比較や連続性、特別支援学校のセンター的機能について理解を深める。	ワークシート作成：就学制度、特別支援学校の教育、特別支援教育・インクルーシブ教育	4時間
第11回	**特別支援学校学習指導要領** 知的障害児教育を含む特別支援学校学習指導要領の意義と歴史、現行の学習指導要領の特色や要点について知り、特にカリキュラム・マネジメントや社会に開かれた教育課程等の考え方について知る。	ワークシート作成：特別支援学校学習指導要領.	4時間
第12回	**知的障害教育の目的、教材・教具の工夫**	ワークシート作成：知的障害教育の目的	4時間

	学習指導要領に沿って知的障害教育における学力と生きる力、各教科等を合わせた指導としての日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習の意義や内容、その効果と課題、各教科の指導などの点から知的障害教育の目的について理解する。併せて、ICTを含む教材・教具の工夫について学ぶ。		
第13回	**交流及び共同学習** 交流及び共同学習の歴史、学習指導要領での位置づけ、障害理解教育について学び、実践例も参考にしながら交流及び共同学習の授業案を作成する。立案にあたっては・知的障害児の特性をふまえどのような工夫をするか・互いの学校の児童生徒が何をどのように学び身につけるか、を必ず明示することをルールとする。作成した授業案を次時でプレゼンテーションすることとし、その準備を行う。	グループごとの評価シート：交流及び共同学習の授業案	4時間
第14回	**インクルーシブ教育、学修のまとめ** 前時に作成した授業案をプレゼンテーションし、互いに評価し合いながら交流及び共同学習や今後のインクルーシブ教育の方向性について理解を深める。これまでの学修をふり返り、知的障害教育に関する自身の考えをまとめる。	ワークシート：わたしの知的障害教育論	4時間

432

授業科目名	**肢体不自由教育論**				
担当教員名	早野眞美				
学年・コース等	2年	開講期間	後期集中	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校・特別支援学校で教諭、支援学校にて管理職として勤務。				

授業概要

授業では､一人一人異なる肢体不自由の状態や特性､障害の起因疾患の特徴や発達段階を適切に把握する方法と、これらをふまえて各教科や自立活動の指導での配慮事項を含め授業設定を行う方法について理解することをねらいとする。併せて特別支援学校の教育課程の意義とカリキュラム・マネジメントについて事例をふまえグループワークを経て具体的に考える

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	肢体不自由児についての基礎知識（心理/病理/教育）を学び、具体的な教育・支援方法を検討する。	肢体不自由児の実態を評価し、個々に合わせた具体的な教育・支援方法を知る。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		専門的知識と子どもの見方を学び、具体的な支援方法と授業の組み立て方を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終試験	65 %	： 肢体不自由児の教育に必要な基礎知識を身につけている。 子どもの見方、評価の仕方を身につけている。 実態に合わせた支援、教育方法を考えられる。
課題・演習	35 %	： 意見交換・話し合いの運営・結果の記録・発表の様子を評価。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
編著者：須田正信・早野眞美	・ 特別支援教育テキスト：科目肢体不自由教育論改定第４版	・ プリントパック印刷（株）	・ 2023 年

参考文献等

参考書・参考資料等
『特別支援学校学習指導要領（小学部・中学部）』（文部科学省、2018年）
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（文部科学省、2018年）

参考書・参考資料は、持参する必要はないが、教科書は必ず購入し、全授業で持参すること。教科書を頻回に使用するため、持参していないと学習に支障をきたすとともに、他の受講者に迷惑をかける可能性がある。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
各回の学習状況によっては、授業の順番や内容を一部変更することがある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 初回授業にて説明する。

連絡先：hayano-m64@osaka-kyoiku.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**肢体不自由教育の基礎知識** 肢体不自由者に対する教育を行う際に身につけなければならない内容を概観する。 次の内容や現状について触れる。 ①肢体不自由の原因、②・肢体不自由の子どもの病気に関連する問題、③肢体不自由の子どもの心理特性、④健常児の心理や運動能力の発達、⑤肢体不自由の子どもを教育していくうえで必要な知識、⑥・専門の医師及びその他の専門家との連携、⑦医療的ケア・体調の管理と使われる機器、⑧学習指導要領、⑨実際の指導	振り返りシートの記入	4時間
第2回	**肢体不自由教育の歴史** 肢体不自由教育聡明期に尽力した、医師、教師等の努力について学ぶ。 社会から隔絶された手足の不自由な児童に教育，整形外科的治療とリハビリテーション（医学的治療），職業教育が施されるという枠組みが形成され、学校制度が形成された経緯を理解する。	振り返りシートの記入	4時間
第3回	**肢体不自由の実態（心理特性・認知）** 脳性まひを主とする肢体不自由児の心理特性を理解し、支援方法について学ぶ。 例：運動野に問題を有する脳性まひ時の処理では、同時処理が苦手で、継時処理が得意である。その特性に合わせて、指導や支援内容を検討する必要がある。これらの知識を教授後、具体的支援方法を検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第4回	**肢体不自由の実態（運動の問題・身体の変形・学習時のポジショニング）** 肢体不自由児が有する運動の問題（原始反射の段階に留まる）、身体の変形・拘縮等の知識について講義の後、運動の問題を抑制するための方法を検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第5回	**肢体不自由教育の実態（視覚の特性と環境の調整）** 肢体不自由特別支援学校に在籍する重度・重複障害児のうち、50%程度が視覚の問題を有している。よって、視覚の特性に合わせた支援、環境設定、学習活動を検討する必要がある。そこで、本授業では、視覚の問題の原因、視覚の特性、それに合わせた支援について検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第6回	**肢体不自由教育の実際1（自立活動）** 特別支援教育では、各教科・道徳・特別活動等の他に、自立活動という領域がある。本時間は、自立活動の6区分27項目をおさえた後、各項目の内容の考え方、基盤となる知識について講義する。その後、自立活動の授業の構成について議論する。	振り返りシートの記入	4時間
第7回	**肢体不自由教育の実際2（身体の動き）** 肢体不自由児の運動の問題をおさえた後、学習指導要領自立活動、身体の動きの区分項目に合わせた学習活動を検討する。反射から反応、意図的な動きに至る上での指導の基本と、具体的な活動について検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第8回	**肢体不自由教育の実際3（人間関係の形成）** 重度・重複障害児を含む肢体不自由児の教育においても、人間関係の発達は最重要事項である。共同注意の発達を理解した後、重度の知的障害と運動障害を合わせ有する幼児児童生徒の関係性の育て方について検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第9回	**肢体不自由教育の実際4（コミュニケーション）** コミュニケーション発達は、ピアジェに代表される発達段階に基づいてとらえようとする傾向にある。しかし、ことばを記憶させた後、それを実際の場面で使用させて定着を図る考え方は、子どもの発達と乖離している。本授業では、ヴィゴツキー理論を基に、社会的対話が自己内対話に移行し、内言が利用されるようになる過程をまずおさえる。その後、この移行過程を促進するかかわりについて議論する。	振り返りシートの記入	4時間
第10回	**肢体不自由教育の実際5（各教科・領域教科を合わせた指導）** 肢体不自由特別支援学校では、領域教科を合わせて、生活単元学習や作業学習が頻繁に行われている。領域教科を合わせた指導を行う際の各教科、自立活動等のとらえ方について知識を得るとともに、実際の指導内容を検討する。	振り返りシートの記入	4時間
第11回	**肢体不自由教育の実際6（重度・重複障害児の理解と支援）**	振り返りシートの記入	4時間

	重度・重複障害児は、表出が微細で重度の運動障害、重度の知的障害を合わせ有している。そのため、特別支援学校で、適切な学習活動が準備できていない場合も多い。そこで、重度の知的障害の観察の仕方、かかわり方、学習の準備の仕方について議論、検討する。		
第12回	**学習指導要領の理解　個別の指導計画作成演習①（実態把握～立案）** 自立活動の学習は、個別の指導計画を立案した上で、個々の子どもの状態に合わせた活動を行うことが必須である。そこで、学習指導要領解説「自立活動編」にある流れ図に添って、実態把握、学習の立案を行う。	振り返りシートの記入	4時間
第13回	**個別の指導計画作成演習②（共有・議論～見直し）** 学習指導要領解説「自立活動編」にある流れ図に添って、実態把握、学習の立案を行った後、具体的な授業の進め方、指導計画の立案を行う。	振り返りシートの記入	4時間
第14回	**肢体不自由教育における主体的で対話的な深い学びの実現** 重度・重複障害児を含む肢体不自由児の教育においても、主体的・対話的で深い学びは重要事項である。全時まで学んだ知識を基に、インクルーシブ教育の視点を踏まえて重度・重複障害児を含む肢体不自由児の学習における主体的・対話的で深い学びを得られる授業について検討し、授業計画を練る。	振り返りシートの記入。作成した授業計画の再検討。	4時間

433

授業科目名	病弱教育論				
担当教員名	丹羽登				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	特別支援学校・特別支援学級での病弱者への指導。文部科学省や大阪府教育員会で病弱教育に関する施策や学習指導要領等の改訂等を担当し、都道府県教育委員会等の担当者への指導・助言を行ってきた。				

授業概要

病弱・身体虚弱の子どもは、小児科病棟や児童思春期病棟、重症心身者病棟、肢体不自由者病棟などに入院する子どもだけでなく、自宅からの通学生や施設の入所者、訪問教育を受けている者など多様な生活環境・学習環境であることを理解した上で、白血病や心臓病等の身体疾患、うつ病や双極性障害等の精神疾患などの個々の子ども病気や症状等に応じた指導が必要なことを理解できる授業を展開する。特に症状は日々変動するため、症状や治療の過程に応じて教育課程を適宜見直すことの必要性を理解させることにより、カリキュラム・マネジメントの重要性を実感できるようにする。
　学習指導要領にある各教科の配慮事項や子どもや保護者と合意した合理的配慮の内容を踏まえて個別の教育支援計画や個別の指導経過の作成・活用を図り、具体的な指導内容の精選、指導方法の工夫ができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	疾患の状況に応じた配慮や支援を知る。	①病弱の特別支援学校の子どもの実態と本校・分校・分教室・訪問教育という多様な指導形態について理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		病気療養中の子どもの教育における課題を見つけ、それに対する対応を具体的に考え、実践できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

　授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義への参加態度	30 %	： 出席状況や講義への参加状況、グループでの当時状況等により評価する
課題小レポート	20 %	： 定期的に課題レポートを課すので、ネット等で必要な情報を入手した上で、自分の意見が整理出来ているかどうかにより評価する。教科書の内容を講義内で確認する。
定期試験に代わるレポート	50 %	： 科目の修得状況をレポートで評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
全国特別支援学校病弱教育校長会	・ 病気の子どものための教育必携 ISBN:978-4-86371-520-2	・ ジアース教育新社	・ 2020　年

参考文献等

全国特別支援学校病弱校長会編著・病弱教育における各教科等の指導・ジアース教育新社・2015年 ISBN:978-4-86371-333-8
加藤忠明他著・小児慢性特定疾患支援マニュアル・東京書籍・2005年

履修上の注意・備考・メッセージ

適宜、事前に調べる課題を出すので、講義開始までに調べて、整理しておくこと。
教科書は必ず購入しておくこと。
病気のため手厚い指導や支援が必要な子どもを対象とした講義なので、受講生の中で、病気等のため配慮が必要な場合は、事前に連絡しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　詳細については初回授業にて説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の概要** 病弱の特別支援学校や病弱教育などについて知る	全国の病弱の特別支援学校の実態について知る	4時間
第2回	**障害者基本法等と学校教育法等における病気の子ども** 病気の子どもに関わる教育、医療、福祉等の関連法令について理解するとともに、対象となる病気の子どもについて知る。	障害者基本法や障害者総合支援法、児童福祉法、学校教育法などを見ることが出来るように、PDFファイルや印刷して準備しておくこと。	4時間
第3回	**病弱・身体虚弱の概念** 病弱とはどのような意味なのか、身体虚弱とはどの様な意味なのかを知る。	文部科学省が公表している「障害のある子供の教育支援の手引き」に「病弱」と「身体虚弱」の説明があるので、その章を読んでおくこと。	4時間
第4回	**病弱・身体虚弱の子どもの学習する場** 小・中学校等に在籍していた子どもが、入院したり退院後も引き続き医療上の管理を必要とする場合に、どの様な場で学ぶことが出来るのかを理解する。	病院や都道府県の考え方により、病弱教育の実施は異なるためそれぞれ割り当てられた地域に着いて調べてくること。	4時間
第5回	**病弱の特別支援学校と病弱・身体虚弱特別支援学級の実態** 文部科学省が公表している「特別支援教育資料」や「学校基本調査結果」などのデータを元にして特別支援学校や特別支援学級の実態を知る。	最新の文部科学白書等を見て、特別支援教育に関する実情を把握しておくこと。	4時間
第6回	**病弱・身体虚弱の子どもに必要な指導法と配慮事項** 小規模の病院内にある学級では、学年別の学級を編成することが出来ないため、複式学級での指導方法や配慮事項について知る。 特別支援学校の学習指導要領で示されている病弱者に関する指導上の配慮事項について理解する。特に体験活動の充実を図るため、疑似体験・仮想体験の必要性を理解する。	地域の小・中学校の児童生徒の減少に伴い、複式学級がふえているの、その複式学級での指導法について調べる	4時間
第7回	**病弱の子どもの実態に即した教育課程の編成** 入院や診察、検査等のため学習する時間が少なくなるため、どの様にして授業時数を確保すれば良いのかを理解するとともに、高校段階の子どもについては単位の履修と修得について理科する。 子どもの病気の状態等に応じた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成が出来るようになる。 自立活動の内容の理解と、実態把握に基づく具体的な自立活動の指導が出来るようになる。	特別支援学校の学習指導要領の総則を読んでおくこと。	4時間
第8回	**医学の進歩と病気の子ども** 医学や医療の進歩に伴い、入院する子どもの病気や入院期間が変化してきたことを知る。	昭和40～50年代に多かった「腎炎・ネフローゼ」の子どもの教育について調べておくこと。	4時間
第9回	**病弱・身体虚弱教育の歴史と教育課程及びカリキュラム・マネジメント** 病気の子どもの教育や身体虚弱の子どもの教育の歴史とその意義を理解する。 病気の子どもの実態等に応じた教育課程の編成と、治療の過程や病状の変化等を踏まえた教育課程の見直しを適宜行うことの必要性を理解する。	学習指導要領での「社会に開かれた教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」について、Webサイトなどで調べておくこと。	4時間
第10回	**慢性疾患の子どもの特性と指導法** 小児がんや心臓疾患等の慢性の身体疾患がある子どもの、疾患別の特性を知り、個々の子どもに応じた適切な指導と必要な支援を考えることが出来るようになる。	特別支援学校の教育課程と小・中学校の教育課程を理解するため、それぞれの学習指導要領を事前に見ておくこと。	4時間
第11回	**心身症やうつ病等の精神疾患の子どもの特性と指導法** 子どものうつ病の特徴について理解し、適切な配慮が出来るようになる。 起立性調節障害や摂食障害などの心身症などについて理解し、その特性に応じた指導上の配慮を考えることができるようになる。	うつ病や霧性調節障害と長期欠席の関係について書かれている論文等を探しておくこと。	4時間

第12回	**多様な指導形態（本校・分校・分教室・訪問教育・病院内の特別支援学級の実態）** 病気療養中の子どもが学ぶ場は様々なため、それぞれの学びの場や子どもの病気や病状に応じた指導形態がとられていることを知る。	分校と分教室、訪問教育と通級による指導の違いについて整理しておくこと。	4時間
第13回	**入院前の学校（前籍校）への円滑な転校、ＩＣＴの活用** 前籍校に円滑に戻ることが出来るようにするため、入院中も前籍校の教員や児童生徒と入院中の子どもとが関わる機会を持つとともに、ＩＣＴを活用して写真や映像の交換、テレビ会議システム等を活用した遠隔教育の実施が出来るようになる。	病気療養中の子どもの遠隔教育の弾力化について、文部科学省での取組について整理しておくこと。	4時間
第14回	**病弱教育の課題と展望** 現在の病弱教育の現状と課題について取り上げるので、それぞれの課題解決に向けて、どうすれば良いのかを考えることが出来るようになる。	厚生労働用の患者調査や厚労白書、文部科学省の学校基本調査や学校保健調査、などを事前にダウンロードして見ておくこと。	4時間

433

授業科目名	**障害共生支援論**				
担当教員名	瀧本一夫				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義　演習　発表				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	特別支援学校勤務時、指導教諭として地域の小・中学校に「みんな違って、みんないい」をテーマとした出前授業を実施していた。特別支援学校勤務３５年　大阪府教育委員会指導主事勤務１年　門真市就学支援委員会副委員長　守口市特別支援教育アドバイザーなどの経験を有する。				

授業概要

障害の有無にかかわらず、幼児児童生徒が相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会の構築を目指すこと、すなわち共生社会を目指すことは最も積極的に取り組むべき重要な課題である。本授業では、その形成に向けてインクルーシブ教育を中心として、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の自立と社会参加を見据え、主として小中学校においてどのような取り組みができるかをデスカッション、演習、発表を通して考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	確かな障害観を基に障害理解教育を実践することができる。	障害者理解を推進することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		障害者理解教育について歴史や現状など多様な観点から関心を深め実践に向けて計画・立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト(対面時)・小レポート(遠隔時)	42　%	：　毎回、講義の復習テスト(対面授業の場合)、まとめや感想(遠隔授業の場合)を求める。
授業参加度・発表内容	28　%	：　グループ協議への参加度、プレゼンテーションの質などを総合的に判断する。
期末レポート	30　%	：　講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

○特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告１「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための　特別支援教育の推進」(文部科学省　平成24年)
○障害者の生涯学習活動に関する実態調査(文部科学省　平成29年度)
○学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究(文部科学省　平成30年度)
○社会教育施設において障害者が学習活動に参加する際に行う合理的配慮に関する調査(文部科学省　令和元年度)
○大学等が開講する主に知的障害者を対象とした生涯学習プログラムに関する調査(令和2年度)
○共生社会を目指した障害者理解の推進(特別支援教育研究協力校)中間報告(文部科学省　平成19年度)
○障がい児共生論(曽和信一、杉本節子　明石書店　2015)ISBN:9784750341798
○えほん障害者権利条約(ふじいかつのり、里圭　汐文社　2015)ISBN:9784811321868
○絵本「おこだでませんように」（くすのきしげのり・作　石井聖岳・絵　小学館　2012）ISBN:9784097265399
○「つながろ！にがてをかえる？まほうのくふう」　（しまだようこ作　今井印刷　2014）ISBN:9784906794591

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー　決まり次第連絡します

場所： 研究室　中央館5階119号室

備考・注意事項： 詳細については初回授業にて説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**障害の概念～国際的な障害概念の動向を中心に～** 「障害とは何か」について、歴史的に障害概念をなぞっていくことで、障害についての科学的な概念について考え障害の概念～国際的な障害概念の動向を中心に～ 「障害とは何か」について、歴史的に障害概念をなぞっていくことで、障害についての科学的な概念について考える。	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを把握しておく。国際生活機能分類のICIDHとICFについて要点を整理しておく。配布資料やノートを見直し、障害の概念の動向について説明できるようになっておくこと。障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指し、教育課程を編成する意義についても考えておくこと。	4時間
第2回	**障害者問題と障害者のニーズ** 学習や労働において、障害のある人がどのよな点でに困難を感じているか、またどのようなニーズがあるかについ知り、その支援について考える。	発達障害の特性について復習しておく。配布資料やノートを見直し、障害者問題について説明できるようになっておくこと。障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指し、教育課程を編成する意義についても考えておくこと。。	4時間
第3回	**障害者権利条約、障害者基本法について** 各法令等を学ぶことを通して、多様な観点から共生社会へ向けての特別支援教育の役割を理解する。	障害者権利条約におけるインクルーシブ教育システムに関する条文を読んでおくこと。配布資料やノートを見直し、少なくとも障害者総合支援法と障害者差別解消法についてその要点を説明できるようになっておくこと。	4時間
第4回	**インクルーシブ教育構築のための多様な学び場** インクルーシブな教育課程及び教育指導の理念と枠組みを理解し、多様な学び場と教育課程の役割・編成について考える。	いわゆる通常の学級、特別支援学級、通級教室、特別支援学校についてそれぞれの特徴を調べておくこと。配布資料やノートを見直し、それぞれの学びの場について説明できるようになっておくこと。障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指し、教育課程を編成する意義についても考えておくこと。。	4時間
第5回	**交流及び共同学習** 障害の有無にかかわらず、互いの違いを理解し合うことを大きな目的とした「交流及び共同学習」について、その実践事例を通して「交流及び共同学習」の課題やさらなる充実のためのポイントについて考える。	交流及び共同学習ガイド(文部科学省2019)を読んでおくこと。配布資料やノートを見直し、交流及び共同学習における配慮事項について説明できるようになっておくこと。自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法についても考えておくこと。	4時間
第6回	**合理的配慮と基礎的環境整備** 学校における合理的配慮及び基礎的環境整備について学び、障害のある子どもが障害のない子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使するために必要な支援について考える。	インターネット等で調べて合理的配慮の概念についてまとめておくこと。配布資料やノートを見直し、合理的配慮と基礎的環境整備について説明できるようになっておくこと。	4時間
第７回	**ICT等を活用した授業づくり**	東京大学「魔法のプロジェクト」の成果報告書をいくつか閲覧しておくこと。配布資料やノートを見直し、ICT等を活用した授業のメリットについて説明できるようになっておくこと。自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法についても考えておくこと。	4時間

	ICTを活用した授業実践について学び、教科指導の効果を高めたり、障害による学習上又は生活上の困難さを改善克服するための支援について考える。		
第8回	**演習　授業を作ろう①「みんな違って、みんないい」をめざして　障害種及び授業場面、授業の方向性について考える。** 学びの多様性・個別性の重要性を理解し、学校現場において、障害の有無にかかわらず、「ともに学び、ともに育つ」を目的とした指導・支援法について検討する。	これまでに学んだことをもう一度見直しておくこと。自分の授業の構想について、「共生」という視点から見直しておくこと。特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメントの考え方、授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第9回	**演習　授業を作ろう②「みんな違って、みんないい」をめざして　文献や先行研究から授業設計を考える。** 学びの多様性・個別性の重要性を理解し、学校現場において、障害の有無にかかわらず、「ともに学び、ともに育つ」を目的とした指導・支援法について立案する。	自分の授業構想を読み直しておくこと。立案した授業について「共生」という視点から見直しておくこと。特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメントの考え方、授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第10回	**演習　授業を作ろう③「みんな違って、みんないい」をめざして　設定した授業についてプレゼンテーション資料を作成する。** 学びの多様性・個別性の重要性を理解し、学校現場において、障害の有無にかかわらず、「ともに学び、ともに育つ」を目的とした指導・支援法について指導案として具体化する。	自分の立案した授業を見直しておくこと。指導案として「時間配分」「支援の手立て」等について適切かどうかを確認すること。特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメントの考え方、授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第11回	**授業を発表しよう①　聴覚障害** 作成した授業を発表する。 他者の発表を聞き協議することでより良い指導について考える。	自分の指導案について読みこんでおくこと。他者の意見・感想を取り入れて、指導案を改善すること。個別の指導計画の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげるカリキュラムマネジメントの考え方と授業場面を想定した授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第12回	**授業を発表しよう②　視覚障害** 作成した授業を発表する。 他者の発表を聞き協議することでより良い指導について考える。	自分の指導案について読みこんでおくこと。他者の意見・感想を取り入れて、指導案を改善すること。個別の指導計画の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげるカリキュラムマネジメントの考え方と授業場面を想定した授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第13回	**授業を発表しよう③　聴覚障害・視覚障害以外の障害種** 作成した授業を発表する。 他者の発表を聞き協議することでより良い指導について考える。	自分の指導案について読みこんでおくこと。他者の意見・感想を取り入れて、指導案を改善すること。個別の指導計画の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげるカリキュラムマネジメントの考え方と授業場面を想定した授業設計を行う方法について考えておくこと。	4時間
第14回	**共生社会実現を目指した教育の充実** 障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちが、自分の持てる力を発揮し、互いの違いを認め合い、就学施設や地域社会中で共に生きていく、そのために必要な支援や今後の課題について整理する。	今までの配布資料や授業を振りかえって、問題意識や疑問点を明らかにしておくこと。14回の授業を通して何を学んだかについて整理しておくこと。障害の状態や特性及び心身の発達の段階並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程編成の方法と意義、カリキュラムマネジメントの考え方について考えておくこと。	4時間

433

授業科目名	**障害者の生理病理と指導の方法**				
担当教員名	村田絵美・藤澤憲				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	（岡田）耳鼻咽喉科および精神科専門医。重複障害児診療の経験を有する（瀧本）支援学校教諭・指導教諭、大阪府教育委員会指導主事（鈴木）支援学校教諭・教頭・校長、大阪市教育委員会指導主事（村田）病院や高等支援学校等での発達支援の経験を有する公認心理師・臨床発達心理士				

授業概要

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害・肢体不自由・病弱）の取得をめざすうえで「免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」に位置づけられており、重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について講術するとともに指導法について概説する。具体的には、視覚器の解剖・生理、視機能の評価法、視覚障害の原因疾患、聴覚器官の解剖・生理、聴力検査法、聴力障害の原因疾患について講術する。これらの学修により視覚障害、聴覚障害の医学的な基本事項、重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の生理病理について理解を深めることを目的とする。さらに、これまでの学修や教育実習、インターンシップでの経験をもとにそれぞれの障がいの理解と児童生徒に応じた指導方法について主体的に学ぶことを通して実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	各障がいに関する基礎知識	講義や調査により各障がいの特徴や生理病理、指導上の配慮点などを理解することができる
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		学修した知識を生かし障がいの特性をふまえた指導について計画・立案することができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		調査や協議に主体的に取り組むなど実践に生かせる態度を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
第２回授業後の小レポート	20 %	： 限局性学習症・注意欠如多動症・自閉スペクトラム症の定義とその特徴について適切に理解できているかを問う。
第３回授業後の小レポート	10 %	： 自身の睡眠習慣を振り返るとともに、神経発達症と睡眠の関連について適切に理解できているかを問う。
第４回授業後の小レポート	10 %	： 神経発達症と二次障害について適切に理解できているかを問う。
第５回授業後の小レポート	20 %	： 言語障害、発達障害に関する神経心理学からの理解と指導方法について適切に理解できているかを問う。
第６回授業後の小レポート	20 %	： 言語障害の理解と生理病理、定義・種類と指導方法について適切に理解できているかを問う。

期末レポート　　：　それぞれの障がいの特徴や生理病理と指導方法、指導上の留意点について適切に理解したうえで現状の把握や課題解決にむけた意見主張ができているかを問う。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（海文堂出版）ISBN:978-4-303-12424-3
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版）ISBN:978-4-304-04229-4
『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』（開隆堂出版）ISBN:978-4-304-04230-0
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版）ISBN:978-4-304-04231-7
『発達障がい 病態から支援まで』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-301245-0

履修上の注意・備考・メッセージ

IS本授業は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員によって異なる。

場所：　各教員によって異なる。

備考・注意事項：　初回授業時に提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**限局性学習症・注意欠如多動症の定義とその特徴（指導法を含む）（村田）** 限局性学習症・注意欠如多動症の定義とその特徴について、脳機能の違いも含め理解する。	授業で使用した資料をもとに限局性学習症・注意欠如多動症について復習すること。	2時間
第2回	**自閉スペクトラム症の定義とその特徴（指導法を含む）（村田）** 自閉スペクトラム症の定義とその特徴について、脳機能の違いも含め理解する。	講義中に指定した内容についてレポートを作成し次回提出すること。	2時間
第3回	**神経発達症児の睡眠（指導法を含む）（村田）** 神経発達症と睡眠との関連について理解する。	講義中に指定した内容についてレポートを作成し次回提出すること。	2時間
第4回	**神経発達症と二次障害（指導法を含む）（村田）** 二次障害の予防と神経発達症児者が合併しやすい二次障害について理解する。	講義中に指定した内容についてレポートを作成し次回提出すること。	2時間
第5回	**言語障害、発達障害と神経心理学（指導法を含む）（瀧本）** 言語障害とLD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害の状態と神経心理学の面からの理解について児童生徒の状態に応じた指導法とあわせて理解する。これまでの教育実習やインターンシップ等での経験をもとに実践を通した意見交換ができるようにする。	講義中に指定した内容についてレポートを作成し次回提出すること。	2時間
第6回	**言語障害児の生理・病理と定義・種類（指導法を含む）（岡田）** 言語障害児の生理・病理について障害の原因となる疾患等の基礎的な内容をあわせて理解する。また、言語障害の定義・種類と障がいの状態に応じた指導法について理解する。これまでの教育実習やインターンシップ等での経験をもとに実践を通した意見交換ができるようにする。	講義中に指定した内容についてレポートを作成し次回提出すること。	2時間
第7回	**LD・ ADHD・高機能自閉症等の定義とその特徴、心理と心理的評価（指導法を含む）（鈴木）** LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害の定義とその特徴、心理と心理的評価について児童生徒の状態に応じた指導法とあわせて理解する。これまでの教育実習やインターンシップ等での経験をもとに実践を通した意見交換ができるようにする。	全７回の授業で使用した資料をもとに学修のまとめをする。	2時間

432

授業科目名	**学校・施設ボランティア**				
担当教員名	**寳學淳郎・片山美穂・服部敬一**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	鈴木克彦：特別支援学校教諭（17年）、特別支援学校教頭（2年）、特別支援学校校長（10年）、大阪市教育委員会事務局指導主事等（通算8年）				

授業概要

本科目は、「学校体験活動」を履修した学生が、実習を通して身につけた知見をさらに展開・深化させるために設定した科目である。事前指導として、学校およびその他教育育施設でのボランティア活動に必要な知識やマナーを確認した上で、実際に現場に出向きボランティア活動に取り組む。活動期間中は、毎回活動日誌を記し、気づいた課題を整理する等の振り返りを行い、次回の活動の目標を明確にしていく。活動終了後は事後リポートの作成及び報告会を実施し、ボランティア活動の総括を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育育現場でのフィールドワークを通じ、他者としての児童生徒の尊厳を尊重し共感的に接する。	自身の活動を省察し、教育観を深めることができる。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	観察力を身につけ、現状を的確に把握することができる。また、観察をもとにして課題を発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
取り組みの状況	40 %	： 毎回の授業の受講態度（１０点）、課題に対する成果内容（１０点）、活動日誌の記入内容（２０点）を目安に評価する。
成果発表内容	30 %	： 体験活動が真摯に総括され今後の課題が明確になっている（３０点）、総括されてはいるが今後の課題が不明確である（２０点）、総括が不十分で今後の課題も不明確である（１０点）を目安に評価する。
期末レポート	30 %	： 自身の課題の明確化、課題の克服のための方法の把握、今後の学修に対する展望、の３つの基準を全て満たしている（３０点）、２つ満たしている（２０点）、１つ満たしてる（１０点）を目安に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業で随時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
中等教育専攻の学生では、小学校教員免許取得または特別支援学校教員免許を目指す学生が選択することが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 下記参照

場所： 下記参照

備考・注意事項： 諸注意、授業方法などについては、初回授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―本授業の目標・内容・評価等について** 本授業の目標・内容・評価等を確認するとともに、自らの学習課題を整理する	授業で指示された課題に取り組む。	4時間
第2回	**事前学習（1）学校・施設の概要を理解する** これから参入するフィールドの特性をよく理解する	これまでの学びを基に、教育コミュニティの趣旨を詳しく調べる。	4時間
第3回	**事前学習（2）活動に必要な事柄を理解する** 活動に当たって求められる知識や態度等をよく理解する	これまでの学びを基に、特別支援教育及び子育て支援について現状と課題を詳しく調べる。	4時間
第4回	**事前学習（3）学校・保育園などへの事前訪問** 実習施設を訪問し、実習のルールを確認し、準備を行う	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第5回	**ボランティア活動（1）学校・施設の組織を理解する** 学校・施設の組織的機能についてよく理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第6回	**ボランティア活動（2）子どもへの全般的なかかわり方を理解する** 主に、児童・生徒への全般的なかかわり方を理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第7回	**ボランティア活動（3）子どもへの適切なかかわり方を理解する** 主に、児童・生徒への適切なかかわり方を理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第8回	**ボランティア活動（4）子どもへの主体的なかかわり方を理解する** 主に、児童・生徒への適切なかかわり方を理解する	活動日誌の記述内容を基に、今後の課題を見出す。	4時間
第9回	**ボランティア活動（5）中間指導** これまでの活動を振り返り、今後の課題を明確にする	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第10回	**ボランティア活動（6）子どもにより適切にかかわる** 主に、自分の役割を理解し児童・生徒により適切にかかわることを目標に置いて活動する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第11回	**ボランティア活動（7）児童・生徒理解の様々な視点を得る、自身の今後の課題や展望を見出す** より主体的にかかわり児童・生徒理解の様々な視点を得ることを目標に置いて活動するとともに、ボランティア活動のまとめとして自身の今後の課題や展望について考える	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第12回	**ボランティア活動のふりかえりとプレゼンテーションの準備** ボランティア活動をふりかえり成果と課題、今後の展望をまとめる 次回に行うプレゼンテーションに向けてスライドを作成するなどの準備を進める	活動のふりかえりを丁寧に行い、プレゼンテーションの準備をする。	4時間
第13回	**ボランティア活動の成果と課題を発表する** 活動を行った学校ごとのグループで順にプレゼンテーションを行う。発表者以外はプレゼンテーションを通して気づいたこと、考えたこと、感じたことなどを記録する	プレゼンテーションを含めた活動の省察を丁寧に行い、今後の課題を明確にする。	4時間
第14回	**事後学習：活動全体の振り返り** 本授業での全活動で得られた成果をレポートにまとめ、成果発表を通じて学生間の交流を図り、相乗的に各自の課題意識を高める	これまでの活動内容を真摯に振り返り、今後の課題を中心に総括する。	4時間

433

授業科目名	**教育実習事前事後指導（中等）**				
担当教員名	**寶學淳郎・滝沢洋平・藤澤憲**				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	藤澤：特別支援学校教諭27年（全14回）				

授業概要

教育実習に必要な基本的事項や教育実習参加についての参加要件（参加資格審査要件を満たしているかの確認）や事務手続き（実習参加カード）、心構えなどについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にする。そして、教育実習が効果的に行われるようにする。
教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価し、教育実習参加体験の交流や発表会などを行い、実習体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育実習に対する目的意識の明確化	教育実習に対する目的意識を明確化することができる。

汎用的な力	
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解	研究授業やそれにつながる授業を指導教員の指導の下に行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前講義への参加度	60 %	： 教育実習への参加について、事前事務手続きを確実に行うこと。また、教育実習参加の心構えをきちんと持ち、各教科学習や講義内容の再確認などを適切に行えるかをみる。授業中の課題への取組みを含む。
実習記録の記述内容	40 %	： 本講義で指示された記述方法や教育実習参加校での指導、巡回担当指導教員の指示どおり教育実習日誌が記述されているか。また、自分なりの課題や疑問を持って記述されているかどうかなど。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、実習時期もばらばらであるので通年を通じた断続的な講義内容となるが、毎回必ず参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育実習の意義・目的）** 大学で学修した理論と教育実践とを結ぶ機会が教育実習であることを確認します。	教育実習に対する心構えを確かなものにするための考えを持つ。	1時間
第2回	**教育実習参加資格について** 実習参加時までの成績表を基に、実習参加の可否を判断します。	3年生までの成績を整理しておく。	1時間
第3回	**学校というところ（1）（学校の1年、教員の事務など）** 実習する学校の概要をHPや教員の話からつかみます。	実習でお世話になる各学校の様子を事前調査する。	1時間
第4回	**学校というところ（2）（学校の1日、教員の職務など）** 「教職論」で学修したことを基に、学校での過ごし方を考えます。	教員の服務についてまとめる。	1時間
第5回	**教育実習の内容（教育課程、学級経営、学習指導、生活指導など）** 生徒の教育をつかさどることを具体的に考えます。	教員の1日の生活がどのようであるかを調べること。	1時間
第6回	**学校現場の声を聴く（現職教員またはそれに代わる教員の講話）** 教育実習生を受け入れる立場の学校から、教育実習とは何かを考えます。	講話に対する感想や学校現場がどんな気持ちで実習生を受け入れているかを考える。	1時間
第7回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構えなど）** 教育実習参加時までの詳細について様々な打ち合わせを行わなければならないことを知り、シミュレーションします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第8回	**教育実習参加体験談** 講話（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加への心構えを強固なものにします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第9回	**指導案の書き方（教材研究、授業、発問、板書など）** 指導が想定される教科について、指導案の作成を行います。	指導案サンプルにもとずいて、何種類かの指導案を作成する。	1時間
第10回	**実習記録ノートの書き方（子どもの観察、研究授業、授業観察）** 実習日誌の書き方について、具体項目に沿って学修し、そのポイントを学びます。	事前調査で判明している部分について、実習日誌にあらかじめ記入する。	1時間
第11回	**実習直前指導** 各実習指導教員から個別注意事項などの指導を受けます。	実習指導担当教員と連絡を取り、教育実習がスムーズに行われるようにしておく。	1時間
第12回	**実習参加直前個別指導（実習参加体験の交流）** 体験談（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加に遺漏がないか確認します。	体験談（もしくはそれに替わる話）を基に、自分の今持っている力これから補わねばならない力を整理する。	1時間
第13回	**実習参加直後個別指導（実習参加レポートの作成）** 実習日誌（記録）を整理し、実習について省察します。	実習日誌の整理	1時間
第14回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価、実習の評価と総括（報告会を含む）** 実習日誌（記録）や参加レポートを基に、実習について整理、自己評価を行います。実習参加を振り返り、報告を行います。	実習日誌の整理。自分自身の実習を振り返る。	1時間

433

授業科目名	教育実習事前事後指導（中等）				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋：高等学校外国語（英語）教諭、指導教諭、主幹教諭・首席（全14時間）				

授業概要

教育実習に必要な基本的事項や教育実習参加についての参加要件（参加資格審査要件を満たしているかの確認）や事務手続き（実習参加カード）、心構えなどについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にする。そして、教育実習が効果的に行われるようにする。
教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価し、教育実習参加体験の交流や発表会などを行い、実習体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育実習に対する目的意識の明確化	教育実習に対する目的意識を明確化することができる。

汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		研究授業やそれにつながる授業を指導教員の指導の下に行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前講義への参加度	60 %	： 教育実習への参加について、事前事務手続きを確実に行うこと。また、教育実習参加の心構えをきちんと持ち、各教科学習や講義内容の再確認などを適切に行えるかをみる。授業中の課題への取組みを含む。
実習記録の記述内容	40 %	： 本講義で指示された記述方法や教育実習参加校での指導、巡回担当指導教員の指示どおり教育実習日誌が記述されているか。また、自分なりの課題や疑問を持って記述されているかどうかなど。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、実習時期もばらばらであるので通年を通じた断続的な講義内容となるが、毎回必ず参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： 初回授業時に周知する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育実習の意義・目的）** 大学で学修した理論と教育実践とを結ぶ機会が教育実習であることを確認します。	教育実習に対する心構えを確かなものにするための考えを持つ。	1時間
第2回	**教育実習参加資格について** 実習参加時までの成績表を基に、実習参加の可否を判断します。	3年生までの成績を整理しておく。	1時間
第3回	**学校というところ（1）（学校の1年、教員の事務など）** 実習する学校の概要をHPや教員の話からつかみます。	実習でお世話になる各学校の様子を事前調査する。	1時間
第4回	**学校というところ（2）（学校の1日、教員の職務など）** 「教職論」で学修したことを基に、学校での過ごし方を考えます。	教員の服務についてまとめる。	1時間
第5回	**教育実習の内容（教育課程、学級経営、学習指導、生活指導など）** 生徒の教育をつかさどることを具体的に考えます。	教員の1日の生活がどのようであるかを調べること。	1時間
第6回	**学校現場の声を聴く（現職教員またはそれに代わる教員の講話）** 教育実習生を受け入れる立場の学校から、教育実習とは何かを考えます。	講話に対する感想や学校現場がどんな気持ちで実習生を受け入れているかを考える。	1時間
第7回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構えなど）** 教育実習参加時までの詳細について様々な打ち合わせを行わなければならないことを知り、シミュレーションします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第8回	**教育実習参加体験談** 講話（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加への心構えを強固なものにします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第9回	**指導案の書き方（教材研究、授業、発問、板書など）** 指導が想定される教科について、指導案の作成を行います。	指導案サンプルにもとずいて、何種類かの指導案を作成する。	1時間
第10回	**実習記録ノートの書き方（子どもの観察、研究授業、授業観察）** 実習日誌の書き方について、具体項目に沿って学修し、そのポイントを学びます。	事前調査で判明している部分について、実習日誌にあらかじめ記入する。	1時間
第11回	**実習直前指導** 各実習指導教員から個別注意事項などの指導を受けます。	実習指導担当教員と連絡を取り、教育実習がスムーズに行われるようにしておく。	1時間
第12回	**実習参加直前個別指導（実習参加体験の交流）** 体験談（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加に遺漏がないか確認します。	体験談（もしくはそれに替わる話）を基に、自分の今持っている力これから補わねばならない力を整理する。	1時間
第13回	**実習参加直後個別指導（実習参加レポートの作成）** 実習日誌（記録）を整理し、実習について省察します。	実習日誌の整理	1時間
第14回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価、実習の評価と総括（報告会を含む）** 実習日誌（記録）や参加レポートを基に、実習について整理、自己評価を行います。実習参加を振り返り、報告を行います。	実習日誌の整理。自分自身の実習を振り返る。	1時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅰ（中等）**				
担当教員名	寶學淳郎・高橋昌由				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋：高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）（全14回）				

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を実体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教師に必要な態度、知識・技術等	教師に必要な態度、知識・技術等を向上させることができる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習先からの評価	90 %	： 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。
期末レポート	10 %	： 教育実習でどのようなことを学んだか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育実践への観察・参加・実習** 教育実習校の教員のご指導のもと、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。具体的には、特に下記が求められます。 ・授業見学や授業実践を通して授業に対する知見を深める。 ・生徒と共に活動することにより、生徒理解を深める。 ・学校現場を具体的に観察し、教員の職務を理解する。	実習記録を完成するとともに、翌日の実習課題及び目標等を明確にする。	20時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅱ（中等）**				
担当教員名	寳學淳郎・高橋昌由				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋：高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）				

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を実体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教師に必要な態度、知識・技術等	教師に必要な態度、知識・技術等の資質を向上させることができる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習先からの評価	90 %	： 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。
期末レポート	10 %	： 教育実習でどのようなことを学んだか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育実践への観察・参加・実習** 教育実習校の教員のご指導のもと、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。具体的には、特に下記が求められます。 ・授業見学や授業実践を通して授業に対する知見を深める。 ・生徒と共に活動することにより、生徒理解を深める。 ・学校現場を具体的に観察し、教員の職務を理解する。	実習記録を完成するとともに、翌日の実習課題及び目標等を明確にする。	20時間

432

授業科目名	**学校体験活動Ⅰ（中等）**				
担当教員名	星川佳加・滝沢洋平・藤澤憲				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	藤澤：特別支援学校教諭27年（全14回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。１年次に行った見学実習を受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の生徒にかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、生徒達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌等に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、学校体験活動Ⅱの学びへとつなげる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70 %	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末試験（レポート）	10 %	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『生徒指導提要』（文部科学省）
ISBN：4491051755
・その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日昼休み

場所：　研究室

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）、学校体験活動の目的と概要等** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。 学校ボランティアなどとの違いで学校体験活動を考えてみます。	授業で指示された課題に取り組むこと：学校ボランティア、学校体験活動の意義と目的	4時間
第2回	**「学校教育活動研究テーマ」の設定** 学校体験活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	学校体験活動に臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間
第3回	**「学校全体に関わる教育の営み」「学校で教育に関わる教員・職員の活動」** 学校体験活動実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。 学校体験活動先での事前訪問結果を明確化し、学校体験活動記録の記入法について学びます。 次回の実習のテーマを考えます。	学校体験活動に臨むに当たって、実習先の概要について調べておく。学校体験活動先の教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べて、まとめておく。	4時間
第4回	**「生徒と先生のかかわりの姿」「生徒同士の関わりの姿」「先生同士の関わりの姿」** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、「生徒と先生のかかわりの姿」「生徒同士の関わりの姿」「先生同士の関わりの姿」について自身の課題を明確にする。	4時間
第5回	**「授業以外の教育活動」「登校指導」「部活動」** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、「授業以外の教育活動」「登校指導」「部活動」について自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**専科１．保健体育：教材の準備と配置（開始前と実践）、授業の目的　英語：教材研究と授業準備、授業進行** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、教材研究と授業準備、授業進行について自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**専科２．保健体育：教員の導線と立ち位置、指導内容・声かけ　英語：板書・提示、指示・指名** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、板書・提示、指示・指名について自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**専科３．保健体育：導入の内容、主運動と時間配分　英語：学習活動と言語活動** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、学習活動と言語活動について自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**専科４．保健体育：主運動の指導、技術指導のコツ　英語：より良い授業の取り組み** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、より良い授業の取り組みについて自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**専科５．保健体育：生徒の様子、つまずきの発見と指導、一人一人に寄り添うとは　英語：生徒の様子、つまずきと指導・支援、一人一人に寄り添うとは** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、生徒の様子、つまずきと指導・支援、一人一人に寄り添うとはについて自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**専科６．保健体育：支援を要する生徒の指導　英語：4技能五領域と技能統合** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、4技能五領域と技能統合について自身の課題を明確にする。	4時間

第12回	**「授業の秩序、規範づくり」「生徒を集中させる技術とは」** 学校体験活動での学びをふりかえります。 学校体験活動での学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討する次回を展望します。	現場体験をもとに、「授業の秩序、規範づくり」「生徒を集中させる技術とは」について自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**省察：学修の成果** 学校体験活動での学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討していきます。 学校体験活動での学びを明確化します。 学校体験活動全体を振り返ります。	現場体験をもとに、学修の成果について自身の課題を明確にする。	4時間
第14回	**省察：学修の成果と今後の課題、まとめと質疑応答** 学校体験活動での学びを発表して、成果を共有します。 学校体験活動全体を振り返ります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

432

授業科目名	**学校体験活動Ⅰ（中等）**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋昌由　高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）（全１４回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。１年次に行った見学実習を受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の生徒にかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、生徒達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌等に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、学校体験活動Ⅱの学びへとつなげる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1. DP３.社会への貢献態度	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70 %	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末試験（レポート）	10 %	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『生徒指導提要』（文部科学省）
・その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： ＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）、学校体験活動の目的と概要等** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。学校ボランティアなどとの違いで学校体験活動を考えてみます。	授業で指示された課題に取り組むこと：学校ボランティア、学校体験活動の意義と目的	4時間
第2回	**「学校教育活動研究テーマ」の設定** 学校体験活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	学校体験活動に臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間
第3回	**「学校全体に関わる教育の営み」「学校で教育に関わる教員・職員の活動」** 学校体験活動実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。 学校体験活動先での事前訪問結果を明確化し、学校体験活動記録の記入法について学びます。 次回の実習のテーマを考えます。	学校体験活動に臨むに当たって、実習先の概要について調べておく。学校体験活動先の教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べて、まとめておく。	4時間
第4回	**「生徒と先生のかかわりの姿」「生徒同士の関わりの姿」「先生同士の関わりの姿」** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、「生徒と先生のかかわりの姿」「生徒同士の関わりの姿」「先生同士の関わりの姿」について自身の課題を明確にする。	4時間
第5回	**「授業以外の教育活動」「登校指導」「部活動」** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、「授業以外の教育活動」「登校指導」「部活動」について自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**専科１．保健体育：教材の準備と配置（開始前と実践）、授業の目的　英語：教材研究と授業準備、授業進行** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、教材研究と授業準備、授業進行について自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**専科２．保健体育：教員の導線と立ち位置、指導内容・声かけ　英語：板書・提示、指示・指名** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、板書・提示、指示・指名について自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**専科３．保健体育：導入の内容、主運動と時間配分　英語：学習活動と言語活動** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、学習活動と言語活動について自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**専科４．保健体育：主運動の指導、技術指導のコツ　英語：より良い授業の取り組み** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、より良い授業の取り組みについて自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**専科５．保健体育：生徒の様子、つまずきの発見と指導、一人一人に寄り添うとは　英語：生徒の様子、つまずきと指導・支援、一人一人に寄り添うとは** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、生徒の様子、つまずきと指導・支援、一人一人に寄り添うとはについて自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**専科６．保健体育：支援を要する生徒の指導　英語：4技能五領域と技能統合** 学校体験活動実習での学びをふりかえります。 次回の実習のテーマを考えます。	現場体験をもとに、4技能五領域と技能統合について自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**「授業の秩序、規範づくり」「生徒を集中させる技術とは」**	現場体験をもとに、「授業の秩序、規範づくり」「生徒を集中させる技術とは」について自身の課題を明確にする。	4時間

	学校体験活動での学びをふりかえります。 学校体験活動での学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討する次回を展望します。		
第13回	**省察：学修の成果** 学校体験活動での学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討していきます。 学校体験活動での学びを明確化します。 学校体験活動全体を振り返ります。	現場体験をもとに、学修の成果について自身の課題を明確にする。	4時間
第14回	**省察：学修の成果と今後の課題、まとめと質疑応答** 学校体験活動での学びを発表して、成果を共有します。 学校体験活動全体を振り返ります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

433

授業科目名	**学校体験活動Ⅱ（中等）**				
担当教員名	星川佳加・滝沢洋平・藤澤憲				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	藤澤：特別支援学校教諭27年（全14回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。２年次に行った学校体験活動Iを受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の生徒にかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、生徒達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにする。本講義では、学校体験活動Iでの学修をもとに、教育実習に向けて自身に不足していると思われる事項の知識・技能を気づき、その克服に努めるとともに、教員として必要な資質・能力について、実践的な課題に取り組むなかで資質・能力の深化を図る。さらに学級指導（生徒指導）および教科指導ができるようになり、教育実習に繋がる取り組みをしていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70 %	： 日誌等の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する

期末試験（レポート）　：　自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

10　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『生徒指導提要』（文部科学省）
ISBN：4491051755
『教師という生き方』（鹿嶋真弓、イースト新書）
ISBN：4781680348
・その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日昼休み

場所：　研究室

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：授業の進め方と評価、実習準備（１）** 学校体験活動IIを理解する： 学校体験活動Iの流れを踏襲するとともに、生徒指導と学習指導について、自己の課題に対する方策を探り、発表・提案することで、教職に対する意識の高まりをめざします。 また、観察・参加を中心に学校教育全般の教育実践により深く関わり、教育活動の補助的な役割を担うことで、学校教育の概要を体験的により深く理解するとともに、生徒指導と学習指導についてより優れた基礎的な能力と態度を身につける。	学校体験活動の意義と目的	4時間
第2回	**実習準備（２）現代における教育現場の諸問題と生徒観、学校の事務・実務** 学校体験活動IIの実習の実際を学修する。	学校体験活動IIの取り組みの必要事項の精査	4時間
第3回	**実習課題（１）生徒理解：生徒理解のための基礎知識、学習指導の基礎知識としての学習指導要領と教科書の捉え方、振り返り（１）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	実習中学校の事前（再）確認	4時間
第４回	**実習課題（２）生徒理解：生徒の発達段階、学習指導の基礎知識としての指導案作成の基礎、振り返り（２）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	生徒の発達段階、学習指導の基礎知識としての指導案作成の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第５回	**実習課題（３）生徒理解：公平で受容的な態度、学習指導の実践での応用の秘訣、振り返り（３）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	公平で受容的な態度、学習指導の実践での応用の秘訣について、自身の課題を明確にする。	4時間
第６回	**実習課題（４）個別指導、学習指導における教材分析の基礎、振り返り（４）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	個別指導、学習指導における教材分析の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第７回	**実習課題（５）集団指導、学習指導のおける授業構想の考え方、振り返り（５）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	集団指導、学習指導のおける授業構想の考え方について、自身の課題を明確にする。	4時間
第８回	**実習課題（６）学級経営の基礎、学習指導における教材・教具の提示と発問の基礎、振り返り（６）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	学級経営の基礎、学習指導における教材・教具の提示と発問の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第９回	**実習課題（７）学級経営の実際、学習指導における板書または情報機器活用の基礎、振り返り（７）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	学級経営の実際、学習指導における板書または情報機器活用の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**実習課題（８）学級活動と学校行事、学習指導における話し方の基礎、振り返り（８）**	学級活動と学校行事、学習指導における話し方の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間

	学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。		
第11回	**実習課題（９）特別活動と日常の活動、学習指導における生徒の反応と活用の基礎、振り返り（９）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	特別活動と日常の活動、学習指導における生徒の反応と活用の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**実習課題（10）放課後の活動、学習指導における評価の基礎、振り返り（10）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	放課後の活動、学習指導における評価の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**学校体験活動IIでの学修の成果** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	今後の課題設定	4時間
第14回	**教師に必要な資質と能力についてのまとめ、教育実習に向けての準備** 学校体験活動実習での学修の成果を考える。	今後の課題設定の再確認	4時間

433

授業科目名	**学校体験活動Ⅱ（中等）**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋昌由　高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）（全１４回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。２年次に行った学校体験活動Iを受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の生徒にかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、生徒達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにする。本講義では、学校体験活動Iでの学修をもとに、教育実習に向けて自身に不足していると思われる事項の知識・技能を気づき、その克服に努めるとともに、教員として必要な資質・能力について、実践的な課題に取り組むなかで資質・能力の深化を図る。さらに学級指導（生徒指導）および教科指導ができるようになり、教育実習に繋がる取り組みをしていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力	
1. DP３.社会への貢献態度	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20　％	：　ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70　％	：　日誌等の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する

期末試験（レポート）　：　自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

10　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『生徒指導提要』（文部科学省）
『教師という生き方』（鹿嶋真弓、イースト新書）
・その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2時間目

場所：　研究室

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「学校体験活動Ｉ：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：授業の進め方と評価、実習準備（１）** 学校体験活動IIを理解する： 学校体験活動Iの流れを踏襲するとともに、生徒指導と学習指導について、自己の課題に対する方策を探り、発表・提案することで、教職に対する意識の高まりをめざします。また、観察・参加を中心に学校教育全般の教育実践により深く関わり、教育活動の補助的な役割を担うことで、学校教育の概要を体験的により深く理解するとともに、生徒指導と学習指導についてより優れた基礎的な能力と態度を身につける。	学校体験活動の意義と目的	4時間
第2回	**実習準備（２）現代における教育現場の諸問題と生徒観、学校の事務・実務** 学校体験活動IIの実習の実際を学修する。	学校体験活動IIの取り組みの必要事項の精査	4時間
第3回	**実習課題（１）生徒理解：生徒理解のための基礎知識、学習指導の基礎知識としての学習指導要領と教科書の捉え方、振り返り（１）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	実習中学校の事前（再）確認	4時間
第４回	**実習課題（２）生徒理解：生徒の発達段階、学習指導の基礎知識としての指導案作成の基礎、振り返り（２）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	生徒の発達段階、学習指導の基礎知識としての指導案作成の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第５回	**実習課題（３）生徒理解：公平で受容的な態度、学習指導の実践での応用の秘訣、振り返り（３）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	公平で受容的な態度、学習指導の実践での応用の秘訣について、自身の課題を明確にする。	4時間
第６回	**実習課題（４）個別指導、学習指導における教材分析の基礎、振り返り（４）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	個別指導、学習指導における教材分析の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第７回	**実習課題（５）集団指導、学習指導のおける授業構想の考え方、振り返り（５）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	集団指導、学習指導のおける授業構想の考え方について、自身の課題を明確にする。	4時間
第８回	**実習課題（６）学級経営の基礎、学習指導における教材・教具の提示と発問の基礎、振り返り（６）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	学級経営の基礎、学習指導における教材・教具の提示と発問の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第９回	**実習課題（７）学級経営の実際、学習指導における板書または情報機器活用の基礎、振り返り（７）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	学級経営の実際、学習指導における板書または情報機器活用の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**実習課題（８）学級活動と学校行事、学習指導における話し方の基礎、振り返り（８）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	学級活動と学校行事、学習指導における話し方の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間

第11回	**実習課題（９）特別活動と日常の活動、学習指導における生徒の反応と活用の基礎、振り返り（９）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	特別活動と日常の活動、学習指導における生徒の反応と活用の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**実習課題（10）放課後の活動、学習指導における評価の基礎、振り返り（10）** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	放課後の活動、学習指導における評価の基礎について、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**学校体験活動IIでの学修の成果** 学校体験活動実習での学修を振り返る。 次回の実習テーマを考える。	今後の課題設定	4時間
第14回	**教師に必要な資質と能力についてのまとめ、教育実習に向けての準備** 学校体験活動実習での学修の成果を考える。	今後の課題設定の再確認	4時間

434

授業科目名	**教職実践演習（中学校、高等学校）**				
担当教員名	星川佳加・滝沢洋平				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目は、教職課程の学びの集大成に位置づけられます。これまで「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」で学んできたことをふまえ、教員として必要な知識技能・資質能力が修得されているかを確認し、さらなる向上を目指します。
主に「教職履修カルテ」及び授業内の課題によって、教員として必要な知識技能・資質能力が修得されているか確認します。また、グループワーク等を通して、教員として必要な知識技能・資質能力のさらなる向上を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教員として必要な知識技能・資質能力を身に付ける。	教員として必要な知識技能・資質能力について理解したことを、課題や実践で示すことができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教員として必要な知識技能・資質能力をふまえ、教育実践を省察・研究する。	これまでに身に付けた知識技能・資質能力をもとに、教育実践を創造し、省察・研究することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		教員として必要な知識技能・資質能力をさらに向上させようとする姿勢で課題や実践に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題（ミニレポート・ワークシート等）	40 %	： 教員として必要な知識技能・資質能力を身に付けているか、向上させようとしているか、課題を通して確認します。
実践（模擬授業・グループ討論・ロールプレイング等）	30 %	： 教員として必要な知識技能・資質能力を身に付けているか、向上させようとしているか、実践を通して確認します。
教職履修カルテ	30 %	： これまで履修してきた「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」等において、教員として必要な知識技能・資質能力が修得されているかを確認します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー・授業外での質問の方法については、初回の授業でアナウンスします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：教職課程と教育実践演習** 教職課程における教育実践演習の位置づけを理解し、教員免許を取得すること、教職課程で学ぶことの意義について改めて考える。 この科目の内容・評価について確認する。	これまでの教職履修カルテを見直す。	4時間
第２回	**教員として必要な知識技能・資質能力とは何か** 教員として必要な知識技能・資質能力として、特に「教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等」、「社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との人間関係の構築等）」、「生徒理解や学級経営」、「教科内容等の指導力」が求められていることを学ぶ。	教育実習の記録等を見直す。	4時間
第３回	**教職課程における学びの総括と自己分析** これまで「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」、さらに「教育実習」等を通して学んだことを振り返り、自身の現状と課題について確認を行う。 教員として必要な知識技能・資質能力のなかで、自身の強みになる点、さらなる向上が望まれる点を分析する。この授業を通して特に向上させたい知識技能・資質能力を明確化する。	企画（模擬授業等）の案作成と準備を行う。	4時間
第４回	**「教職の意義や教員の役割、職務内容」について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教職の意義や教員の役割、職務内容」に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第５回	**「子どもに対する責任等」について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「子どもに対する責任等」に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第６回	**「社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚）」について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚）」に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第７回	**「社会性や対人関係能力（保護者や地域関係者との人間関係の構築）」について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「社会性や対人関係能力（保護者や地域関係者との人間関係の構築等）」に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第８回	**「生徒理解や学級経営」について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「生徒理解や学級経営」に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第９回	**「教科内容等の指導力」（保健分野）について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教科内容等の指導力」（保健分野）に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（模擬授業、グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第10回	**「教科内容等の指導力」（体育分野・体つくり運動等）について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教科内容等の指導力」（体育分野・体つくり運動等）に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（模擬授業、グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間

第11回	**「教科内容等の指導力」（体育分野・器械運動等）について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教科内容等の指導力」（体育分野・器械運動等）に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（模擬授業、グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業を振り返り自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第12回	**「教科内容の指導力」（体育分野・球技等）について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教科内容等の指導力」（体育分野・球技等）に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（模擬授業、グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第13回	**「教科内容の指導力」（体育分野・ダンス等）について** 教員として必要な知識技能・資質能力の一つである「教科内容等の指導力」（体育分野・ダンス等）に関する知識や技能を発揮・向上できる企画を考案し展開する。講義と実践（模擬授業、グループ討論やロールプレイング等）を通して学ぶ。	授業の振り返りを作成し、自身の知識技能・資質能力向上につなげる。	4時間
第14回	**まとめ：教職課程における学びの集大成** これまでの授業を振り返り、教員として必要な知識技能・資質能力である「教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等」、「社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との人間関係の構築等）」、「生徒理解や学級経営」、「教科内容等の指導力」について、自身がどのような学びを得たか確認する。そのうえで、自身の強みになる点や、卒業後さらに向上できる点を意識化し、自身の目指す教員像を明確化する。	教職履修カルテ（4年後期成績評価欄以外）を完成させる。	4時間

434

授業科目名	教職実践演習（中学校、高等学校）				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高橋：高等学校外国語（英語）教諭26年、指導教諭1年、主幹教諭・首席2年（全14時間）				

授業概要

この授業は、教育実習後に、教職につくための総仕上げとして、教職についての理解・教職において必要な技術・能力・意識などについて、自分の実習の経験を基にして、学ぶ授業です。すでに教育実習で経験してわかったと思いますが、実習ですべての事を経験するわけではありません。むしろ教育実習で学びきれなかったことから、実習後により深めて学ぶ内容まで、幅広く教職について学ぶことで、教職に就くために必要な意識を醸成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	実践的教職力を身に着けているか。	教師の仕事を理解したうえで創造的な授業を行えるようになる。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	創造的な計画をたてられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	40 %	： 現代における教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性についての課題レポート
課題	30 %	： 様々な事例と自分の経験を突き合わせ省察が出来ているかを見る課題
教職カルテ	30 %	： 教職カルテの精度

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
ただし、件名に「教職実践演習：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション：授業の進め方と評価、教職履修カルテの確認** 教職実践演習とは？	教育実習の中で何を学んだかを分析しておく。	4時間
第２回	**教育実習の振り返り（１）模擬授業・現代における教育現場の諸問題と生徒観** 自分の教育実習を相対化して分析する。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第３回	**教育実習の振り返り（２）模擬授業・教科における教科内容・題材・目標・評価・指導計画** 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第４回	**教育実習の振り返り（３）生徒指導について** 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第５回	**学校組織と教師の役割・校務分掌（１）分掌の実態とそれぞれの意義について** 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第６回	**学校組織と教師の役割・校務分掌（２）学校の「協働」について** 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第７回	**外部講師による講演・講義、中間評価、中間評価分析** ゲストスピーカーにお話していただく。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第８回	**事例研究・ロールプレイング（１）事例の交流と発表準備** 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。 発表準備をする。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第９回	**事例研究・ロールプレイング（２）発達障害を持つ生徒との関わりについて** 事例研究・ロールプレイングで、発達障害を持つ生徒との関わりについて理解を深める。	シャトルシートへのコメントと本時の内容と	4時間
第10回	**事例研究・ロールプレイング（３）いじめ・不登校の生徒への関わりについて** 事例研究・ロールプレイングで、いじめ・不登校の生徒への関わりについて理解を深める。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	**事例研究・ロールプレイング（４）保護者との関係と教師の対応について** 事例研究・ロールプレイングで、保護者との関係と教師の対応について理解を深める。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	**事例研究・ロールプレイング（５）キャリア教育** 事例研究・ロールプレイングで、キャリア教育理解を深める。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	**教職履修カルテの記入と点検** 教職履修カルテの記入と点検をとおして、振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	**教師に必要な資質と能力についてのまとめと振り返り** 教職課程全体を通して、どのような教職実践力が身についたか を考察する。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

433

授業科目名	**教育実習事前事後指導（特支）**				
担当教員名	**瀧本一夫・藤澤憲**				
学年・コース等	3年	開講期間	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	鈴木：支援学校教諭（17年）、教頭（2年）、校長（10年）、大阪市教育委員会事務局（8年）の勤務経験（全14回） 瀧本：支援学校教諭（35年）、大阪府教育委員会事務局（1年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

特別支援学校の教育活動に関する理解に基づき教育実習に必要な基本的事項や教育実習参加に向けた事務手続き、心構えなどについて講義し、実習参加に必要な知識や態度を身につけさせる。また、学修を通して教育実習に対する目的意識を明確なものとし、効果的に実習を行うことができるようにする。教育実習実施後は、実習日誌の整理、実習校からの評価とあわせて自己評価を行い、成果と課題を明らかにして事後の学修への意欲を高める。併せて授業内で発表会を行い、実習での体験をもとに特別支援学校の教育を通して学んだものを相互に交流し合い体験の有効活用を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別支援学校の教育に関する基礎知識と実践的態度	特別支援学校の教育の特長や児童生徒の指導上の留意点を理解し、主体的に臨む態度を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		実習の中心となる研究授業に向け指導教員の指導のもと授業を担当する経験を積み重ねる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習前講義への参加度	50 %	： 教育実習に参加する事前の事務手続きを確実に行ったか。実習に臨む心構えを持ち、特別支援学校の教育活動について理解を深めようとしたか。授業内の課題を期限内に提出したか。
実習記録の記述内容	40 %	： 授業内で指示した記述方法および実習校での指導、実習中の巡回指導での指示に沿って実習記録を記述しているか。記述には自分なりの課題意識や意見、疑問点などが含まれているか。
期末のレポート	10 %	： 教育実習を経験して得た知見をもとに専門性、人間性などの教師を志望するために必要な資質や能力について自らを省みながら現在の教育課題に対する自分なりの意見や主張を的確に記述しているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省（2018年）特別支援学校学習指導要領解説　開隆舘出版　ISBN: 9784304042300
瀧本一夫他（2016年）実践をふまえた現場に役立つ特別支援教育の授業案づくり　黎明書房 ISBN-10. 4654019294

その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、各回の授業内容を丁寧に復習し次回の授業に向けて予習すること。また、教育実習を実施する時期が多岐にわたるため通年で断続的な授業内容になることがあるが毎回必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜２限

場所： 鈴木：研究室(5階) 、瀧本：研究室(5階)

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育実習の意義と目的** 教育実習は、これまでに学修した理論を特別支援学校の教育活動を通して実践する機会であることを確認します。特別支援学校の教育実習を扱ったビデオを視聴しイメージを持つようにします。そのうえで実習参加時までの成績やこれまでに経験した他校種等での教育実習をふり返り一人ひとりの今回の実習への課題意識や目的意識を持つようにします。	教育実習について課題意識や目的意識を持つ。	1時間
第2回	**特別支援学校の教育活動（学校の１日の流れ、実習生の役割）** 実習先の学校の概要や教育活動の特色、年間行事計画などについてホームページをもとに調べます。先輩の体験談から特別支援学校の教育実習での留意点を確かめるとともに意欲を高めることができるようにします。さらに、実習校の１日の流れを追いながら教員の職務や実習中の活動と役割についてイメージを持つことを目的とします。	実習参加時までの成績と他校種での教育実習の経験を整理しておく。	1時間
第3回	**特別支援学校の教育活動の特色（自立活動、合わせた指導、保護者との連携など）** 実習先の学校の概要や教育活動の特色、年間行事計画などについてホームページをもとに調べます。	教育実習の内容（教育課程、学級経営、学習指導、生活指導など）実習先の学校の様子を事前に調査する。	1時間
第4回	**特別支援学校の教育実習の特色（ティームティーチング、免許教科以外の授業など）** 先輩の体験談から特別支援学校の教育実習での留意点を確かめるとともに意欲を高めることができるようにします。	教員の職務および服務についてまとめる。	1時間
第5回	**学習指導案の書き方（1）** 実習中、指導を担当することが予想される教科等について指導案を作成し協議を通して自分に足りない観点や考え方などに気づくことを目的とします。指導案の作成を通して児童生徒の学習および日常生活上の支援について具体的に考えます。	指導案の記入例を模して指導案を作成する。	1時間
第6回	**学習指導案の書き方（2）** 実習中、指導を担当することが予想される教科等について指導案を作成し協議を通して自分に足りない観点や考え方などに気づくことを目的とします。	指導案の記入例を模して指導案を作成する。	1時間
第7回	**学習指導案の書き方（3）** 実習中、指導を担当することが予想される教科等について指導案を作成し協議を通して自分に足りない観点や考え方などに気づくことを目的とします。	指導案の記入例を模して指導案を作成する。	1時間
第8回	**実習参加への心構え** 特別支援学校の教員の実習生に期待するものなどに関する講話を聞き、教育実習に積極的な意味づけができるようにします。また、先輩の体験談からも実習に向けた心構えを持つことができるようにします。さらに、特別支援学校の教育活動で想定される場面ごとの対応のしかたや実習生の役割について学びます。	実習参加への心構えについて個別の状況に合わせて見直す。	1時間
第9回	**事前準備** 事前オリエンテーションに向け、項目ごとに確認すべき内容を把握し、実習に向けた心構えを持つようにします。	実習開始までに必要な事務的な手続きや実習参加への心構えを整理する。	1時間
第10回	**直前指導、実習記録の書き方** 実習開始直前にあたり実習中の活動についてより具体的にイメージするとともに実習参加への準備として個別の具体的な留意事項について確認します。実習記録の書き方について項目に沿って記入するうえでのポイントを学びます。	実習指導を担当する各教員に実習中もスムーズに連絡が取れるよう確認しておく。	1時間
第11回	**直後指導** 学生相互や教員との対話を通し、最も印象に残った出来事などのエピソードによって自身にとって実習がどのような意義があったのかをふり返ります。特に、特別支援学校の教育を通して得ることができたものを明確にするようにします。	特別支援学校の教育と自身のかかわりについて整理する。	1時間
第12回	**実習後個別指導**	実習を通した学修成果を整理する。	1時間

	実習をふり返り成果と課題をレポートにまとめます。実習先での児童生徒や教職員とのかかわり、授業やそれ以外での指導・支援、特別支援学校の教育の特長などの観点から学んだこと、考えたこと、自身の特性と課題について考えます。		
第13回	**実習後個別指導、実習記録の整理と自己評価** 実習記録を整理し、教育実習をふり返って成果と課題について省察します。	実習記録を整理する。	1時間
第14回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価、総括（体験発表会を含む）** 実習校の評価や実習記録などをもとに教育実習全体について整理し、自己評価を行います。併せて、特別支援学校での教育実習をふり返り学修成果を報告し合う発表会を行います。	実習記録の整理。自身の実習をふり返る。	1時間

433

授業科目名	**特別支援学校教育実習**				
担当教員名	鈴木克彦・瀧本一夫				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習・実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	鈴木：支援学校教諭（17年）、教頭（2年）、校長（10年）、大阪市教育委員会事務局（8年）の勤務経験（全14回） 瀧本：支援学校教諭（35年）、大阪府教育委員会事務局（1年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

本授業では次の３点をねらいとします。①児童生徒の成長・発達の様子や教員の職務の一端に触れ教職についての理解を深める。②小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行う特別支援学校の教科等の指導、教科等を合わせた指導や自立活動の指導、学習指導案の作成、教員による指導の観察などを通し実践力を高める態度を身につける。③障がいや病気の状態を含めた児童生徒理解とそれをふまえた児童生徒への接し方や学級経営の基本など、実習での体験をもとに教職に関する理解を深める。これらのねらいを持って10日間（80時間）教育実習に参加し、特別支援学校教員の専門性について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育実習に必要な知識・技能を身につけるとともに特別支援学校教員の職務について知り実践的態度を身につける。	特別支援学校教員の職務と専門性について理解し主体的に臨む実践的態度を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		指導教員の指導に沿って学習指導案を作成し研究授業を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習校からの成績	80 %	： 教育実習への参加状況（遅刻・早退、欠席の有無）、実習中に行った授業や実習記録、記録にある実習中の態度、児童生徒とのかかわり方について評価する。
実習記録	20 %	： 適切に実習記録に記入できているか評価する。優れている：18～２０点、適切である：14～17点、努力を要する：10～13点、不備が多い：～9点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省（2018年）特別支援学校学習指導要領解説　開隆堂出版　ISBN: 9784304042300
その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、教育実習事前事後指導（特別支援学校）を受講し、実習への準備を整え実習を実施するものである。
体調管理に留意し10日間の教育実習をやり遂げること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜２限

場所： 鈴木：研究室(5階)、瀧本：研究室(5階)

備考・注意事項： 教育実習にかかる連絡や相談等は実習校別指導教員または教育実習事前事後指導担当者に行ってください。実習校別指導教員については、教育実習事前事後指導の授業内で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**各特別支援学校で10日間（80時間）の教育実習を行う。** ・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。	実習記録に記入するとともに翌日の実習の課題、目標等を明確にする。	時間
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
	・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		

・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		
・配属されたクラスを中心に配属学部・学年の教育活動での児童生徒の様子を観察しながら補助的立場で授業に参加し、児童生徒の特徴や教員の職務について理解を深める。 ・その経験をふまえて学習指導案を作成し、指導教諭の指導のもと授業を行う。 ・複数回の授業を行った後、研究授業を行う。 ・実習反省会に参加し、実習の成果と自己の課題を明確にする。		

授業科目名	**介護等体験（施設）**				
担当教員名	寳學淳郎・瀧本一夫・藤澤憲				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	【瀧本】特別支援学校に勤務した経験及び大阪府教育委員会で指導主事として介護等体験に関与した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全14回）。 【藤澤】特別支援学校教諭27年（全14回）				

授業概要

高齢介護および障害者支援に関する全般的な基礎知識とともに社会福祉施設と特別支援学校の目的や指導・支援の実際や授業内容等に関する基礎知識を修得する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習的方法を一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事後学習をおこなう。
また、本授業は義務教育免許取得予定者には必修の授業であり、免許申請時に体験記録証明書が求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	義務教育学校の教員として持つべき考え方や態度の修得	他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を持つことができる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		小学校・中学校教員として必要な態度、考え方を養うことができる
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		小学校・中学校教員として必要な態度、考え方を養うことができる

学外連携学修

有り(連携先：大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
介護等体験の日誌	40 %	： 事象に対する考察を含む日誌の記述内容について、項目に沿って正しく記述したうえで活動をふりかえっての反省と次回に向けた課題設定ができているか評価する。
介護等体験への参加（事前事後指導含む）	50 %	： 目標と目標達成のための手だての設定および達成状況の的確な把握、達成に向けた改善点について省察することができているか評価する。
期末レポート	10 %	： 介護等体験から何を学び、その学びを今後の生活にどのように生かすかに関する考察について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

全国特別支援学校校長会／介護体験ハンドブック 新フィリア／ジアース教育出版会 ISBM:9784863714472
原題教師養成研究会/教師をめざす人の介護等体験ハンドブック５訂版　大修館書店　ISBM9784469268768

その他、授業で必要な資料（HOW　TO　介護　大阪府社会福祉協議会など）を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

介護等体験の実習に当たっては「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、実習に向けて準備をすること。また、実習前には実習施設についてのガイダンスを行うので必ず参加すること。さらに、社会福祉施設での介護等体験では各担当教員による個別指導が行われるので担当教員と連絡を取り、実習に備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業時間外でも質問に応じます。
オフィスアワー等については、初回の授業時に周知します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価法、介護等体験の目的と障害に関する基礎知識** 介護等体験特例法により介護等体験を行う必要があることを学び、介護等体験を行う目的と障がいについての社会モデル、障がい種別などに関する基礎的な事項について学ぶ。	介護等体験特例法の詳細、障がいの社会モデルについて復習する。	4時間
第2回	**社会福祉施設について** 社会福祉施設のうち特に高齢者福祉施設と障害者福祉施設について、大阪府社会福祉協議会「HOW　TO　介護」を使用して具体的に学ぶ。 実習中に留意すべきことについて学ぶ。 各自に配当される実習先施設の概要について知る。	「HOW　TO　介護」のＱ＆Ａについて確認し知識を深める。	4時間
第3回	**特別支援学校について** 特別支援学校の目的、役割、一日の流れ、教育活動の概要について具体的に学ぶ。 実習中に留意すべきことについて学ぶ。 各自に配当される特別支援学校の概要について知る。	特別支援学校の障害種別や教育目標、教育内容についてまとめる。	4時間
第4回	**介護等体験の注意事項、提出書類、持ち物** 事前提出書類の書き方、当日の持ち物について確認する。 介護等体験を行ううえでの注意事項について最終確認をし、徹底を図る。	提出書類作成に必要な資料の準備、持ち物の確認。	4時間
第5回	**特別支援学校での介護等体験(第１日目)** 各特別支援学校の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第6回	**特別支援学校での介護等体験(第２日目)** 各特別支援学校の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第7回	**社会福祉施設等での介護等体験(第１日目)** 各社会福祉施設の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第8回	**社会福祉施設等での介護等体験(第２日目)** 各社会福祉施設の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第9回	**社会福祉施設等での介護等体験(第３日目)** 各社会福祉施設の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第10回	**社会福祉施設等での介護等体験(第４日目)** 各社会福祉施設の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第11回	**社会福祉施設等での介護等体験(第５日目)** 各社会福祉施設の指示に従い、介護等体験を行う。	介護等体験を通して学んだことと自身の課題をまとめる。	4時間
第12回	**特別支援学校での介護等体験のふりかえり** 特別支援学校での介護等体験から得たことを発表、共有する。	発表を聞いて得た他者の見方や考え方を自身の意見にどのように生かすか考える。	4時間
第13回	**社会福祉施設での介護等体験のふりかえり。** 社会福祉施設での介護等体験から得たことを発表、共有する。	発表を聞いて得た他者の見方や考え方を自身の意見にどのように生かすか考える。	4時間
第14回	**介護等体験　学修のまとめ** 介護等体験のふりかえりを行い、実習先への礼状作成を通して学修のまとめを行う。あわせて介護等体験で得た経験を今後の学修計画にどのように生かすか考える。	教員を志す者として、介護等体験を通して明らかになった自身の課題や今後身につけたいものについて考えを深める。	4時間

432

授業科目名	**基礎ゼミⅠ**				
担当教員名	寶學淳郎・片山美穂・野上展子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教職を志す学生に求められる様々な研究法の基礎について学び、研究とは何かを理解することが本授業の目的である。教育のプロセスや対象となる児童・生徒を理解する上で重要な問いの立て方、さまざま研究方法（質問紙調査法、フィールド調査法、インタビュー法、授業分析など）を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを理解し、研究倫理についても把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	研究の目的と方法	教職を志す学生に求められる様々な研究方法の基礎について学び、その特徴を理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		研究論文や研究方法を自らの課題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（3点×15回）	45 %	： ３点：授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。 ２点：授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。 １点：授業外学修をもとに、演習に参加している。
発表	40 %	： 積極性や発表回数を考慮して評価する。
期末レポート	15 %	： 試験期間に実施。研究を理解し、論理性のある研究レポートであれば10～12点、加えて独自の視点があれば12～15点、分析方法法と論理性のある研究レポート作成がほぼできていれば8～9点、不足であれば７点以下。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の演習であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： オフィスアワー等でも積極的に質問してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究とは** 授業の趣旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについてその概略を学びます。	卒業論文とは何かを調べてくる。	4時間
第2回	**卒業論文とは** 卒業論文とは何か、なぜ卒業論文を書くのか、その意図を理解し、卒業論文作成までのスケジュールを確認する。	これまでの教育学部の学びと照らし合わせて、自分の気になるテーマを考えてくる。また、教育学部の教員の専門分野について調べてくる。	4時間
第3回	**卒業論文のテーマの決め方** 問いを持つとはどういうことなのか、テーマを選ぶためにはどのようなことに留意したらよいのかを学ぶ。	先行研究という言葉の意味を調べてまとめてくる。	4時間
第4回	**先行研究とは何か** さまざまな研究分野を知り、先行研究を調べることの意味や、その探し方を理解する。	気になる論文を各自で調べてくる。	4時間
第5回	**研究方法（1）質問紙調査法** 質問紙調査法についてその目的と方法を理解する。	質問紙調査法を振り返りまとめてくる。	4時間
第6回	**研究方法（2）フィールド調査** フィールド調査についてその目的と方法を理解する。特に行動観察を通して対象者・児を理解する方法を知る。	フィールド調査を振り返りまとめてくる。	4時間
第7回	**研究方法（3）インタビュー調査法** インタビュー調査についてその目的と方法を理解する。	インタビュー方を振り返りまとめてくる。	4時間
第8回	**研究方法（4）授業分析** 授業分析についてその目的と方法を理解する。	授業分析を振り返りまとめてくる。	4時間
第9回	**論文の構成と記載方法** 論文の基本的な構成について理解した上で、さまざまな研究方法による記載法の違いも理解する。	配布された論文を読んで論文の構成と記載方法をまとめてくる。	4時間
第10回	**文献による理解（1）質問紙調査法** 質問紙調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んで質問紙調査法をまとめてくる。	4時間
第11回	**文献による理解（2）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでフィールド調査法をまとめてくる。	4時間
第12回	**文献による理解（3）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでフィールド調査法をまとめてくる。	4時間
第13回	**文献による理解（4）授業分析** 授業分析を行った研究論文を読んで理解する。	研究倫理についての配布資料に目を通しまとめてくる。	4時間
第14回	**研究倫理** 研究者に必要な研究倫理とその内容を理解する。また卒業研究に必要な研究倫理審査の手続きについて理解する。また、これまでの授業内容を振り返り、卒業研究の問いの立て方、研究方法の様々について理解できたかどうかを確認する。	最終レポートの作成	4時間

432

授業科目名	**基礎ゼミⅡ**				
担当教員名	寶學淳郎・野上展子・高橋昌由・Ｊ・リング・藤澤憲				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解することが本授業の目的である。教育的事象を分析していく上で理解しておくべき様々な研究方法（事例研究、観察法、実験法、質問紙調査法、インタビュー法）を学び、実際に研究を遂行するためのスキル（質的および量的研究の分析法や論文の記載法等）を体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを把握し、教育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	研究方法	教職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		研究論文や研究方法を自らの問題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（3点×15点）	45 ％	： ３点：授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。 ２点：授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。 １点：授業外学修をもとに、演習に参加している
文献研究（5点×4回）	20 ％	： 研究方法と内容理解ができていれば4点、加えて独自の視点からの考察があれば5点、研究方法と内容理解がほぼできていれば3点、いずれかがほぼできていれば2点、いずれかに不足があれば1点。
期末レポート	35 ％	： 方法を理解し論理性のあるレポートであれば15～16点、方法の理解と論理性のある研究レポート作成がほぼできていれば8～9点、不足があれば7点以下。独自の視点があれば７～10点を加点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： オフィスアワー等でも積極的に質問してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究へのいざない** 科目の主旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについての概要を学びます。	教育学の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第2回	**研究分野と方法を知る（1）　教育学・保育学の文献研究** 教育学の研究内容と、文献研究の方法を学びます。	教科教育の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第3回	**研究分野と方法を知る（2）　教育・保育方法の事例研究** 教科教育の研究内容と、事例研究の方法を学びます。	教育心理学の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第4回	**研究分野と方法を知る（3）　教育心理学の実験研究** 教育心理学の研究内容と、実験研究法を学びます。	教育社会学の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第5回	**研究分野と方法を知る（4）　教育社会学の観察（フィールドワーク）研究** 教育社会学の研究内容と、観察法（フィールドワーク）を学びます。	研究内容と方法について、自分の関心を見つめる。	4時間
第6回	**質問紙調査法（1）　質問紙の作成** 質問紙調査法の概要と、質問紙の作成方法を学びます。	質問紙調査で検討したいことを考える。	4時間
第7回	**質問紙調査法（2）　質問紙調査の分析方法** 分析の視点を検討し、データ分析の方法を学びます。	データ分析を行う。	4時間
第8回	**質問紙調査法（3）　データ分析と結果の整理** データ分析の結果を読み、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探す。	4時間
第9回	**質問紙調査法（4）　量的研究レポートの作成方法** 図表の作成や、レポート作成の方法を学びます。	レポートを完成させる。	4時間
第10回	**質問紙調査法（5）　調査結果の発表** 調査結果レポートを交流し、議論します。	他の人の発表や意見を聞き、参考になったことをピックアップしておく。	4時間
第11回	**インタビュー法（1）　インタビュー項目の作成** インタビュー法の概要を学び、インタビュー項目を考えます。	インタビュイーを探し、アポイントをとる。	4時間
第12回	**インタビュー法（2）　インタビュー・データの分析方法** 質的データの分析方法を学びます。	インタビューを行う。	4時間
第13回	**インタビュー法（3）　インタビュー・データの分析** インタビュー・データを分析し、結果を整理し、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探す。	4時間
第14回	**インタビュー法（4）　質的研究レポートの作成と発表** 質的データに基づく研究レポートの作成方法を学びます。また、結果を報告し、議論します。また、この授業全体を振り返ります。	レポートを完成させる。	4時間

433

授業科目名	専門基礎演習Ⅰ（中等教育専攻）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、学校体験活動や学校ボランティア等での教育実践経験をふりかえり、受講生自身の課題意識を明確にしていく。その後、広い意味での教育に関わる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開を学ぶ。受講生には、担当の文献を読み、発表することが求められる。この過程をとおして、文献の批判的な読み方および教育についての認識を深めていく。最後に、研究の視点から教育・保育実習のテーマを検討する。並行して、４年生の卒業研究構想発表・研究計画立案の発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	受講者の個別課題を抽出する	個別課題や専門領域の課題、現状に基づく文献研究と認識を深める
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		個別の課題に基づく文献研究と課題への認識を深める
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		専門領域の課題や現状をふまえ、解決する方法論を文献等から読みとり、行動実践する術を深める

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
個別の課題に対する進捗状況	60 %	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
研究構想の発表	20 %	： 研究構想を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて各教員から適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションおよび研究倫理について** 受講生の自己紹介を行い、興味関心のあるテーマを共有する。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解すると共に研究にあたっての研究倫理について理解を深める。	研究倫理について復習と自己の研究課題について考える。	4時間
第2回	**教育経験のふりかえり（1）子ども理解、専科としての学び** 学校体験活動や他の経験をふりかえり、子どもの言動や態度、様子などについて印象に残っていることを、それぞれの関心にもとづき話し合う。さらに学校教育における課題を抽出する。	学校体験活動を通しての教育課題について整理する。	4時間
第3回	**教育経験のふりかえり（2）　教師と子どもの関わり** 学校体験活動や他の経験をふりかえり、教師と子どもの関わりについて印象に残っていることを、それぞれの関心にもとづき話し合う。さらに学校教育における課題を抽出し整理する。	学校体験活動を通しての教育課題について整理する。	4時間
第4回	**教育経験のふりかえり（3）　学校の環境** 学校体験活動での経験をふりかえり、学校の環境について印象に残っっていることを、それぞれの関心にもとづき話し合う。さらに学校体験活動を通しての教育課題について引き続き整理する。	学校体験活動を通しての教育課題について整理する。	4時間
第5回	**教育経験のふりかえり（4）　専科としての関わり** 学校体験活動での経験をふりかえり、保健体育科、英語科における専科としての子どもとの関わり方について話し合う。さらに学校体験活動を通しての教育課題について引き続き整理する。	学校体験活動を通しての教育課題について整理する。	4時間
第6回	**文献の講読（1）　講読文献の選定と文献の読み方** 講読文献と発表担当者を決め、文献の読み方の基本を再確認する。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第7回	**文献の講読（2）　キーワード** キーワードの意味や使われ方などに着目し、発表と討論を行う。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第8回	**文献の講読（3）　目的と方法の関連性** 研究の目的と方法の関連性に着目し、発表と討論を行う。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第9回	**文献の講読（4）　論文の構造と論の展開** 論文の構造と論の展開に着目し、発表と討論を行う。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第10回	**文献の講読（5）　批判的に読む** キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第11回	**文献の購読から自己の研究課題につなげる（1）興味関心のあるテーマの選定** 先行研究の読み込みから、自分自身の研究テーマについて考える。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第12回	**文献の購読から自己の研究課題につなげる（2）研究方法についての検討** 先行研究の読み込みから、自分自身の研究テーマについて考える。さらに具体的な研究手法や研究方法について検討する。	事前ワーク、輪読会への準備	4時間
第13回	**輪読会（1）** 文献の購読と自己の研究課題案を発表し、相互に検討する。	輪読会の振り返りを行う	4時間
第14回	**輪読会（2）** 文献の購読と自己の研究課題案を発表し、相互に検討する。	輪読会の振り返りを行う	4時間

433

授業科目名	専門基礎演習Ⅱ（中等教育専攻）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、これまでの学習や実習体験などをもとに、教育や教科の専門分野における自己の関心・課題を明確にし、専門的研究につなげることをねらいとする。専門基礎演習Ⅰを通して明確になった各受講生の関心や課題、専門領域の課題や現状に基づき、教育学の先行研究を調査して分析し、研究方法や到達点などについて討論する。この過程で先行研究の調査と分析の方法を学び、教育学研究の文脈において各自の卒業研究テーマを考え、そのテーマに基づく資料収集や調査研究などを行う。並行して４年生の卒業研究中間発表・研究概要発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。データ管理、引用、実験及び著作権等に関する研究倫理の学習を継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各自の課題を抽出し、解決する方法を文献等から考察する。	各自の課題や専門領域の課題現状をふまえ、解決する方法を検討する。
2. DP２.教育実践の省察・研究	各自の課題や専門領域の課題現状をふまえ、解決する方法などを確立し、研究計画書を作成する	卒業研究計画書を作成する。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	各自の課題や専門領域の課題現状をふまえ、解決する方法などを確立し、研究計画書を作成する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況	60 %	： 各自の課題への進捗状況をまとめる。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
研究計画書の作成と発表（期末レポート）	20 %	： 卒業研究計画書（３年次）版を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて各教員から適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**専門基礎演習Ｉで発表した資料の再構築** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。 専門基礎演習Ｉで発表した内容の再構築を図る。	各自の課題の分析	4時間
第2回	**関心・課題の共有** 専門基礎演習Ｉの学習を踏まえ、受講生各自の関心や課題について発表し、話し合う。	各自の課題の分析	4時間
第3回	**先行研究の調査方法について** 先行研究の調査方法について学ぶ。	各自の課題の分析	4時間
第4回	**先行研究の調査（１）　調査計画の立案** 先行研究の調査について、計画を立案する。	先行研究の読み込み	4時間
第5回	**先行研究の調査（２）　先行研究の調査** 先行研究の調査を行う。	先行研究の読み込み	4時間
第6回	**先行研究の調査（３）　調査状況の報告** 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	先行研究の読み込み	4時間
第7回	**先行研究の分析（１）　先行研究の整理と分析の視点** 先行研究を整理し、扱う順について検討する。分析の視点について学ぶ。	先行研究から得た知見の分析	4時間
第8回	**先行研究の分析（２）　研究テーマについて** 研究テーマの設定の仕方に着目し、先行研究を分析する。	先行研究から得た知見の分析	4時間
第9回	**先行研究の分析（３）　研究方法について** 研究方法に着目し、先行研究を分析する。	先行研究から得た知見の分析	4時間
第10回	**先行研究の分析（４）　研究の到達点について** 結論や課題に着目し、先行研究を分析して、研究の到達点を明らかにする。	先行研究から得た知見の分析	4時間
第11回	**先行研究についての討論（１）　研究テーマについて** 先行研究における研究テーマ設定の仕方について、討論を行う。	研究計画書の作成準備	4時間
第12回	**先行研究についての討論（２）　研究方法について** 先行研究における研究方法について、討論を行う。	研究計画書の作成	4時間
第13回	**先行研究についての討論（３）　研究の到達点について** 研究の到達点について、討論を行う。	研究計画書の作成	4時間
第14回	**卒業研究計画書の作成と発表** これまでの学びを踏まえ、卒業研究の研究計画書を作成し、研究計画を発表する	研究計画書および発表資料の作成	4時間

434

授業科目名	専門演習Ⅰ（中等教育専攻）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。受講生は、各自の卒業研究を構想し計画して発表する。特に、問題設定（問題意 識、概念定義、先行研究、仮説）に基づく研究方法の立案を中心に、構想の妥当性を全体で検討・討議して、各自の研究にフィードバックさせていく。並行して、３年生のテーマ構想発表・文献講読に参加し、討議に参加するとともに、自身の研究方法にフィードバックさせる機会とする。研究遂行過程をとおして、研究倫理の学習も継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各自の課題（卒業研究）を行う	各自の課題（卒業研究）の研究方法を立案し、実施する。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		各自の課題（卒業研究）を行う
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		グループ討議での建設的な意見

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況（ポートフォリオを含む（	60 %	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	： 討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
試験（研究計画書提出または研究計画発表）	20 %	： 5月の研究計画書からの進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて各教員から適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理に関する学習** 各自のテーマを発表し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。日本学術振興会の研究倫理教育教材等を用いて、研究を進めたり論文を書いたりする際に求められる研究倫理について学習する。	研究方法立案に向けた調査計画の構想	4時間
第2回	**卒業研究の構想に向けた調査（１）　調査の計画** 卒業研究の構想に向けた調査について、実施計画を立てる。	調査の実施	4時間
第3回	**卒業研究の構想に向けた調査（２）　方法の立案** 調査結果（文献紹介など）にもとづき、卒業研究方法を立案する。	研究計画書の作成	4時間
第4回	**卒業研究の構想発表（１）　第１グループ** 第1グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成	4時間
第5回	**卒業研究の構想発表（２）　第２グループ** 第2グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成	4時間
第6回	**卒業研究の構想発表（３）　第3グループ** 第3グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成・提出	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施	4時間
第8回	**研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第9回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（３）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第10回	**卒業研究の計画立案（１）　第１グループの発表と検討** 第1グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第11回	**卒業研究の計画立案（２）　第２グループの発表と検討** 第2グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第12回	**卒業研究の計画立案（３）　第３グループの発表と検討** 第3グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	調査等の実施	4時間
第13回	**文献の講読への参加（１）　第１グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間
第14回	**文献の講読への参加（２）　第２グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間

434

授業科目名	専門演習Ⅱ（中等教育専攻）				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の進め方に関する指導を受けながら卒業研究を完遂する。演習では各自の卒業研究の進捗発表を行う。専門演習Ⅰで設定した問題と研究方法（対象者、材料・文献、手続き）と研究の進捗を中心に、全体で検討・討議して各自の研究にフィードバックさせていく。これらを通じて、卒業研究の成果物としての卒業論文を完成させる。並行して３年生のテーマ構想発表・文献レビュー発表に参加し、自身の研究にフィードバックさせる。研究倫理について、研究の遂行と論文執筆の過程で生じた疑問等について、個別に指導を受けながら学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	各自の課題	卒業論文の完成
2. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	討議への参加	建設的な意見を述べる
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		各自の課題

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
各自の課題への進捗状況（ポートフォリオを含む）	60 %	：	各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20 %	：	討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
試験（卒業研究発表会）	20 %	：	卒業研究発表会の発表および参加について、卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて各教員から適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションとこれまでの進捗状況報告** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。中間発表に向けて、各自の研究構想と計画を再確認し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。	中間発表準備	4時間
第2回	**卒業研究中間発表準備** 研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に、卒業研究中間発表準備を進める。	中間発表準備	4時間
第3回	**卒業研究中間発表（１）　第1グループ** 第1グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第4回	**卒業研究中間発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第5回	**卒業研究中間発表（３）　第３グループ** 第３グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ** 教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ	調査等の実施、結果の整理	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（２）　第２グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第8回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（３）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第9回	**研究概要発表（１）　第１グループ** 第1グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（序章）	4時間
第10回	**研究概要発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第11回	**研究概要発表（３）　第３グループ** 第３グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第12回	**先行研究についての討論への参加（１）　第１グループと論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	論文執筆（終章）	4時間
第13回	**先行研究についての討論への参加（２）　第２グループと論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	図表や注、文献を整理し、全体を推敲する。第３グループの先行研究についての討論への参加（３）	4時間
第14回	**卒業研究のテーマと構想への参加と卒業論文および要旨の完成報告** ３年生の卒業研究のテーマと構想の概要発表に参加し、全体Tで討議する。卒業論文の完成報告を行い、提出準備を完了させる。	卒業論文提出	4時間